

上野国分僧寺・ 尼寺中間地域(6)

前橋市元総社町小見地区，群馬郡群馬町大字東国分村前・薬師道南・中道南・上野道南(植野道南)・高井道東地区に所在する遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書 8分冊中の第6分冊。

一 関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第37集一

本 文 編

1992

群 馬 県 教 育 委 員 会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

上野国分僧寺・ 尼寺中間地域(6)

前橋市元総社町小見地区，群馬郡群馬町大字東国分村前・薬師道南・中道南・上野道南(植野道南)・高井道東地区に所在する遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書 8分冊中の第6分冊。

— 関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第37集 —

本 文 編

1992

群馬県教育委員会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

関越自動車道新潟線は、太平洋側の首都東京と日本海側の新潟市を結ぶ高速自動車道として、昭和60年10月1日に開通いたしました。本道路の開通に際しては、数多くの埋蔵文化財が、道路建設工事に先立って調査されました。本県でも58箇所の埋蔵文化財包蔵地が発掘調査され、記録されています。

本報告による上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡は、群馬郡群馬町東国分、前橋市元総社町に所在する埋蔵文化財包蔵地であり、昭和55年4月から昭和59年3月にかけて、当事業団が調査しました。

ご承知のように本遺跡は、上野国分寺の僧寺・尼寺跡、上野国府跡、山王廃寺跡に隣接する遺跡として早くから識者の注目をあびていました。発掘調査によって奈良時代・平安時代の国分寺僧寺・尼寺中間地域の歴史が明らかにされ、数々の貴重な資料が得られました。これら資料は、昭和59年4月から8年計画で報告書作成のための整理作業が行われており、「上野国分僧寺・尼寺中間地域」として既に5冊の調査報告書が刊行されています。

今回A・Z区について整理が完了し、6冊目の報告書を作成することができました。本遺跡に隣接する史跡上野国分寺跡では、現在県教育委員会により史跡整備事業がすすめられています。本報告書には、国分寺創建前及び以後の堅穴住居跡、またそこより数多く出土した土器等貴重な資料が報告されています。

発掘調査から報告書の刊行に至るまでに日本道路公団東京第二建設局、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、群馬町教育委員会、地元関係者から種々のご援助、ご指導、ご協力を賜りましたことに対し、深甚なる感謝の意を表し、併せて本報告書が上野国分寺の創建及び本県の歴史を解明するための資料として、広く活用していただければ幸甚であります。

平成4年2月28日

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 小寺 弘 之

例 言

1. 本書は関越自動車道（新瀉線）建設工事に伴い、記録保存のために事前調査された前橋市元総社町小見、群馬郡群馬町大字東国分小字村前・薬師道南・中道南・上野道南（植野道南）・高井道東地区に所在する「上野国分僧寺・尼寺中間地域、の埋蔵文化財発掘調査報告書 8 冊の内の第 6 冊である。
2. 委 託 者 日本道路公団東京第二建設局
群馬県教育委員会
3. 発掘調査主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
4. 調 査 期 間 昭和55年 4 月～昭和59年 3 月31日
5. 発掘担当者 佐藤明人・石井克己・石北直樹・徳江秀夫・木津博明・桜岡正信・麻生敏隆・関根慎二
※調査担当年度については、『上野国分僧寺・尼寺中間地域（3）』を参照。
6. 調査嘱託員 黒澤はるみ・間庭 稔
7. 事務担当者 邊見長雄・松本浩一・田口紀雄・佐藤 勉・神保佑史・住谷 進・岩丸大作・真下高幸
国定 均・笠原秀樹・小林昌嗣・須田朋子・吉田有光・柳岡良宏・船津 茂
8. 整理事業は、財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団が昭和59年 4 月～平成 4 年 3 月までの 8 ヶ年にわたり実施するもので、本報告書は、平成元年10月～平成 3 年10月までの 2 年間に整理実施した A・Z 区の古墳時代（後期）～奈良・平安時代の検出された遺構・遺物を掲載した報告書である。
9. 整理担当者 友廣哲也・木津博明・桜岡正信
10. 整理補助員 狩野君江・狩野フミ子・篠原富子・下境マサ江・高柳哲子・南雲素子を中心として以下の方々の協力を得た。黒澤はるみ・鈴木幹子・長沼久美子（嘱託員）
安藤三枝子・金井さち子・木暮紀子・関口貴子・武永いち・角田孝子・萩原鈴代・今井サチ子・川原嘉久治・金子ミツ子・榎原浩美・島崎しづ子・須田育美・高橋順子・高橋優子・田村栄子・戸神晴美・中野秀子・生巢由美子・渡辺フサ枝・尾田正子・佐藤美代子・高梨房江・千代谷和子・八峠美津子・今井もと子・角田みずほ・並木綾子・野島のぶ江・松井美智子・松井美智代・吉田笑子・吉田恵子
11. 遺物保存処理 関 邦一・北爪健二・小材浩一
12. 写 真 撮 影 遺構 発掘調査担当者
遺物 佐藤元彦
13. 現場コンサルタント 並木秀行（三洋測量株式会社）
14. 出土遺物の鑑定分析については以下の方に依頼した。（敬称略）
石材鑑定 飯島静男（群馬地質研究会）
15. 発掘調査及び本書を作製するにあたっては、群馬県教育委員会・前橋市教育委員会・群馬町教育委員会・同町都市計画課及び以下の方々の御指導・御教示を頂いた。記して感謝の意を表したい。（敬称略）
阿久津久・新井房夫・有吉重蔵・井口 蒿・池上 悟・井澤洋一・石井栄一・井上尚明・上原真人
遠藤政孝・大金宣亮・大川 清・岡崎正雄・大塚初重・大塚昌彦・木村登喜子・小林康幸・昆 彭生
斉木秀雄・斎藤孝正・早乙女雅博・佐々木幹雄・十菱駿武・須田 勉・瀬谷昌良・高橋一夫
田熊清彦・田崎通雄・田代 隆・種定淳助・玉口時雄・堤 隆・仲山英樹・橋本澄朗・羽鳥政彦
林部 均・原 廣志・平川 南・藤川繁彦・前園実知男・前原 豊・増田 修・松尾宣方・光江 章

宮崎重雄・本沢慎輔・柳沼賢治・安田 稔・梁木 誠・矢部良明・吉岡康暢

16. 発掘調査及び整理事業にかかわる業務委託は以下の通りである。

遺構実測（一部） 株式会社 測研

井戸跡調査 株式会社 原沢ポーリング（調査所見は同社有賀正明による）

胎土分析 群馬県工業試験場

17. 調査に至る経緯については、『上野国分僧寺・尼寺中間地域（1）』に詳述されているので、同報告書を参照願いたい。

18. 本書（6）の編集・執筆は友廣哲也が担当した。

19. 発掘調査においては群馬町・吉岡町・榛東村・榛名町・渋川市・赤城村・前橋市・高崎市の多くの方々の御協力を頂いた。

20. 本遺跡の図面・写真・遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

凡 例

1. 本書中に掲載した地形図は、国土地理院、1：25,000、群馬町・前橋市都市計画図、1：2,500を縮小し使用した。
2. 本書中の方位記号の方向は真北を指す。
3. 本書中の遺構実測図の縮尺は以下の通りである。
 竪穴住居跡 1：60 掘立柱建物跡 1：40 土坑 1：40 遺構配置図 1：500
 を基準としたが、この限りでないものについては明記した。
4. 遺構挿図中の等高線・断面基準線は海拔で表示し、断面基準線標高値はL=Wで示した。
5. 土層断面中のI～VII……は、基本層序のI～VII……を示し、覆土の層序は1～nとした。
6. 本書中にある火山灰は以下の通りに略記した。
 浅間B軽石(A s-B)→B軽石 浅間C軽石(A s-C)→C P 榛名山二ツ岳火山灰→F A、
 F P
7. 遺構挿図中に使用した遺物の記号は以下の通りである。
 土師器・須恵器 ● 灰釉陶器・緑釉陶器・青磁・白磁 ○ 石器 ▲ 金属製品 △ 紡錘車 ▲
 白玉 ◎ 土錘 □ 瓦 ■ 韃の羽口 ★ 炭化物 □ 骨 ☆
8. 遺構実測図中の遺物番号は出土遺物実測図の番号と一致し、挿図番号—遺物番号の順で記載した。
9. 遺物実測に当たっては、当事業団拡大整理委員会歴史部会で編集した「仕様書—遺物編」に準拠したが、すべてがこの限りではない。
10. 本書中の遺物実測図の縮尺は以下の通りである。
 土器・土製品 1/2 (大型品1/6、瓦1/5) 石器・石製品 1/2
 金属製品 1/2 この限りでないものについては個別に明記した。
11. 遺物観察表中の()は完形品以外の推定値または復原値を表し、重さでは残存量を計測した。金属製品については錆等の除去後の数値である。
12. 遺物観察表中の「色調」は、農林省農林水産技術会議事務局監修・財団法人 日本色彩研究所色表監修1976年9月発行の「標準土色帖」を使用し記載したが、細部においては観察者の個人差がみられる部分もある。
13. 遺物の各計測位置は、上野国分僧寺・尼寺中間地域(2)の図表編参照。
14. 本文編・遺物観察表編を通して使用した土器の種別については、原則として轆轤使用・還元焰焼成のものを須恵器、轆轤不使用・酸化焰焼成のものを土師器として扱った。
15. 土器の器種については、原則として高台を付すものを「埴」、付さないものを「坏」、口径に比較して器高の著しく低いものを「皿」とし、その他「甕」「壺」等を使用した。文献にあたり、概念規定を明らかにした上で使用したものではなく、あくまでも整理上便宜的に使用した器種名称である。
16. 遺物写真は、紡錘車・青磁破片・その他破片等は1/2、甕・羽釜・瓦等の大型品等は原則として1/4を基準としたが、この限りでないものもある。
17. 遺物写真の見出しは、各遺構名称と挿図番号を併記した。
 遺構名称では、○—○住の始めが調査区を示し、後が遺構番号を示す。
 挿図番号では、○—○は始めが挿図番号を示し、後が遺物番号を示す。

18. 遺物写真の見出しでは、遺構名称を以下のように略称した。

住居跡→住、掘立柱建物跡→掘立、土坑→坑、井戸跡→井戸、溝状遺構→溝、祭祀遺構→祭祀、
土壇墓→土壇墓、住居状遺構・不明遺構→址。

19. 本遺跡出土遺物の注記は、「KK17」を冠し区名・遺構名称を記入した。始めのKは「関越自動車道」の
Kanetu のKで、次のKはKousokudou のKで、17は群馬県内で南から17番目の遺跡であることを示す。

目 次

序 例 言 凡 例 目 次

第1章 調査経過	
第1節 調査経過	1
第2章 グリッドと基本層序	
第1節 基本杭とグリッド	2
第2節 基本層序	3
第3章 遺跡位置	
第1節 遺跡位置	4
第4章 検出された遺構・遺物	
第1節 竪穴住居跡	7
A区1号住居跡 (第6・7・8・9・10図、第1・48・49図版)	7
A区2号住居跡 (第11・13・14・15図、第1・48・49図版)	9
A区3号住居跡 (第11・12・16図、第1・49・50図版)	9
A区5号住居跡 (第11・17図、第1・50図版)	9
A区4号住居跡 (第18・19・21・22図、第2・50・173図版)	11
A区10号住居跡 (第18・20・23図、第3・50・51図版)	12
A区6号住居跡 (第24・25・26図、第2・50・51図版)	14
A区7号住居跡 (第27・28・29図、第2・50・51図版)	15
A区8号住居跡 (第30・31・32・37・38図、第2・50・51・52・173図版)	17
A区9号住居跡 (第30・31・33・34・39・40・41・42図、 第3・52・53・54・55・56図版)	17
A区13号住居跡 (第30・31・35・43・44図、第3・4・56・57図版)	17
A区14号住居跡 (第30・31・36・45・46図、第4・57・58図版)	17
A区11号住居跡 (第47・48・49図、第3・58・173図版)	26
A区15号住居跡 (第50・51・52・54・55・56・57・58・59図、 第4・5・59・60・61・62・63図版)	28
A区16号住居跡 (第50・53・60・61図、第5・60・61図版)	28
A区17号住居跡 (第50・62・63図、第5・61・62図版)	28
A区18号住居跡 (第64・65・66・67図、第5・62・63・64図版)	37

A区19号住居跡	(第68・69・70・71図、第6・64図版)	40
A区20号住居跡	(第72・73図、第6・64・65図版)	41
A区41号住居跡	(第72図、第7図版)	41
A区25号住居跡	(第74・75・76・77・78図、第6・7・65・172・173図版)	42
A区28号住居跡	(第79・80図、第7図版)	44
A区29号住居跡	(第81・82・83・84・85図、第7・65・66・67・68図版)	45
A区42号住居跡	(第86・87図、第7・67図版)	48
A区45号住居跡	(第88・89図、第7・67・図版)	48
A区46号住居跡	(第90・91・92図、第8・67・68図版)	48
A区47号住居跡	(第93・94・95・96・97図、第8・68・69図版)	50
A区48号住居跡	(第98・99・101・102図、第8・69・70・173図版)	52
A区49号住居跡	(第98・100・103・104図、第8・9・69・70図版)	53
A区50号住居跡	(第105・106・107・108図、第9・70・71図版)	55
A区52号住居跡	(第109・110・111・112図、第9・71図版)	56
A区53号住居跡	(第113・114・116図、第9・71・72・173図版)	58
A区55号住居跡	(第113・115・117・118図、第10・71・72図版)	58
A区54号住居跡	(第119・120・121・122・123図、第10・72・73・172・173図版)	60
A区56号住居跡	(第124・125・126・128・129図、第10・73・74図版)	62
A区57号住居跡	(第124・125・127・130図、第10・74図版)	63
A区58号住居跡	(第131・132・133図、第11・74図版)	64
A区59号住居跡	(第134・135・137・138図、第11・74・75図版)	65
Z区38号住居跡	(第134・136・139・140・141図、第41・42・75・76図版)	66
A区61号住居跡	(第142・143・145・146図、第11・76図版)	69
A区63号址	(第148図)	71
A区65号住居跡	(第149・150・151・152・153図、第11・12・77・173図版)	71
A区66号住居跡	(第154・155・158図、第12・77・78図版)	73
A区67号住居跡	(第154・156・159図、第12・78図版)	73
A区111号住居跡	(第154・157・160図、第12・78図版)	73
A区68号住居跡	(第161・162・163・164・165・166図、第13・78・79・80図版)	76
A区69号住居跡	(第167・168・169・170図、第13・80・81・173図版)	80
A区70号住居跡	(第171・172・173・174図、第13・81図版)	82
A区71号住居跡	(第175・176・177図、第14・82図版)	84
A区72号住居跡	(第178・179・180図、第14・83図版)	86
A区74号住居跡	(第181・182・184図、第14・83図版)	87
A区103号住居跡	(第181・183・185・186図、第21・22・83・84図版)	87
A区117号住居跡	(第181・187図、第21・22・84・172・173図版)	87
A区76号址	(第188・189図、第14・84図版)	91
A区77号住居跡	(第190・191・192・193・194・195・196図、第15・84・85・86図版)	92

A区78号住居跡	(第197・198・199・200・201・202図、第15・86・87・88図版)	97
A区79号住居跡	(第203・204・205図、第15・87・88図版)	101
A区80号住居跡	(第206・207・209・210・211図、第15・16・88・89・90・91・173図版)	102
A区101号住居跡	(第206・208・212図、第21・91・174図版)	102
A区81号住居跡	(第213・214・215・218図、第16・91・92図版)	107
A区82号住居跡	(第213・214・216・219・220・221・222・223・224・225・226・227図、 第16・92・93・94・95・96・97・98・99・174図版)	107
A区92号住居跡	(第213・214・217・228図、第19・99図版)	110
A区83号住居跡	(第229・230・231・235・236図、第16・17・99・100・174図版)	120
A区112号住居跡	(第229・230・232・237図、第24・101・174図版)	120
A区113号住居跡	(第229・230・233・238・239・240図、第24・101・102図版)	121
A区132号住居跡	(第229・230・234・241図、第29・30・102・103図版)	122
A区84号住居跡	(第242・243・244図、第17・103・172・174図版)	128
A区85号住居跡	(第245・246・247・248・249図、第17・103・104・105図版)	130
A区86号住居跡	(第250・251・252・253・254図、第17・104・105・106・174図版)	133
A区87(A・B)88・131号住居跡	(第255・256・257・258・259・260・261・262・263図、 第18・29・106・107・108・172・174図版)	136
A区87号住居跡	137
A区88号住居跡	137
A区131号住居跡	137
A区89号住居跡	(第264・265・267図、第18・109・174図版)	141
A区115号住居跡	(第264・266・268図、第25・109・110図版)	141
A区116号住居跡	(第269・270・271・272・273・274図、第25・26・110・173図版)	144
A区91号住居跡	(第275・276・277図、第18・19・111図版)	147
A区93号住居跡	(第278・280・283・284図、第19・111図版)	149
A区105号住居跡	(第278・279・281・285・286・287図、第22・112・113・114・174図版)	151
A区114号住居跡	(第278・279・282・288・289図、第24・25・114図版)	152
A区94号住居跡	(第290・291・292・293・294・295図、第19・114・115・116・174図版)	157
A区95号住居跡	(第296・297・298・299図、第19・20・116・117・118図版)	161
A区96号住居跡	(第300・302・305・306図、第20・117・118・119・120・174図版)	164
A区98号住居跡	(第300・303・307図、第20・119・174図版)	164
A区99号住居跡	(第300・304・308図、第20・120図版)	164
A区100号住居跡	(第300・301・309図、第21・120図版)	164
A区97号住居跡	(第310・311・313・314図、第20・21・120・121図版)	170
A区150号住居跡	(第310・312・315図、第32・121図版)	170
A区167号住居跡	(第310・316図、第33・122図版)	170
A区102号住居跡	(第317・318・319・320・321・322・323・324・325・326図、 第21・121・122・123・124・125・126・127図版)	174

A区104号住居跡	(第327・328・330・331・332図、第22・125・126・127・128図版)	181
A区130号住居跡	(第327・329・333・334図、第29・128・129・130・172・173図版)	181
A区172号住居跡	(第327・335図、第33・129・130図版)	182
A区106号住居跡	(第336・337・339・340図、第23・130・174図版)	188
A区107号住居跡	(第336・338・341図、第23・131図版)	189
A区108号住居跡	(第342・343・344図、第23・131図版)	190
A区109号住居跡	(第345・346図、第23・131図版)	191
A区123号住居跡	(第345・347図、第23・131・132図版)	191
A区110号住居跡	(第348・349・350図、第23・24・132・174図版)	194
A区120号住居跡	(第351・352・353・354・355・356・357図 第26・27・132・133・134・135・174図版)	195
A区124号住居跡	(第358・359・360・361図、第27・135・174図版)	201
A区125号住居跡	(第362・363・364・366・367図、第27・28・135・136図版)	202
A区126号住居跡	(第362・365・368・369・370図、第28・136・137・138・175図版)	203
A区127号住居跡	(第371・372・373・374図、第28・137・138・172図版)	207
A区128号住居跡	(第375・376・377図、第29・138・139図版)	209
A区129号住居跡	(第375・378・379図、第29・139図版)	209
A区134号住居跡	(第380・381・382・383図、第30・139・140・175図版)	212
A区135号住居跡	(第384・385・388・391図、第30・139図版)	214
A区139号住居跡	(第386・387・389・392図、第31・139・175図版)	214
A区142・143・146号住居跡	(第386・390・396図、第31・141図版)	215
A区140号住居跡	(第387・393図、第31・140・141・172図版)	215
A区141号住居跡	(第387・394・395図、第31・32・141・172図版)	216
A区137号住居跡	(第397・398・399・400図、第30・31・141・142図版)	220
A区144号住居跡	(第401・402・404・405図、第32・142・143図版)	222
A区145号住居跡	(第401・403・406・407図、第32・143図版)	222
A区151号住居跡	(第408・409図、第32図版)	226
A区154号住居跡	(第410・411・412・413・414図、第32・144・145図版)	227
A区168号住居跡	(第415・416図、第33・146・172図版)	231
A区171号住居跡	(第417・418・419図、第33・146図版)	231
A区183号住居跡	(第422・423・427図、第33・146図版)	233
A区184号住居跡	(第420・424・428図、第34・146図版)	233
A区185号住居跡	(第422・425・429・430図、第34・147図版)	233
A区203号住居跡	(第420・421・426・431図、第34・147図版)	234
A区205号住居跡	(第432・433・434図、第34・147図版)	240
Z区3号住居跡	(第435・436・437図、第35・147図版)	241
Z区4号住居跡	(第438・439・440図、第35・147・148・172・175図版)	242
Z区5号住居跡	(第441・445図、第35・148図版)	243

Z 区 6 号住居跡	(第441・442・446図、第35・148図版) ……………	243
Z 区 7 号住居跡	(第441・443・447・448図、第35・36・148・149図版) ……………	243
Z 区 8 号住居跡	(第441・444・449図、第36・148・149図版) ……………	243
Z 区 9 号住居跡	(第450・451図、第36・149図版) ……………	248
Z 区10号住居跡	(第452・453図、第36・149図版) ……………	248
Z 区11号住居跡	(第454・455・457・458図、第36・37・149・150図版) ……………	249
Z 区15号住居跡	(第454・456・459図、第37・150・175図版) ……………	249
Z 区12号住居跡	(第460・461・462・464・465・466・467・468・469図、 第37・150・151・152・153図版) ……………	252
Z 区13号住居跡	(第460・461・463・470図、第37・153図版) ……………	252
Z 区16号住居跡	(第471・473図、第37・153・154・175図版) ……………	260
Z 区17号住居跡	(第471・472・474・475図、第38・154図版) ……………	260
Z 区24号住居跡	(第476・477・478図、第38・154・155・175図版) ……………	262
Z 区25号住居跡	(第479・480・482図、第38・155・175図版) ……………	263
Z 区26号住居跡	(第479・481・483図、第38・39・155図版) ……………	263
Z 区28号住居跡	(第484・485・486図、第39・155図版) ……………	266
Z 区29号住居跡	(第487・488図、第39図版) ……………	268
Z 区30号住居跡	(第489・490・492・493・494図、第39・40・155・156・175図版) ……………	268
Z 区31号住居跡	(第489・491・495図、第40・156図版) ……………	270
Z 区32号住居跡	(第496・498・499図、第156図版) ……………	272
Z 区33号住居跡	(第496・497・500図、第40・157・175図版) ……………	272
Z 区34号住居跡	(第501・502・503図、第40・157図版) ……………	275
Z 区35号住居跡	(第504・505・506・507・508図、第40・41・157・158・159・175図版) ……………	276
Z 区36号住居跡	(第504・509図、第41図版) ……………	276
Z 区58号住居跡	(第504図、図版45図版) ……………	276
Z 区37号住居跡	(第510・511・512図、第41・159図版) ……………	279
Z 区39号住居跡	(第513・514・515・516・517・518・519図、 第42・159・160・161・162・173図版) ……………	280
Z 区40号住居跡	(第520・521・522図、第42・162図版) ……………	286
Z 区42号住居跡	(第523・524・525・526図、第42・162・163図版) ……………	286
Z 区43号住居跡	(第527・528・529図、第43・162図版) ……………	288
Z 区44号住居跡	(第530・531・534図、第43・176図版) ……………	289
Z 区56号住居跡	(第530・532・534図、第45・162・163図版) ……………	289
Z 区57号址	(第530・533図) ……………	289
Z 区45号住居跡	(第535・536・537・538・539図、第43・163・164・173図版) ……………	291
Z 区49号住居跡	(第540・541・542図、第44・164図版) ……………	293
Z 区50号住居跡	(第543・544・545・546図、第44・164図版) ……………	294
Z 区51号住居跡	(第547・548・549図、第44・45・165図版) ……………	295

Z区52号住居跡	(第550・551・552・553図、第45・165・166・175・176図版)	296
Z区53号住居跡	(第554・555・556・557・558図、第45・165・166・176図版)	298
Z区59号住居跡	(第559・560・561・562・563・564図、第46・167・168・169・170図版)	301
Z区60号址	(第565図)	307
Z区63号住居跡	(第566・567・568・569図、第46・169・171図版)	307
Z区64号住居跡	(第570・571・572・573図、第169・170図版)	308
Z区65号住居跡	(第574・575・576・577図、第46・170・171図版)	309
第2節 掘立柱建物跡		312
第3節 溝		312
第4節 土坑		313
第5節 A・Z区出土瓦		314

第1章 調査経過

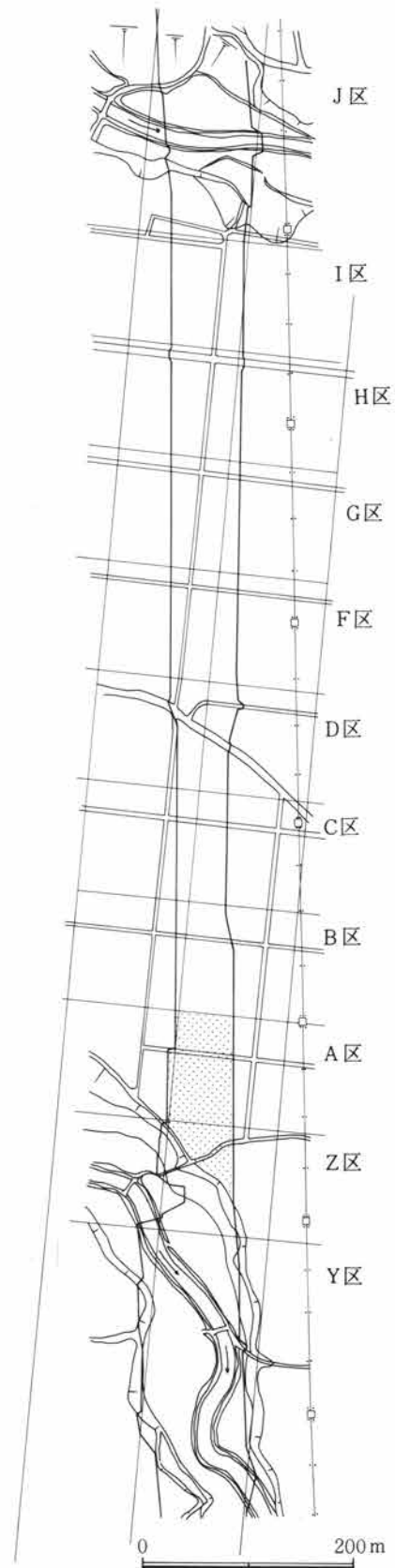
第1節 調査経過

今次の第6分冊は例言で述べたとおりA区（A区5号溝状遺構以南）・Z区内から検出された古墳時代後期～平安時代の住居跡205軒の調査報告である。これらの住居跡の他に第1分冊に所収した縄文時代・古墳時代（前期）・室町時代以降の諸遺構・遺物が当該報告区から検出されている。この両者は、報告書としては既刊・本刊となっているが、発掘調査自体は同一である。だが、これらの諸遺構・遺物は、層位的に上・中・下の関係にあり、当然のことながら室町時代以降の遺構の調査より着手した。

調査経過は、室町時代以降（中世面）の調査は、昭和56年12月より調査を着手し途中全体の進行状況との係わりから中断し、昭和57年7月より1ヶ月間を要し中世面を終了させた。

古墳時代後期～平安時代の調査は、昭和58年2月から1ヶ月間を要し、南側調査区B区農道以南の側道部の調査を実施した。この間にZ区まで含め1ヶ月間に100軒以上の住居跡等の調査を終了させ、この間に下位の古墳時代前期及び縄文時代の遺構確認から調査実施も含まれている。昭和58年4月より同部の本線敷部の調査を着手し、翌年2月に終了している。

右第1図は上野国分僧寺・尼寺中間地域の全体概念図である。本報告はこのうちA・Z区奈良・平安時代の遺構・遺物を掲載した。A・Z区には縄文を含め中・近世に至る遺構遺物も含まれている。本報告書掲載時期以外の報告は上野国分僧寺・尼寺中間地域（1）関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第12集を参照していただきたい。



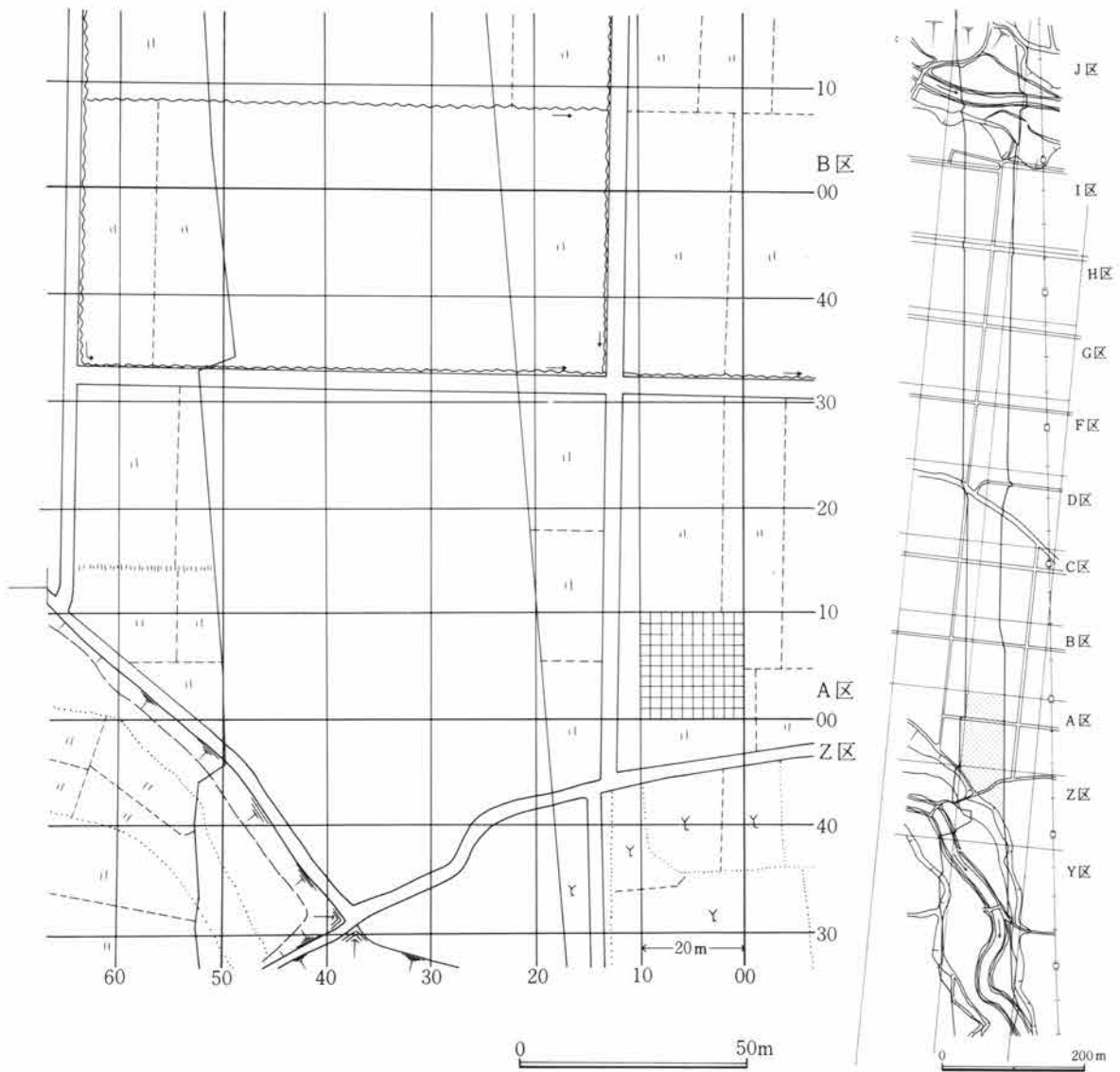
第1図 調査経過概念図

第2章 グリッドと基本層序

第1節 基本杭とグリッド

調査区のグリッド設定は、史跡上野国分寺跡の保存整備事業との関連も考慮して、国家座標を使用した。基準としたのは、調査区南の染谷川左岸に位置するIX系X=43400、Y=-72100である。この位置を00として南北100m、東西200mを大グリッドとして南からY（河川敷）・Z・A～J（Eを除く）の11区を設定した。また、大グリッド内は、南東コーナー部を基準として北方向に0～50（50=次大グリッドにおける0）、西方向に0～100の数字を与えた2m×2mの小グリッドに区分した。杭の設定は、調査の便宜上10mごとにに行い、必要に応じて増設した。

小グリッド名称は、大グリッド同様南東コーナー杭名称をもって呼称することとし、（X軸上の数字）－大グリッド名－（Y軸上の数字）として表記した。



第2図 基本杭とグリッド

第2節 基本層序

当遺跡は榛名山東南麓・浅間山東方に位置し、両山の火山活動の痕跡は土層中において顕著に認められた。基本層序は上述の火山活動時に噴出された「火山灰・軽石」を含有するもので、その種類の含有等により分層できる。基本層序は第3図に示したとおりであるが、各調査区の地点により層厚等差異が認められるが、おおよそ図示した状況であり、図はD区での状況を模式図化したものである。

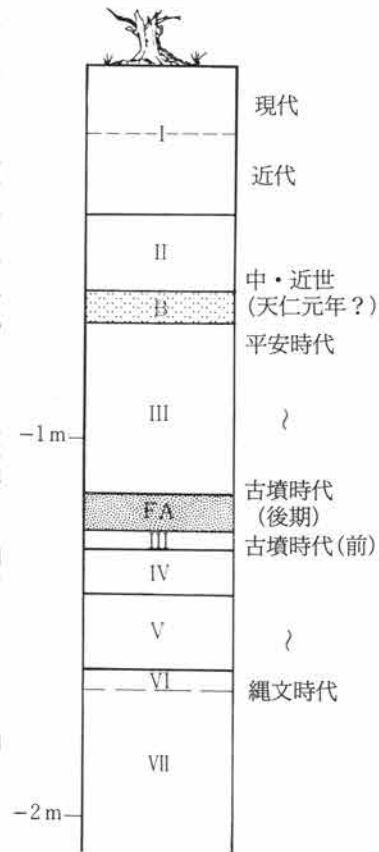
上層は7層に分層できる。地山はローム土層であり、同層下位は火山系のシルト層でその粒子・色調によって分層できるが、ここではローム土層を地山と呼称し、ローム土層下位の土層については井戸跡の断面図を参照されたい。ローム土層は堆積時の状況により2分される。これは黄褐色を呈する部分と濁橙褐色を呈する部分である。前者は比較的乾燥状態での堆積で、後者は水性ないし水の流路部であった可能性が指摘されている。さらに前者は砂質味を帯びる部分等も認められ、後者は粘性に富んでいる。これらの状況は、両者が調査区内を横断する様に認められる点で、地形の傾斜方向に沿うと考えられる。また、この両者のあり方は上位の層にも影響を及ぼしており、前者の上位層のIV・Vは粗粒質土であるのに対し、後者の上位層のIV・V層は比較的微粒質で粘性に富んでいる。

このローム土層の堆積した段階では地山の起伏が著しく、上位層はこの起伏を埋める様な状態で堆積しており、おおよそ平坦になったのは奈良時代に至っての頃と考えられる。また、調査区の部分によってはV層土の層厚の変化が著しいが、倒木痕の調査によりV層土は調査区全体に均一的に堆積していたことが判明した。

基本層序

- I層—表土層 濁暗褐色を呈する。昭和35年に実施された耕地基盤整備事業以降の土壌、全体的に発色が濁る。また、上述の昭和35年以前の土壌の存在も認められる。この土層は調査区内の地点により存在し、発色もやや暗い。両者は砂質味が強く、下位のII層土を主体に耕作された土壌である。
- II層—黒色土層 浅間山供給のB軽石を多量に混入する。砂質味もB軽石により非常に強い。発色はIV層土に次いで暗い。本土層はB軽石降下以降(天仁元年とすれば1108年以降)から近世ないし近代に至る間の土壌と考えられるが、おおよそ12世紀から17世紀頃の年代が考えられる。これは文化層として出土した遺物の年代観からであり、中世遺構の覆土の主体をなす土壌である。
- B 一浅間山給源B軽石 基本層序の中では土壌としての層とは把握しなかった。B軽石は前述した粘性を帯びるVII層土上位に遺存する傾向が認められた。降下時期は天仁元年(1108年)・天永3年(1112年)・弘安4年(1281年)等が考えられるが、現状では天仁元年説が有力視されている。
- III層—黒褐色土層 浅間山給源のC軽石を多量に混入する。砂質味はほとんどなく、粘性も際立ったほどでもない。C軽石の降下年代は4世紀頃であるが、本土層とIV層土に主体的に混入する。本土層は古墳時代中期以降B軽石降下直前までの間の土層で、上述した間の遺構の覆土の主体を成す土壌である。また、本土層下位では古墳時代後期以降に降下した榛名山二ッ岳給源のFAが埋没する畠状の遺構が検出されており、IV層土との間隙は5cm前後である。
- IV層—黒色土層 浅間山給源のC軽石を多量に混入する。III層土より粘性があるが顕著なものではない。本土層は層として確認されたものは比較的薄い。古墳時代前期の住居跡の覆土は本土層を主体として埋没している。この点から古墳時代前期以降の何らかの作用を想起せざるを得ない。FAが存在する部分の畠のサク内だけであり、他の部分に降下したFAは土と共に攪拌され、IV層・V層の色調の差に現れたものと考えられる。
- V層—暗褐色土層 本土層は比較的さらさらした感の土層であり、明定できる軽石は認められないが、細粒の白色粒子(鉱物質)・黄褐色粒子を含有している。また、本層中には特に南側調査区で縄文時代の遺物を多量に包有している。さらに北側調査区の弥生時代の住居は、上述のIV層と本層の中層的な土壌により埋没している。縄文時代の遺構は本土層と褐色味の強い土壌により埋没している。
- VI・VII層—濁橙褐色土層 VI層土はソフトロームに相当する層である。VII層土は前述したローム層であり、D区では粘性の強いローム土であった。

(上記記述内容は、新井房夫先生の御教示による。)

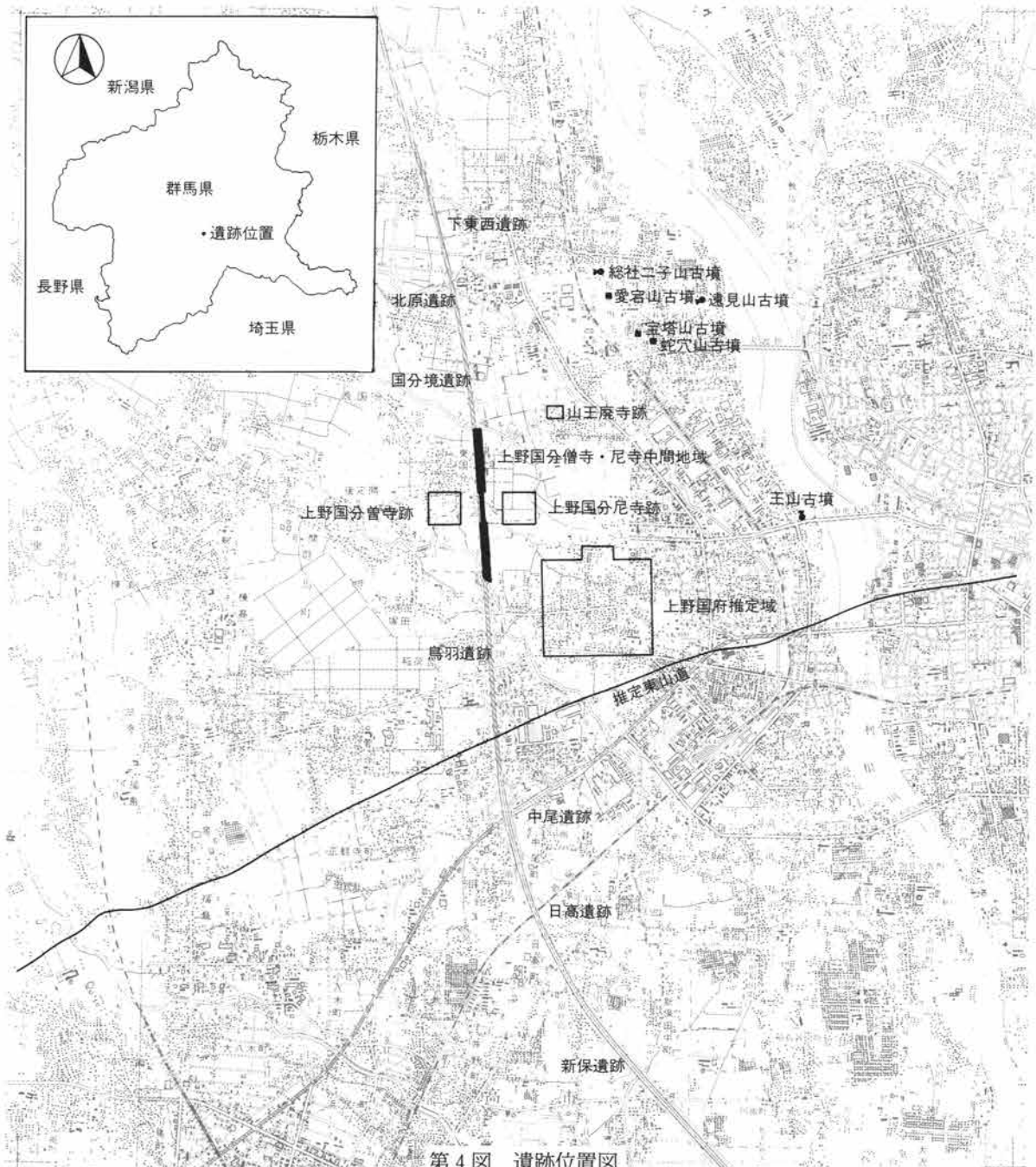


第3図 基本層序

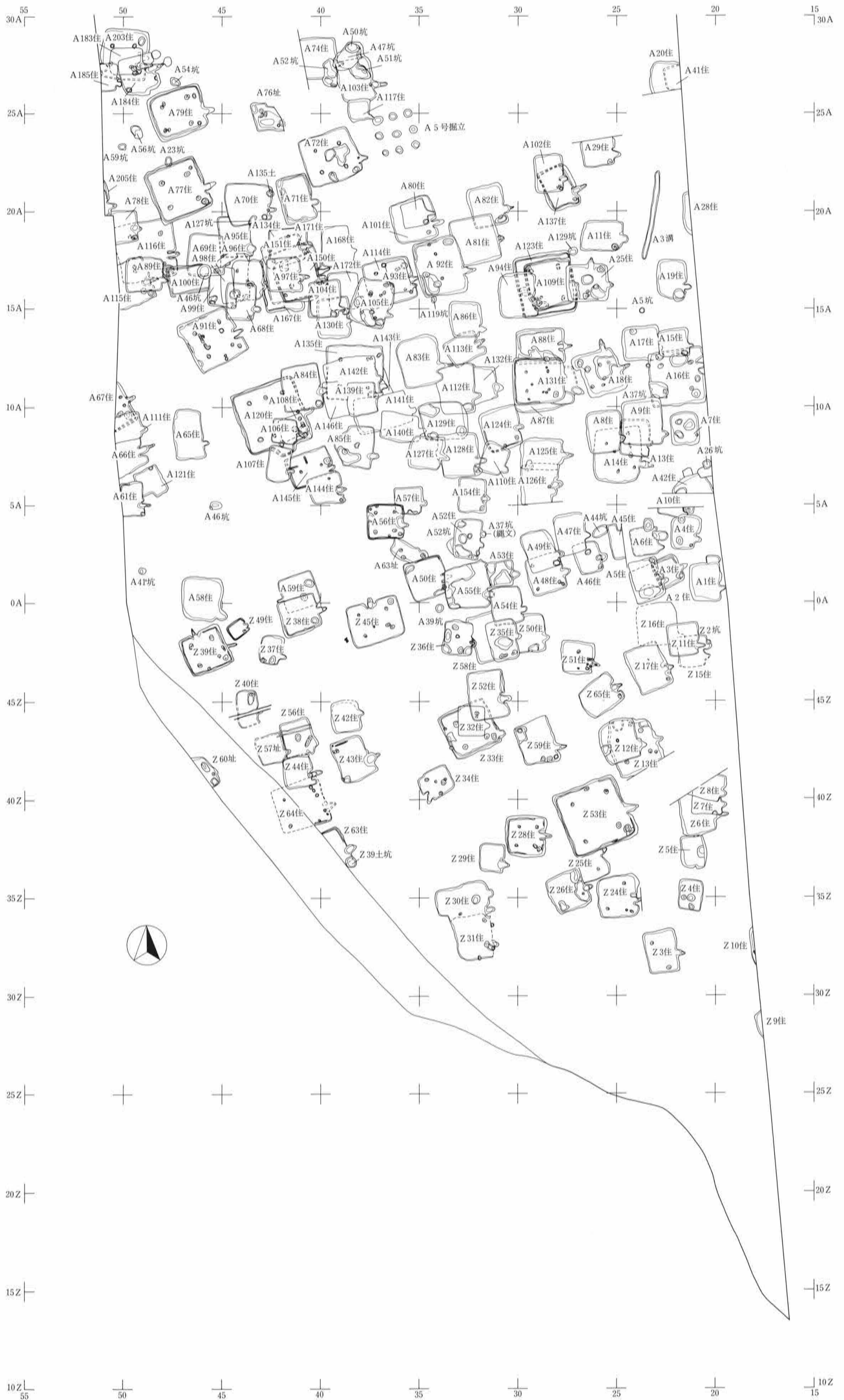
第3章 遺跡位置

第1節 遺跡位置

当遺跡は、群馬県のほぼ中央わずかに南寄りに位置しており、南流する利根川右岸の、前橋市中心部から西へ4 km付近の前橋市元総社町および群馬郡群馬町東国分の両地区にわたって所在している。遺跡立地は、北側を牛池川に、南側を染谷川によって開析された前橋台地と呼ばれる平坦な洪積台地上である。当遺跡からは縄文時代前期から中世までの遺構が多数検出されており、周辺に関連する多くの遺跡が点在している。これらの遺跡立地や周辺遺跡の詳細については、『上野国分僧寺・尼寺中間地域(1)～(3)』を参照願いたい。



第4図 遺跡位置図



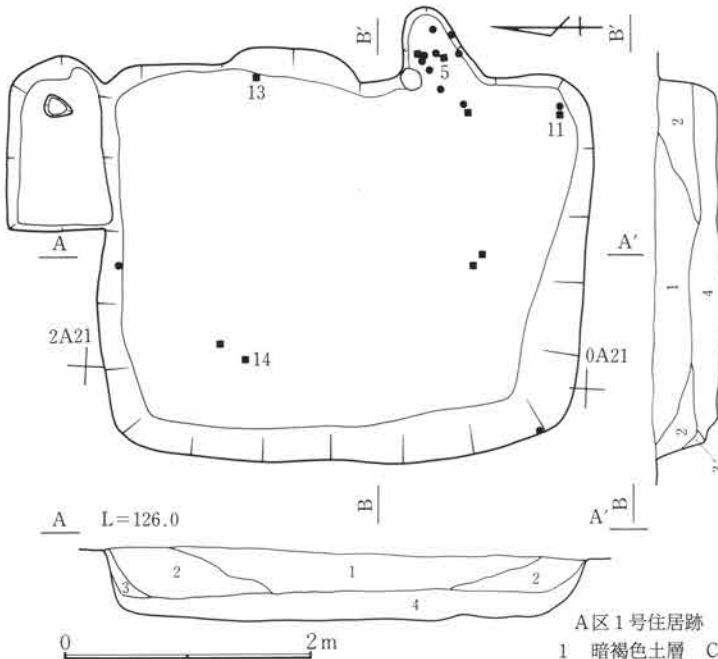
第5図 上野国分僧寺・尼寺中間地域 A区・Z区全体図

第4章 検出された遺構・遺物

第1節 竪穴住居跡

A区1号住居跡（第6・7・8・9・10図、第1・48・49図版）

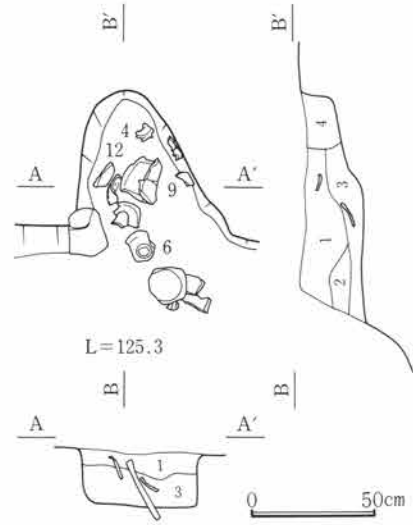
A区南東部に位置し1A19～21の範囲にある。3号住居跡の東にあり、他の遺構との重複関係は北東部で土坑と重複している。新旧関係は土坑が新しいと考えられる。土坑の規模は1.4m×0.9mである。住居跡の規模は長辺4m、短辺3.3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-92°-Eである。壁高は約50cm～55cmを測り、傾斜をもって立ち上がる。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約45cm、同長約40cmを測る。竈の左袖部に構築材と思われる石が検出された。



第6図 A区1号住居跡

A区1号住居跡

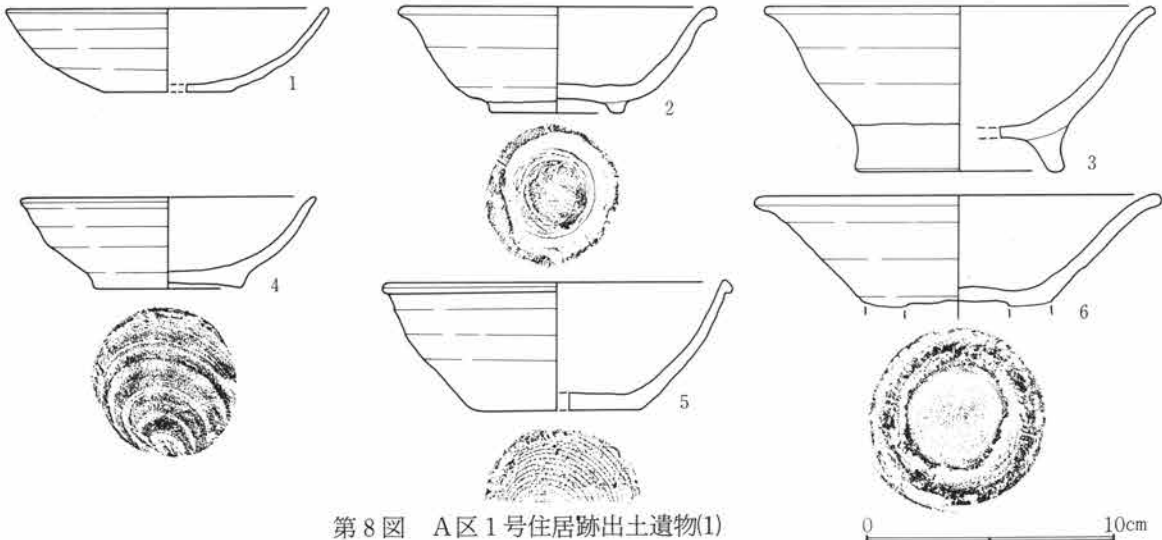
- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石混入
- 3 暗褐色土層 C軽石少量含む
- 4 暗褐色土層 C軽石含む



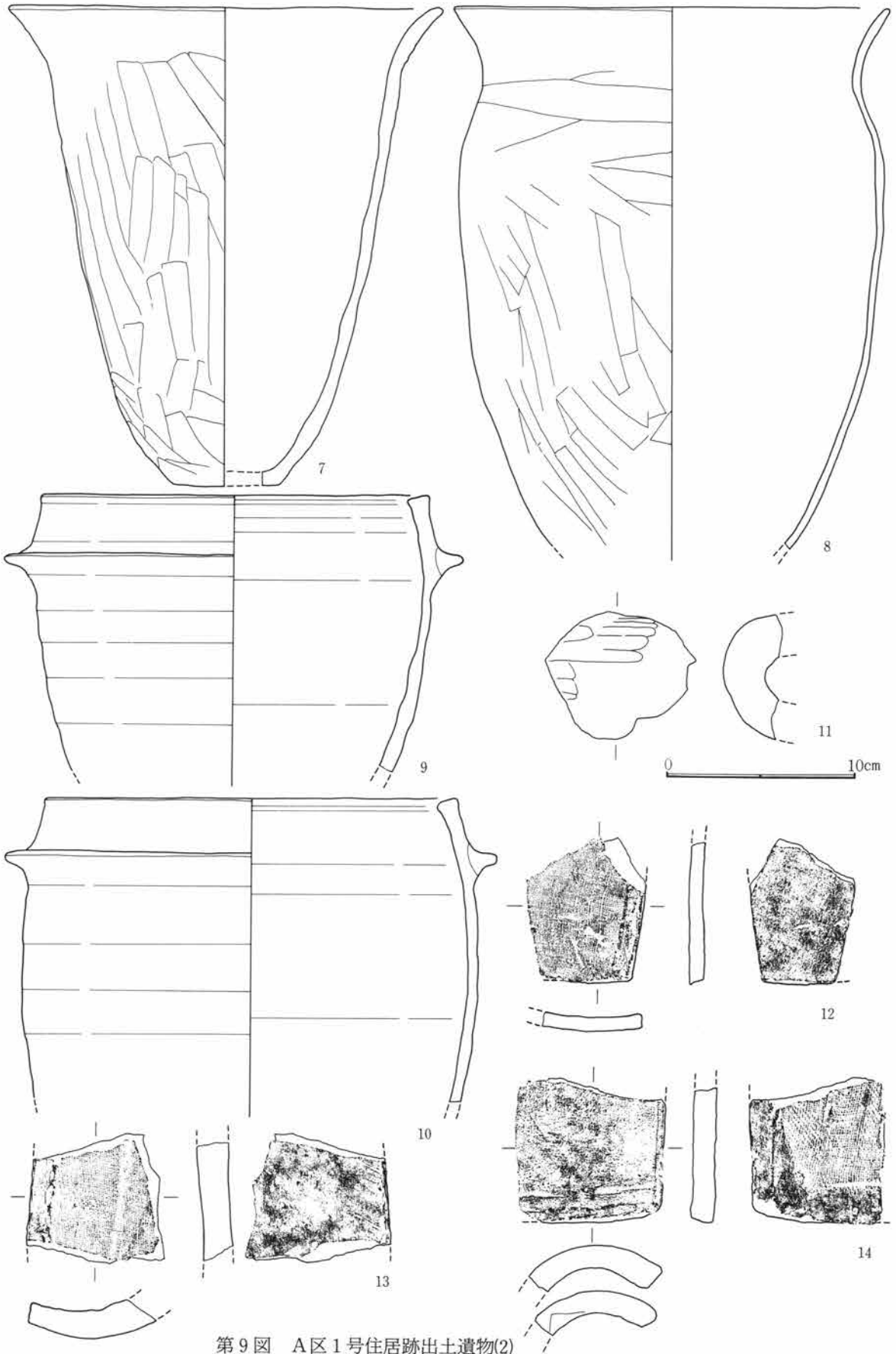
第7図 1号住居跡竈

A区1号住居竈

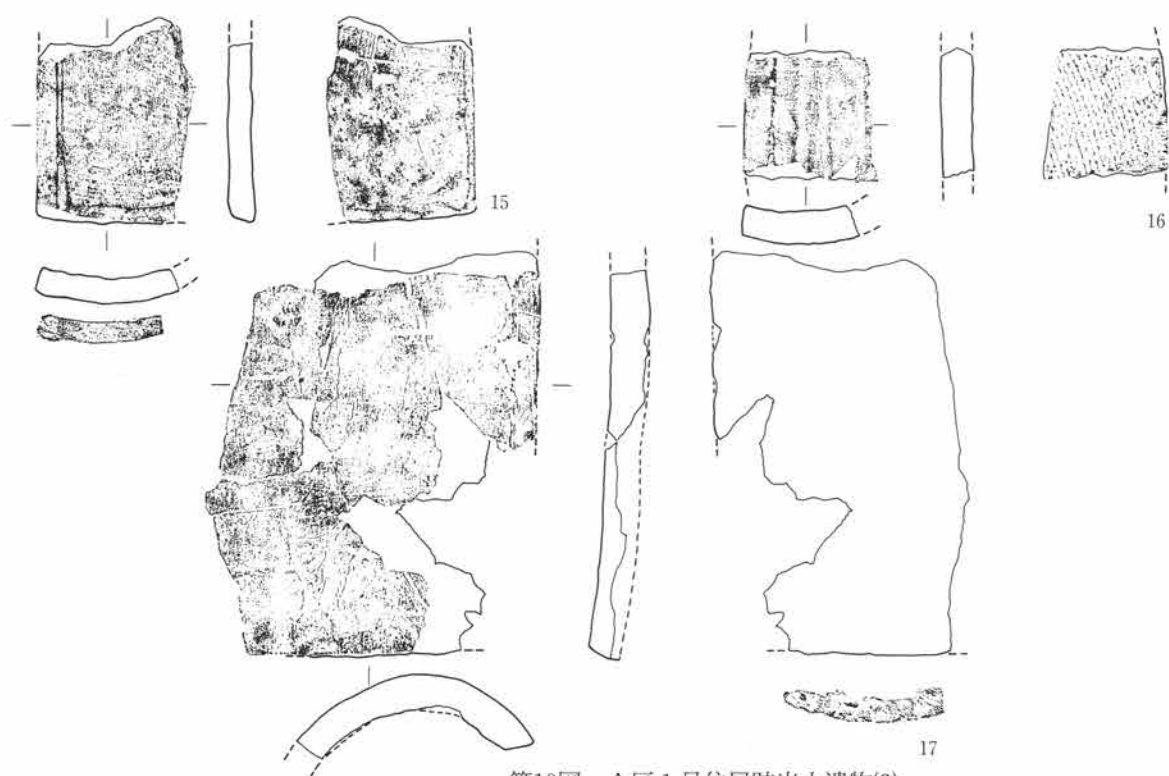
- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 焼土多量に含む
- 3 暗褐色土層 焼土、灰含む
- 4 暗褐色土層 攪乱



第8図 A区1号住居跡出土遺物(1)



第9図 A区1号住居跡出土遺物(2)



第10図 A区1号住居跡出土遺物(3)

A区2号住居跡 (第11・13・14・15図、第1・48・49図版)

A区南東部に位置し44Z～A1A22～24の範囲にある。1号住居跡の西にあり、3号住居跡・5号住居跡と重複している。新旧関係は3号住居跡より新しく、5号住居跡より古い。規模は長辺3.7m、短辺3.2mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-68°-Eである。壁は北・東・西壁は他の住居跡と重複しているため明らかではないが南壁で壁高約30cm～40cmを測る。床面はほぼ平坦をなすが、南壁に接する部分で落ち込みが確認された。規模は2.2m×1.6m、深さ約30cmを測る。壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。竈の左袖部は新しい5号住居跡により壊されており、明確な測定はできないが燃焼部幅約60cm、同長約80cmを測る。

A区3号住居跡 (第11・12・16図、第1・49・50図版)

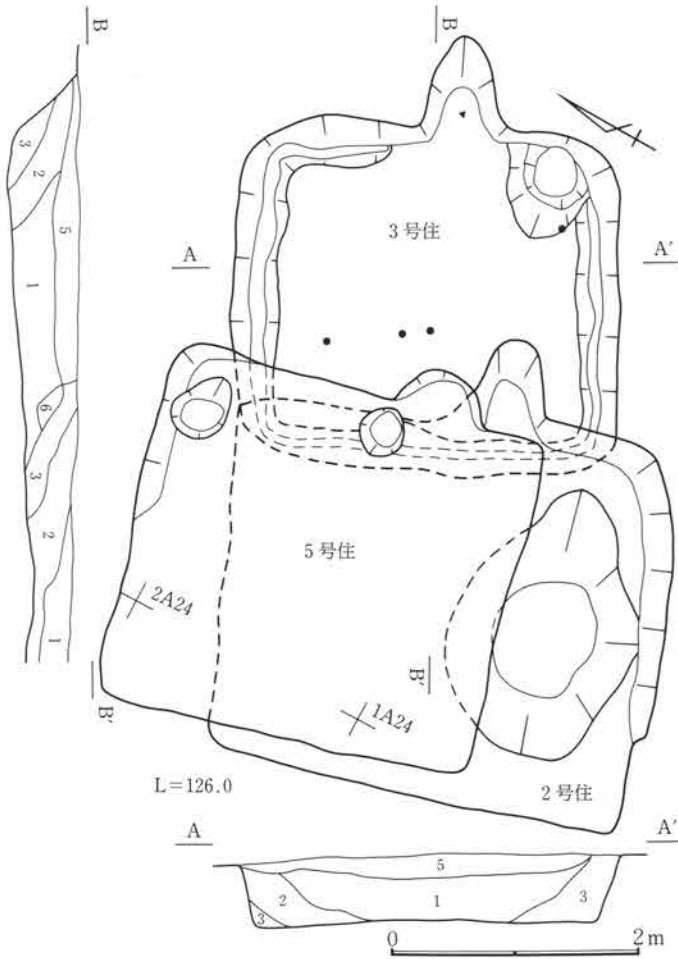
A区南東部に位置し0～2A21～23の範囲にある。1号住居跡の西にあり、2号住居跡・5号住居跡と重複している。新旧関係は2・5号住居跡が3号住居跡より新しい。規模は長辺3.2m、短辺2.8mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-68°-Eである。壁は西側で2号住居跡・5号住居跡と重複しているため明らかではないが、他の壁高は約40cm～50cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、南東部竈右側で貯蔵穴と考えられる小穴が確認された。規模は径約60cm、深さ約20cmを測る。また四周に壁周溝を確認した。規模は幅約20cm、深さ約7cm～8cmを測る。柱穴は検出されていない。竈は東壁ほぼ中央に検出された。規模は燃焼部幅60cm、同長70cmを測る。竈燃焼部中央より石が検出され、竈構築材、支脚等の可能性が考えられる。

A区5号住居跡 (第11・13・17図、第1・50図版)

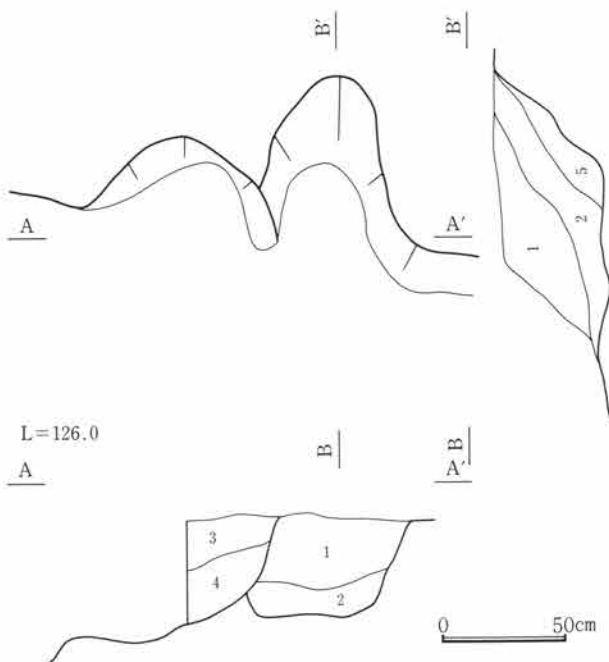
A区南東部に位置し0～2A22～24の範囲にある。1号住居跡の西にあり、2号住居跡・3号住居跡と重複している。新旧関係は5号住居跡が2号住居跡・3号住居跡より新しい。規模は長辺3.2m、短辺2.9mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-79°-Eである。壁は北東部に一部残存する以外は2号住居跡・3号住居跡との重複により壊されている。このため壁高は明らかではないが北東部で約50cmを測る。床

第4章 検出された遺構・遺物

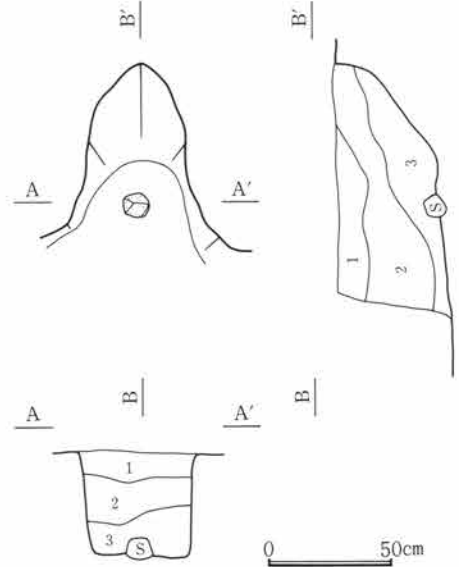
面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁や南寄りに検出された。規模は燃焼部幅70cm、同長40cmを測る。



第11図 A区2・3・5号住居跡



第13図 A区2・5号住居跡竈



第12図 A区3号住居跡竈

A区3号住居跡竈

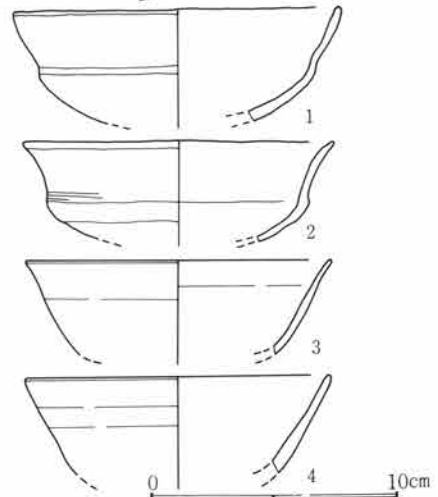
- 1 暗褐色土層
- 2 暗褐色土層 焼土を多量に含む
- 3 赤褐色土層 焼土ブロック、灰を含む

A区2・3・5号住居跡

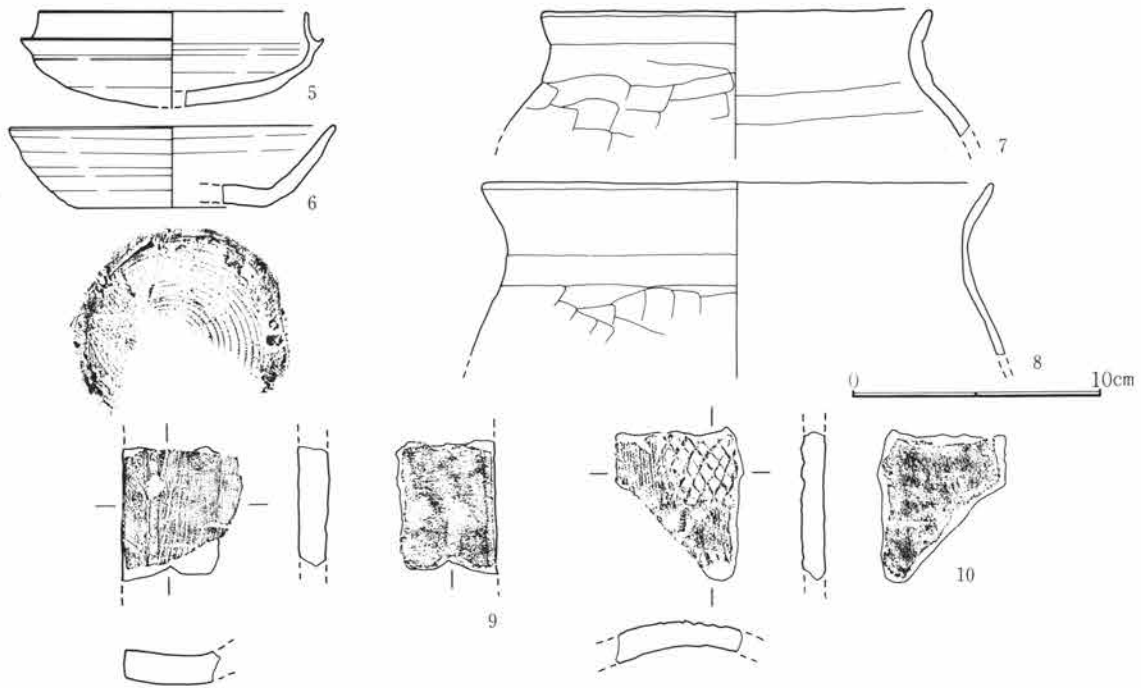
- 1 暗褐色土層
- 2 黒色土層 C軽石を含む
- 3 黒褐色土層 C軽石を多量に含む
- 4 黒色土層 C軽石を多量に含む
- 5 暗褐色土層 C軽石を少量含む
- 6 粘土

A区2・5号住居跡竈

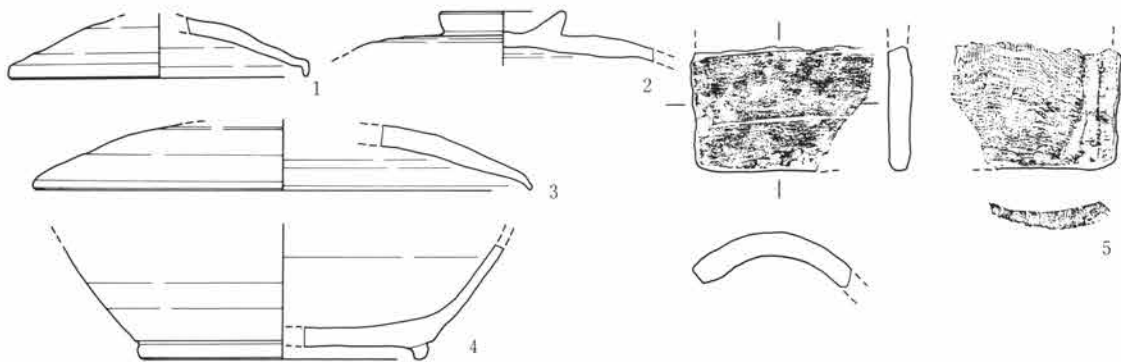
- 1 暗褐色土層 C軽石、カーボン少量含む
- 2 暗褐色土層 C軽石、カーボン、焼土粒少量含む
- 3 暗褐色土層 C軽石多量、焼土粒わずかに含む
- 4 暗褐色土層 焼土ブロックを多量に含む
- 5 暗褐色土層 焼土粒、灰を多量に含む



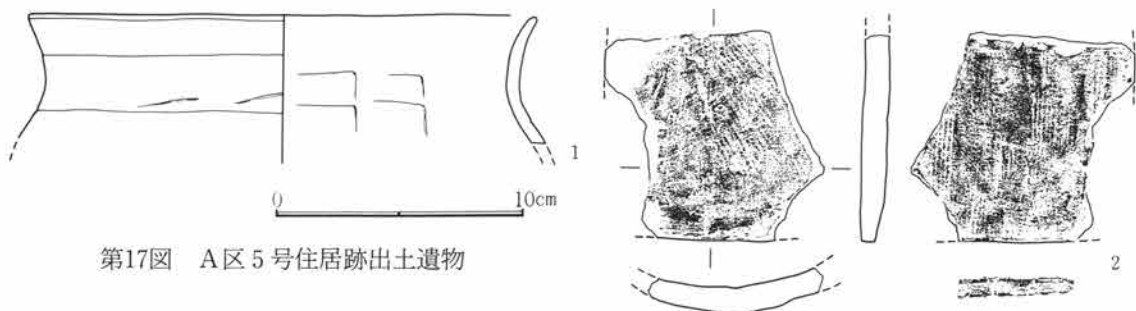
第14図 A区2号住居跡出土遺物(1)



第15図 A区2号住居跡出土遺物(2)



第16図 A区3号住居跡出土遺物

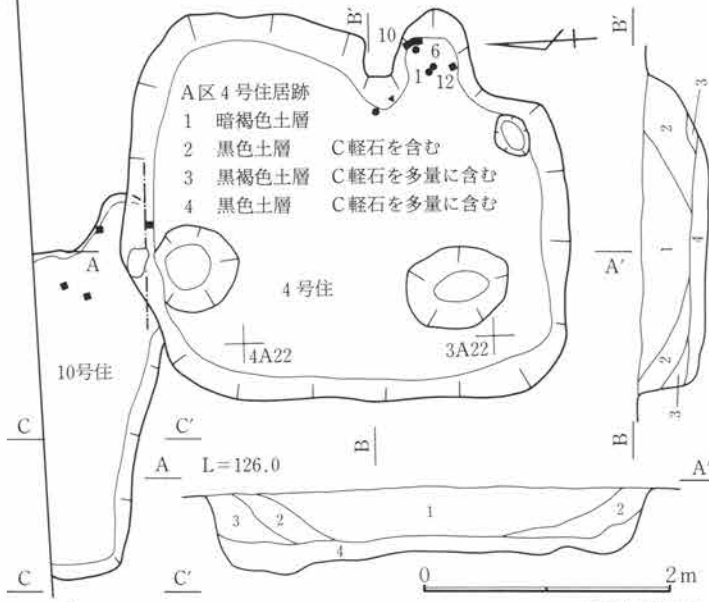


第17図 A区5号住居跡出土遺物

A区4号住居跡 (第18・19・21・22図、第2・50・173図版)

A区南東部に位置し2～4A20～22の範囲にある。3号住居跡の北にあり、北部で10号住居跡と重複している。新旧関係は4号住居跡が新しい。規模は長辺3.9m、短辺3.1mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-113°-Eである。壁高は約50cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。床面には南東部、南西部、西北部に3基の小穴が検出され、各々1～3とした。規

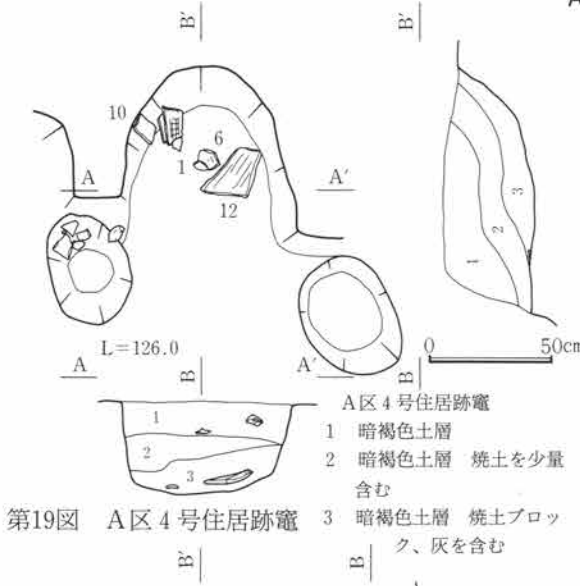
第4章 検出された遺構・遺物



第18図 A区4・10号住居跡

- A区10号住居跡
 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
 2 暗褐色土層 C軽石を含む
 3 暗褐色土層 C軽石を少量含む

模は1、1.1m×0.8m、深さ2cm、2、2.5m×1.9m、深さ6cm、3、径約2m、深さ5cmである。床面の小穴はこのような浅く生活上の用途は不明である。竈は東壁やや南寄りに検出された。東壁北側の壁が東へ張り出しているため竈長軸の方位はN-89°-Eであり、住居跡の主軸方位に対しやや北へふれている。規模は燃烧部幅90cm、同長60cmを測る。竈掘り方面より左右袖部に小穴が各々1基ずつ検出された。竈の袖部の構築にかかわる痕跡と考えられる。

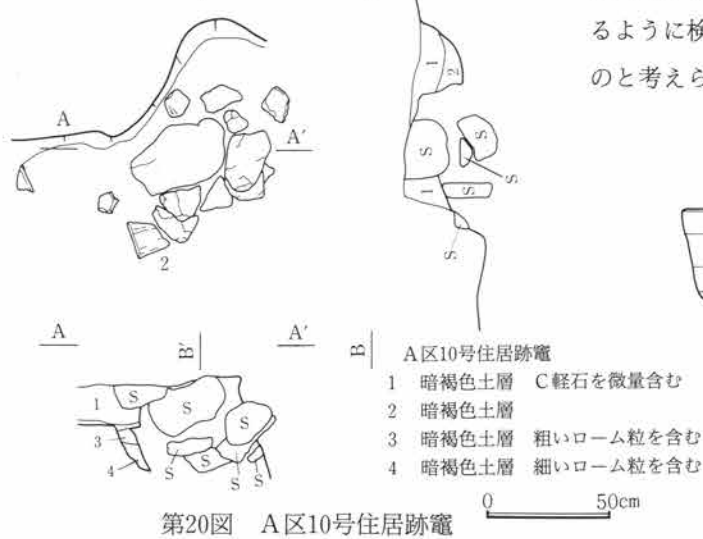


第19図 A区4号住居跡竈

- A区4号住居跡竈
 1 暗褐色土層
 2 暗褐色土層 焼土を少量含む
 3 暗褐色土層 焼土ブロック、灰を含む

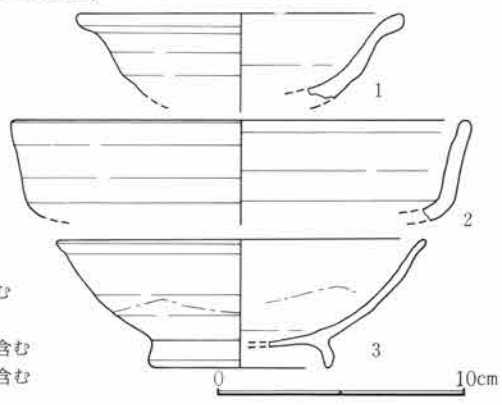
A区10号住居跡 (第18・20・23図、第3・50・51図版)

A区南東部に位置し4A21・22の範囲にある。3号住居跡の北にあり、北部の大半は遺跡内を東西に横切る現代の水路によって壊されている。このため南側の一部を確認したのみである。他の遺構との関係は南側竈の一部を4号住居跡、北側の一部を土坑と重複している。新旧関係は4号住居跡より旧く、土坑より新しい。規模は残存部が少ないため不明であるが水路に切られている断面の部分では3.6mを測る。主軸方位は竈長軸でN-93°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は南東部に検出された。規模は燃烧部幅は残存部で60cm、同長50cmを測る。また竈燃烧部中央から大型の石が重なるように検出された。おそらく竈の構築に関連するものと考えられる。

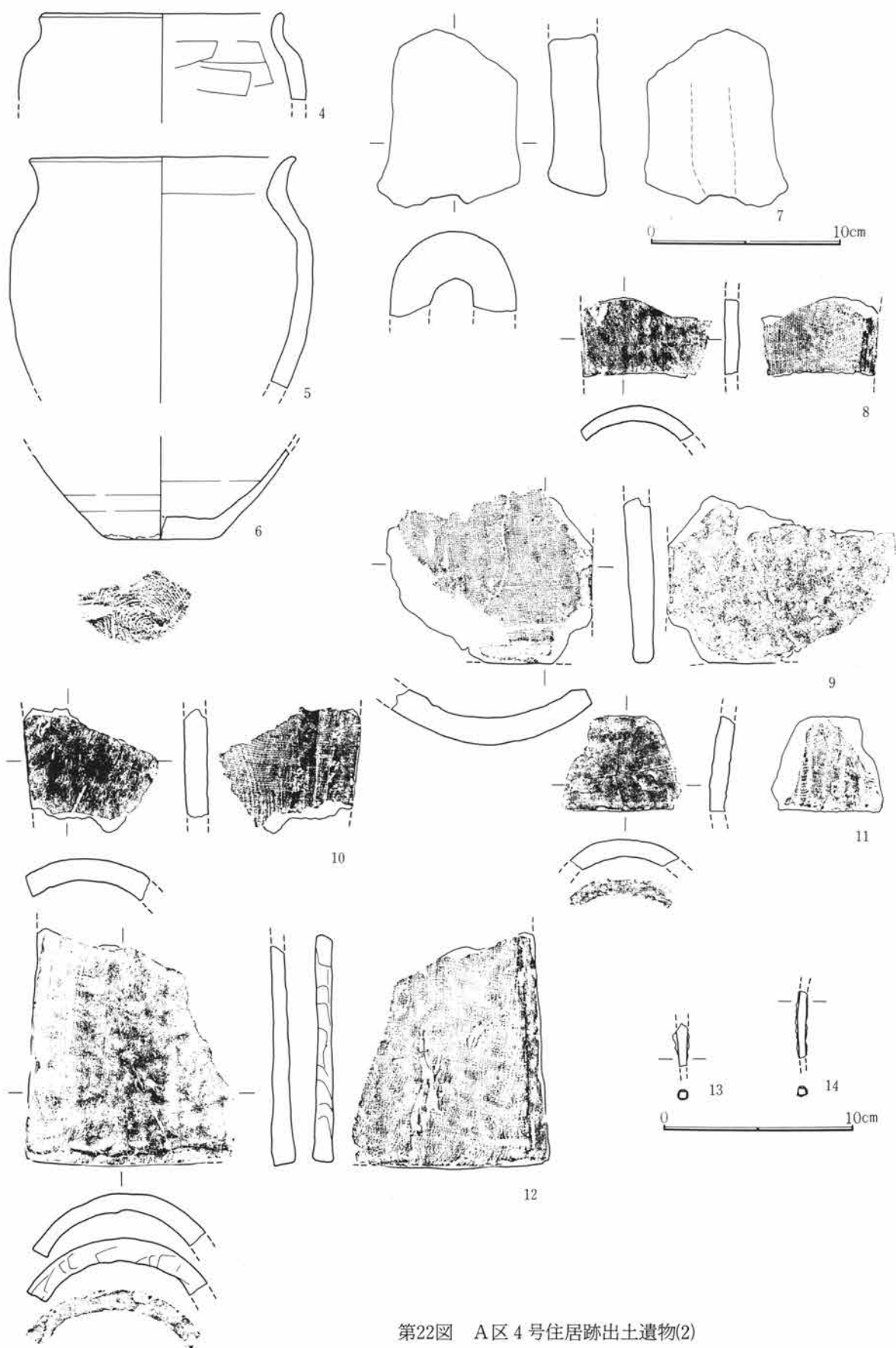


第20図 A区10号住居跡竈

- A区10号住居跡竈
 1 暗褐色土層 C軽石を微量含む
 2 暗褐色土層
 3 暗褐色土層 粗いローム粒を含む
 4 暗褐色土層 細いローム粒を含む

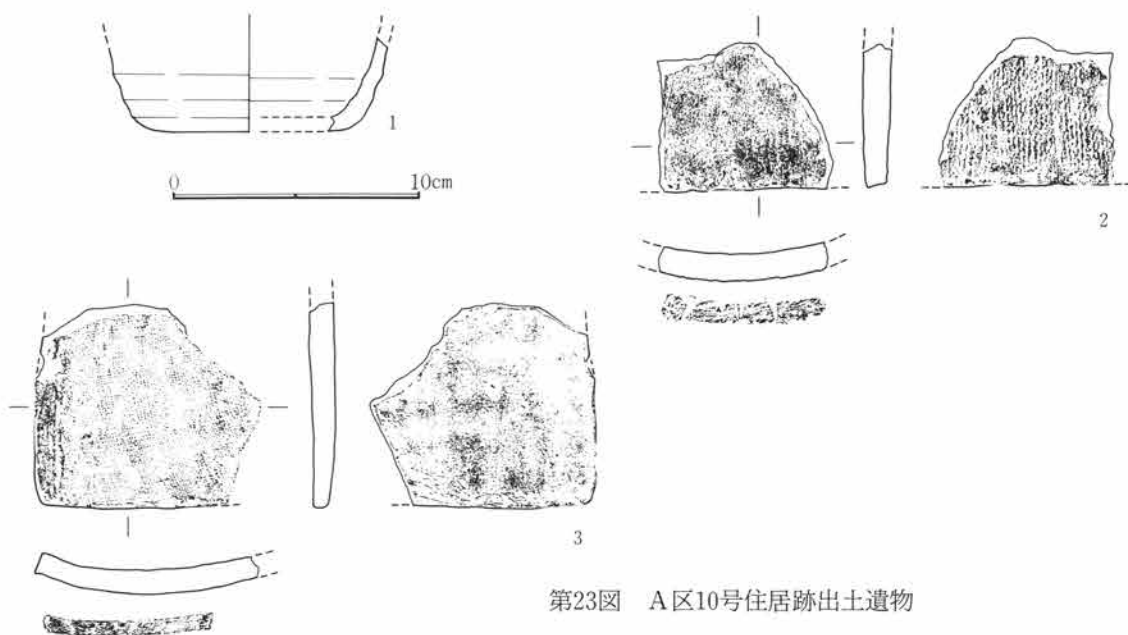


第21図 A区4号住居跡出土遺物(1)



第22図 A区4号住居跡出土遺物(2)

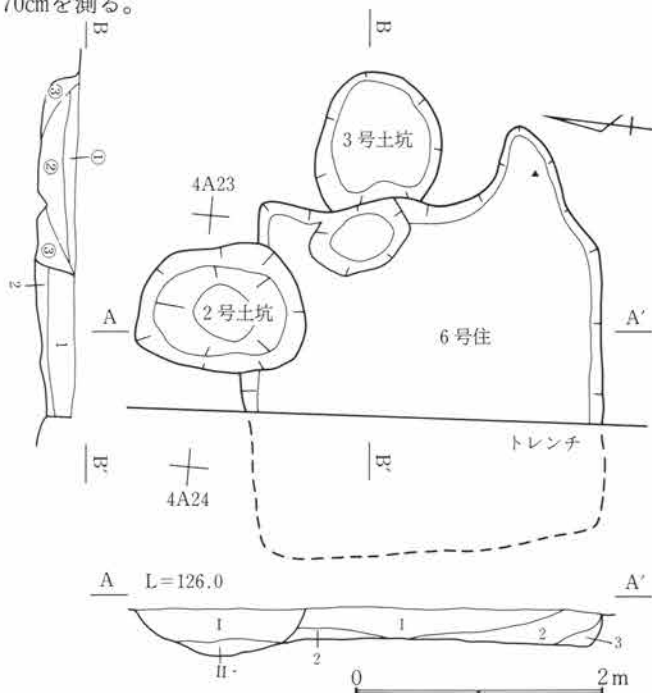
第4章 検出された遺構・遺物



第23図 A区10号住居跡出土遺物

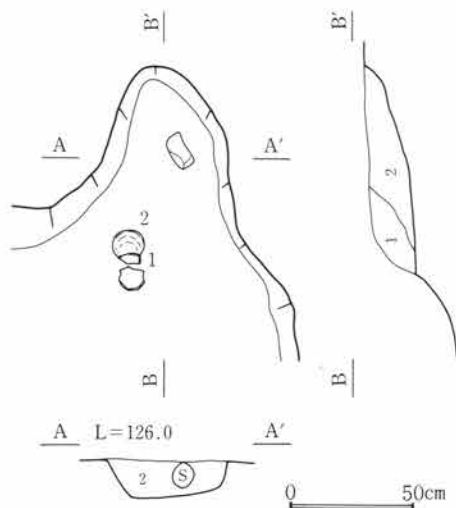
A区6号住居跡 (第24・25・26図、第2・50・51図版)

A区南東部に位置し2・3A22~24の範囲にある。4号住居跡の西にあり、北壁の一部と、東壁の一部を土坑と重複している。土坑は各々1・2とした。新旧関係は1号土坑・2号土坑が6号住居跡より新しい。西側の一部は試掘時のトレンチによる。規模は長辺2.9m、短辺2.8mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-85°-Eである。壁高は約20cm~30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄り南東コーナー近くに検出された。規模は燃燒部幅90cm、同長70cmを測る。



- | | |
|------------------|----------------|
| 2号土坑 | 3号土坑 |
| I 暗褐色土層 C軽石多量に含む | ① 暗褐色土層 細スラグ含む |
| II 暗褐色土層 ローム粒含む | ② 暗褐色土層 スラグ含む |
| | ③ 暗褐色土層 ローム粒含む |

第24図 A区6号住居跡



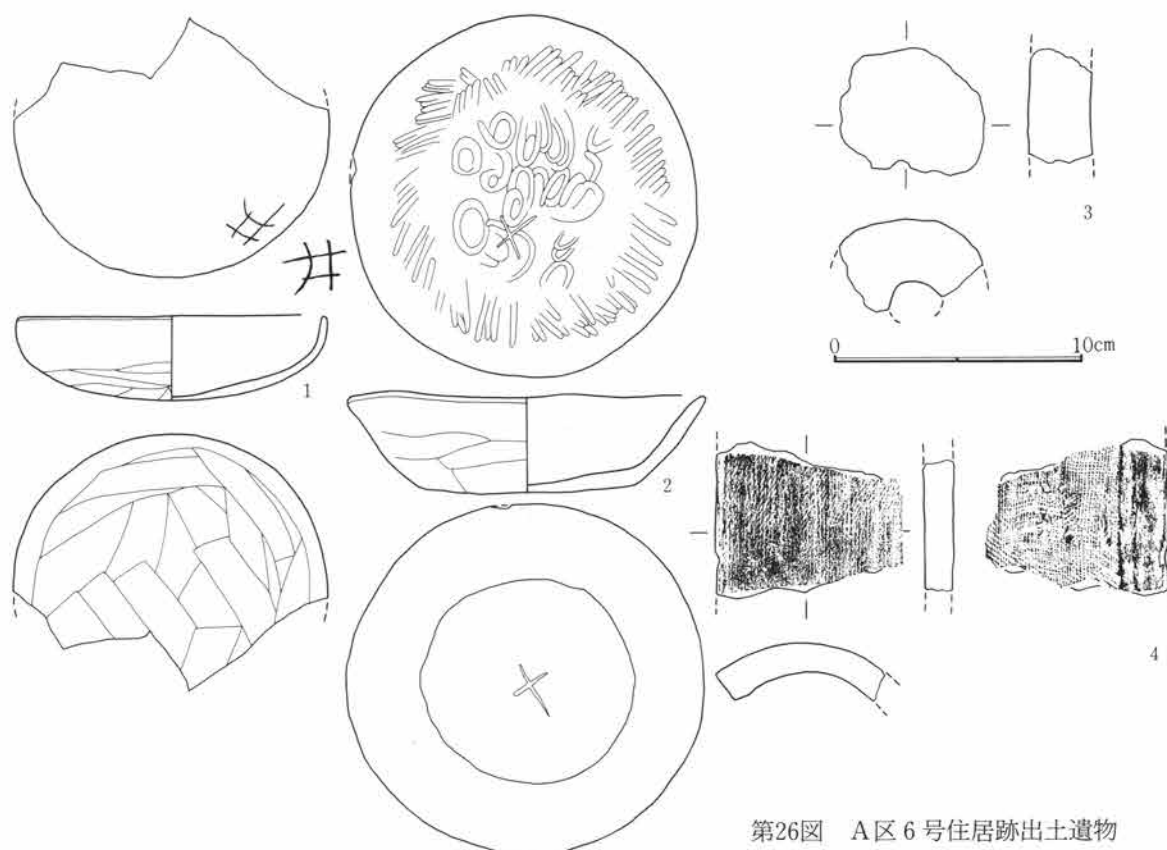
A区6号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 焼土ブロックを多量に含む
- 2 暗褐色土層 焼土、灰、軽石を含む

A区6号住居跡

- 1 暗褐色土層 C軽石を多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石を含む
- 3 暗褐色土層 C軽石少量含む

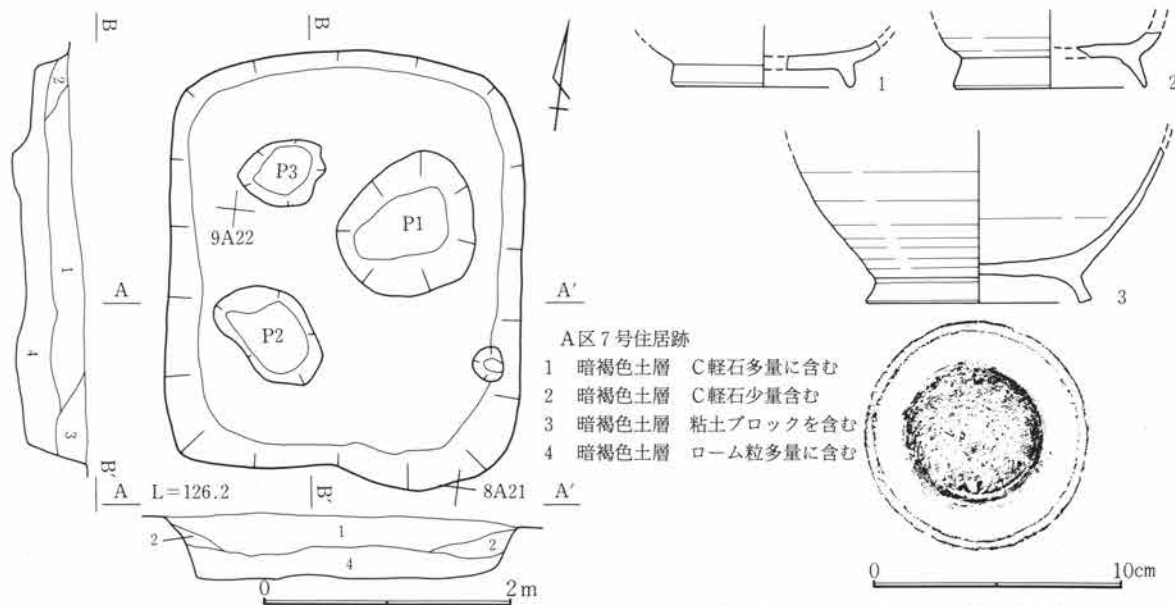
第25図 A区6号住居跡竈



第26図 A区6号住居跡出土遺物

A区7号住居跡 (第27・28・29図、第2・50・51図版)

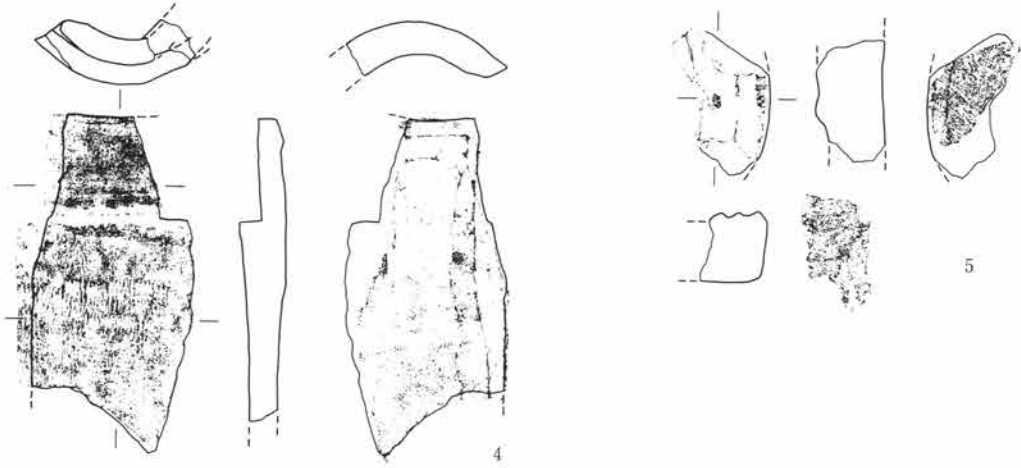
A区南東部に位置し7~9A20~22の範囲にある。4号住居跡の北にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺3.5m、短辺2.9mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位は長軸の方向でN-85°-Eである。壁高は30cm~40cmを測る。床面は凹凸が認められ、床面に3基の小穴が検出され、各々1~3とした。規模は1、径約1.1m、深さ約12cm、2、1m×55cm、深さ約10cm、3、70cm×50cm、深さ約15cmを測る。壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は検出されていない。



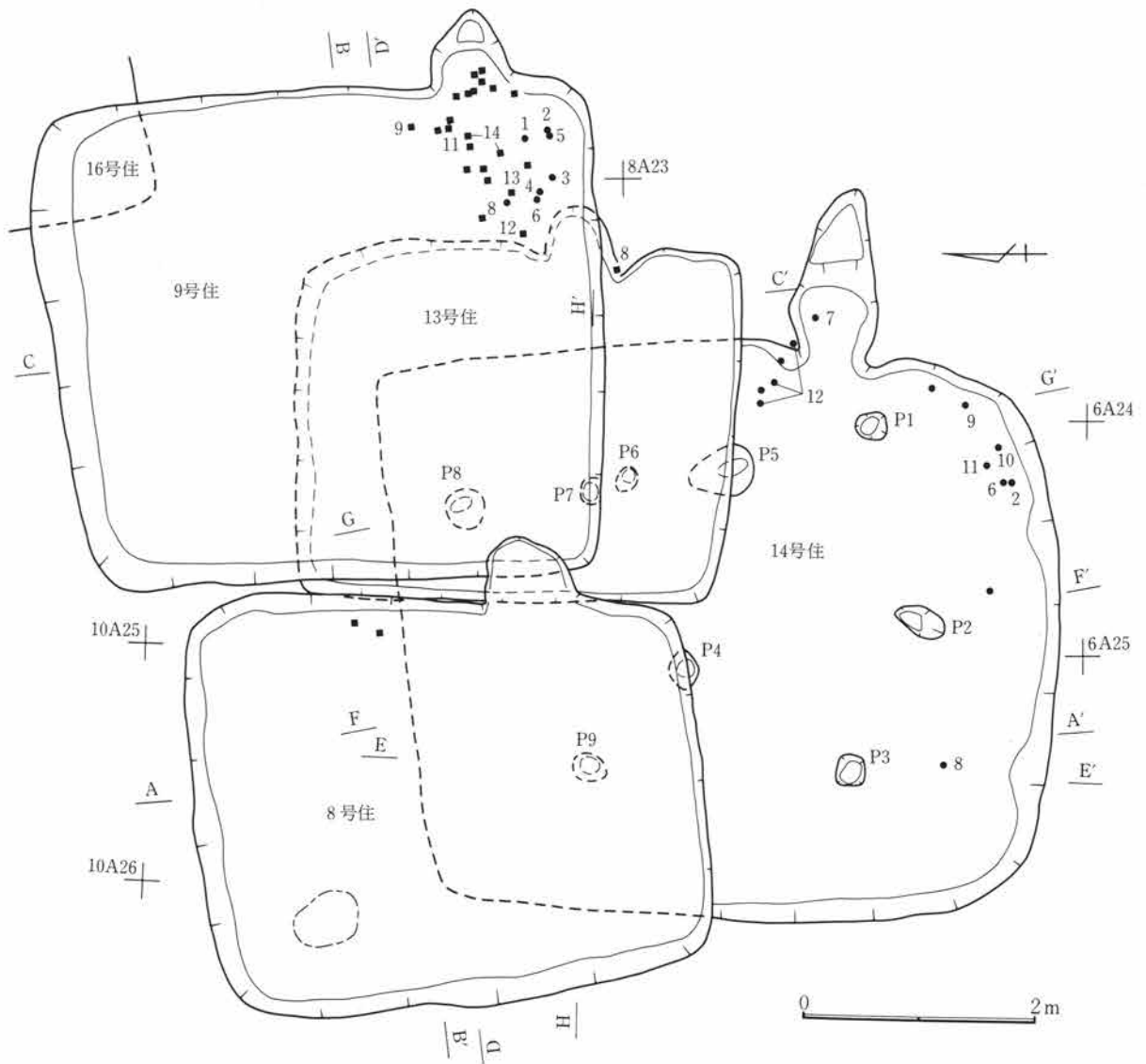
第27図 A区7号住居跡

第28図 A区7号住居跡出土遺物(1)

第4章 検出された遺構・遺物



第29図 A区7号住居跡出土遺物(2)



第30図 A区8・9・13・14号住居跡

A区8号住居跡 (第30・31・32・37・38図、第2・50・51・52・173図版)

A区南東部に位置し7～9A24～26の範囲にある。7号住居跡の西にある。他の遺構との関係は東部で9号住居跡・13号住居跡と重複している。また南東部では14号住居跡と重複している。新旧関係は8号住居跡が他の3軒の住居跡より新しい。新しい方から並べると8号住居跡・9号住居跡・13号住居跡・14号住居跡の順になる。規模は長辺4.5m、短辺3.6mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-91°-Eである。壁高は約30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃焼部幅80cm、同長60cmを測る。

A区9号住居跡 (第30・31・33・34・39・40・41・42図、第3・52・53・54・55・56図版)

A区南東部に位置し8～10A22～24の範囲にある。7号住居跡の西にあり、他の遺構との関係は南西部で8号住居跡・13号住居跡・14号住居跡、また北東部で16号住居跡と重複している。新旧関係は8号住居跡より旧く13号住居跡・14号住居跡より新しい。また北東部では16号住居跡より新しい。規模は長辺4.4m、短辺4.2mである。主軸方位はN-86°-Eである。壁高は約50cmを測る。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅70cm、同長60cmを測る。燃焼部から瓦を含む遺物が検出され、左袖部に瓦が検出された。竈の構築材の可能性が考えられる。

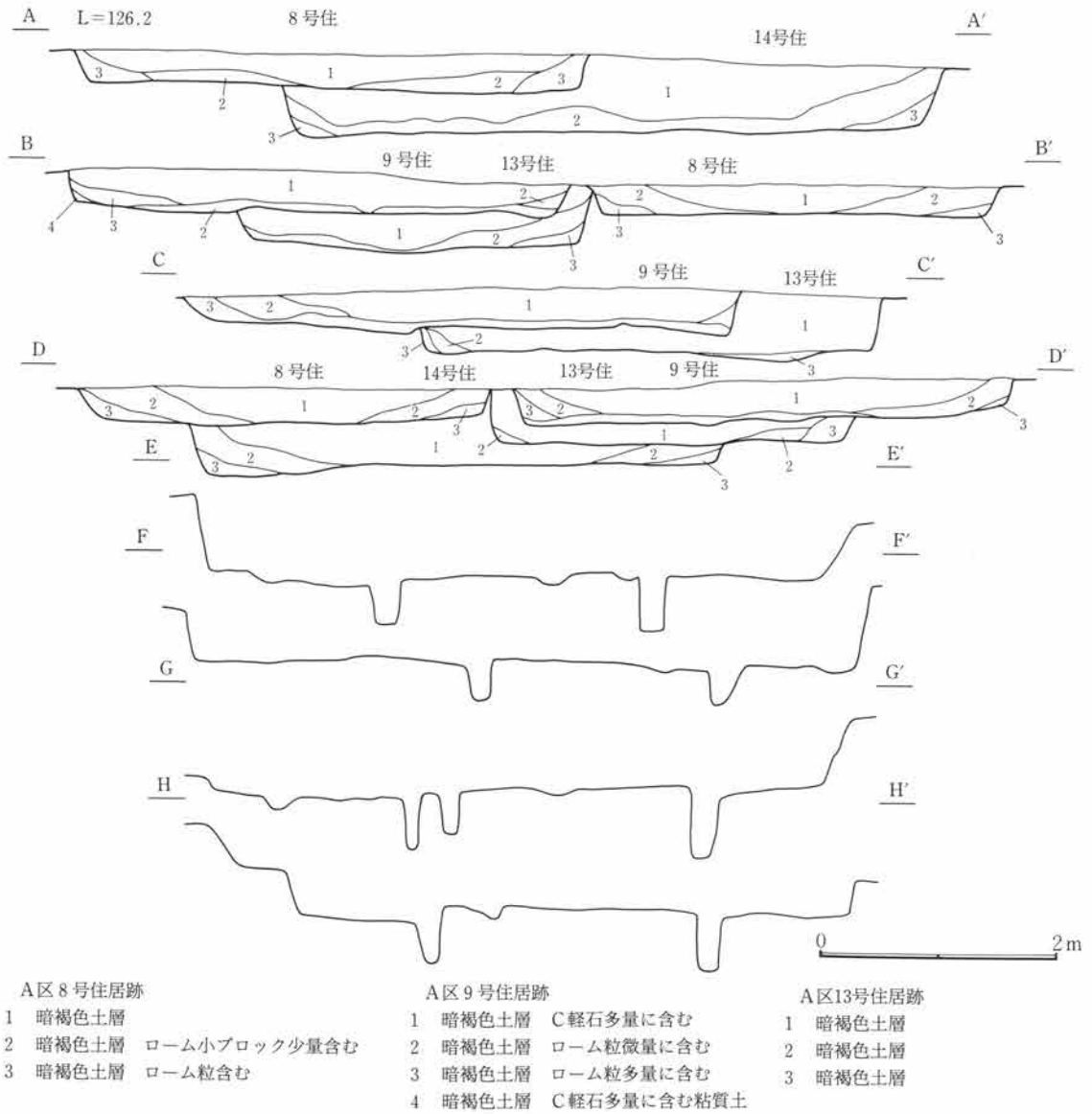
A区13号住居跡 (第30・31・35・43・44図、第3・4・56・57図版)

A区南東部に位置し7～9A23・24の範囲にある。7号住居跡の西にあり、他の遺構との関係は8号住居跡・9号住居跡・14号住居跡と重複している。新旧関係は8号住居跡・9号住居跡より旧く、14号住居跡より新しい。規模は他の遺構との重複が激しく明確な測定はできないが南壁長は約2.9mを測る。このため主軸方位も不明である。竈は東壁に検出された。しかし9号住居跡により大半は壊されているが右側袖部には玉縁付き瓦が突き立った状態で検出された。竈の構築材の可能性が考えられる。

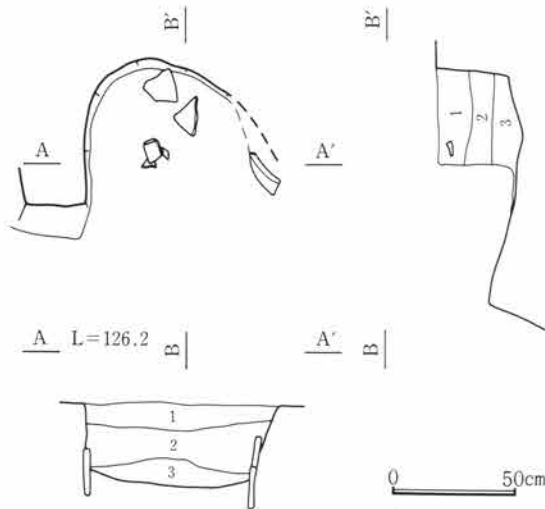
A区14号住居跡 (第30・31・36・45・46図、第4・57・58図版)

A区南東部に位置し6～8A23～26の範囲にある。7号住居跡の西にあり、8号住居跡・9号住居跡・13号住居跡と重複している。新旧関係は8号住居跡・9号住居跡・13号住居跡より古い。規模は他の住居跡より北半部を壊されているため不明であるが南壁は約4.7mを測る。このため住居跡の主軸方位は不明である。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。しかし床面からは5基の小穴が検出され各々1～5とした。各々の規模は1、径約25cm、深さ約55cm、2、45cm×25cm、深さ約20cm、3、径約30cm、深さ約40cm、4、径約45cm、深さ約30cm、5、約70cm×45cm、深さ約10cmを測る。竈は東壁に検出された。規模は袖幅40cm、燃焼部幅80cm、同長70cm、煙道部長70cmを測る。竈の残存状態は良く、形態は焚き口が燃焼部に比べ、ややすぼまり燃焼部奥から段をもち煙道部が延びる。

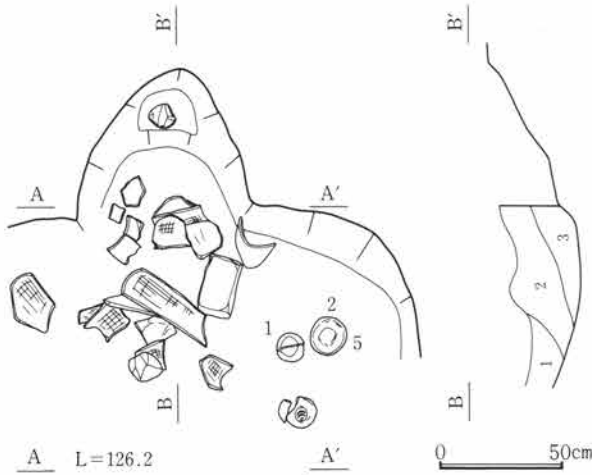
第4章 検出された遺構・遺物



第31図 A区8・9・13・14号住居跡土層断面

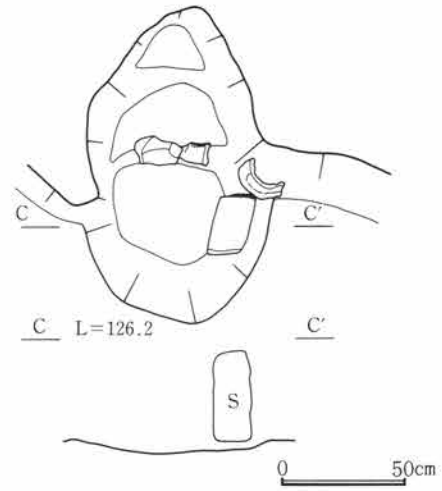


第32図 A区8号住居跡竈

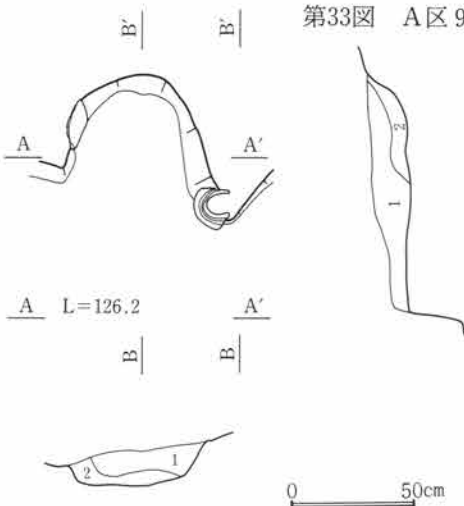


第33図 A区9号住居跡竈

- 1 暗褐色土層
- 2 暗褐色土層 焼土粒、ブロックを少量含む
- 3 暗褐色土層 焼土粒、ブロック、炭を含む
- 4 暗褐色土層 焼土、灰を含まない



第34図 A区9号住居跡竈掘り方



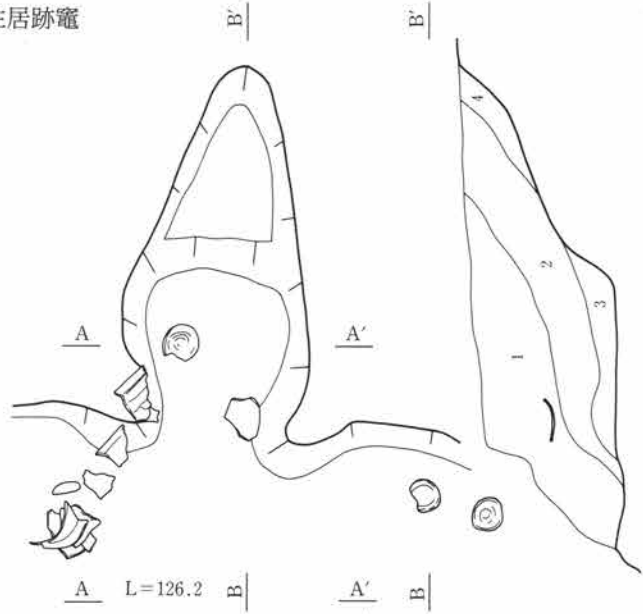
A区13号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 焼土粒、灰を多量に含む
- 2 赤褐色土層 焼土粒

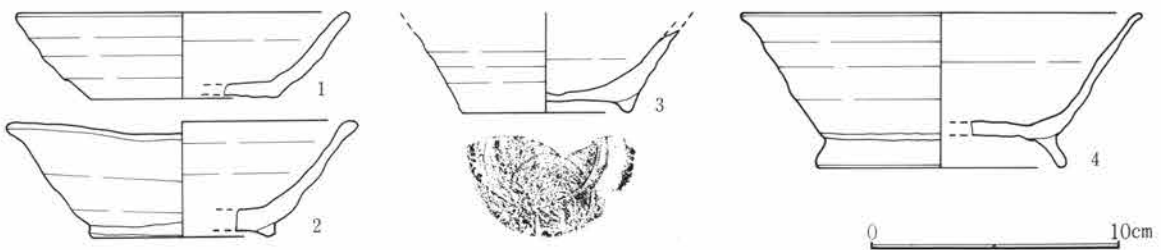
A区14号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 焼土粒少量含む
- 2 暗褐色土層 焼土、炭化物を含む
- 3 暗褐色土層 焼土ブロックを多量に含む
- 4 暗褐色土層 焼土ブロック少量、炭を含む

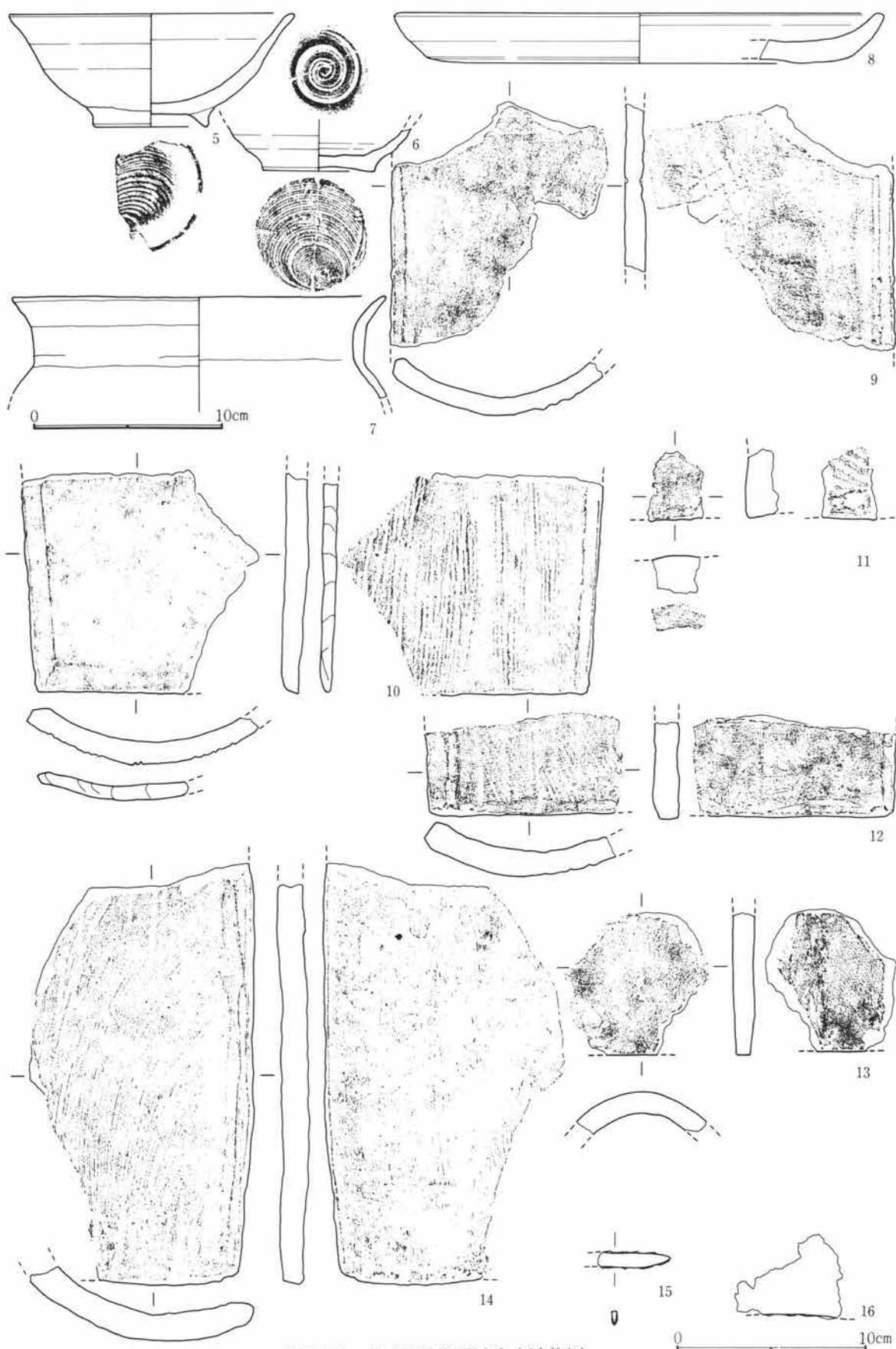
第35図 A区13号住居跡竈



第36図 A区14号住居跡竈

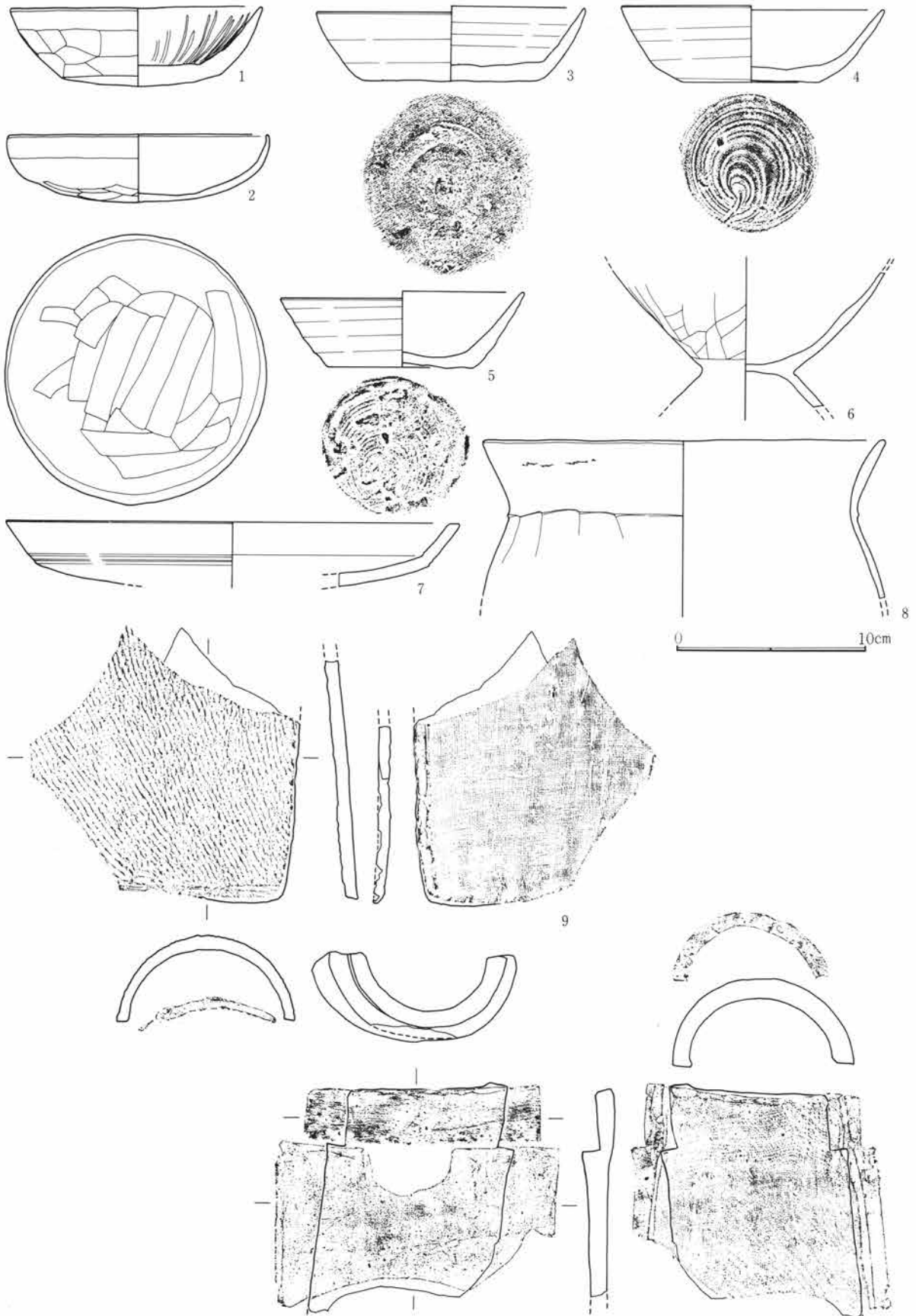


第37図 A区8号住居跡出土遺物(1)



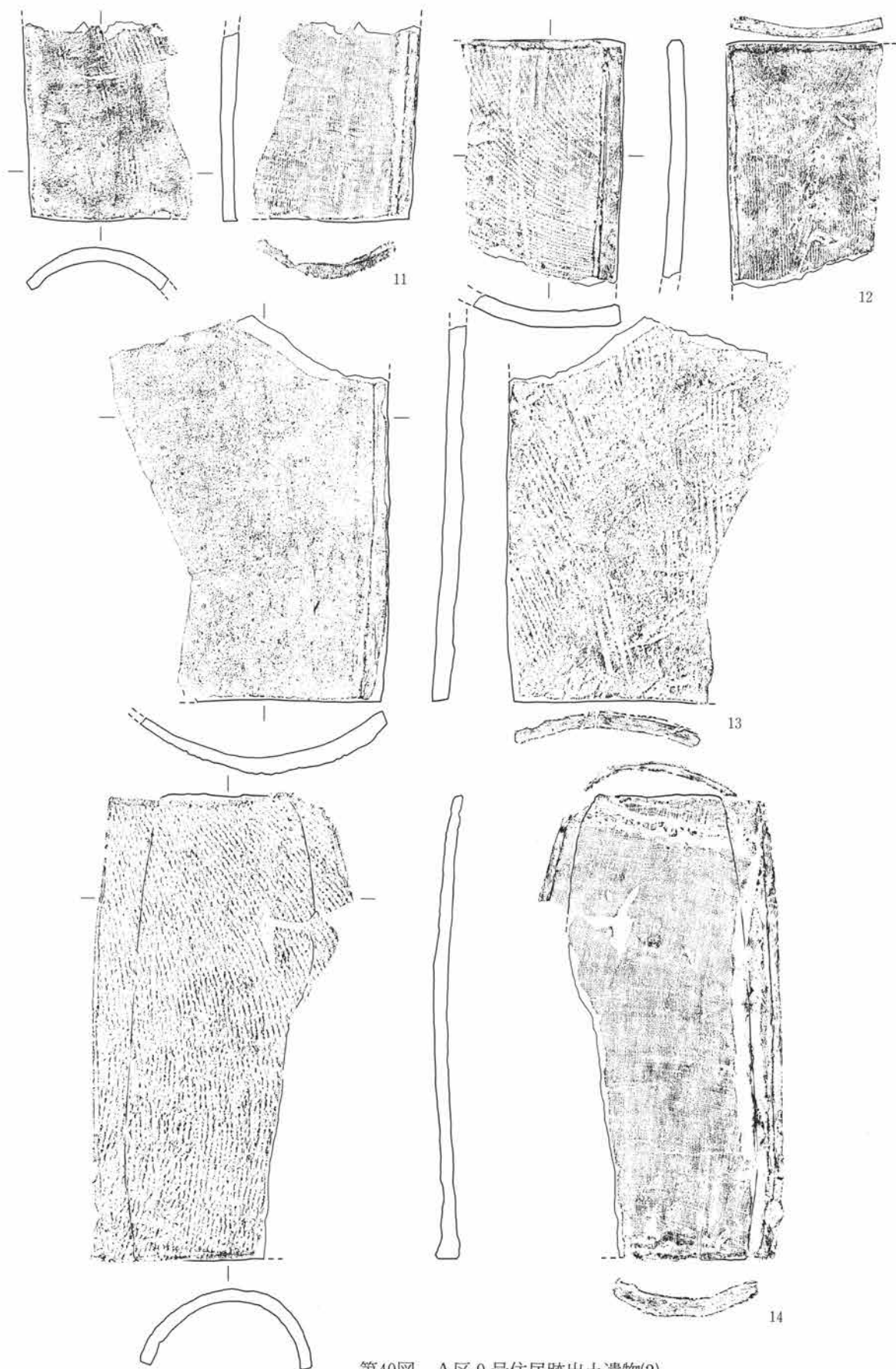
第38図 A区8号住居跡出土遺物(2)

第1節 豎穴住居跡

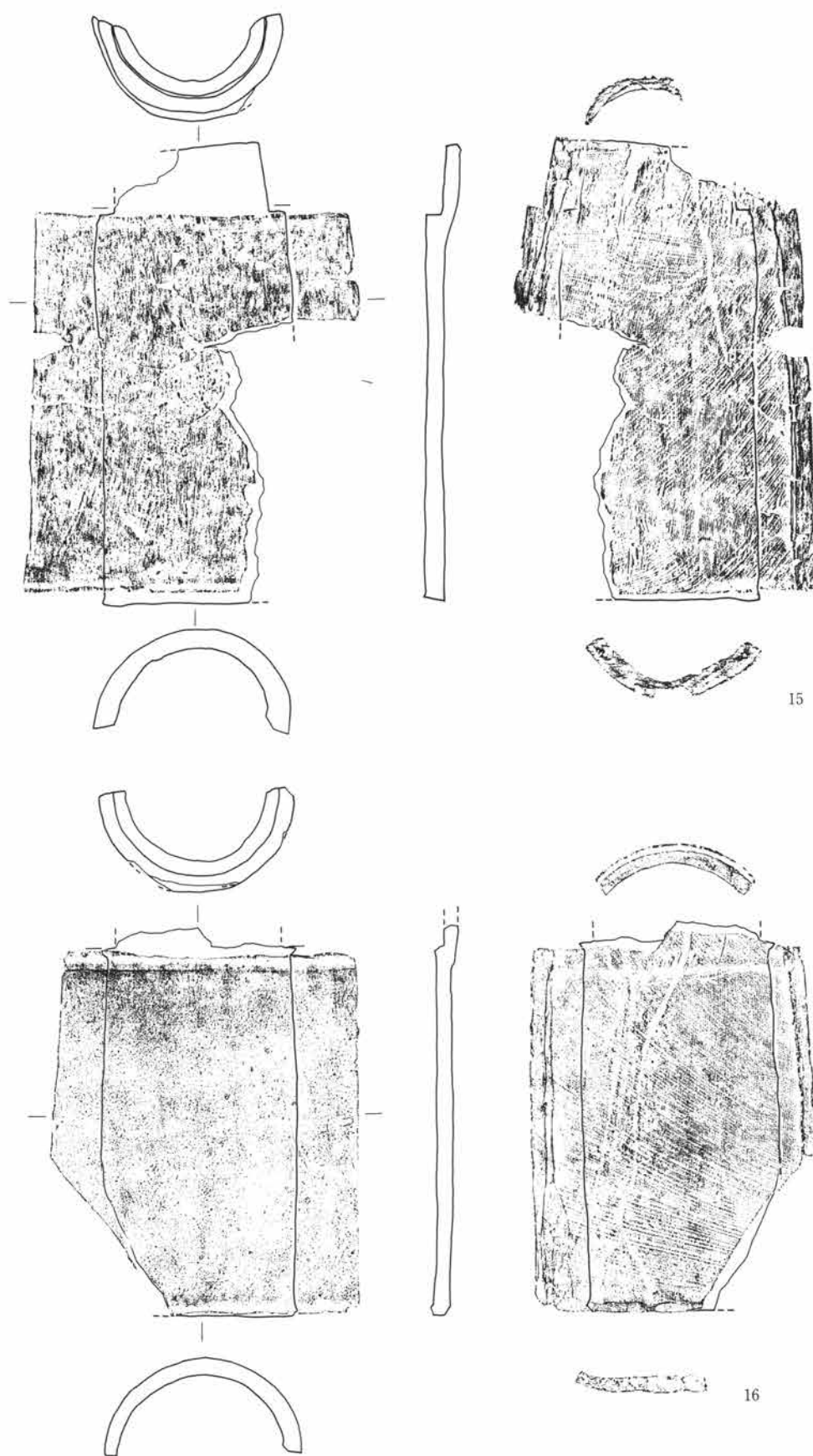


第39図 A区9号住居跡出土遺物(1)

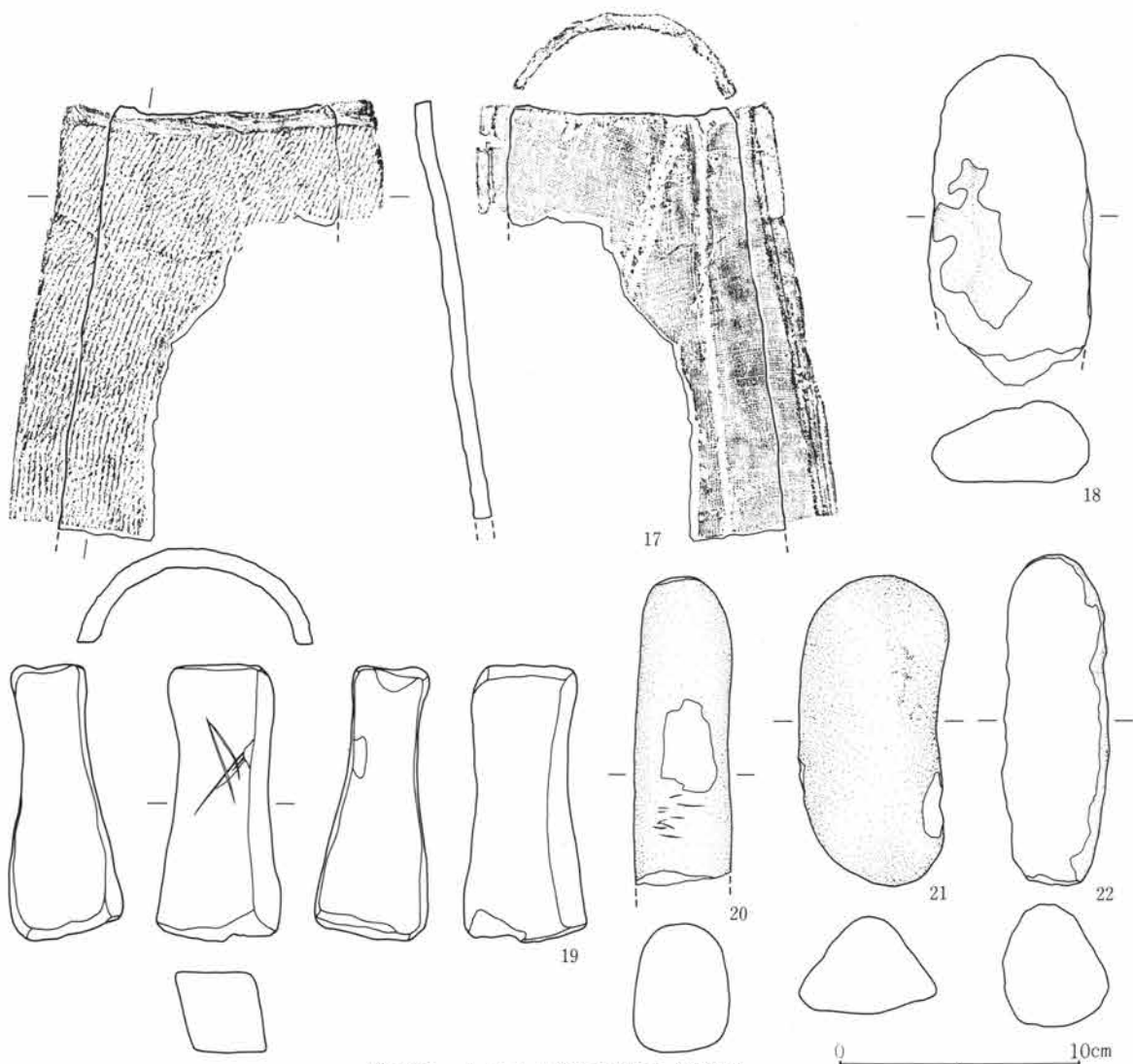
10



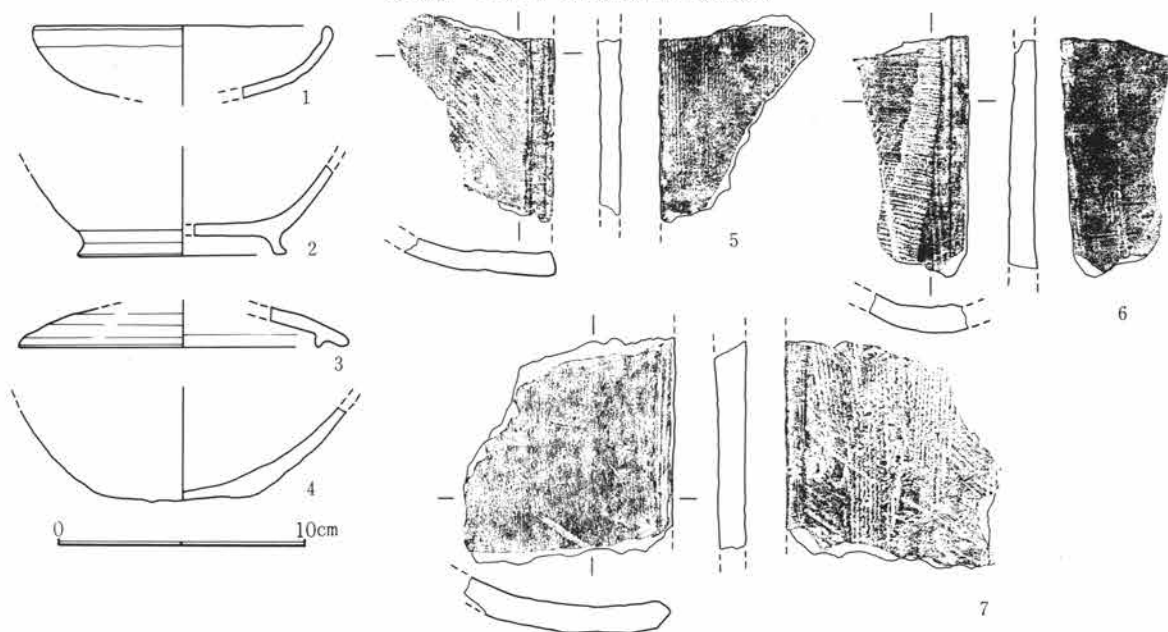
第40図 A区9号住居跡出土遺物(2)



第41図 A区9号住居跡出土遺物(3)

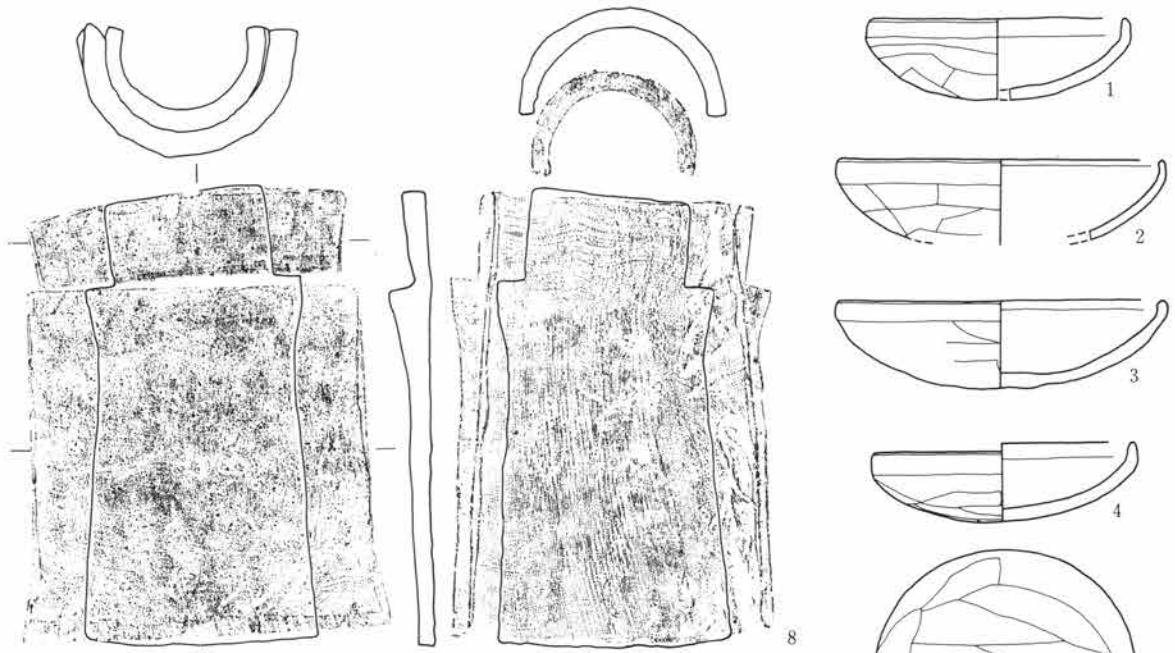


第42図 A区9号住居跡出土遺物(4)

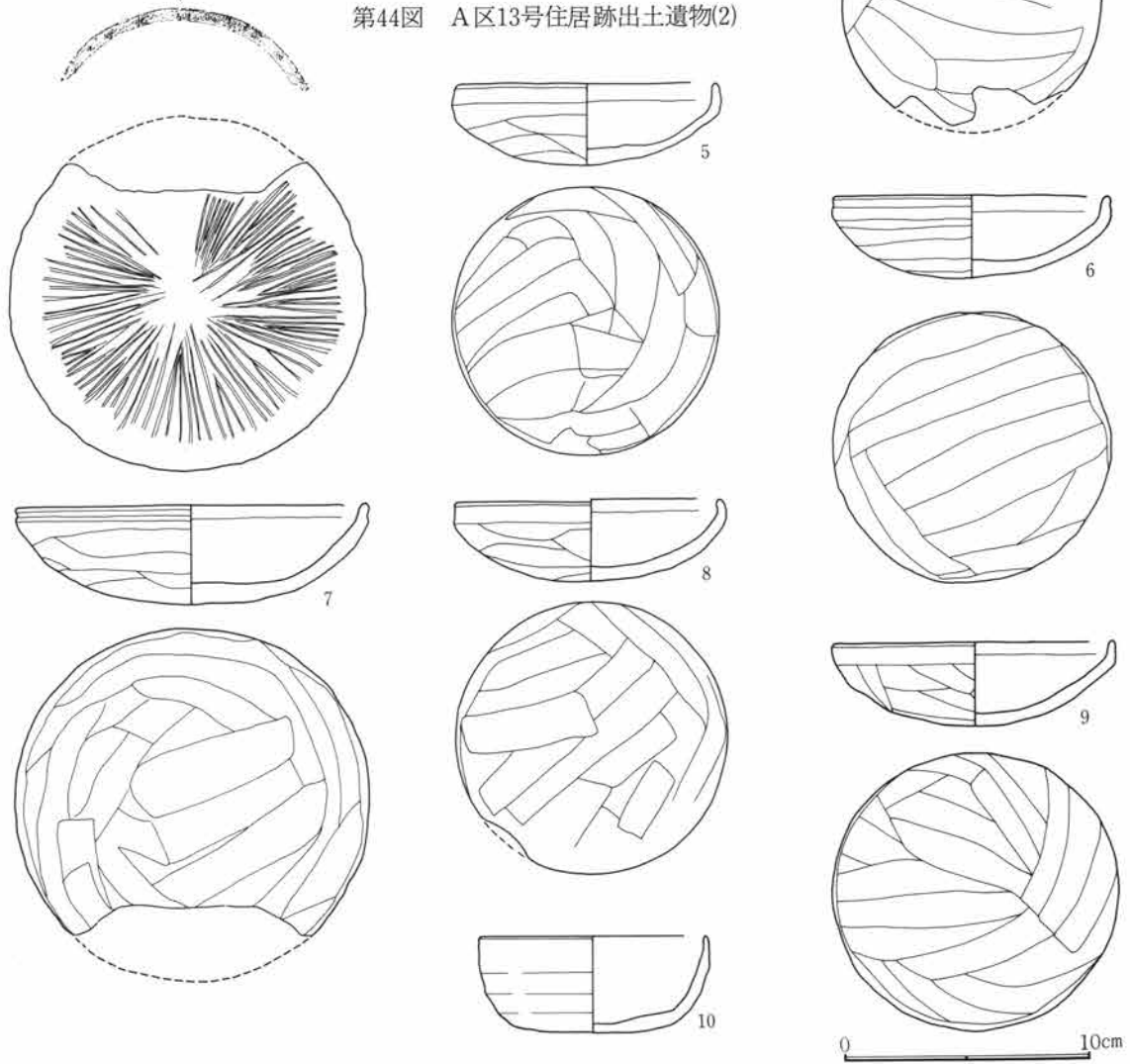


第43図 A区13号住居跡出土遺物(1)

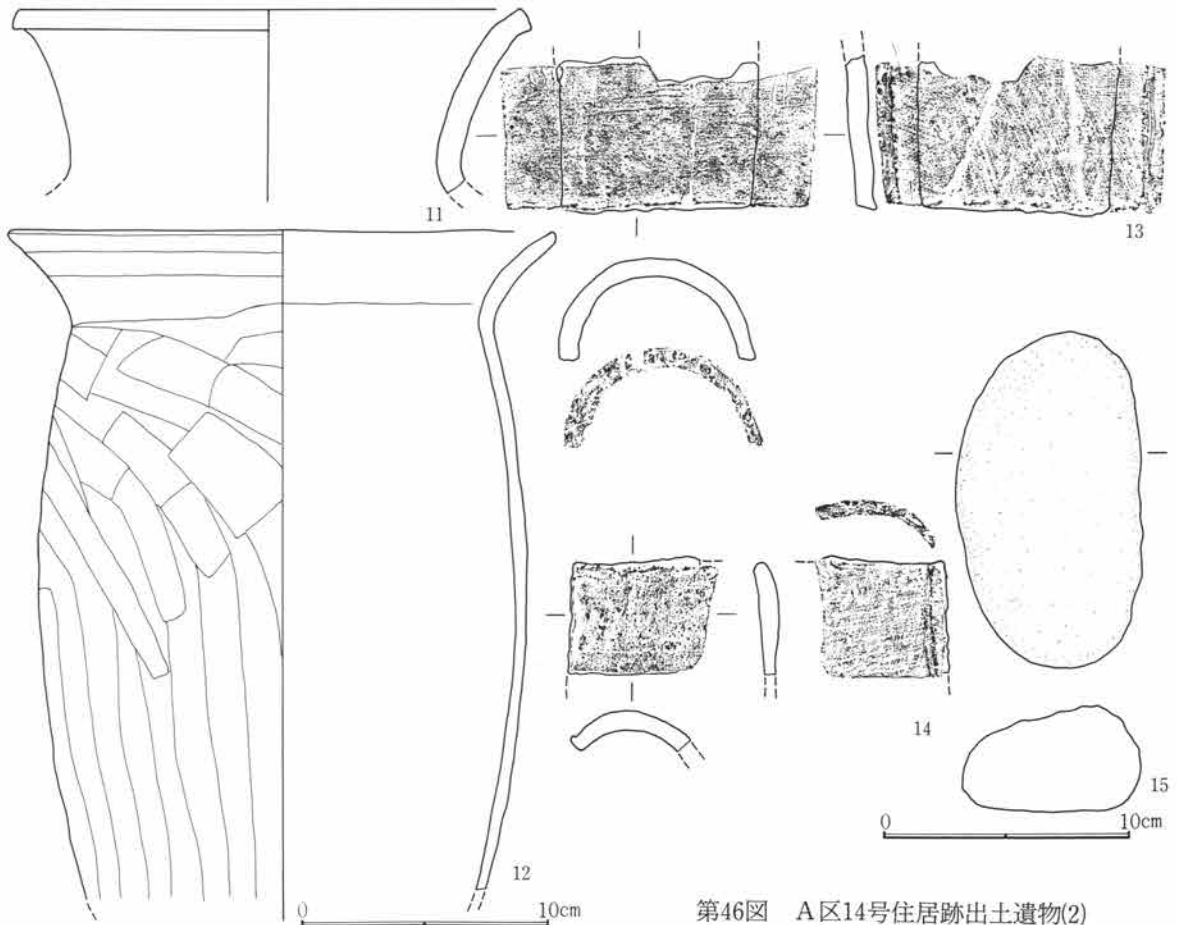
第1節 竖穴住居跡



第44图 A区13号住居跡出土遺物(2)



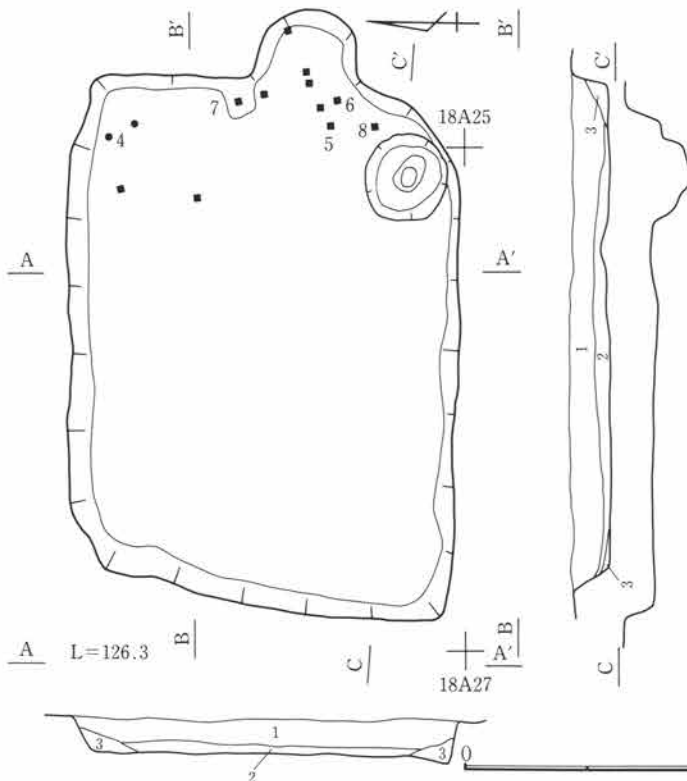
第45图 A区14号住居跡出土遺物(1)



第46図 A区14号住居跡出土遺物(2)

A区11号住居跡 (第47・48・49図、第3・58・173図版)

A区南東部に位置し17~19A24~26の範囲にある。25号住居跡の北にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺4.2m、短辺3.1mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-93°-Eである。壁高は約30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・柱穴等の諸施設は検出されていない。南東部竈右側に貯蔵穴と思われる小穴が検出された。形状はほぼ円形を呈する。小穴の規模は径約70cm、深さ約30cmを測る。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃焼部幅1m、同長70cmを測る。

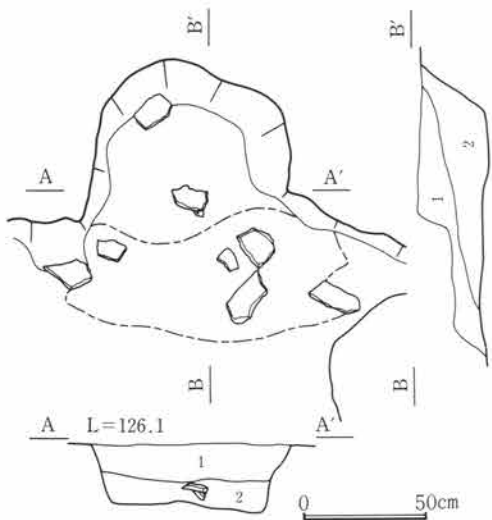


A区11号住居跡

- 1 暗褐色土層 C軽石を多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石を少量含む
- 3 暗褐色土層 C軽石を微量に含む

第47図 A区11号住居跡

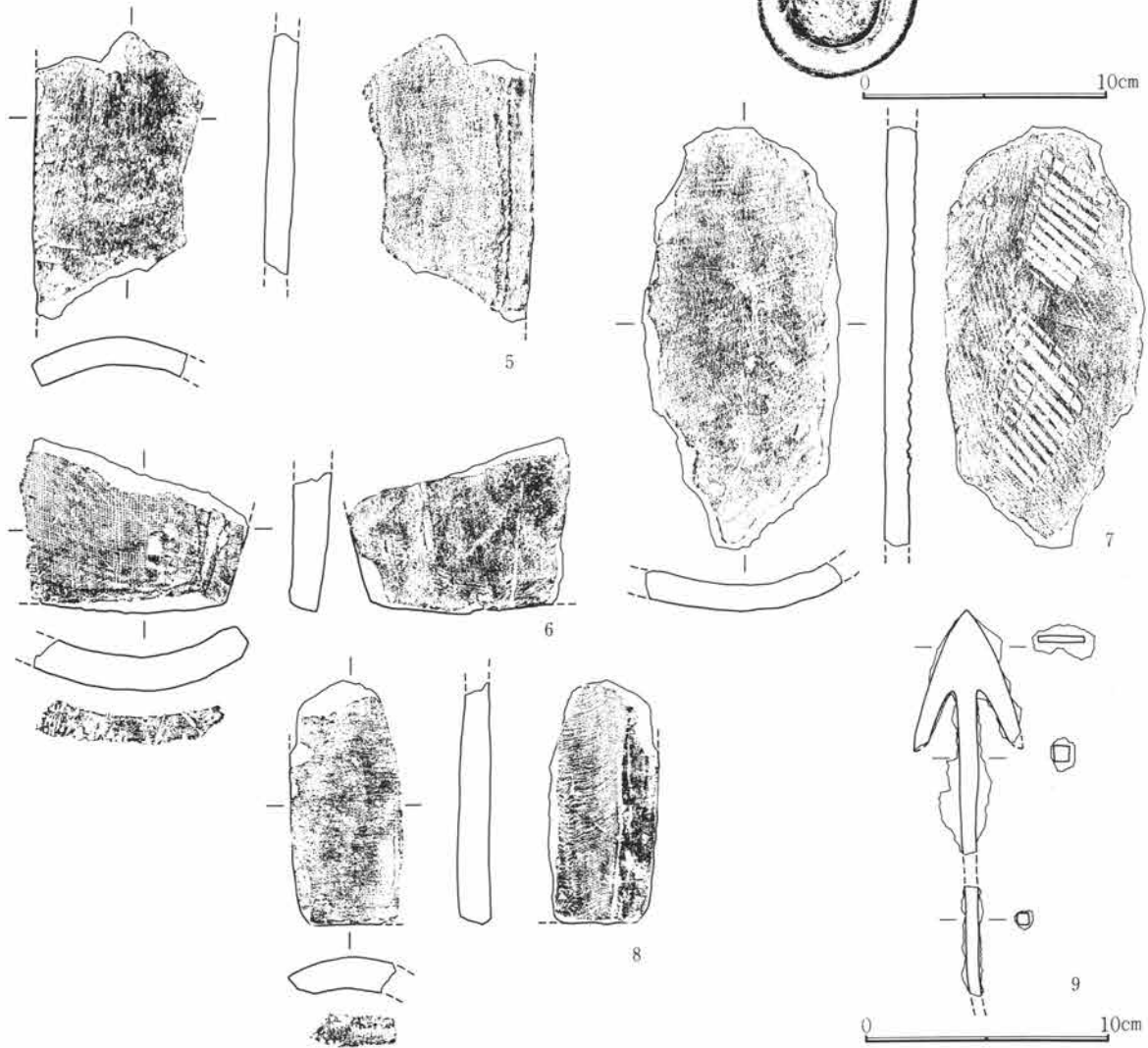
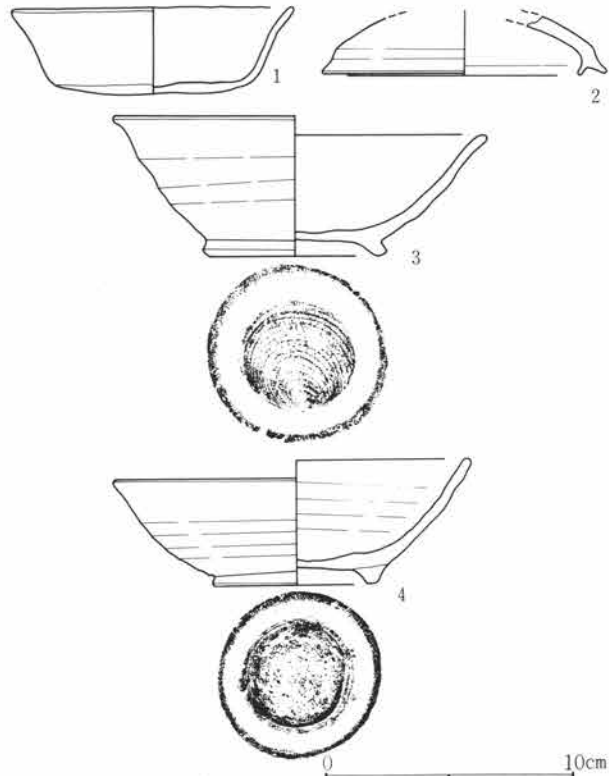
第1節 竪穴住居跡



A区11号住居跡竈

- 1 黒褐色土層 C 軽石細粒含む
- 2 黒褐色土層 C 軽石、焼土粒を含む

第48図 A区11号住居跡竈



第49図 A区11号住居跡出土遺物

第4章 検出された遺構・遺物

A区15号住居跡（第50・51・52・54・55・56・57・58・59図、第4・5・59・60・61・62・63図版）

A区東部に位置し12・13A21・22の範囲にある。19号住居跡の南にある。他の遺構との関係は南部を16号住居跡、西側の一部を17号住居跡と重複している。新旧関係は16号住居跡・17号住居跡より新しい。また16号住居跡と17号住居跡との関係は16号住居跡が新しい。規模は長辺3.1m、短辺2.9mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-95°-Eである。壁高は北壁で約30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・柱穴等の諸施設は検出されていない。南東部竈右側より貯蔵穴と思われる小穴が検出された。形状は楕円形を呈し、規模は70cm×50cm、深さ約25cmを測る。竈は東壁やや南寄りに検出された。竈の検出された東壁部竈の南袖部で16号住居跡と重複している。規模は燃焼部幅60cm、同長50cmを測る。遺物の出土は竈に集中し燃焼部内からは瓦が多数検出された。

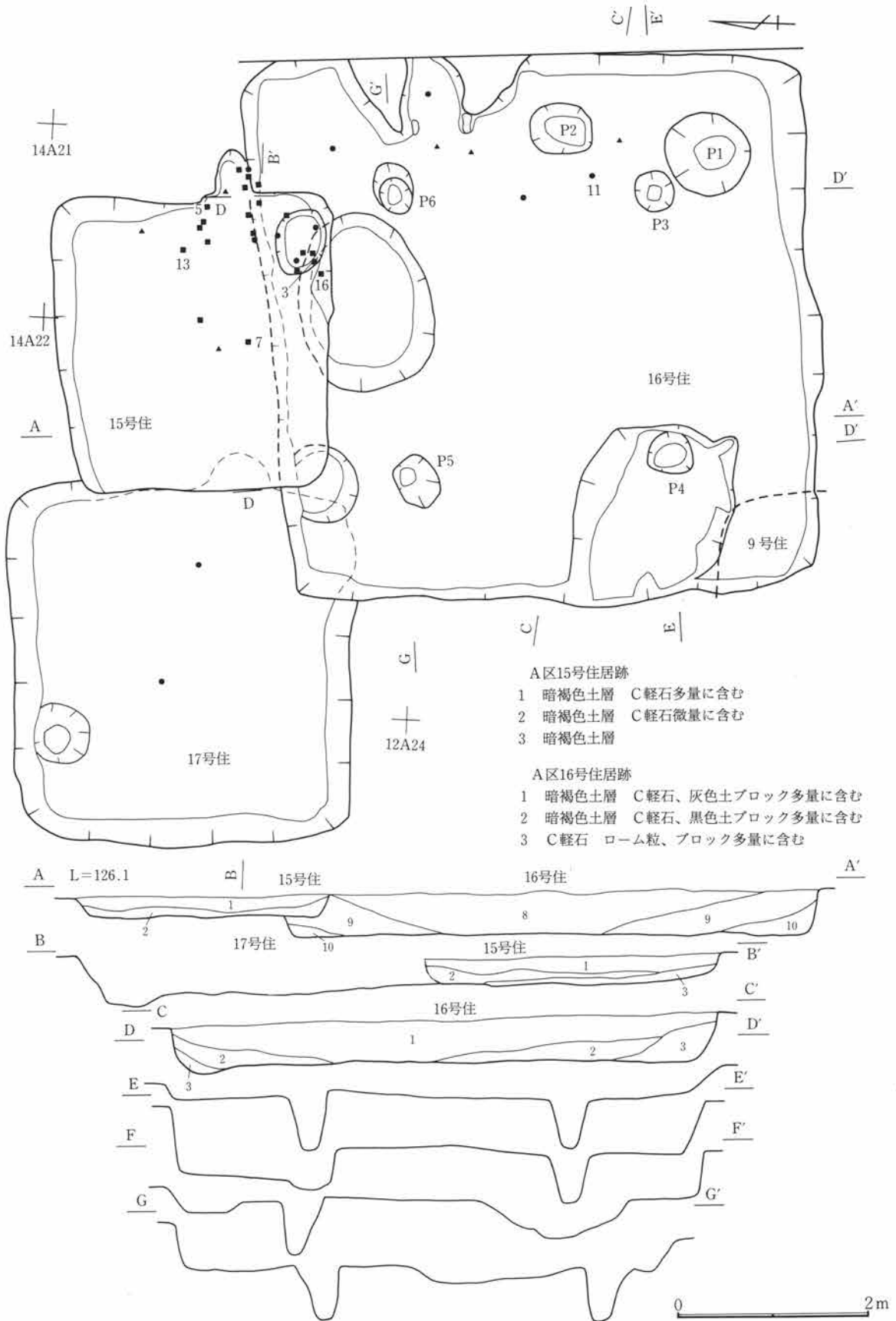
A区16号住居跡（第50・53・60・61図、第5・60・61図版）

A区東部に位置し9～13A20～23の範囲にある。住居跡東壁の一部と竈の先端部の一部は調査区域外に延びるため住居跡全体は完掘できなかつた。他の遺構との関係は南西部で9号住居跡、北部で15号住居跡、西北部で17号住居跡と重複している。新旧関係は17号住居跡より新しく、9号住居跡・15号住居跡より古い。規模は長辺5.9m、短辺5.7mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-85°-Eである。壁高は約40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝は検出されていない。南東部で貯蔵穴と思われる小穴が2基検出された。各々貯蔵穴1・2とした形状は2基ともほぼ円形を呈する。規模は1、径約80cm、深さ約50cmを測る。2、径約70cm、深さ約40cmを測る。また床面からは柱穴と思われる小穴が4基検出された。各々柱穴1～4とした。形状はほぼ円形を呈する。規模は1、径約45cm、深さ約50cm、2、径約45cm、深さ約10cm、3、55cm×45cm、深さ55cm、4、55cm×40cm、深さ約60cmを測る。柱穴と思われる小穴は4基とも床面から約40cm～60cm前後のレベルに統一される。2は周辺に落ち込みがあるため浅いが床面からの深さはほぼ均一な数値が得られる。また各々の間の長さは2.3m～2.9mの範囲にあり、4基の関係は直角状を示す。柱穴1は貯蔵穴1に隣接し、柱穴4は竈前面30cmと接している。このほかに北部、西北部、前述の柱穴2に重複して3カ所に落ち込みが確認された。各々の規模は柱穴2に重複するものは1.9m×1.6m、深さ約30cm、西北部では80cm×60cm、深さ約20cm、北部では1.8m×1.4m、深さ約15cmを測る。竈は東壁やや北寄りに検出された。残存状態は良好であるが前述のとおり竈先端部は調査区域外へ延びている。竈は両袖部が検出された。規模は袖幅60cm、燃焼部長残存部で70cmを測る。燃焼部中央には土師器の甕が逆さに立てられた状態で検出された。両袖部からは石が立った状態で検出された。また燃焼部前面には長方形の石が散布しこれら石は竈の構築材として使用された可能性が考えられる。

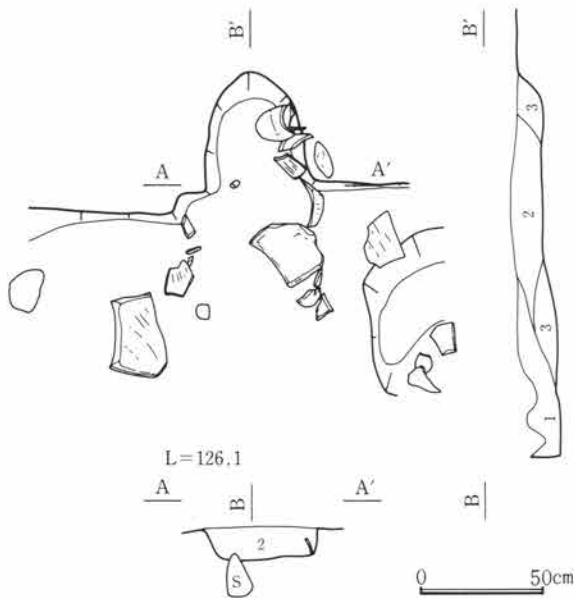
A区17号住居跡（第50・62・63図、第5・61・62図版）

A区東部に位置し12～14A22～24の範囲にある。9号住居跡の北にある。他の遺構との関係は東部で15号住居跡、南東部で16号住居跡と重複している。新旧関係は15号住居跡より旧く、16号住居跡より新しい。15号住居跡と16号住居跡の関係は15号住居跡が新しい。規模は一辺3.7mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-85°-Eである。壁高は約40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。北西部で北壁にかかり落ち込みが確認された。規模は径約55cm、深さ約10cmを測る。竈は検出されず、15号住居跡・16号住居跡により壊されているものと思われる。

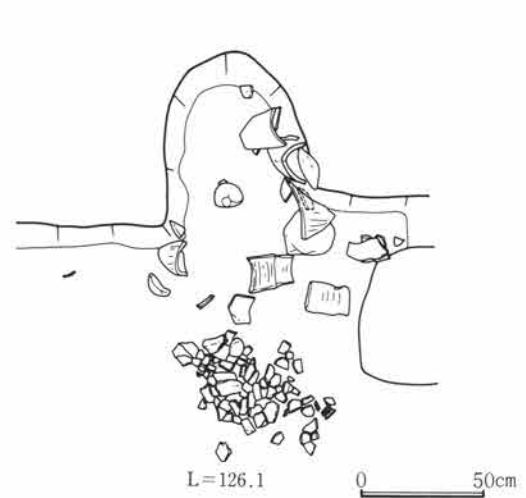
第1節 竪穴住居跡



第50図 A区15・16・17号住居跡



第51図 A区15号住居跡竈



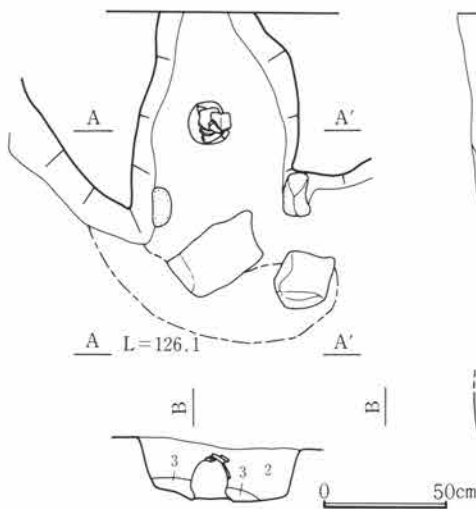
第52図 A区15号住居跡竈掘り方

A区15号住居跡竈

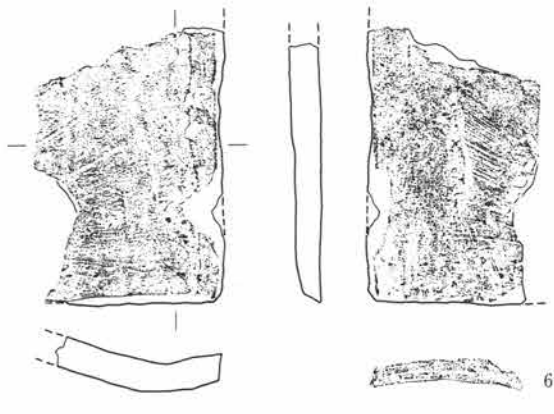
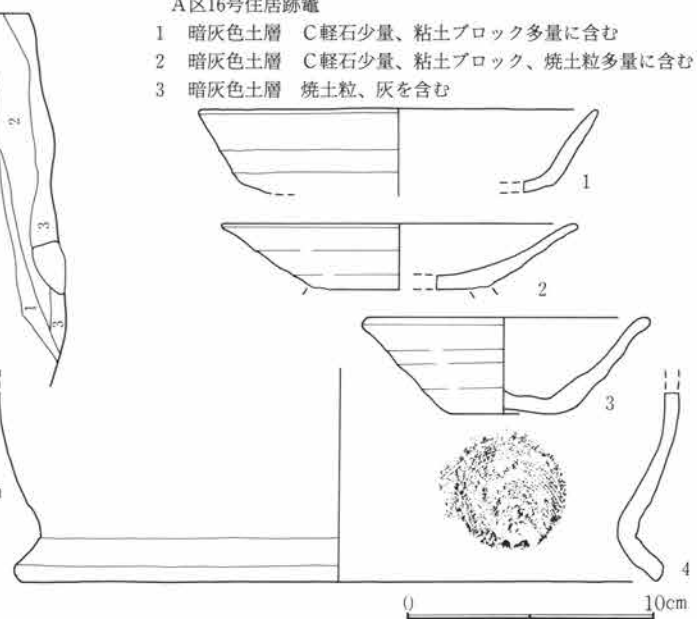
- 1 暗褐色土層 C軽石多量、ローム、焼土粒少量含む
- 2 暗褐色土層 C軽石少量、焼土粒多量に含む
- 3 暗褐色土層 C軽石、焼土粒少量含む

A区16号住居跡竈

- 1 暗灰色土層 C軽石少量、粘土ブロック多量に含む
- 2 暗灰色土層 C軽石少量、粘土ブロック、焼土粒多量に含む
- 3 暗灰色土層 焼土粒、灰を含む

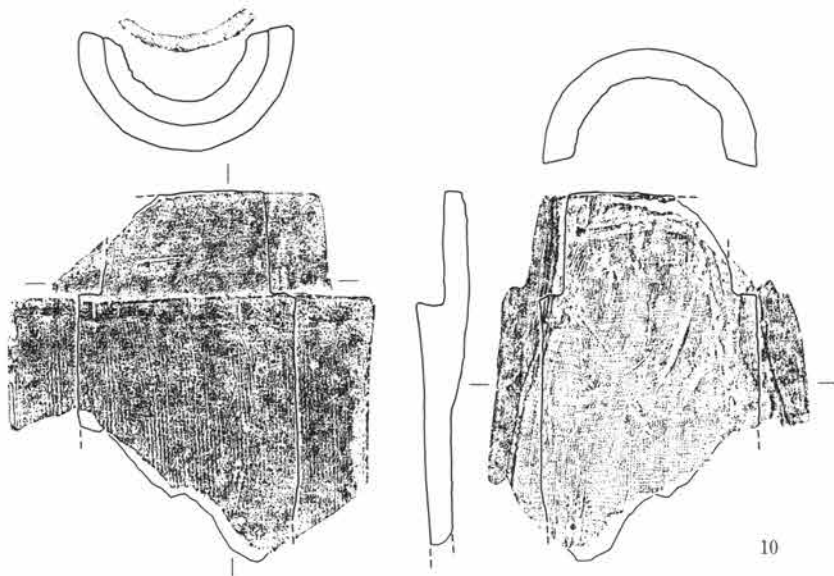
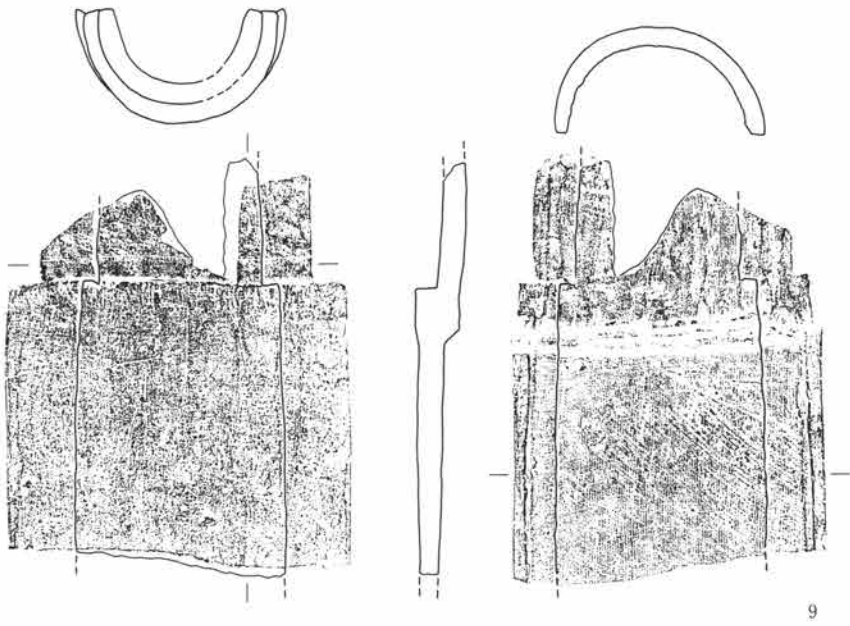
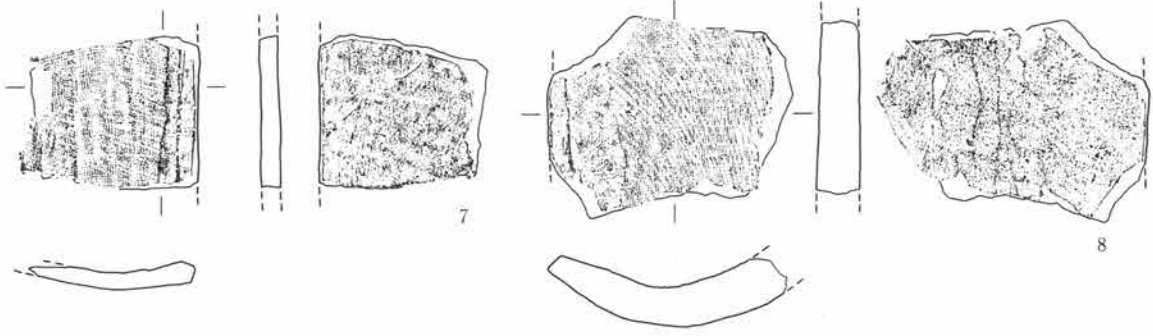


第53図 A区16号住居跡竈

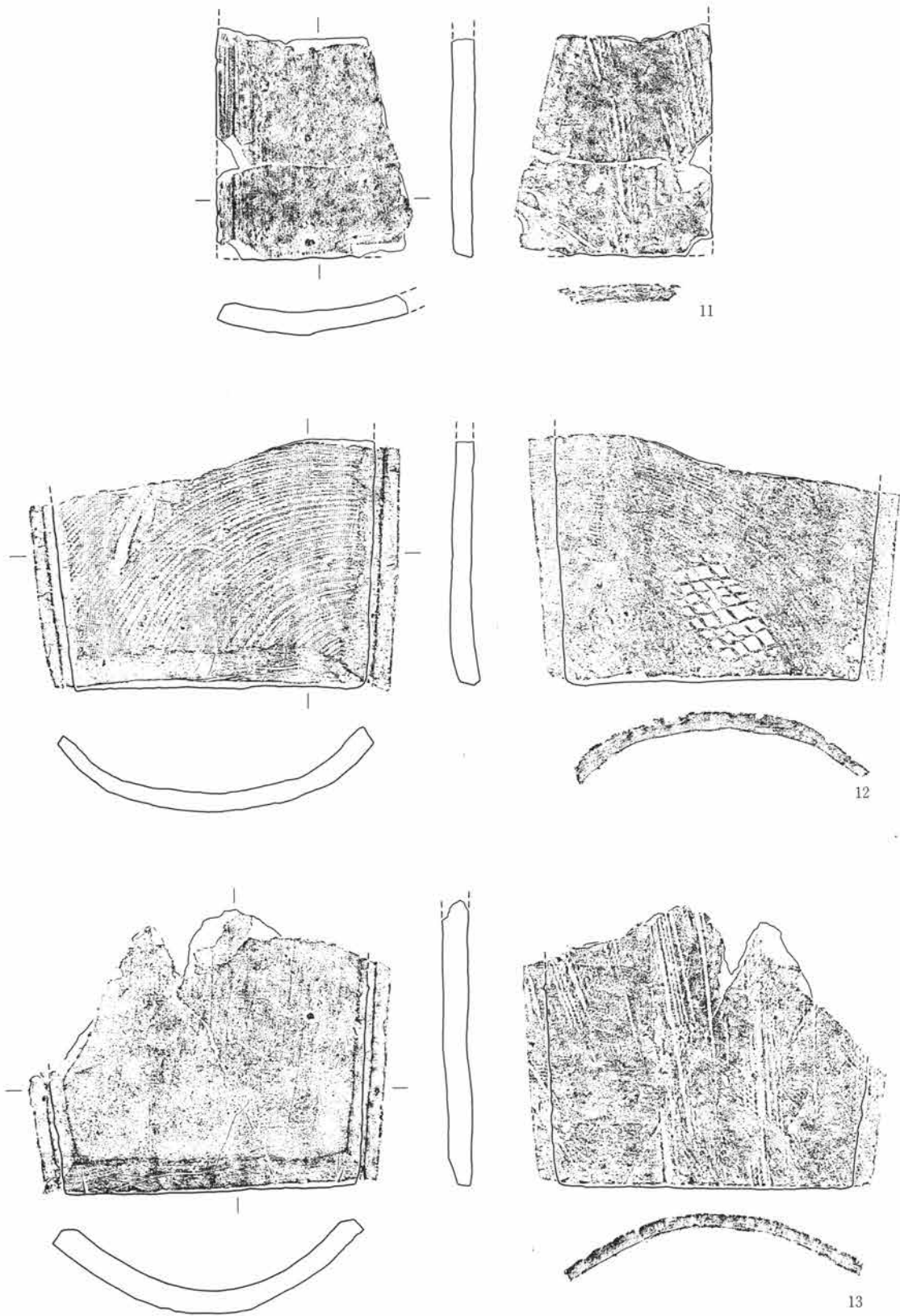


第54図 A区15号住居跡出土遺物(1)

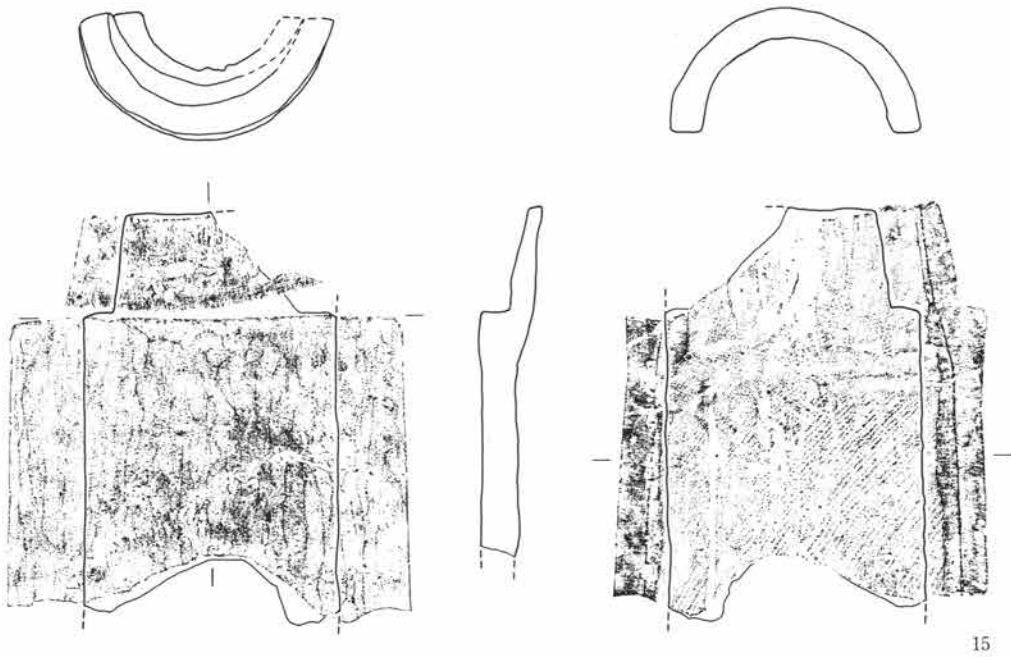
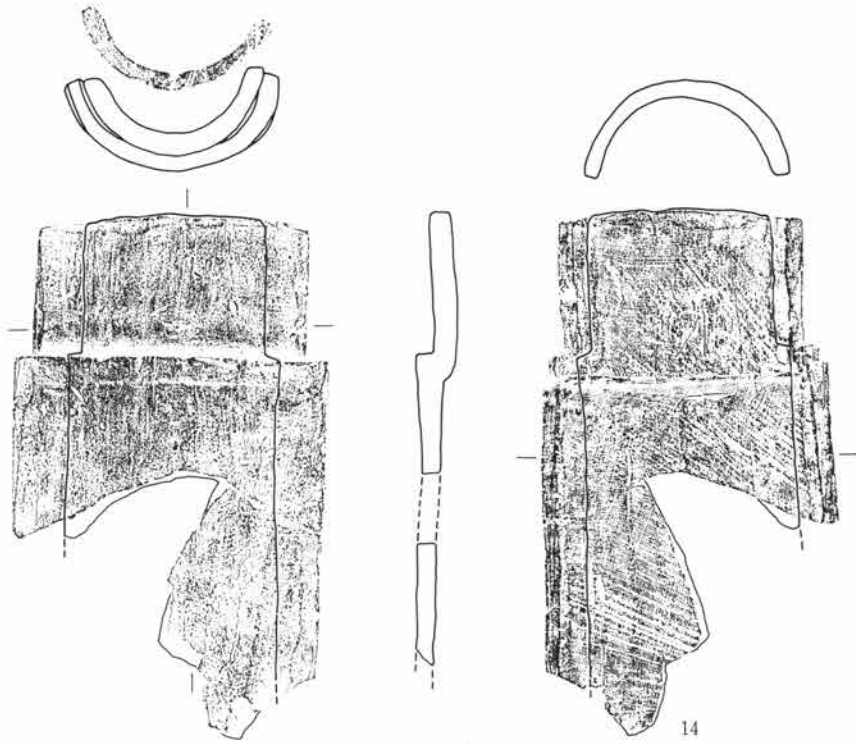
第1節 豎穴住居跡



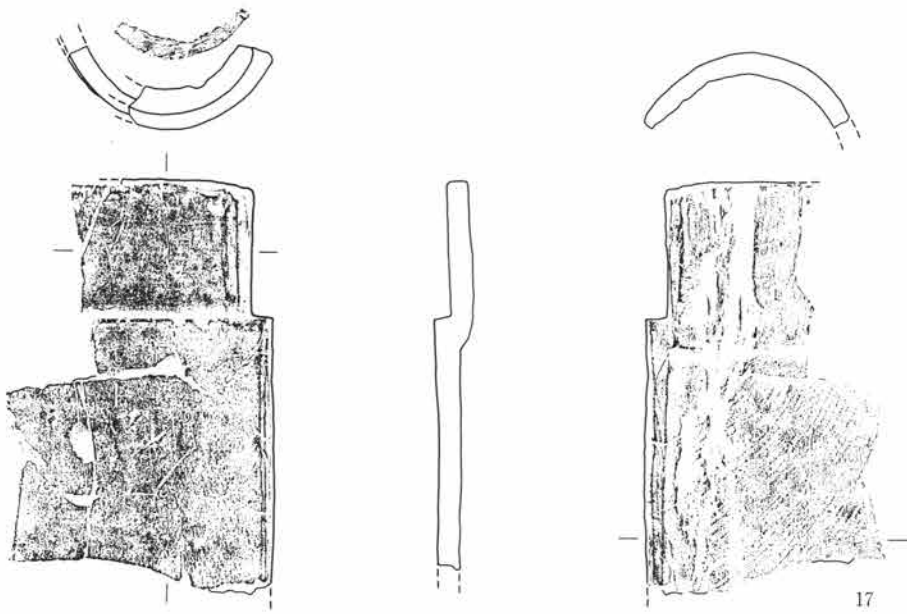
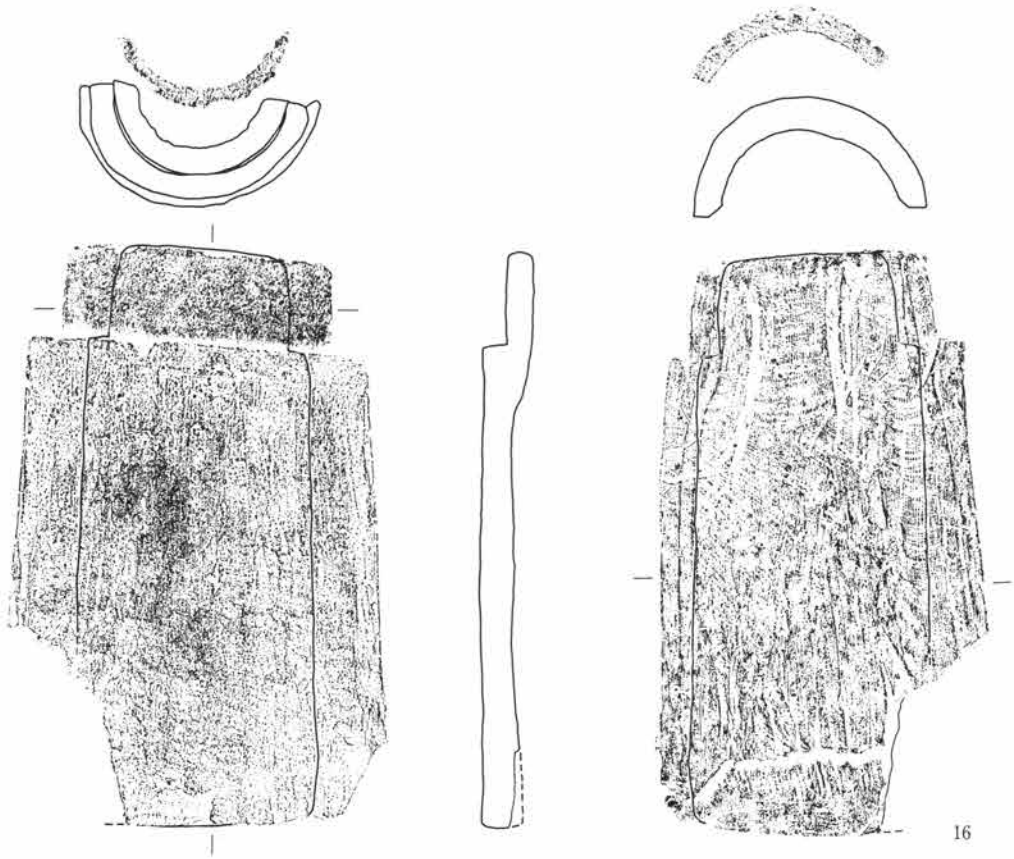
第55図 A区15号住居跡出土遺物(2)



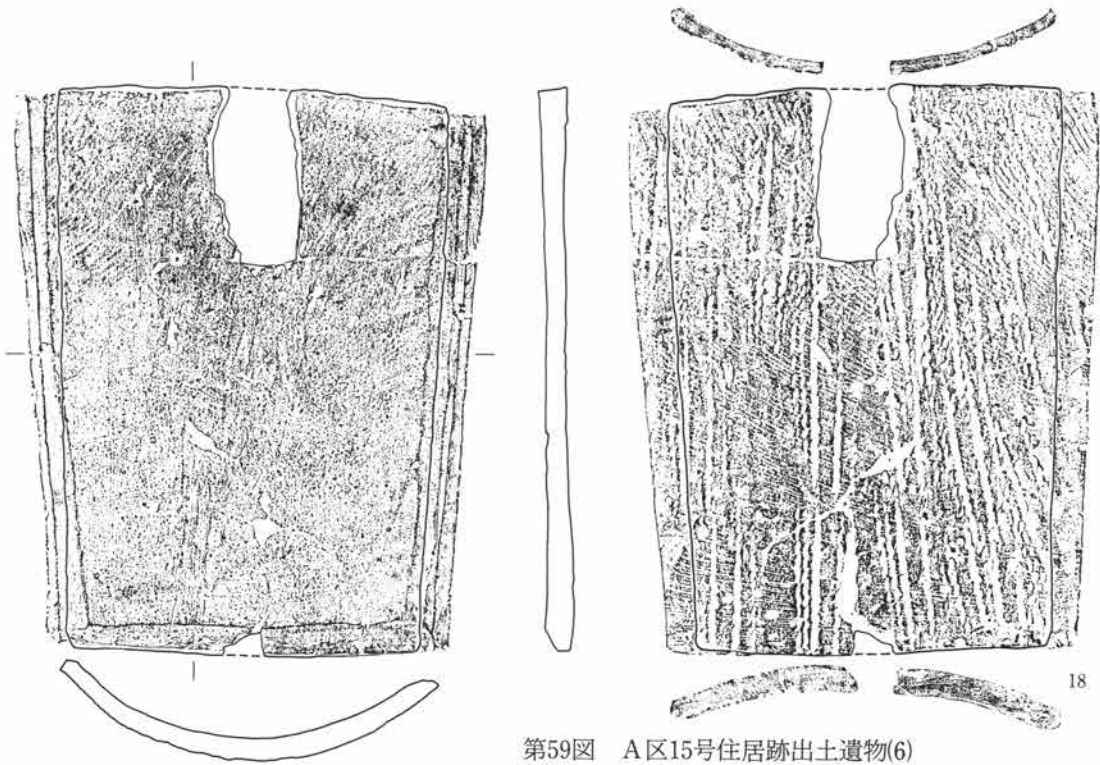
第56図 A区15号住居跡出土遺物(3)



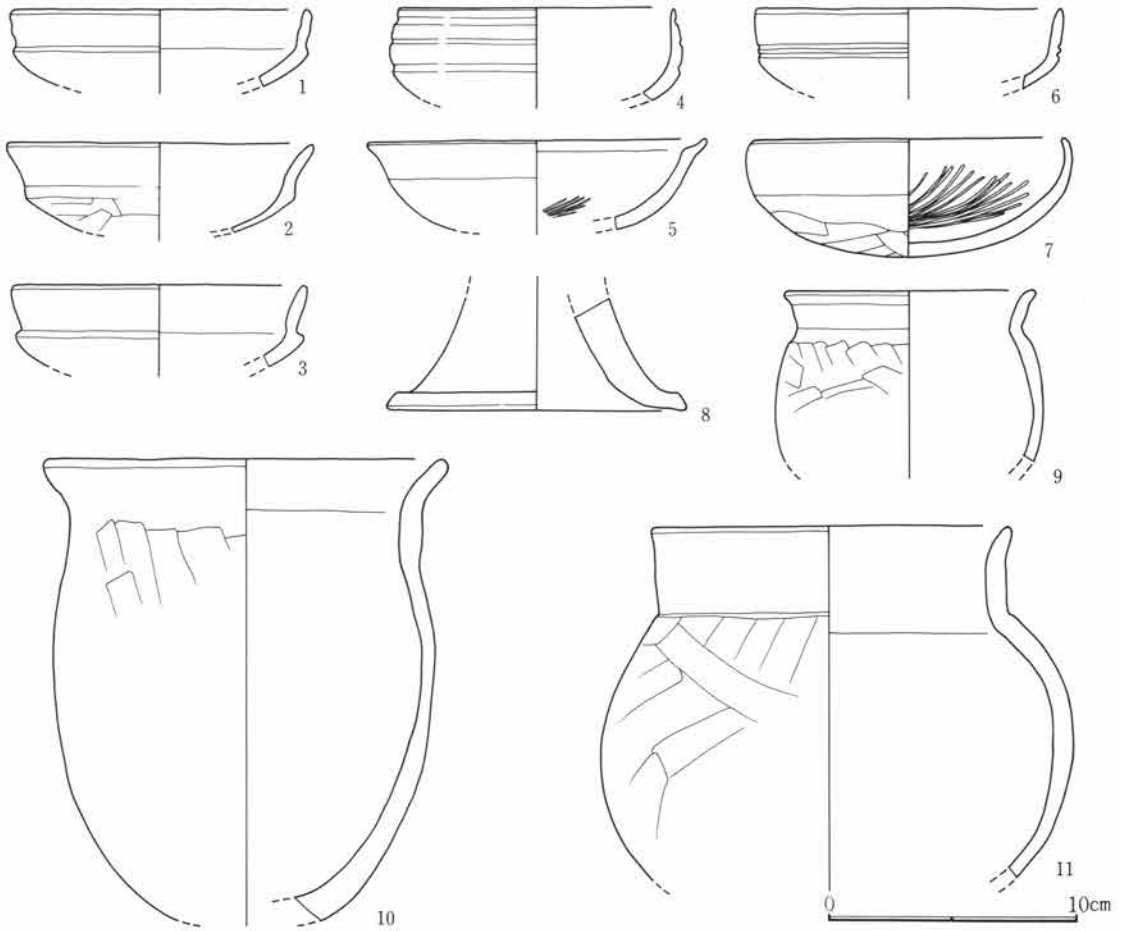
第57図 A区15号住居跡出土遺物(4)



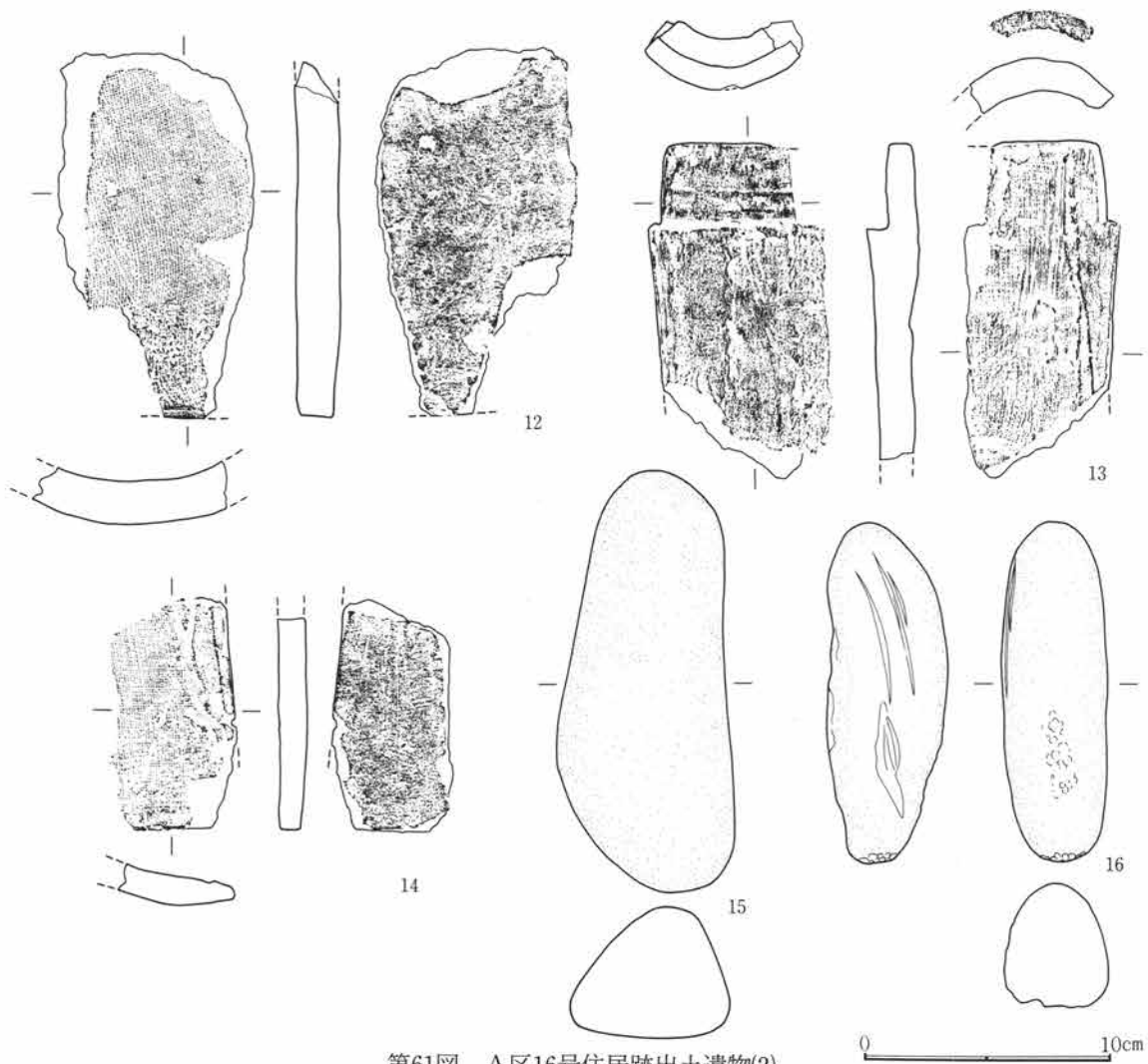
第58図 A区15号住居跡出土遺物(5)



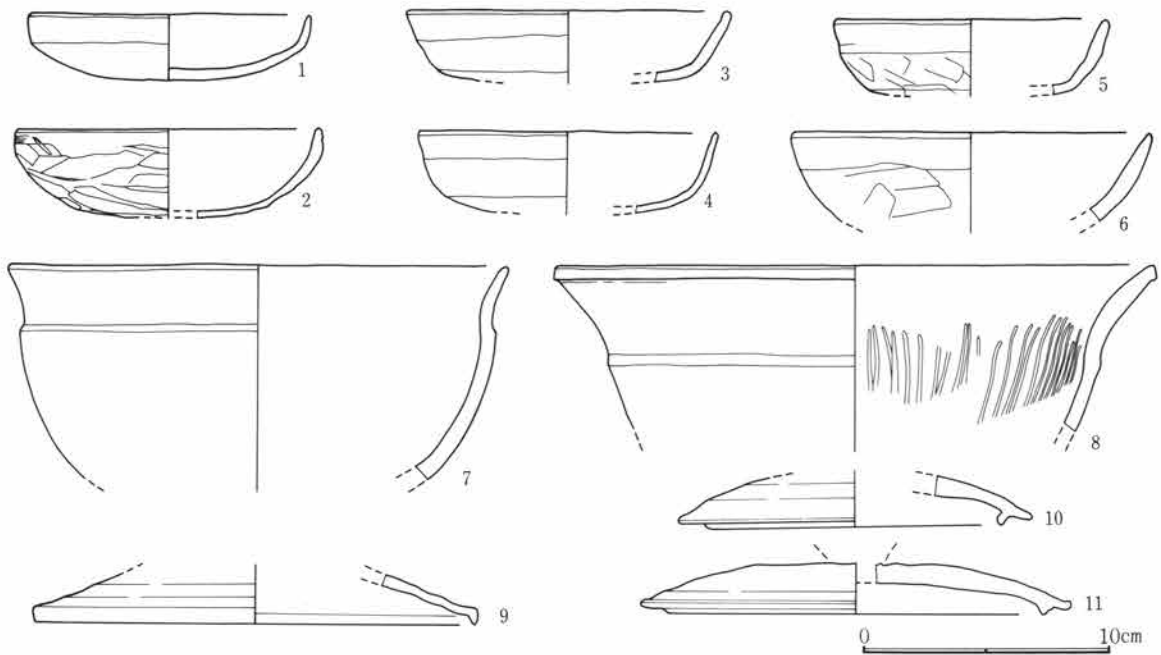
第59図 A区15号住居跡出土遺物(6)



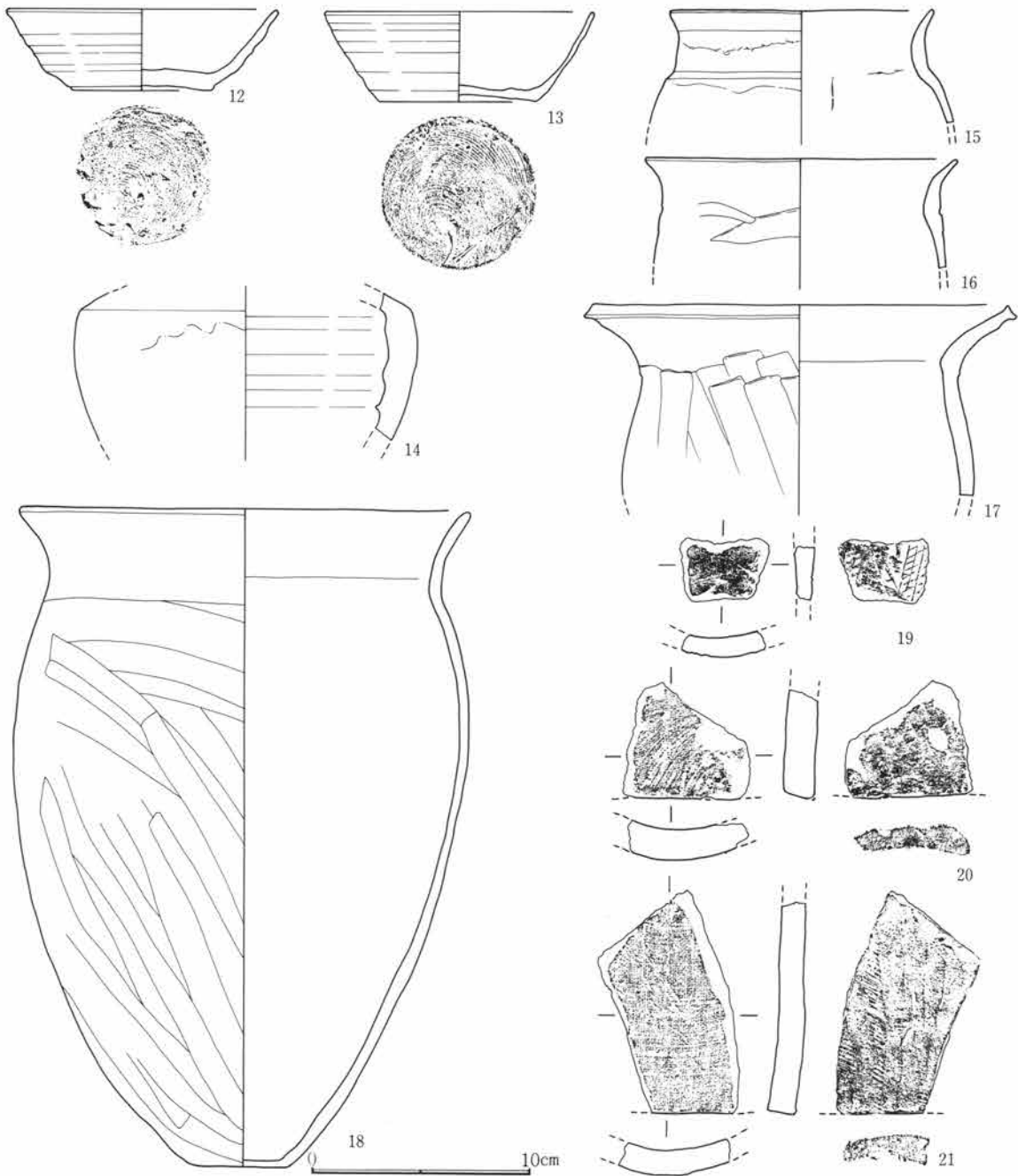
第60図 A区16号住居跡出土遺物(1)



第61図 A区16号住居跡出土遺物(2)



第62図 A区17号住居跡出土遺物(1)



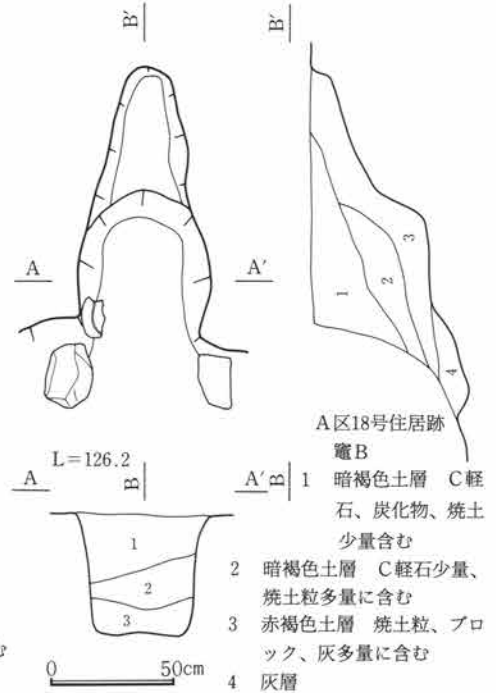
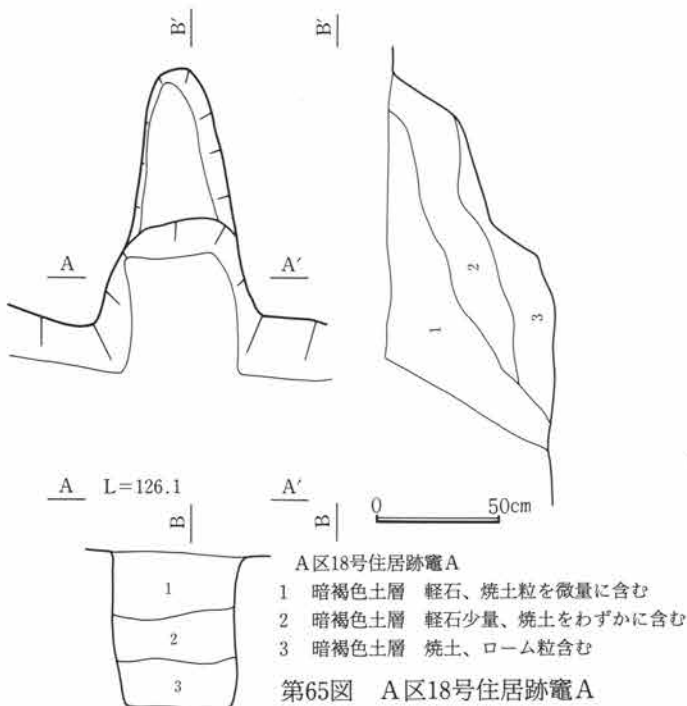
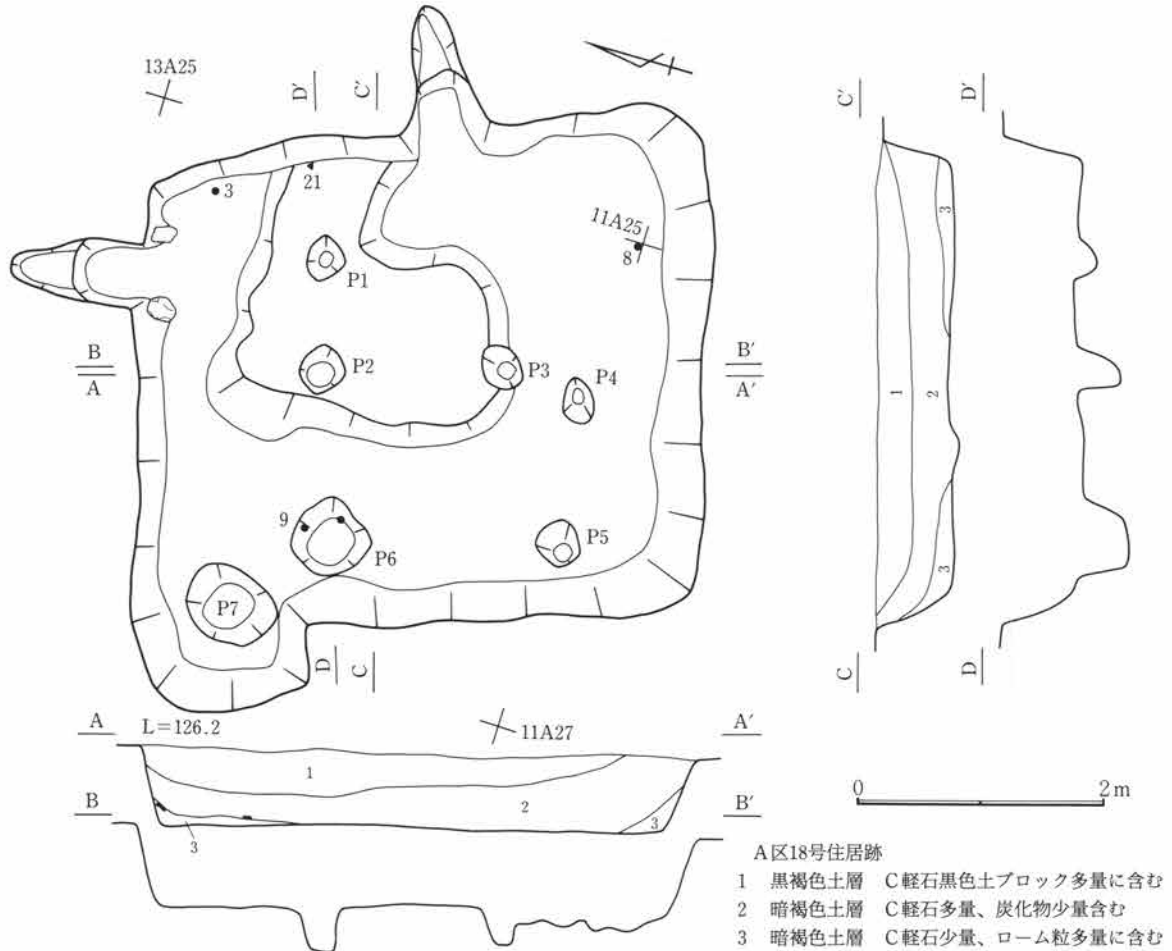
第63図 A区17号住居跡出土遺物(2)

A区18号住居跡 (第64・65・66・67図、第5・62・63・64図版)

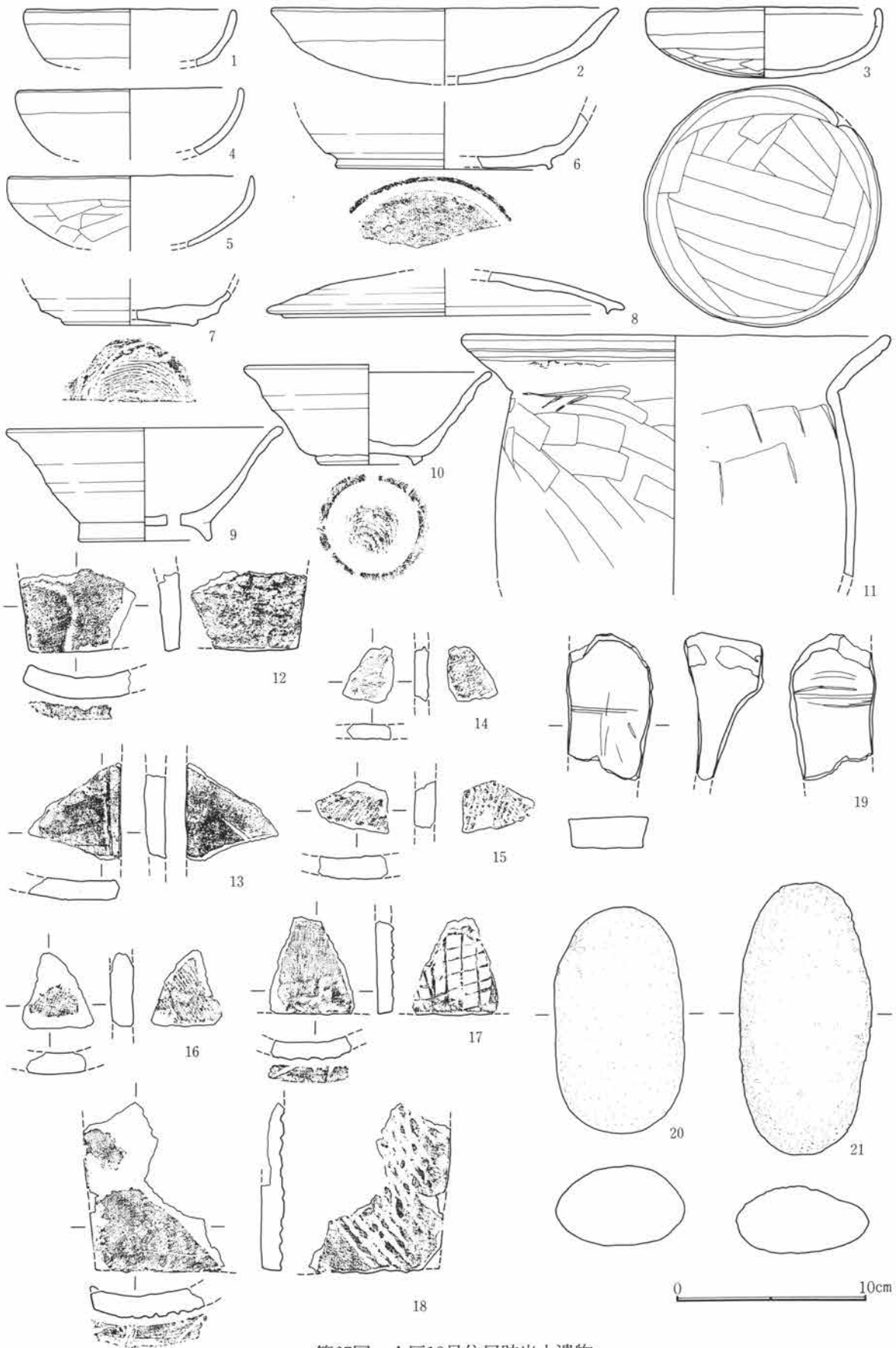
A区東部に位置し10~13A24~27の範囲にある。8号住居跡の北にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺5m、短辺4.5mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。西北部で西側に1.2m幅で約50cmの張り出しが認められた。主軸方位はN-68°-Eである。壁高は約60cm~70cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、東壁に一部接し2.7m×2.2mの範囲で数cm~約15cmの落ち込みが確認された。床面には7基の小穴が検出された。各々1~7とした。形状はほぼ円形を呈する。規模は1、径約35cm、深さ約15cm、2、径約40cm、深さ約40cm、3、径約40cm、深さ約30cm、4、径約35cm、深さ約10cm、5、径約35cm、深さ約10cm、6、径約60cm、深さ約30cm、7、約70cm×55cm、深さ約7cmを測る。7は北東部張り出しにある。竈は東壁・北壁に各々1基が検出された。東壁竈をA、北壁竈をBとした。竈Aは東壁やや南寄りに検出された。規模は燃烧部幅60cm、

第4章 検出された遺構・遺物

同長60cm、煙道部長50cmを測る。竈Bは北壁東寄りコーナーに近い部分に検出された。規模は袖幅60cm、燃燒部長70cm、煙道部長50cmを測る。また竈B両袖部には石が検出され、竈構築材の一部と思われる。



第1節 竖穴住居跡

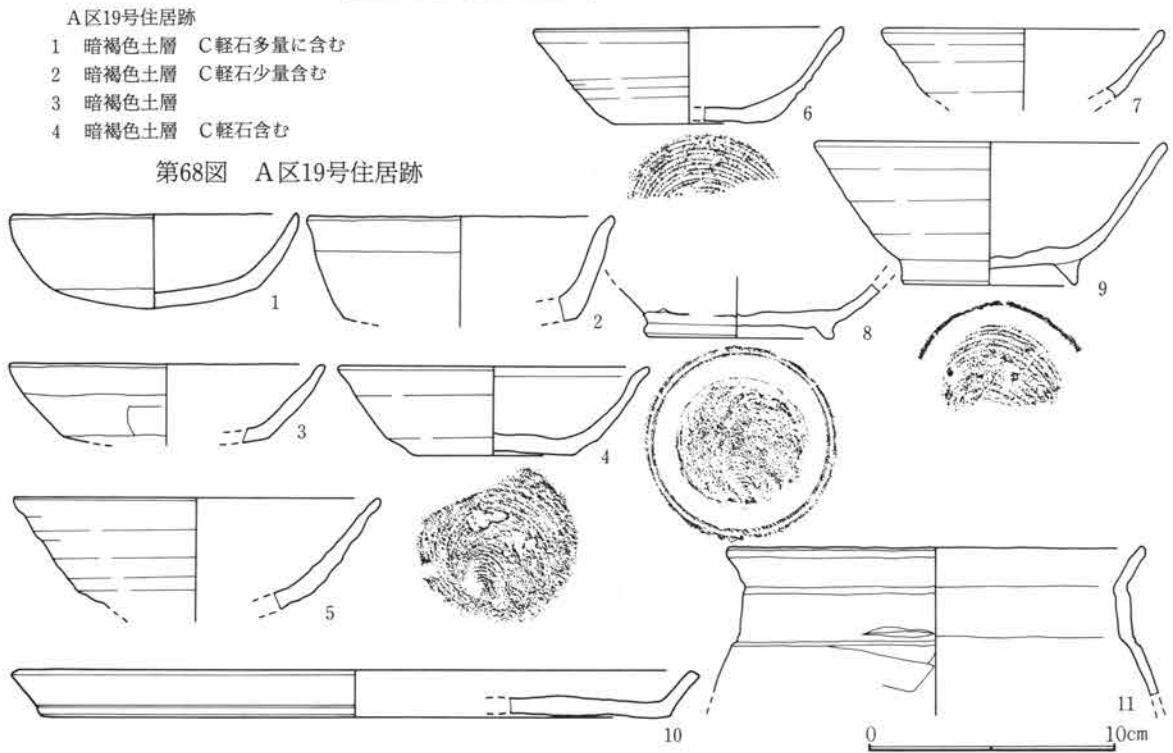
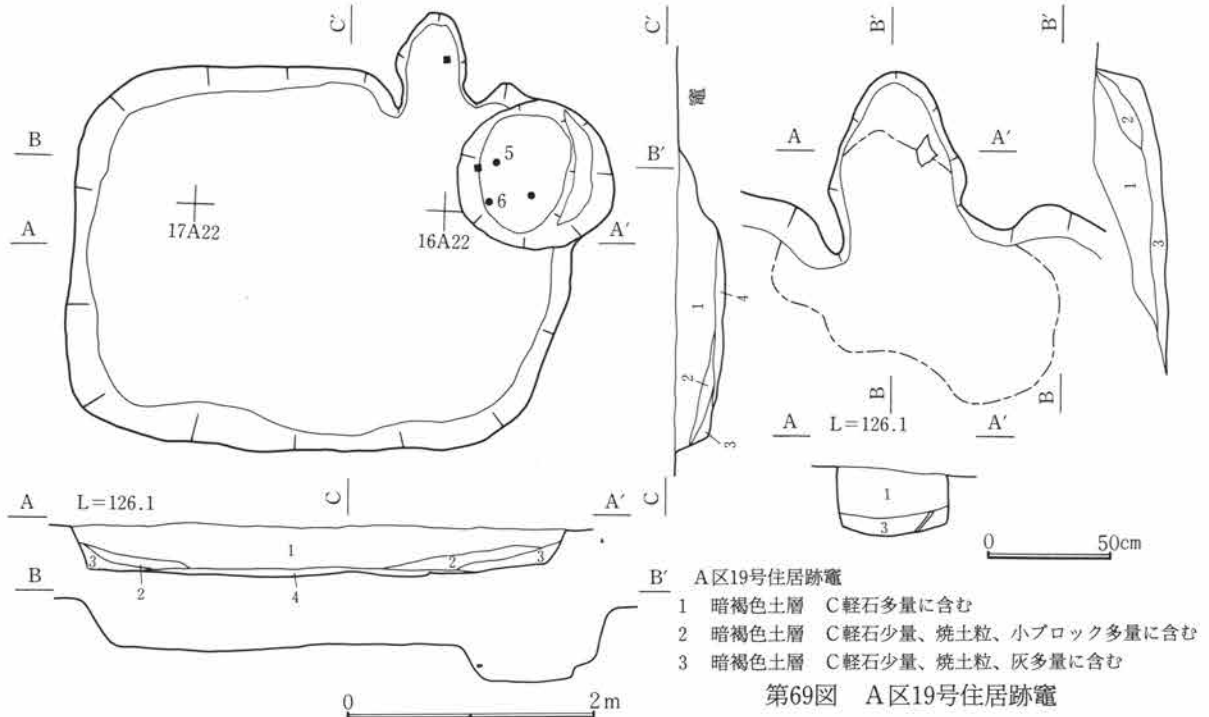


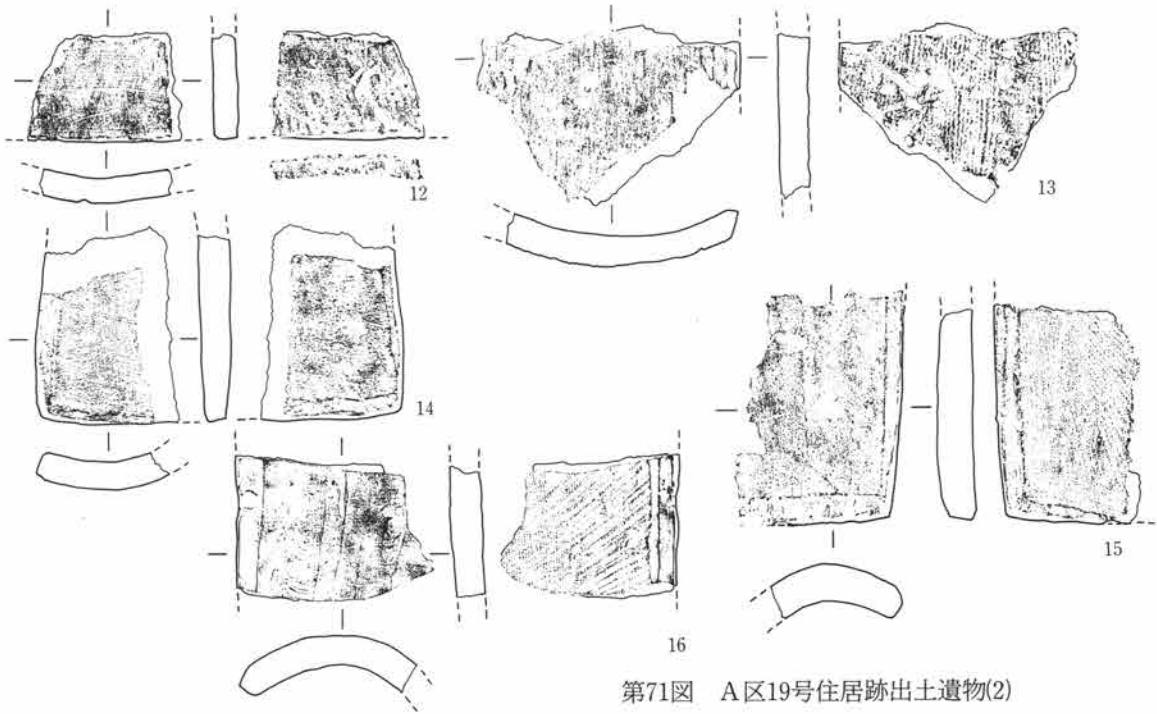
第67图 A区18号住居跡出土遺物

第4章 検出された遺構・遺物

A区19号住居跡 (第68・69・70・71図、第6・64図版)

A区東部に位置し15~17A21・22の範囲にある。15号住居跡の北にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺4.3m、短辺3.1mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-93°-Eである。壁高は約40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。南東コーナーに貯蔵穴と思われる小穴が検出された。形状はほぼ円形を呈し規模は径約1.2m、深さ約30cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。形状は燃燒部幅に対しやや袖部がすぼまる。規模は袖幅60cm、燃燒部長70cmを測る。

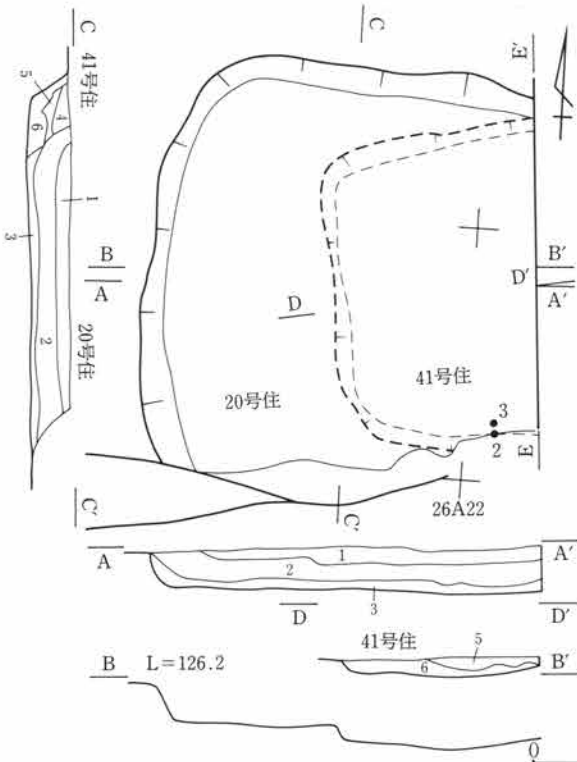




第71図 A区19号住居跡出土遺物(2)

A区20号住居跡 (第72・73図、第6・64・65)

A区北東部に位置し25～27A21～23の範囲にある。19号住居跡の北にある。他の遺構との関係は南側を中世のA-1溝に切り崩されている。20号住居跡内に41号住居跡が重複している。新旧関係は20号住居跡が新しい。また東側は調査区域外へ延びるため完掘されていない。規模は北壁残存部で約2.6m、西壁残存部で約3.3mを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は検出されていないが調査区域を区切る断面内に竈の構築材と思われる石が認められた。



第72図 A区20号住居跡

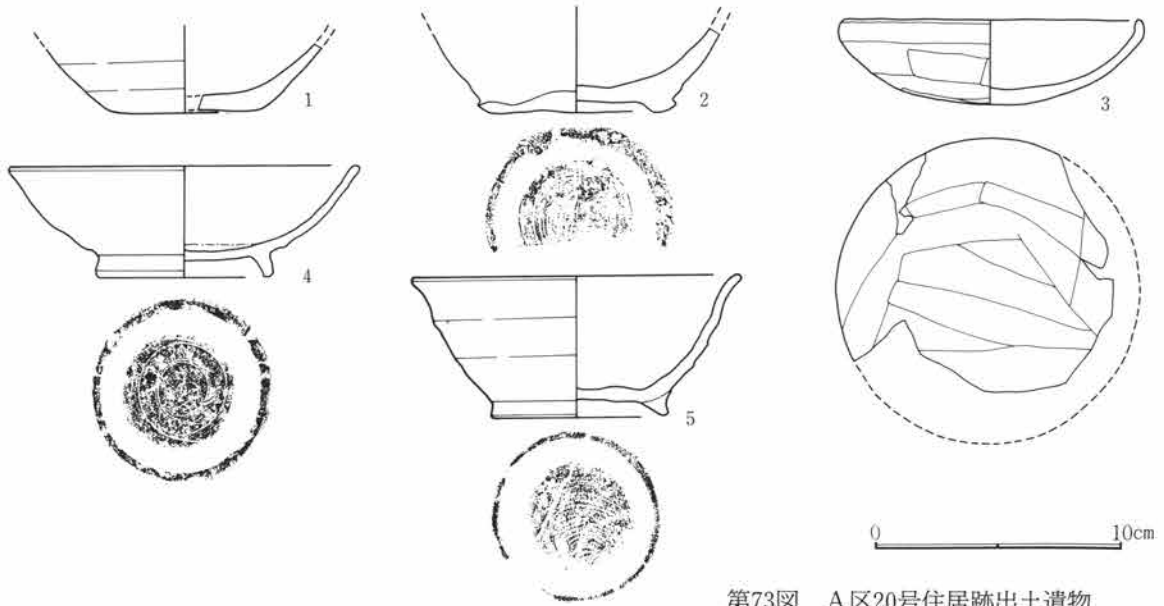
A区41号住居跡 (第72図、第7図版)

A区北東部に位置し26・27A21・22の範囲にある。他の遺構との関係は41号住居跡は20号住居跡内に重複している。新旧関係は41号住居跡が古い。また南東部を中世のA-1溝により切り崩されている。床面は20号住居跡の床面より約10cm低く確認された。規模は残存部で北壁約1.8m、西壁約2.2mを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。

A区20・41号住居跡

- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石含む
- 3 暗褐色土層 C軽石少量含む
- 4 暗褐色土層 細軽石少量含む
- 5 暗褐色土層 ローム粒少量含む
- 6 暗褐色土層 ローム粒多量に含む

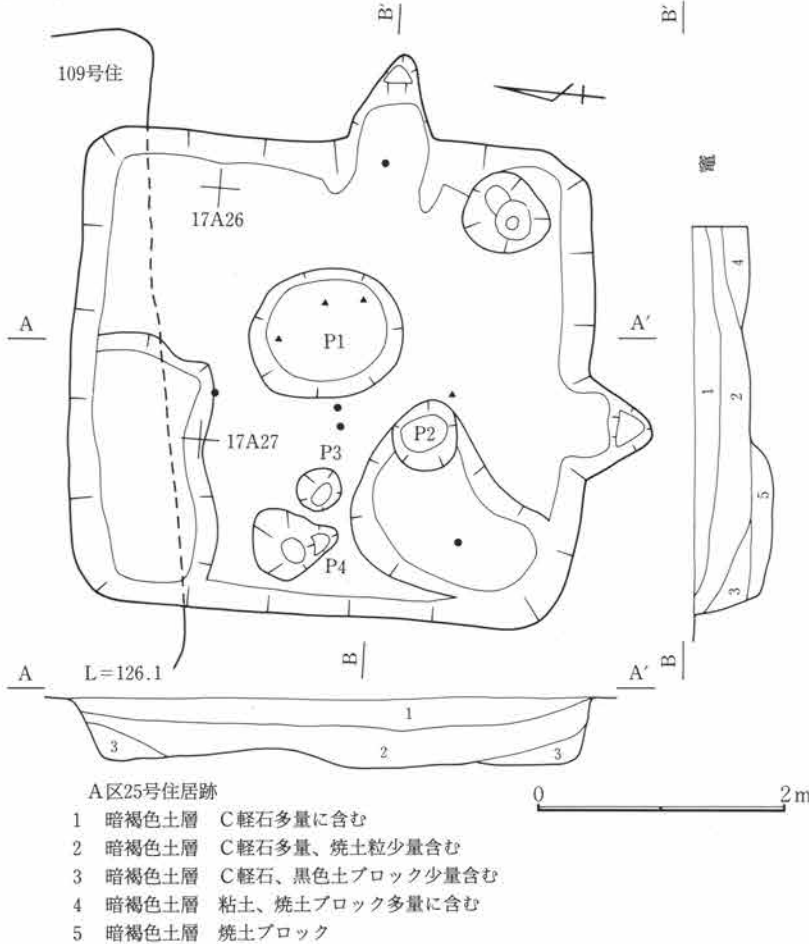
第4章 検出された遺構・遺物



第73図 A区20号住居跡出土遺物

A区25号住居跡 (第74・75・76・77・78図、第6・7・65・172・173図版)

A区南東部に位置し15~17A25~27の範囲にある。17号住居跡の西北にある。他の遺構との関係は西部で109号住居跡・123号住居跡と重複している。新旧関係は25号住居跡が新しい。規模は長辺4.2m、短辺3.8mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-90°-Eである。壁高は約50cm~60cmを測る。床面はほ

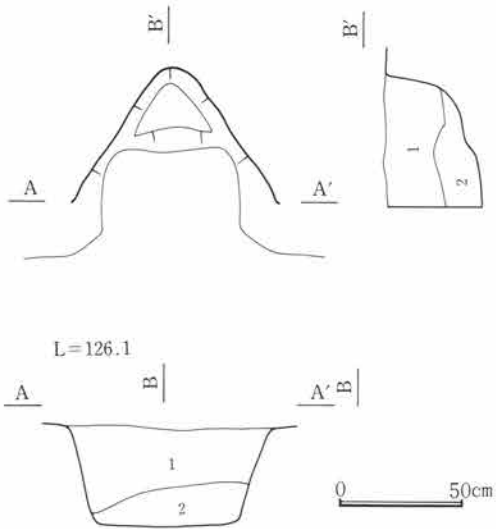


A区25号住居跡

- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石多量、焼土粒少量含む
- 3 暗褐色土層 C軽石、黒色土ブロック少量含む
- 4 暗褐色土層 粘土、焼土ブロック多量に含む
- 5 暗褐色土層 焼土ブロック

第74図 A区25号住居跡

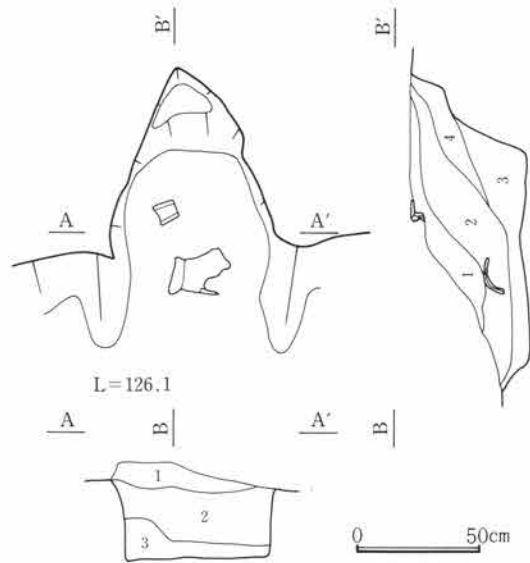
ぼ平坦をなし、壁周溝・柱穴等の諸施設は検出されていない。北東隅に貯蔵穴と思われる小穴が検出された。形状は楕円形を呈する。規模は径約70cm、深さ約30cmを測る。この他小穴が4基検出され、各々1~4とした。形状はすべて楕円形を呈する。規模は1、1.2m×1m、深さ約20cm、2、径約55cm、深さ約15cm、3、径約35cm、深さ約10cm、4、径約60cm、深さ約20cmを測る。竈は2基検出された。各々A・Bとした。竈Aは東壁やや南寄りに検出された。規模は燃烧部幅60cm、同長40cm、煙道部長35cmを測る。竈Bは北壁やや東寄りに検出された。左右の袖部は床面に張り出している。規模は袖幅70cm、燃烧部長80cm、煙道部長40cmを測る。



A区25号住居跡竈A

- 1 暗褐色土層 C軽石多量、焼土粒微量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石少量、焼土ブロック多量、炭化物少量含む

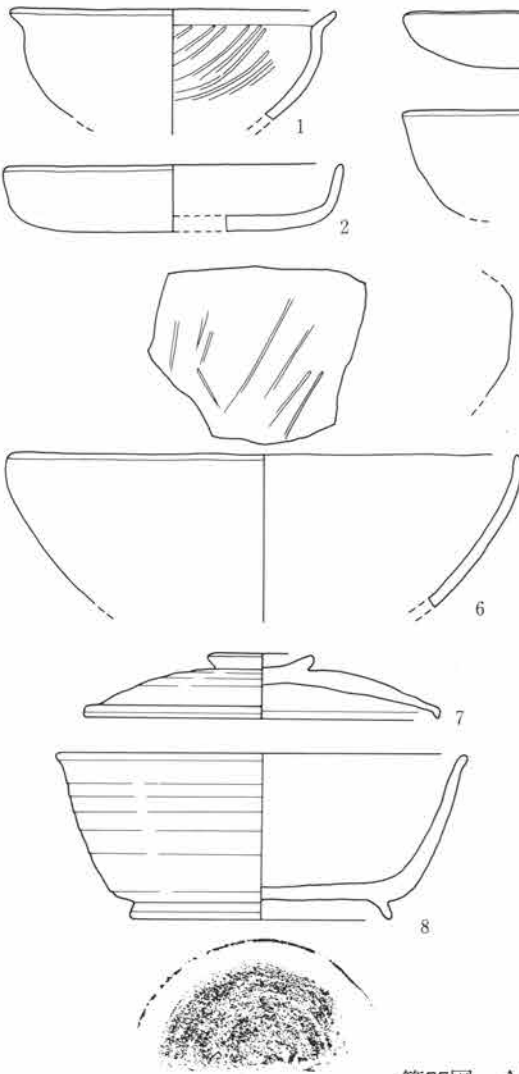
第75図 A区25号住居跡竈A



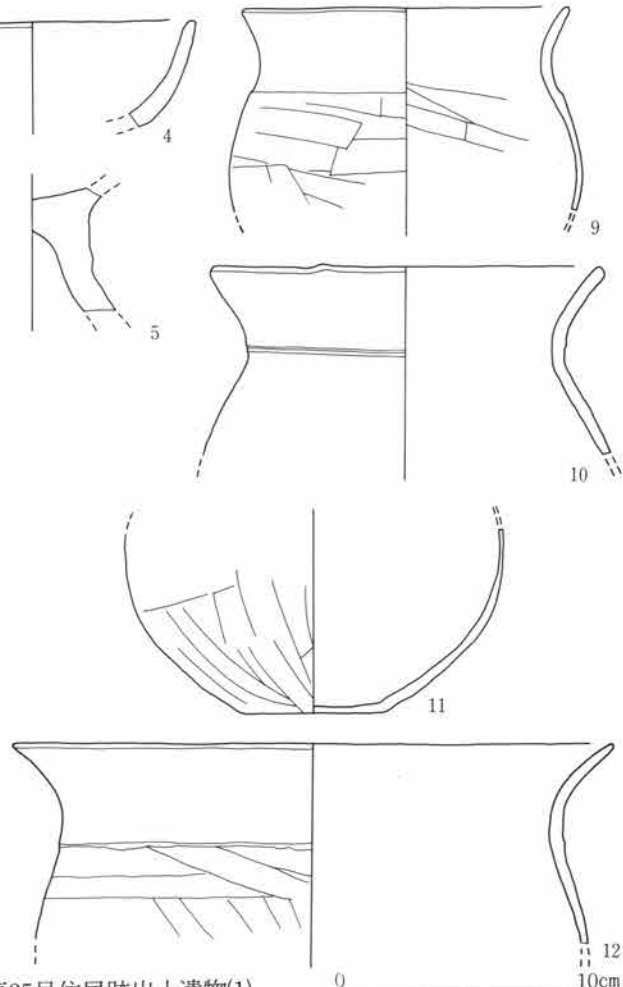
A区25号住居跡竈B

- 1 暗褐色土層 C軽石、焼土粒少量含む
- 2 暗褐色土層 焼土粒、灰多量に含む
- 3 暗褐色土層 焼土粒、灰含む
- 4 暗褐色土層 灰少量、焼土粒多量に含む

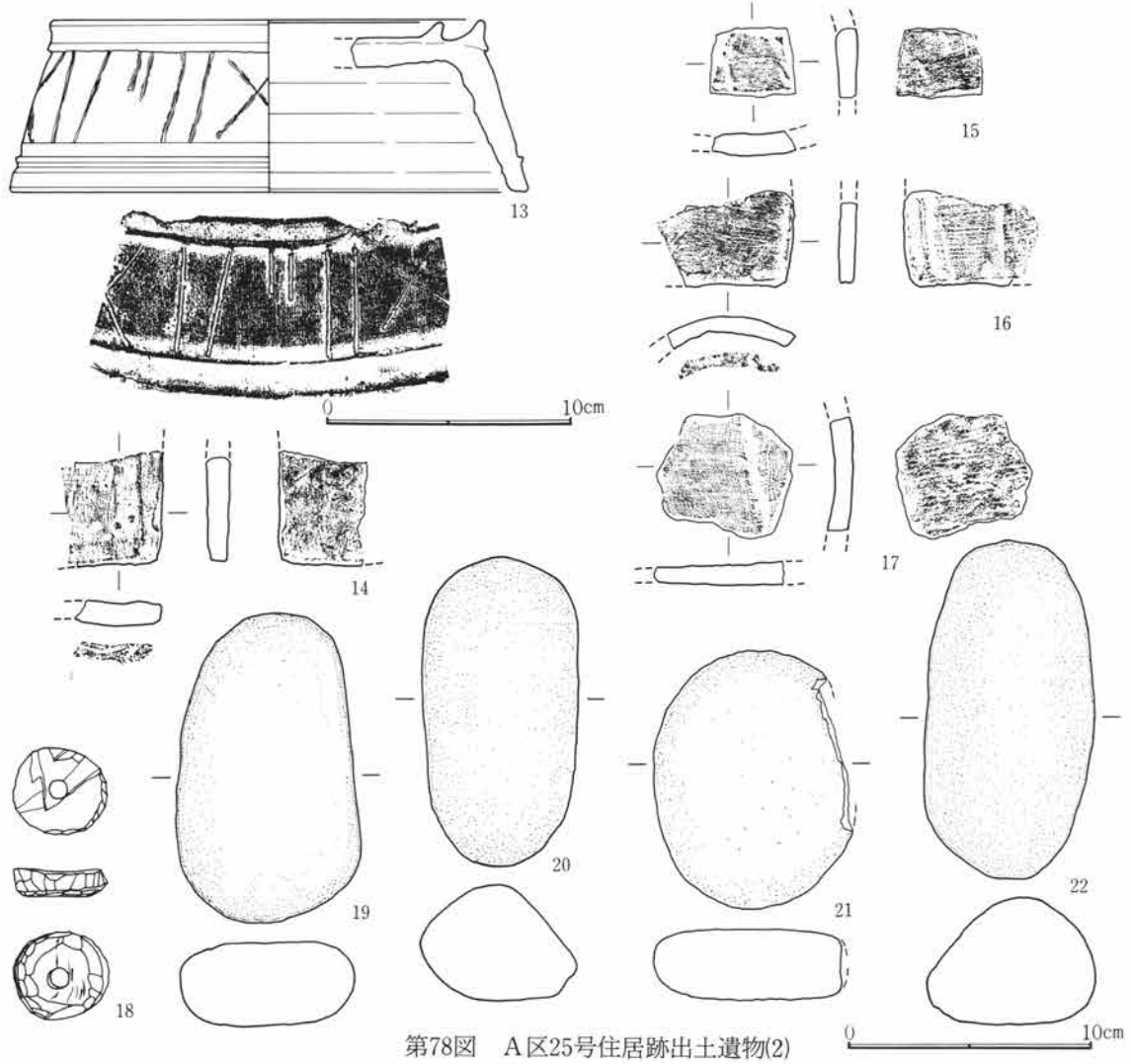
第76図 A区25号住居跡竈B



第77図 A区25号住居跡出土遺物(1)



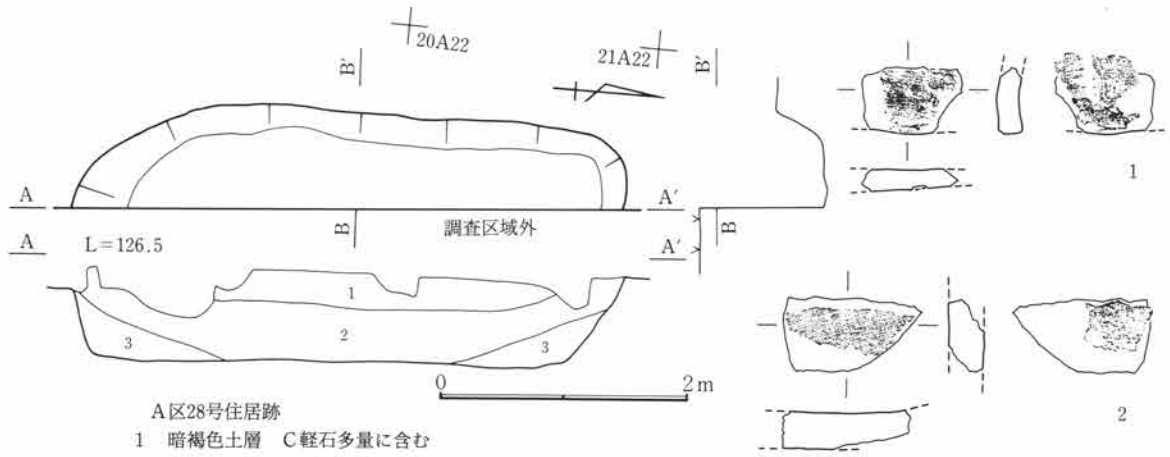
第4章 検出された遺構・遺物



第78図 A区25号住居跡出土遺物(2)

A区28号住居跡 (第79・80図、第7図版)

A区東部に位置し18~20A21の範囲にある。19号住居跡の北にある。他の遺構との重複はない。住居跡の大部分は調査区域外に延びるため一部を検出したのみである。このため規模・形態・主軸方位等は不明で、西壁は約4.5mを測る。竈は検出されていない。



A区28号住居跡

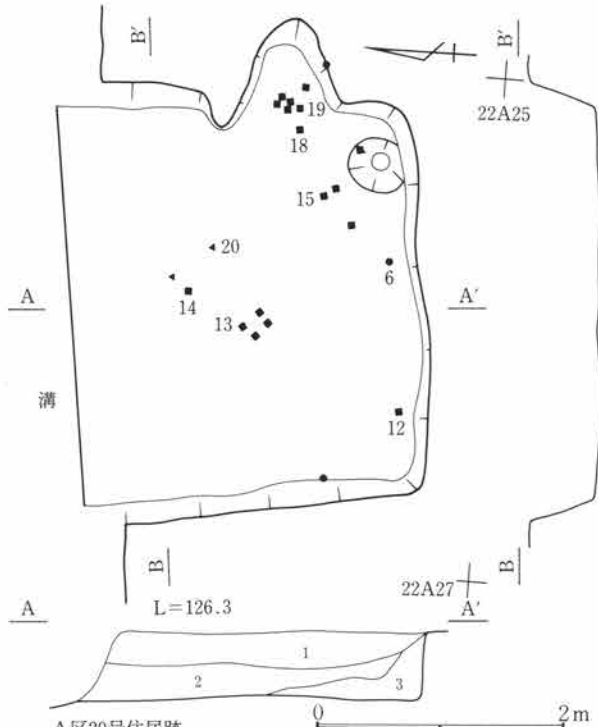
- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石細粒含む
- 3 暗褐色土層 C軽石地山土ブロック含む

第79図 A区28号住居跡

第80図 A区28号住居跡出土遺物

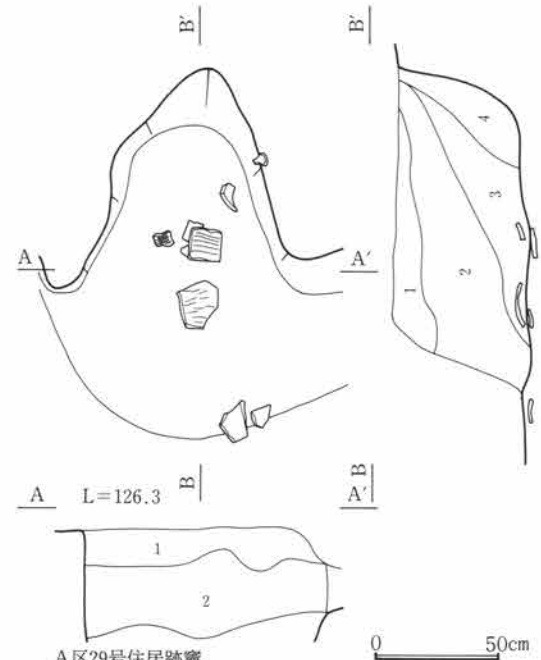
A区29号住居跡 (第81・82・83・84・85図、第7・65・66・67・68図版)

A区北東部に位置し22・23A24~26の範囲にある。11号住居跡の北にある。他の遺構との関係は北側をA-1号溝(中世)により切り崩されている。規模は南壁で約3.1mを測る。平面形態は隅丸方形を呈するものと思われる。主軸方位はN-91°-Eである。壁高は約55cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、南東部に貯蔵穴と思われる小穴が検出された。規模は径約40cm、深さ約20cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅90cm、同長70cmを測る。



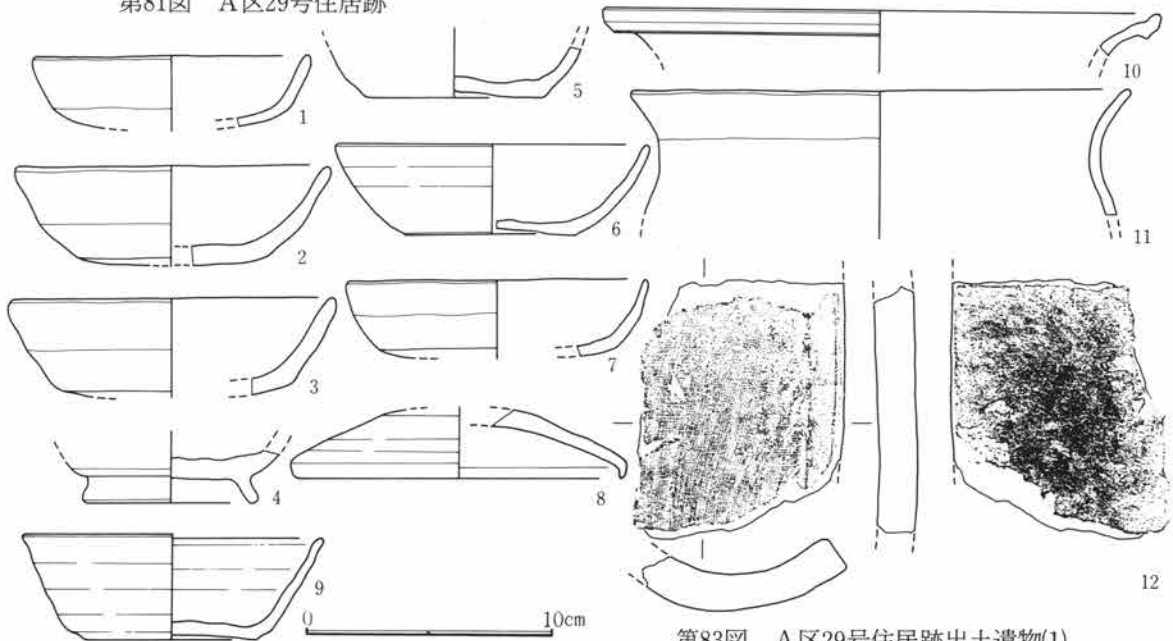
- A区29号住居跡
- 1 黒褐色土層 C軽石多量に含む
 - 2 黒褐色土層 C軽石少量含む
 - 3 黒褐色土層 C軽石少量、焼土、炭化物を含む

第81図 A区29号住居跡

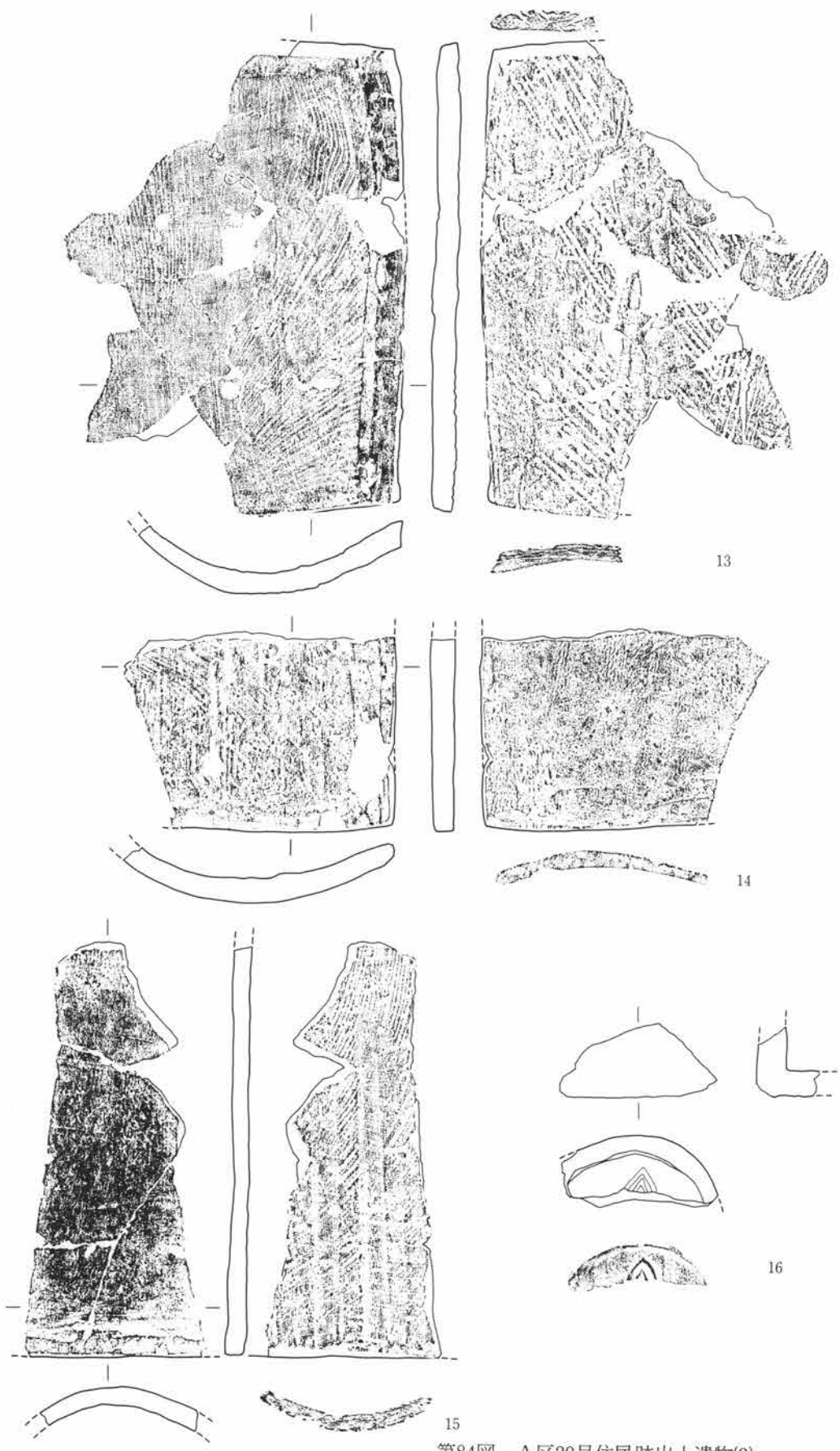


- A区29号住居跡竈
- 1 攪乱
 - 2 暗褐色土層 C軽石多量に含む
 - 3 暗褐色土層 粘土、焼土を含む
 - 4 暗褐色土層

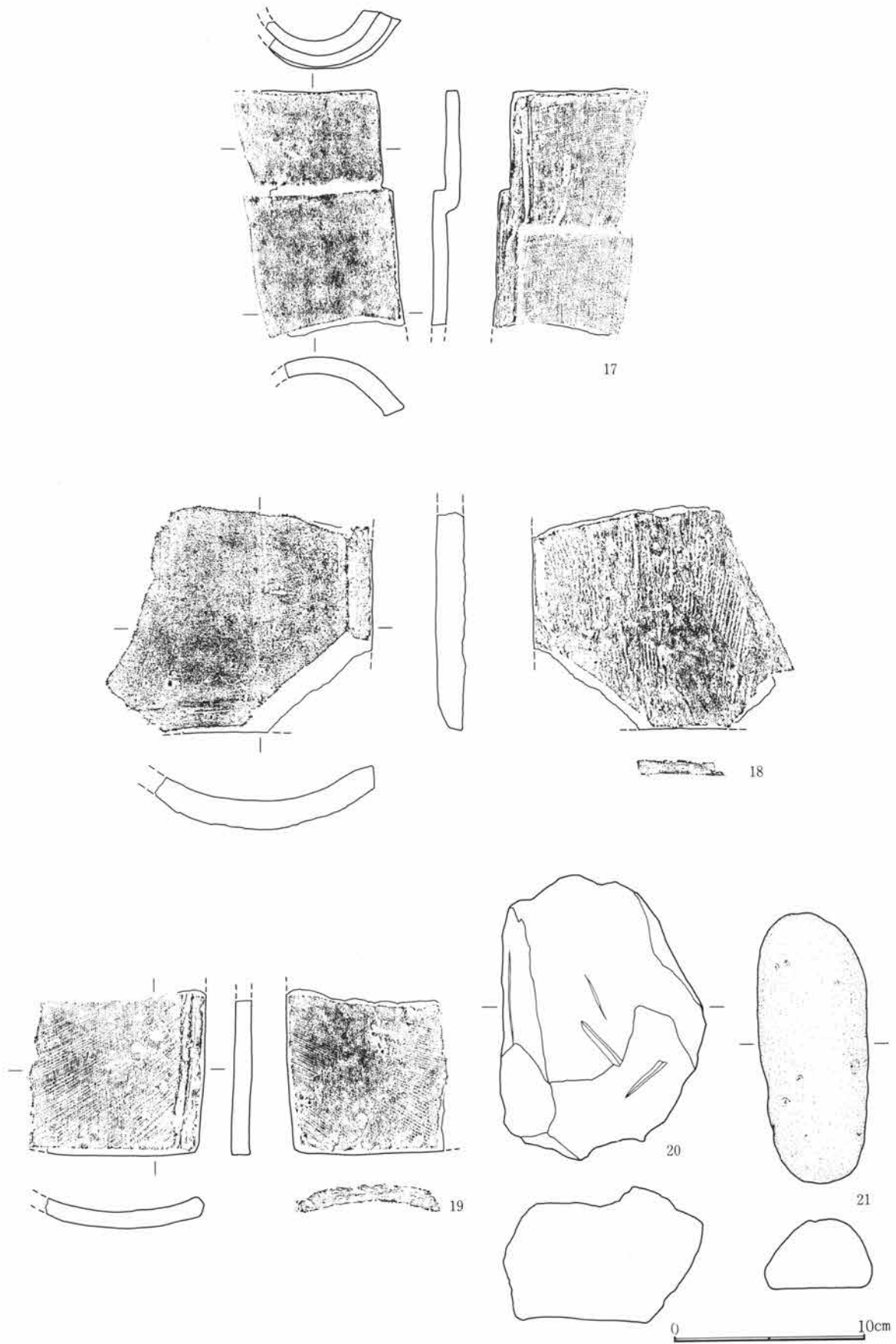
第82図 A区29号住居跡竈



第83図 A区29号住居跡出土遺物(1)



第84図 A区29号住居跡出土遺物(2)

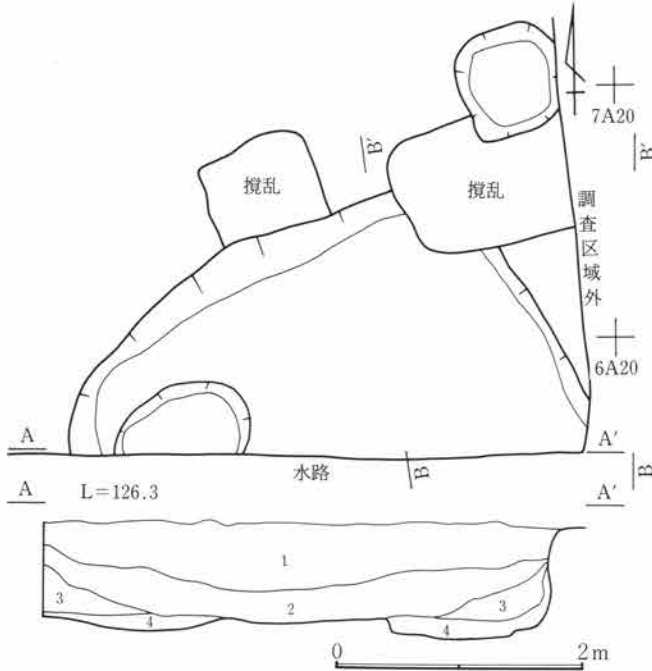


第85図 A区29号住居跡出土遺物(3)

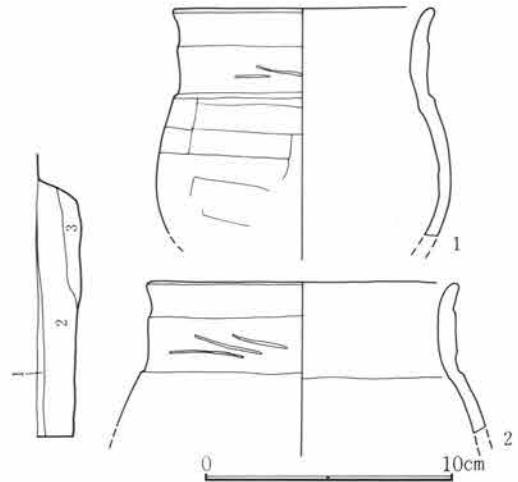
第4章 検出された遺構・遺物

A区42号住居跡（第86・87図、第7・67図版）

A区南東部に位置し5・6A20～22の範囲にある。10号住居跡の北にある。他の遺構との重複はないが、東側は調査区域外へ延び、南側は現代の用水路により壊されている。規模は東西長約3.7mを測る。壁高は約50cm～60cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。西北隅に小穴の一部が検出された。規模は東西長約1m、深さ約10cmを測る。竈は検出されていない。



第86図 A区42号住居跡



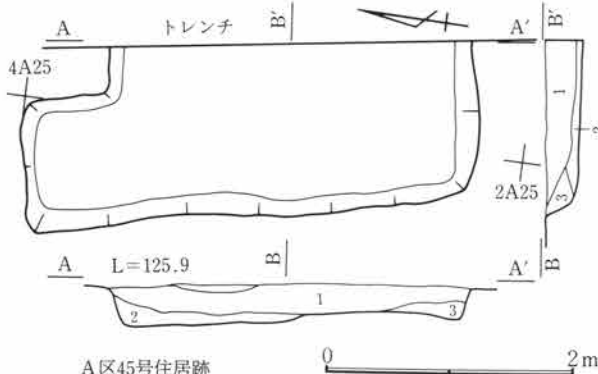
A区42号住居跡

- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石少量、ローム小ブロック含む
- 3 暗褐色土層 C軽石、ローム粒少量含む
- 4 暗褐色土層 ロームブロック多量に含む（貼床）

第87図 A区42号住居跡出土遺物

A区45号住居跡（第88・89図、第7・67図版）

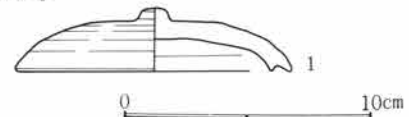
A区南東部に位置し2・3A24・25の範囲にある。6号住居跡の西にあり、東側の大半は試掘時のトレンチによる。このため規模・形態・主軸方位は不明であるが西壁は3.7mを測る。西北部には東西幅約1.1mで北側へ約90cmの張り出しが認められた。壁高は約20cm～30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は検出されていない。



A区45号住居跡

- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石少量含む
- 3 暗褐色土層 C軽石微量に含む

第88図 A区45号住居跡

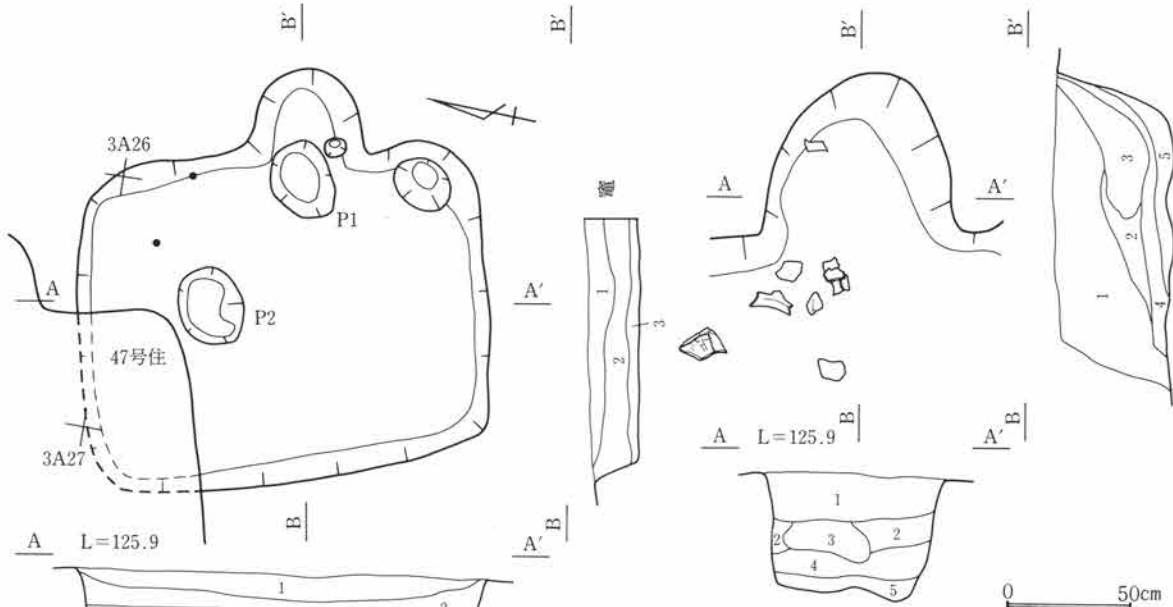


第89図 A区45号住居跡出土遺物

A区46号住居跡（第90・91・92図、第8・67・68図版）

A区南東部に位置し1～3A25～27の範囲にある。45号住居跡の西にある。他の遺構との関係は西北部で47号住居跡と重複している。新旧関係は47号住居跡が新しい。規模は長辺3.3m、短辺2.7mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-76°-Eである。壁高は約30cm～40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁

周溝・柱穴等の諸施設は検出されていない。南東隅に貯蔵穴と思われる小穴が検出された。規模は約50cm×30cm、深さ約20cmを測る。また掘り方で竈前、床面中央部に2基の小穴が検出され各々1・2とした。形態は2基共に楕円形を呈し、規模は1、約65cm×50cm、深さ約15cm、2、約60cm×50cm、深さ約20cmを測る。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃烧部幅80cm、同長75cmを測る。

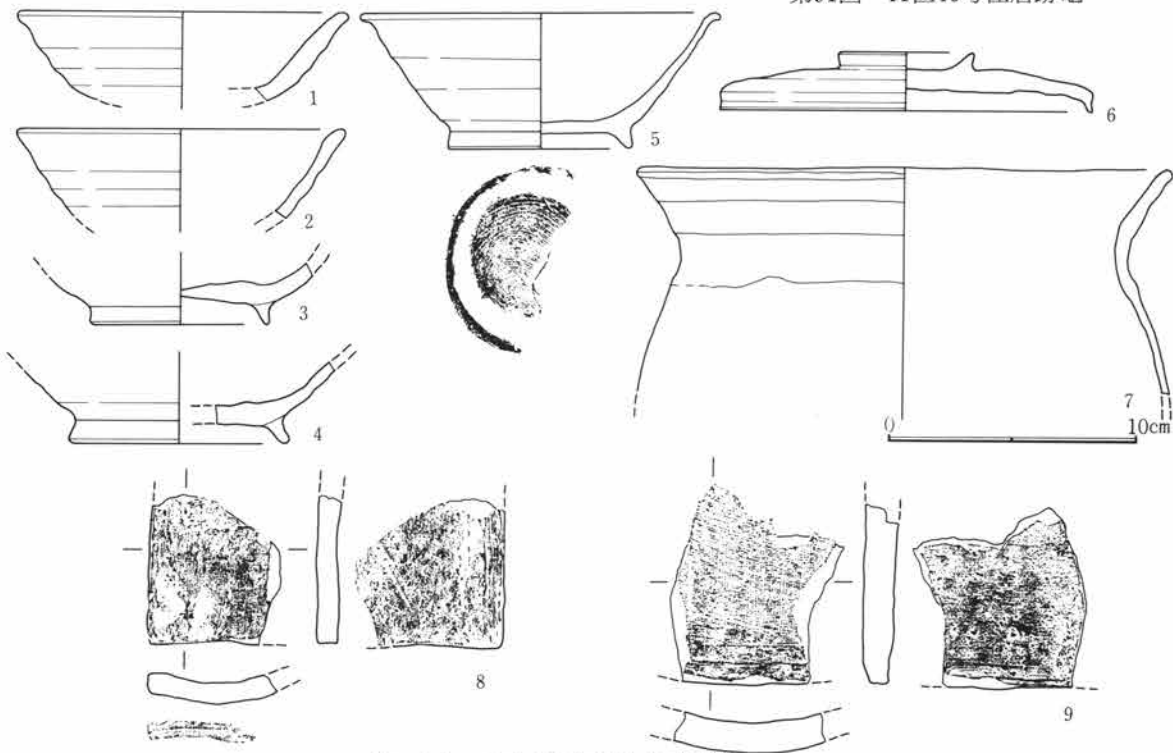


- A区46号住居跡
- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
 - 2 暗褐色土層 C軽石、ローム小ブロック多量に含む
 - 3 暗褐色土層 C軽石少量、ローム小ブロック多量に含む

第90図 A区46号住居跡

- A区46号住居跡竈
- 1 黒褐色土層 FP 軽石多量に含む
 - 2 黒褐色土層 FP 軽石含む。焼土細粒少量含む
 - 3 淡褐色粘土層 (天井崩れ)
 - 4 明褐色土層 焼土粒多量に含む
 - 5 黒色土・灰層

第91図 A区46号住居跡竈

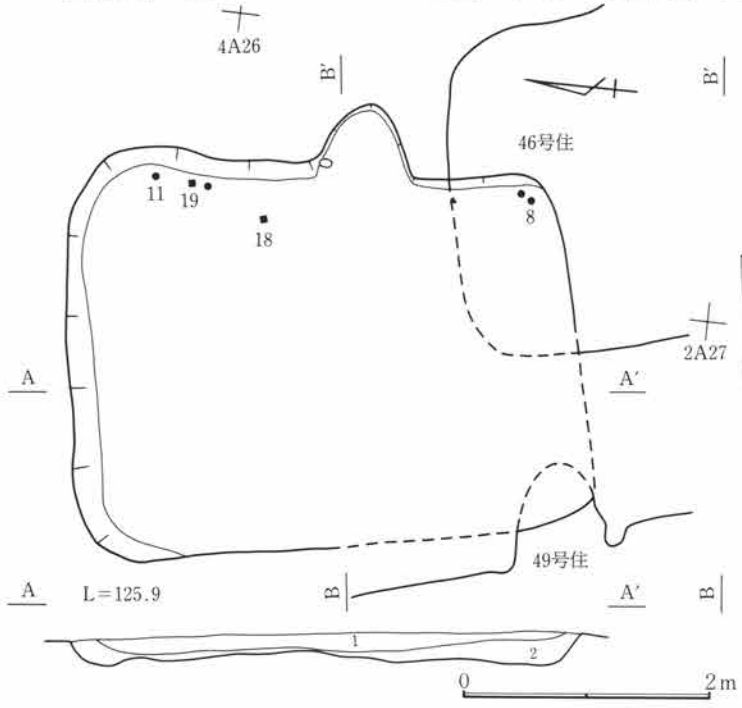


第92図 A区46号住居跡出土遺物

第4章 検出された遺構・遺物

A区47号住居跡 (第93・94・95・96・97図、第8・68・69図版)

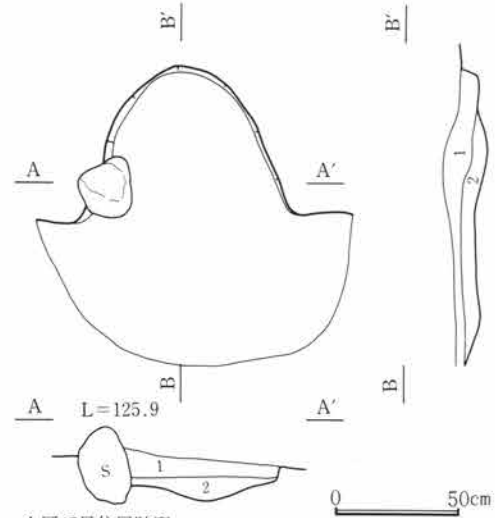
A区南東部に位置し2~4A26~28の範囲にある。45号住居跡の西にある。他の遺構との関係は南東部で46



号住居跡、南西部で49号住居跡と重複している。新旧関係は46号住居跡より新しく、49号住居跡より古い。規模は長辺4.4m、短辺3.3mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-87°-Eである。壁高は約20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。上半は46号住居跡の床面により削平されている。規模は燃焼部幅90cm、同長60cmを測る。

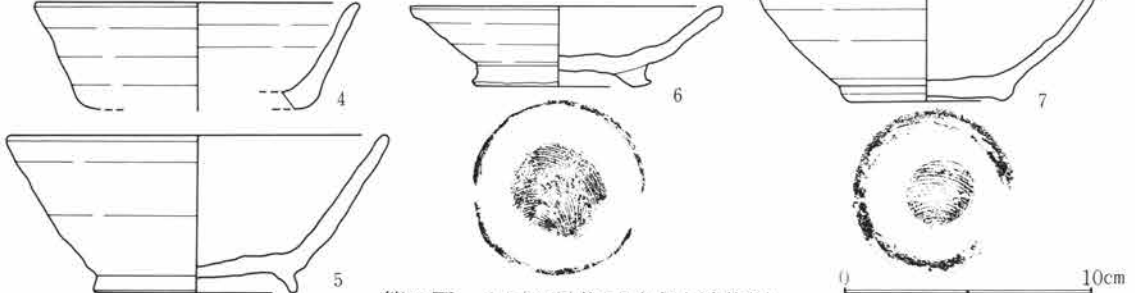
第93図 A区47号住居跡

- A区47号住居跡
- 1 暗褐色土層 ローム小ブロック微量に含む
 - 2 暗褐色土層 焼土粒微量に含む

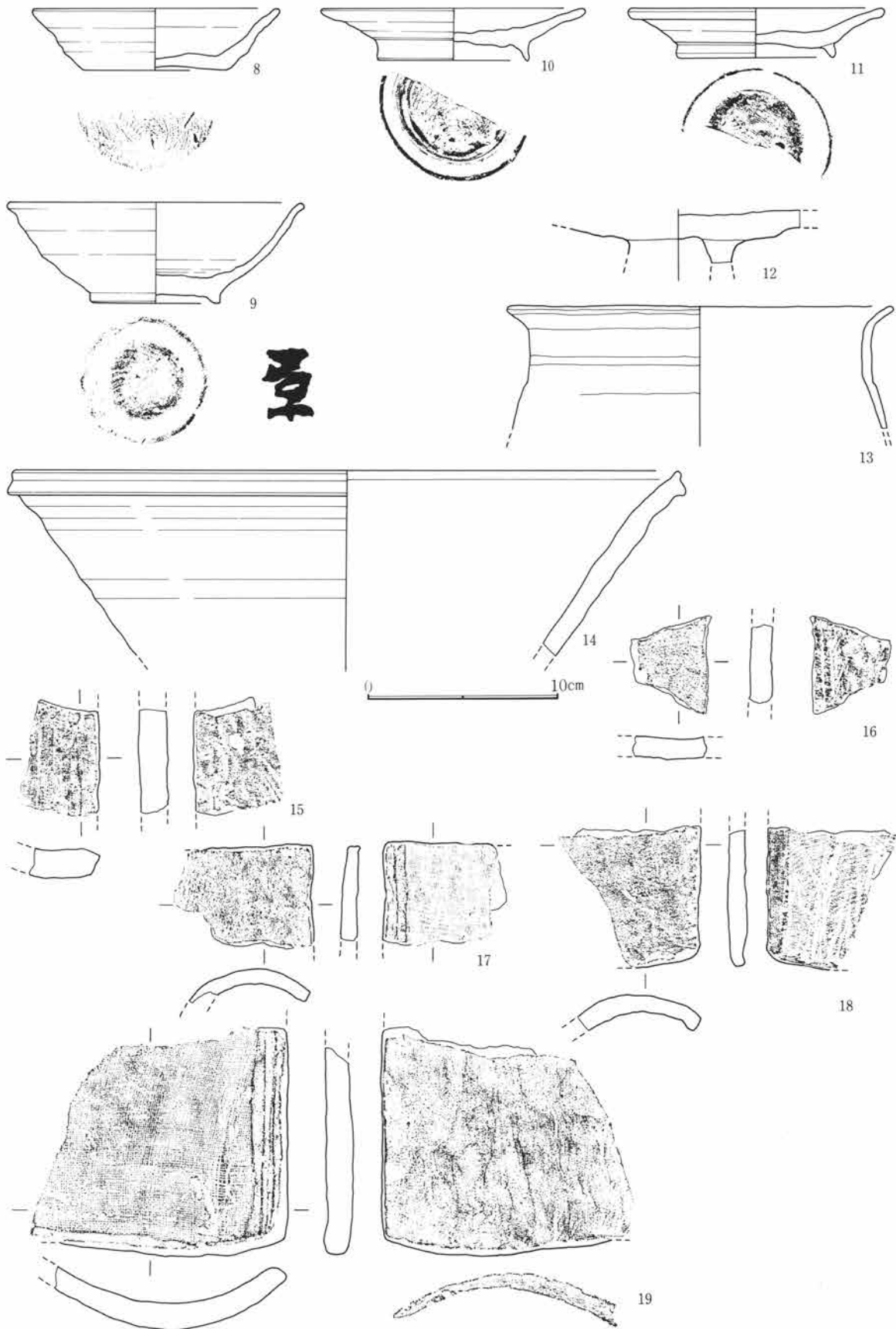


- A区47号住居跡竈
- 1 暗褐色土層 焼土粒、炭化物多量に含む
 - 2 淡黄褐色粘質土層 焼土粒少量含む

第94図 A区47号住居跡竈

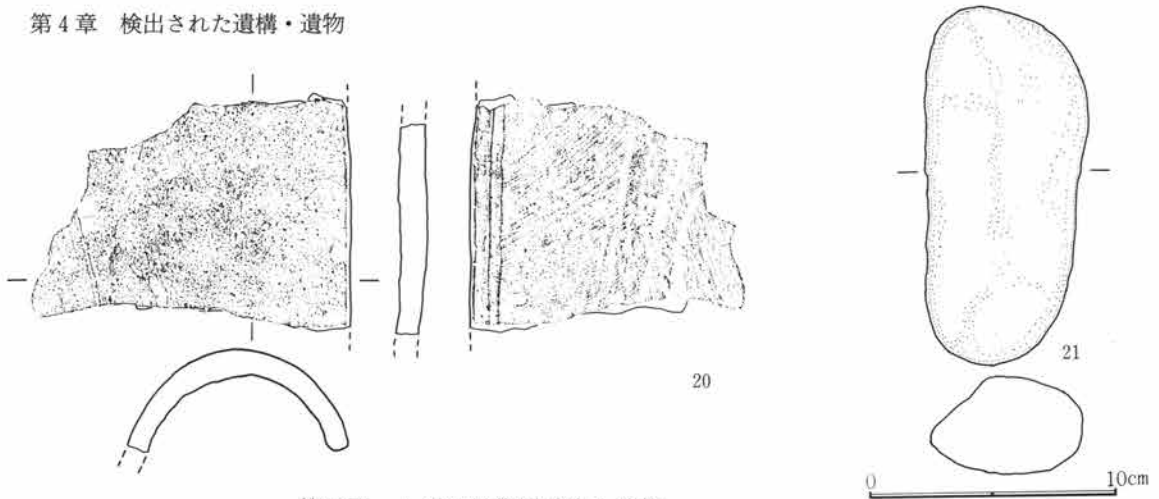


第95図 A区47号住居跡出土遺物(1)



第96図 A区47号住居跡出土遺物(2)

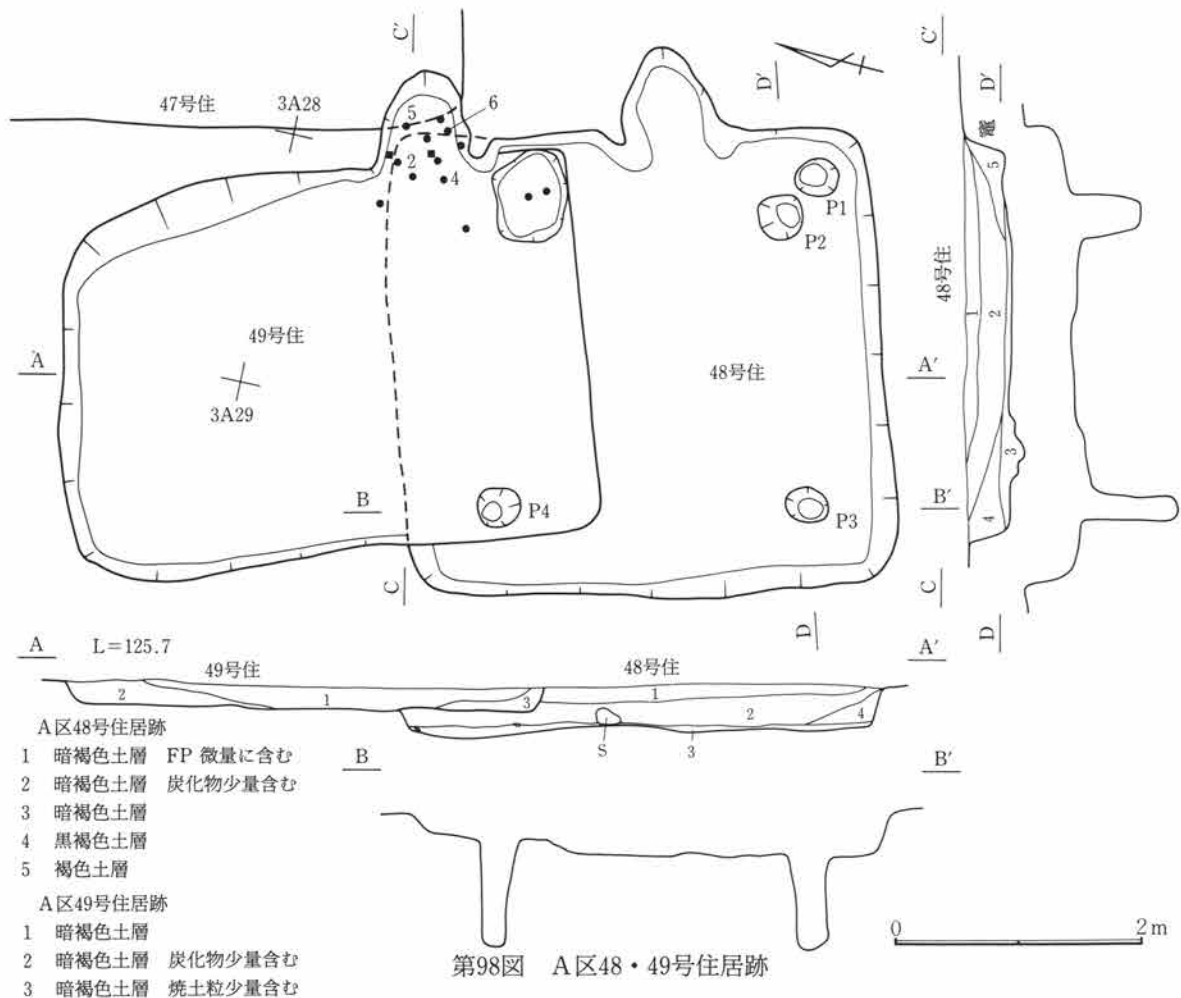
第4章 検出された遺構・遺物



第97図 A区47号住居跡出土遺物

A区48号住居跡 (第98・99・101・102図、第8・69・70・173図版)

A区南部に位置し0~2A27~29の範囲にある。46号住居跡の西にある。他の遺構との関係は北部で49号住居跡と重複している。新旧関係は48号住居跡が古い。規模は長辺4.1m、短辺3.7mを測る。平面形態は一辺が直線状を呈する隅丸方形を呈する。主軸方位はN-76°-Eである。壁高は南壁で約30cm~40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。床面には4基の小穴が検出され、各々1~4とした。形態は4基ともに円形を呈し、各々壁に接近して検出された。南東隅には2基が検出された。壁に接近する点を除けば柱穴の可能性もある。規模は1、径約45cm、深さ約40cm、2、径約40cm、深さ約50



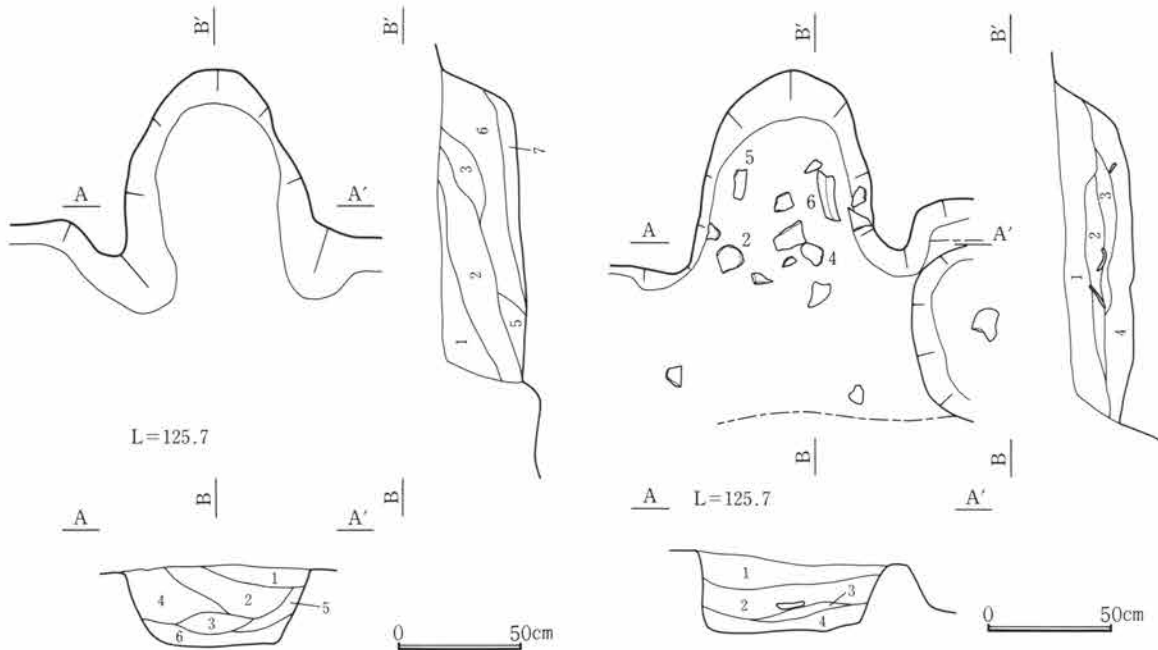
第98図 A区48・49号住居跡

- A区48号住居跡
- 1 暗褐色土層 FP 微量に含む
 - 2 暗褐色土層 炭化物少量含む
 - 3 暗褐色土層
 - 4 黒褐色土層
 - 5 褐色土層
- A区49号住居跡
- 1 暗褐色土層
 - 2 暗褐色土層 炭化物少量含む
 - 3 暗褐色土層 焼土粒少量含む

cm、3、径約35cm×30cm、深さ約70cm、4、径約35cm、深さ約80cmを測る。竈は東壁やや南寄りに検出された。左右の袖部はやや床面に延びている。規模は袖幅70cm、燃烧部長80cmを測る。

A区49号住居跡 (第98・100・103・104図、第8・9・69・70図版)

A区南部に位置し1~3A27~29の範囲にある。46号住居跡の西にある。他の遺構との関係は東側竈の一部を47号住居跡、南半部を48号住居跡と重複している。新旧関係は47号住居跡・48号住居跡より新しい。規模は長辺4.3m、短辺3.2mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-72°-Eである。壁高は約20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・柱穴等の諸施設は検出されていない。南東隅に貯蔵穴と思われる小穴が検出された。規模は約80cm×60cm、深さ約3cm~4cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃烧部幅80cm、同長70cmを測る。



A区48号住居跡竈

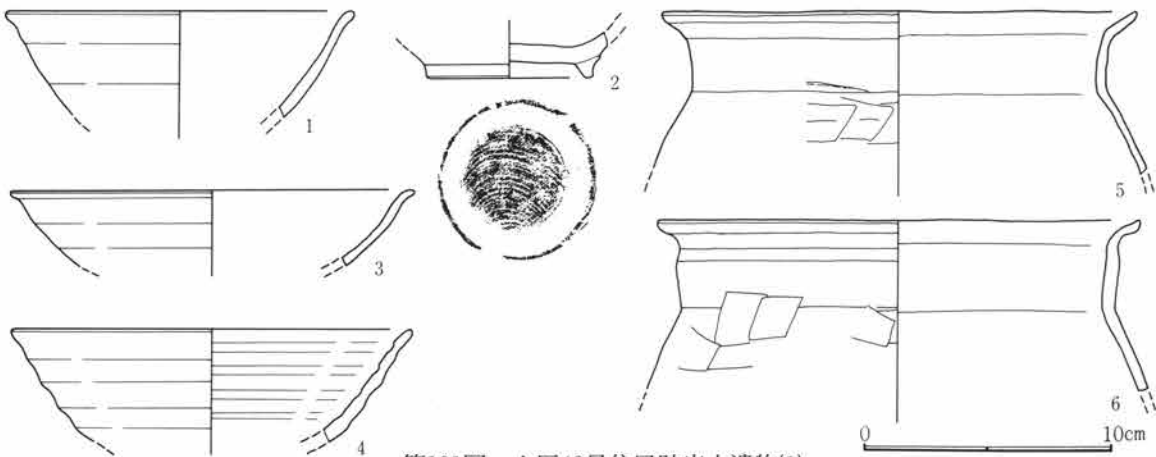
- 1 黒褐色土層 灰褐色ミルト微量に含む
- 2 黒褐色土層
- 3 黒褐色土層 焼土化した層
- 4 炭化物、灰層
- 5 黒褐色土層 C軽石微量に含む
- 6 黒褐色土層 焼土粒含む
- 7 黒褐色土層 粘土粒多量に含む

第99図 A区48号住居跡竈

A区49号住居跡竈

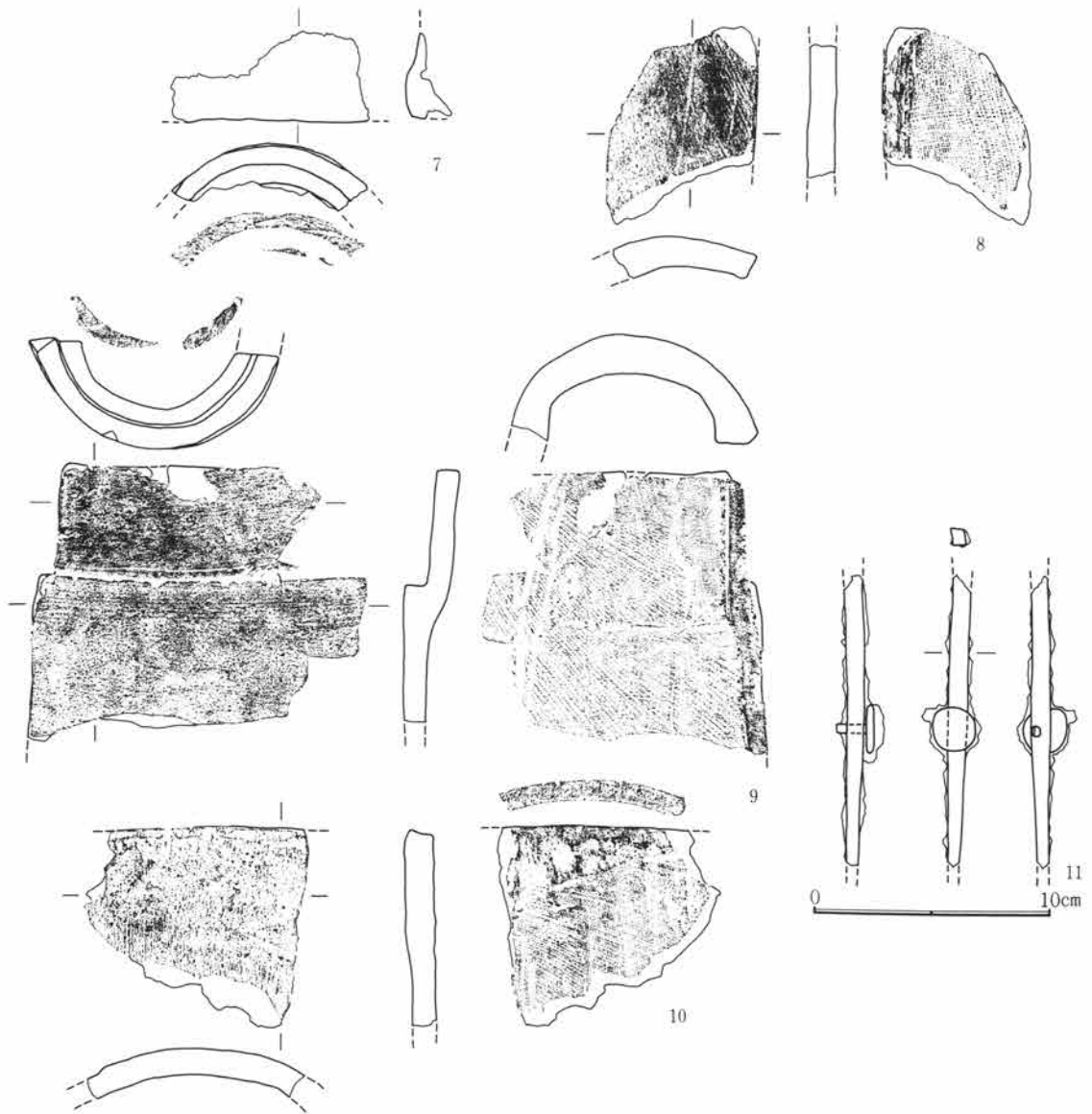
- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 灰、焼土粒わずかに含む
- 3 赤褐色土層 粘土、焼土粒主体
- 4 黒色土層 灰、炭化物主体

第100図 A区49号住居跡竈

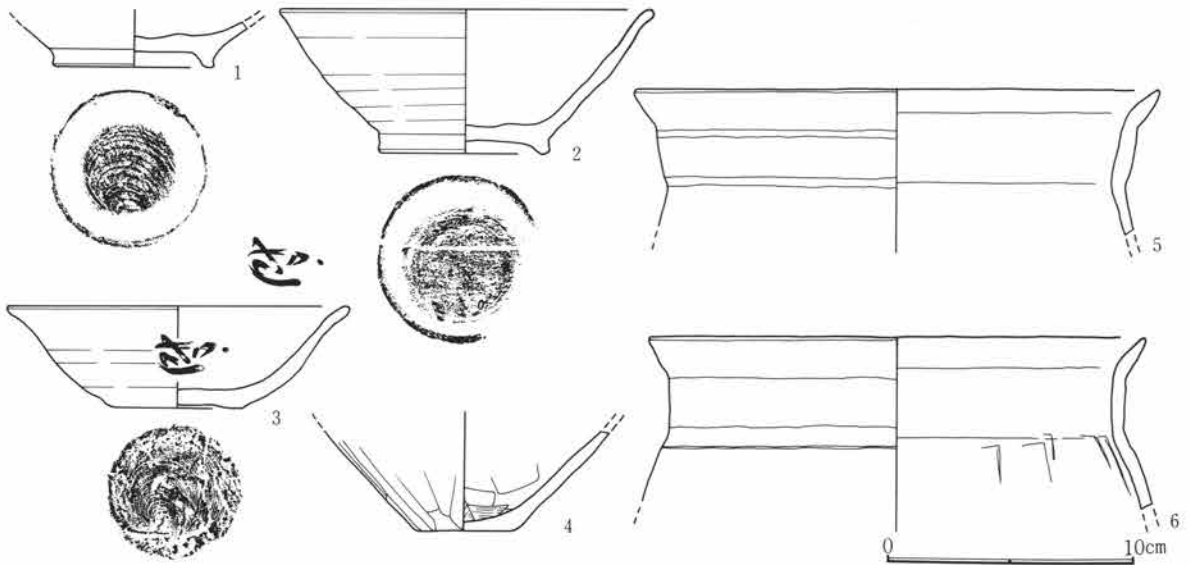


第101図 A区48号住居跡出土遺物(1)

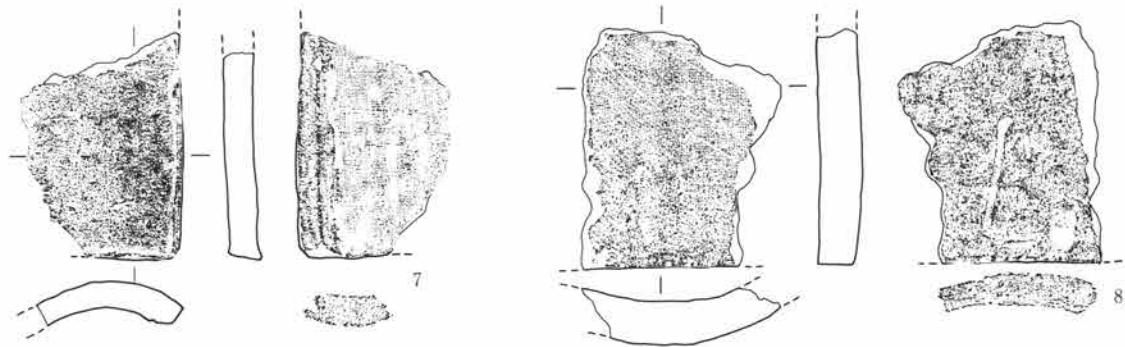
第4章 検出された遺構・遺物



第102図 A区48号住居跡出土遺物(2)



第103図 A区49号住居跡出土遺物(1)

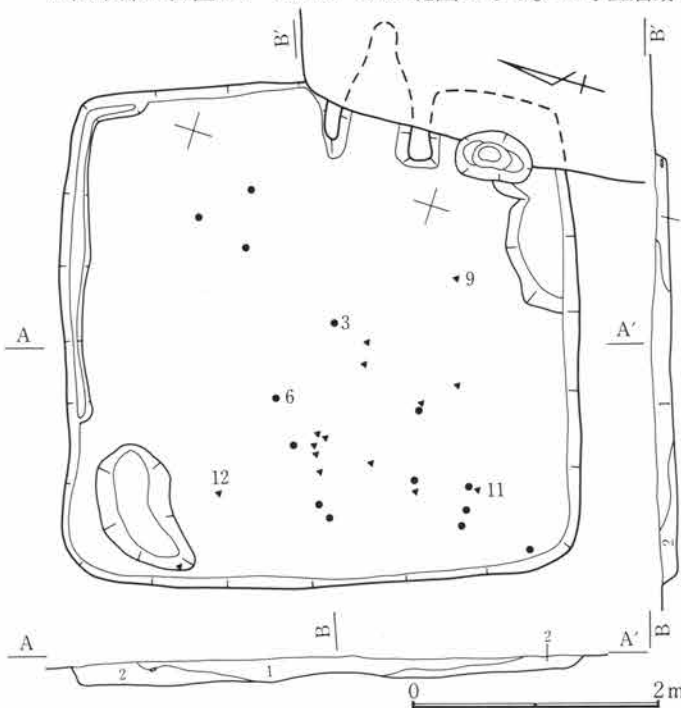


第104図 A区49号住居跡出土遺物(2)

A区50号住居跡 (第105・106・107・108図、PL. 9・70・71)

A区東部に位置し0~2A33~35の範囲にある。48号住居跡の西にある。他の遺構との関係は南東部で55号

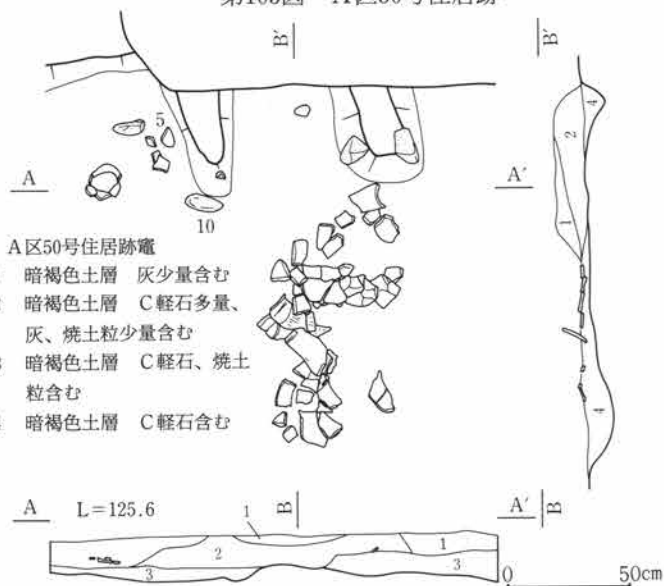
住居跡・63号址と重複している。新旧関係は55号住居跡・63号址より新しい。規模は長辺4.25m、短辺4.1mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-76°-Eである。壁高は約20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、北東部に壁周溝、南東隅に貯蔵穴が検出された。柱穴は認められない。西北部に小穴を検出した。壁周溝は幅約15cm~20cm、深さ約5cm~7cmを測る。貯蔵穴はほぼ楕円形を呈し、規模は80cm×50cm、深さ約20cmを測る。西北隅の小穴は楕円形を呈し、規模は1.4m×70cm、深さ約10cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。形状は左右の袖が床面に延びている。燃焼部東側は55号住居跡により切り崩されている。規模は袖幅70cm、燃焼部長は推定で70cm、煙道部長推定で50cmを測る。



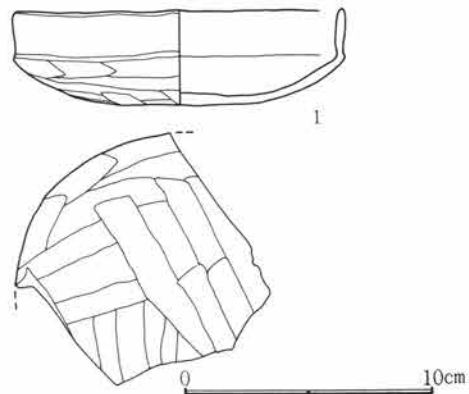
第105図 A区50号住居跡

A区50号住居跡

- 1 暗褐色土層 C軽石多量、ローム大粒少量含む
- 2 暗褐色土層 C軽石少量、ロームブロック多量に含む



第106図 A区50号住居跡竈



第107図 A区50号住居跡出土遺物

第4章 検出された遺構・遺物

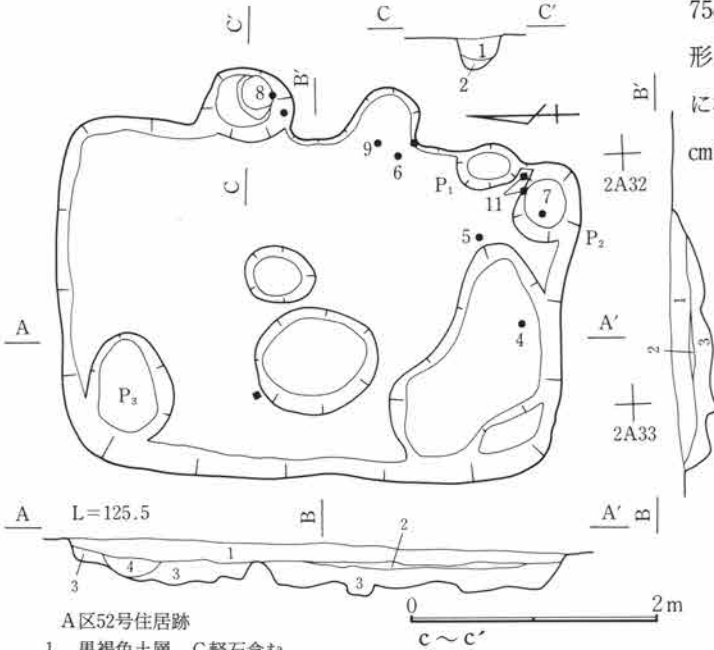


第108図 A区50号住居跡出土遺物(2)

A区52号住居跡 (第109・110・111・112図、第9・71図版)

A区南部に位置し2~4A31~33の範囲にある。49号住居跡の西にある。他の遺構との関係は東壁の一部で縄文時代の土坑と重複している。規模は長辺4.2m、短辺2.95mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸

方位はN-96°-Eである。壁高は約20cm~30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・柱穴等の諸施設は検出されていない。南東隅に2基、西北隅に1基の小穴が検出された。各々1~3とした。形状は円形・楕円形を呈し、規模は1、約50cm×35cm、深さ約10cmを測る。2、約60cm×50cm、深さ約5cm、3、約90cm×60cm、深さ約10cmを測る。1・2は貯蔵穴の可能性はある。また掘り方面には床面中央部に2基の土坑、南西部には不定形の落ち込みが確認され、各々1~3とした。規模は1、径約45cm、深さ約10cm、2、約95cm×75cm、深さ約20cm、3、約1.75m×95cmの不定形で深さ約10cmを測る。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃焼部幅60cm、同長40cmを測る。

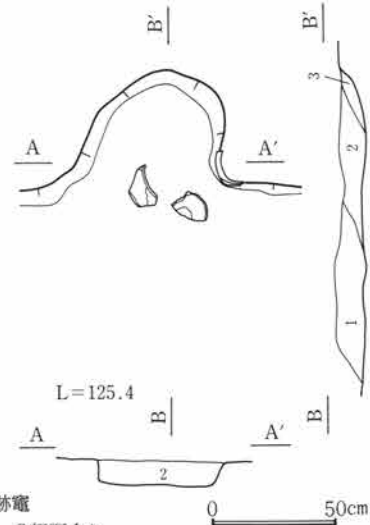


A区52号住居跡

- 1 黒褐色土層 C軽石含む
- 2 暗褐色土層 ローム含む
- 3 暗褐色土層 ロームブロック含む
- 4 暗褐色土層 粗ローム粒含む

第109図 A区52号住居跡

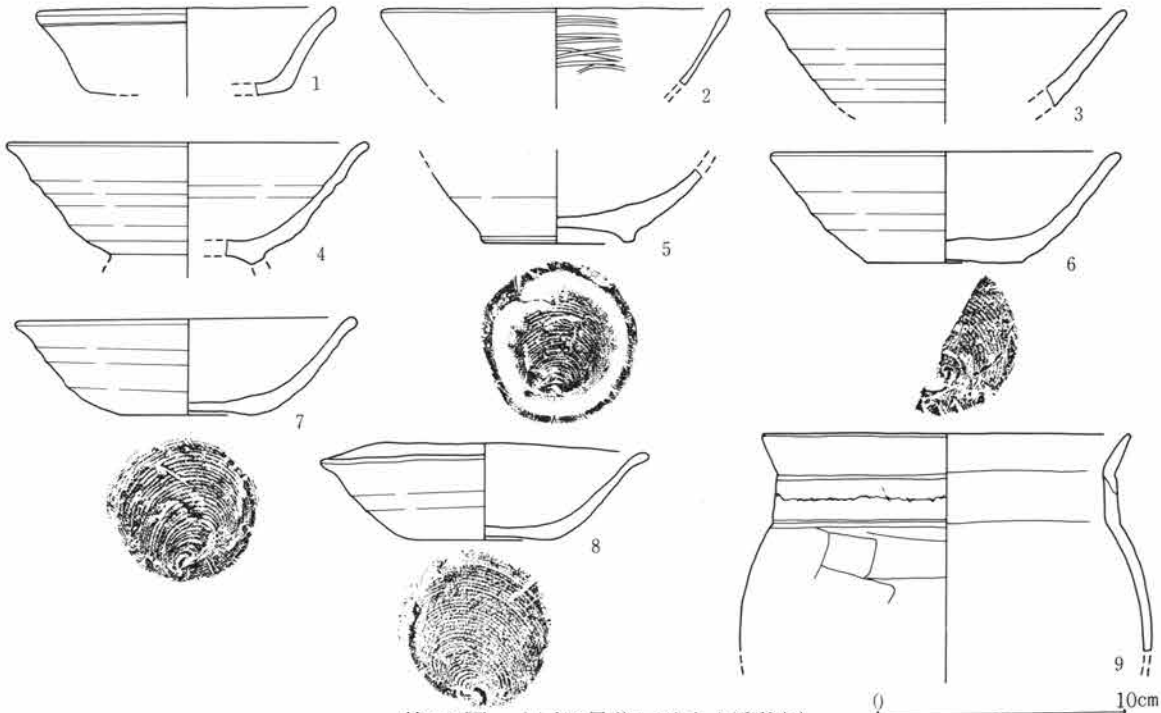
規模は1、径約45cm、深さ約10cm、2、約95cm×75cm、深さ約20cm、3、約1.75m×95cmの不定形で深さ約10cmを測る。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃焼部幅60cm、同長40cmを測る。



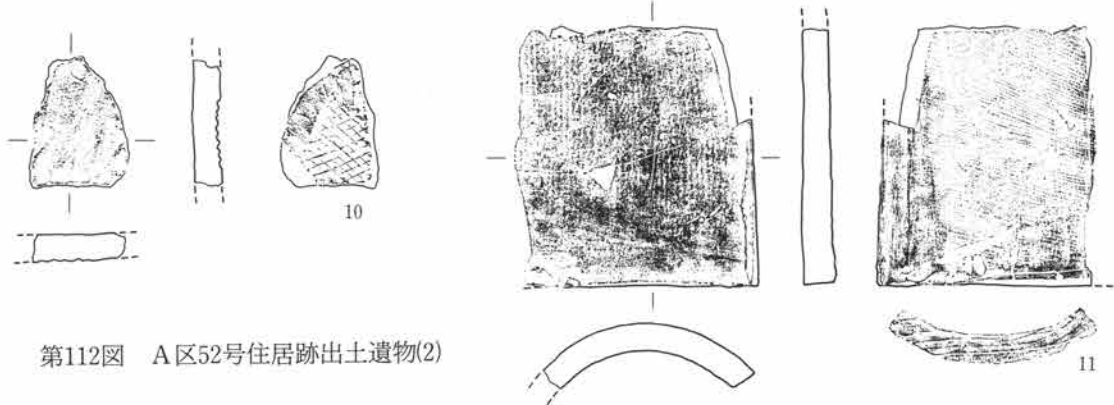
A区52号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石含む
- 2 暗褐色土層 焼土ブロック、ローム粒含む
- 3 暗褐色土層 灰色砂質土ブロック含む

第110図 A区52号住居跡竈



第111図 A区52号住居跡出土遺物(1)



第112図 A区52号住居跡出土遺物(2)

A区53号住居跡 (第113・114・116図、第9・71・72・173図版)

A区南部に位置し0~2A29~31の範囲にある。54号住居跡の北に接している。他の遺構との関係は西壁の一部を55号住居跡と重複している。新旧関係は53号住居跡が新しい。規模は長辺3.6m、短辺2.8mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-90°-Eである。壁高は15cm~20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。堀り方面には南壁に接する部分、西北部、北東部に落ち込みが確認された。各々1~3とした。規模は1、約2.2m×2m、深さ約15cm、2、約1.5m×1.1m、深さ約15cm、3、約1.2m×80cm、深さ約3cm~4cmを測る。竈は東壁やや南寄りに検出された。



第113図 A区53・55号住居跡

規模は1、約2.2m×2m、深さ約15cm、2、約1.5m×1.1m、深さ約15cm、3、約1.2m×80cm、深さ約3cm~4cmを測る。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃烧部幅90cm、同長80cmを測る。

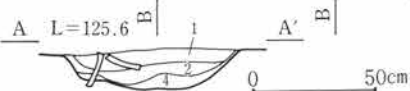
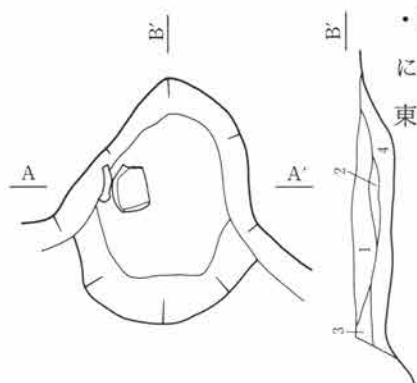
- A区53号住居跡
- 1 暗褐色土層 C軽石多量、炭化物少量含む
 - 2 暗褐色土層 C軽石少量含む
 - 3 暗褐色土層 ローム粒多量に含む

A区55号住居跡 (第113・115・117・118図、第10・71・72図版)

A区南部に位置し49Z~A2A31~33の範囲にある。52号住居跡の南にある。他の遺構との関係は北東部で53号住居跡、南東部で54号住居跡と重複している。新旧関係は53号住居跡・54号住居跡より古い。規模は長辺5.2m、短辺4.9mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-93°-Eである。壁高は約30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝

- A区55号住居跡
- 1 暗褐色土層 ローム粒、ブロック若干含む
 - 2 暗褐色土層 ローム粒、ブロック若干、焼土ブロック含む
 - 3 暗褐色土層
 - 4 暗褐色土層
 - 5 暗褐色土層 C軽石若干、ロームブロック含む
 - 6 暗褐色土層 ロームブロック含む

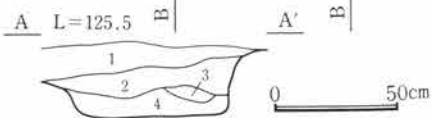
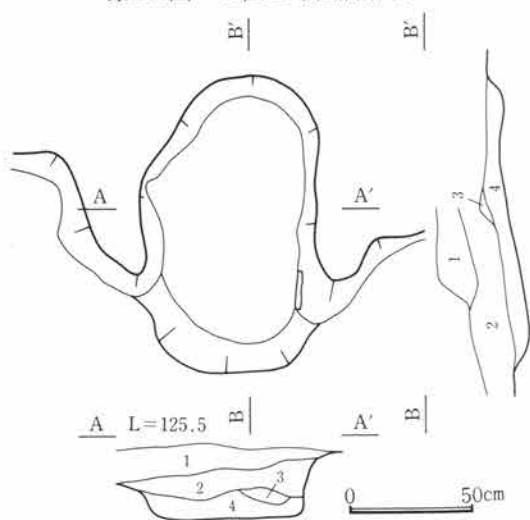
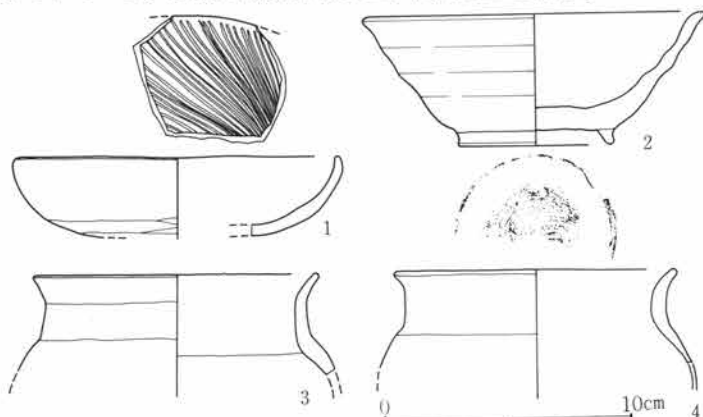
・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。掘り方面には西北部に不定形の落ち込みが確認された。深さは約15cm~20cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。燃烧部の東半は54号住居跡により上半が切り崩されている。規模は燃烧部幅80cm、同長90cmを測る。



A区53号住居跡竈

- 1 赤褐色土層 粘土、焼土粒含む
- 2 暗灰色土層 灰、焼土粒含む
- 3 暗褐色土層 白色細粒含む
- 4 暗灰色土層 焼土粒含む

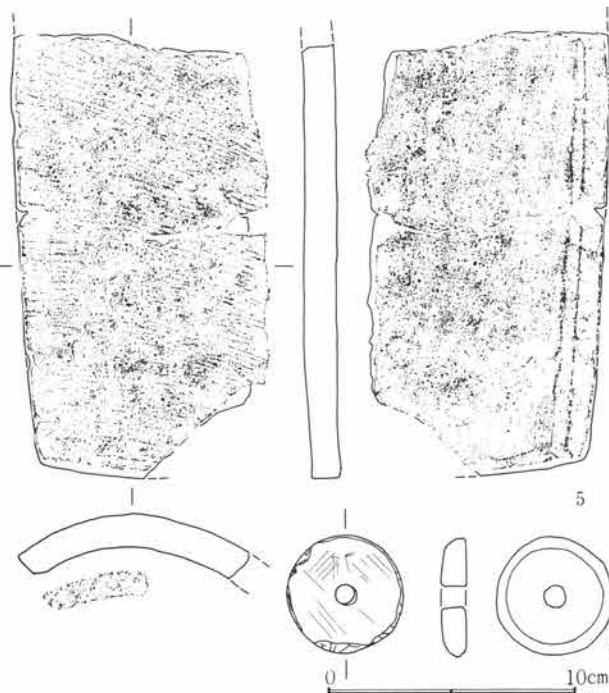
第114図 A区53号住居跡竈



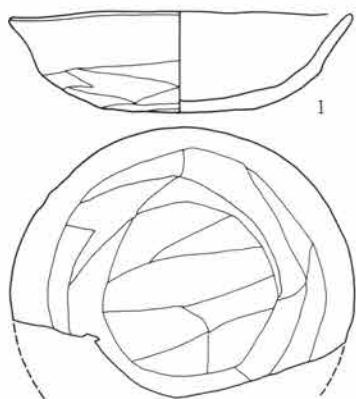
A区55号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石少量含む
- 2 暗褐色土層 灰褐色粘土粒多量に含む
- 3 焼土
- 4 灰層

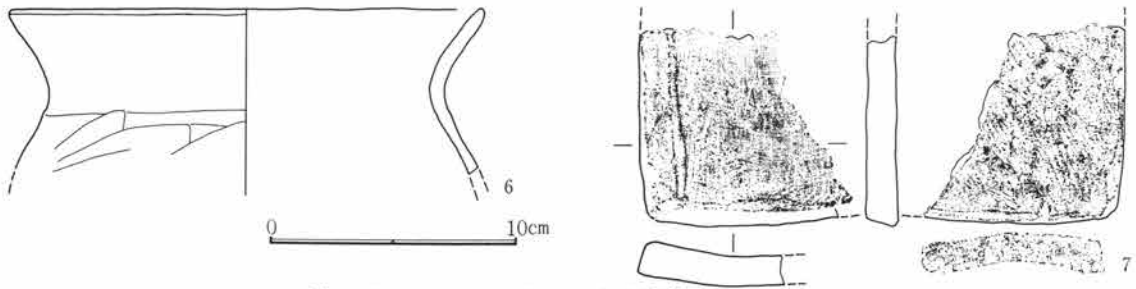
第115図 A区55号住居跡竈



第116図 A区53号住居跡出土遺物



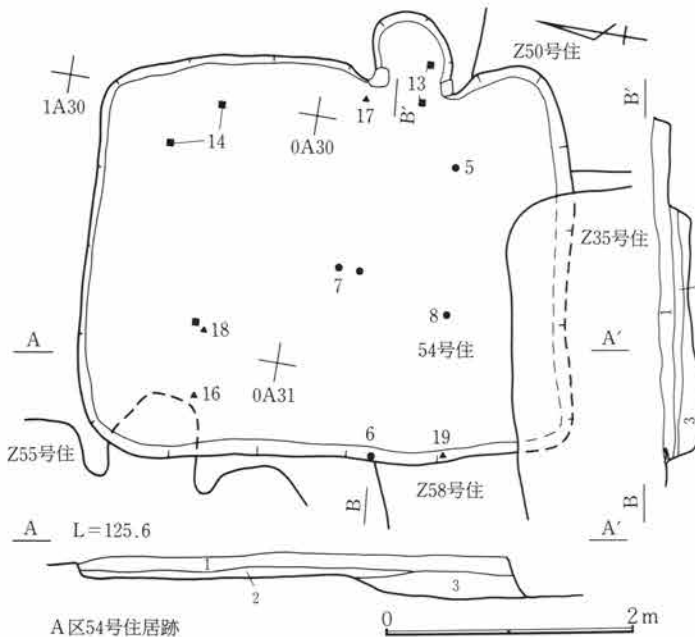
第117図 A区55号住居跡出土遺物(1)



第118図 A区55号住居跡出土遺物

A区54号住居跡 (第119・120・121・122・123図、第10・72・73・172・173図版)

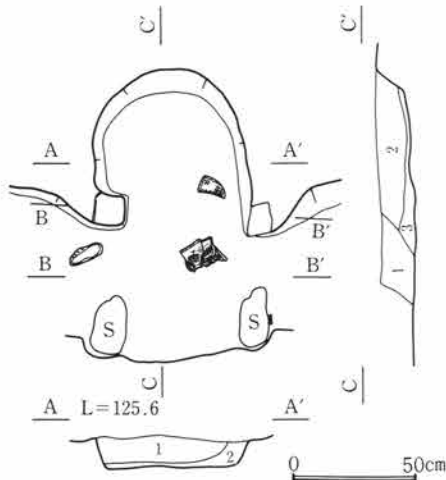
A区南部に位置し48Z~0A29~31の範囲にある。53号住居跡の南に接している。他の遺構との関係は西北部で55号住居跡竈の一部と、南西部でZ区35号住居跡と南東部で50号住居跡・58号住居跡と重複している。



A区54号住居跡

- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石、地山ブロック多量に含む
- 3 暗褐色土層 C軽石、地山ブロック少量含む

第119図 A区54号住居跡

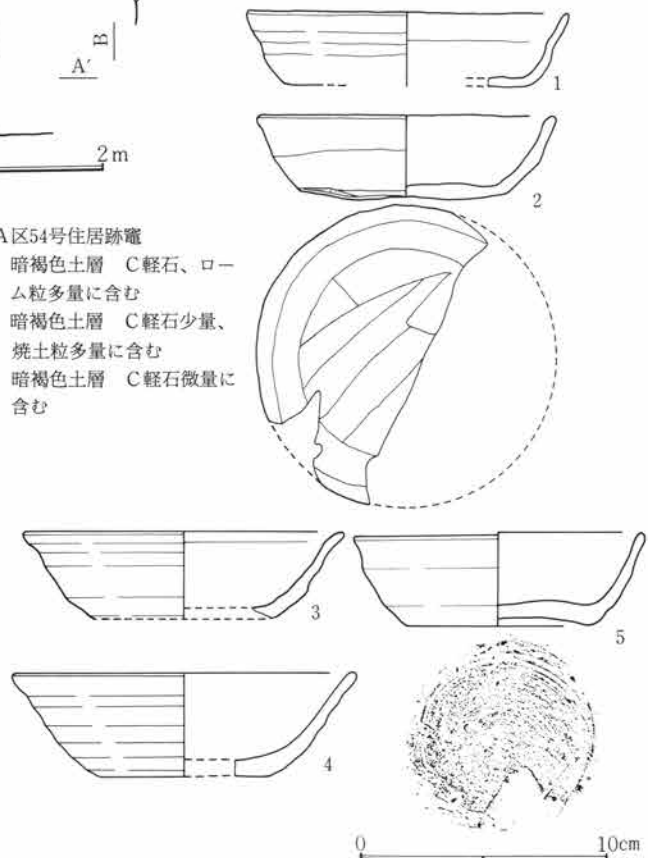


第120図 A区54号住居跡竈

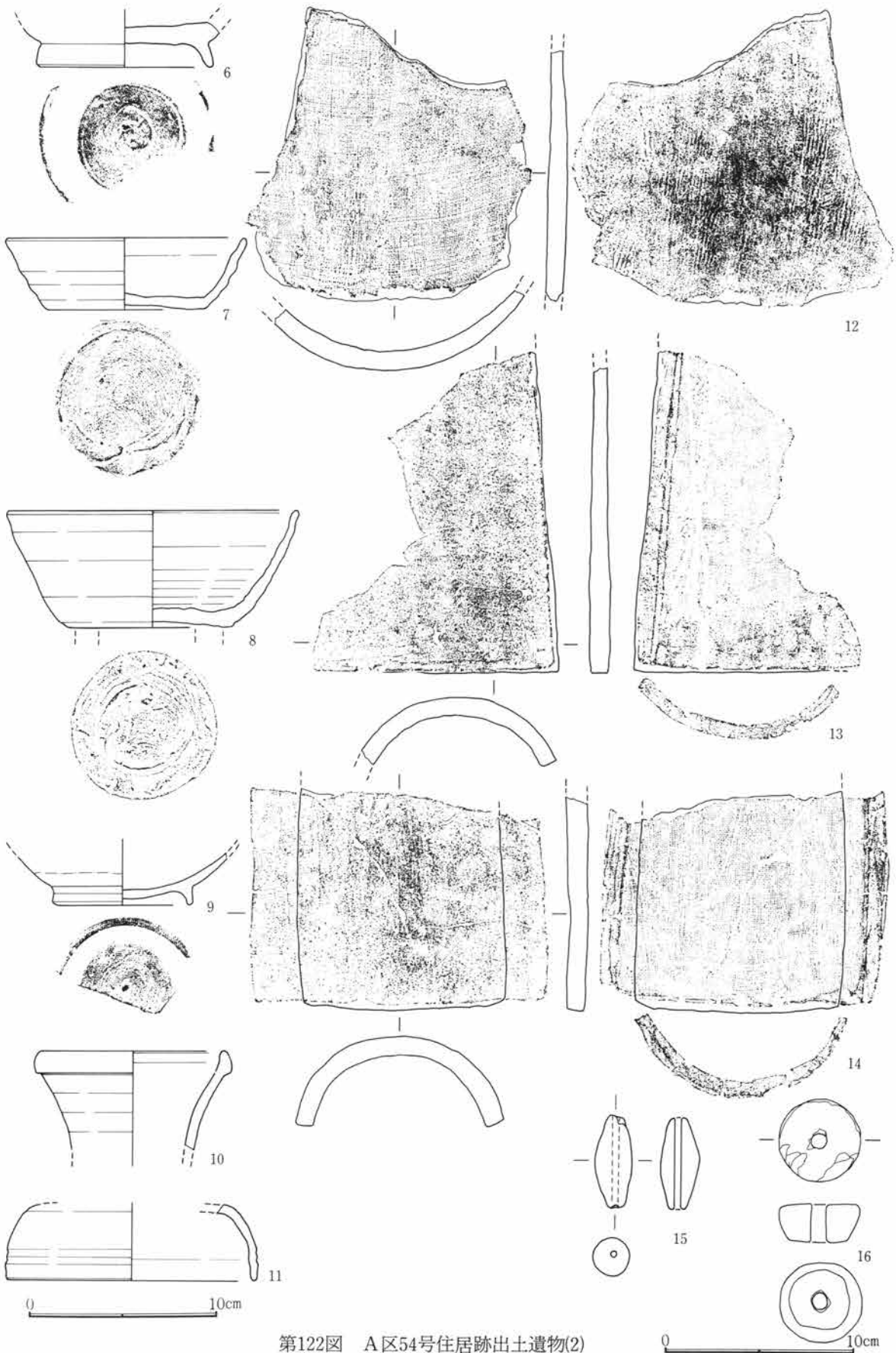
新旧関係は55号住居跡より新しくZ区35号住居跡より古い。規模は長辺3.9m、短辺3.2mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-82°-Eである。壁高は約20cm~30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。両袖部には袖材として石が検出された。規模は袖幅60cm、燃焼部長60cmを測る。

A区54号住居跡竈

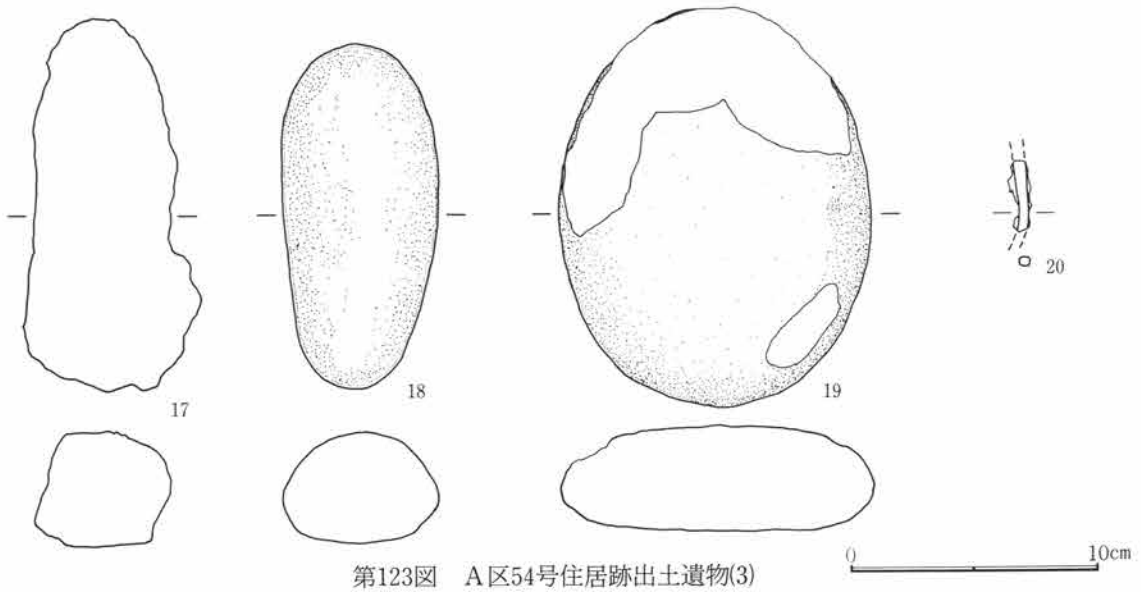
- 1 暗褐色土層 C軽石、ローム粒多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石少量、焼土粒多量に含む
- 3 暗褐色土層 C軽石微量に含む



第121図 A区54号住居跡出土遺物(1)



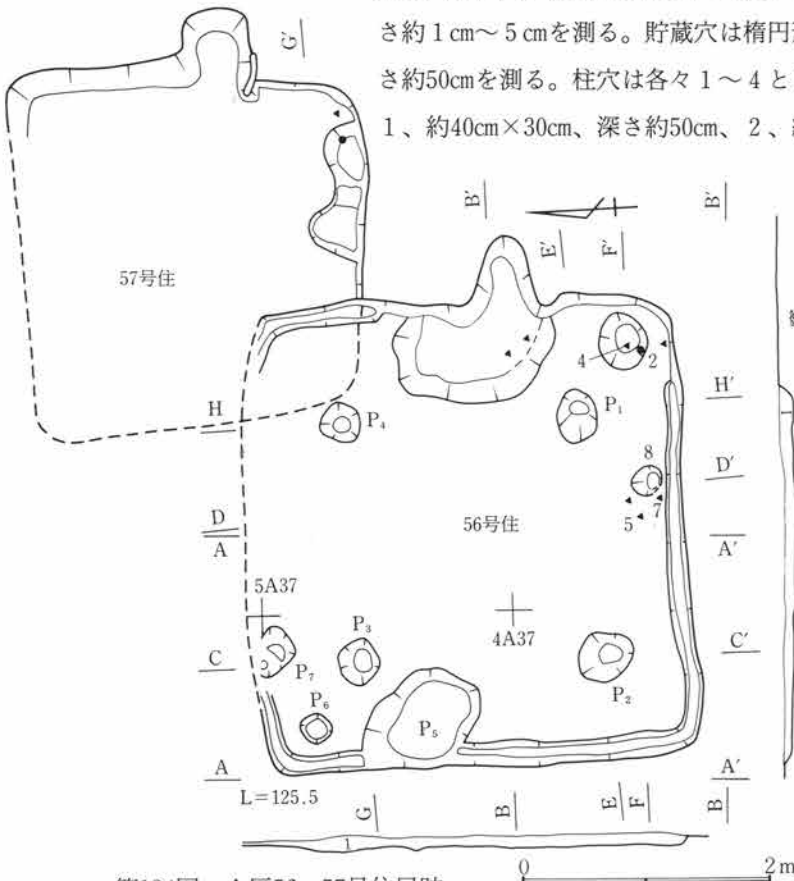
第122図 A区54号住居跡出土遺物(2)



第123図 A区54号住居跡出土遺物(3)

A区56号住居跡 (第124・125・126・128・129図、第10・73・74図版)

A区南部に位置し3~5A35~37の範囲にある。52号住居跡の西にある。他の遺構との関係は南壁で63号址、西北部で57号住居跡と重複している。新旧関係は57号住居跡・63号址より新しい。また北壁の一部は遺跡内を東西に走る現代の水路により確認できなかった。規模は長辺3.8m、短辺3.6mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-90°-Eである。壁高は約10cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、四周に壁周溝、南



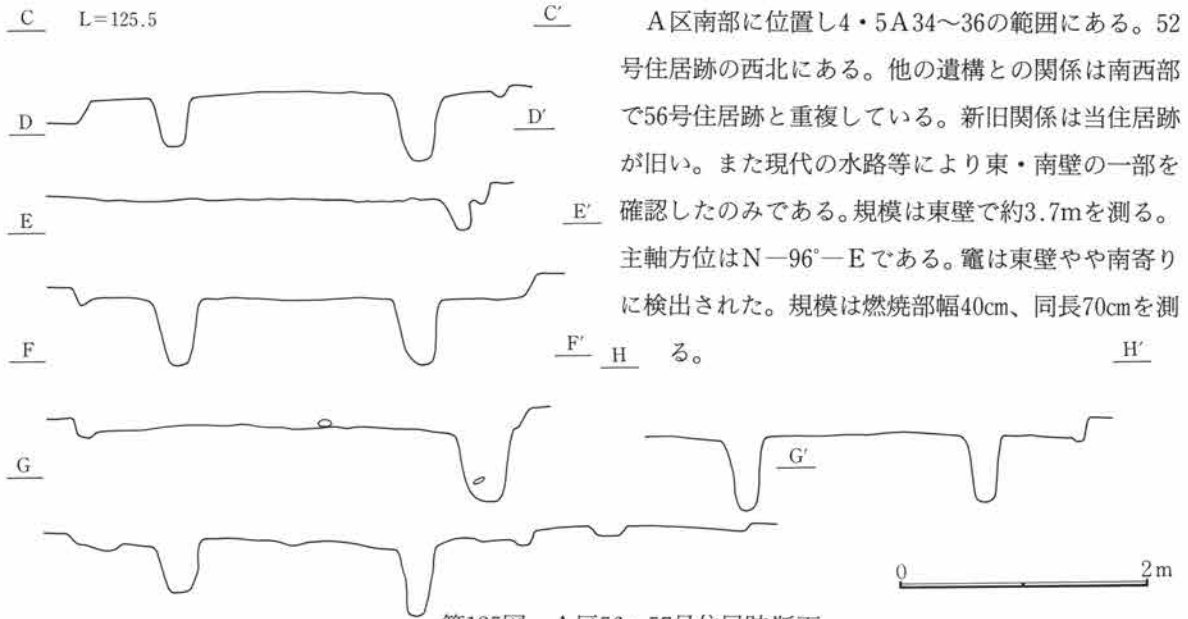
第124図 A区56・57号住居跡

東隅に貯蔵穴、床面には柱穴・小穴が検出された。壁周溝は幅約15cm、深さ約1cm~5cmを測る。貯蔵穴は楕円形を呈し、規模は約50cm×35cm、深さ約50cmを測る。柱穴は各々1~4とした。形状は楕円形を呈し、規模は1、約40cm×30cm、深さ約50cm、2、約50cm×40cm、深さ約50cm、3、約45cm×30cm、深さ約40cm、4、径約30cm、深さ約50cmを測る。小穴は4基検出され、各々5~8とした形状は楕円形を呈し規模は5、約1m×70cm、深さ約2cm~5cm、6、径約25cm、深さ約5cm~6cm、7、約40cm×25cm、深さ約7cm~8cm、8、径約25cm、深さ約10cmを測る。1~4は配置深さ等から柱穴と思われる。4基の深さもほぼ一定している。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃烧部幅60cm、同長60cmを測る。

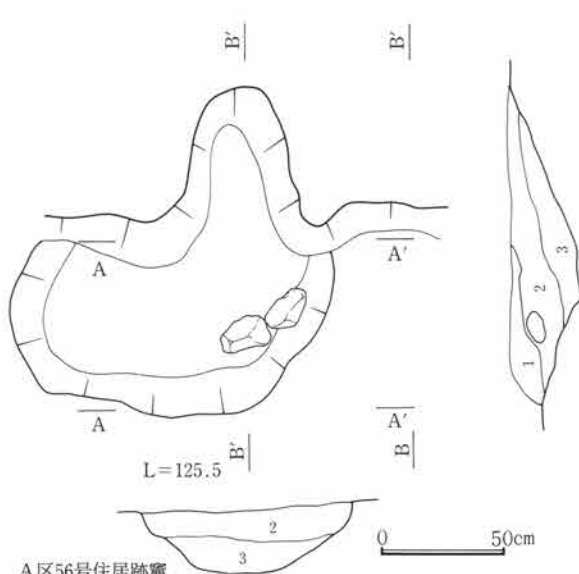
A区56号住居跡

- 1 暗褐色土層 C 軽石細粒多量、ローム粒小ブロック含む

A区57号住居跡 (第124・125・127・130図、第10・74図版)



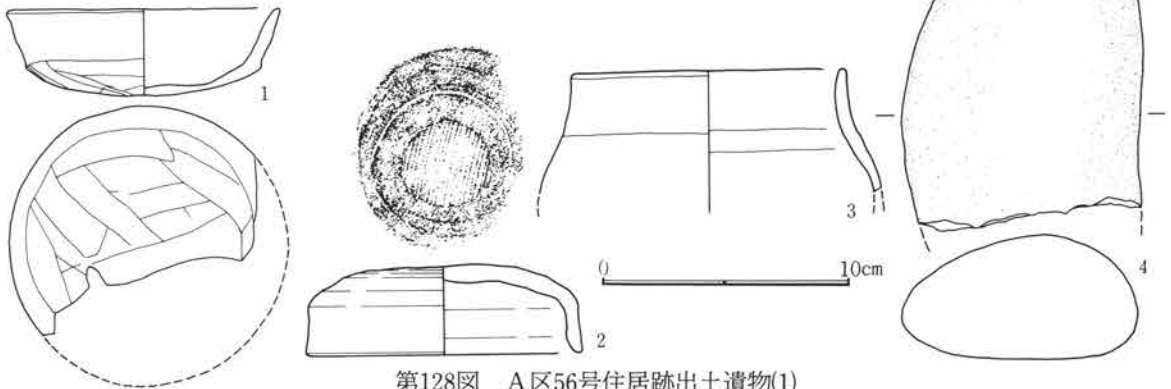
第125図 A区56・57号住居跡断面



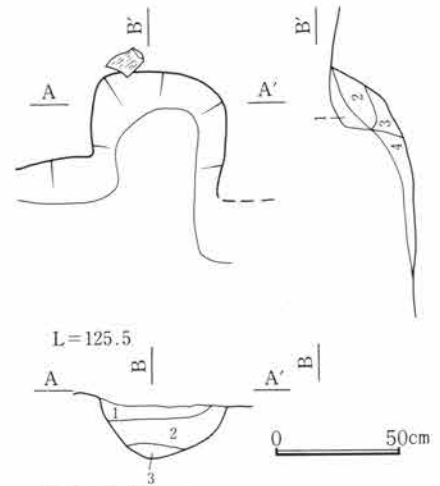
A区56号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C 軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C 軽石微量、焼土、粘土ブロック多量に含む
- 3 暗褐色土層 C 軽石、ローム粒少量含む

第126図 A区56号住居跡竈



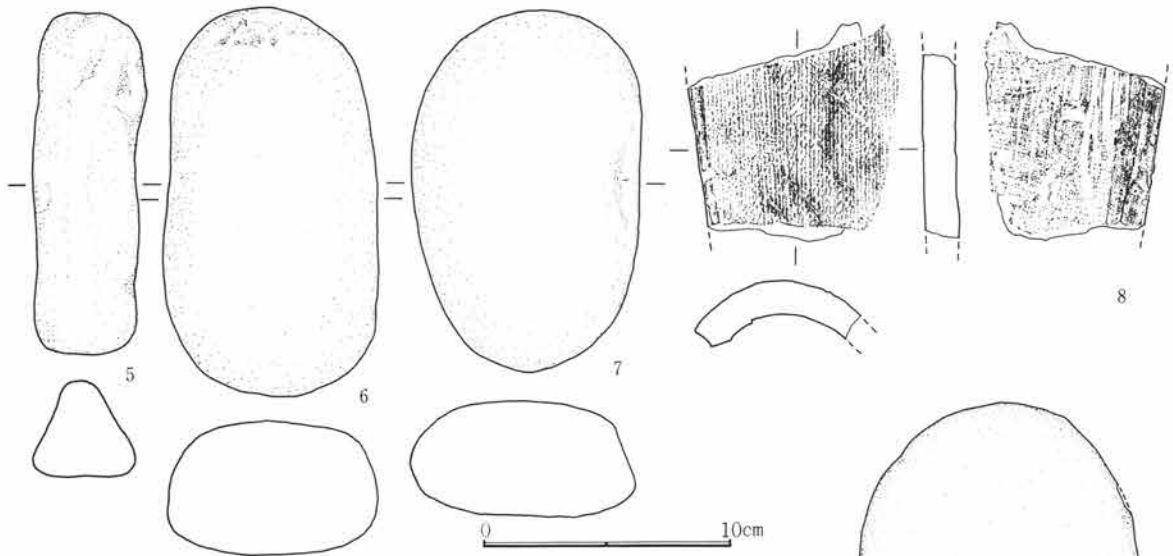
第128図 A区56号住居跡出土遺物(1)



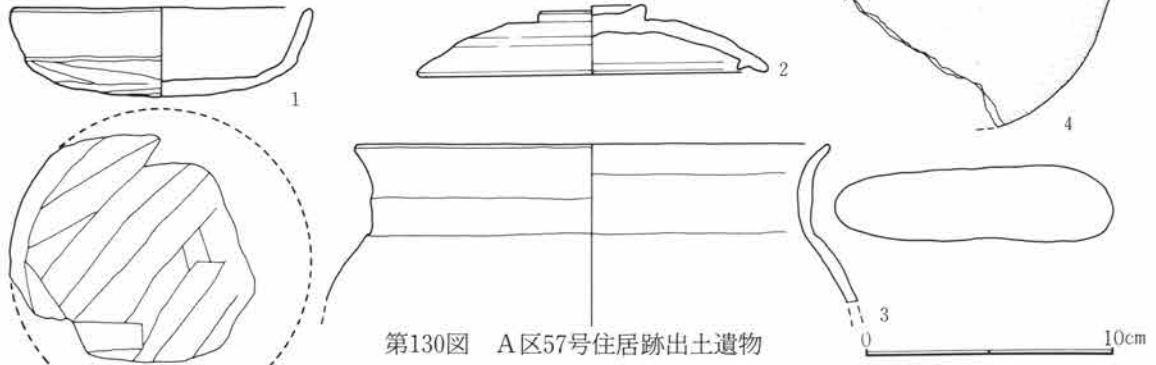
A区57号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C 軽石少量含む
- 2 暗褐色土層 焼土粒少量含む
- 3 暗褐色土層 焼土ブロック多量に含む
- 4 黒色灰層

第127図 A区57号住居跡竈

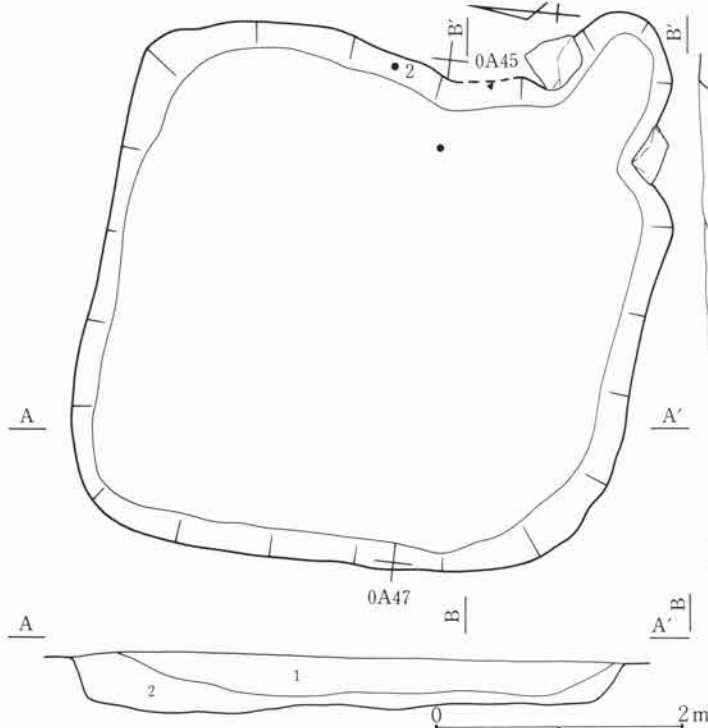


第129図 A区56号住居跡出土遺物(2)



第130図 A区57号住居跡出土遺物

A区58号住居跡 (第131・132・133図、第11・74図版)

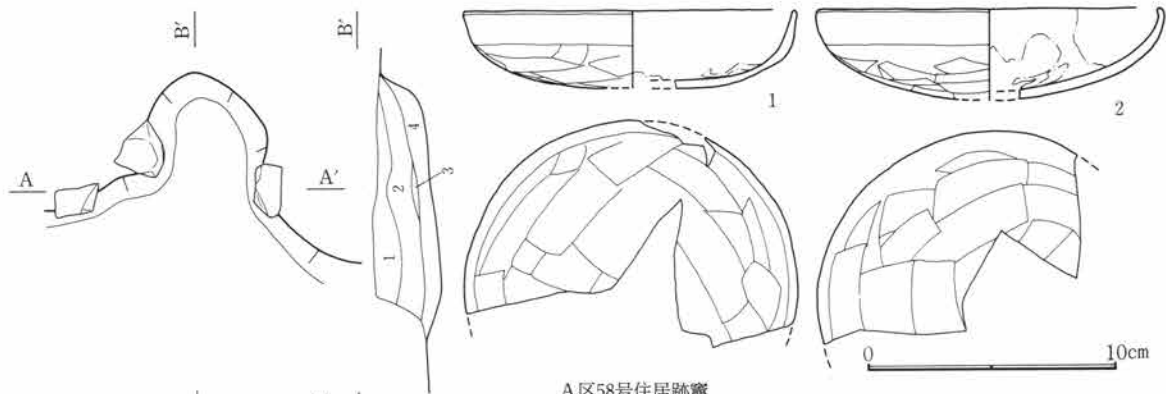


第131図 A区58号住居跡

A区南西部に位置し49Z～A1A 44～47の範囲にある。58号住居跡の西にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺4.7m、短辺4.25mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-92°-Eである。壁高は約40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は南東隅に検出された。竈の左壁面に2個、右壁面に1個竈構築材の一部と思われる人頭大の石が検出された。竈は南東隅に付設し住居跡の主軸方位にやや南にふれN-107°-Eである。規模は燃焼部幅80cm、同長1.2mを測る。

A区58号住居跡

- 1 暗褐色土層 C 軽石細粒多量に含む
- 2 暗褐色土層 C 軽石微量、ローム粒多量に含む



A区58号住居跡竈

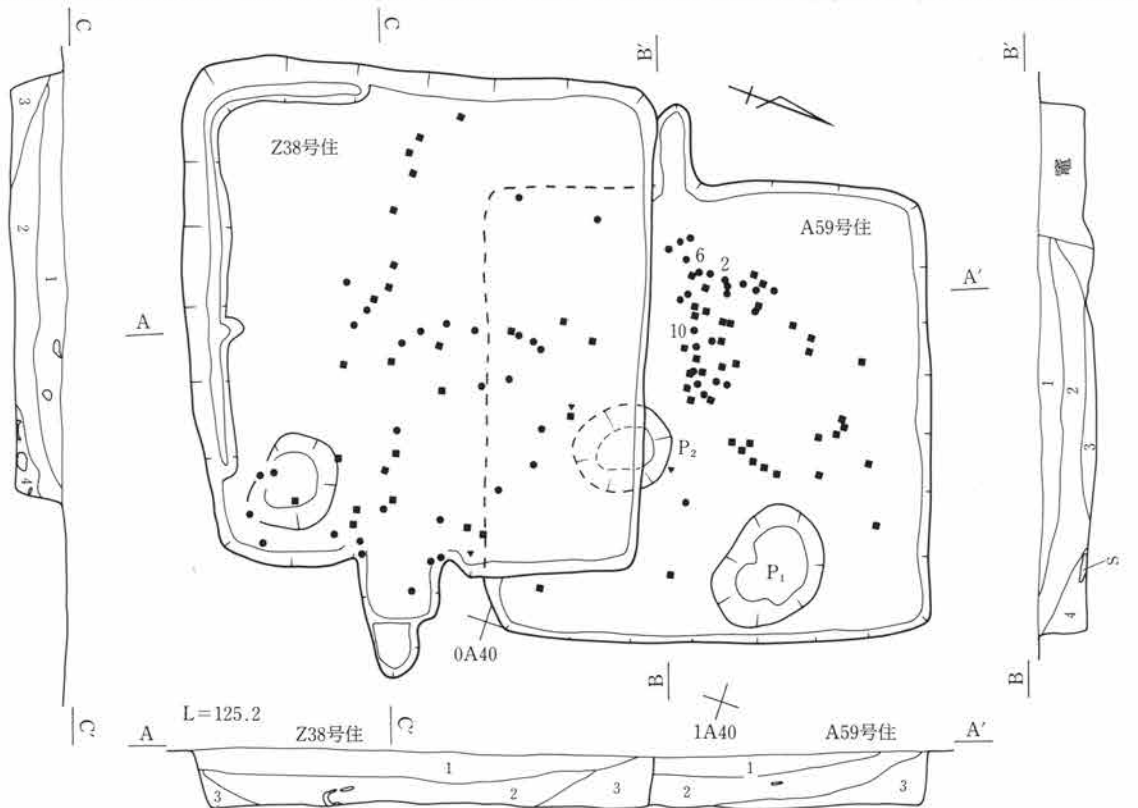
- 1 暗褐色土層 C軽石少量、白灰色粘土ブロック多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石少量、白灰色粘土粒、焼土細粒微量に含む
- 3 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 4 暗褐色土層 焼土粒多量に含む

第133図 A区58号住居跡出土遺物

第132図 A区58号住居跡竈

A区59号住居跡 (第134・135・137・138図、第11・74・75図版)

A区南西部に位置しZ49～A1A40～42の範囲にある。56号住居跡の南西にある。他の遺構との関係は南半部でZ区38号住居跡と重複している。新旧関係はZ区38号住居跡が新しい。規模は長辺3.7m、短辺3.55mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-70°-Eである。壁高は約40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。床面はほぼ平坦をなし、中央部と東部に2基の小穴が検出された。各々1・2とした。形状は2基ともに楕円形を呈し、規模は1、約1.1m×75cm、深さ



Z区38号住居跡

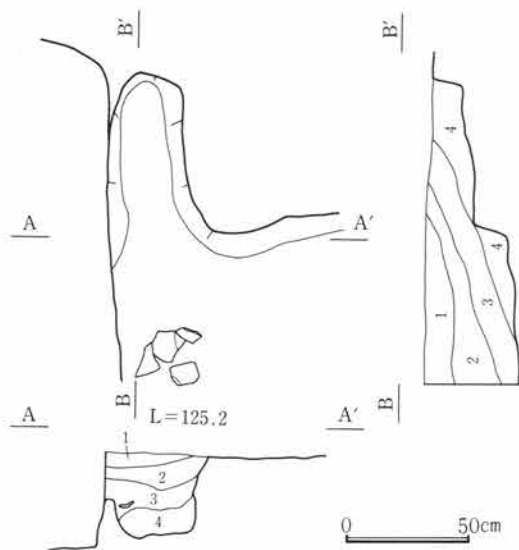
- 1 暗褐色土層 C軽石、ローム大ブロック多量、ローム粒少量含む
- 2 暗褐色土層 C軽石、ローム中ブロック少量、ローム粒多量に含む
- 3 暗褐色土層 C軽石、ローム小ブロック、ローム粒多量に含む
- 4 暗褐色土層 粘質土ブロック、焼土ブロック多量に含む

A区59号住居跡

- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石、ローム小ブロック少量含む
- 3 暗褐色土層 ローム粒、ブロック多量に含む
- 4 暗褐色土層 C軽石、ローム粒少量含む

第134図 A区59号住居跡・Z区38号住居跡

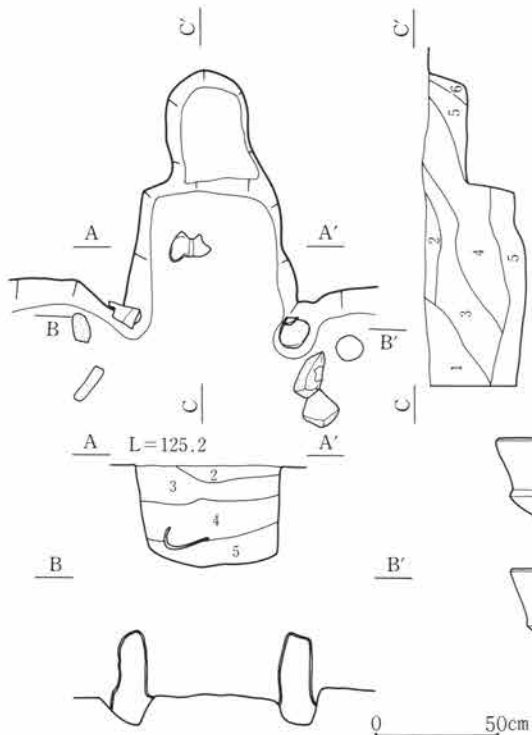
第4章 検出された遺構・遺物



A区59号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石細粒少量含む
- 2 暗褐色土層 C軽石微量、炭化物少量含む
- 3 暗褐色土層 灰粘土ブロック・粒多量、焼土粒少量含む
- 4 暗褐色土層 灰多量、焼土少量含む

第135図 A区59号住居跡竈



Z区38号住居跡竈

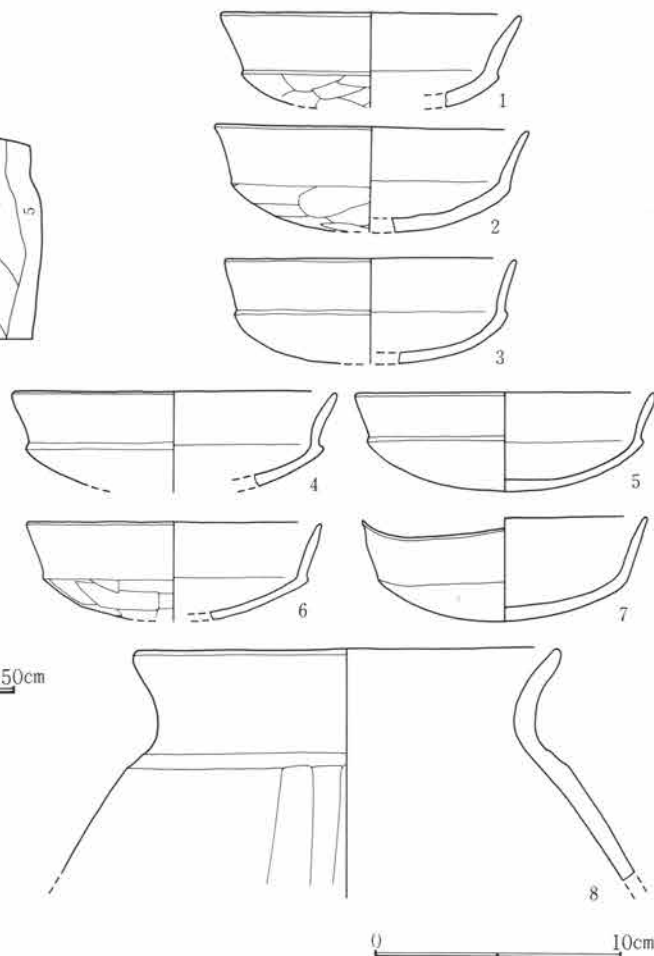
- 1 暗褐色土層 C軽石含む
- 2 暗褐色土層 C軽石、焼土粒含む
- 3 暗褐色土層 C軽石微量に含む
- 4 暗褐色土層 C軽石焼土粒含む
- 5 暗褐色土層 焼土粒、灰褐色土ブロック含む
- 6 暗褐色土層 灰多量に含む

第136図 Z区38号住居跡竈

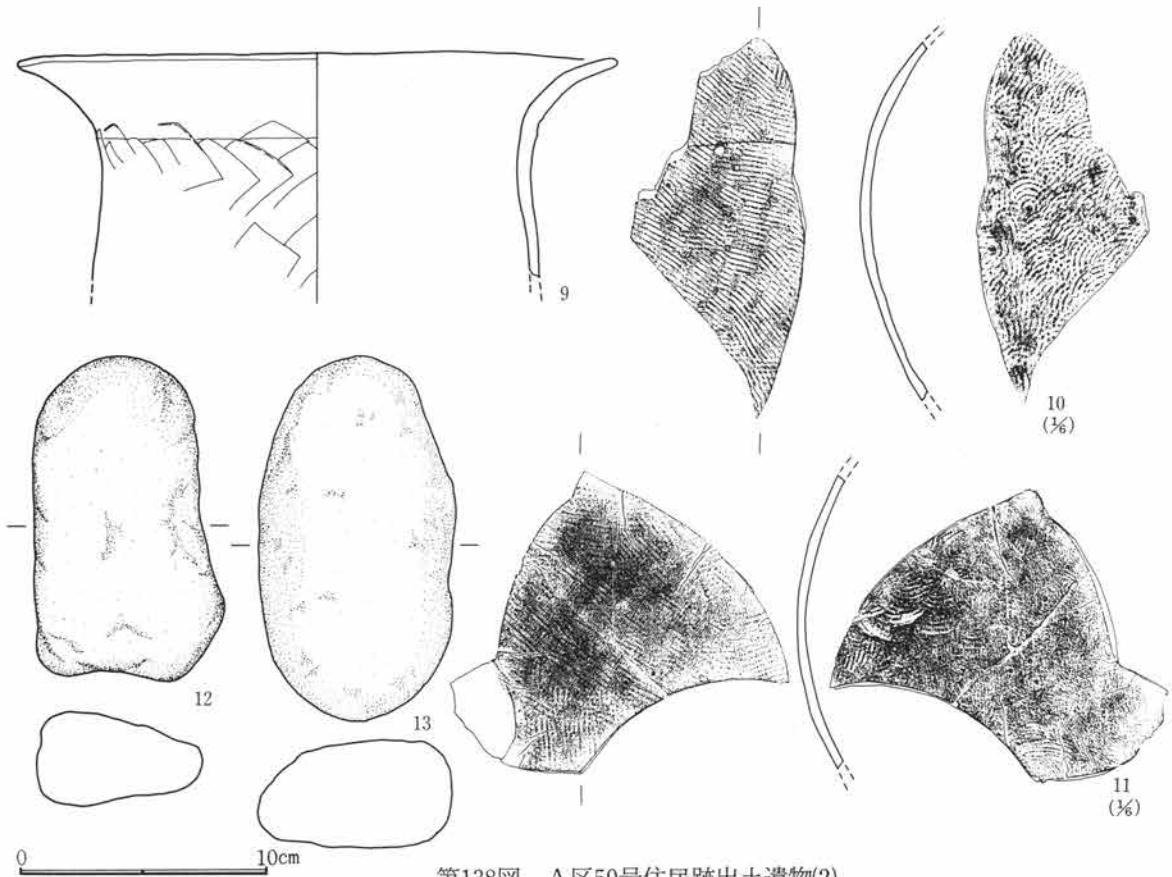
約25cm、2、約80cm×70cm、深さ約15cmを測る。竈は西壁ほぼ中央に検出された。竈の南側一部はZ区38号住居跡により壊されている。規模は燃烧部幅40cm、同長70cmを測る。

Z区38号住居跡（第134・136・139・140・141図、第41・42・75・76図版）

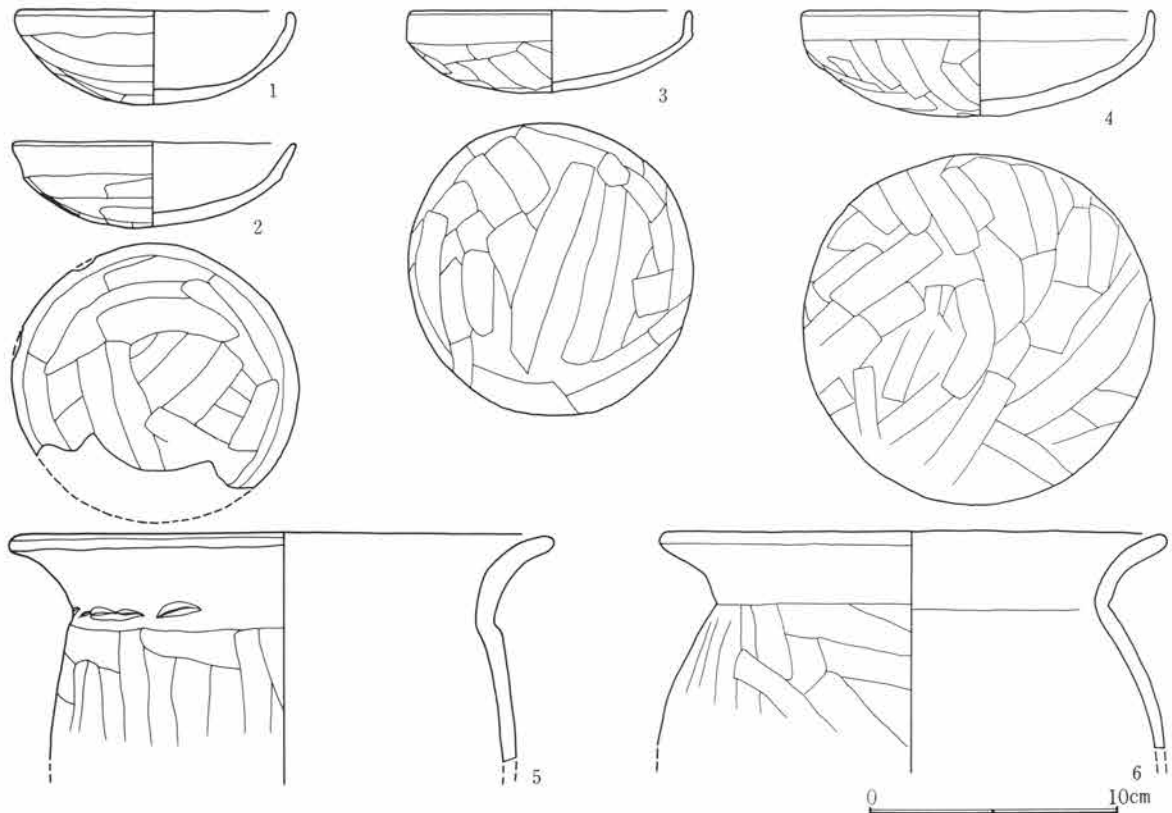
Z区西北部に位置し48～0 Z 39～41の範囲にある。A区50号住居跡の南西にある。他の遺構との関係は北半部を59号住居跡と重複している。新旧関係は38号住居跡が新しい。規模は長辺4.1m、短辺3.8mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-73°-Eである。壁高は約40cm～50cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、南東コーナーに貯蔵穴と思われる小穴が検出された。規模は80cm×60cm、深さ約5～6cmを測る。南西両壁に壁周溝が検出された。幅約15cm～20cm、深さ約5cm～6cmを測る。竈は東壁に検出された。規模は袖幅70cm、同長50cm、煙道部長45cmを測る。



第137図 A区59号住居跡出土遺物(1)



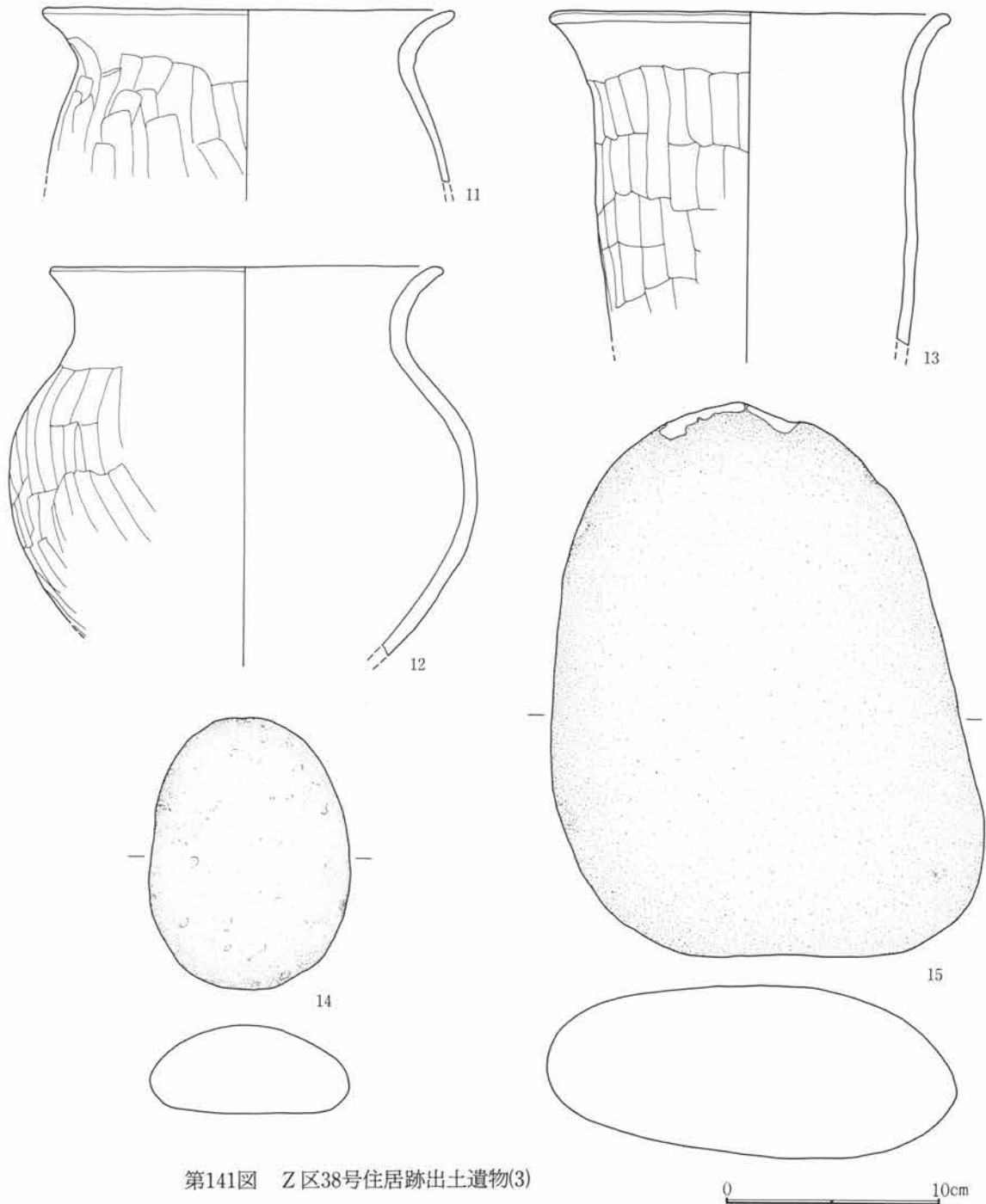
第138図 A区59号住居跡出土遺物(2)



第139図 Z区38号住居跡出土遺物(1)



第140図 Z区38号住居跡出土遺物(2)

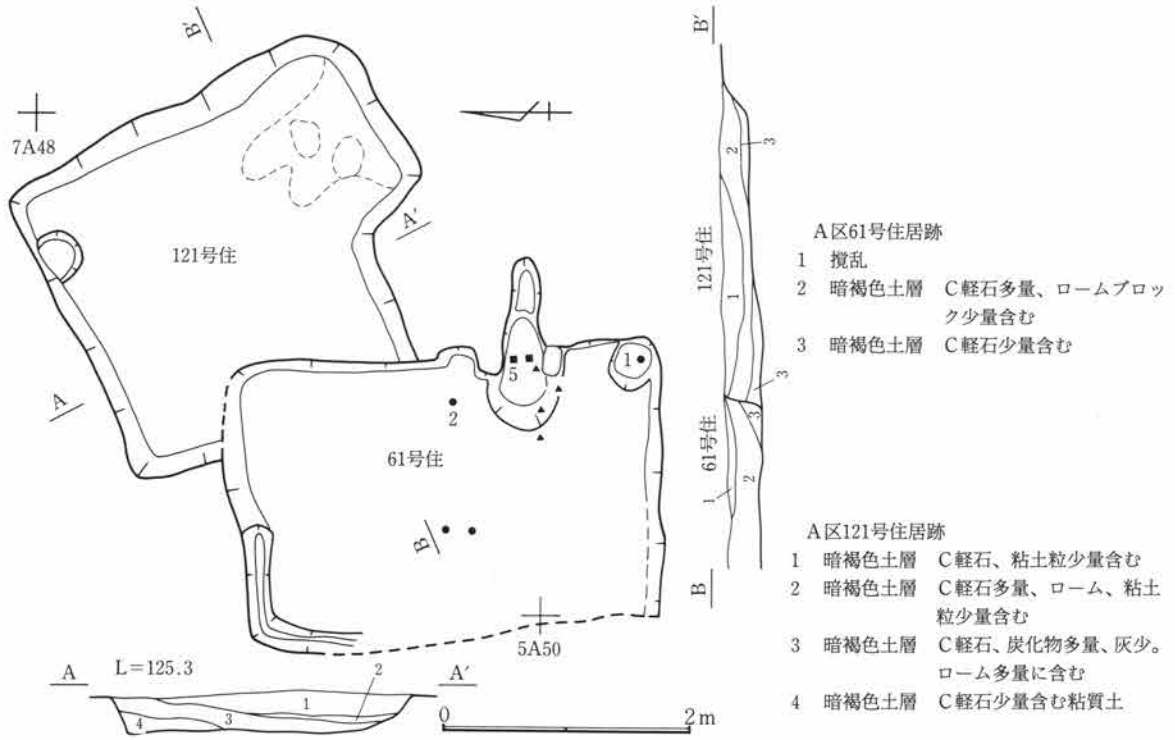


第141図 Z区38号住居跡出土遺物(3)

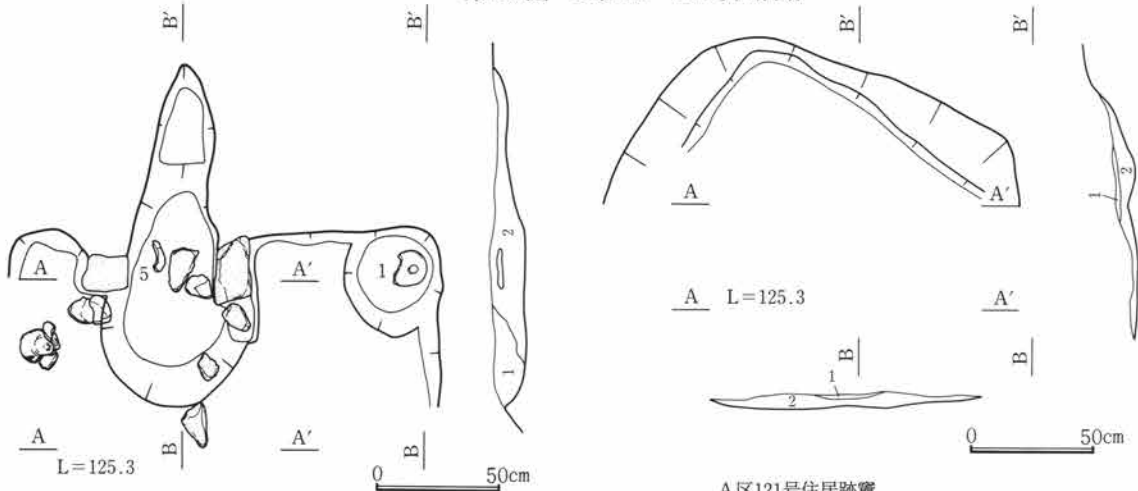
A区61号住居跡 (第142・143・145・146図、第11・76図版)

A区南西部に位置し4~6A 48~50の範囲にある。59号住居跡の西北にある。他の遺構との関係は北東部で121号址と重複している。新旧関係は61号住居跡が新しい。西壁の一部は調査区域外へ延びるため完掘されていない。規模は長辺3.6m、短辺2.45mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-89°-Eである。壁高は約20cm~25cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、北・西壁際に壁周溝、南東隅に貯蔵穴が検出された。柱穴は検出されていない。壁周溝は幅約15cm~25cm、深さ約4cm~7cmを測る。貯蔵穴は楕円形を呈し、規模約45cm×40cm、深さ約10cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。竈左側壁面と前面に構築材と思われる石が検出された。規模は燃烧部幅50cm、同長50cm、煙道部長50cmを測る。

第4章 検出された遺構・遺物



第142図 A区61・121号住居跡



A区61号住居跡竈

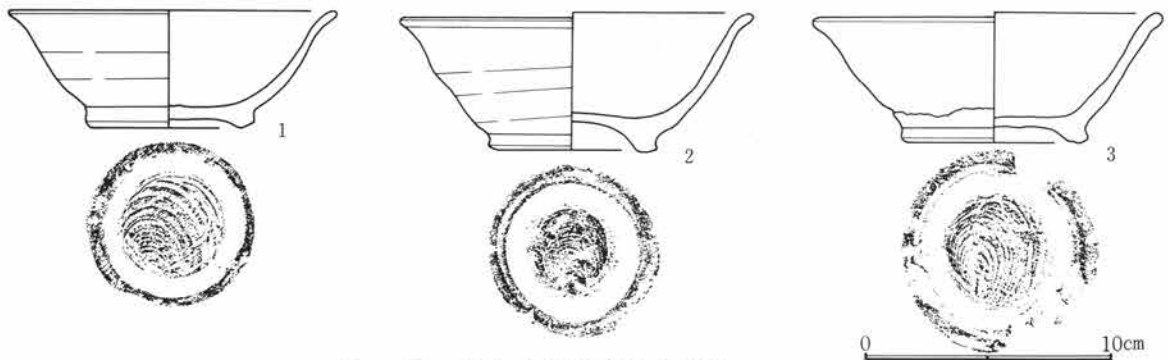
- 1 暗褐色土層 ロームブロック含む
- 2 暗褐色土層 焼土粒、炭化物少量含む

第143図 A区61号住居跡竈

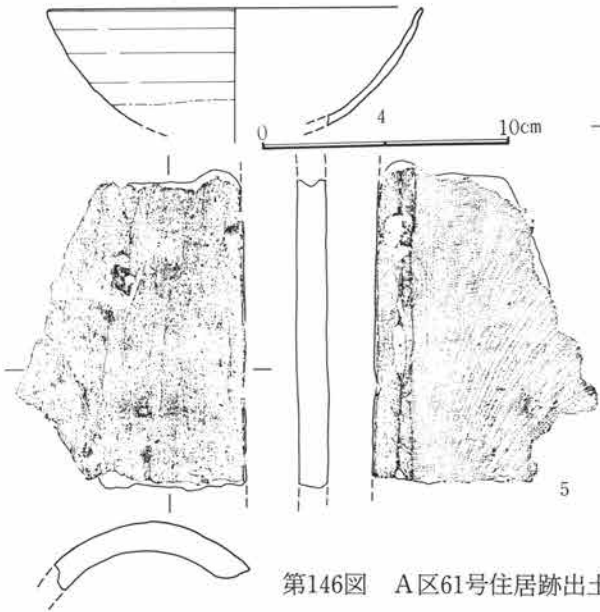
A区121号住居跡竈

- 1 黑色灰層
- 2 暗褐色土層 灰多量、焼土粒少量含む

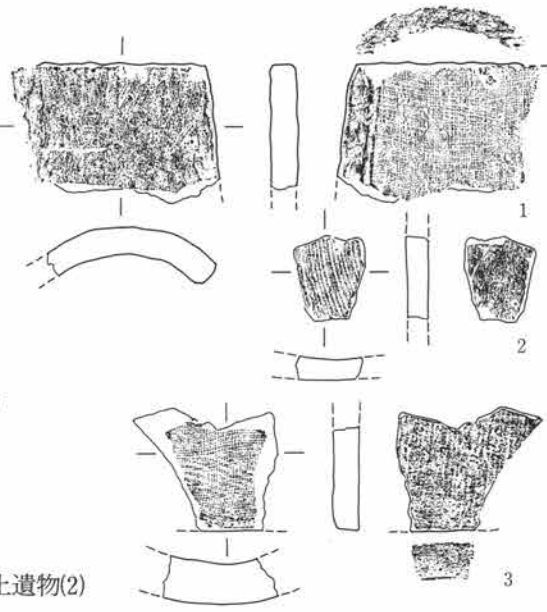
第144図 A区121号住居跡竈



第145図 A区61号住居跡出土遺物(1)



第146図 A区61号住居跡出土遺物(2)



第147図 A区121号住居跡出土遺物

A区63号址 (第148図)

A区南部に位置し2・3A34~36の範囲にある。52号住居跡の西にある。他の遺構との関係は北部で56号住居跡、南部で50号住居跡と重複している。



第148図 A区63号址

52号住居跡の西にある。他の遺構との関係は北部で56号住居跡、南部で50号住居跡と重複している。新旧関係は50号住居跡・56号住居跡が新しい。規模は約3.1m×1.8mである。底面は平坦で壁高は約20cmを測る。竈は検出されていないことや形状・規模等から住居跡とは認めがたく土坑とした。

A区63号址

- 1 暗褐色土層 C軽石多量、ロームブロック少量含む
- 2 暗褐色土層 C軽石、ロームブロック多量に含む
- 3 暗褐色土層 C軽石多量に含む

A区65号住居跡 (第149・150・151・152・153図、第11・12・77・173図版)

A区65号住居跡

- 1 暗褐色土層 C軽石大粒多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石多量、ローム粒少量含む

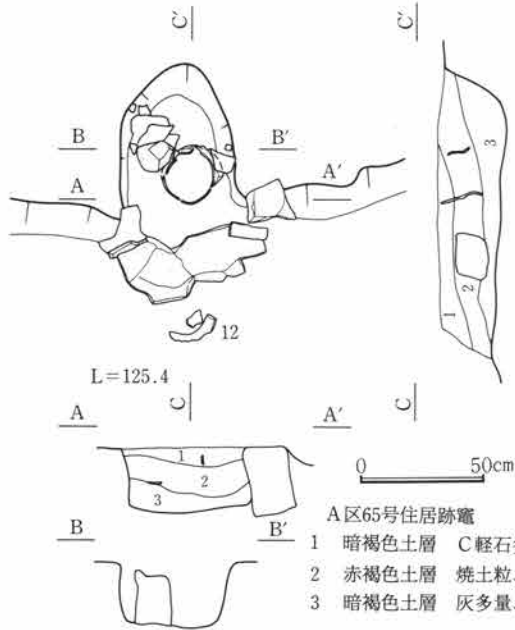


第149図 A区65号住居跡

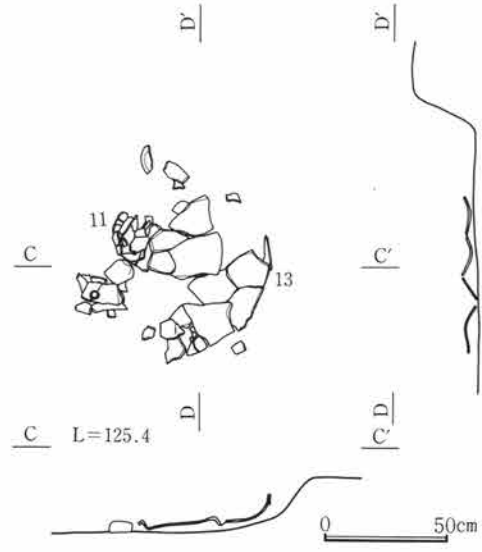
A区南西部に位置し7~9A45~47の範囲にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺5.3m、短辺3.1mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-82°-Eである。壁高は約20cm~25cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。竈両袖部には石が付設されている。また燃焼部前面には天井石と思われる石が検出され

第4章 検出された遺構・遺物

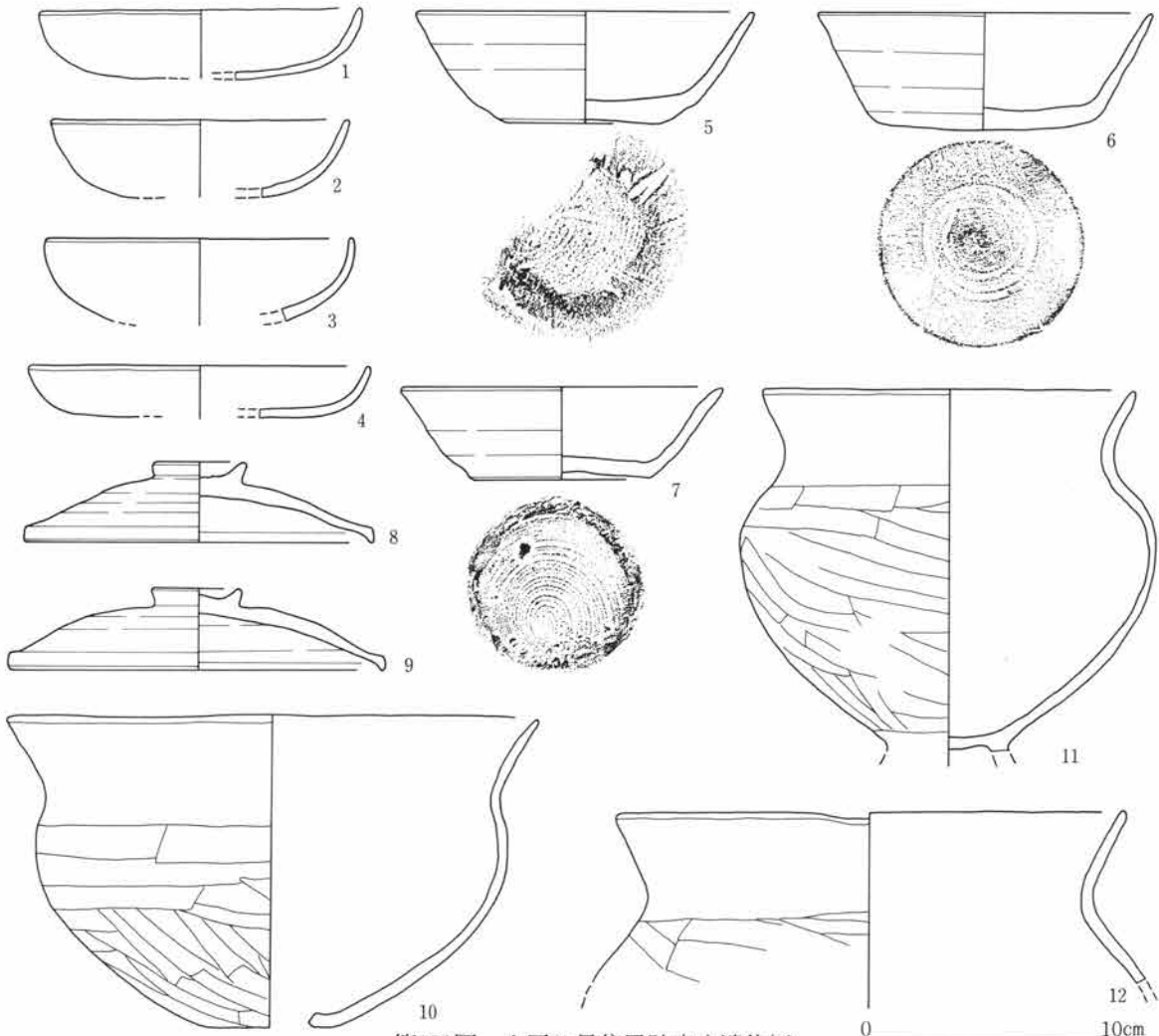
た。規模は袖幅60cm、燃焼部長80cmを測る。



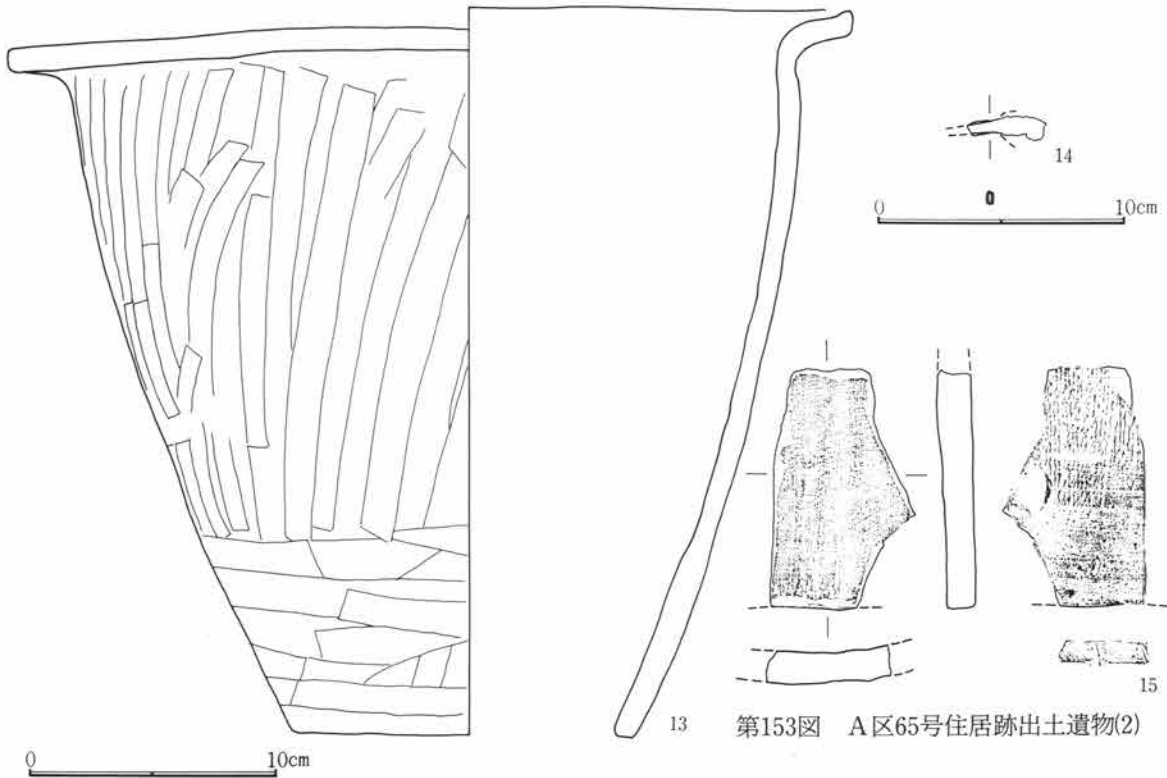
第150図 A区65号住居跡竈



第151図 A区65号住居跡内遺物集中部



第152図 A区65号住居跡出土遺物(1)



第153図 A区65号住居跡出土遺物(2)

A区66号住居跡 (第154・155・158図、第12・77・78図版)

A区南西部に位置し6~8A48~50の範囲にある。65号住居跡の西にある。西部調査区域外へ延びるため完掘されていない。他の遺構との関係は北部で111号住居跡と重複している。新旧関係は111号住居跡が新しい。規模は南壁で約3.8mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-70°-Eである。壁高は約15cm~25cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁に検出された。竈の両袖部は床面に張り出して地山を掘り残して検出された。規模は袖幅80cm、燃烧部長1.1m、煙道部長70cmを測る。

A区67号住居跡 (第154・156・159図、第12・78図版)

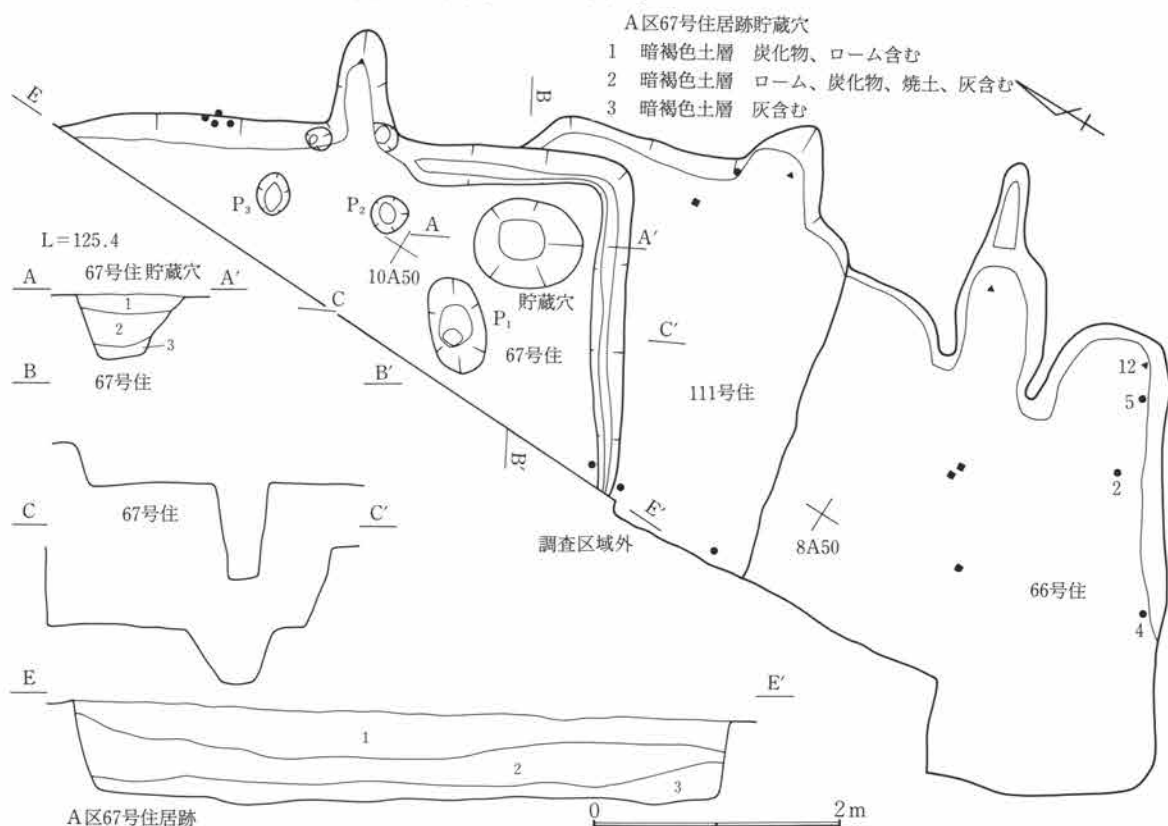
A区南西部に位置し8~11A49・50の範囲にある。65号住居跡の西にある。西部の大半は調査区域外へ延びている。他の遺構との関係は南部で111号住居跡と重複している。新旧関係は111号住居跡が新しい。規模は東壁残存部で3.6m、南部で3.2mを測る。平面形態は隅丸方形を呈すると思われる。主軸方位は竈長軸でN-63°-Eである。壁高は約60cm~70cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、東・南壁に壁周溝、南東隅に貯蔵穴、他に小穴が3基検出された。柱穴は検出されていない。壁周溝は幅約15cm~20cm、深さ約3cm~4cmを測る。貯蔵穴は楕円形を呈し約90cm×70cm、深さ約40cmを測る。小穴は各々1~3とした。形状は3基共に楕円形を呈し規模は1、約80cm~45cm、深さ約25cm、2、約70cm~60cm、深さ約7cm、3、約70cm×55cm、深さ約3cmを測る。竈は東壁に検出された。規模は燃烧部幅50cm、同長90cmを測る。竈掘り方面には袖部に小穴が検出された。床面に検出された小穴2・3も掘り方面から検出され竈構造の付設的な用途が考えられる。

A区111号住居跡 (第154・157・160図、第12・78図版)

A区南西部に位置し8・9A48~50の範囲にある。65号住居跡の西にある。他の遺構との関係は南部で66号住居跡、北部で67号住居跡と重複している。新旧関係は111号住居跡が66号住居跡・67号住居跡より新しい。規模は東壁で約3mを測る。平面形態は隅丸方形を呈するものと思われる。主軸方位はN-84°-Eである。

第4章 検出された遺構・遺物

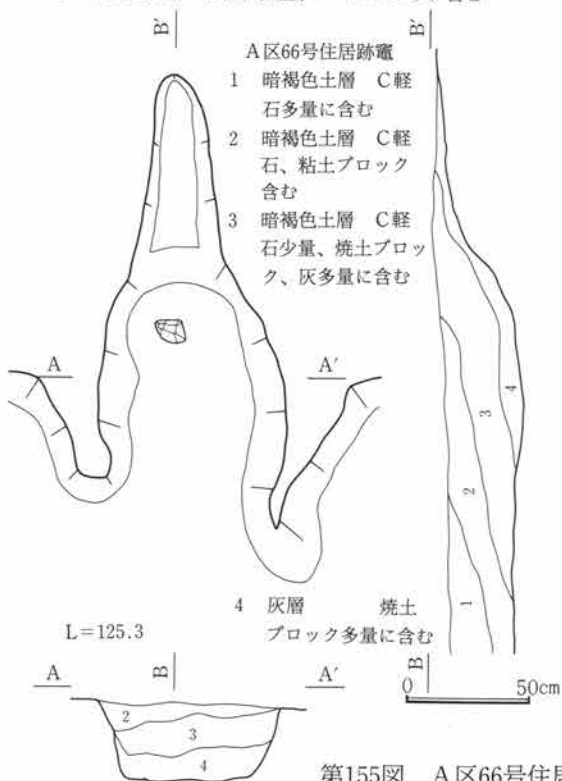
壁高は約30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁に検出された。規模は燃烧部幅70cm、同長70cmを測る。



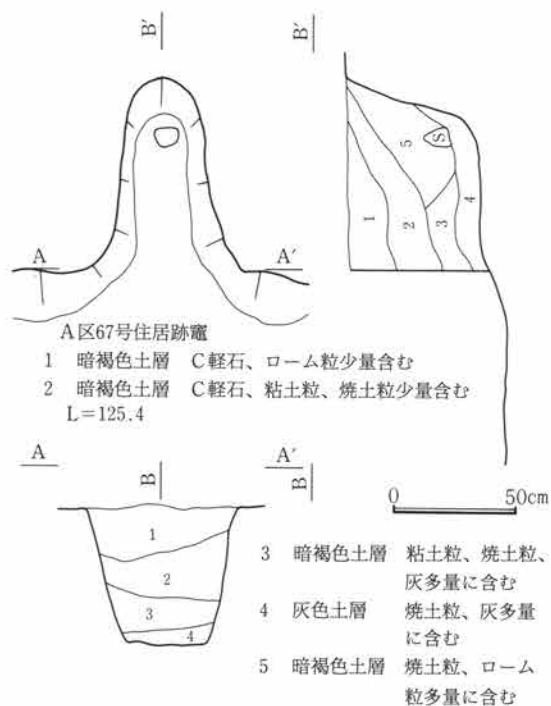
A区67号住居跡

- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石、ロームブロック含む
- 3 暗褐色土層 C軽石微量、ロームブロック含む

第154図 A区66・67・111号住居跡

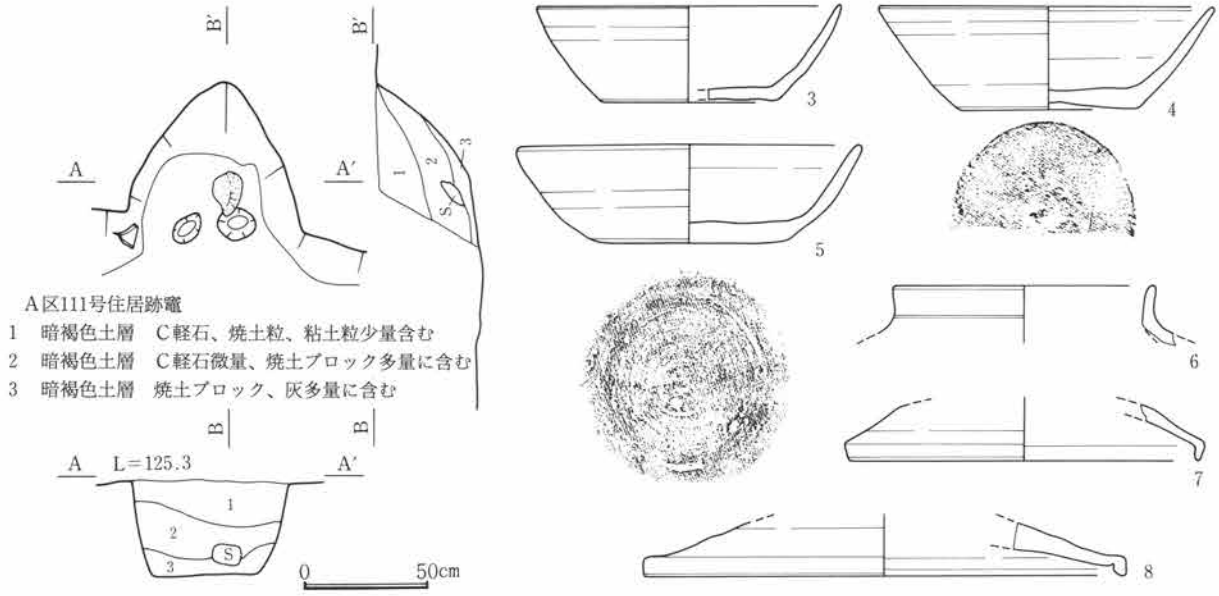


第155図 A区66号住居跡竈



第156図 A区67号住居跡竈

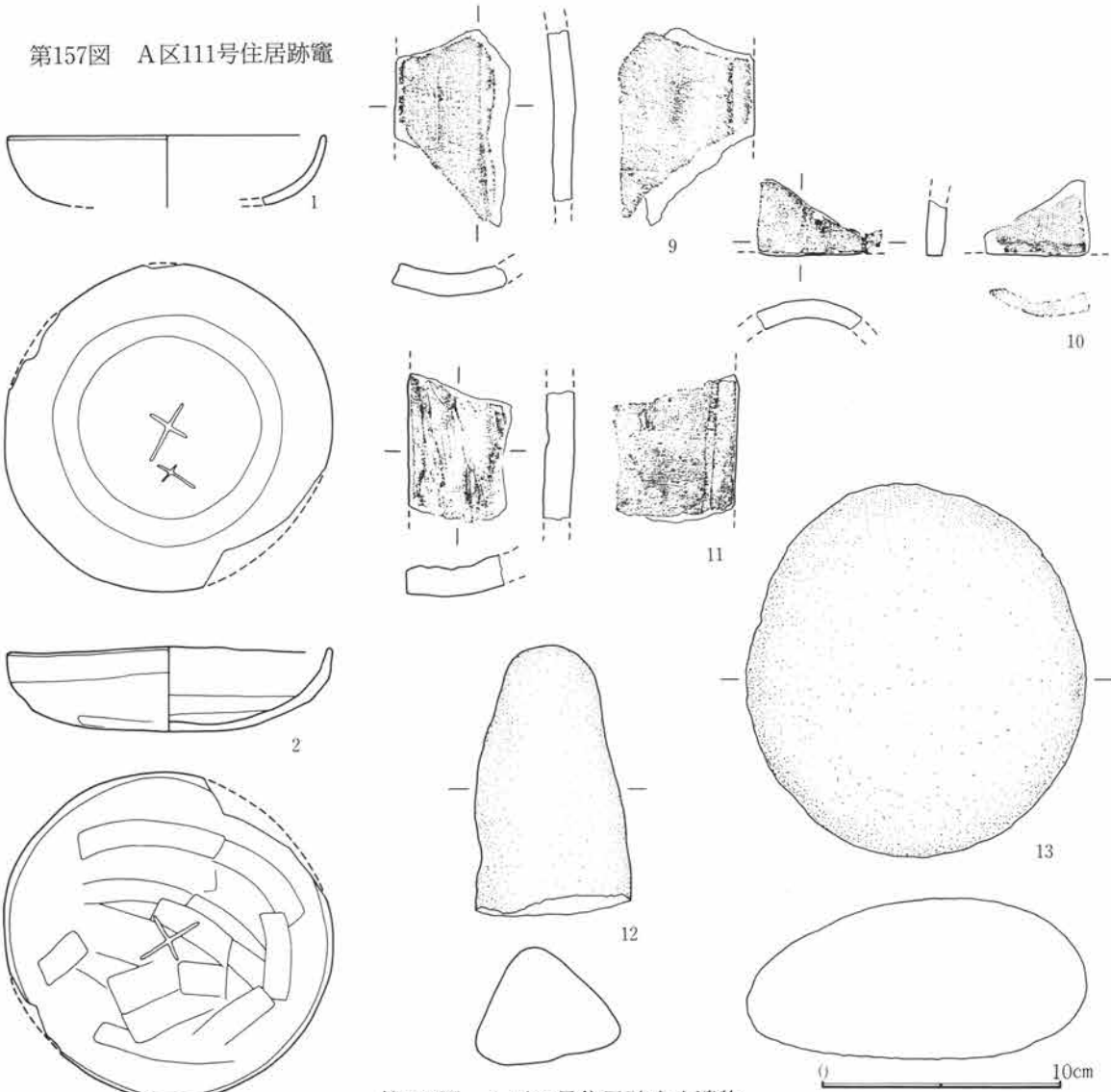
第1節 竪穴住居跡



A区111号住居跡竈

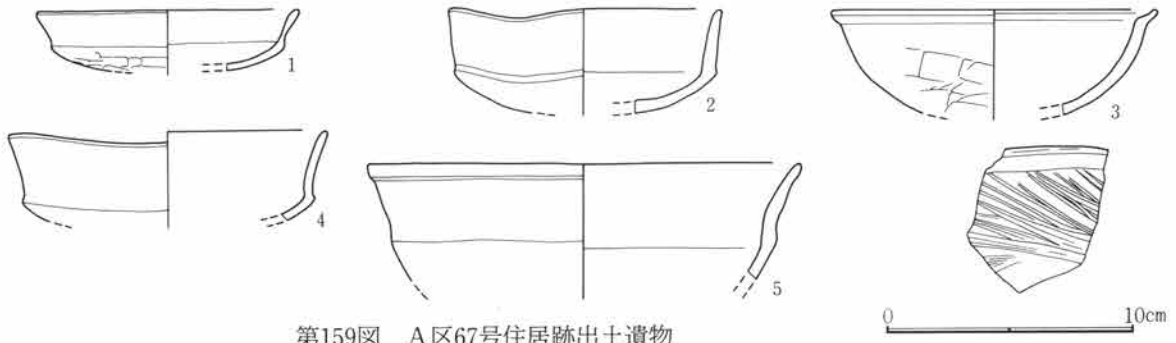
- 1 暗褐色土層 C 軽石、焼土粒、粘土粒少量含む
- 2 暗褐色土層 C 軽石微量、焼土ブロック多量に含む
- 3 暗褐色土層 焼土ブロック、灰多量に含む

第157図 A区111号住居跡竈

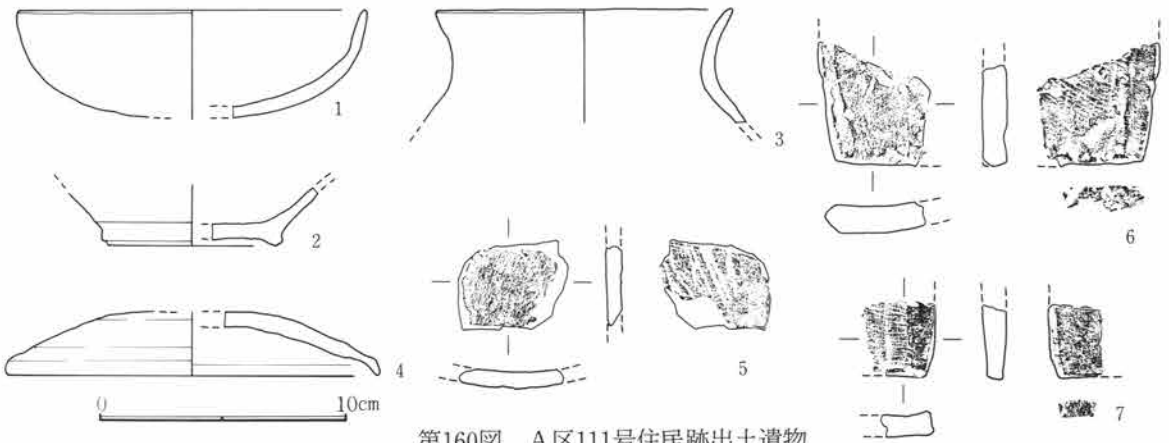


第158図 A区66号住居跡出土遺物

第4章 検出された遺構・遺物



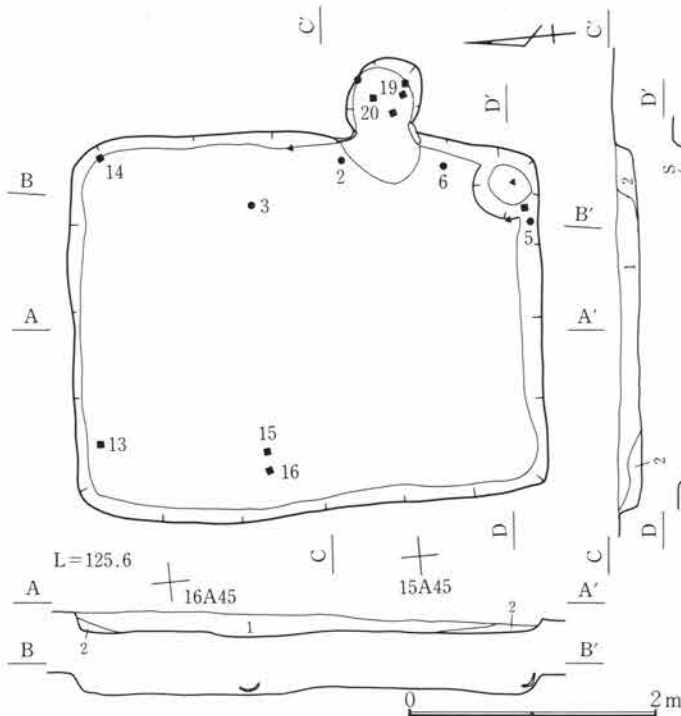
第159図 A区67号住居跡出土遺物



第160図 A区111号住居跡出土遺物

A区68号住居跡 (第161・162・163・164・165・166図、第13・78・79・80図版)

A区西部に位置し14~16A43・44の範囲にある。65号住居跡の北東にある。他の遺構との関係は北部で96号住居跡・98号住居跡・99号住居跡、南西部で91号住居跡と重複している。新旧関係は91号住居跡・96号住居跡・98号住居跡・99号住居跡より新しい。規模は長辺3.85m、短辺3.15mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-96°-Eである。壁高は約20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・柱穴等の諸施設は検出されていない。南東隅に貯蔵穴が検出された。形状は楕円形を呈し規模は径約50cm、深さ約15cmを測る。貯蔵穴内から人頭大の石が検出された。竈は東壁南寄りに検出された。右側袖部に平坦な石が立った状態で検出された。規模は燃焼部幅50cm、同長60cmを測る。

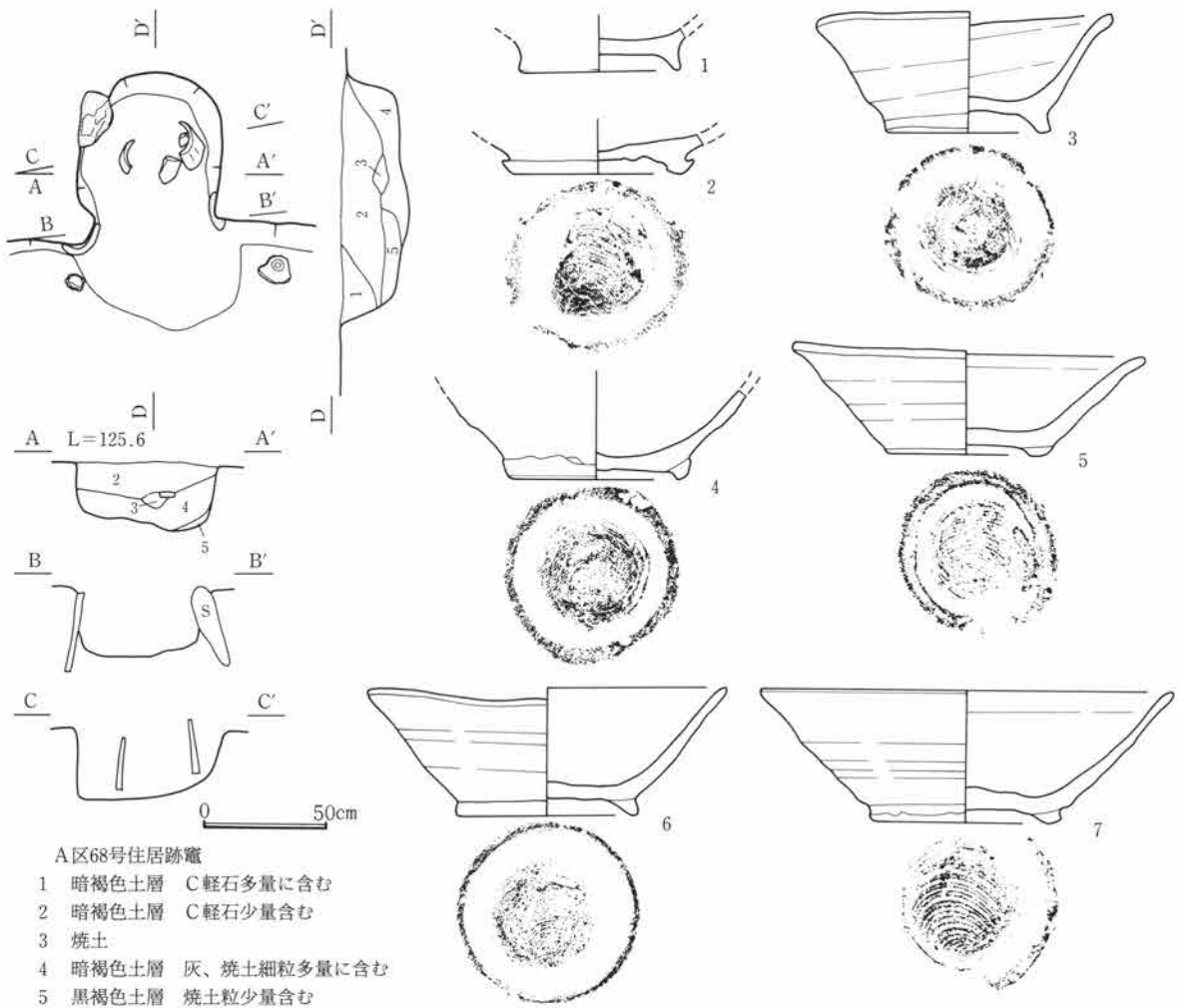


設は検出されていない。南東隅に貯蔵穴が検出された。形状は楕円形を呈し規模は径約50cm、深さ約15cmを測る。貯蔵穴内から人頭大の石が検出された。竈は東壁南寄りに検出された。右側袖部に平坦な石が立った状態で検出された。規模は燃焼部幅50cm、同長60cmを測る。

A区68号住居跡

- 1 暗褐色土層 C軽石多量、ローム粒少量含む
- 2 暗褐色土層 C軽石、炭化物、ローム粒少量含む

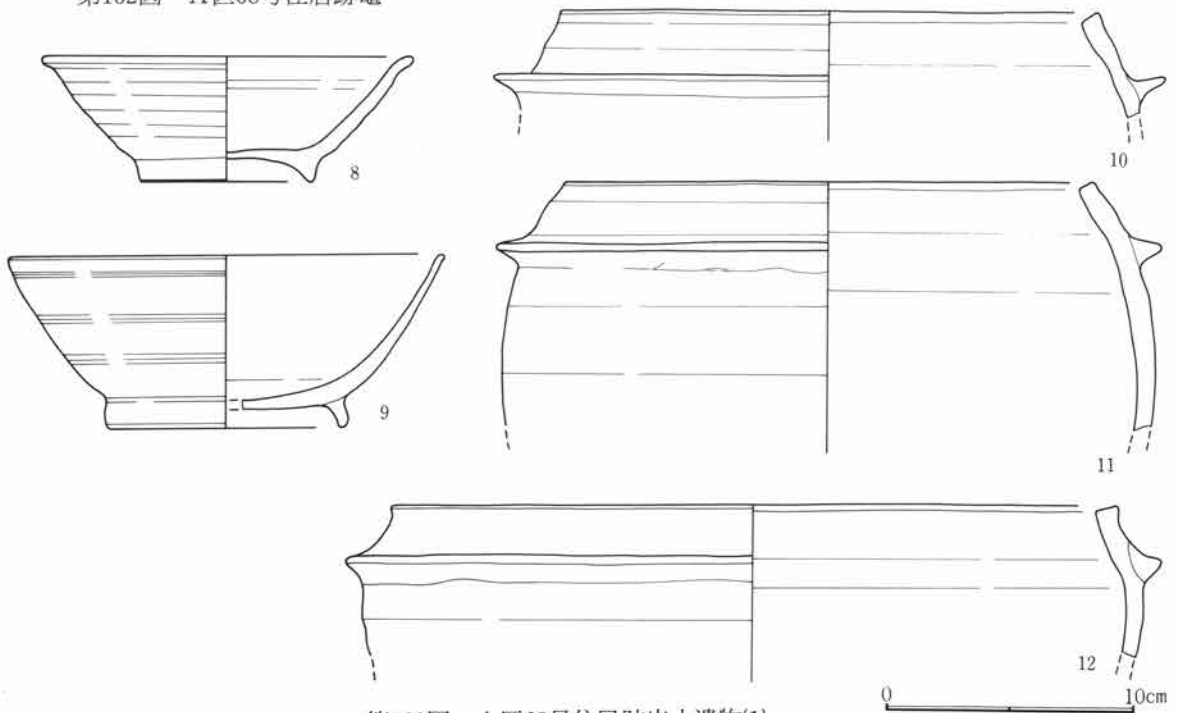
第161図 A区68号住居跡



A区68号住居跡竈

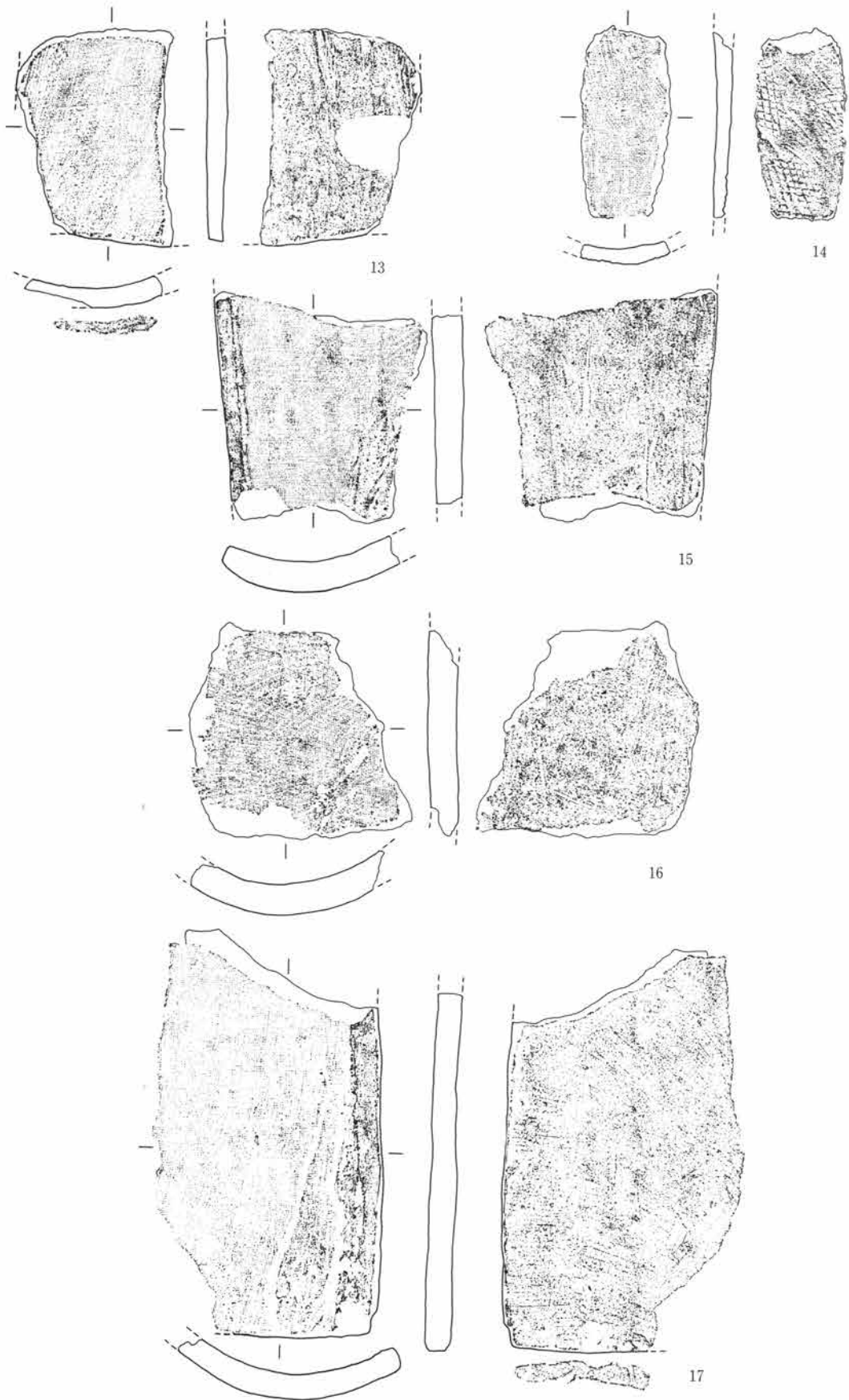
- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石少量含む
- 3 焼土
- 4 暗褐色土層 灰、焼土細粒多量に含む
- 5 黒褐色土層 焼土粒少量含む

第162図 A区68号住居跡竈

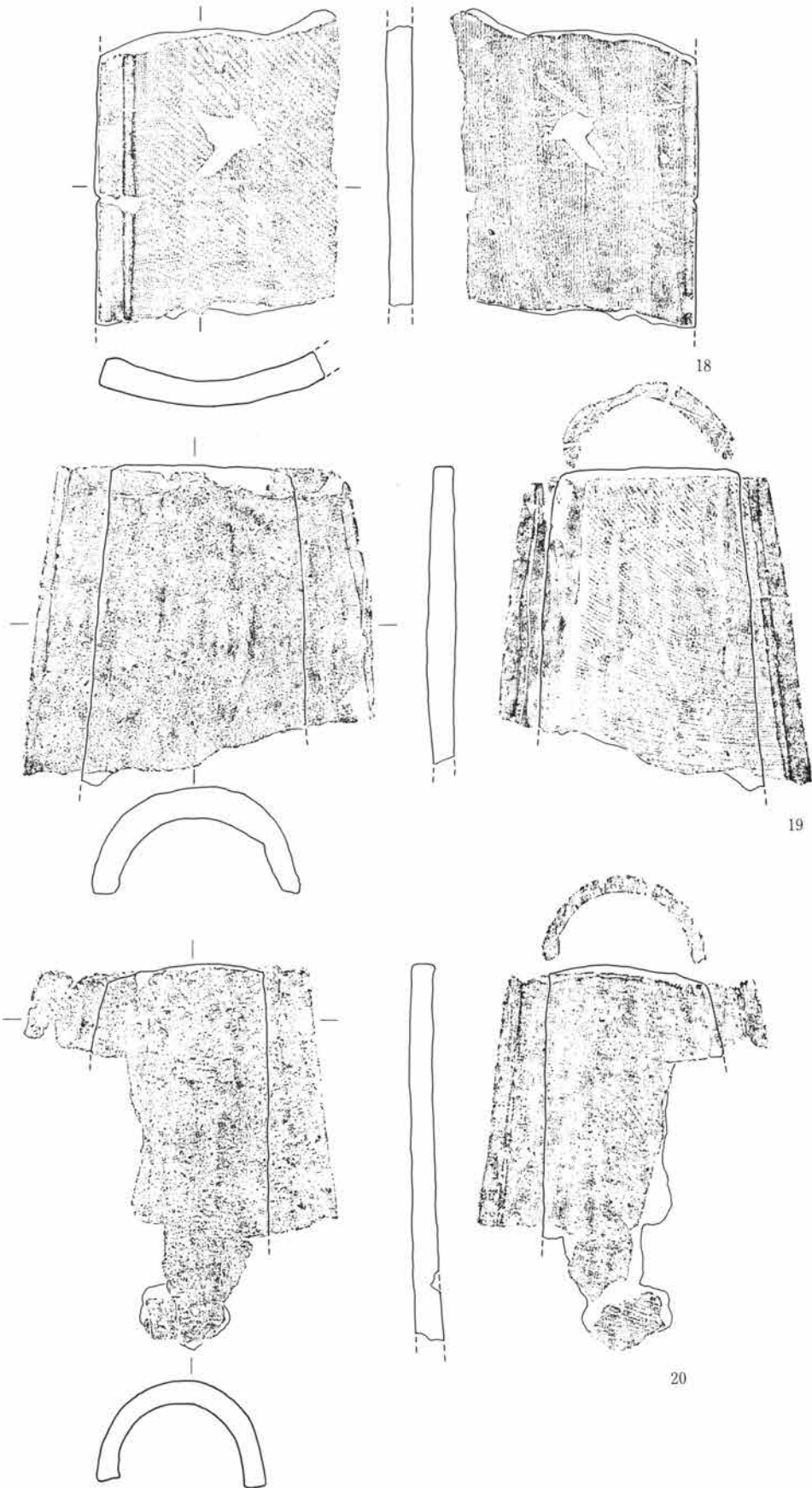


第163図 A区68号住居跡出土遺物(1)

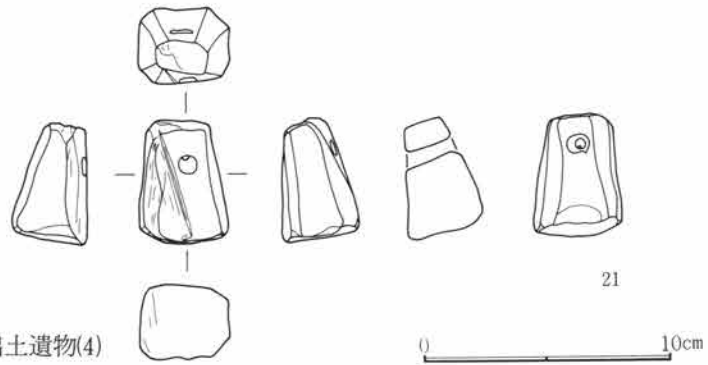
第4章 検出された遺構・遺物



第164図 A区68号住居跡出土遺物(2)



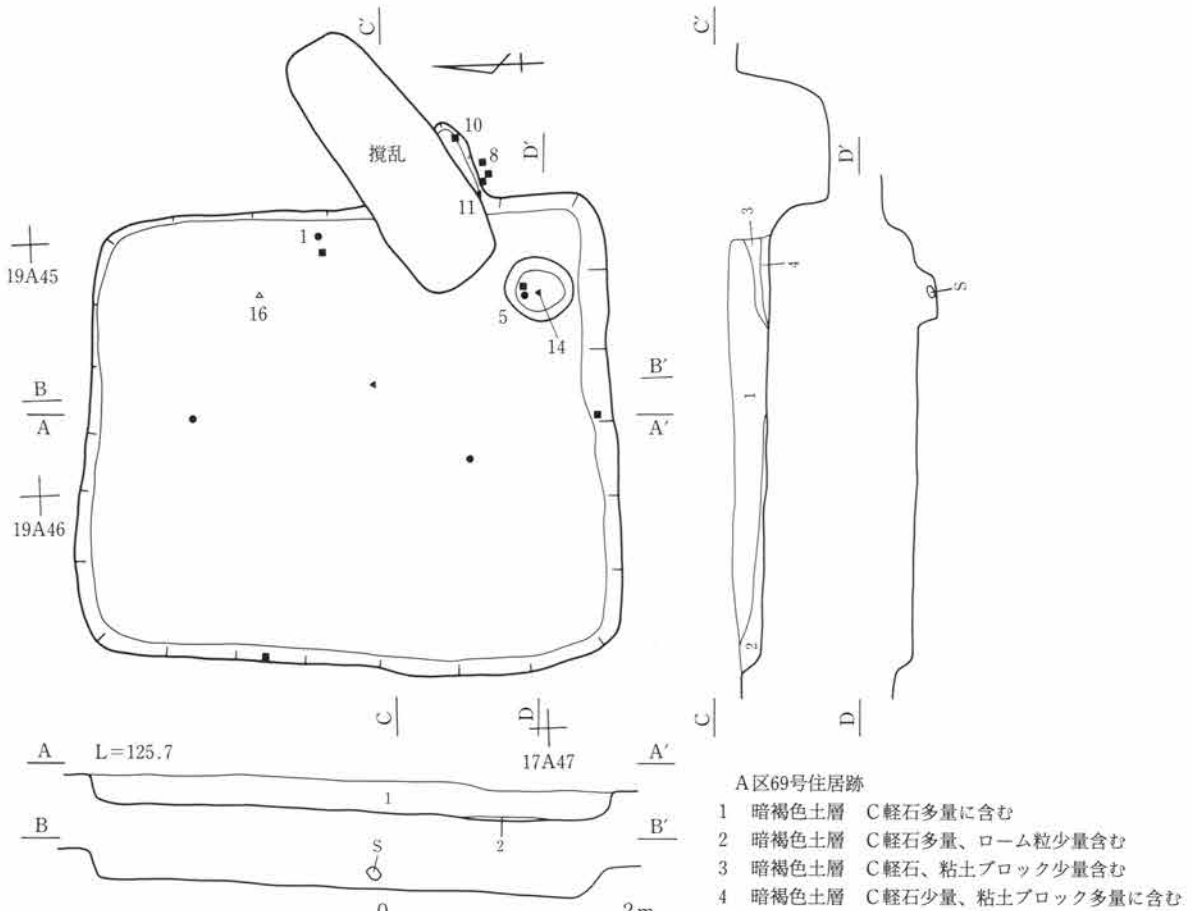
第165図 A区68号住居跡出土遺物(3)



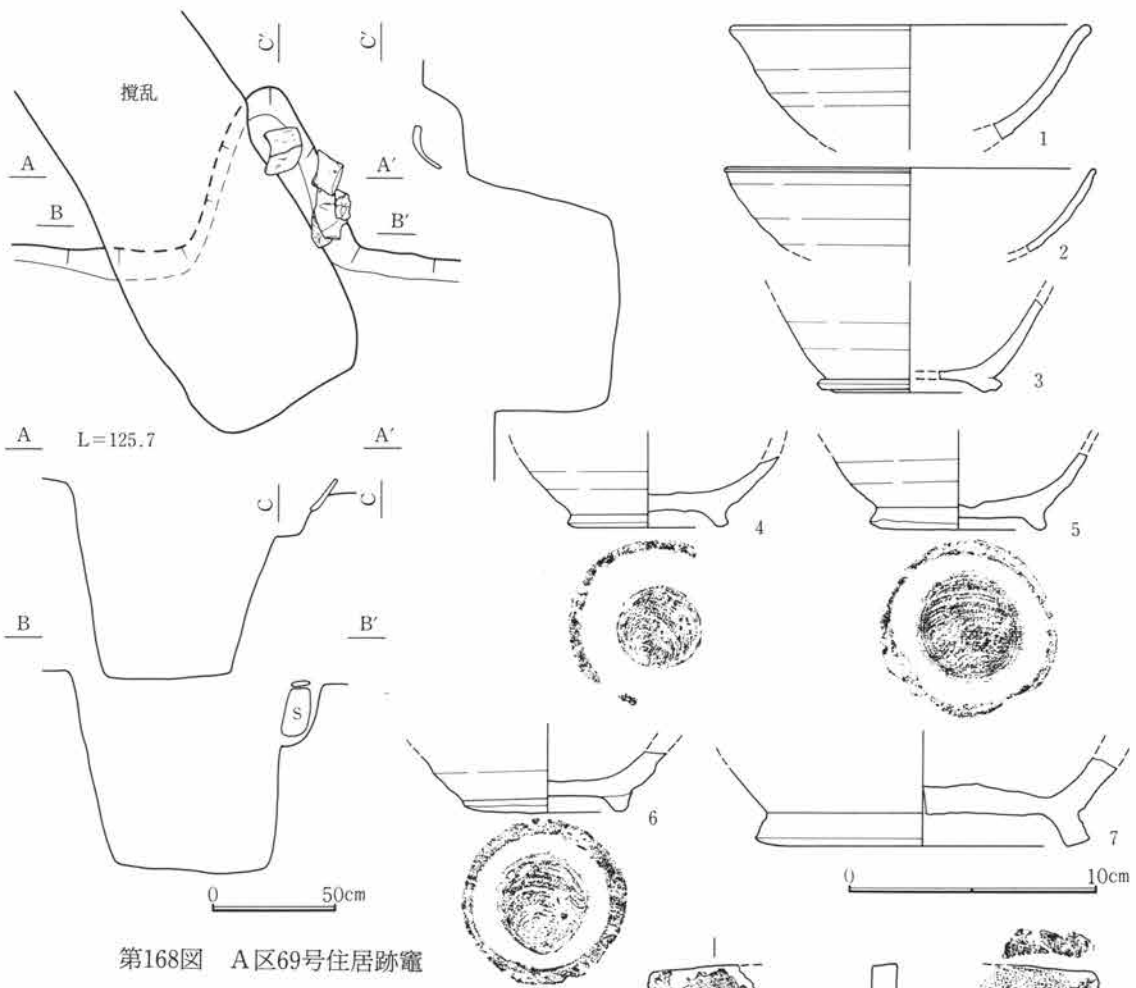
第166図 68号住居跡出土遺物(4)

A区69号住居跡 (第167・168・169・170図、第13・80・81・173図版)

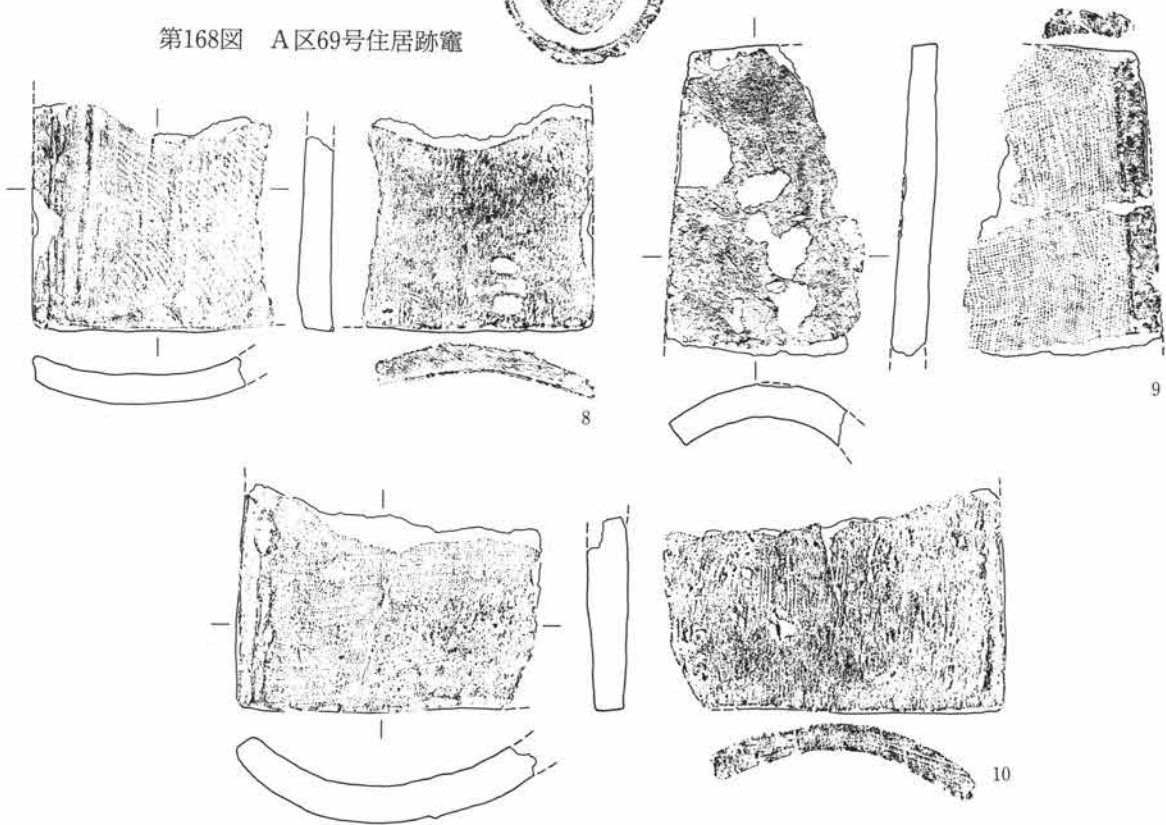
A区西部に位置し16～18A44～46の範囲にある。91号住居跡の北にある。他の遺構との関係は北東部で95号住居跡、南東部で96号住居跡・99号住居跡、南西部で100号住居跡と重複している。新旧関係は69号住居跡が95号住居跡・98号住居跡・99号住居跡より新しく、100号住居跡より古い。また南壁を壊す形で46号土坑がある。また東壁に竈を壊す形で長方形の攪乱がある。規模は長辺4.4m、短辺3.8mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-90°-Eである。壁高は約25cm～30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・柱穴等の諸施設は検出されていない。南東隅に貯蔵穴が検出された。形状は円形を呈し、規模は径約55cm、深さ約20cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。大半は攪乱により壊されており、燃焼部の一部が検出されたのみである。



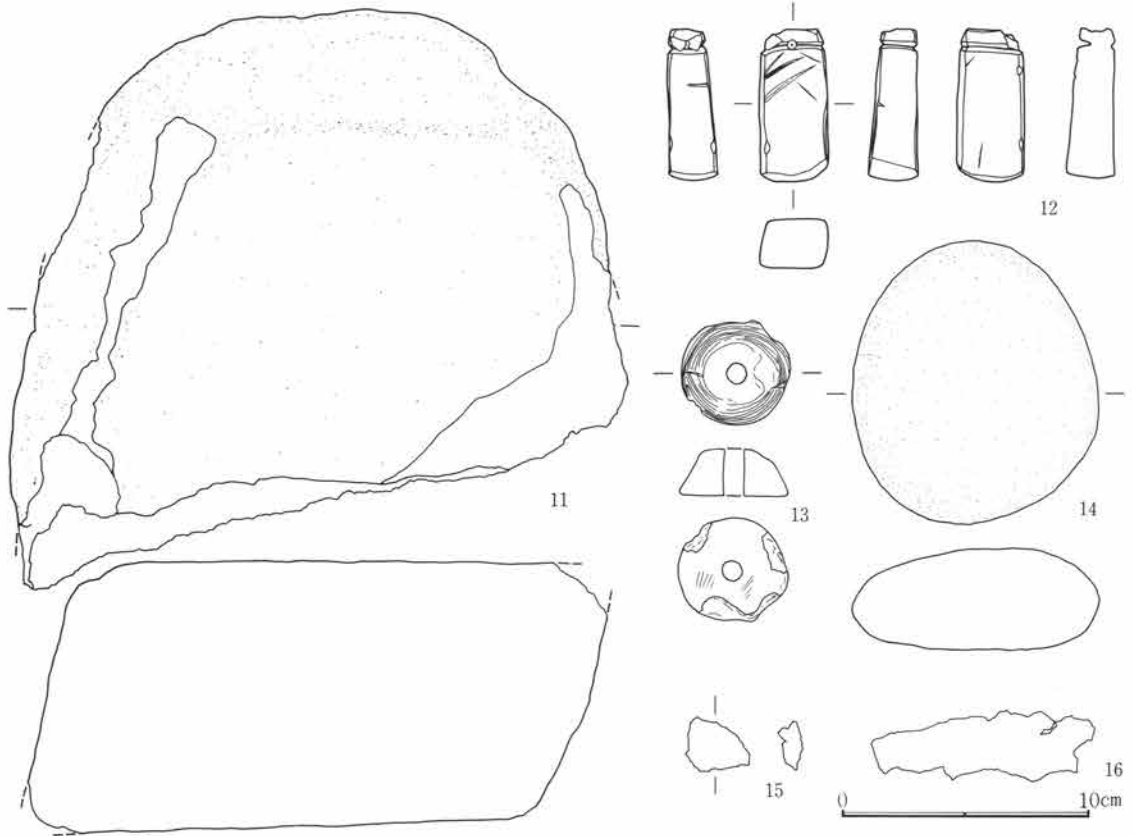
第167図 A区69号住居跡



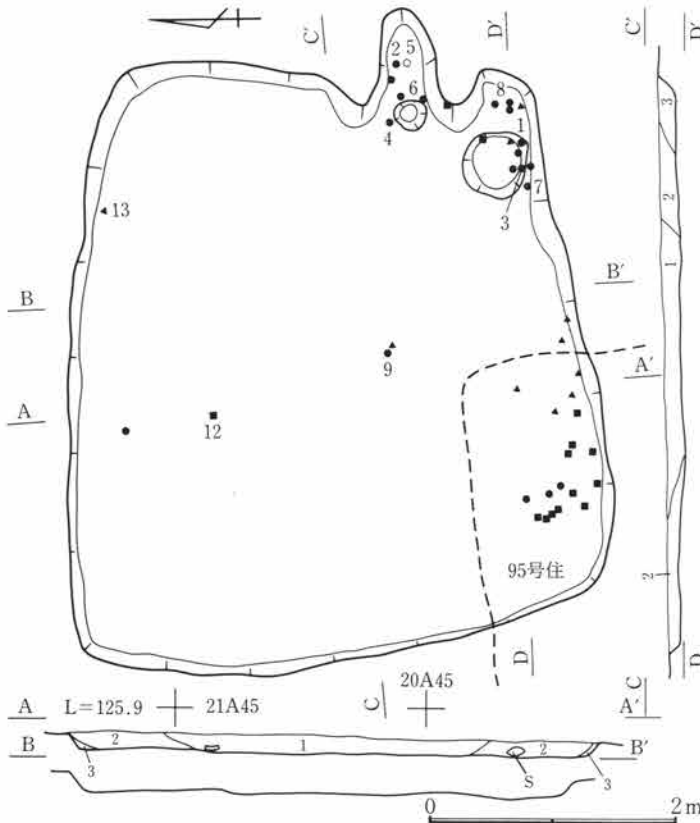
第168图 A区69号住居跡竈



第169图 A区69号住居跡出土遺物(1)



第170図 A区69号住居跡出土遺物(2)



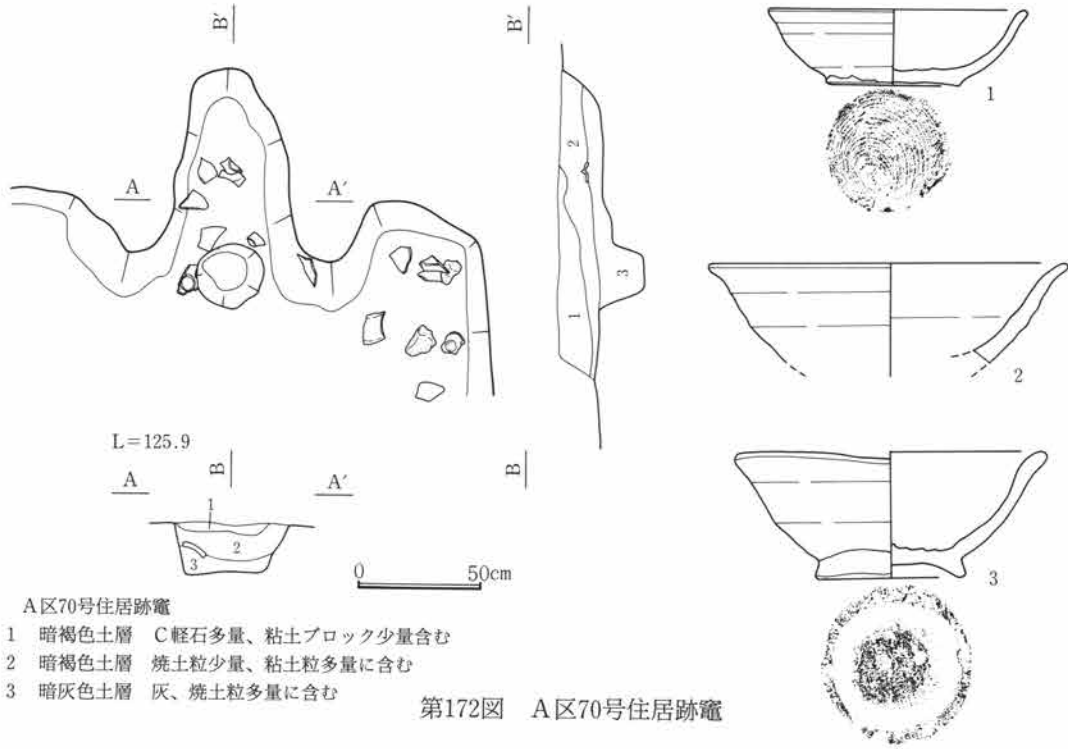
第171図 A区70号住居跡

A区70号住居跡 (第171・172・173・174図、第13・81図版)

A区西部に位置し19～21A42～44の範囲にある。69号住居跡の北東にある。他の遺構との関係は南西部で95号住居跡と重複している。新旧関係は70号住居跡が新しい。規模は長辺4.8m、短辺4.4mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN—91°—Eである。壁高は約15cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・柱穴等の諸施設は検出されていない。南東隅に貯蔵穴が検出された。形状は円形を呈し、規模は径約60cm、深さ約50cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃烧部幅80cm、同長1mを測る。

A区70号住居跡

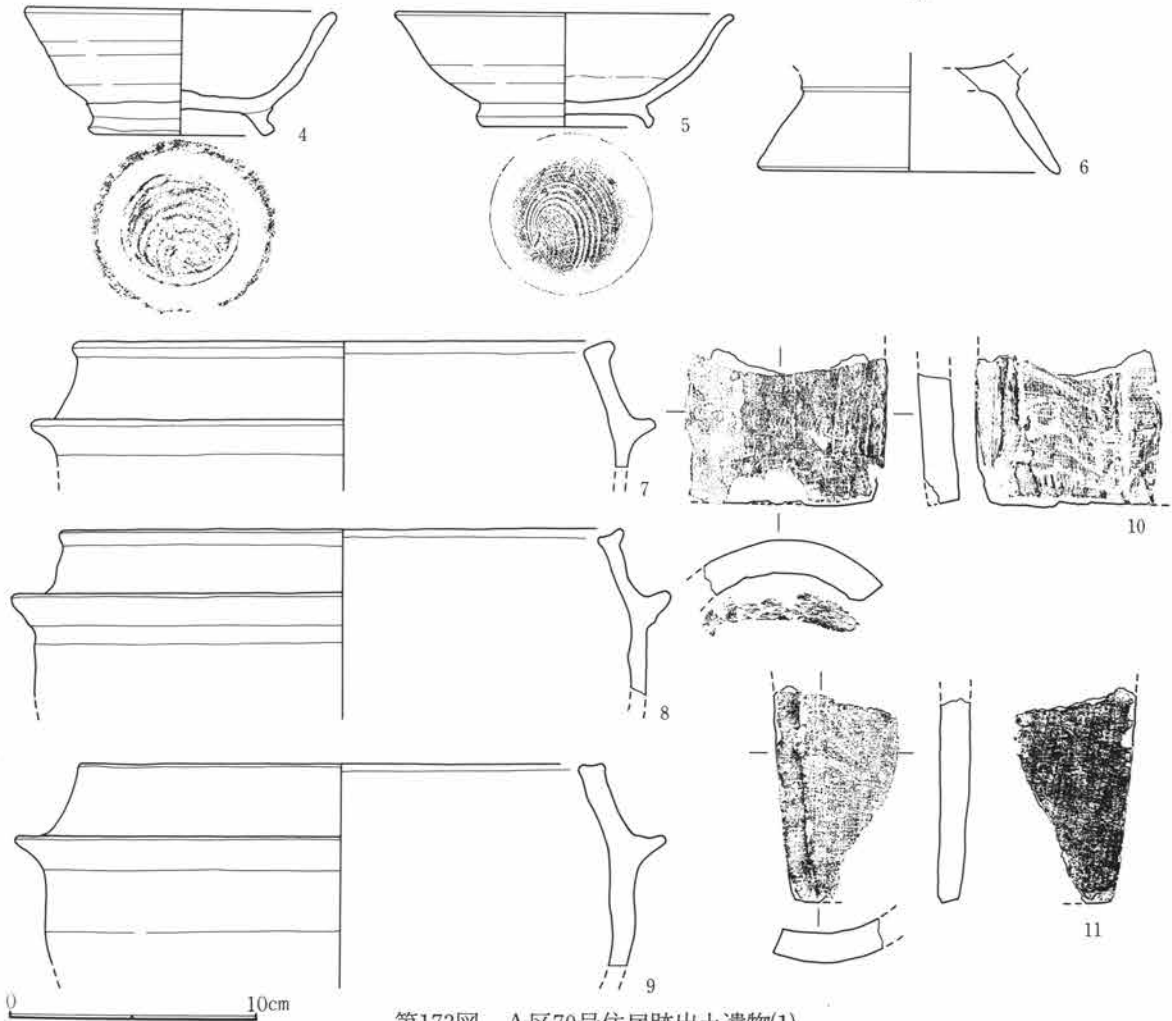
- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石多量、ローム粒少量含む
- 3 暗褐色土層 ローム小ブロック多量に含む



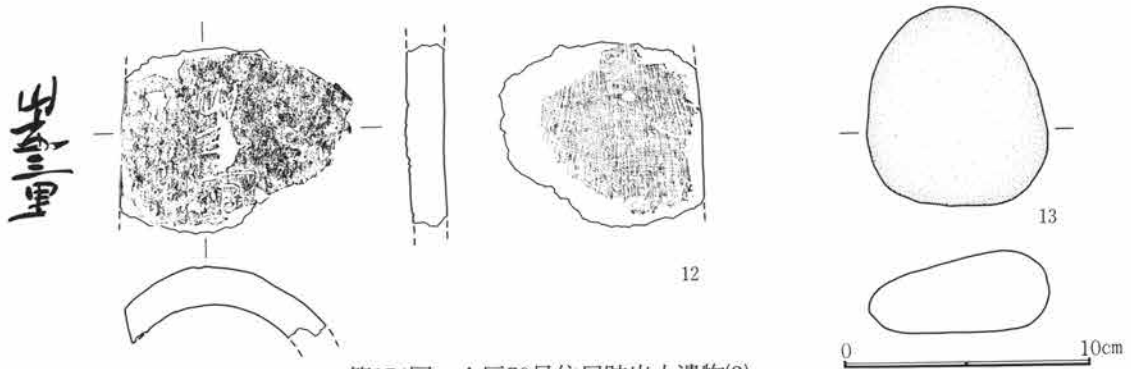
A区70号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石多量、粘土ブロック少量含む
- 2 暗褐色土層 焼土粒少量、粘土粒多量に含む
- 3 暗灰色土層 灰、焼土粒多量に含む

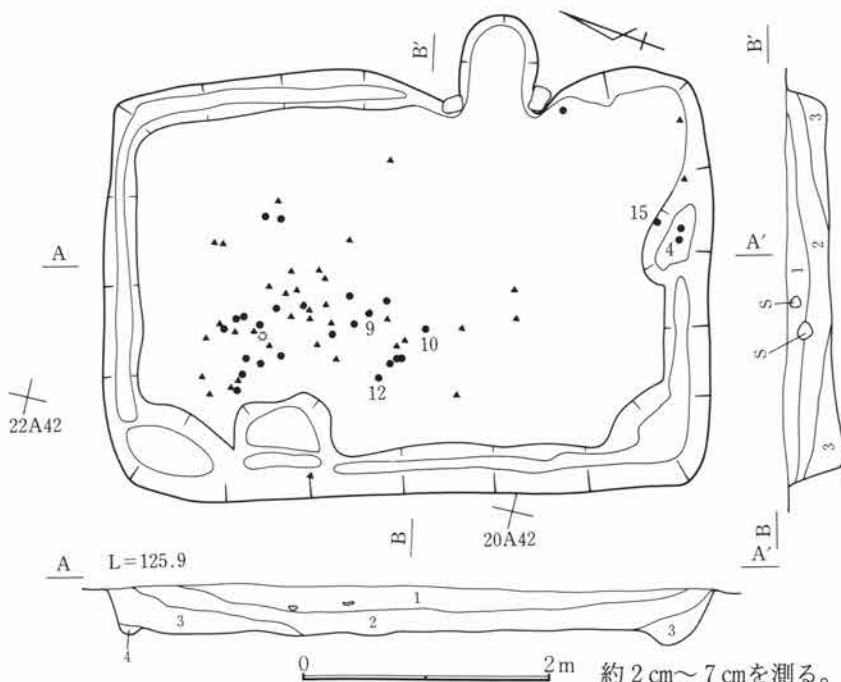
第172図 A区70号住居跡竈



第173図 A区70号住居跡出土遺物(1)



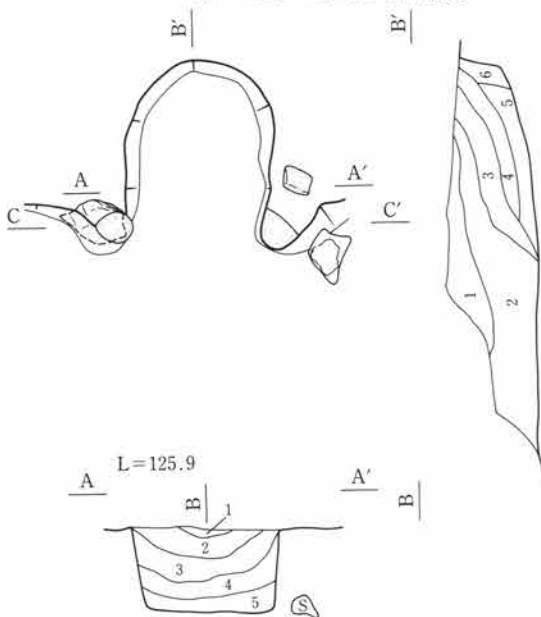
第174図 A区70号住居跡出土遺物(2)



第175図 A区71号住居跡

A区71号住居跡 (第175・176・177図、第14・82図版)

A区中央部に位置し19～21 A40～42の範囲にある。70号住居跡の東にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺4.9m、短辺3.4mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-76°-Eである。壁高は約30cm～40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。四辺に壁周溝が検出された。幅約20cm、深さ約2cm～7cmを測る。また南東部と北東部では約50cm～60cm床面に張り出して広がる部分がある。竈は東壁南寄りに検出された。左右の袖部から石が検出された。規模は袖幅70cm、燃焼部長85cmを測る。



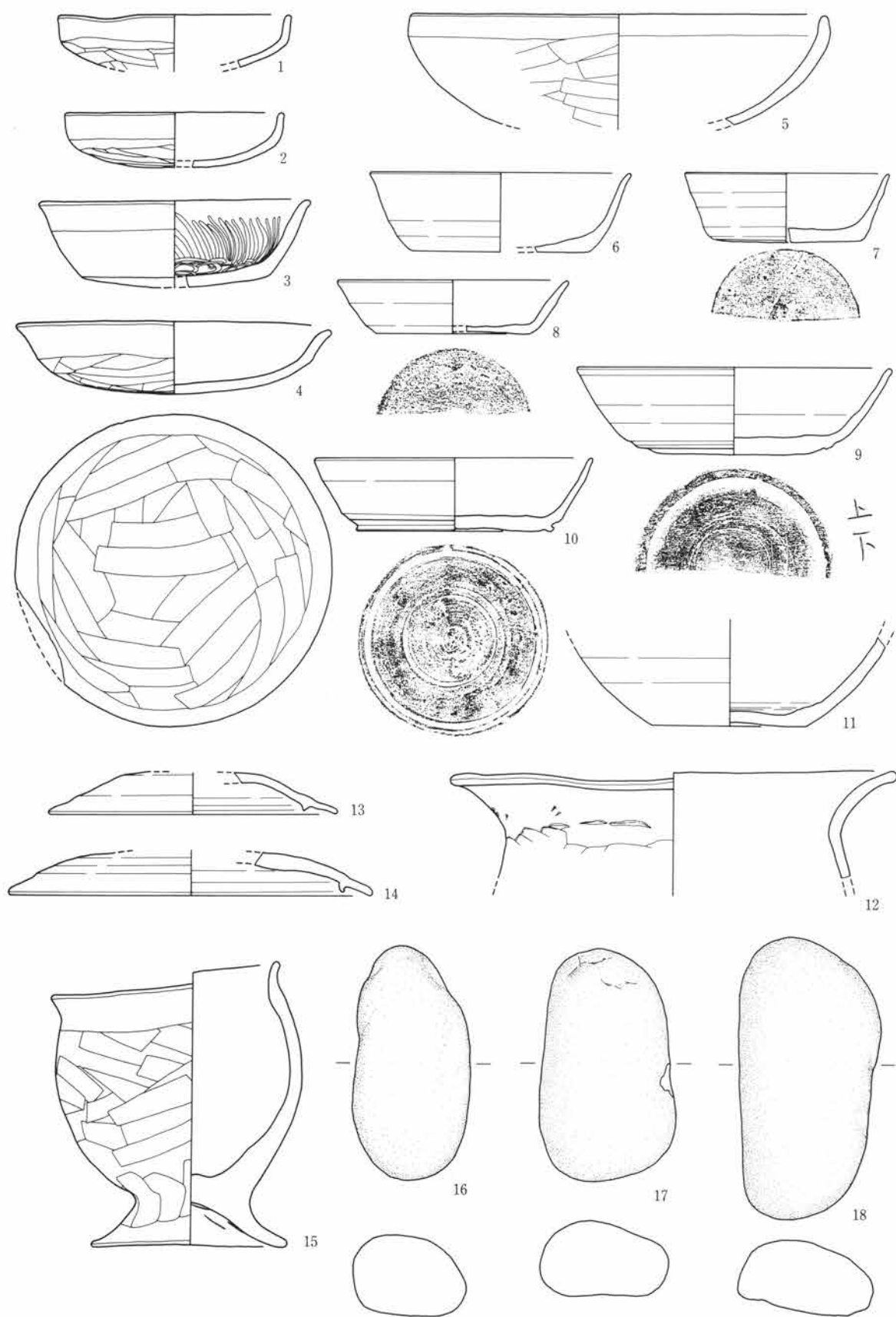
第176図 A区71号住居跡竈

A区71号住居跡

- 1 暗褐色土層 C 軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C 軽石多量、灰白色砂質土ブロック少量含む
- 3 暗褐色土層 C 軽石多量、灰白色砂質土ブロック多量に含む
- 4 暗褐色土層 ローム多量に含む

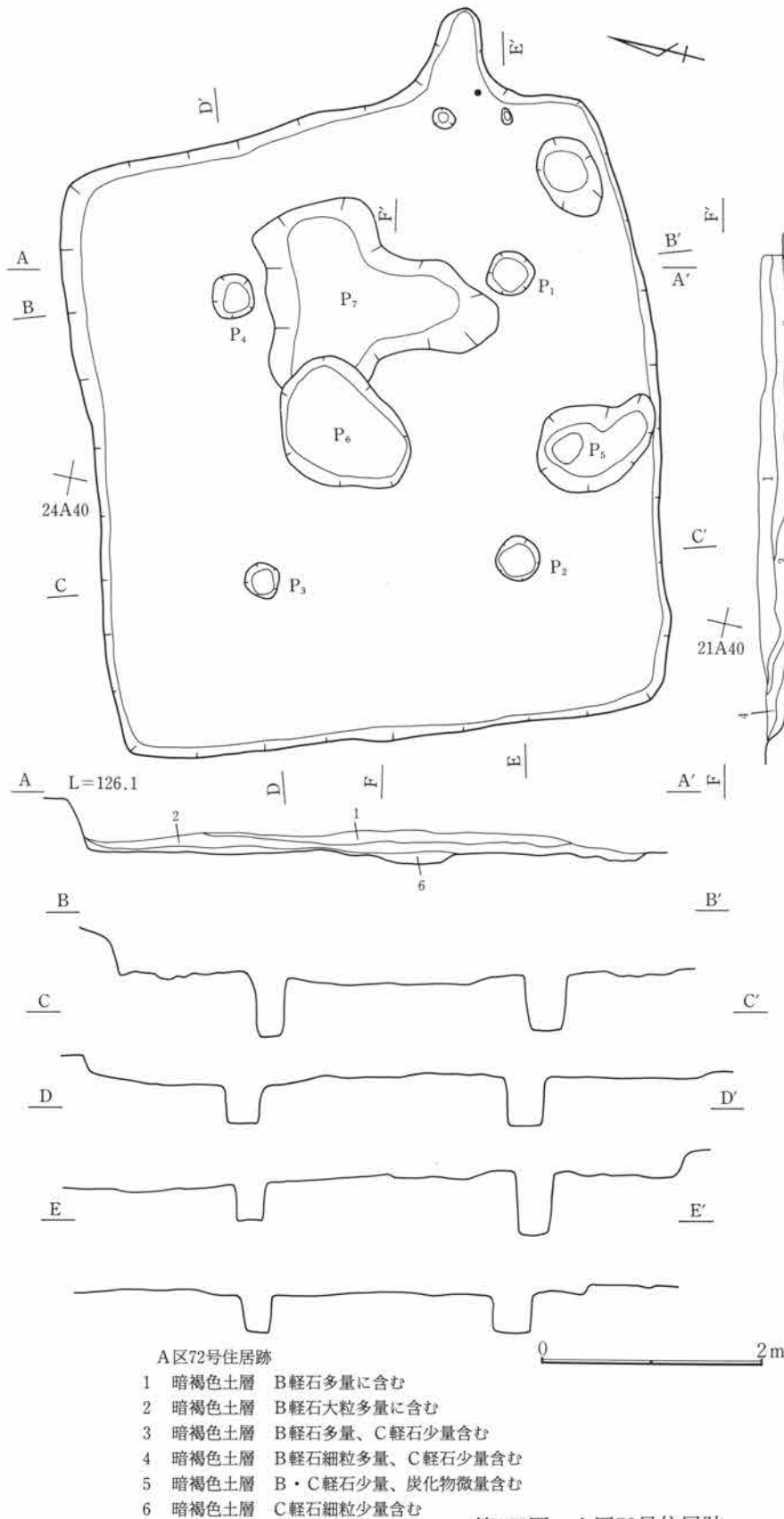
A区71号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C 軽石、粘土粒多量に含む
- 2 暗褐色土層 C 軽石多量に含む
- 3 暗褐色土層 粘土主体層
- 4 赤褐色土層 焼土主体、灰少量含む
- 5 灰褐色土層 灰主体、焼土細粒少量含む
- 6 灰褐色土層 粘土、焼土粒含む



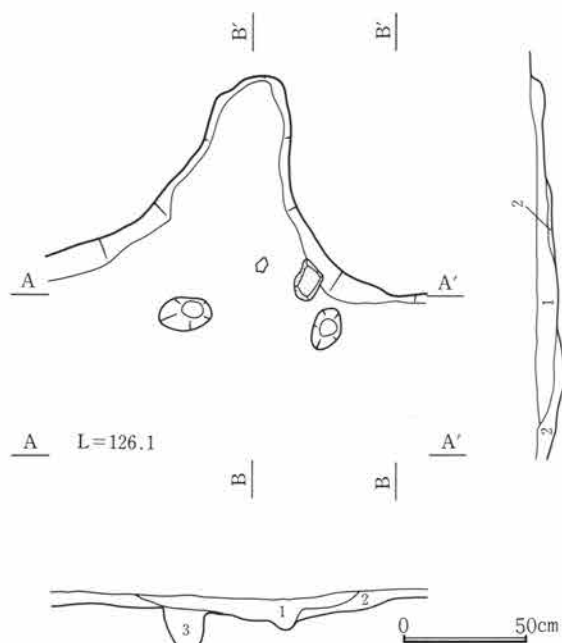
第177図 A区71号住居跡出土遺物

A区72号住居跡 (第178・179・180図、第14・83図版)

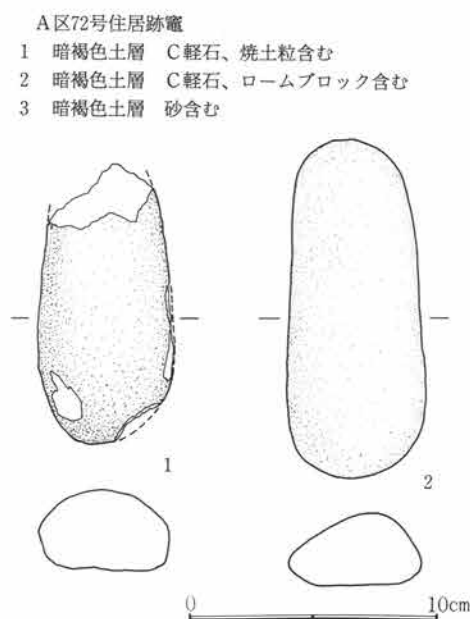


第178図 A区72号住居跡

A区北部に位置し21~24A37~41の範囲にある。71号住居跡の北東にある。他の遺構との関係は中世のA-1号溝と重複している。規模は長辺5.6m、短辺5.3mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-73°-Eである。壁高は約20cm~30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝は検出されていない。南東隅に貯蔵穴が検出された。形状は楕円形を呈し規模は80cm×50cm、深さ約50cmを測る。柱穴が4基検出された。形状は各々円形を呈し、規模は1、径約40cm、深さ約50cm、2、径約40cm、深さ約35cm、3、径約30cm、深さ約35cm、4、径約40cm、深さ約50cmを測る。また柱穴以外に3基の小穴が検出され各々5~7とした、5、楕円形を呈し、規模1.2m×80cm、深さ約10cm、6、楕円形を呈し、約1.3m×1m、深さ約45cm、7、不定形を呈し約2.4m×1.2m、深さ約5cm~6cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅80cm、同長80cmを測る。



第179図 A区72号住居跡竈



第180図 A区72号住居跡出土遺物

A区74号住居跡 (第181・182・184図、第14・83図版)

A区北部に位置し26～28A38～41の範囲にある。72号住居跡の北にある。他の遺構との関係は北部でA-5号溝、南東部で103号住居跡、西側はA-5号溝と重複している。新旧関係はA-1号溝・A-5号溝より74号住居跡が旧く、103号住居跡より新しい。西側はA-5号溝により壊されている。また47・50・51・52号土坑と重複している。規模は南北長4.3m、東西残存部で3.9mを測る。壁高は約20cm～30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。両袖部は地山を掘り残している。規模は袖幅80cm、同長80cmを測る。

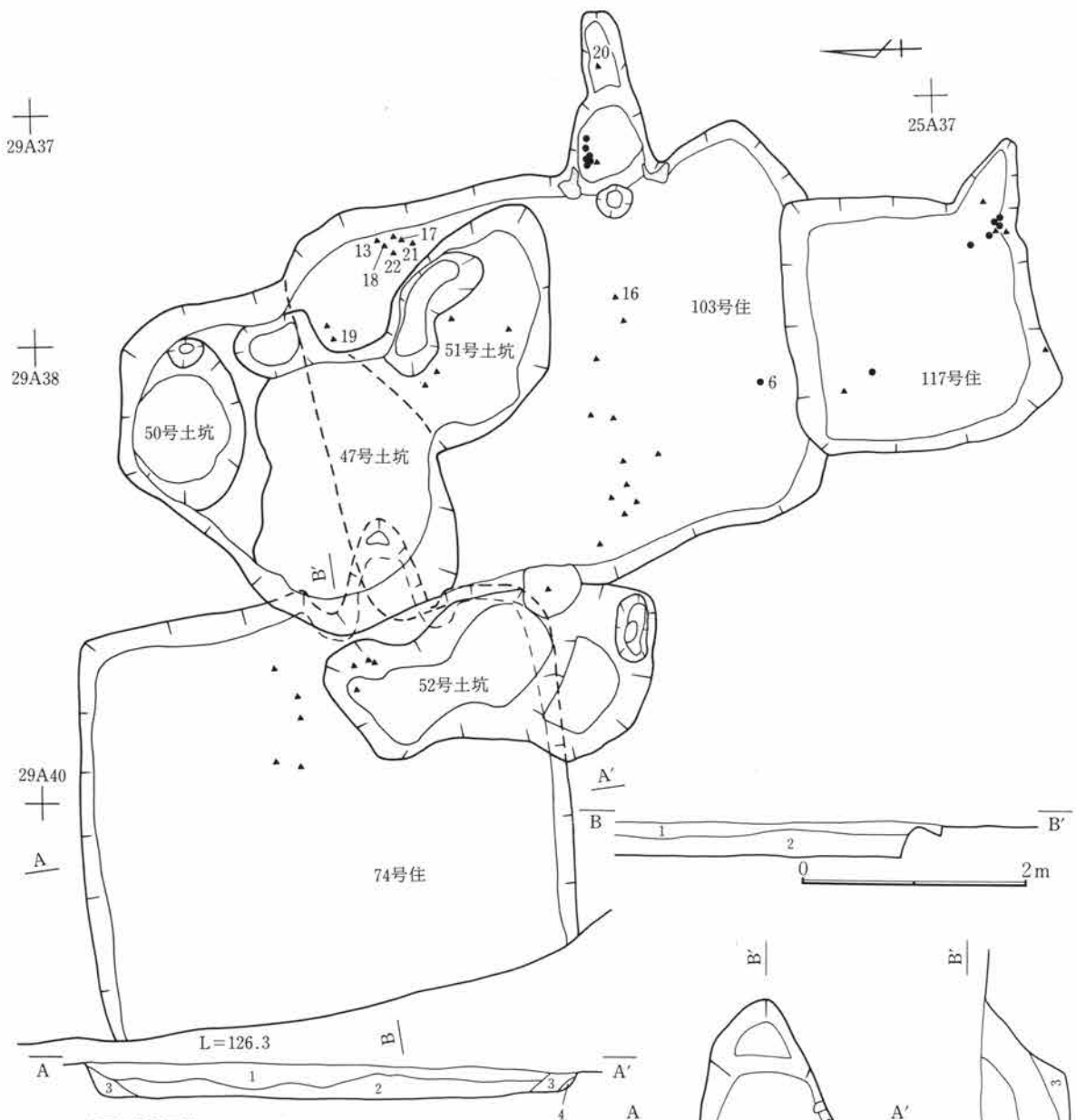
A区103号住居跡 (第181・183・185・186図、第21・22・83・84図版)

A区北部に位置し25～27A36～39の範囲にある。72号住居跡の北東にある。他の遺構との関係は南部で117号住居跡、西北部で74号住居跡・52号土坑・北部で47号土坑・50号土坑・51号土坑と重複している。新旧関係は74号住居跡・117号住居跡・47号土坑・50号土坑・51号土坑・52号土坑より古い。規模は長辺4.6m、短辺3.7mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-77°-Eである。壁高は約50cm～60cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は袖幅70cm、燃烧部長90cm、煙道部長70cmを測る。燃烧部前面に小穴が検出され、規模は径約30cm、深さ約1cm～2cmを測る。

A区117号住居跡 (第181・187図、第21・22・84・172・173図版)

A区北部に位置し24・25A37・38の範囲にある。74号住居跡の南東にある。他の遺構との関係は北部で103号住居跡と重複している。新旧関係は117号住居跡が新しい。規模は長辺2.45m、短辺2.25mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-90°-Eである。壁高は約20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は南東隅に検出された。竈は隅に検出され、住居跡の主軸方位寄りさらに南に振れN-113.5°-Eである。規模は燃烧部幅40cm、同長90cmを測る。

第4章 検出された遺構・遺物



A区74号住居跡

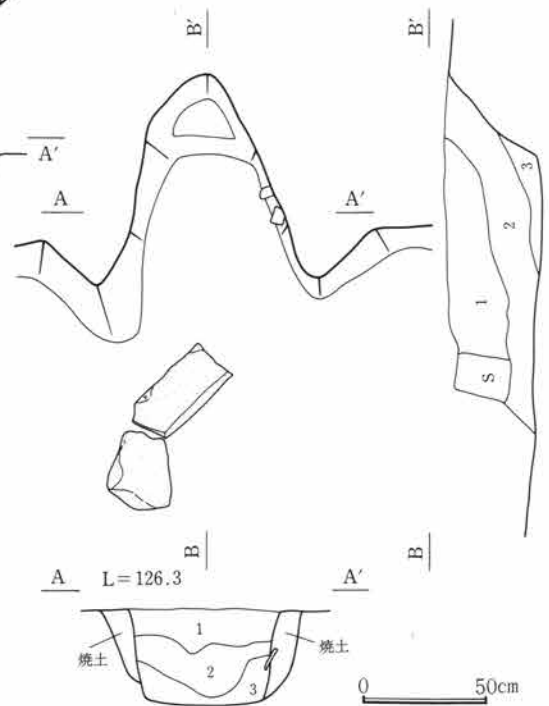
- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石、ロームブロック多量に含む
- 3 暗褐色土層 C軽石少量含む
- 4 黒色土層 C軽石多量に含む

第181図 A区74・103・117号住居跡

A区74号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石少量含む
- 2 暗褐色土層 C軽石微量、焼土粒多量、炭化物少量含む
- 3 暗褐色土層 灰多量、焼土粒少量含む

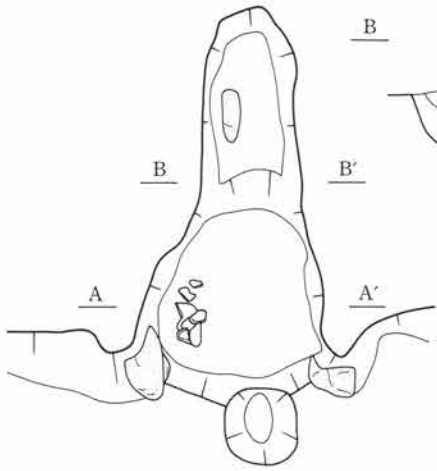
第182図 A区74号住居跡竈



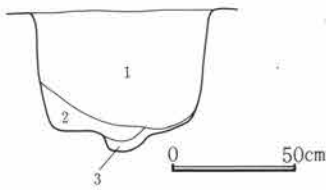
第1節 竪穴住居跡

A区103号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石少量含む
- 2 暗褐色土層 C軽石微量、炭化物少量、焼土粒多量に含む



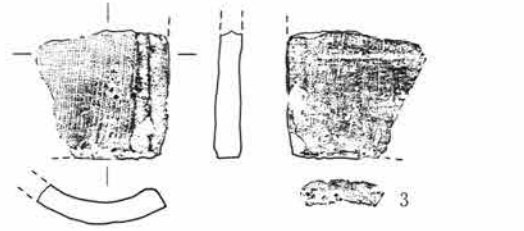
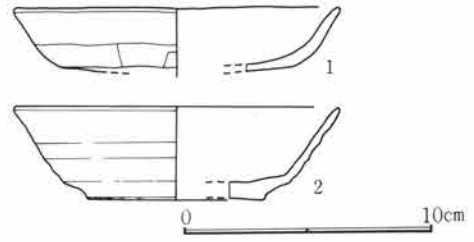
A L=126.3



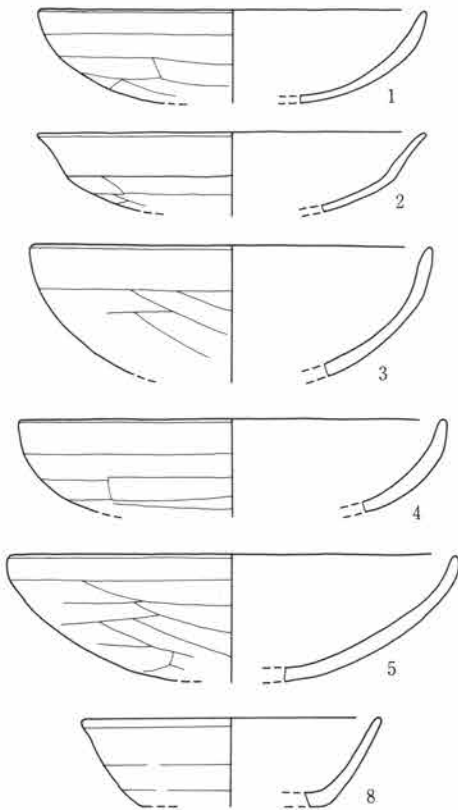
第183図 A区103号住居跡竈

3 暗褐色土層 焼土粒少量、灰多量に含む

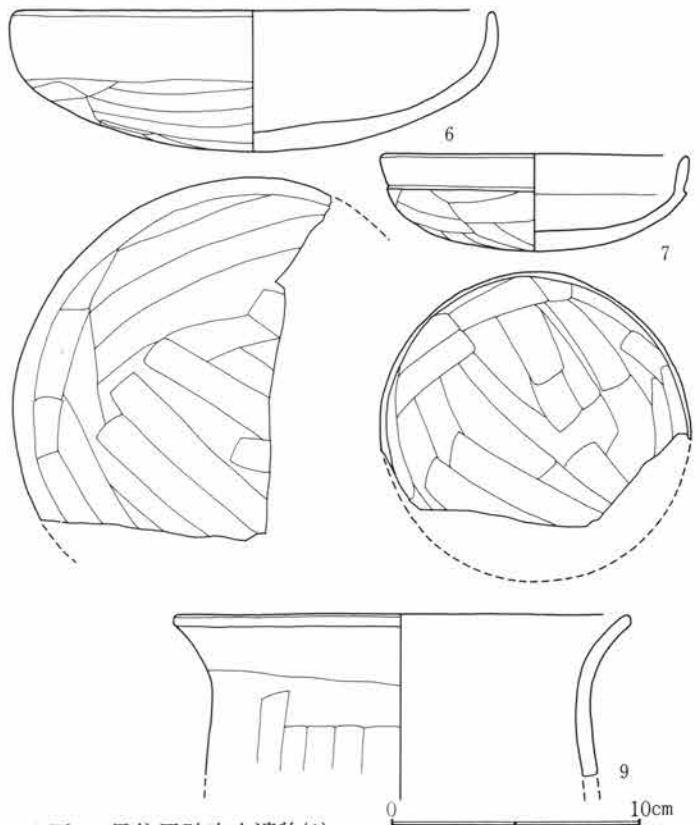
4 暗褐色土層 C軽石含む

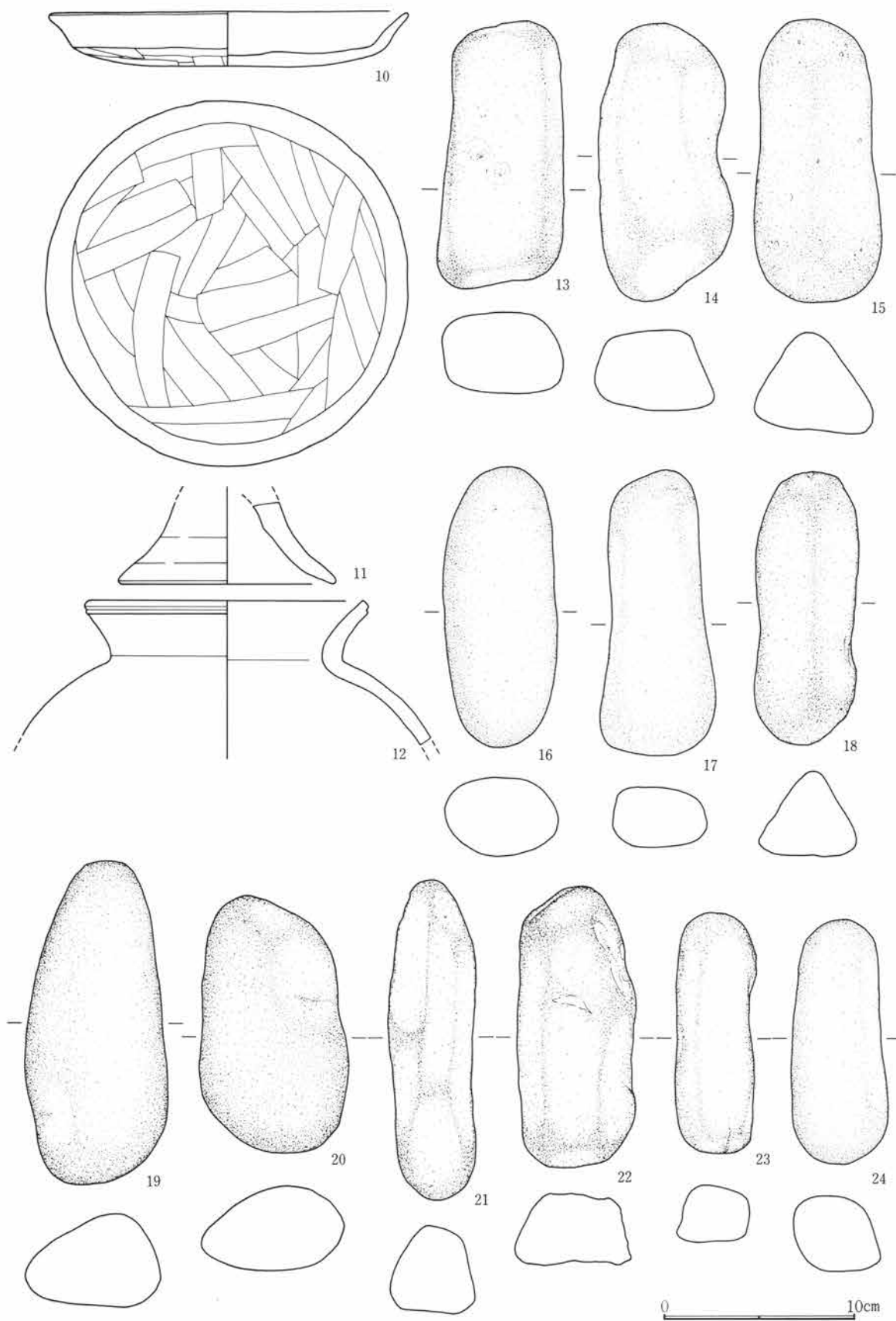


第184図 A区74号住居跡出土遺物

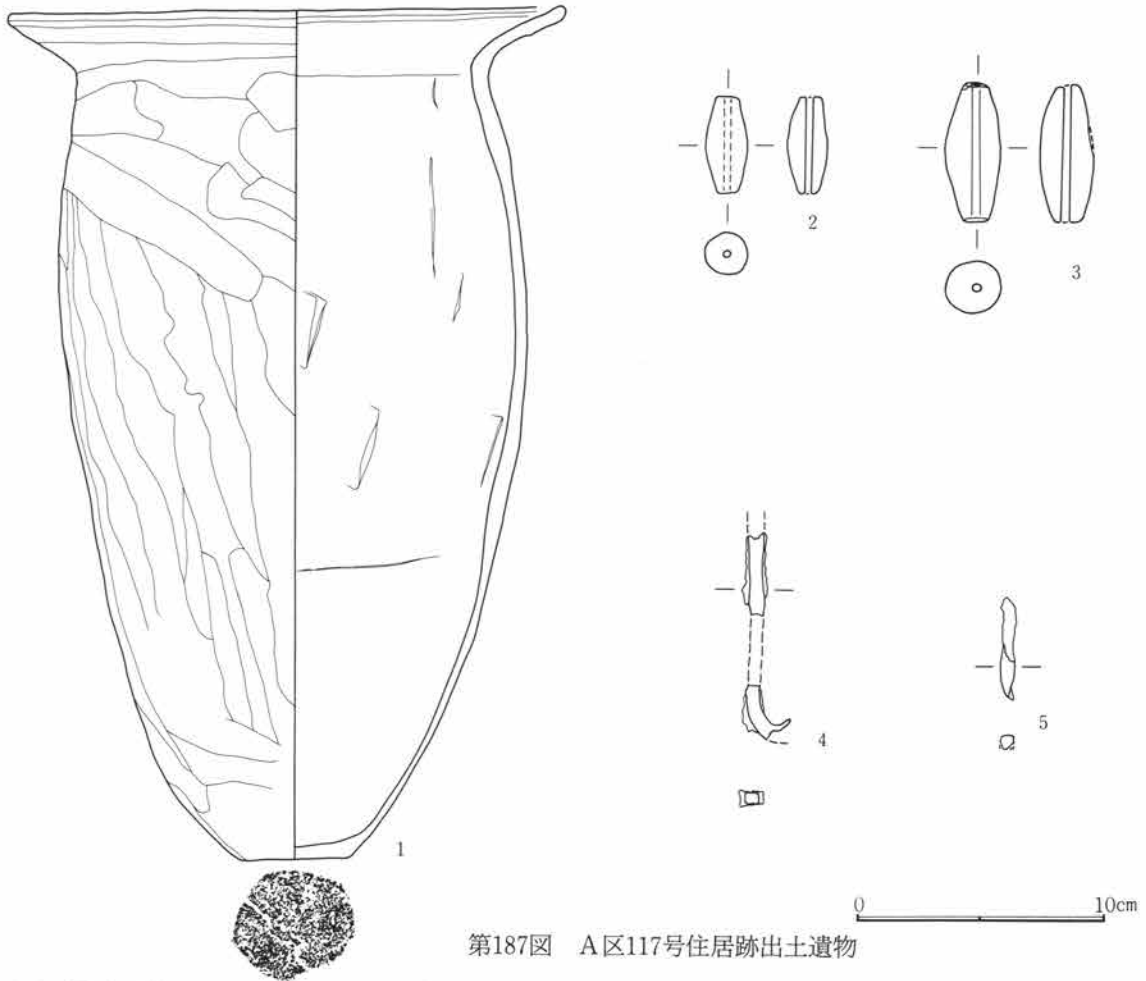


第185図 A区103号住居跡出土遺物(1)





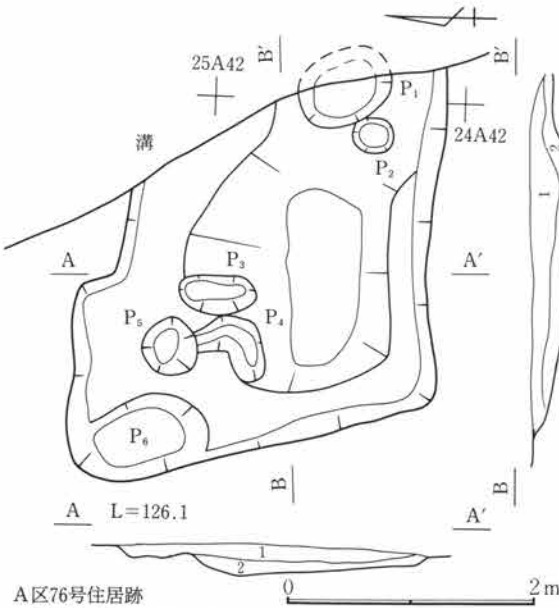
第186図 A区103号住居跡出土遺物(2)



第187図 A区117号住居跡出土遺物

A区76号址 (第188・189図、PL. 14・84)

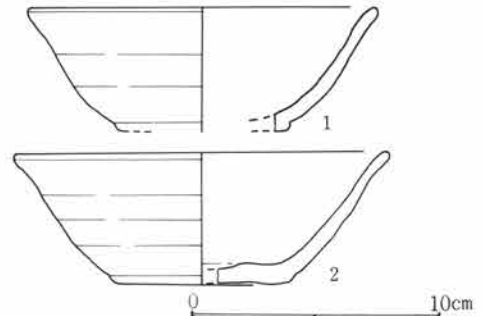
A区北部に位置し24・25A41～43の範囲にある。72号住居跡の西北にある。他の遺構との関係は東側で中世のA-1号溝に壊されている。規模は西壁で約3mを測る。竈は検出されず76号址とした。小穴が6基検出され、各々1～6とした。規模は1、約75cm×60cm、深さ約4cm、2、約35cm×30cm、深さ約5cm、3、約60cm×30cm、深さ約10cm、4、約65cm×20cm、深さ約4cm、5、径約45cm、深さ約40cm、6、約1.1m×60cm、深さ約15cmを測る。1～4を囲むように約5cm～6cmの落ち込みがある。



A区76号住居跡

- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石、ローム粒、小ブロック少量含む

第188図 A区76号址

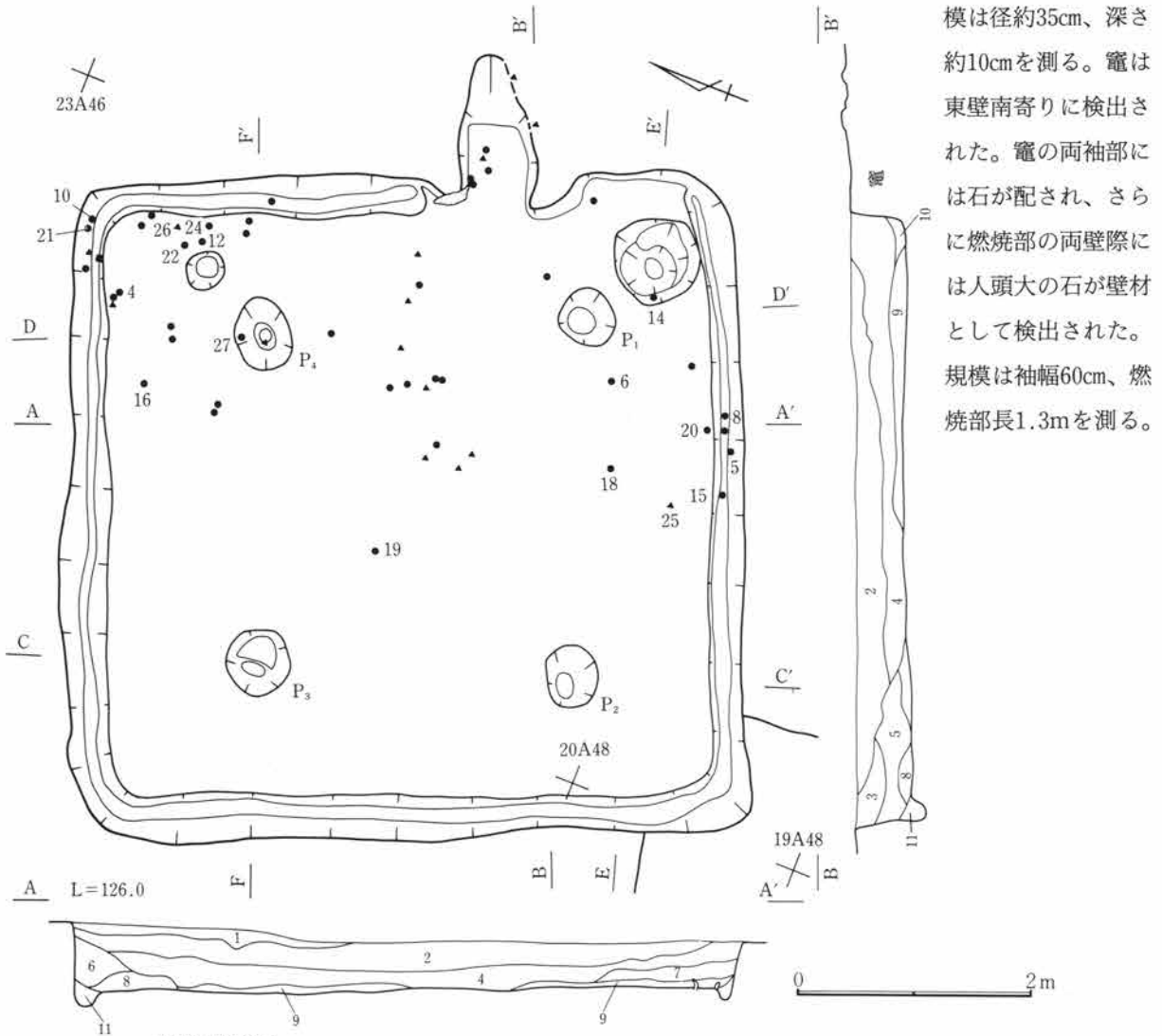


第189図 A区76号址出土遺物

第4章 検出された遺構・遺物

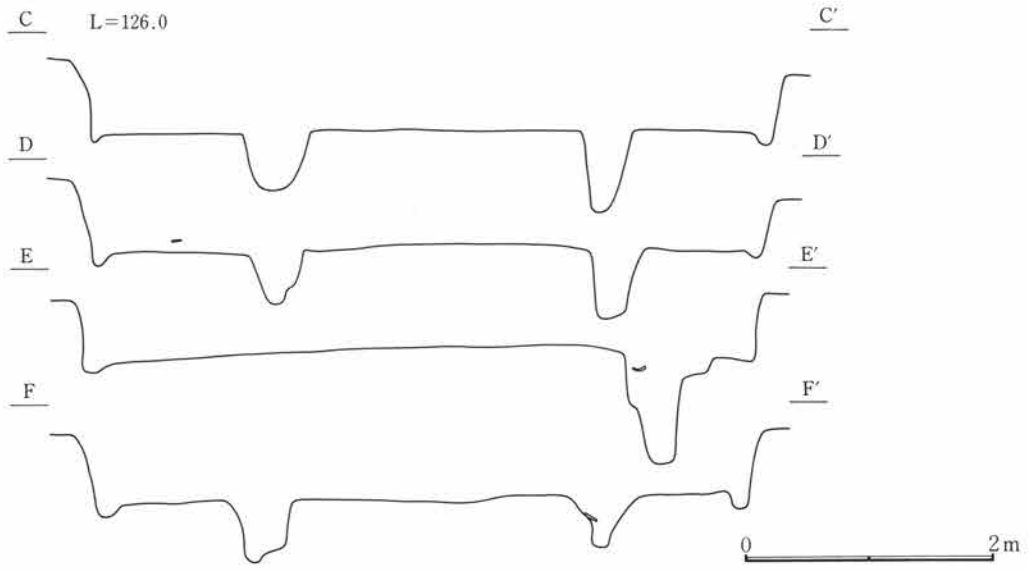
A区77号住居跡 (第190・191・192・193・194・195・196図、第15・84・85・86図版)

A区西部に位置し19～22A45～48の範囲にある。70号住居跡の西にある。他の遺構との関係は南西部で116号住居跡と重複している。新旧関係は77号住居跡が新しい。規模は長辺5.8m、短辺5.6mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-97.5°-Eである。壁高は約40cm～50cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、四周に壁周溝、南東隅に貯蔵穴、床面には柱穴が検出された壁周溝は幅約25cm～45cm、深さ約5cm～10cmを測る。貯蔵穴は楕円形を呈し、規模は径約80cm、深さ約1.1mを測る。柱穴は4基検出され、各々楕円形を呈し、1～4とした。規模は1、径約50cm、深さ約60cm、2、径約55cm、深さ約65cm、3、径約55cm、深さ約50cm、4、径約60cm、深さ約50cmを測る。また4の北東部には小穴が検出された。形状はほぼ円形を呈し規模は径約35cm、深さ約10cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。竈の両袖部には石が配され、さらに燃焼部の両壁際には人頭大の石が壁材として検出された。規模は袖幅60cm、燃焼部長1.3mを測る。

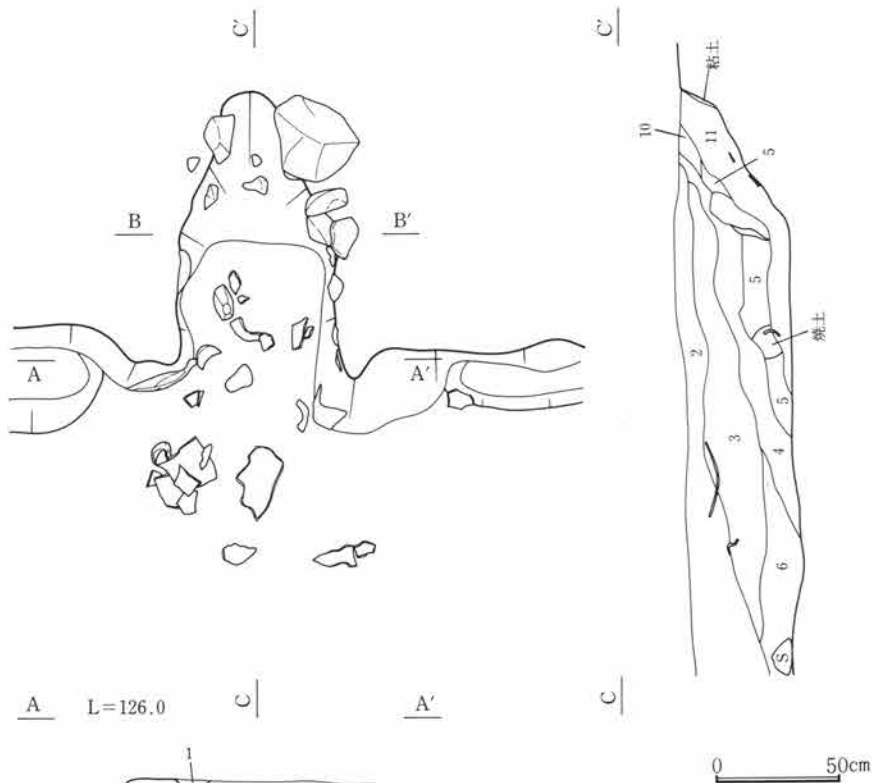


- A区77号住居跡
- 1 黒褐色土層 黒色灰少量含む
 - 2 暗褐色土層 C軽石多量、ローム粒少量含む
 - 3 暗褐色土層 C軽石多量、焼土粒少量含む
 - 4 暗褐色土層 C軽石、ローム粒少量含む
 - 5 暗褐色土層 C軽石少量、粘土粒多量に含む
 - 6 暗褐色土層 C軽石微量に含む
 - 7 暗褐色土層 C軽石、ローム細粒少量含む
 - 8 黒色土層 焼土ブロック多量に含む
 - 9 暗褐色土層 粘土粒、焼土粒少量含む
 - 10 暗褐色土層 C軽石微量、粘土、焼土ブロック多量に含む
 - 11 暗褐色土層 ローム多量に含む

第190図 A区77号住居跡



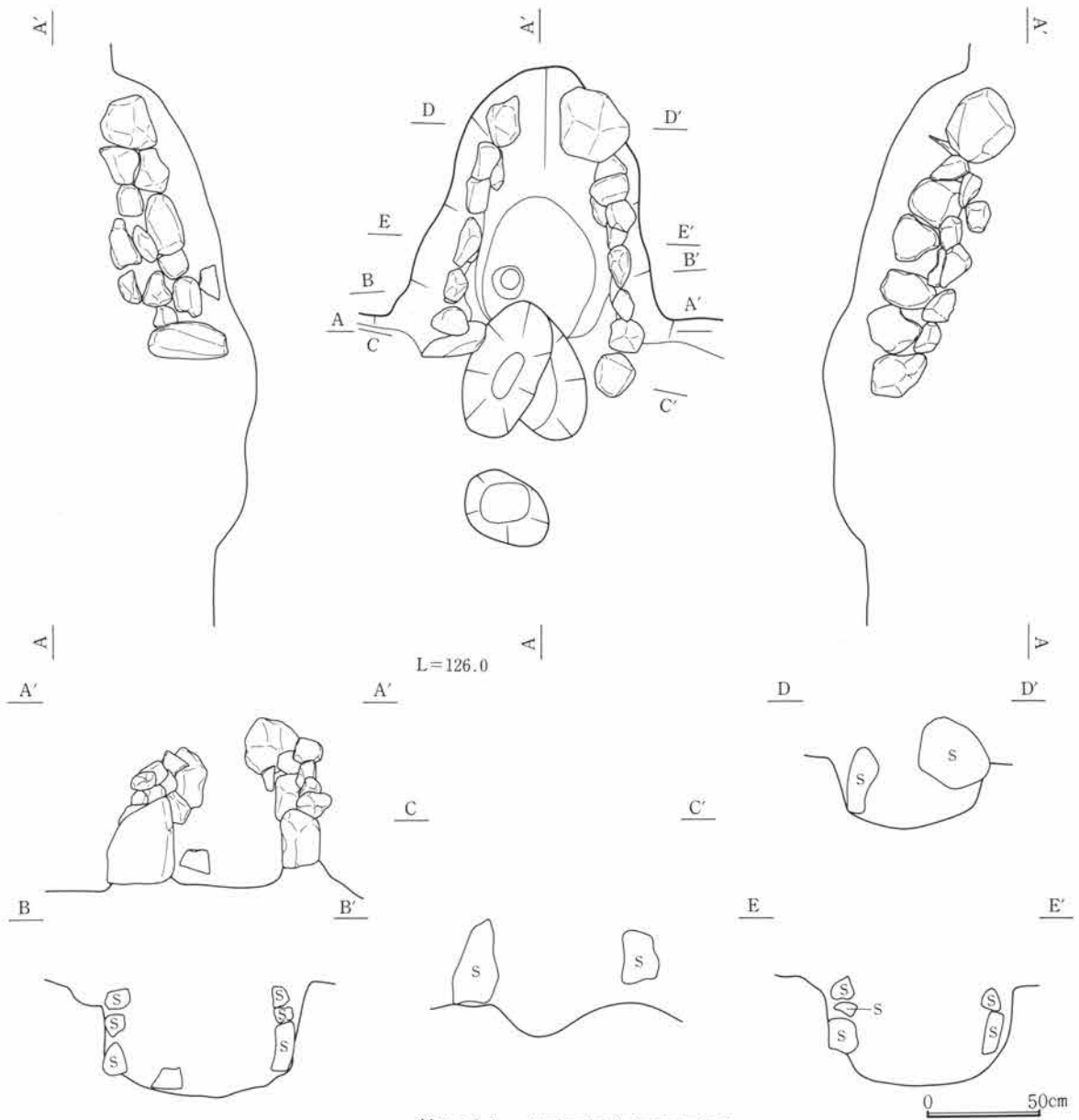
第191図 A区77号住居跡、エレベーション



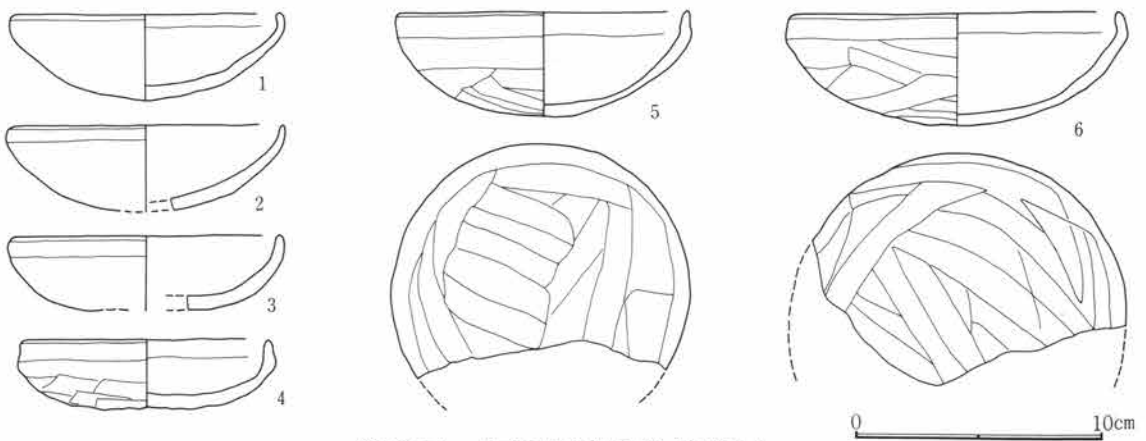
A区77号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石、粘土ブロック、焼土大粒少量含む
- 2 暗褐色土層 C軽石、炭化物少量、粘土ブロック粒多量に含む
- 3 暗褐色土層 C軽石、粘土大粒、焼土粒多量に含む
- 4 暗褐色土層 焼土ブロック・粒、炭化物、C軽石少量含む
- 5 暗褐色土層 焼土ブロック・粒、灰多量、炭化物少量含む
- 6 暗褐色土層 C軽石細粒、焼土粒多量に含む
- 7 暗褐色土層 C軽石多量、焼土粒、炭化物微量に含む
- 8 暗褐色土層 C軽石、焼土粒、炭化物少量、ローム多量に含む
- 9 灰層
- 10 暗褐色土層 焼土大粒、粘土粒少量含む
- 11 暗褐色土層 焼土粒、粘土粒多量に含む

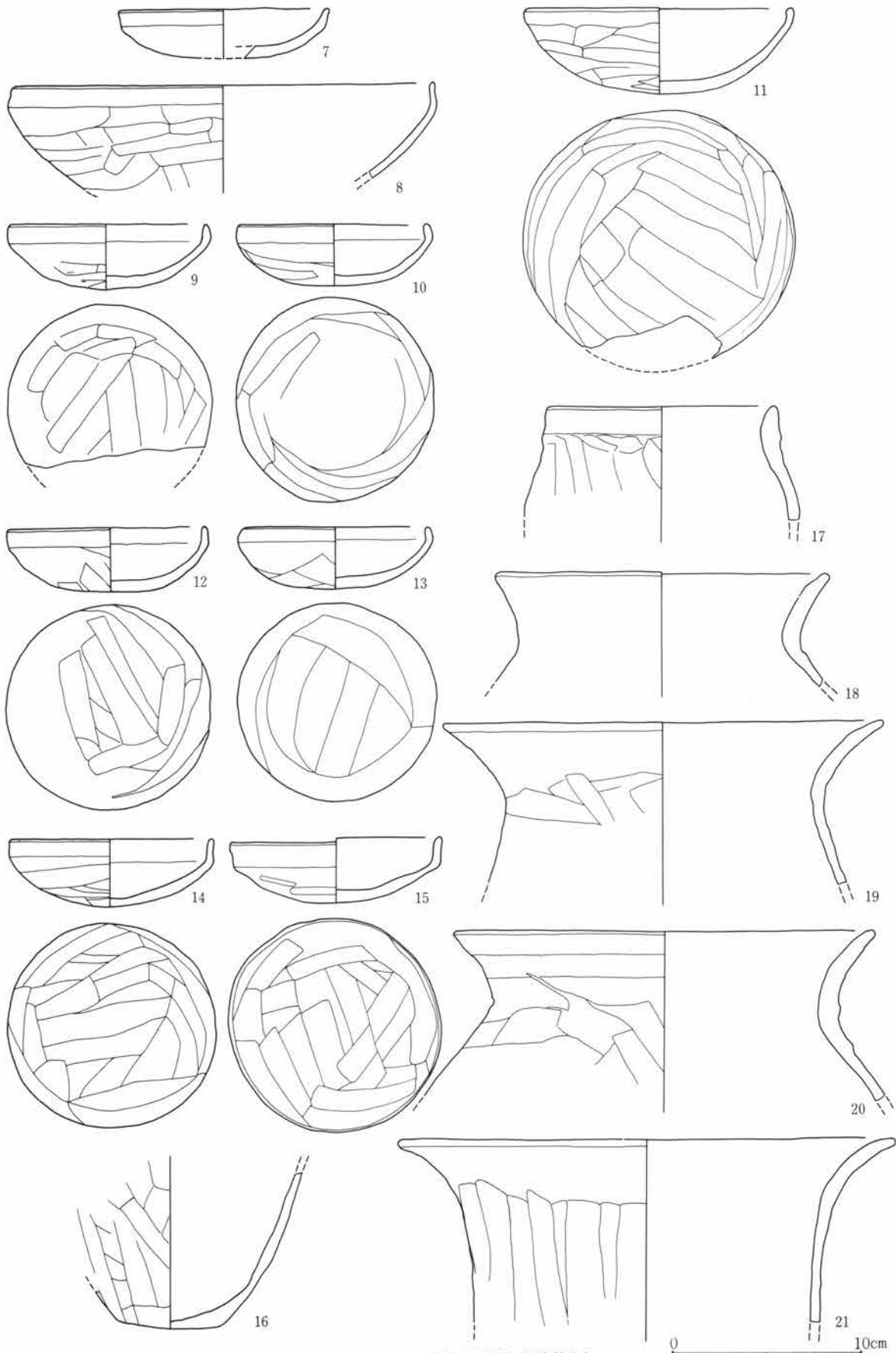
第192図 A区77号住居跡竈



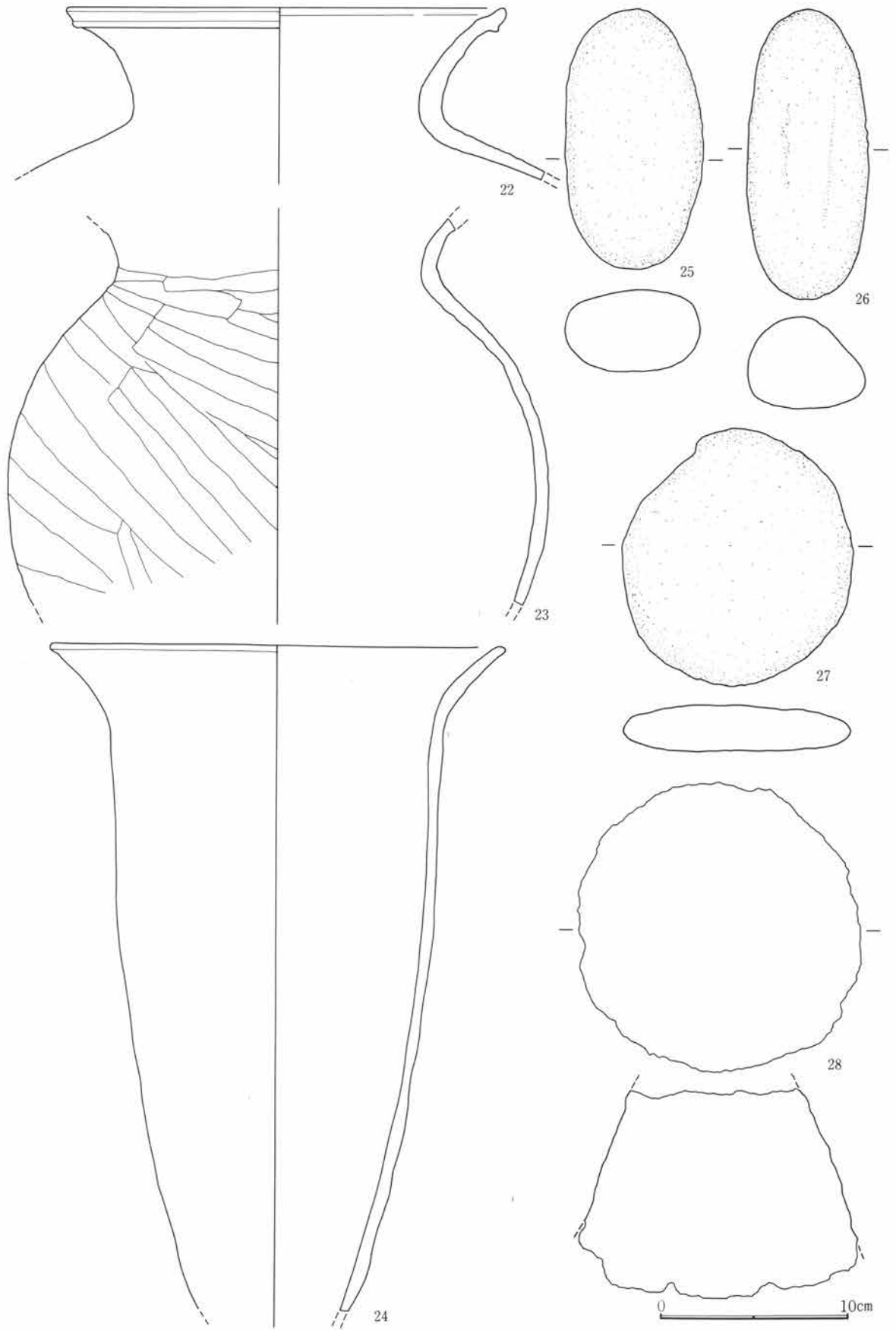
第193図 A区77号住居跡竈掘方



第194図 A区77号住居跡出土遺物(1)



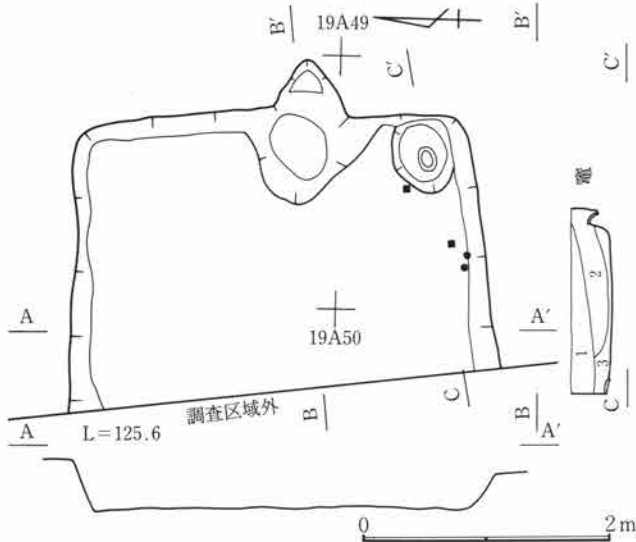
第195図 A区77号住居跡出土遺物(2)



第196図 A区77号住居跡出土遺物(3)

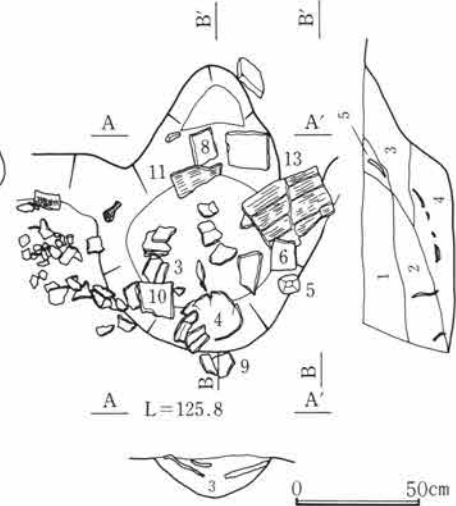
A区78号住居跡 (第197・198・199・200・201・202図、第15・86・87・88図版)

A区西部に位置し18~20A49・50の範囲にある。77号住居跡の南西にある。他の遺構との関係は南半部を116号住居跡と重複している。新旧関係は78号住居跡が新しい。また西半部は調査区域外へ延びるため完掘されていない。規模は南北長3.45m、東西残存長2.45mを測る。平面形態は隅丸方形を呈するものと思われる。主軸方位はN-90°-Eである。壁高は約30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。南東隅に貯蔵穴が検出された。規模は約60cm×50cm、深さ約10cmを測る。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃烧部幅80cm、同長50cmを測る。



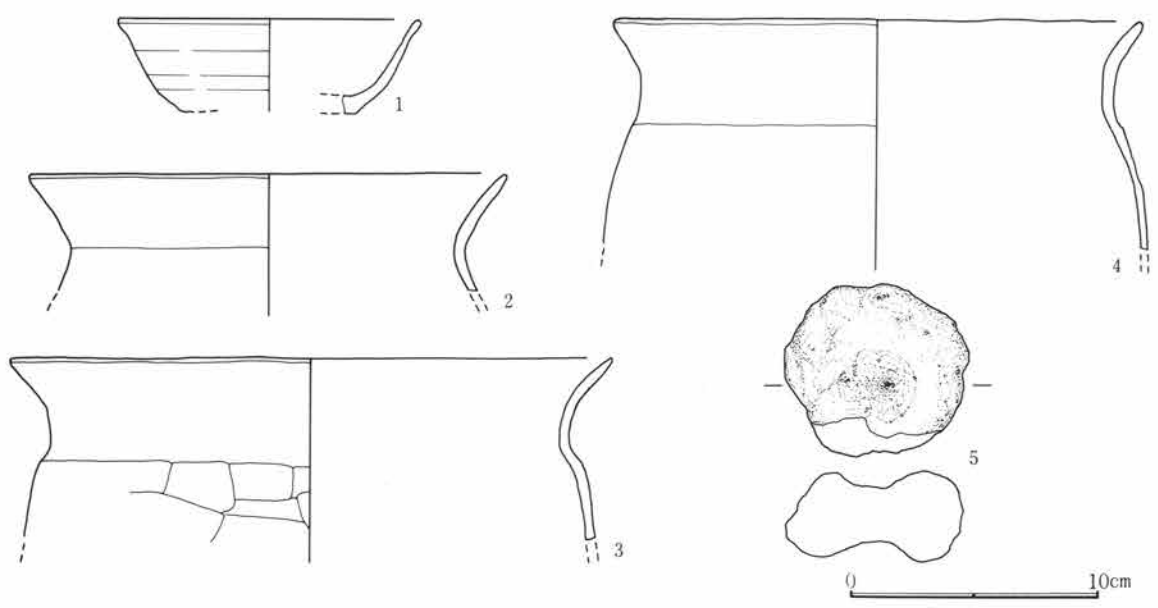
- A区78号住居跡
- 1 暗褐色土層 C軽石少量含む
 - 2 暗褐色土層 C軽石含む
 - 3 暗褐色土層 C軽石多量に含む

第197図 A区78号住居跡



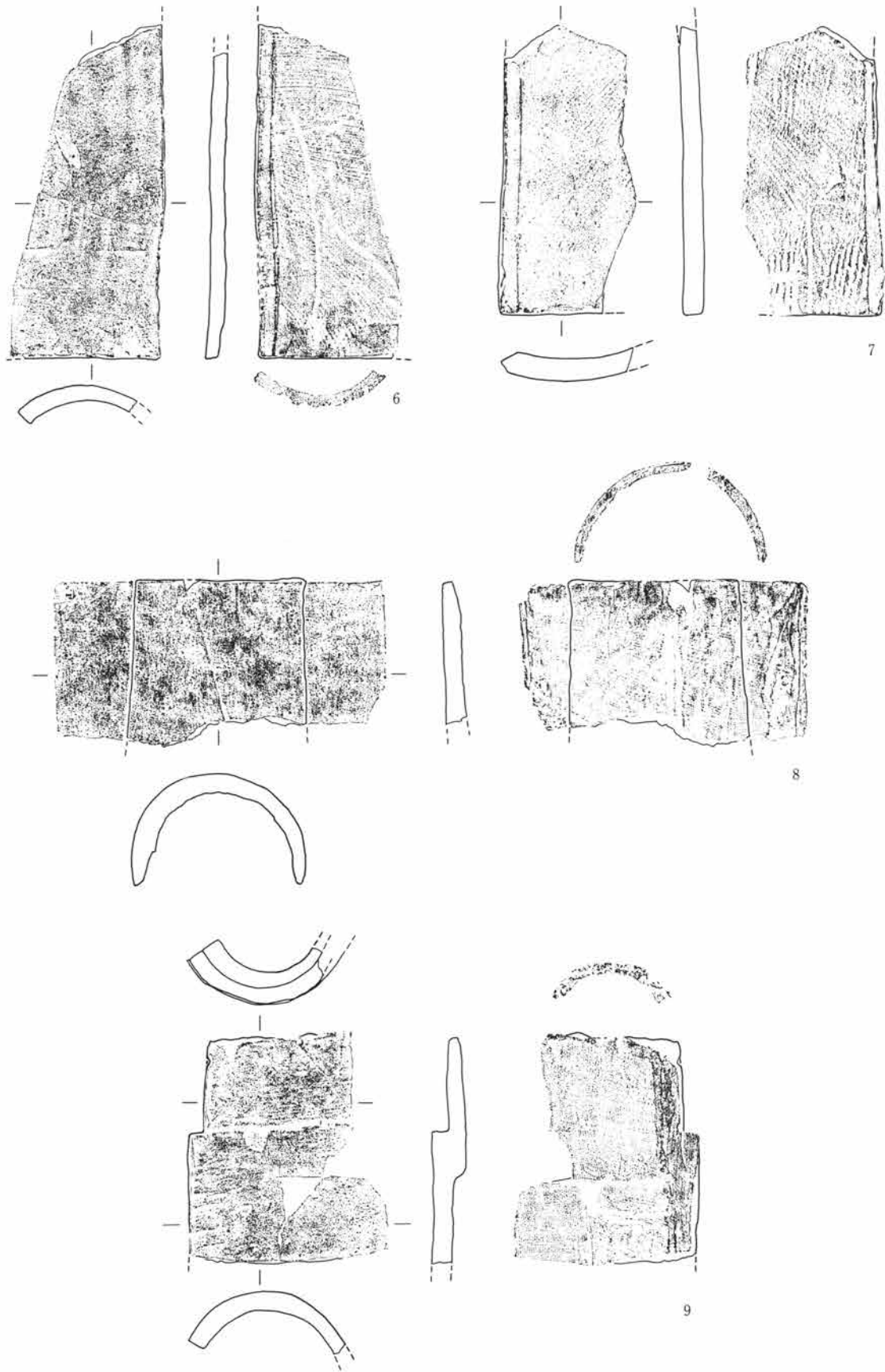
- A区78号住居跡竈
- 1 暗褐色土層 C軽石多量、粘土ブロック少量含む
 - 2 暗褐色土層 C軽石、焼土粒少量含む
 - 3 赤褐色土層 焼土粒、ブロック多量に含む
 - 4 灰白色粘土層
 - 5 暗褐色土層 ローム粒少量含む

第198図 A区78号住居跡竈

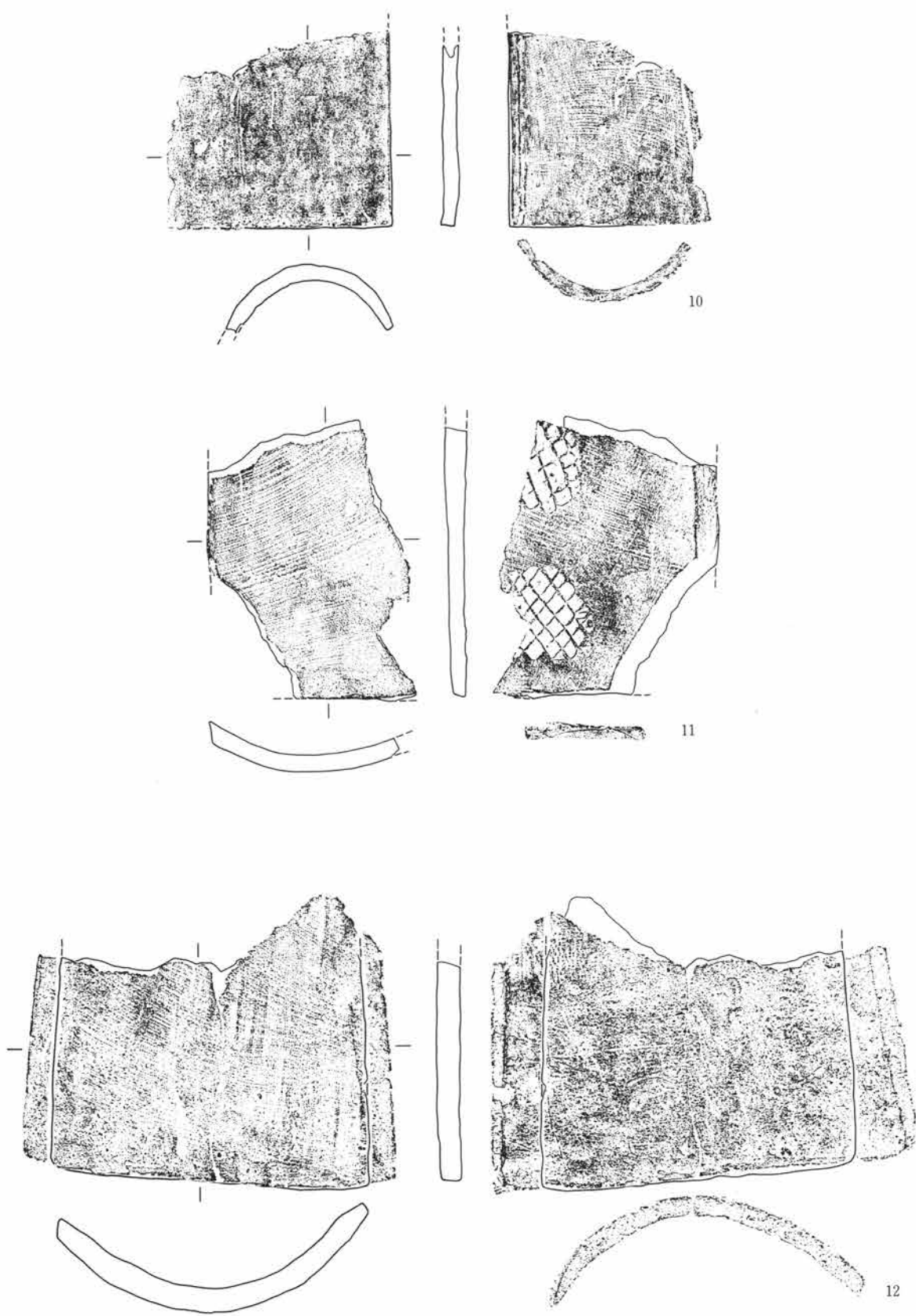


第199図 A区78号住居跡出土遺物(1)

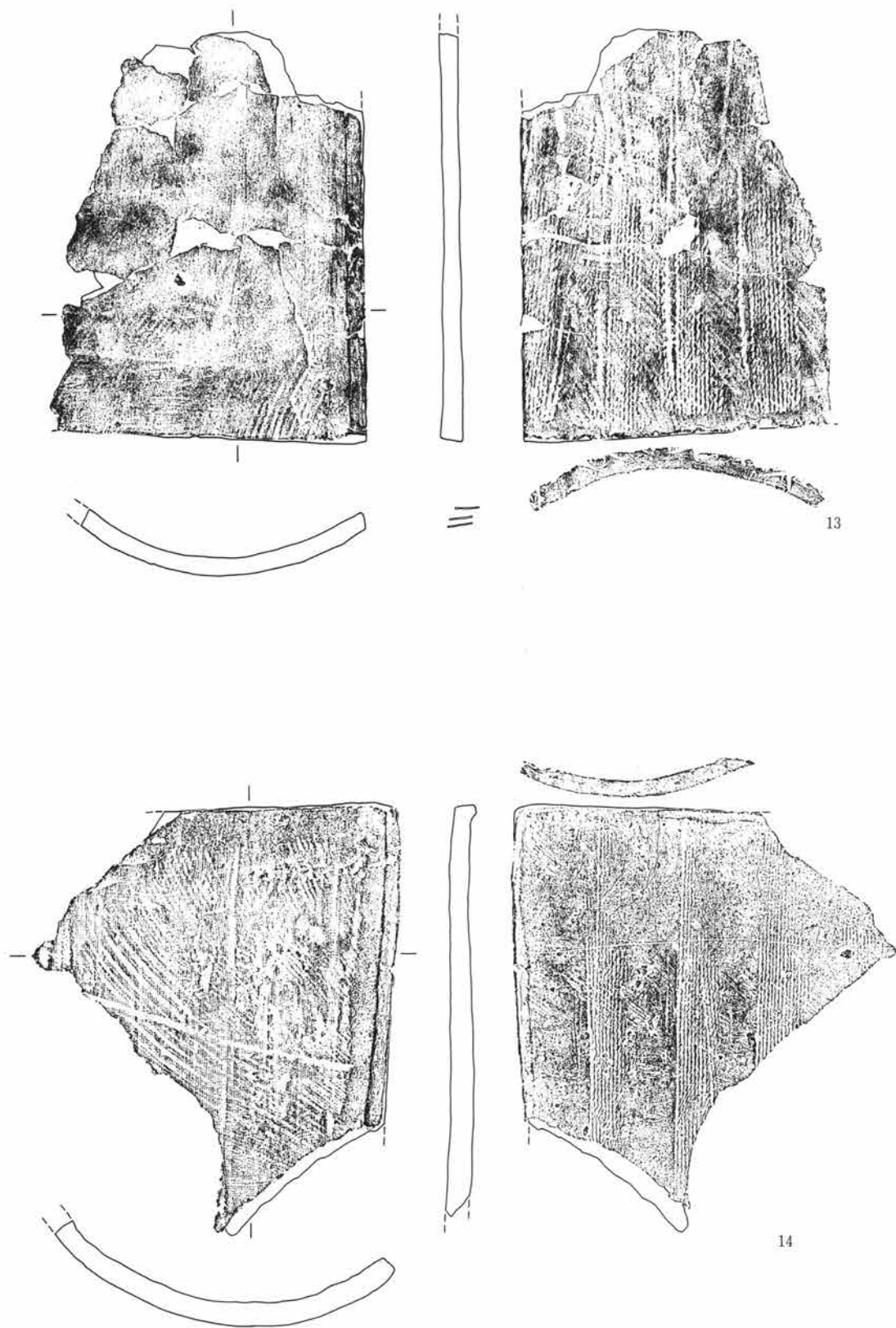
第4章 検出された遺構・遺物



第200図 A区78号住居跡出土遺物(2)



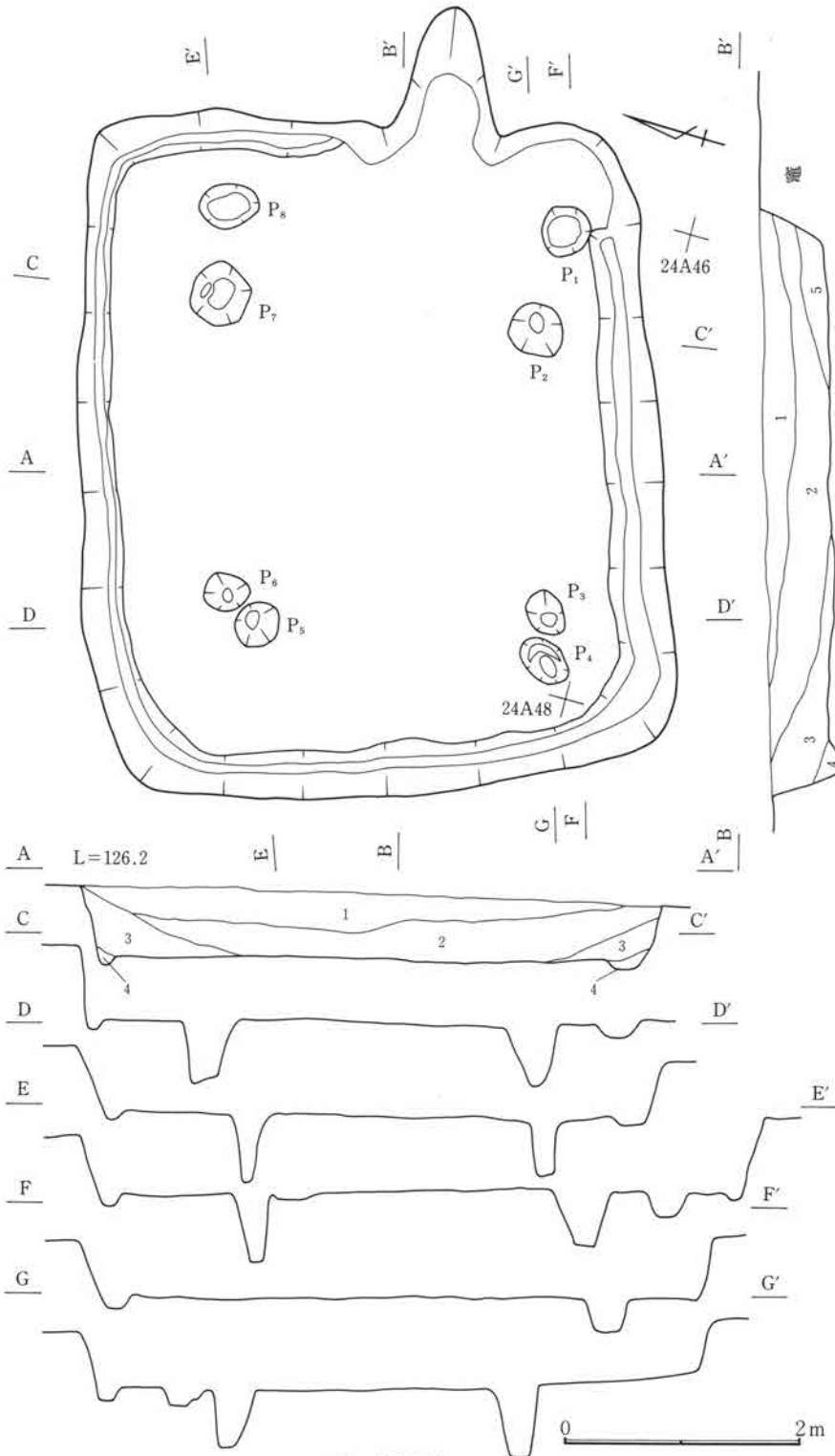
第201図 A区78号住居跡出土遺物(3)



第202図 A区78号住居跡出土遺物(4)

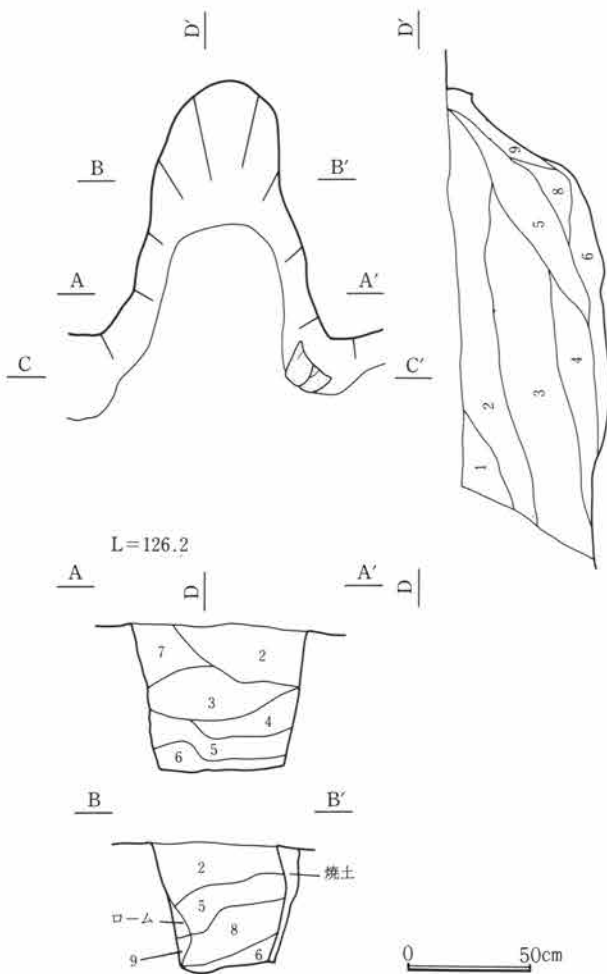
A区79号住居跡 (第203・204・205図、第15・87・88図版)

A区西北部に位置し23~26A45~48の範囲にある。77号住居跡の北にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺5.65m、短辺5.2



第203図 A区79号住居跡

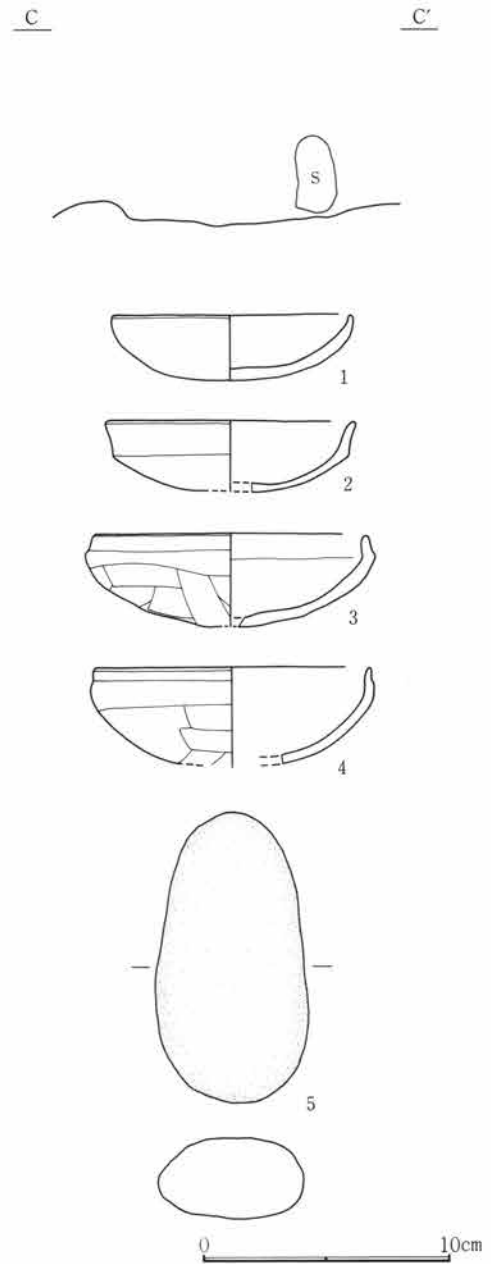
模は長辺5.65m、短辺5.2mを測る。平面形態は隅丸方形を呈し、主軸方位はN-77.5°-Eである。壁高は約50cm~60cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、南東隅を除き四周には壁周溝が巡る。床面には柱穴と思われる8基の小穴が検出された。壁周溝の規模は幅約10cm~15cm、深さ約15cmを測る。柱穴は8基が検出され、各々の規模は1、径約40cm、深さ約30cm、2、径約45cm、深さ約50cm、3、径約30cm、深さ約50cm、4、径約45cm×30cm、深さ約10cm、5、径約35cm、深さ約55cm、6、径約45cm、深さ約40cm、7、径約50cm、深さ約50cm、8、約50cm×35cm、深さ約20cmを測る。1・2、7・8同士のずれはやや大きい。それぞれ4本柱の体裁を維持しており、また柱穴の深さは4を除きほぼ50cm前後に揃っているため二時期の立て替えなどが推定される。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃烧部幅約1m、同長1.4mを測る。燃烧部右袖部から構築材と思われる石が検出された。



A区79号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 灰褐色土層 C軽石少量、粘土ブロック多量に含む、天井崩壊土？
- 3 暗褐色土層 C軽石多量、焼土粒、灰、ローム粒少量含む
- 4 灰褐色土層 灰、焼土粒多量に含む
- 5 赤褐色土層 焼土ブロック多量に含む
- 6 灰色灰層
- 7 暗褐色土層 C軽石、ローム粒、焼土粒少量含む
- 8 暗褐色土層 C軽石、焼土粒少量、灰多量、含む
- 9 暗褐色土層 粘土ブロック多量、壁をかためたものと思われる

第204図 A区79号住居跡竈



第205図 A区79号住居跡出土遺物

A区80号住居跡 (第206・207・209・210・211図、第15・16・88・89・90・91・173図版)

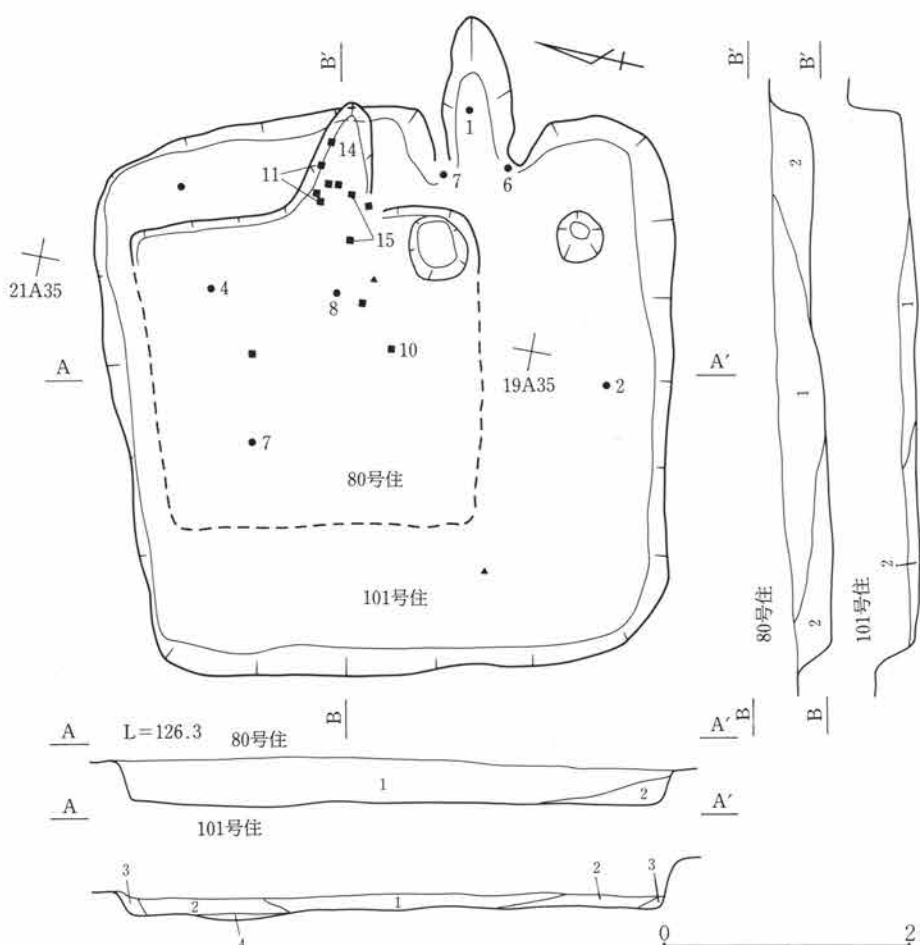
A区ほぼ中央部に位置し19・20A34・35の範囲にある。92号住居跡の北にある。他の遺構との関係は80号住居跡が101号住居跡の中に重なった状態で検出された。新旧関係は80号住居跡が新しい。規模は長辺2.7m、短辺2.55mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-76°-Eである。壁高は明確に壁が検出されず東壁で約10cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・柱穴等の諸施設は検出されていない。貯蔵穴は南東隅に検出された。規模は約55cm×45cm、深さ約20cmを測る。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃焼部幅70cm、同長90cmを測る。竈内から多量の瓦が検出され、右側袖部の位置からも瓦が検出された。

A区101号住居跡 (第206・208・212図、第21・91・174図版)

A区ほぼ中央部に位置し18~20A33~36の範囲にある。92号住居跡の北にある。他の遺構との関係は80号

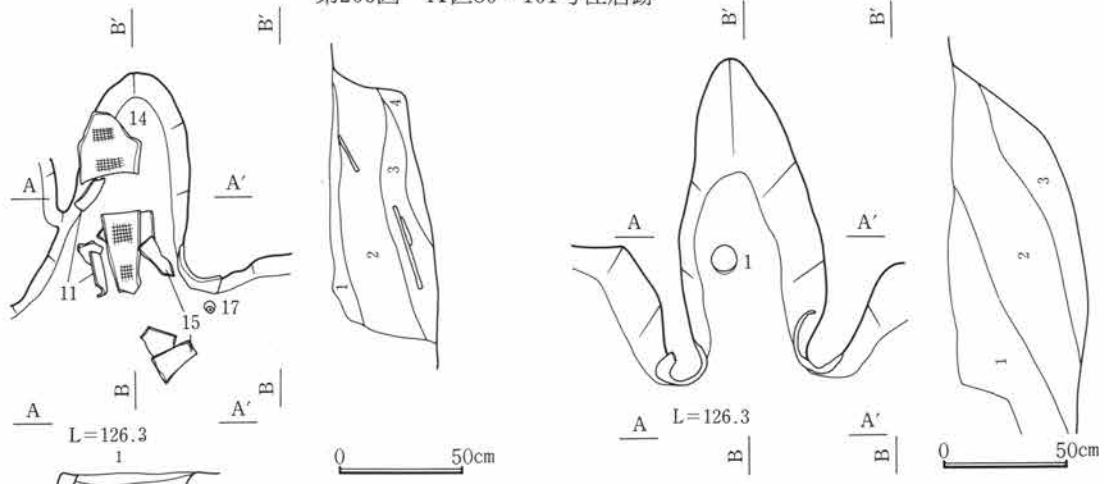
第1節 竪穴住居跡

住居跡と重複している。新旧関係は80号住居跡が新しい。規模は長辺4.7m、短辺4.6mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-81.5°-Eである。壁高は約20cm~30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。南東部に小穴が検出された。規模は径約40cm、深さ約40cmを測る。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は袖幅50cm、燃烧部長1.2mを測る。袖部は両袖部ともに地山を床面に延びた状態で掘り残してある。両袖部から瓦が検出された。



- A区80号住居跡
- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
 - 2 暗褐色土層 C軽石多量、カーボン少量含む
- A区101号住居跡
- 1 黒褐色土層 C軽石微量、ロームブロック含む
 - 2 黒褐色土層 C軽石、ロームブロック含め
 - 3 黒褐色土層 C軽石若干含む
 - 4 黒褐色土層 C軽石若干、ロームブロック含む

第206図 A区80・101号住居跡

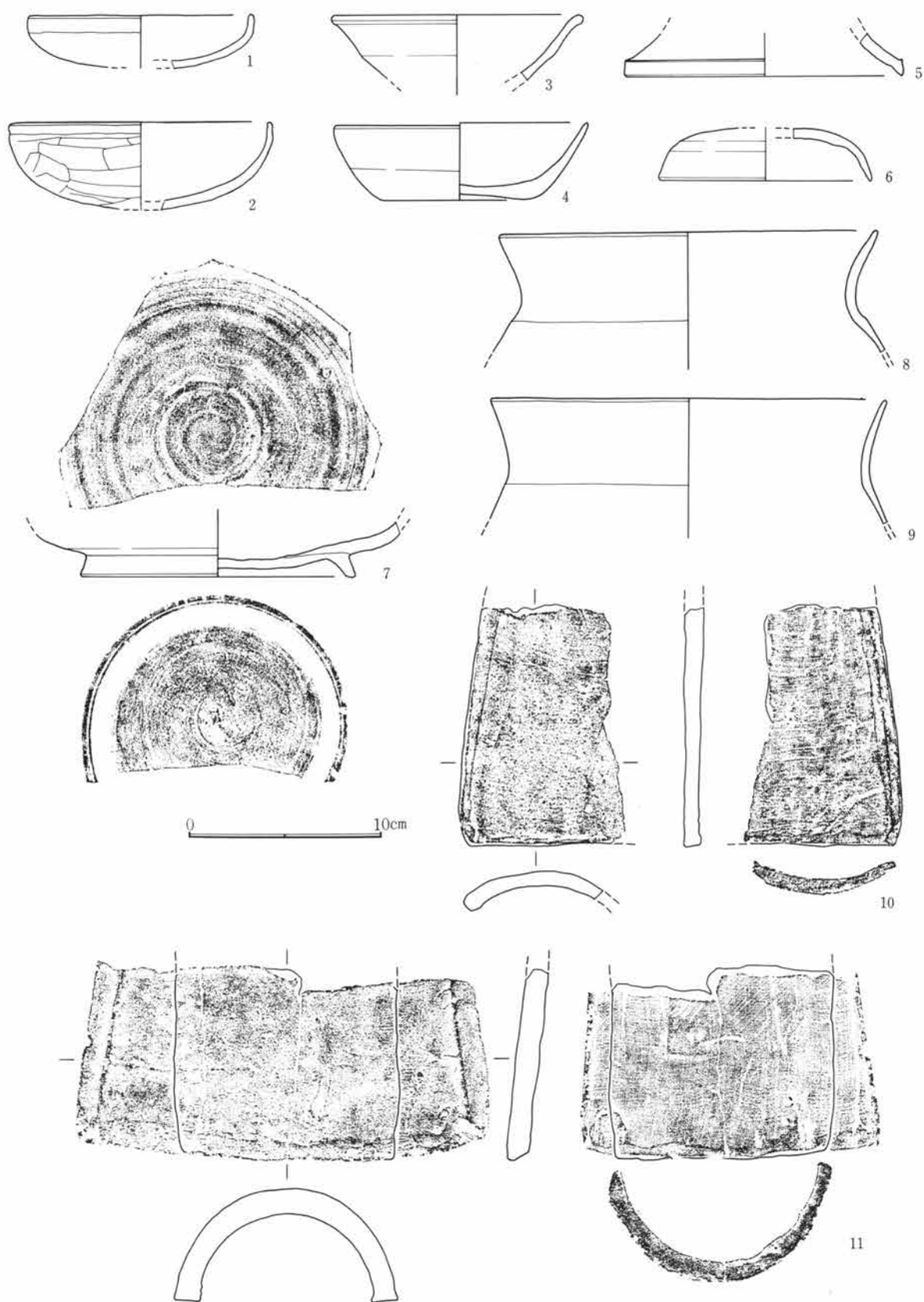


- A区80号住居跡竈
- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
 - 2 暗褐色土層 C軽石多量、焼土細粒少量含む
 - 3 暗褐色土層 焼土粒多量に含む
 - 4 暗褐色土層 焼土、炭を含む
- A区101号住居跡竈
- 1 暗褐色土層 焼土含む
 - 2 暗褐色土層 焼土多量に含む
 - 3 暗褐色土層 焼土・粘土含む

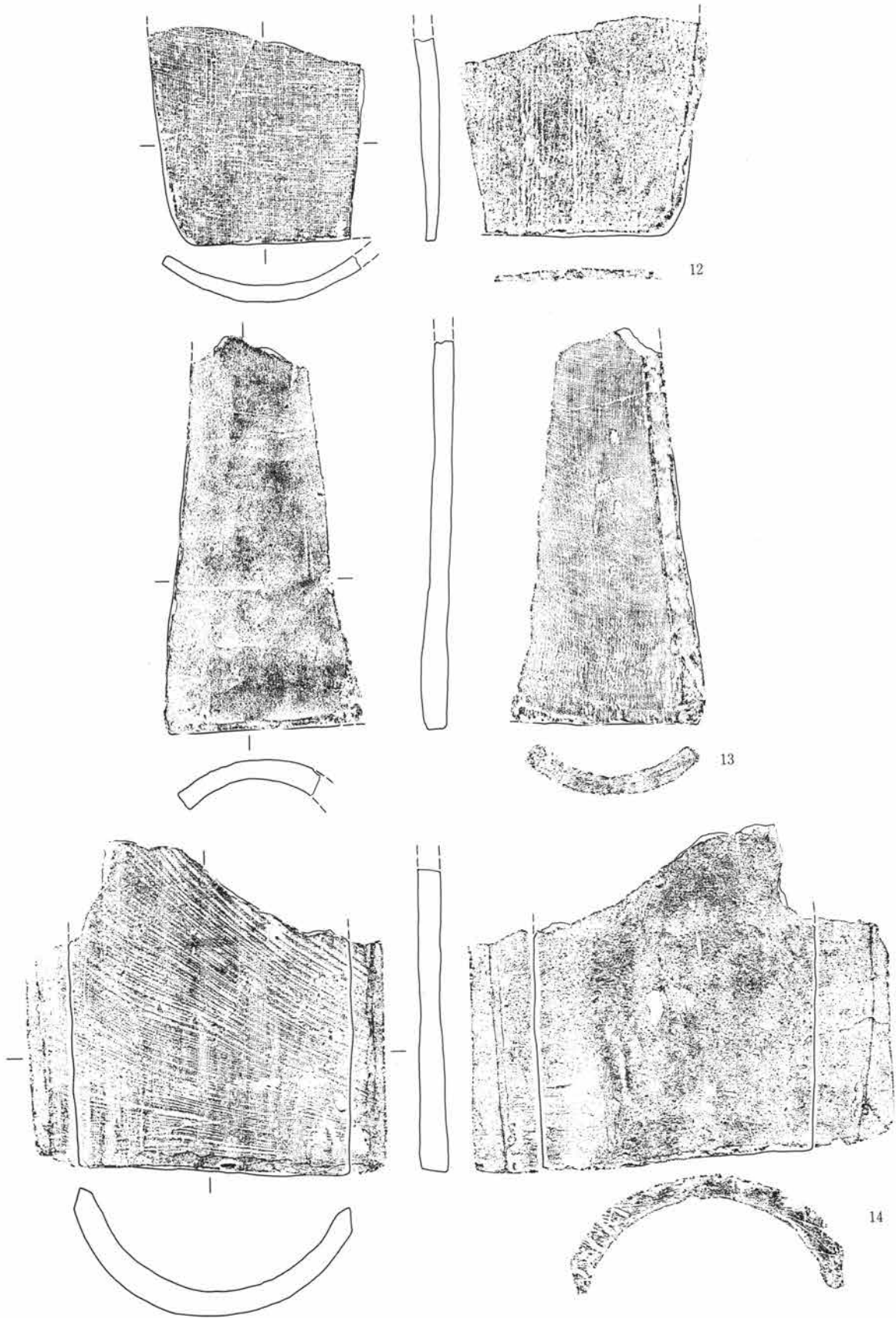
第207図 A区80号住居跡竈

第208図 A区101号住居跡竈

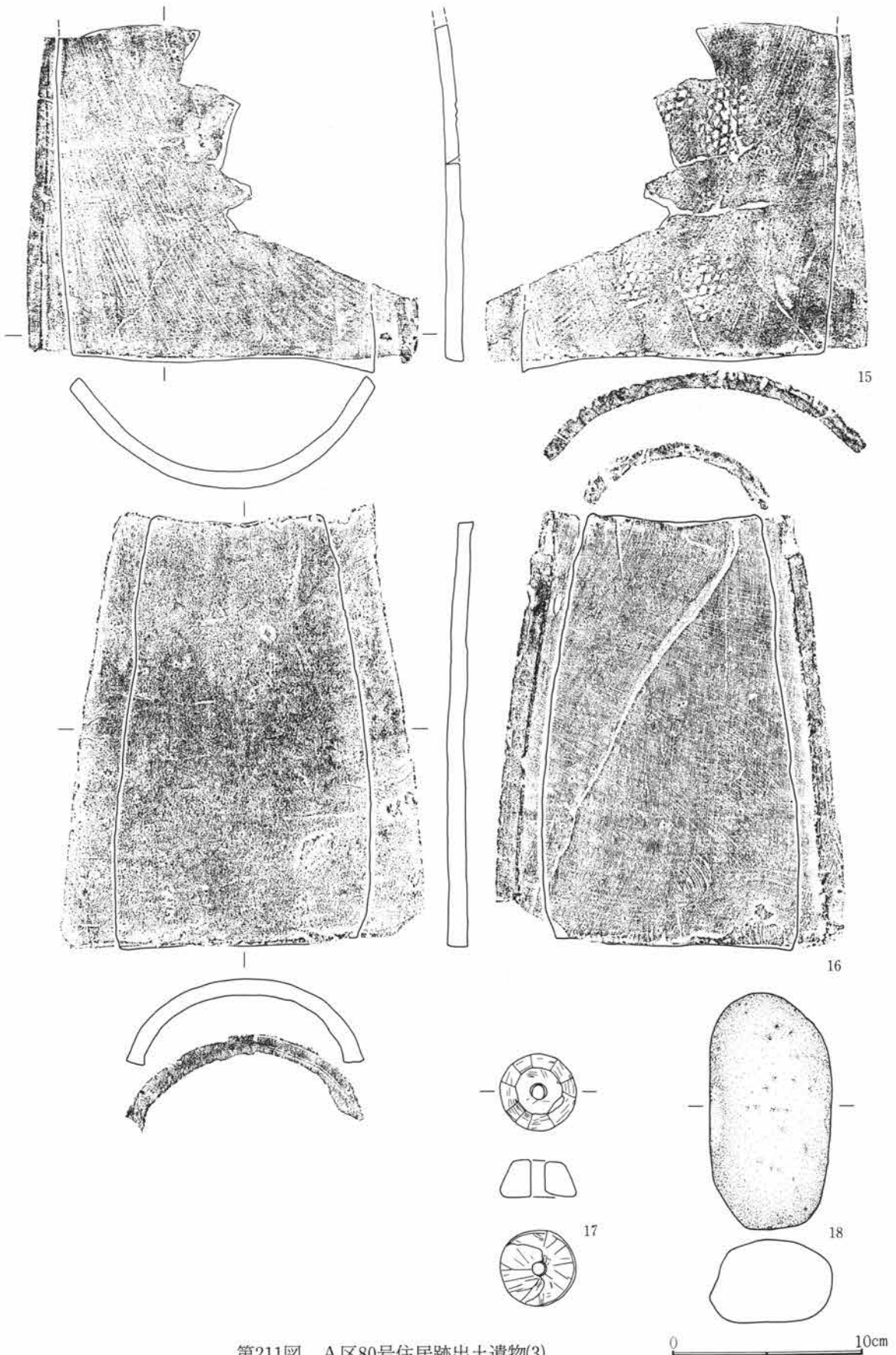
第4章 検出された遺構・遺物



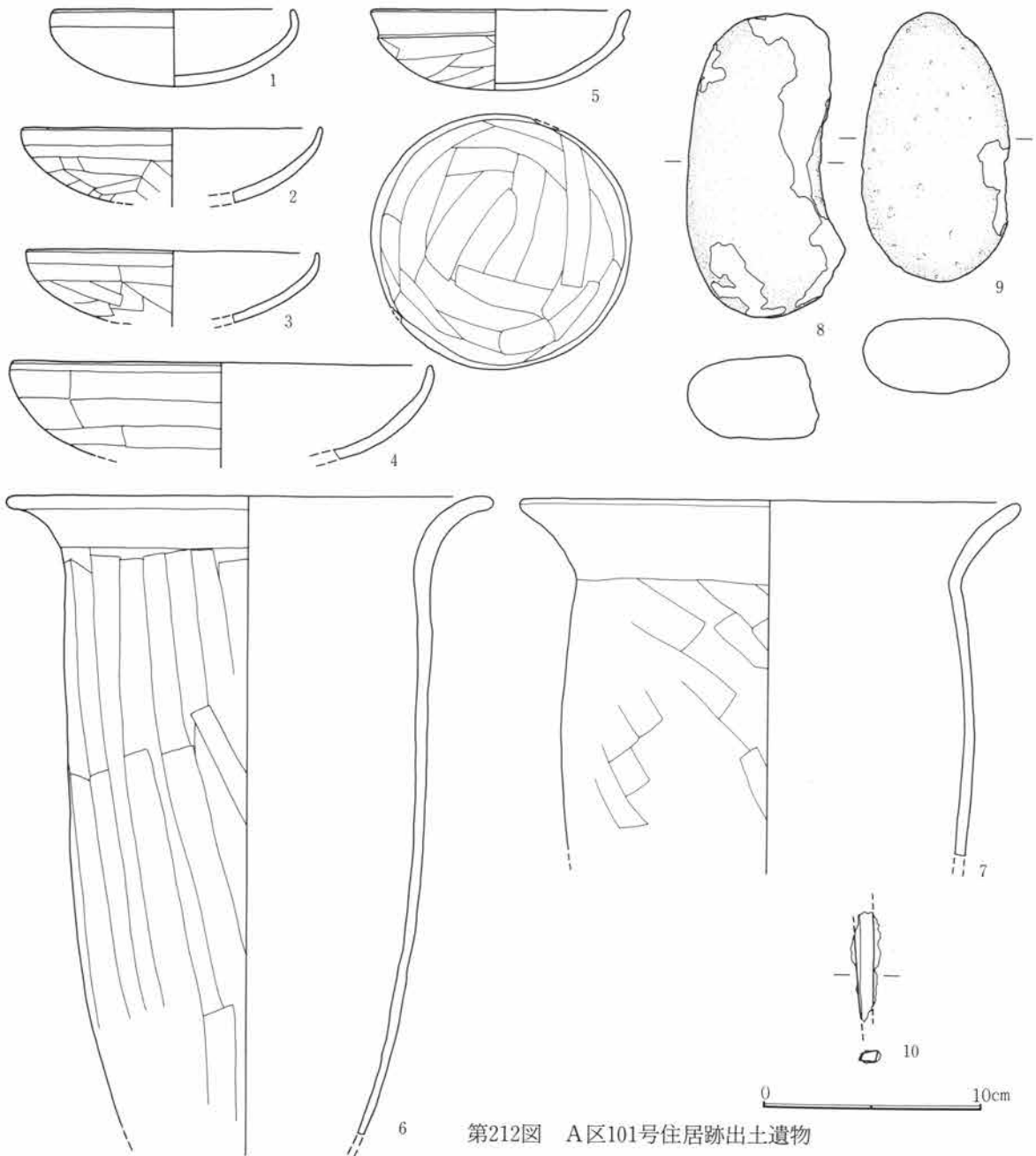
第209図 A区80号住居跡出土遺物(1)



第210图 A区80号住居跡出土遺物(2)



第211図 A区80号住居跡出土遺物(3)



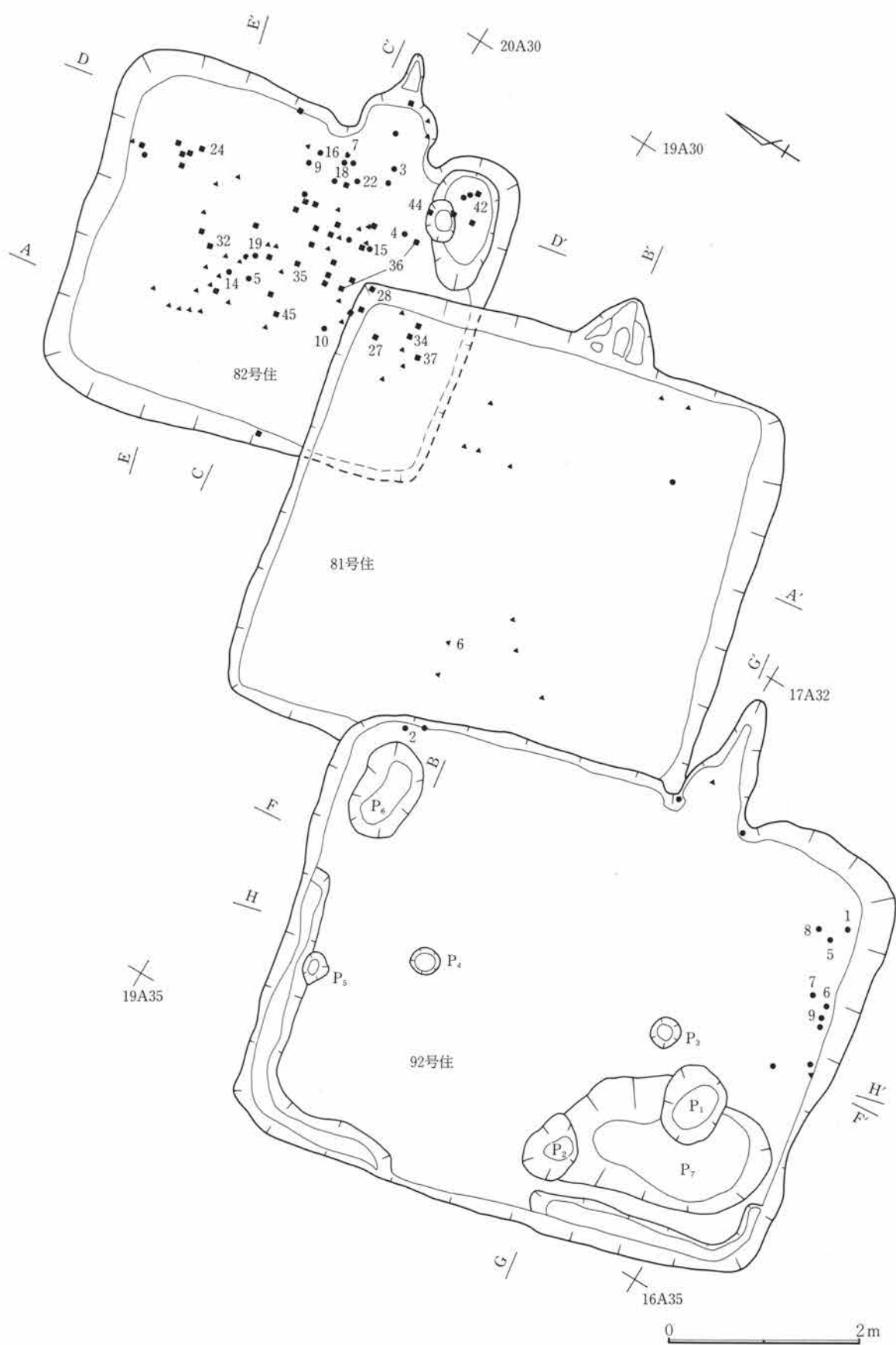
第212図 A区101号住居跡出土遺物

A区81号住居跡 (第213・214・215・218図、第16・91・92)

A区ほぼ中央部に位置し17～19A30～33の範囲にある。101号住居跡の南東にある。他の遺構との関係は南西部で92号住居跡、北東部で82号住居跡と重複している。新旧関係は82号住居跡より新しく、92号住居跡より古い。規模は長辺4.9m、短辺4.75mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-80°-Eである。壁高は約50cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃焼部幅90cm、同長70cmを測る。

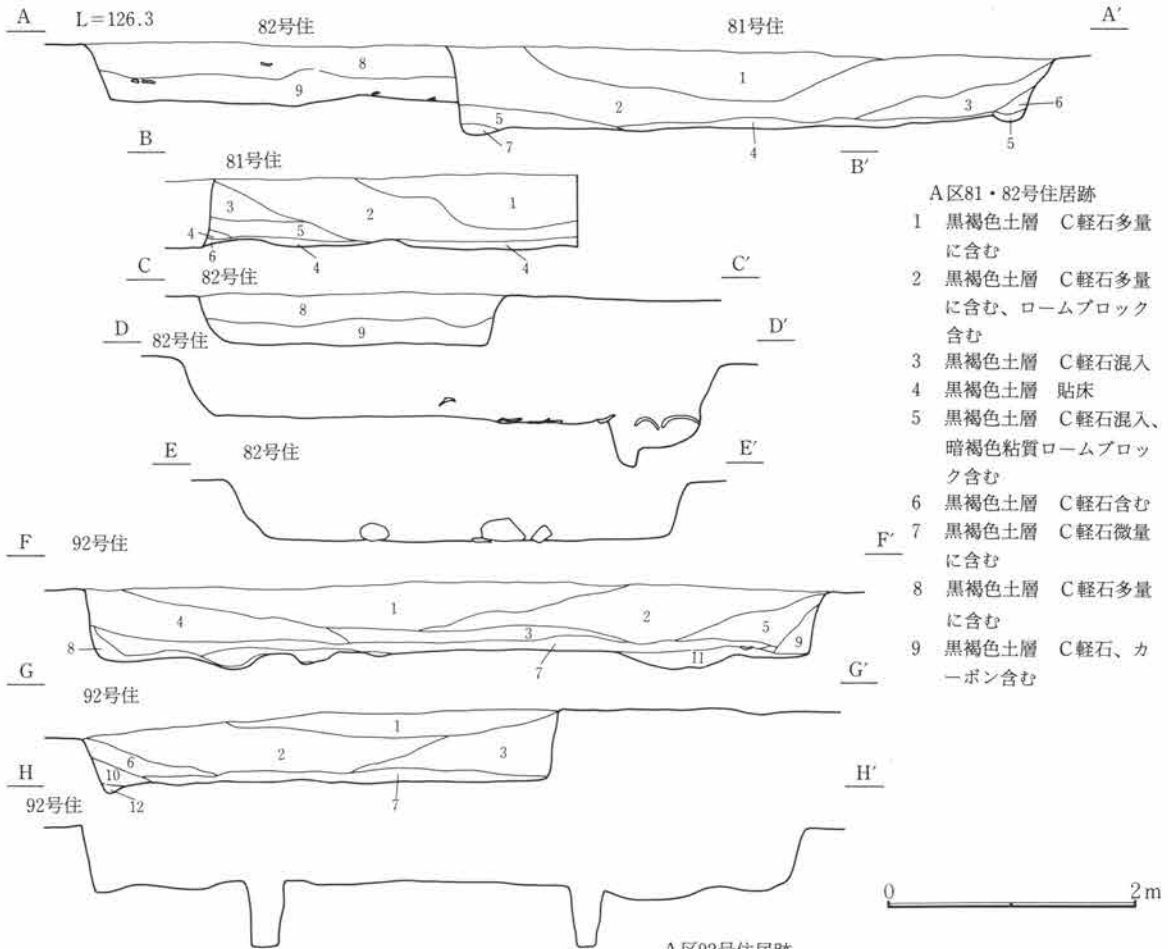
A区82号住居跡 (第213・214・216・219・220・221・222・223・224・225・226・227図、第16・92・93・94・95・96・97・98・99・174)

A区ほぼ中央部に位置し19～21A30～32の範囲にある。92号住居跡の北東にある。他の遺構との関係は南西部で81号住居跡と重複している。新旧関係は82号住居跡が古い。出土遺物はほとんどなく、すべて覆土中



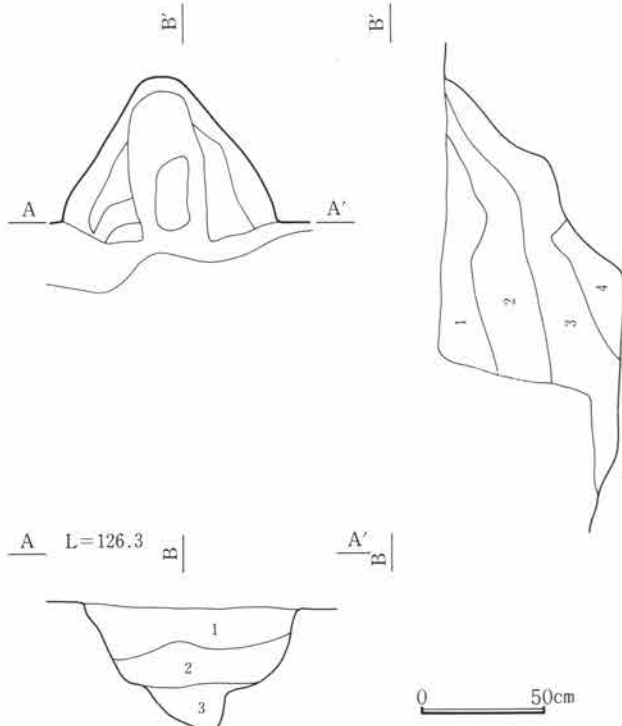
第213図 A区81・82・92号住居跡

第1節 竪穴住居跡



- A区81・82号住居跡
- 1 黒褐色土層 C軽石多量に含む
 - 2 黒褐色土層 C軽石多量に含む、ロームブロック含む
 - 3 黒褐色土層 C軽石混入
 - 4 黒褐色土層 貼床
 - 5 黒褐色土層 C軽石混入、暗褐色粘質ロームブロック含む
 - 6 黒褐色土層 C軽石含む
 - 7 黒褐色土層 C軽石微量に含む
 - 8 黒褐色土層 C軽石多量に含む
 - 9 黒褐色土層 C軽石、カーボン含む

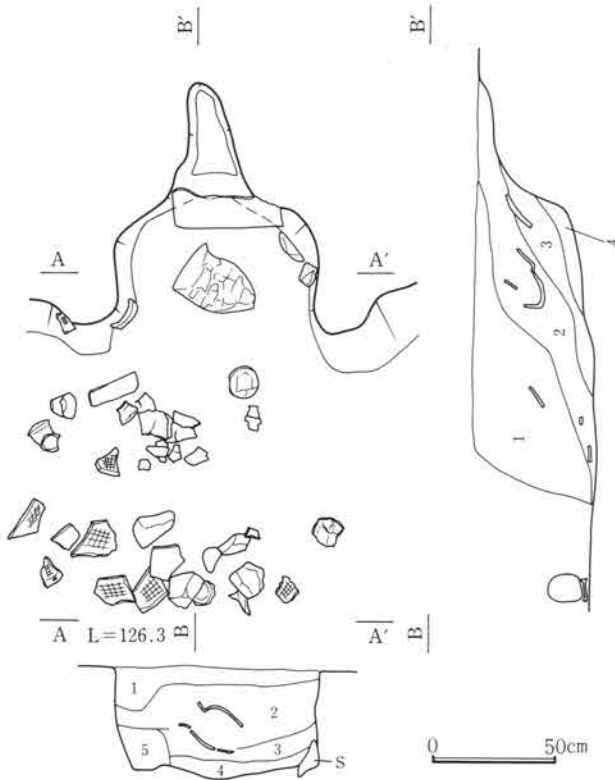
第214図 A区81・82・92号住居跡土層断面図



- A区92号住居跡
- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
 - 2 暗褐色土層 C軽石、ローム粒多量に含む
 - 3 暗褐色土層 C軽石、粘土粒少量含む
 - 4 暗褐色土層 C軽石多量、ローム粒少量含む
 - 5 暗褐色土層 C軽石多量、ローム粒含む
 - 6 暗褐色土層 C軽石少量含む
 - 7 暗褐色土層 C軽石、粘土粒少量含む
 - 8 暗褐色土層 C軽石わずかに含む、黒土ブロック少量含む
 - 9 暗褐色土層 C軽石わずかに含む、黒土ブロック含む
 - 10 暗褐色土層 C軽石含む
 - 11 黒褐色土層 黒色灰、ローム粒含む
 - 12 暗褐色土層 ローム土含む
- A区81号住居跡竈
- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
 - 2 暗褐色土層 C軽石含む
 - 3 暗褐色土層 C軽石少量含む
 - 4 暗褐色土層

第215図 A区81号住居跡竈

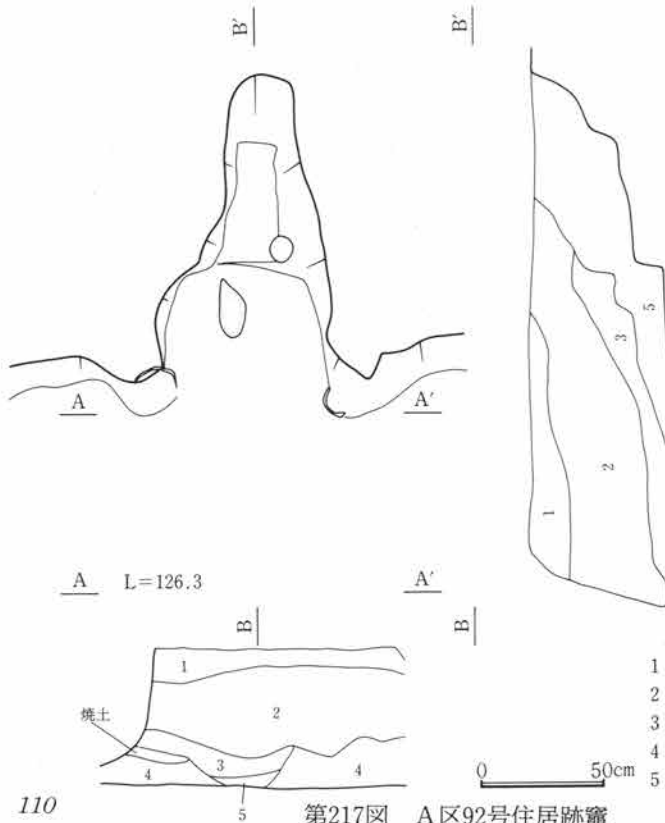
であり、住居跡に伴うとは考えられない。規模は長辺4.35m、短辺3.7mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-79°-Eである。壁高は約40cm~50cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・柱穴等の諸施設は検出されていない。貯蔵穴は南東隅に検出された。規模は1.



A区82号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石少量、焼土、粘土ブロック多量に含む
- 3 灰白色灰層
- 4 暗褐色土層 C軽石少量、粘土粒、焼土ブロック多量に含む
- 5 暗褐色土層 焼土ブロック、粘土主体、カーボン多量に含む

第216図 A区82号住居跡竈



3m×70cm、深さ約20cmを測る。また貯蔵穴の北壁に接して小穴が検出された。規模は45cm×25cm、深さ約40cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃烧部幅95cm、同長55cm、煙道部長55cmを測る。

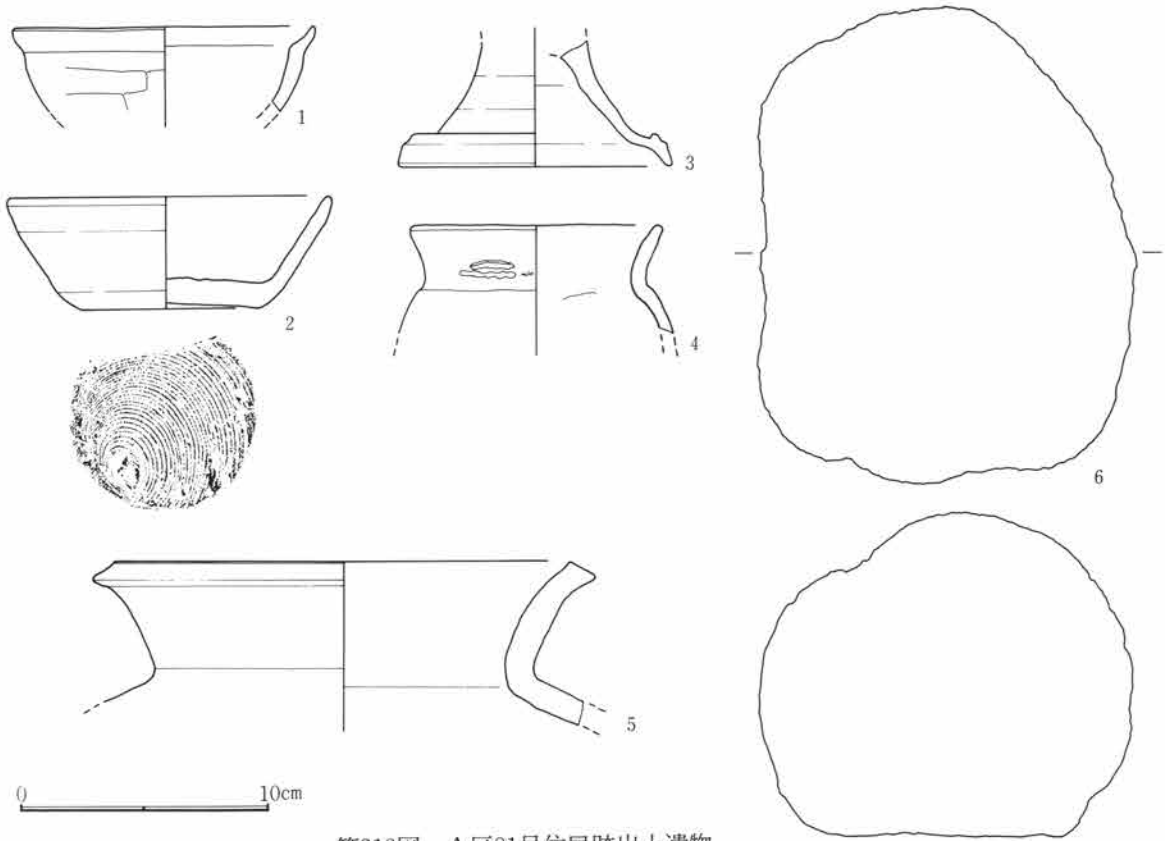
A区92号住居跡（第213・214・217・228図、第19・99図版）

A区中央部に位置し15～18A32～35の範囲にある。101号住居跡の南に接している。他の遺構との関係は北東部で81号住居跡、南西部で114号住居跡と重複している。新旧関係は92号住居跡が新しい。規模は長辺4.35m、短辺3.7mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-77°-Eである。壁高は約50cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、北・西・南壁の一部に壁周溝、床面上には小穴が7基検出された。壁周溝は北西・南西隅に検出され幅約10cm～20cm、深さ約2cm～5cmを測る。小穴は7基が検出され各々1～7とした。規模は1、80cm×60cm、深さ約

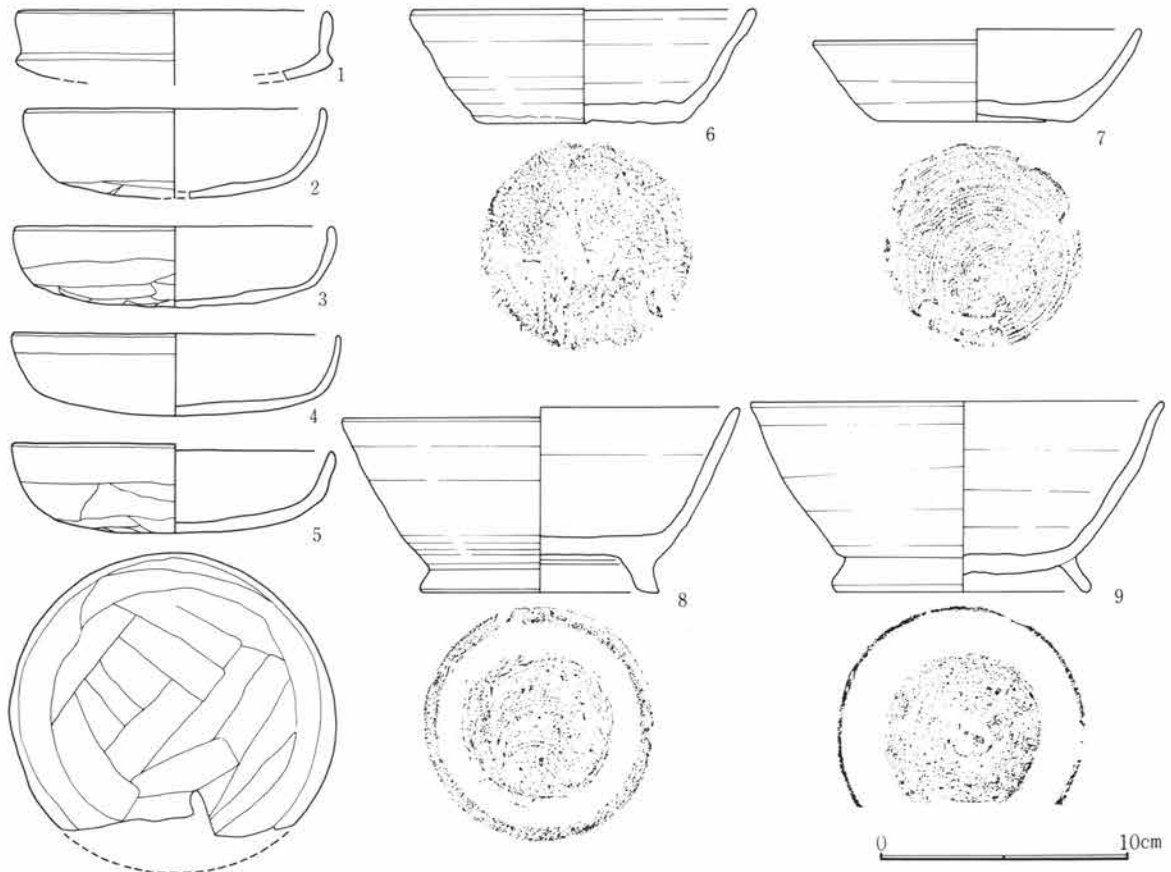
20cm、2、70cm×50cm、深さ約30cm、3、径約30cm、深さ約50cm、4、径約30cm、深さ約55cm、5、35cm×25cm、深さ約10cm、6、1m×60cm、深さ約10cm、7、2.2m×1.3m、深さ約20cmを測る。3・4は径、深さ共に共通性を持ち柱穴の可能性はある。貯蔵穴は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。両袖部は床面に延びた状態で検出され、両袖部共に土器が付設されている。規模は袖幅80cm、燃烧部長50cm、煙道部長80cmを測る。

A区92号住居跡

- 1 暗褐色土層 C軽石、粘土、カーボン少量含む
- 2 灰褐色土層 C軽石、粘土ブロック多量、焼土粒少量含む
- 3 暗褐色土層 C軽石、粘土小ブロック、灰少量含む
- 4 暗褐色土層 C軽石、粘土ブロック、焼土粒多量に含む
- 5 暗褐色土層

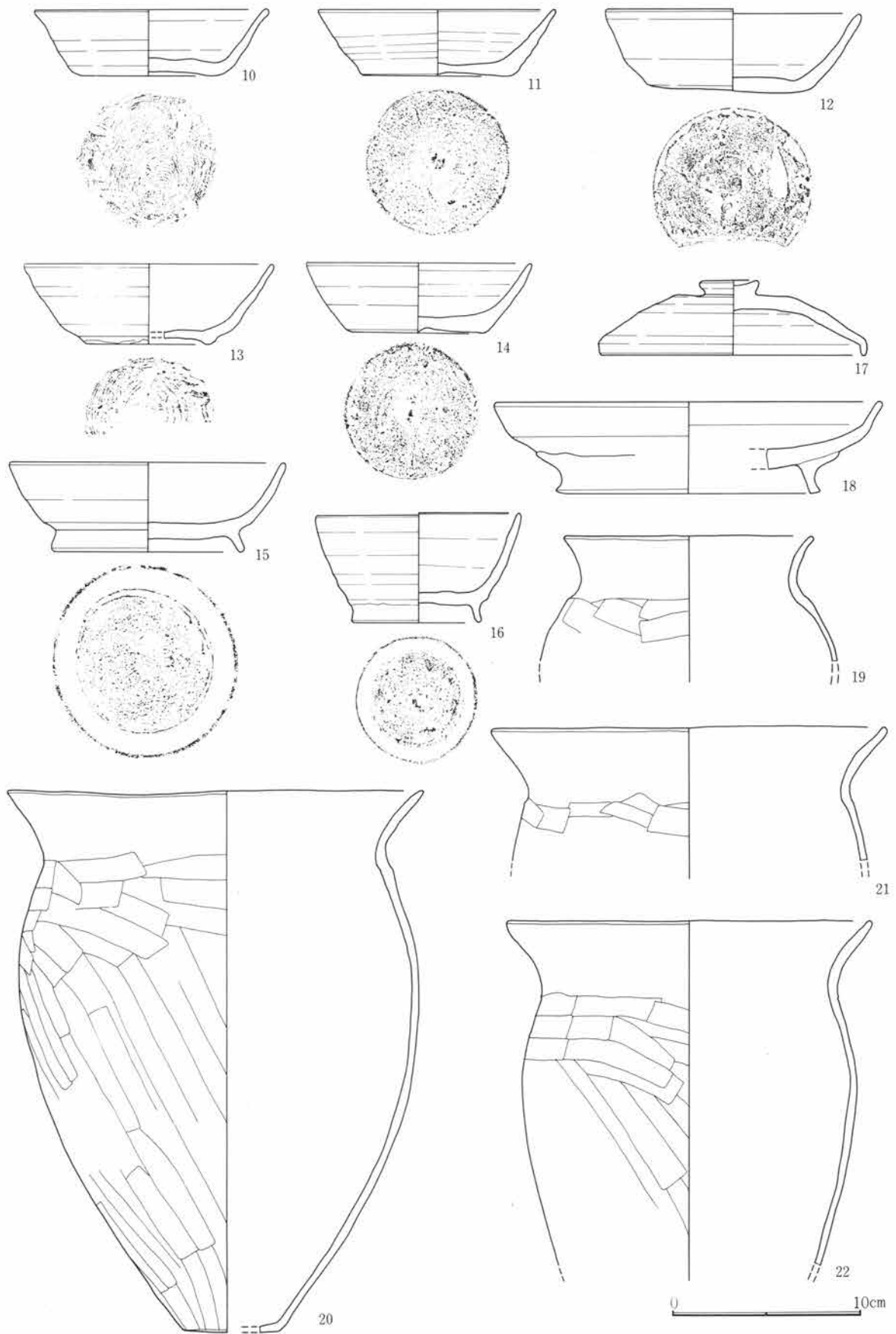


第218図 A区81号住居跡出土遺物

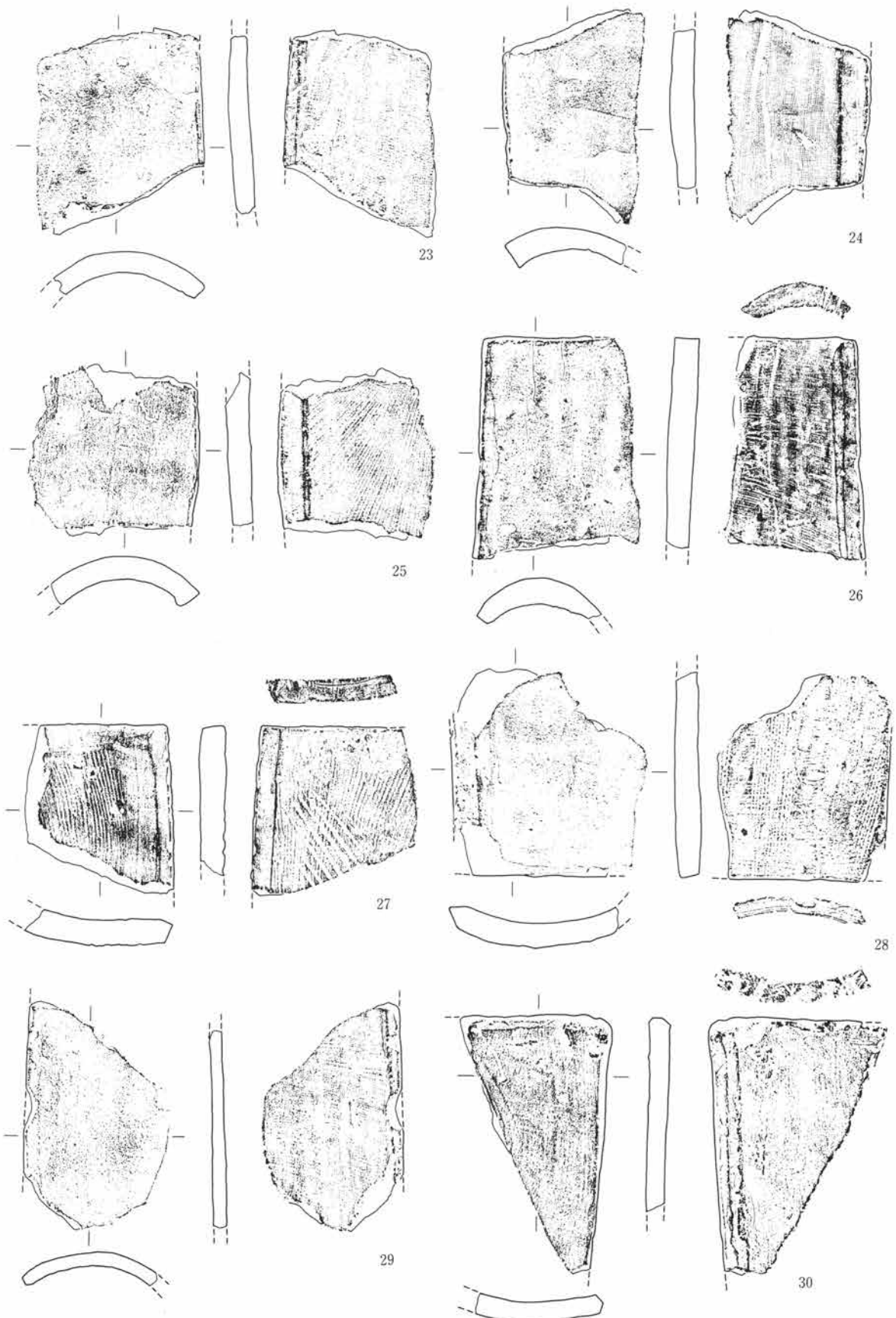


第219図 A区82号住居跡出土遺物(1)

第4章 検出された遺構・遺物

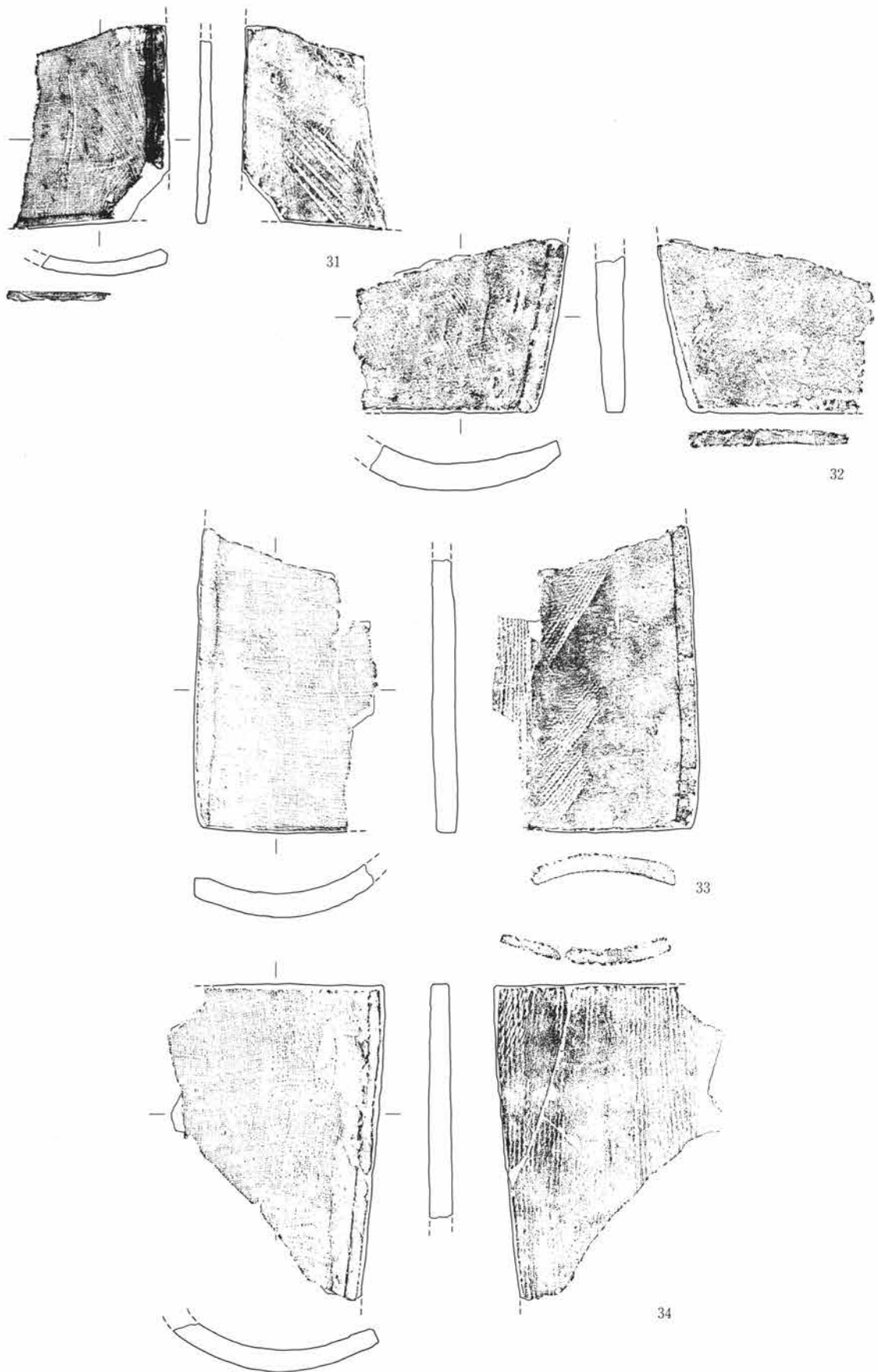


第220図 A区82号住居跡出土遺物(2)

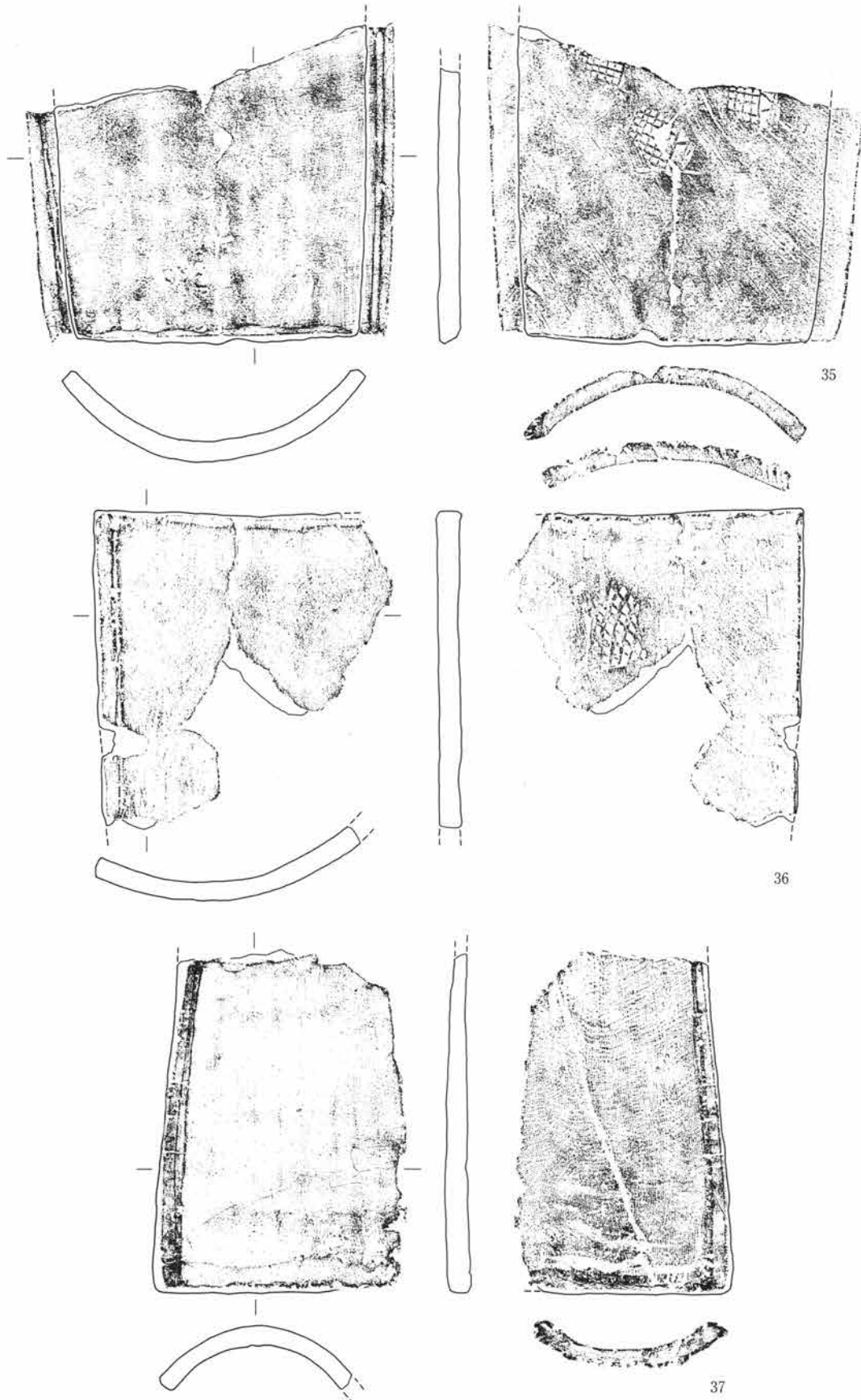


第221図 A区82号住居跡出土遺物(3)

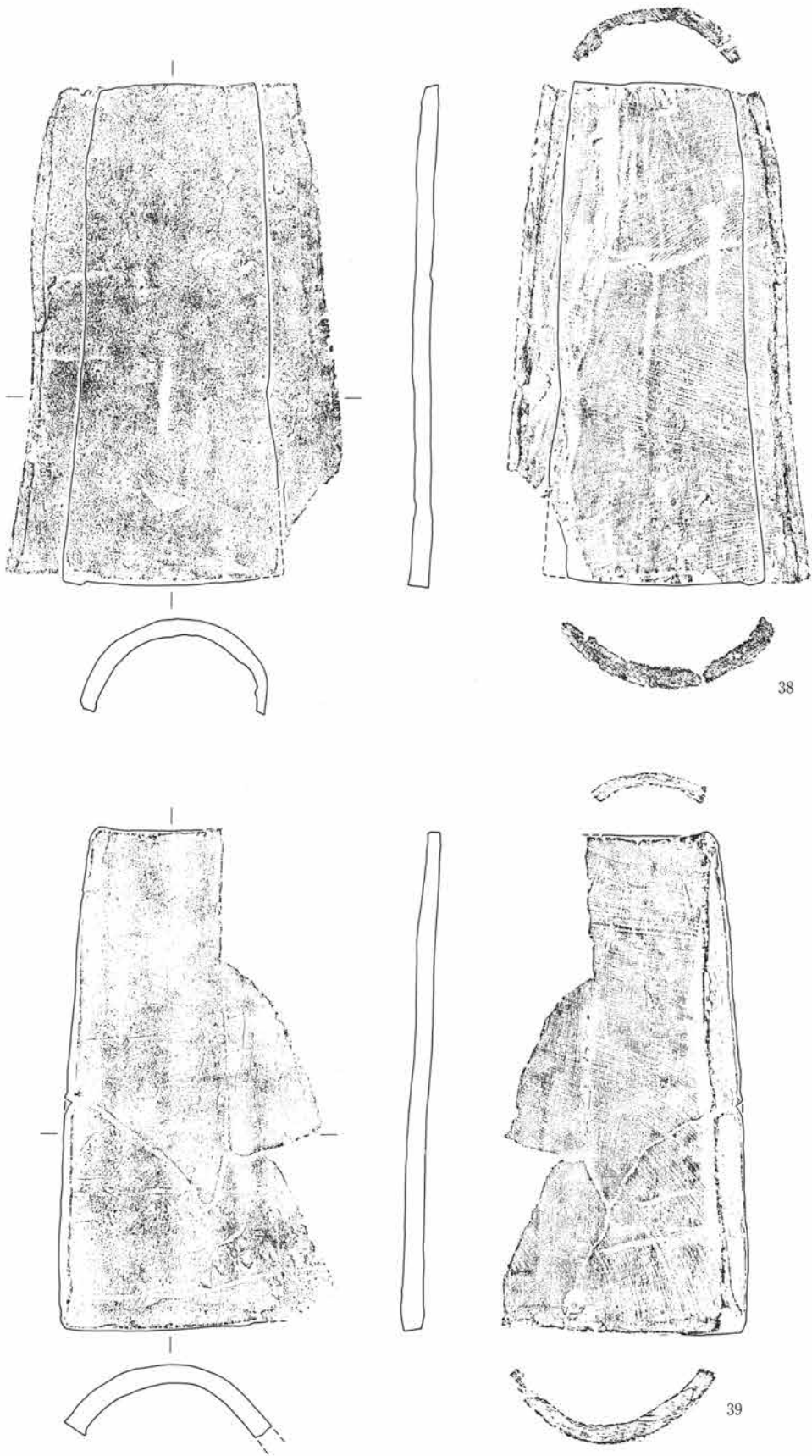
第4章 検出された遺構・遺物



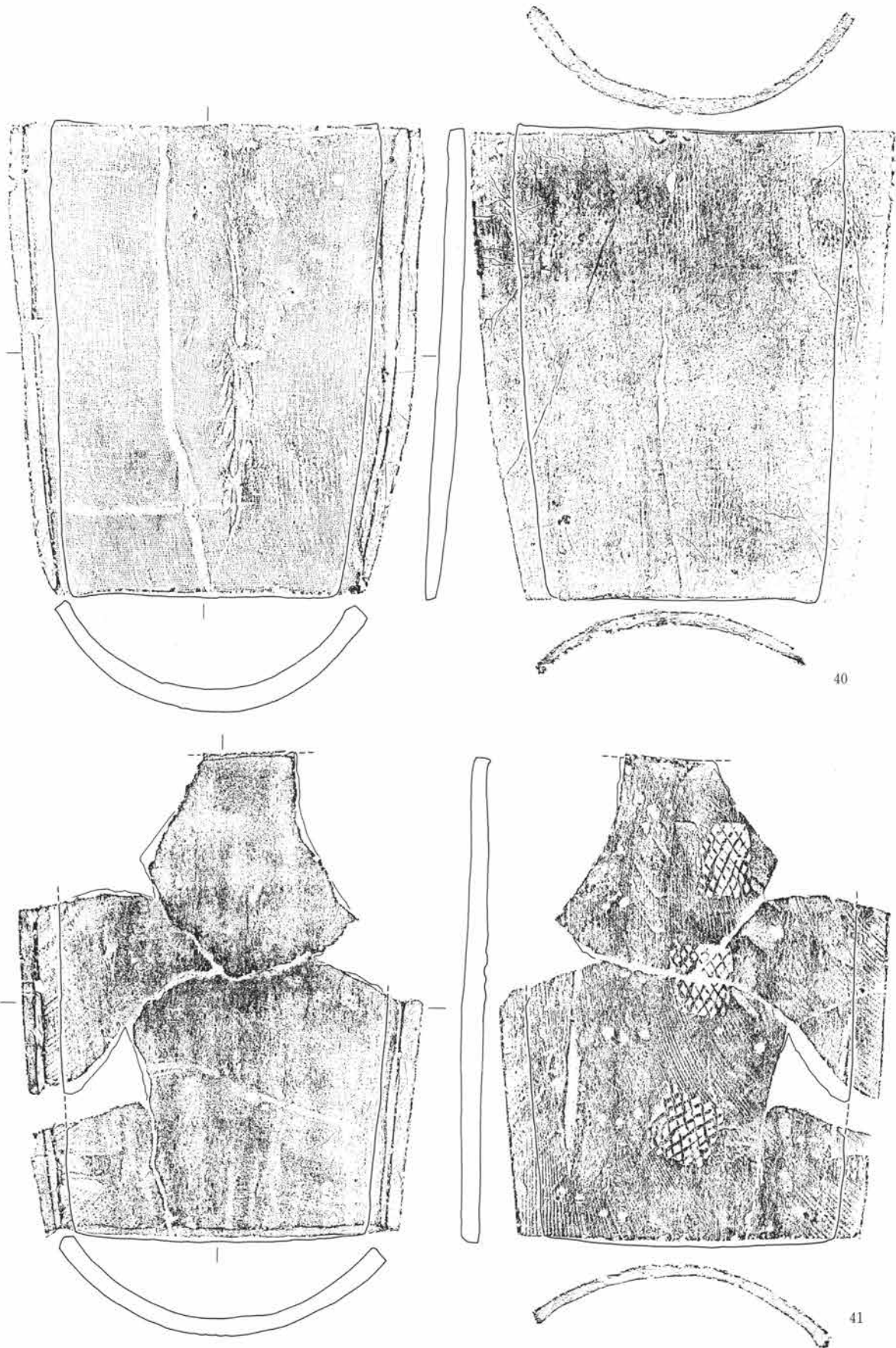
第222図 A区82号住居跡出土遺物(4)



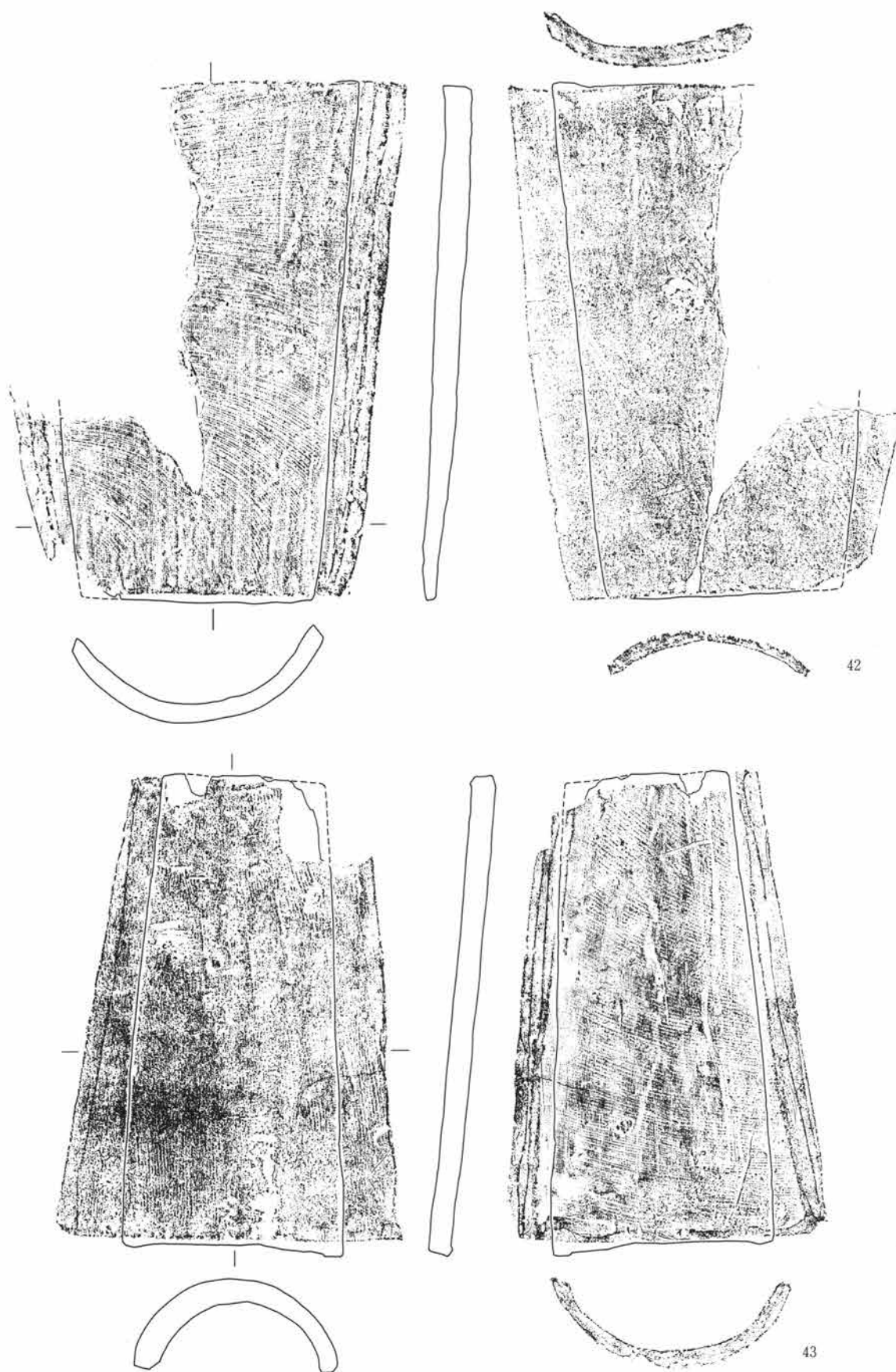
第223図 A区82号住居跡出土遺物(5)



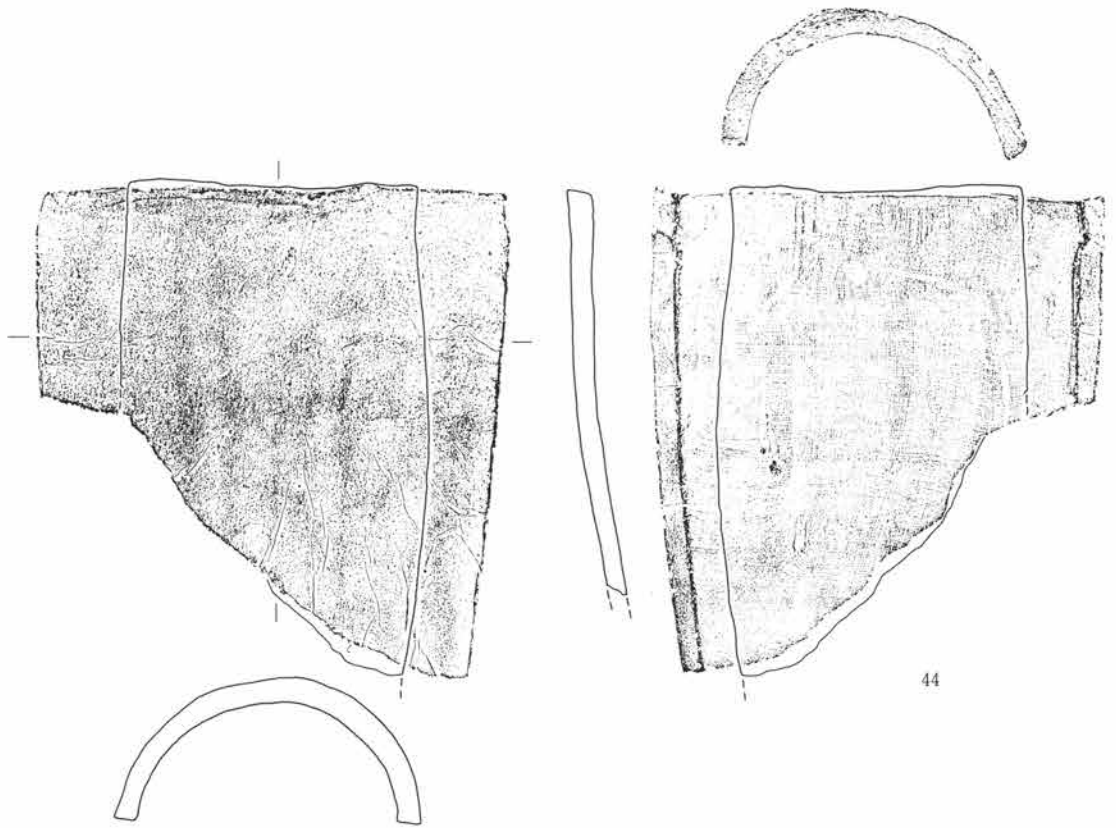
第224図 A区82号住居跡出土遺物(6)



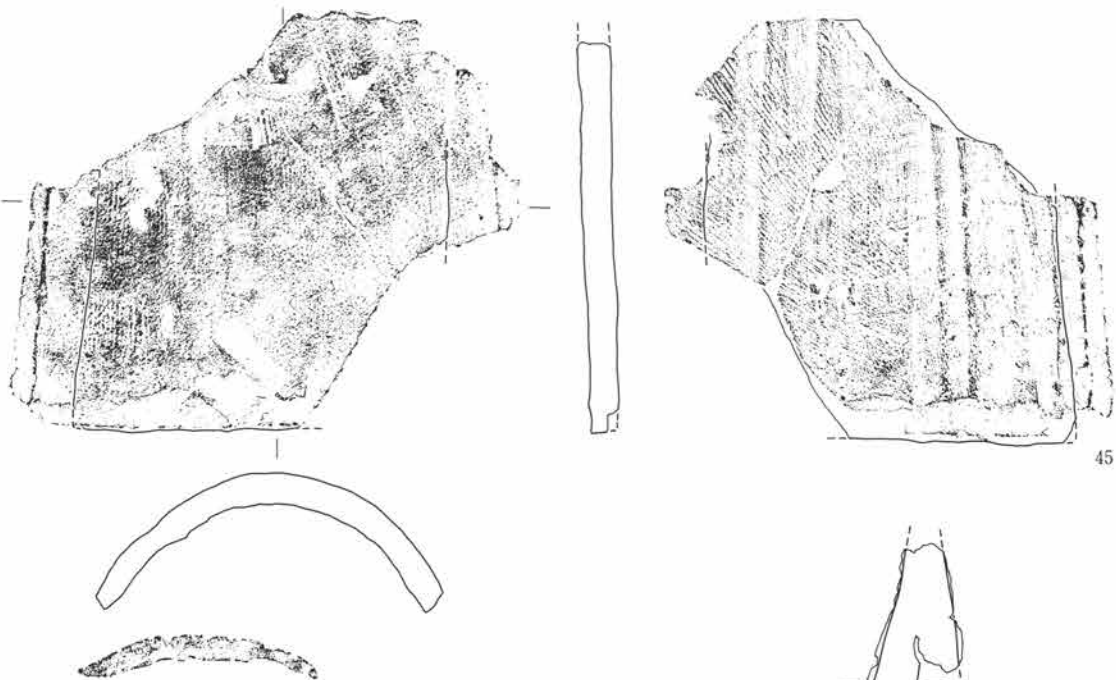
第225図 A区82号住居跡出土遺物(7)



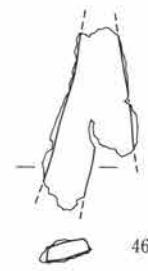
第226図 A区82号住居跡出土遺物(8)



44



45

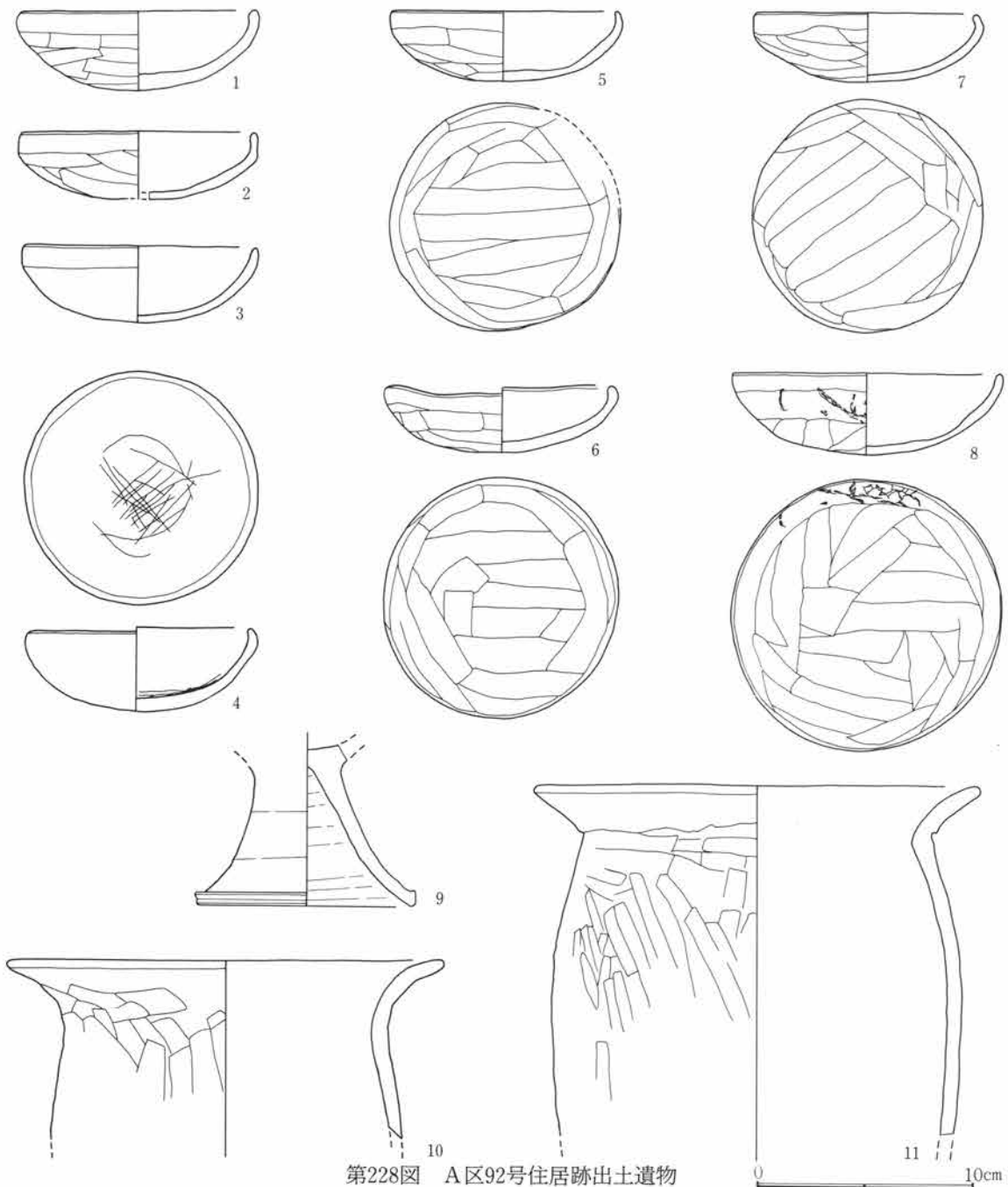


46

0 10cm

第227図 A区82号住居跡出土遺物(9)

第4章 検出された遺構・遺物



第228図 A区92号住居跡出土遺物

A区83号住居跡 (第229・230・231・235・236図、第16・17・99・100・174)

A区中央部に位置し10～13A33～36の範囲にある。92号住居跡の南西にある。他の遺構との関係は西部でA-1号溝(中世)、東部で113号住居跡、南東部で112号住居跡と重複している。新旧関係は112号住居跡・113号住居跡より新しい。このため西壁の一部が検出されたのみである。規模は長辺5.25m、短辺4.35mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-81.5°-Eである。壁高は約50cm～60cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。竈の両袖部は床面に延び、煙道部も検出された。規模は袖幅1m、燃烧部長1m、煙道部長80cm、同幅15cmを測る。

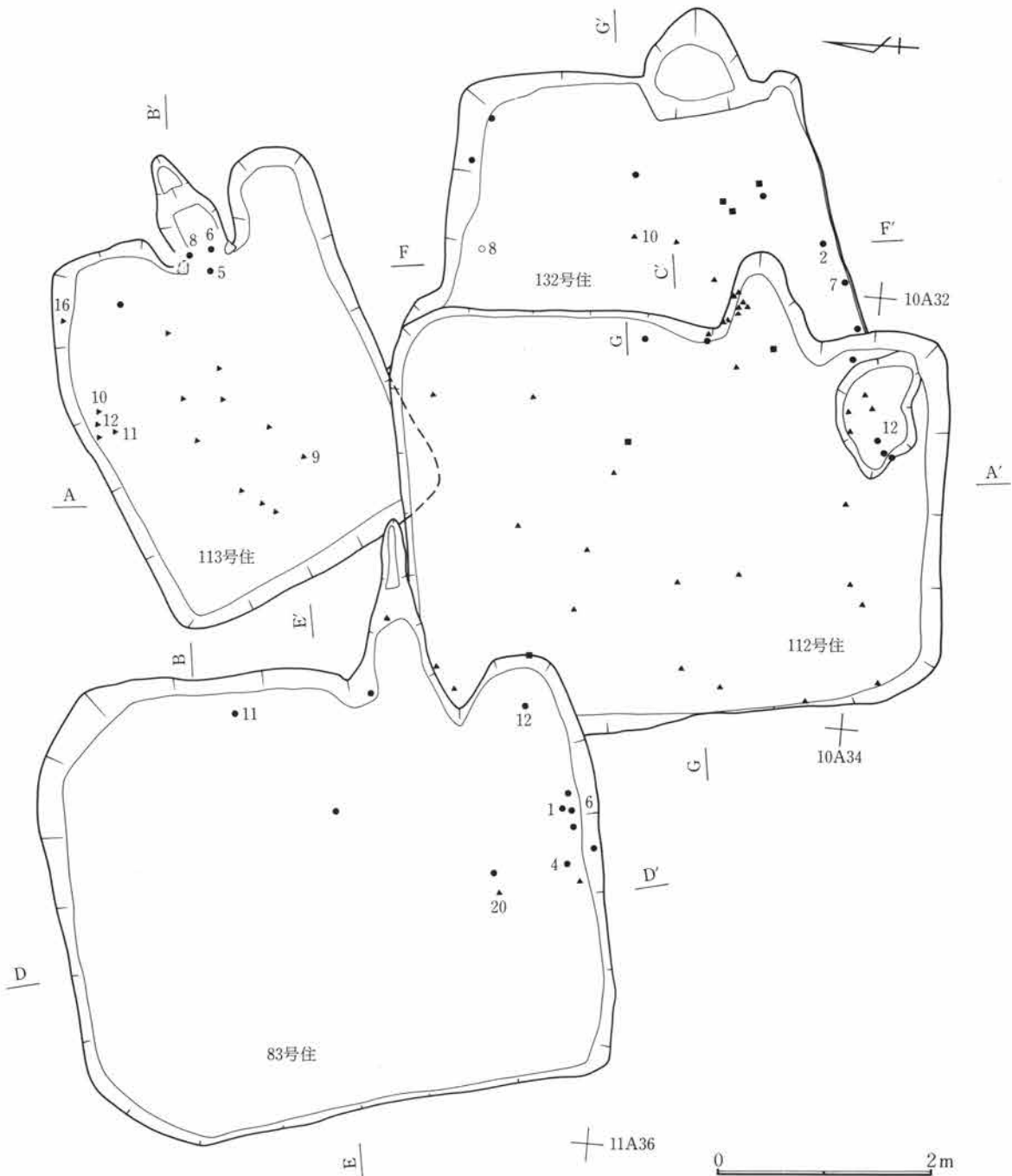
A区112号住居跡 (第229・230・237図、第24・101・174図版)

A区中央部に位置し9～12A31～34の範囲にある。92号住居跡の南にある。他の遺構との関係は東部で132

号住居跡、北西部で83号住居跡、北部で113号住居跡、南西部で129号住居跡と重複している。新旧関係は82号住居跡より旧く、113号住居跡・132号住居跡より新しい。129号住居跡との関係は不明である。規模は長辺5.25m、短辺3.7mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-89°-Eである。壁高は約30cm~40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。南東隅に貯蔵穴と思われる小穴が検出された。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃烧部幅1m、同長90cmを測る。

A区113号住居跡 (第229・230・233・238・239・240図、第24・101・102図版)

A区中央部に位置し12・13A31~33の範囲にある。83号住居跡の東にある。他の遺構との関係は北部で86号住居跡、南西部で112号住居跡、西部の一部で83号住居跡と重複している。新旧関係は83号住居跡・86号住



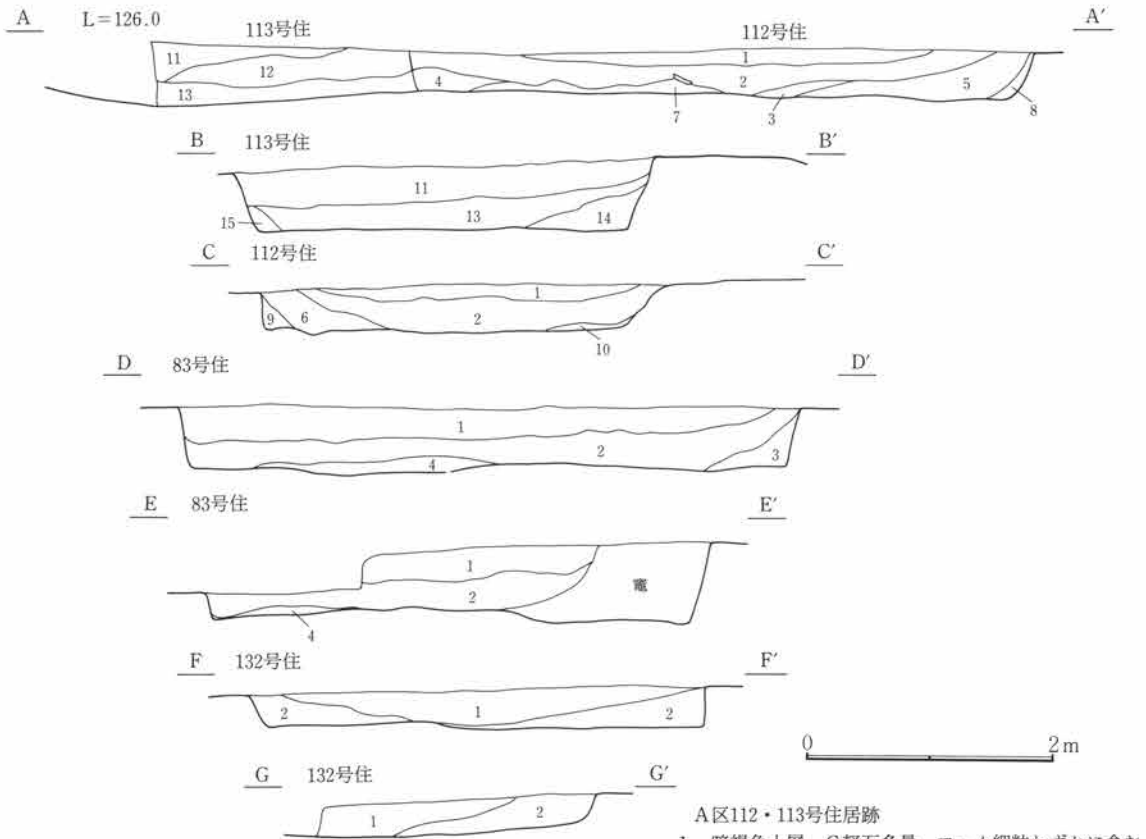
第229図 A区83・112・113・132号住居跡

第4章 検出された遺構・遺物

居跡・112号住居跡より古い。規模は長辺3.65m、短辺3.2mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-54°-Eである。壁高は約50cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁ほぼ中央に検出された。竈の形態は両袖部が床面に延びた状態で検出され、両袖部には石が突き立った状態で検出された。焚口前面には甕の破片が集中して検出された。規模は袖幅50cm、燃烧部長70cm、煙道部長35cm、同幅25cmを測る。

A区132号住居跡（第229・230・234・241図、第29・30・102・103図版）

A区中央部に位置し10～12A30～32の範囲にある。113号住居跡の南東にある。他の遺構との関係は西部で112号住居跡と重複している。新旧関係は112号住居跡が新しい。このため西半部は112号住居跡によって壊されている。規模は東壁3.9m、東西長は残存部で約2mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-86°-Eである。壁高は約25cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃烧部幅1m、同長70cmを測る。



A区83号住居跡

- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石多量、小礫、地山ブロック少量含む
- 3 暗褐色土層 C軽石、地山粒少量含む
- 4 暗褐色土層 C軽石少量、地山ブロック多量に含む

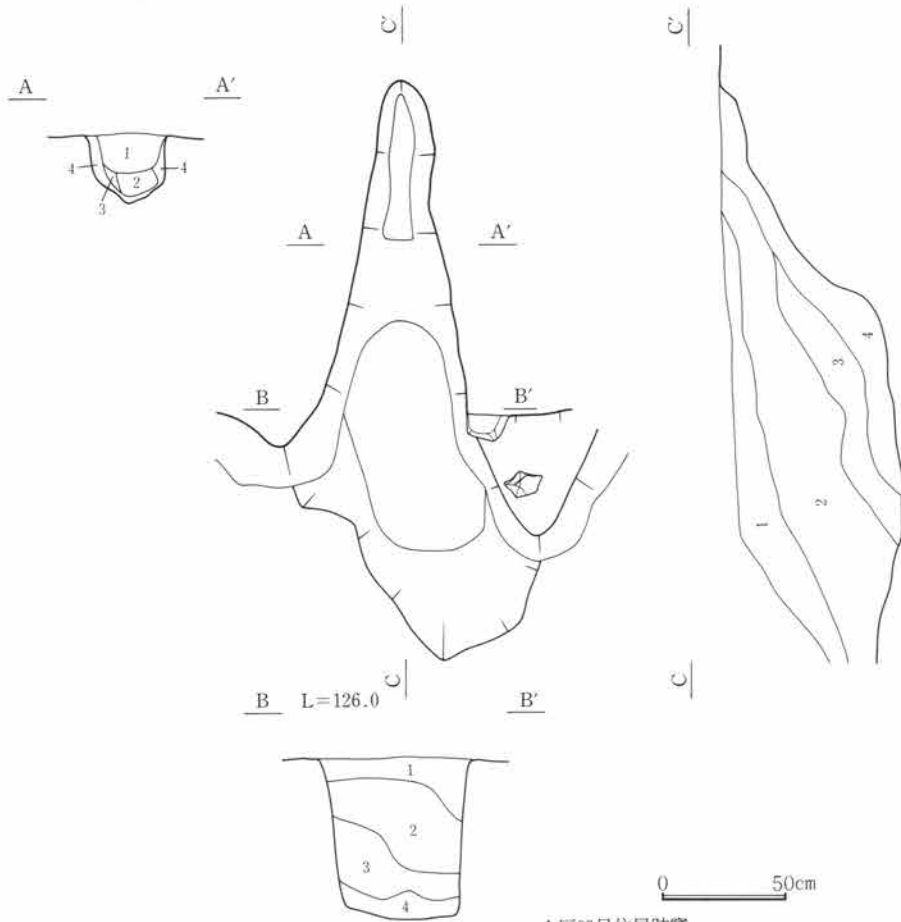
A区132号住居跡

- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 地山砂質土大粒少量含む

A区112・113号住居跡

- 1 暗褐色土層 C軽石多量、ローム細粒わずかに含む
- 2 暗褐色土層 C軽石多量、ローム細粒少量含む
- 3 赤褐色土層 焼土粒多量に含む
- 4 暗褐色土層 C軽石少量含む
- 5 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 6 暗褐色土層 ローム粒わずかに含む
- 7 暗褐色土層 C軽石少量、粘土粒多量に含む
- 8 黒褐色土層 C軽石少量含む
- 9 黒褐色土層
- 10 黒褐色土層 粘土粒多量に含む
- 11 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 12 暗褐色土層 C軽石少量含む
- 13 暗褐色土層 C軽石、ロームブロック少量含む
- 14 暗褐色土層 C軽石、焼土粒少量含む
- 15 暗褐色土層

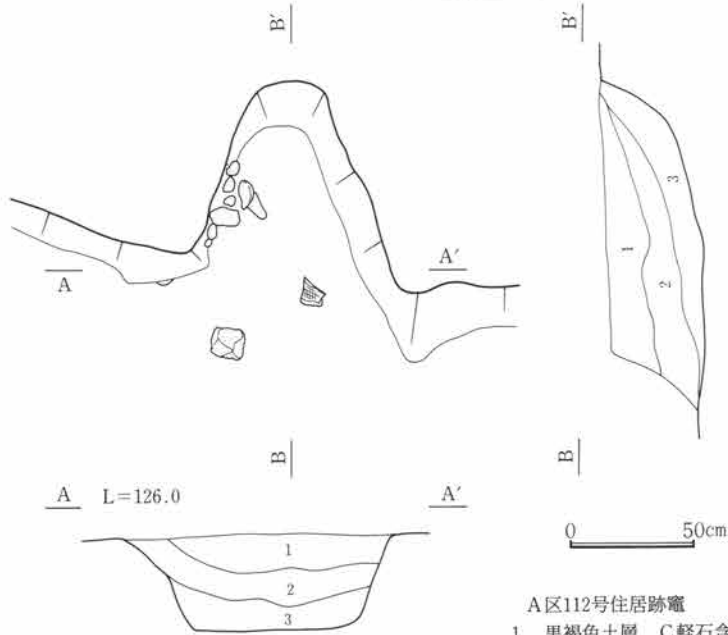
第230図 A区83・112・113・132号住居跡土層断面図



第231図 A区83号住居跡竈

A区83号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石、焼土粒少量含む
- 3 灰褐色土層 焼土ブロック多量に含む
- 4 灰褐色土層 灰主体、焼土粒少量含む

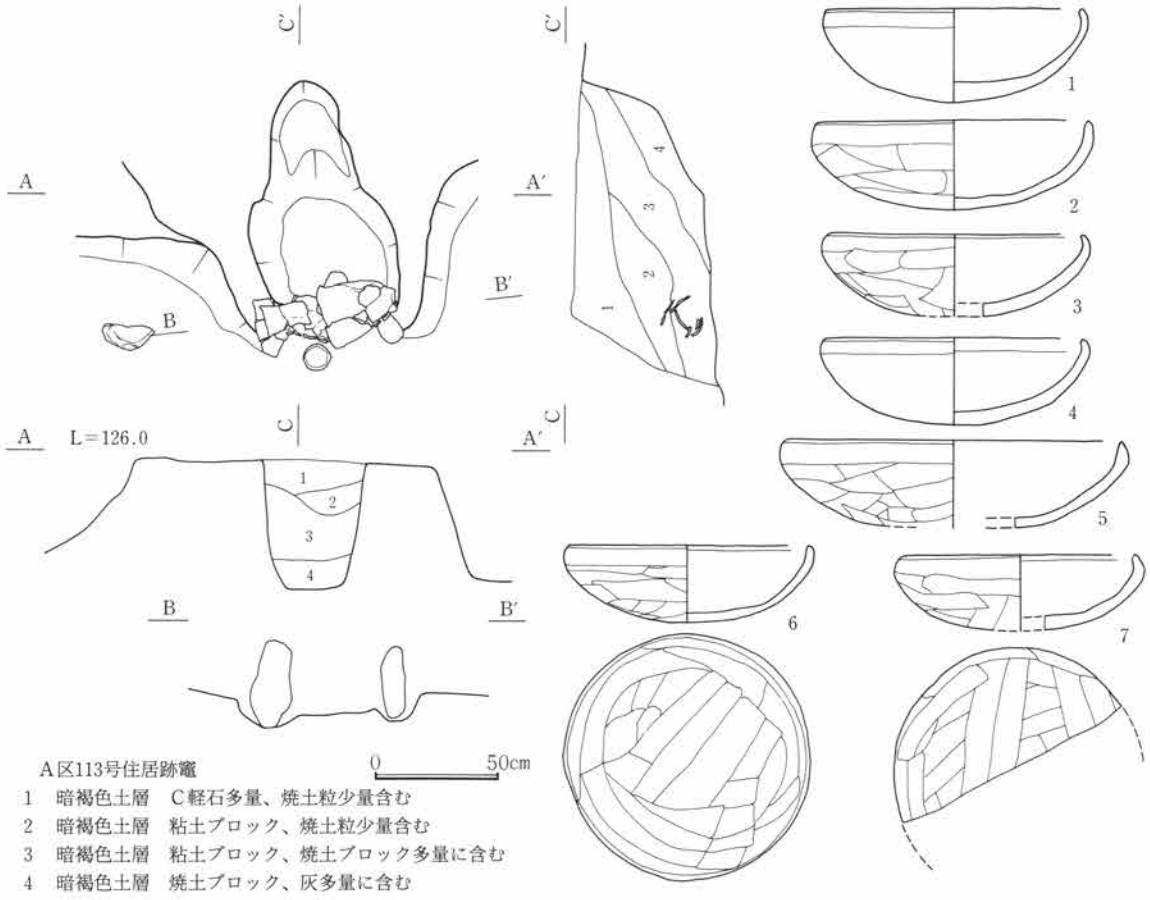


第232図 A区112号住居跡竈

A区112号住居跡竈

- 1 黒褐色土層 C軽石含む
- 2 黒褐色土層 C軽石、焼土粘、ローム粒含む
- 3 黒褐色土層 C軽石微量、灰多量に含む

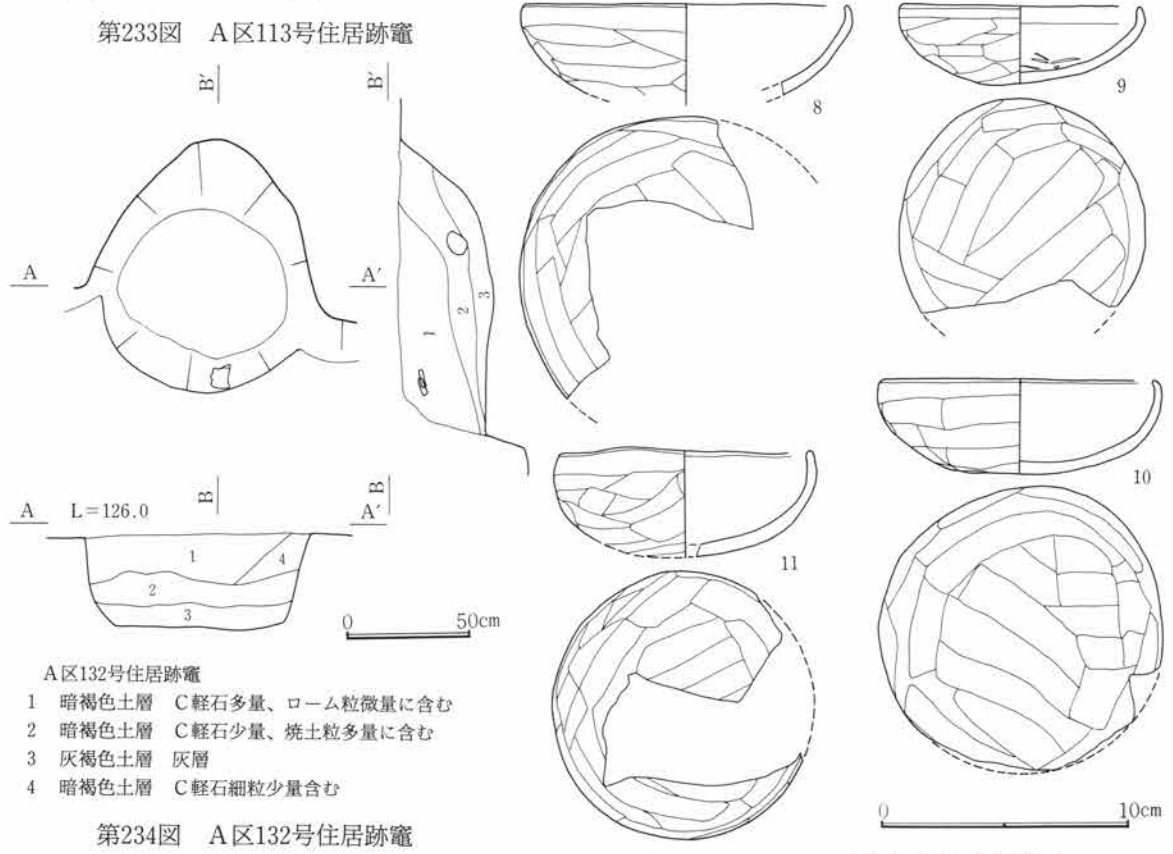
第4章 検出された遺構・遺物



A区113号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石多量、焼土粒少量含む
- 2 暗褐色土層 粘土ブロック、焼土粒少量含む
- 3 暗褐色土層 粘土ブロック、焼土ブロック多量に含む
- 4 暗褐色土層 焼土ブロック、灰多量に含む

第233図 A区113号住居跡竈

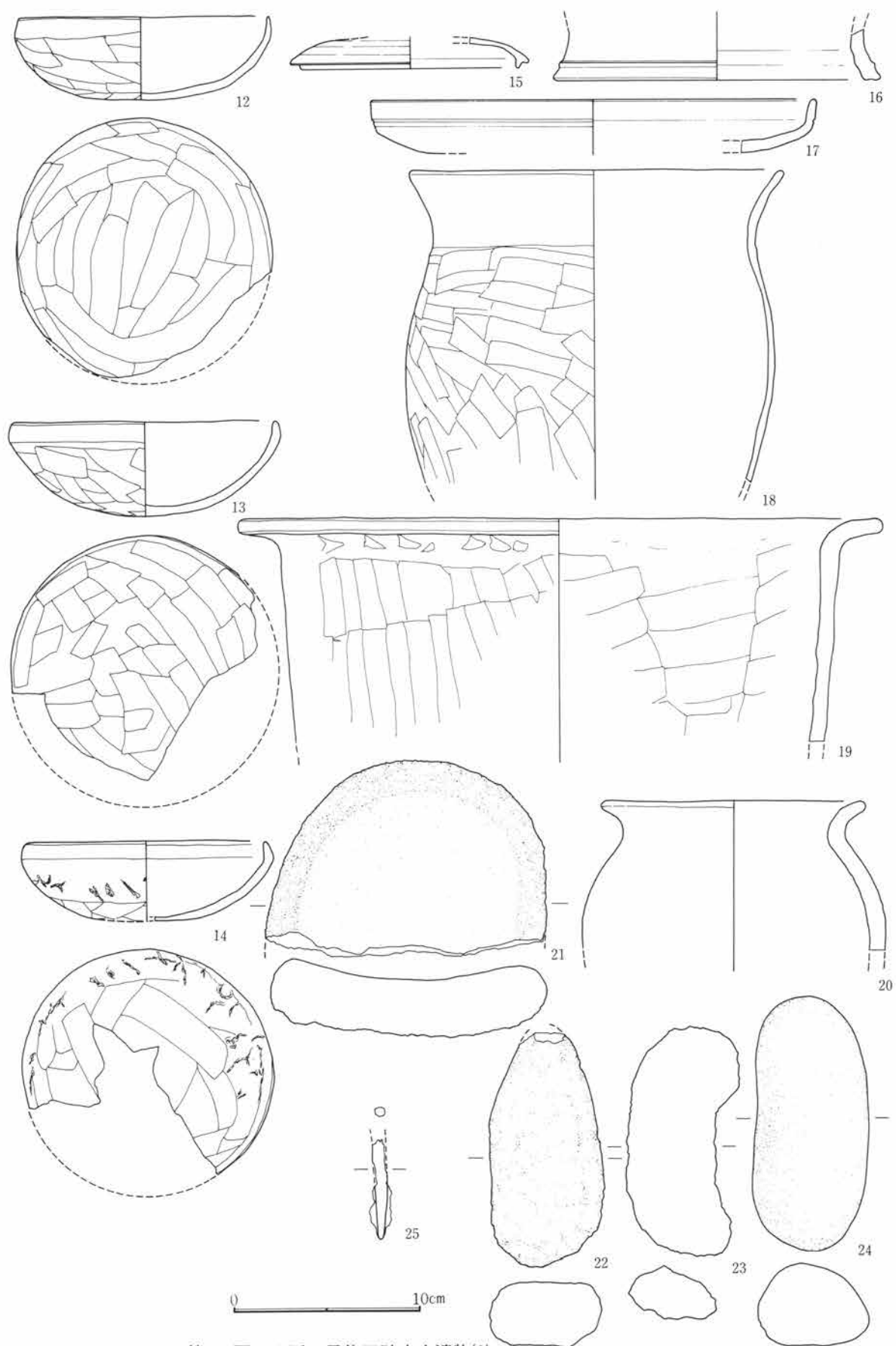


A区132号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石多量、ローム粒微量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石少量、焼土粒多量に含む
- 3 灰褐色土層 灰層
- 4 暗褐色土層 C軽石細粒少量含む

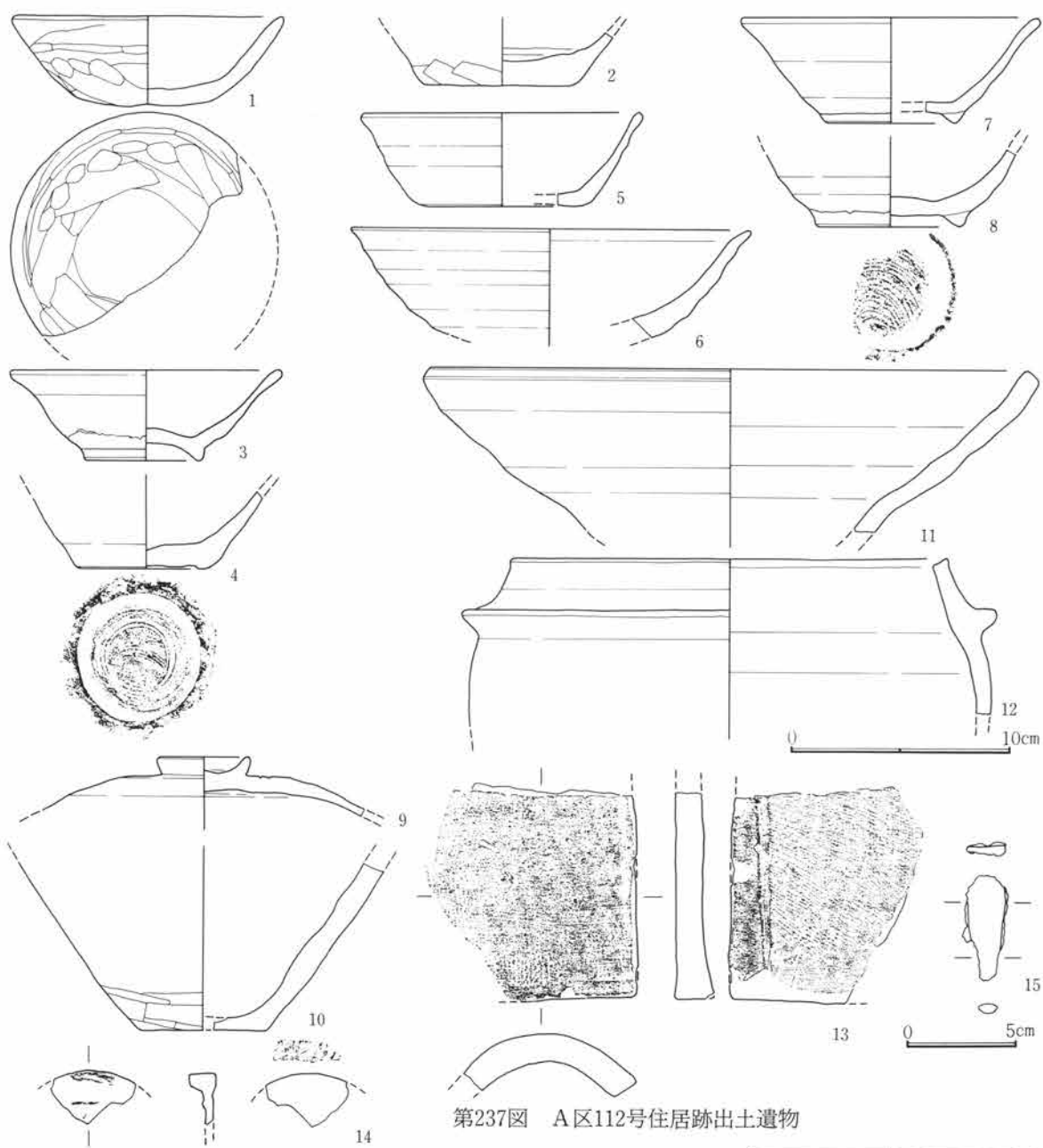
第234図 A区132号住居跡竈

第235図 A区83号住居跡出土遺物(1)

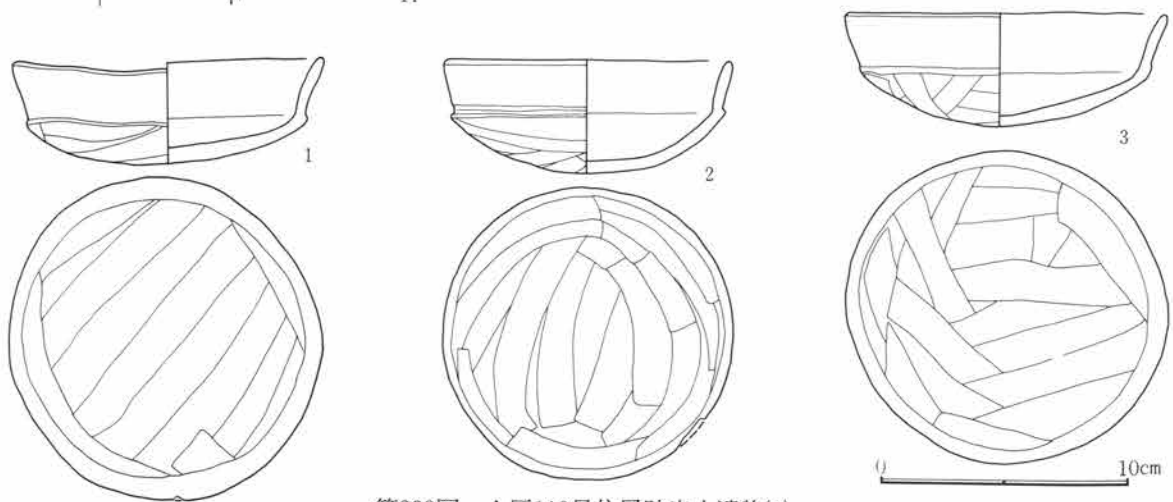


第236図 A区83号住居跡出土遺物(2)

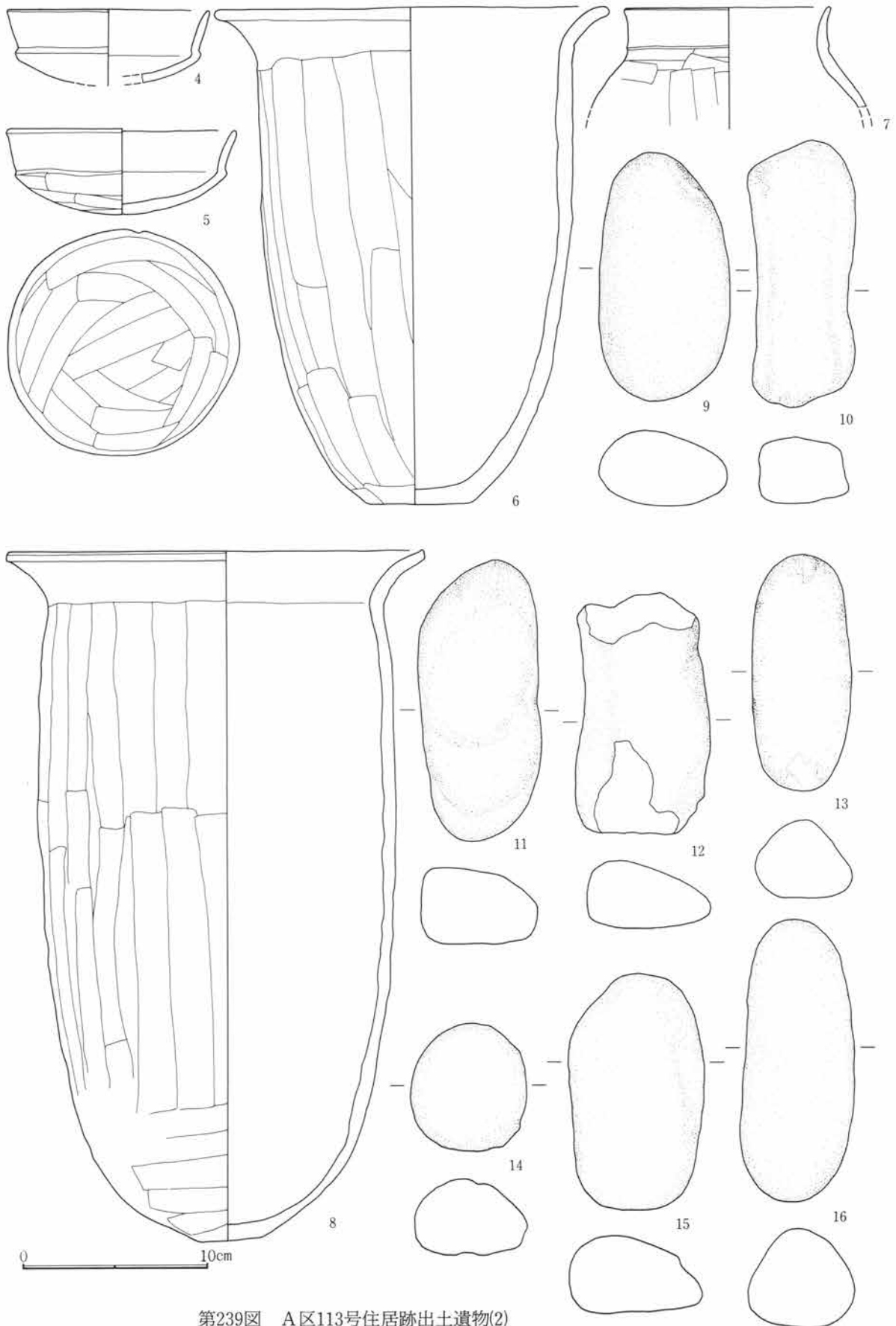
第4章 検出された遺構・遺物



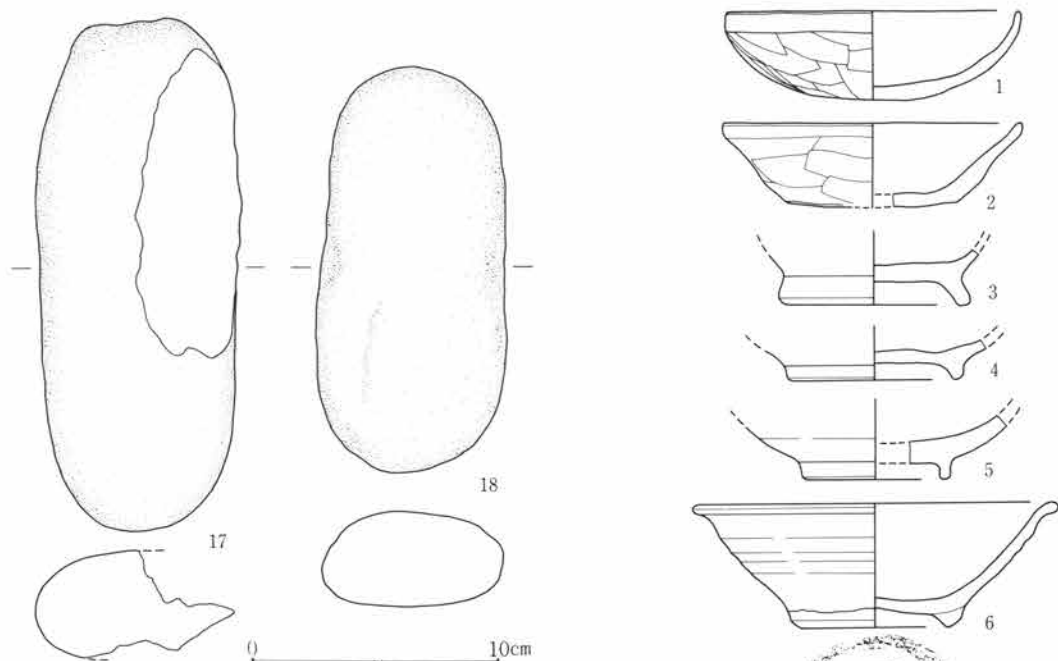
第237図 A区112号住居跡出土遺物



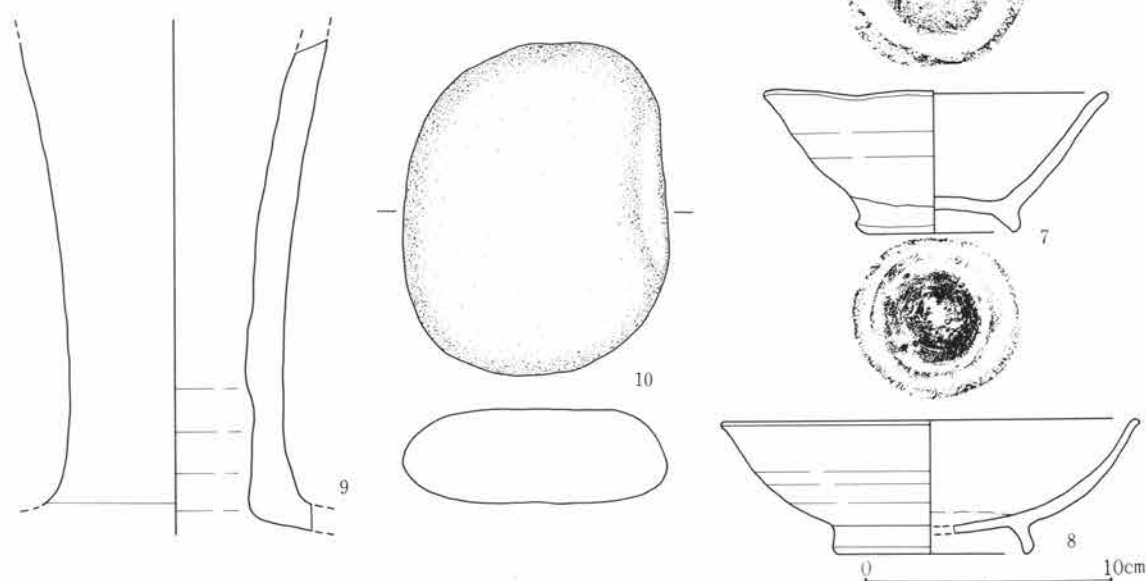
第238図 A区113号住居跡出土遺物(1)



第239図 A区113号住居跡出土遺物(2)



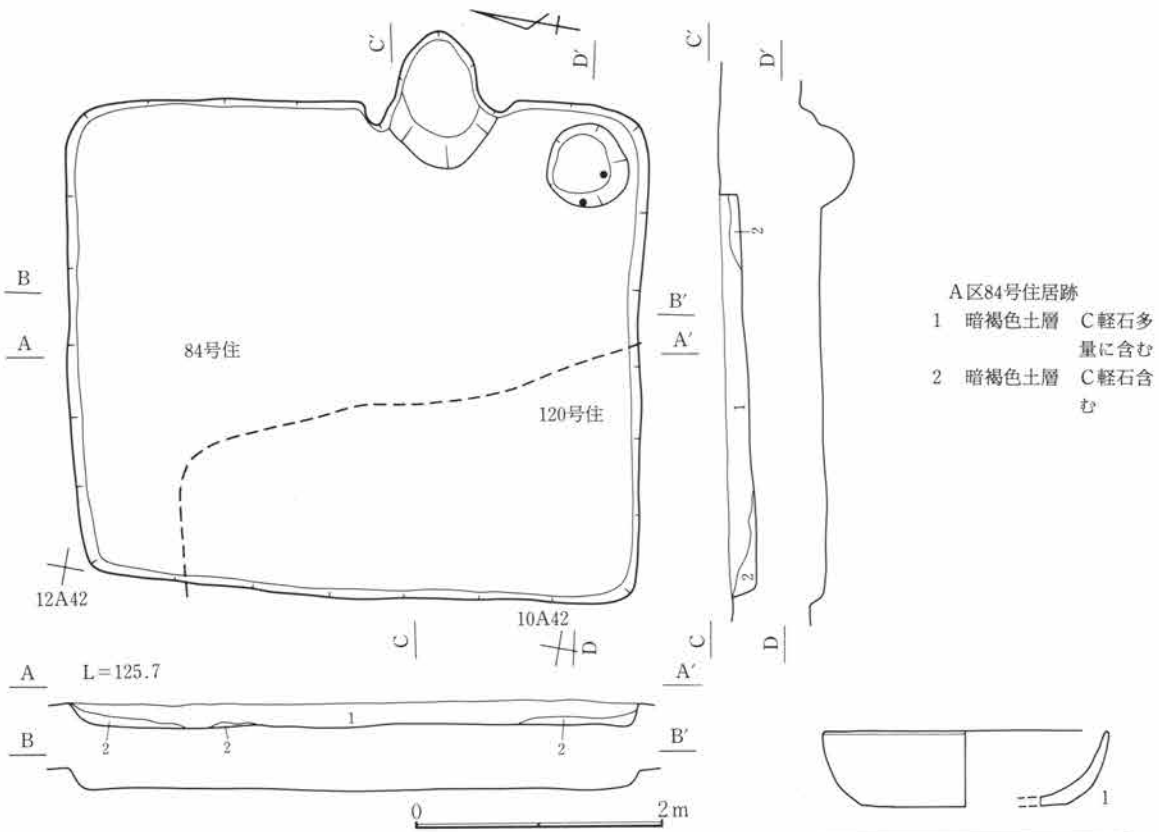
第240図 A区113号住居跡出土遺物(3)



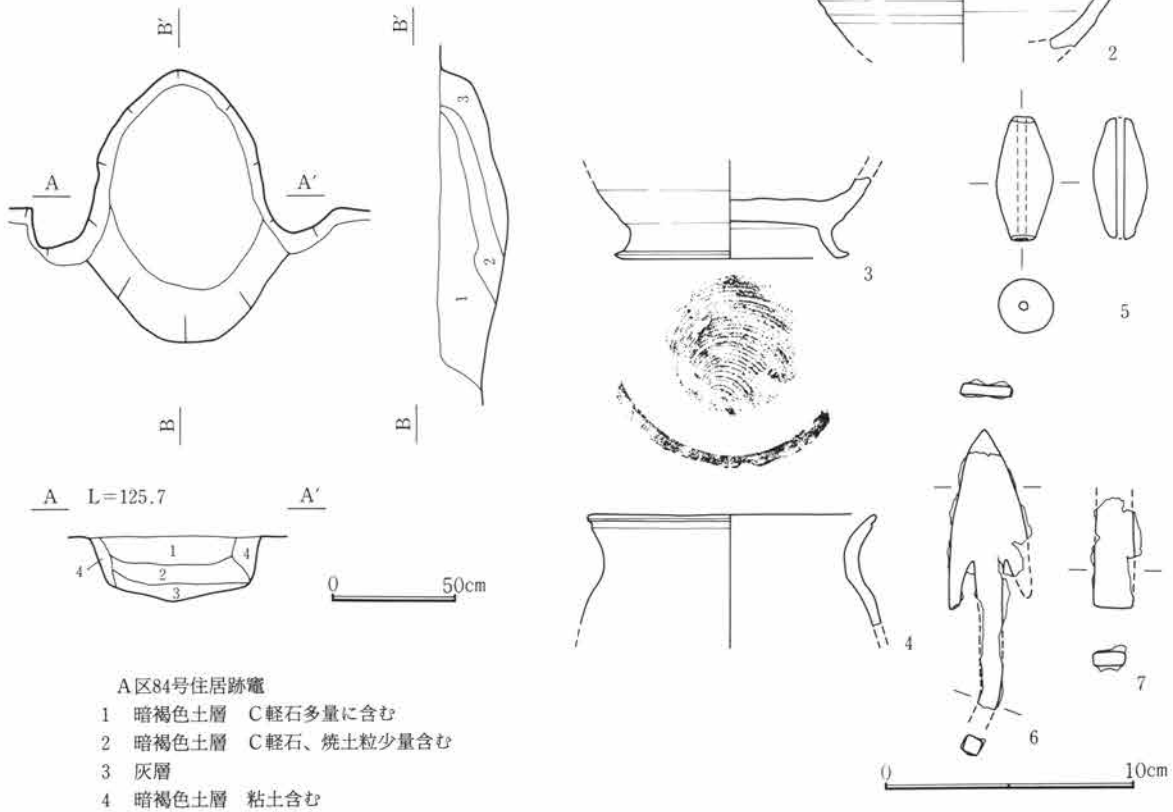
第241図 A区132号住居跡出土遺物

A区84号住居跡 (第242・243・244図、第17・103・172・174図版)

A区中央部に位置し9～12A39～41の範囲にある。他の遺構との関係は南西部で120号住居跡、東部竈先端部で135号住居跡・142号住居跡・146号住居跡と重複している。新旧関係は120号住居跡・135号住居跡・142号住居跡・146号住居跡より84号住居跡が新しい。規模は長辺4.7m、短辺4mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-81°-Eである。壁高は約15cm～20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・柱穴等の諸施設は検出されていない。南東隅に貯蔵穴と考えられる小穴が検出された。規模は径約65cm、深さ約25cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。形態は両袖部が床面にやや延びている。規模は袖幅90cm、同長85cmを測る。



第242図 A区84号住居跡



第243図 A区84号住居跡竈

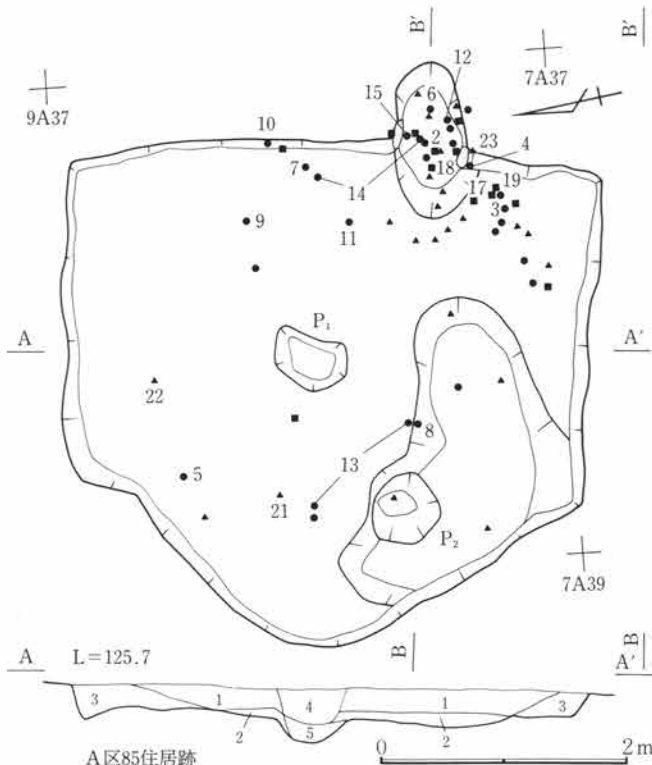
第244図 A区84号住居跡出土遺物

第4章 検出された遺構・遺物

A区85号住居跡 (第245・246・247・248・249図、第17・103・104・105図版)

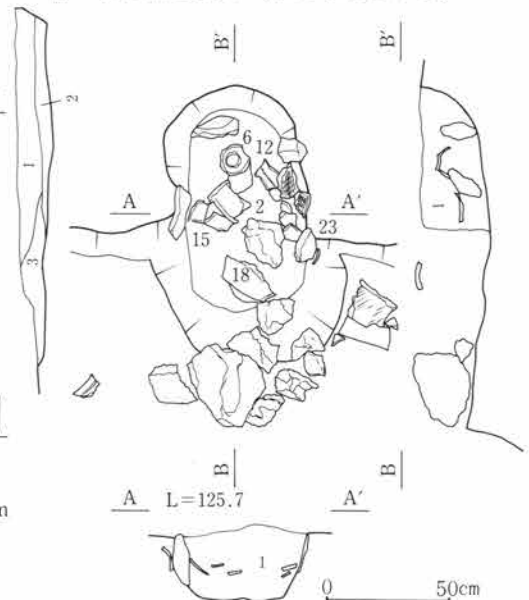
A区中央部に位置し6~9A37~39の範囲にある。84号住居跡の南東にある。他の遺構との関係は北部で141号住居跡と重複している。新旧関係は85号住居跡が新しい。規模は長辺4.35m、短辺4mを測る。平面形態は西壁が凸面状に張り出している。主軸方位はN-100°-Eである。壁高は約20cm~30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。床面ほぼ中央部と西壁付近に小穴が2基

検出され、各々1・2とした。規模は1、50cm×40cm、深さ約10cm、2、55cm×50cm、深さ約10cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。規模は袖幅50cm、燃烧部長80cmを測る。竈両袖部、竈前面から人頭大の石が検出され、各々竈の構築材の一部と考えられる。



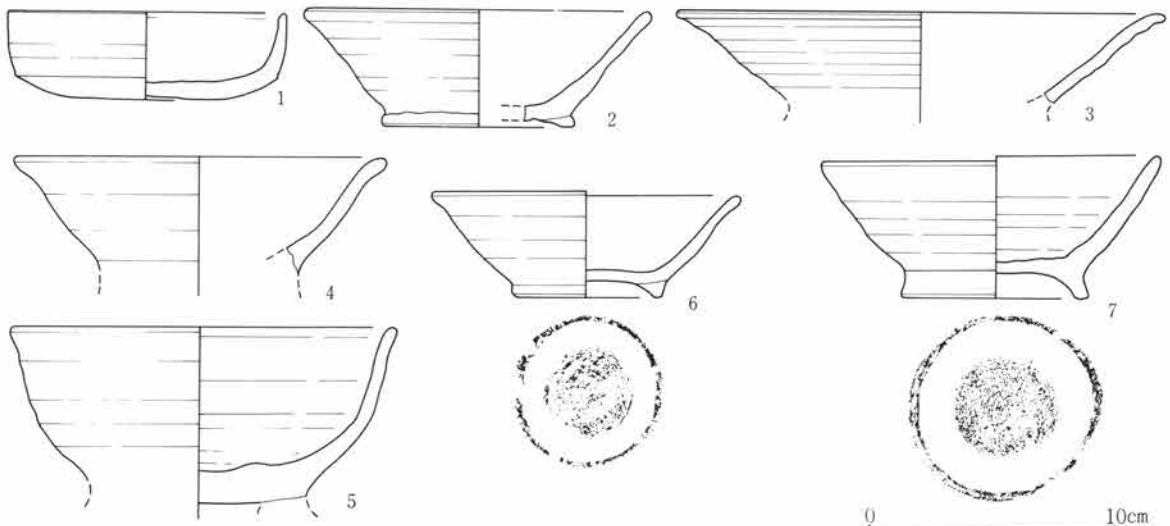
- A区85号住居跡
- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
 - 2 暗褐色土層 C軽石多量に含む、貼床
 - 3 暗褐色土層 C軽石多量、ローム粒少量含む
 - 4 暗褐色土層 C軽石多量に含む
 - 5 暗褐色土層 C軽石多量、ローム粒、焼土粒少量含む

第245図 A区85号住居跡

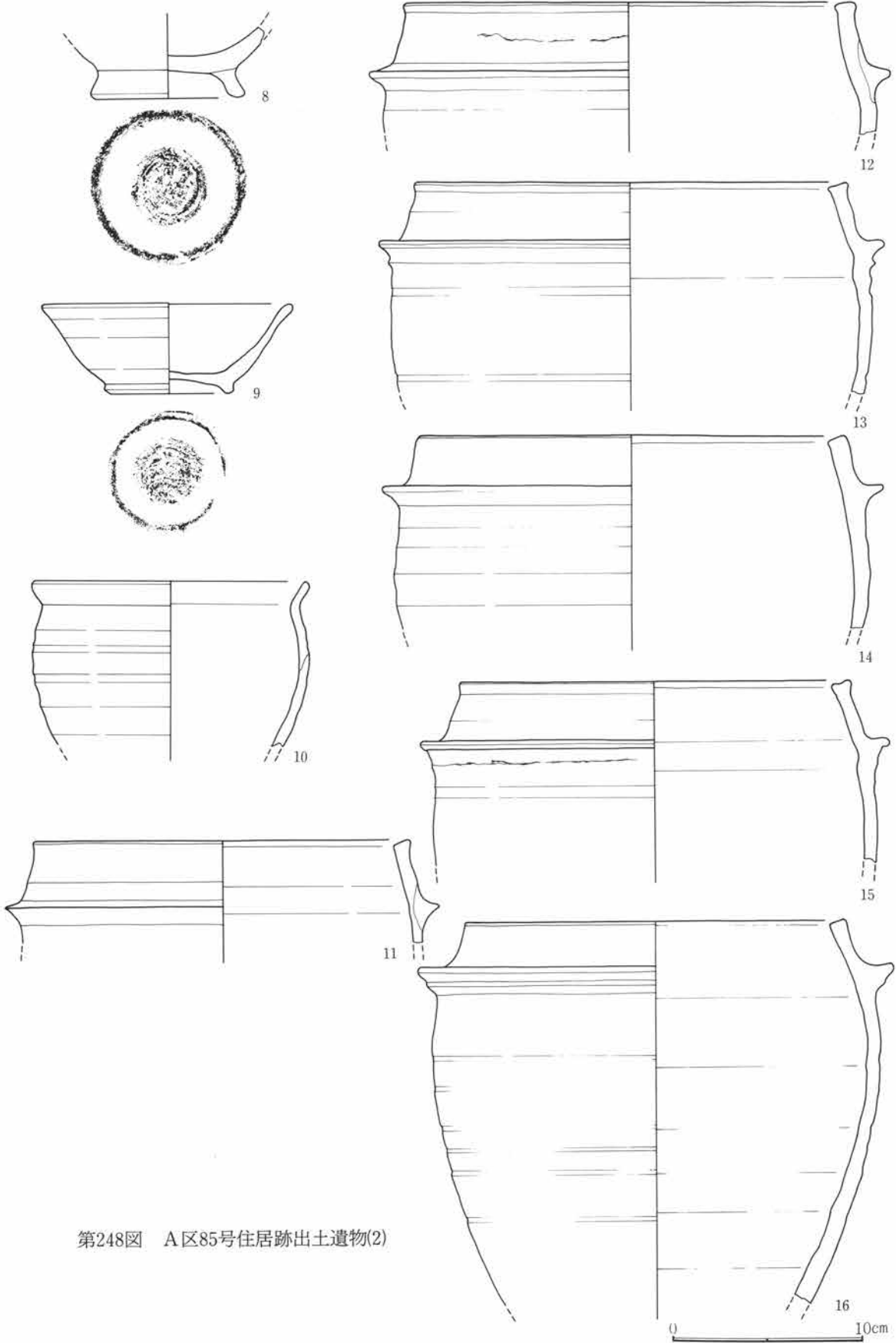


- A区85号住居跡竈
- 1 暗褐色土層 C軽石、ローム粒少量含む

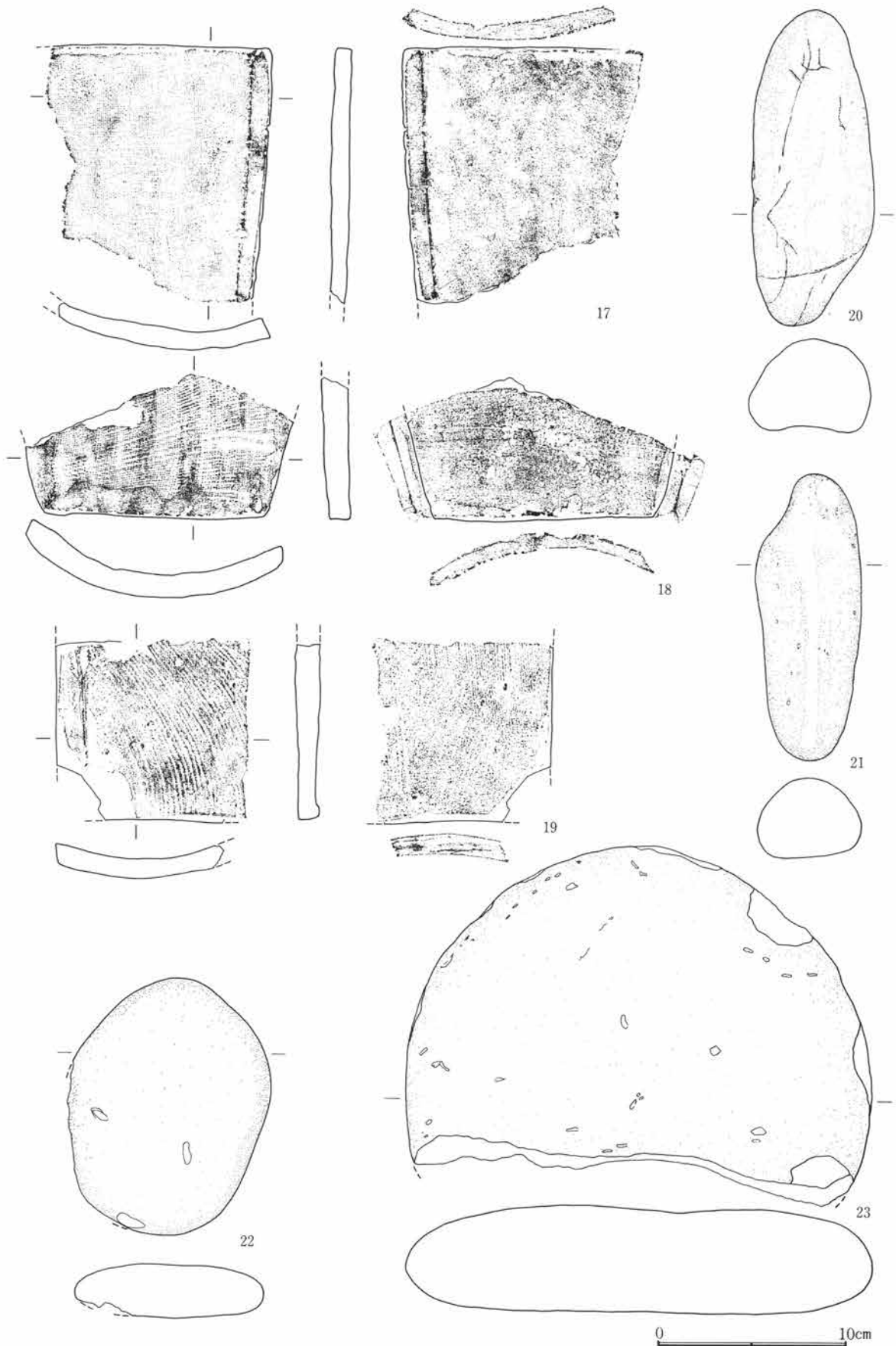
第246図 A区85号住居跡竈



第247図 A区85号住居跡出土遺物(1)



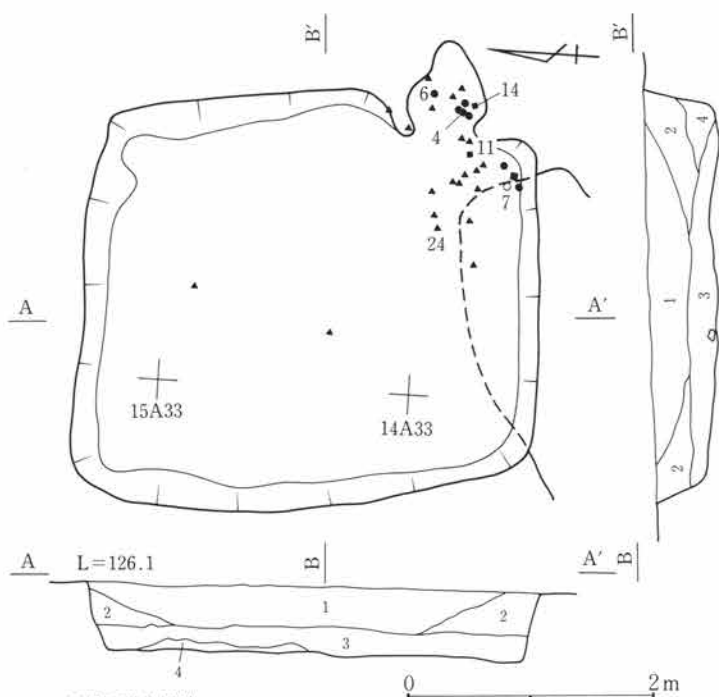
第248図 A区85号住居跡出土遺物(2)



第249図 A区85号住居跡出土遺物(3)

A区86号住居跡 (第250・251・252・253・254図、第17・104・105・106・174図版)

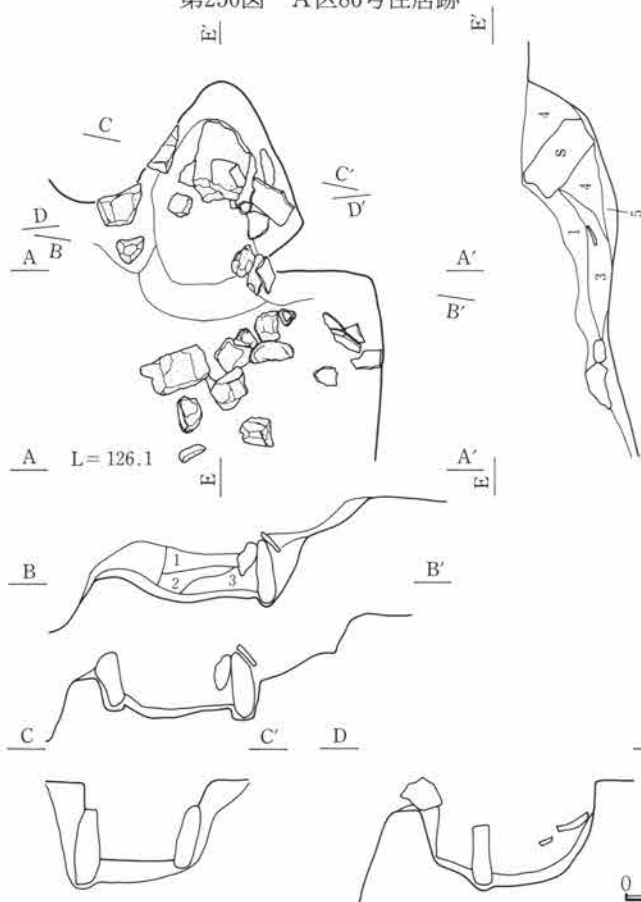
A区中央部に位置し13~15A31~33の範囲にある。83号住居跡の北東にある。他の遺構との関係は南東部で113号住居跡と重複している。新旧関係は86号住居跡が新しい。規模は長辺3.85m、短辺3.3mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-83°-Eである。壁高は約50cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。形態は袖部がやや狭まり床面に延びている。燃烧部内、竈前面より石が多数検出され竈構築材の一部と考えられる。規模は袖幅50cm、燃烧部長80cmを測る。



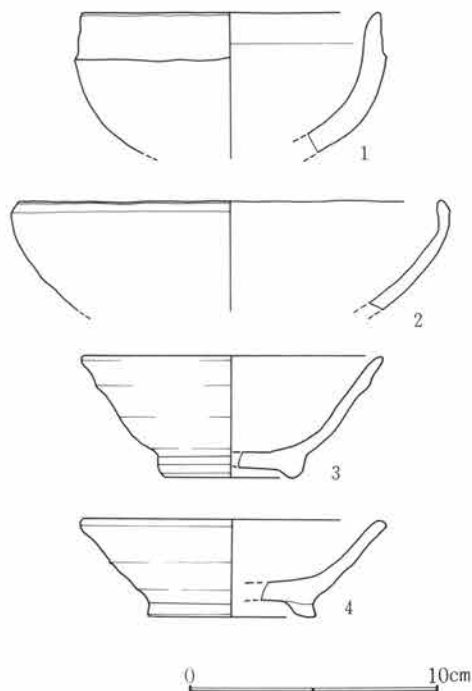
A区86号住居跡

- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石、ローム粒多量、カーボン微量に含む
- 3 暗褐色土層 C軽石、カーボン少量、ローム粒多量に含む
- 4 暗褐色土層 C軽石微量、ローム粒多量に含む

第250図 A区86号住居跡



第251図 A区86号住居跡竈

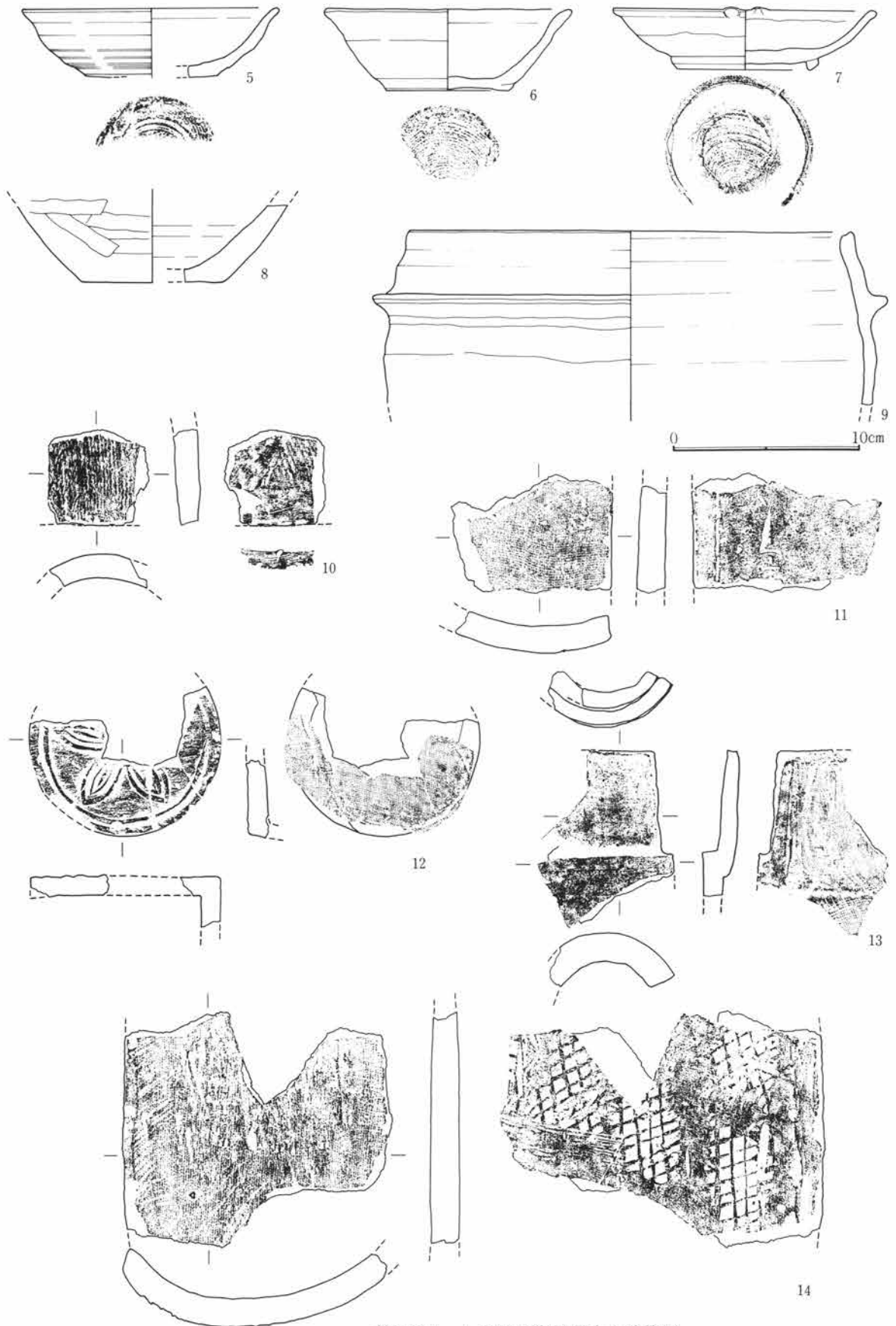


A区86号住居跡竈

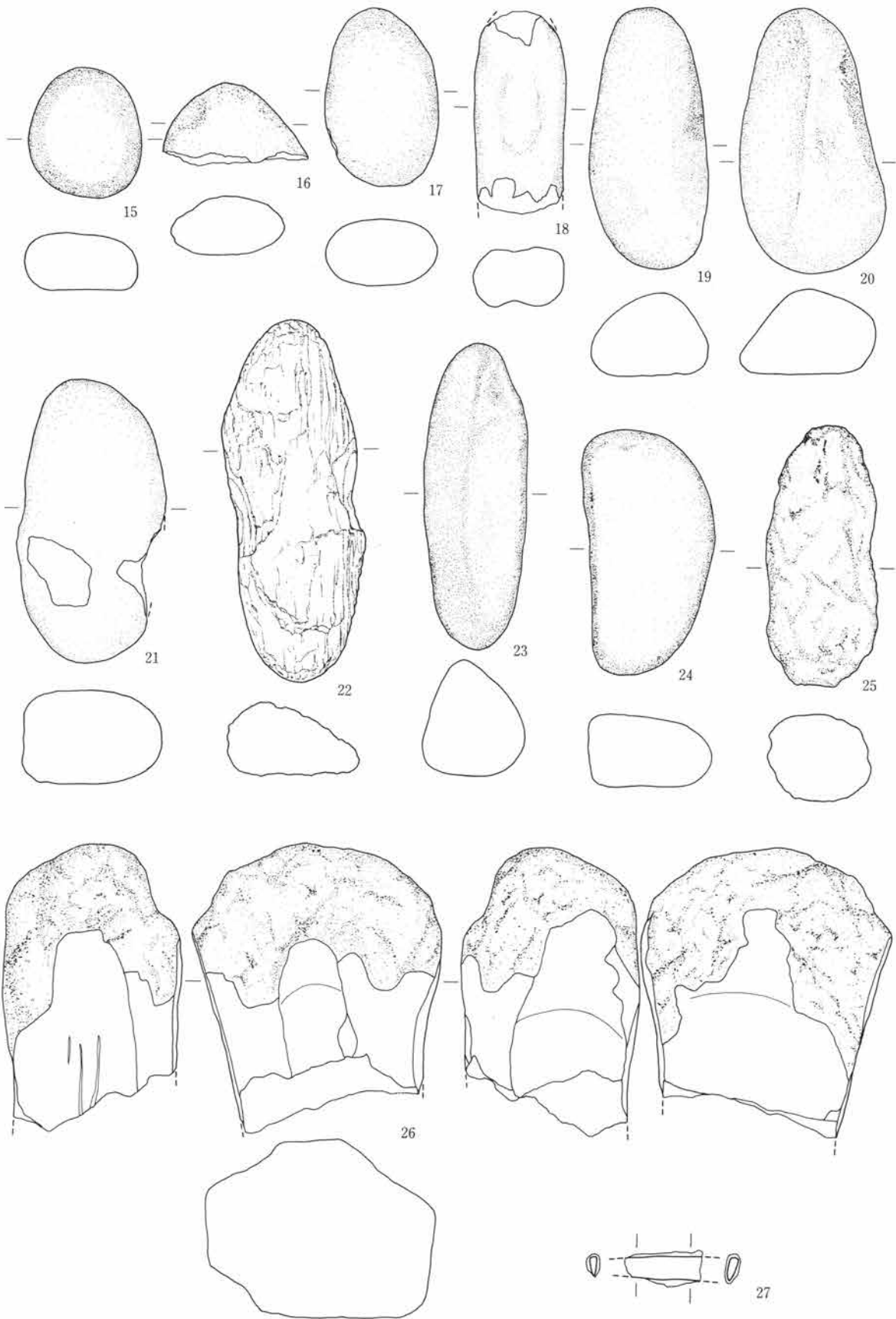
- 1 赤褐色焼土層
- 2 暗赤褐色焼土層
- 3 灰褐色土層
- 4 暗褐色土層 C軽石若干含む
- 5 暗褐色土層 焼土粒含む

第252図 A区86号住居跡出土遺物(1)

第4章 検出された遺構・遺物



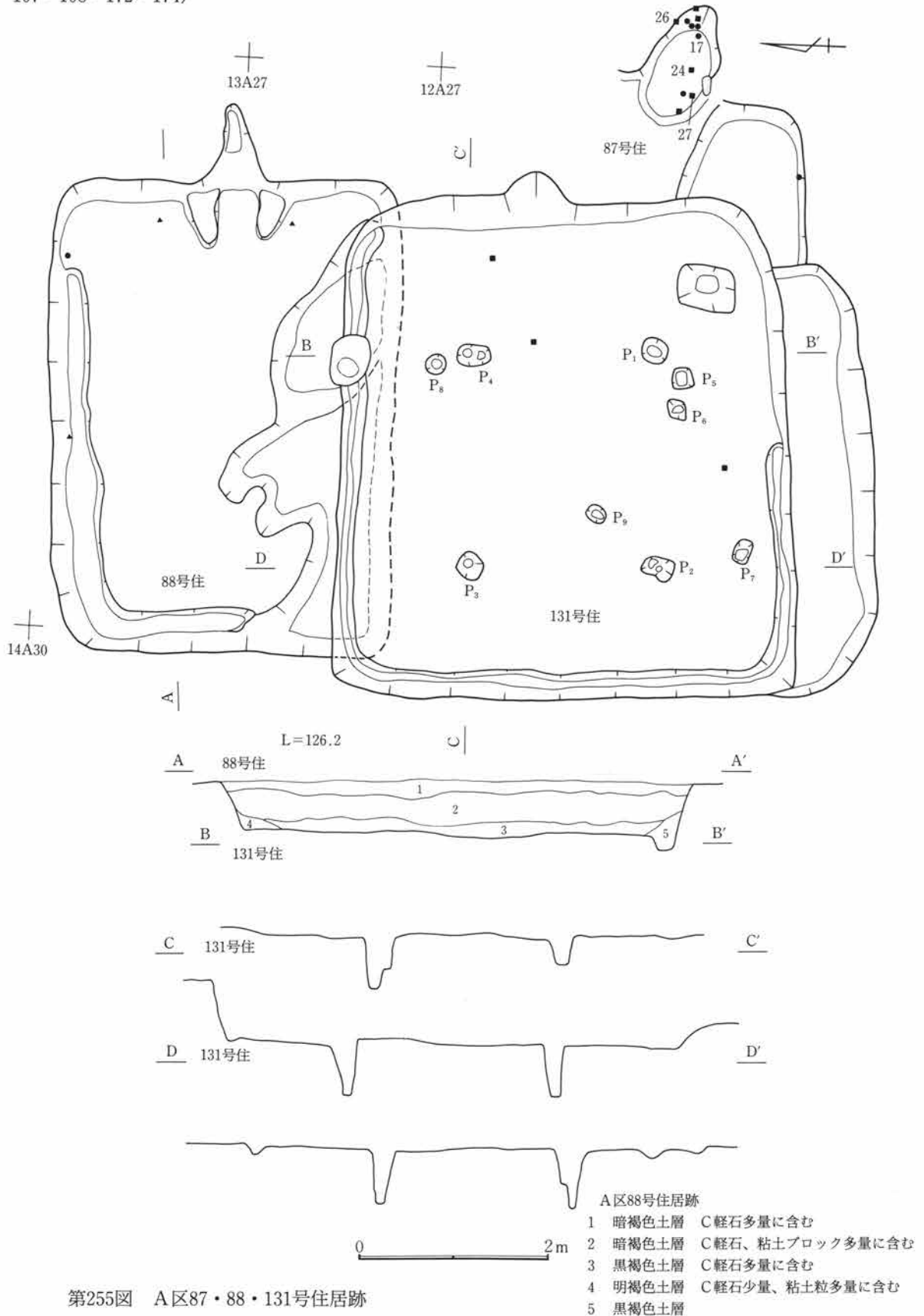
第253図 A区86号住居跡出土遺物(2)



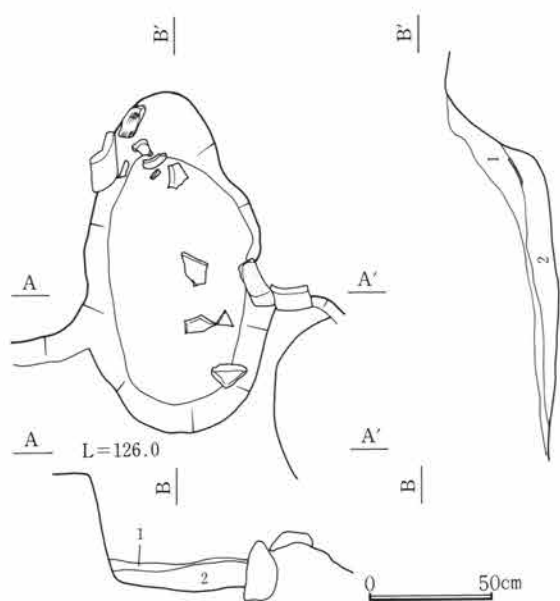
第254図 A区86号住居跡出土遺物(3)

第4章 検出された遺構・遺物

A区87 (A・B)・88・131号住居跡 (第255・256・257・258・259・260・261・262・263図、第18・29・106・107・108・172・174)



第255図 A区87・88・131号住居跡

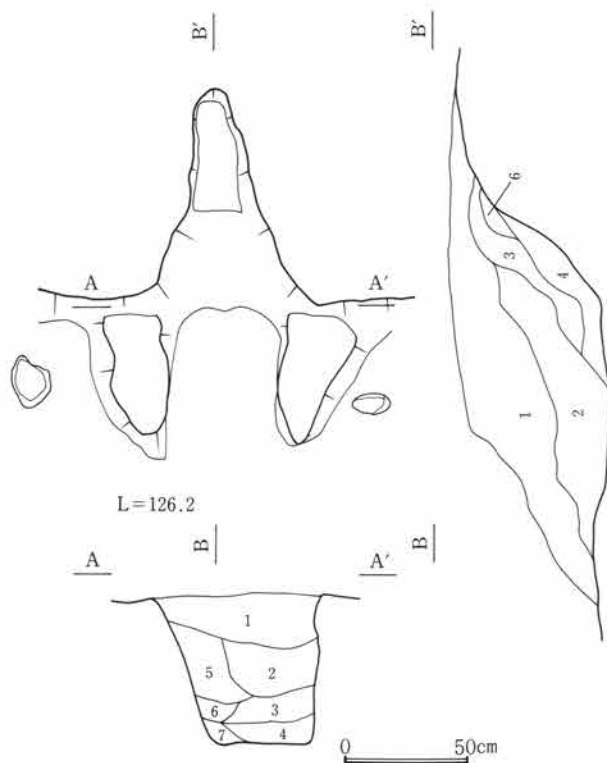


A区87号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 焼土粒含む
- 2 灰層

第256図 A区87号住居跡竈

A区87号住居跡 A区東部に位置し9～11 A26～30の範囲にある。A区18号住居跡の西にある。他の遺構との関係は住居跡の大部分を131号住居跡・124号住居跡と重複している。新旧関係は87号住居跡・131号住居跡より旧く、124号住居跡より新しい。このため住居跡の大部分は壊されている。また124号住居跡とは南西部の壁の一部である。規模は南壁で約6mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。住居跡の主軸方位は測定できないが竈の長軸方位はN-112°-Eである。壁高は50cm～60cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁に検出された。規模は燃焼部幅70cm、同長110cmを測る。燃焼部内には灰層が全面に認められた。



A区88号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石多量、粘土ブロック、焼土粒少量含む
- 2 暗褐色土層 C軽石、焼土ブロック少量、粘土ブロック多量を含む
- 3 灰褐色土層 粘土ブロック、焼土ブロック多量を含む
- 4 灰褐色土層 焼土粒少量灰層
- 5 赤褐色土層 焼土ブロック多量を含む
- 6 暗褐色土層 焼土粒、灰少量含む
- 7 暗褐色土層 焼土粒少量、灰多量を含む

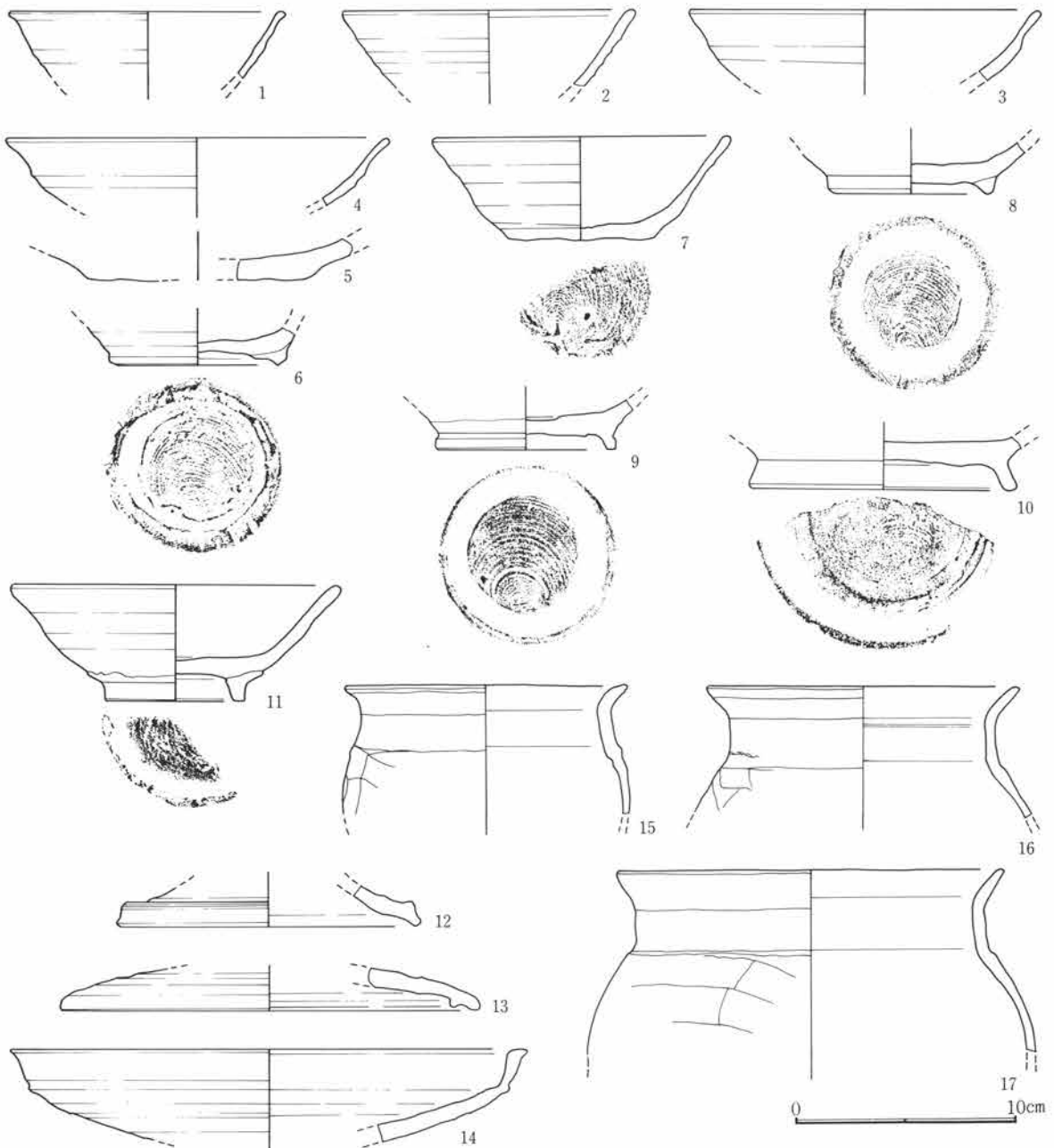
第257図 A区88号住居跡竈

A区88号住居跡 A区東部に位置し12・13 A27～30の範囲にある。他の遺構との関係は南部で131号住居跡と重複している。新旧関係は88号住居跡が古い。規模は長辺5m、短辺3.7mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-87°-Eである。壁高は50cm～60cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、西・北壁に周溝が認められ、貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。周溝の規模は幅約35cm～50cm、深さ約2cm～10cmを測る。竈は東壁ほぼ中央部に検出された。形態は両袖部が幅約35cm、床面に約60cm延びた状態で検出された。規模は袖幅60cm、燃焼部長80cm、煙道部長55cmを測る。掘り方面は住居跡南部床面に不定形の落ち込みが認められ深さは一定していないがほぼ10cm～20cmの幅である。

A区131号住居跡 A区東部に位置し10～12 A27～30の範囲にある。112号住居跡の東にある。他の遺構との関係は北部で88号住居跡、南部で87号住居跡と重複している。新旧関係は131号住居跡が新しい。規模は長辺5.25m、短辺5mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-88°-Eである。壁高は約50cm

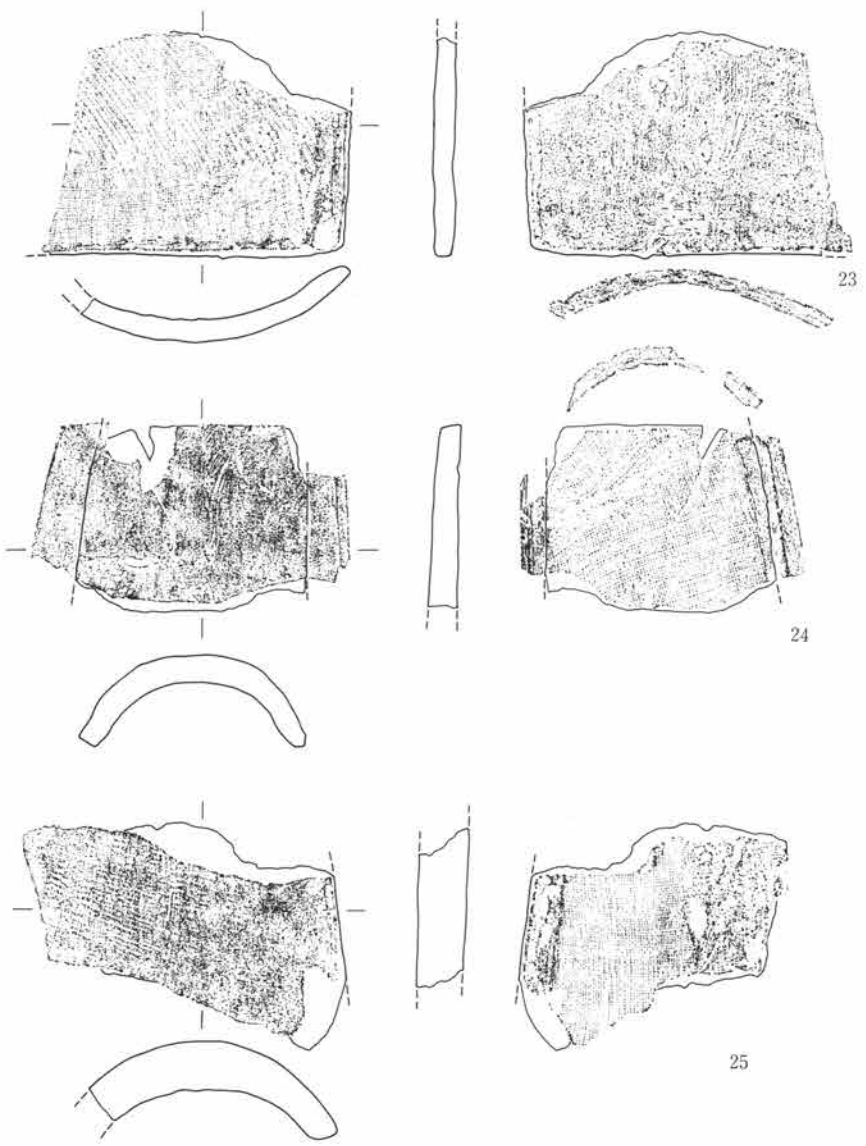
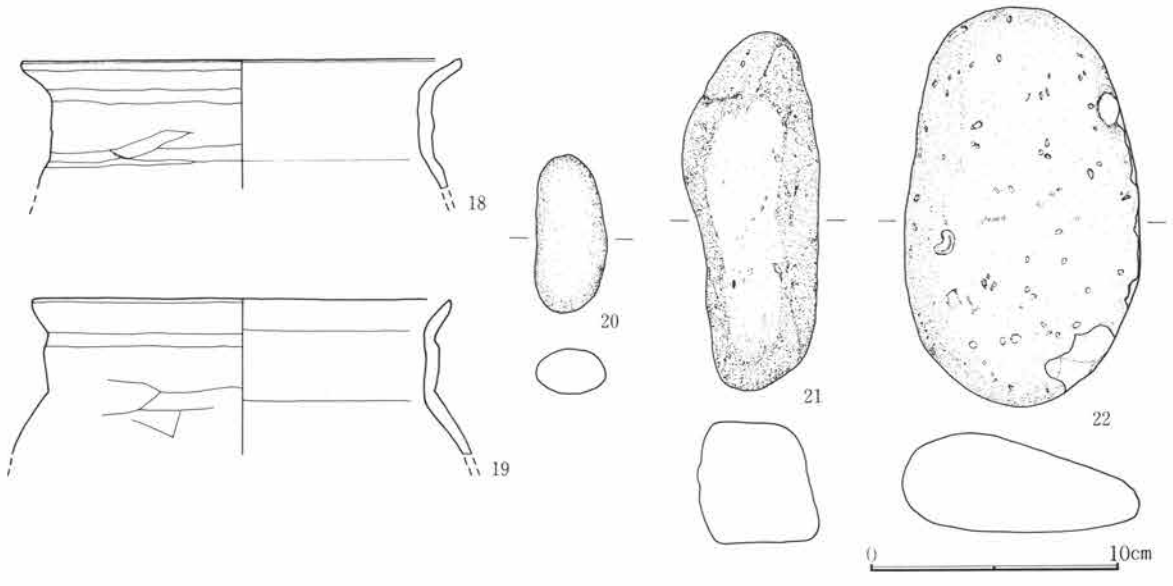
第4章 検出された遺構・遺物

を測る。床面はほぼ平坦をなし、南壁に壁周溝、南西部に貯蔵穴状の小穴が検出された。また床面上には柱穴状の小穴が10基検出された。南西部の小穴は隅丸方形を呈し規模は60cm×45cm、深さ約15cmを測る。壁周溝は幅約20cm～30cm、深さ約1cm～7cmを測る。柱穴10基あり各々1～10とした。規模は1、径約25cm、深さ約25cm、2、20cm×30cm、2は2基の小穴の重複と考えられ底部は2カ所に認められ各々深さは東側で約60cm、西側で約35cm、3、径約31cm、深さ約50cm、4、35cm×20cm、4も2同様重複と考えられ2カ所の底部があり、北側で深さ約55cm、南側で深さ約45cm、5、径約25cm、深さ約16cm、6、径約20cm、深さ約30cm、7、25cm×15cm、深さ約10cm、8、径約20cm、深さ約10cm、9、径約20cm、深さ約15cm、10、50cm×40cm、深さ約10cmを測る。1～8は柱穴と考えられ、1～4は直角の配置をもつ。また1～4の柱間は2m～2.2mの範囲にある。竈は東壁に検出された。残存状態は悪く痕跡状に落ち込みが確認されたのみである。落ち込みの規模は燃焼部幅70cm、同長80cmを測る。

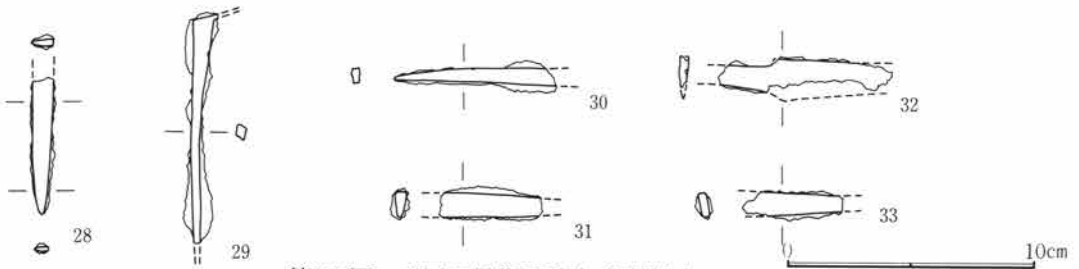
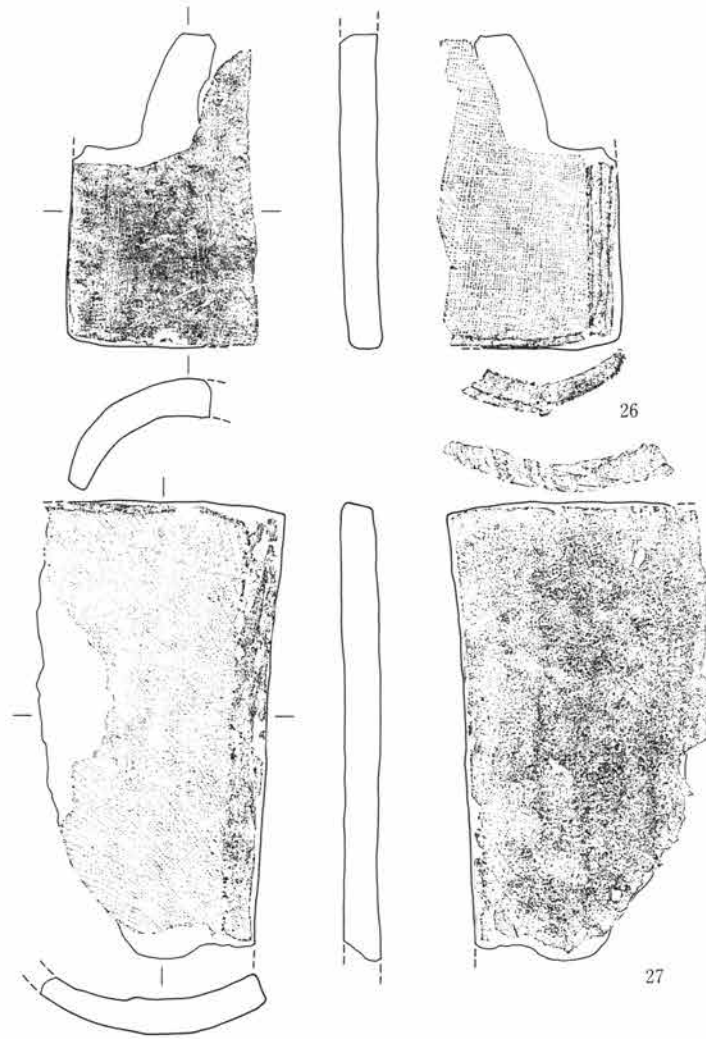


第258図 A区87号住居跡出土遺物(1)

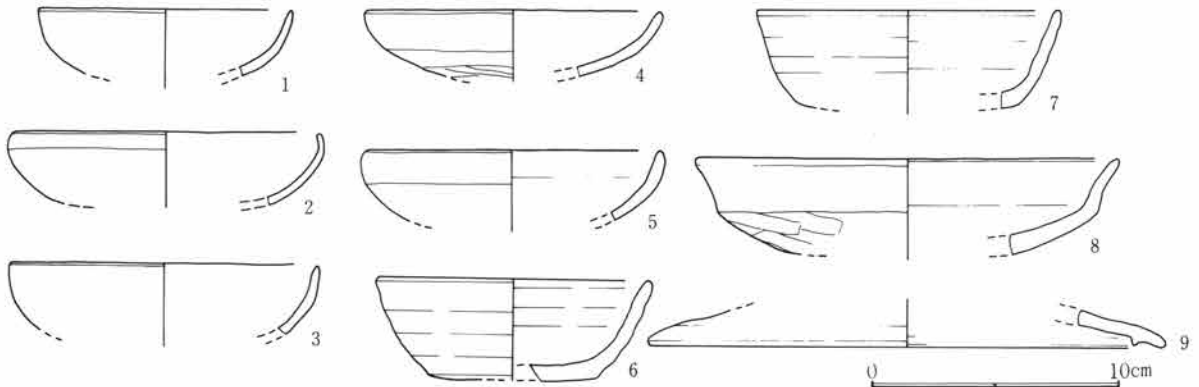
第1節 竖穴住居跡



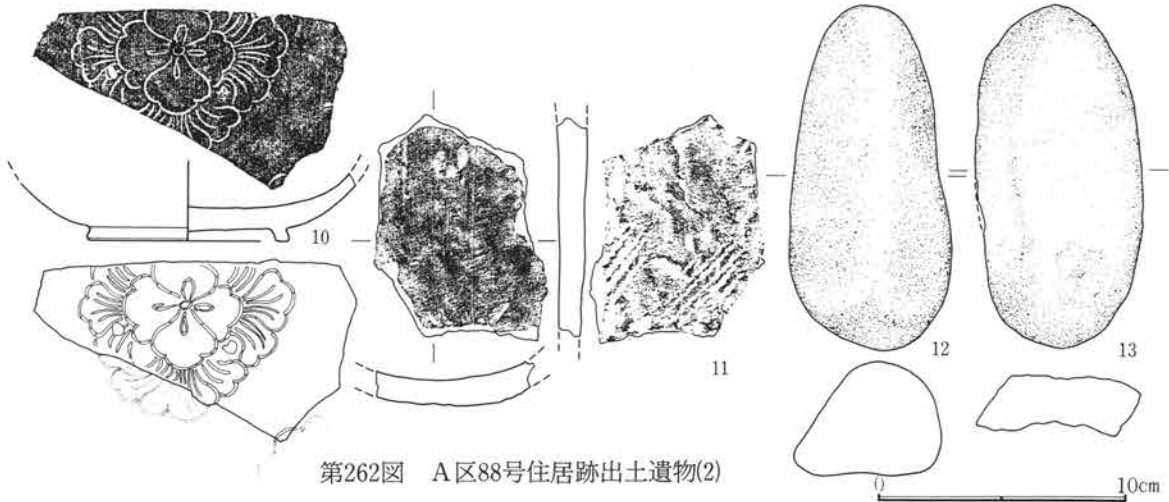
第259图 A区87号住居跡出土遺物(2)



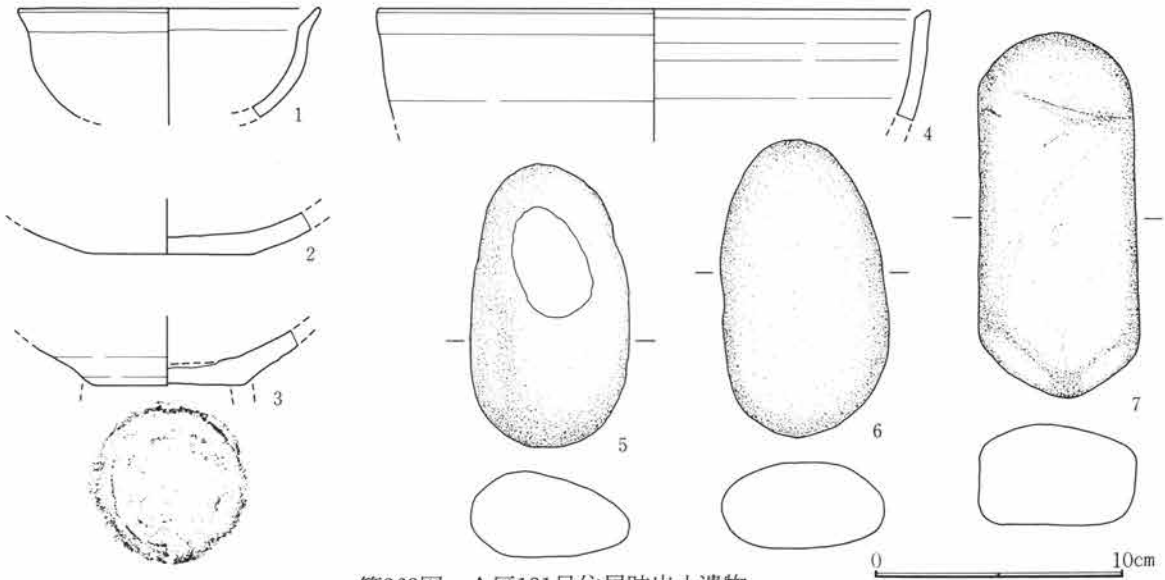
第260図 A区87号住居跡出土遺物(3)



第261図 A区88号住居跡出土遺物(1)



第262図 A区88号住居跡出土遺物(2)



第263図 A区131号住居跡出土遺物

A区89号住居跡 (第264・265・267図、第18・109・174図版)

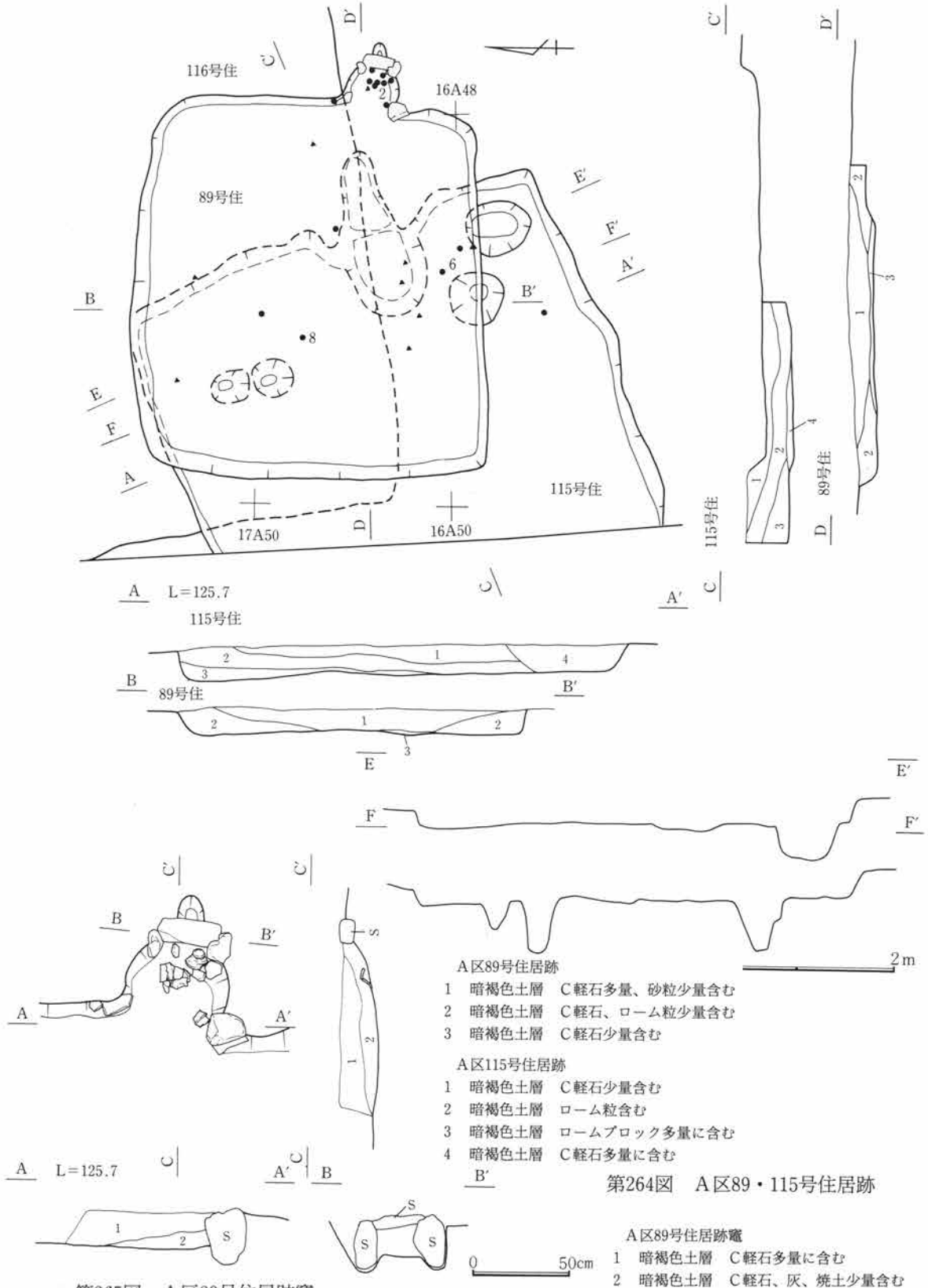
A区西部に位置し15～17A47～49の範囲にある。91号住居跡の西北にある。他の遺構との関係は西半部で115号住居跡、北半部で116号住居跡、東部の一部で100号住居跡と重複している。新旧関係は100号住居跡・115号住居跡・116号住居跡より新しい。規模は長辺3.9m、短辺3.7mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-94°-Eである。壁高は約25cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。両袖部、燃烧部壁面には補強材と考えられる石が検出された。また燃烧部、煙道部との境には燃烧部長軸と直交する形で石がかけてある。規模は袖幅60cm、燃烧部長60cm、煙道部長10cmを測る。

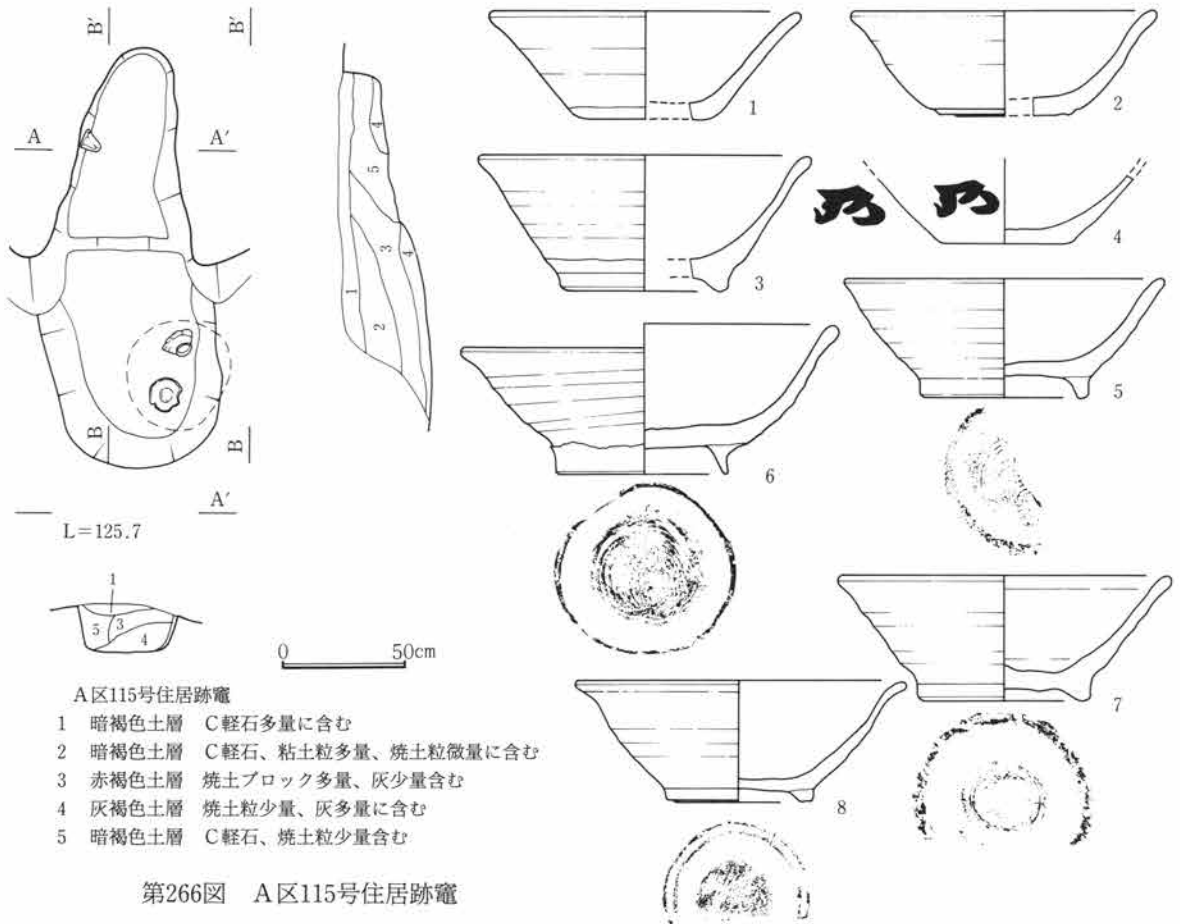
A区115号住居跡 (第264・266・268図、第25・109・110図版)

A区西部に位置し14～17A48～50の範囲にある。100号住居跡の西にある。他の遺構との関係は東部で89号住居跡、北部で116号住居跡と重複している。新旧関係は89号住居跡より旧く、116号住居跡より新しい。また西半部は調査区域外へ延びるため完掘されていない。このため規模は東壁で4.8m、南壁で3.7m、北壁で2.9mを測る。平面形態は隅丸方形を呈するものと考えられる。主軸方位はN-70°-Eである。壁高は約25cm～30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝は検出されていない。南東隅に貯蔵穴と考えられる小穴が検

第4章 検出された遺構・遺物

出され、床面には柱穴と考えられる小穴が合計3基検出され各々1〜3とした。規模は1、65cm×55cm、深さ約30cm、2、径約55cm、深さ約50cm、3、径約40cm、深さ約50cmを測る。2・3は深さがほぼ均一であるため柱穴と考えられる。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃烧部幅80cm、同長1mを測る。

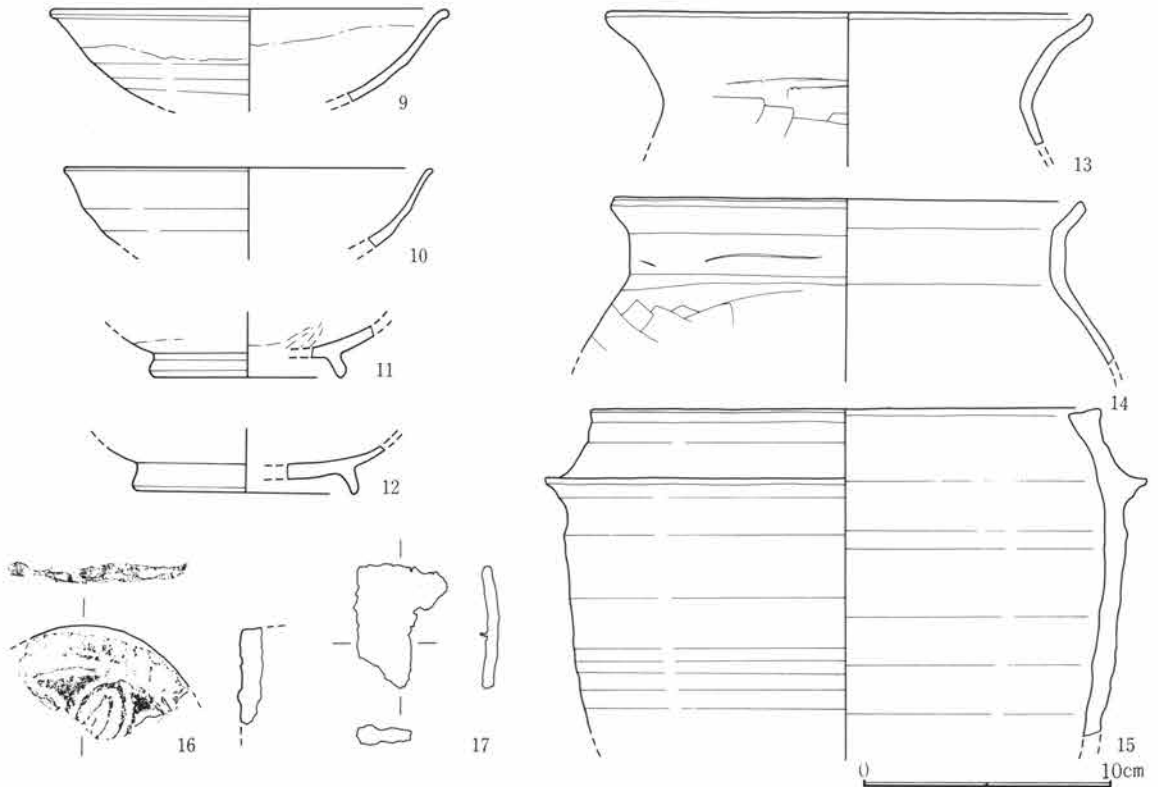




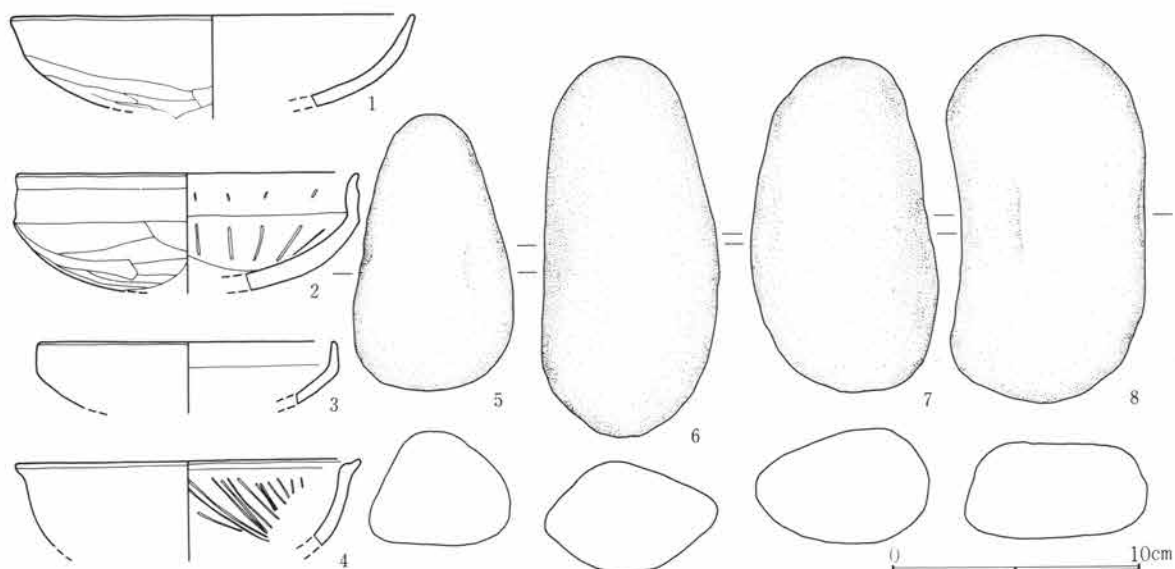
A区115号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石、粘土粒多量、焼土粒微量に含む
- 3 赤褐色土層 焼土ブロック多量、灰少量含む
- 4 灰褐色土層 焼土粒少量、灰多量に含む
- 5 暗褐色土層 C軽石、焼土粒少量含む

第266図 A区115号住居跡竈



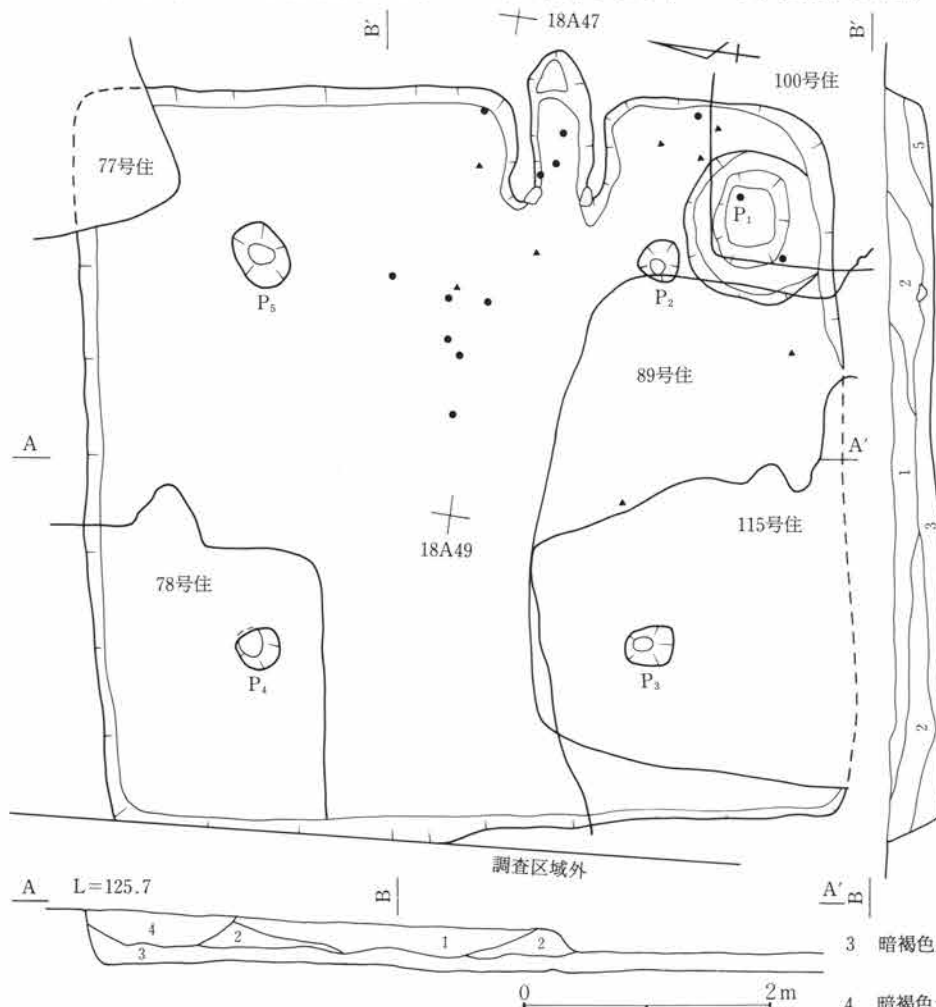
第267図 A区89号住居跡出土遺物



第268図 A区115号住居跡出土遺物

A区116号住居跡 (第269・270・271・272・273・274図、第25・26・110・173図版)

A区西部に位置し16~19A 47~50の範囲にある。69号住居跡の西にある。他の遺構との関係は南東部で100号住居跡、南部で89号住居跡、南西部で115号住居跡、北東部で77号住居跡、西北部で78号住居跡と重複して



いる。新旧関係は77号住居跡・78号住居跡・89号住居跡・100号住居跡・115号住居跡より古い。また西北部では西壁の一部が調査区域外へ延びるため完掘されていない。規模は長辺6.4m、短辺6mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-85°-Eである。壁高は約40cm~45cmを測る。床

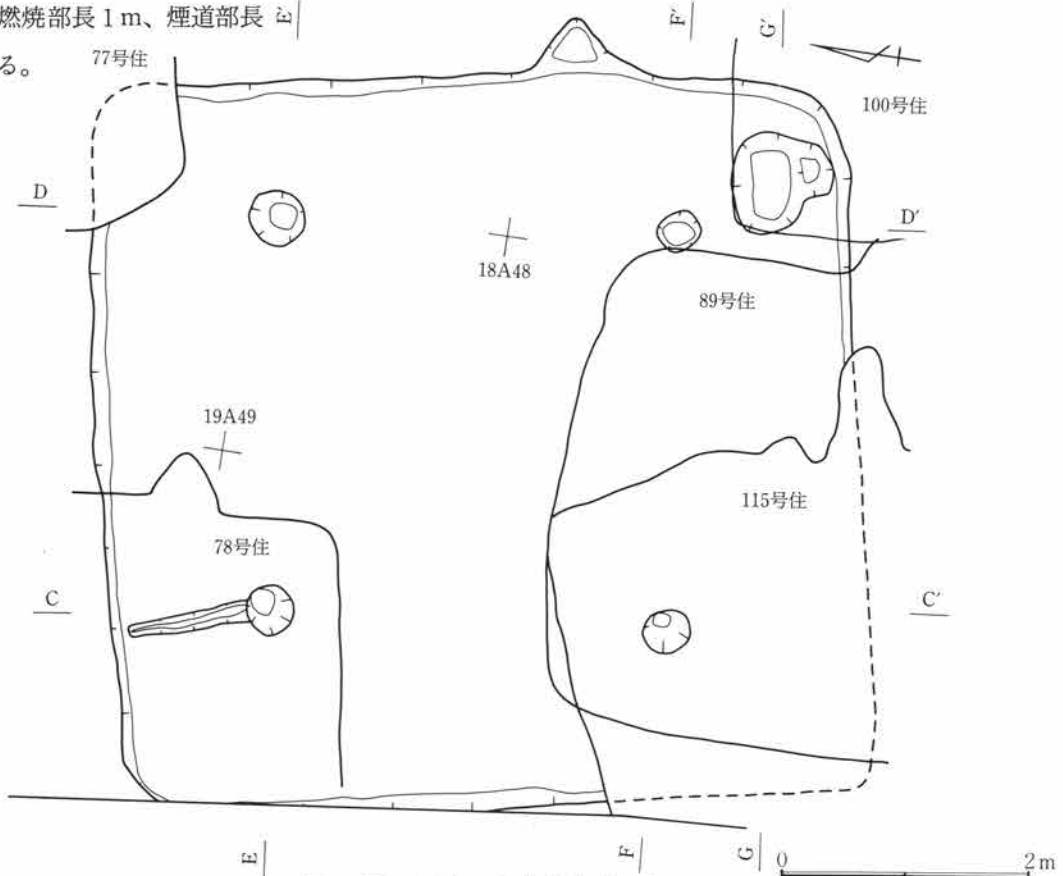
A区116号住居跡

- 1 暗褐色土層 C軽石、ロームブロック混入
- 2 暗褐色土層 C軽石、ロームブロック含む
- 3 暗褐色土層 C軽石含む、ロームブロック若干含む
- 4 暗褐色土層 黒色粒含む
- 5 暗褐色土層 ローム粒多量に含む

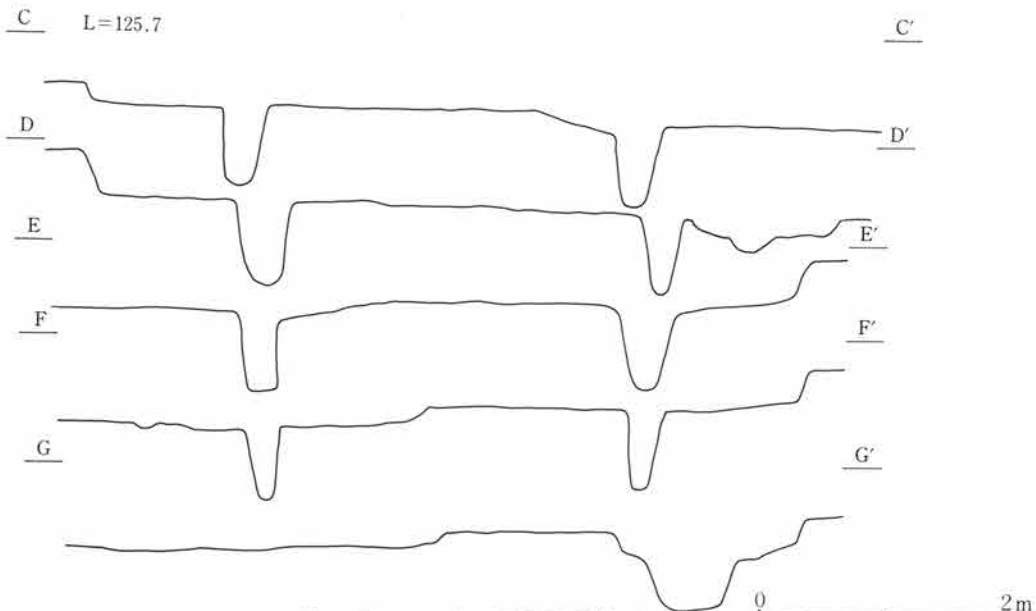
第269図 A区116号住居跡

第1節 竪穴住居跡

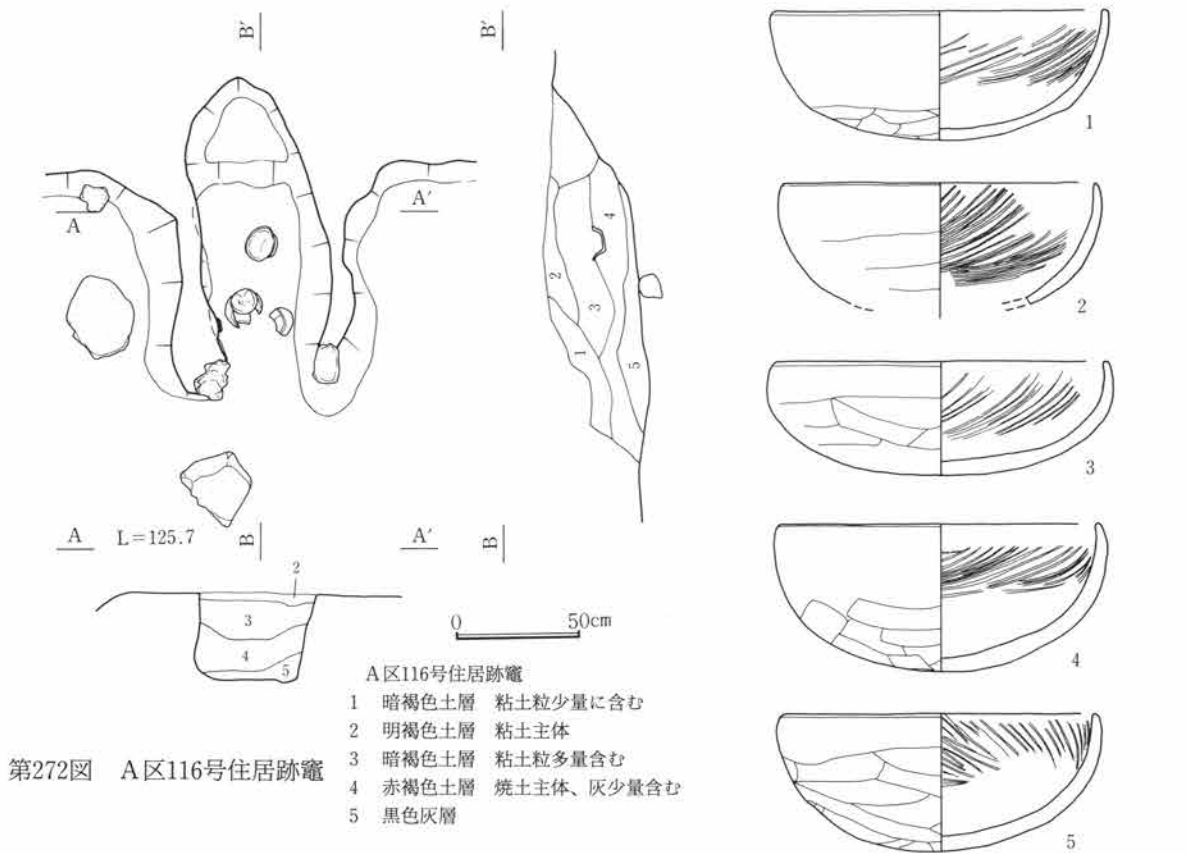
面はほぼ平坦をなし、壁周溝は検出されていない。南東部に貯蔵穴と考えられる小穴、また床面には柱穴と考えられる小穴が合計5基検出された。各々1～5とした。規模は1、径約1.2m、深さ約60cm、2、径約35cm、深さ約65cm、3、径約40cm、深さ約60cm、4、径約45cm、深さ約65cm、5、径約55cm、深さ約65cmを測る。2～4はほぼ直角に配され深さも均一であり柱穴と考えられる。柱間は約3～3.1mを測る。竈は東壁やや南寄りに検出された。形態は両袖部が幅約30cmで床面に延び、両袖部には石が配されている。規模は袖幅40cm、燃烧部長1m、煙道部長40cmを測る。



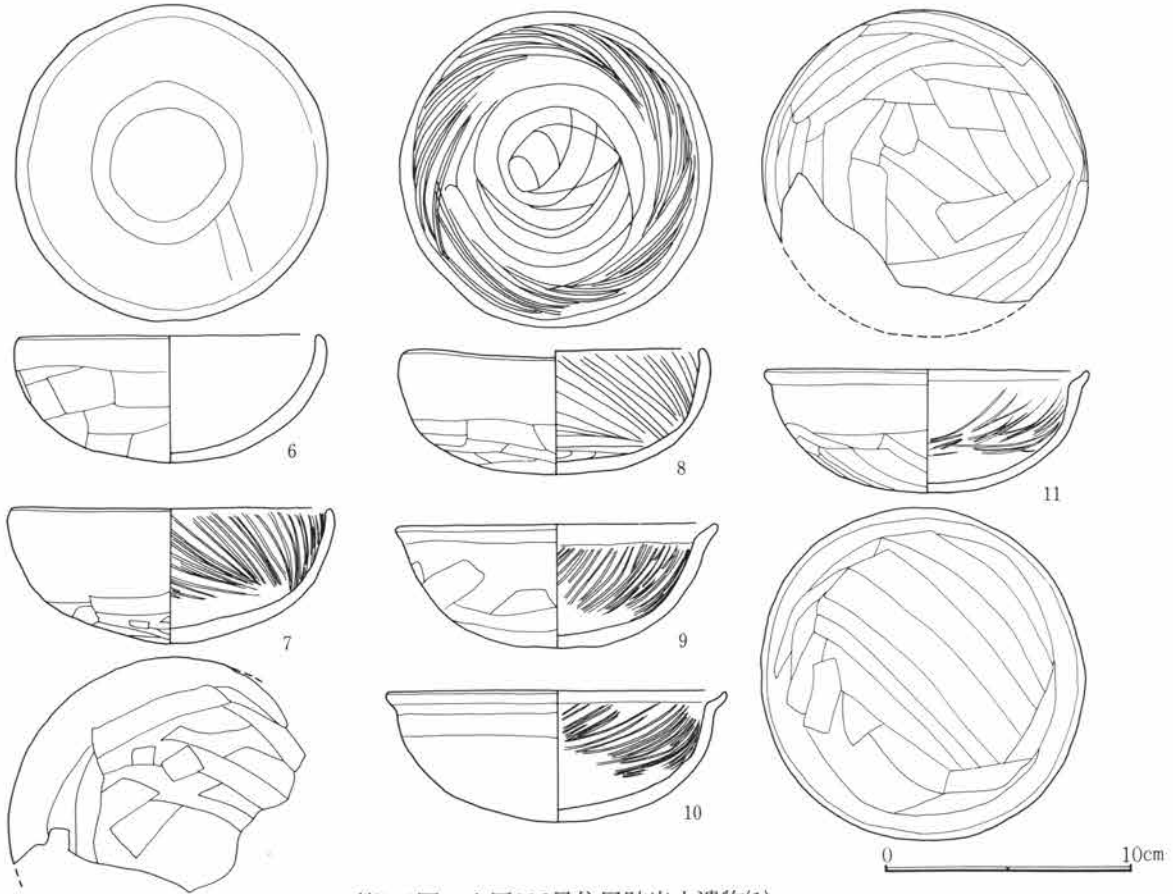
第270図 A区116号住居跡掘り方



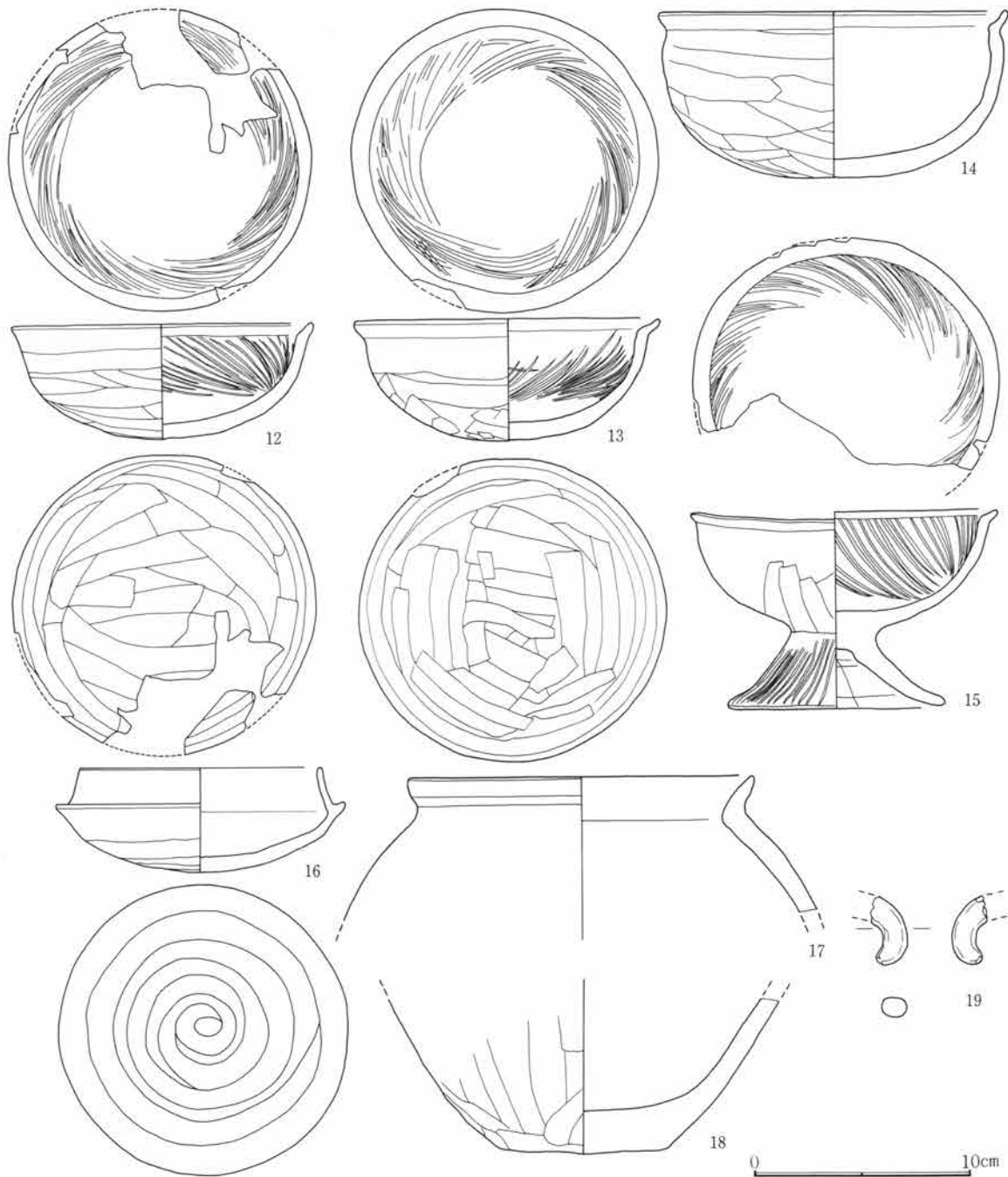
第271図 A区116号住居跡断面



第272図 A区116号住居跡竈



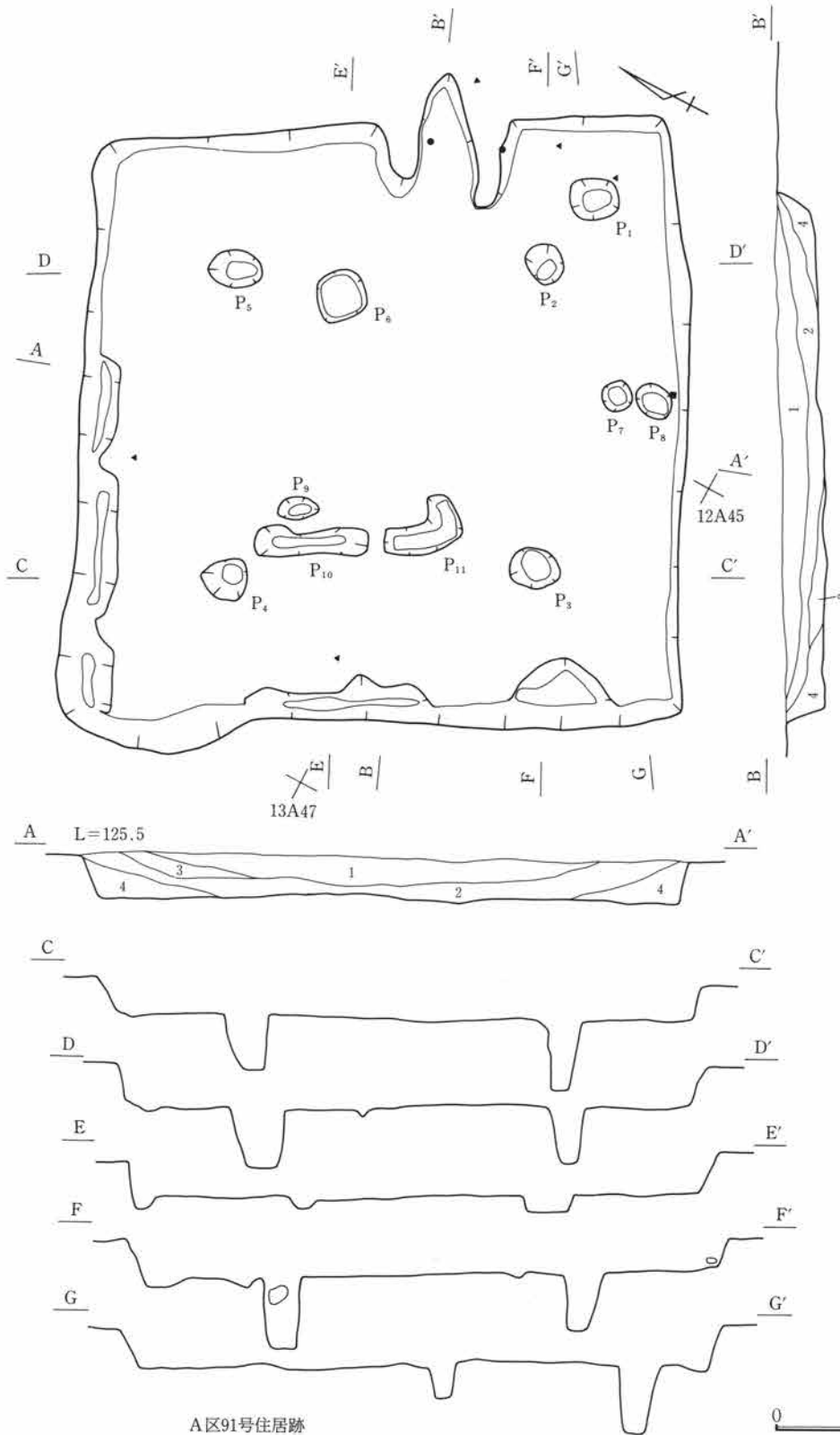
第273図 A区116号住居跡出土遺物(1)



第274図 A区116号住居跡出土遺物(2)

A区91号住居跡 (第275・276・277図、第18・19・111図版)

A区西部に位置し11～15A 43～47の範囲にある。65号住居跡の北にある。他の遺構との関係は北東部で68号住居跡と重複している。新旧関係は91号住居跡が古い。規模は長辺5.75m、短辺5.5mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-60°-Eである。壁高は約40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、北・西壁の一部に周溝が認められた。南東隅に貯蔵穴状の小穴、また床面上には柱穴状の小穴、さらに小穴が検出された。各々1～11とした。壁周溝の規模は幅約30cm、深さ約6cm～10cmを測る。小穴の規模は1、45cm×35cm、深さ約70cm、2、40cm×30cm、深さ約50cm、3、50cm×35cm、深さ約60cm、4、径約40cm、深さ約50cm、5、50cm×35cm、深さ約50cm、6、径約45cm、深さ約20cm、7、径約30cm、深さ約30cm、8、35cm×30cm、

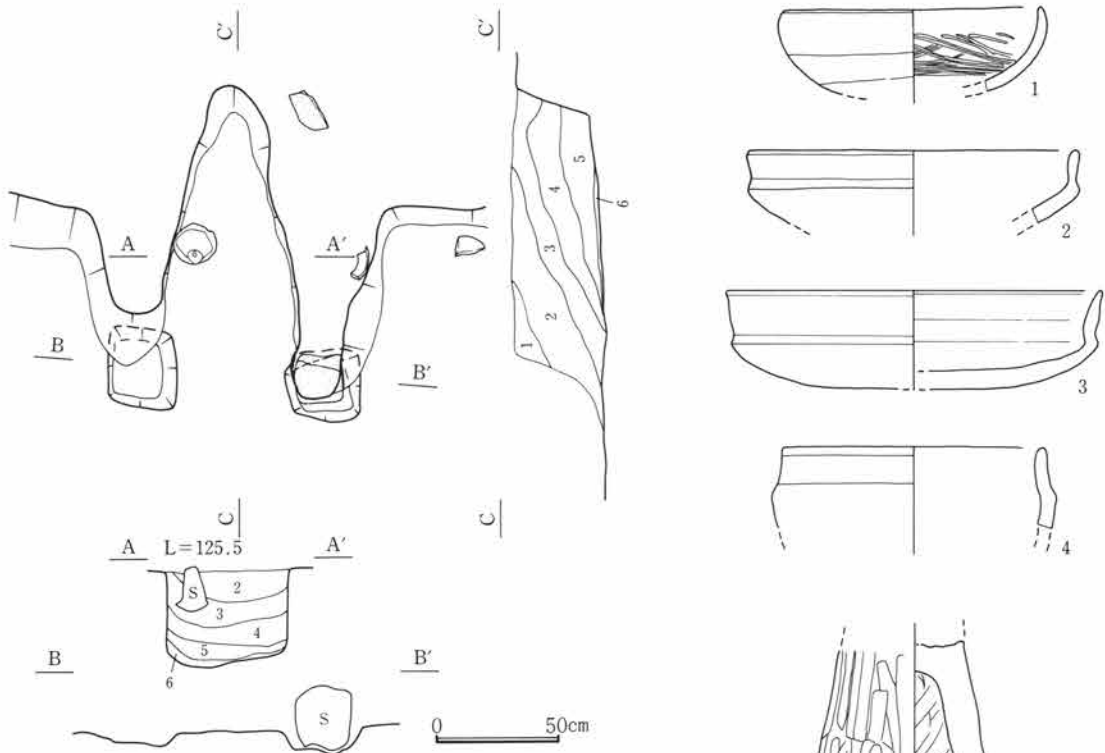


深さ約10cm、9、40cm×20cm、深さ約15cm、10、1m×30cm、深さ約15cm、11、70cm×30cm、深さ約10cmを測る。小穴の内10・11は溝状の掘形を呈する。2～5は柱穴と考えられ、深さはほぼ50cm～60cmと均一である。また柱間は約2.7mを測る。竈は東壁やや南寄りに検出された。両袖部は幅約30cm～40cmで床面上に約60cm～80cm延びている。規模は袖幅70cm、燃烧部長1.2mを測る。竈掘り方面には袖部先端から小穴が各々認められ、南側袖先端部下小穴内からは加工の跡が認められる石が検出された。

A区91号住居跡

- 1 黒褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 黒褐色土層 C軽石、地山土ブロック含む (IV層)
- 3 黒褐色土層 C軽石ロームブロック含む
- 4 黒褐色土層 C軽石含む

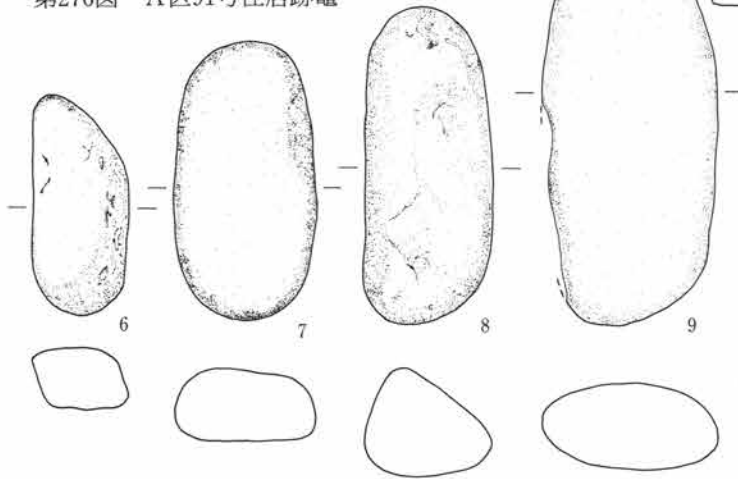
第275図 A区91号住居跡



A区91号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 粘土ブロック・粒多量、焼土粒含む
- 3 暗褐色土層 灰白粘土ブロック含む
- 4 暗褐色土層 焼土ブロック含む
- 5 灰層
- 6 灰層 灰、焼土ブロック、カーボン含む

第276図 A区91号住居跡竈

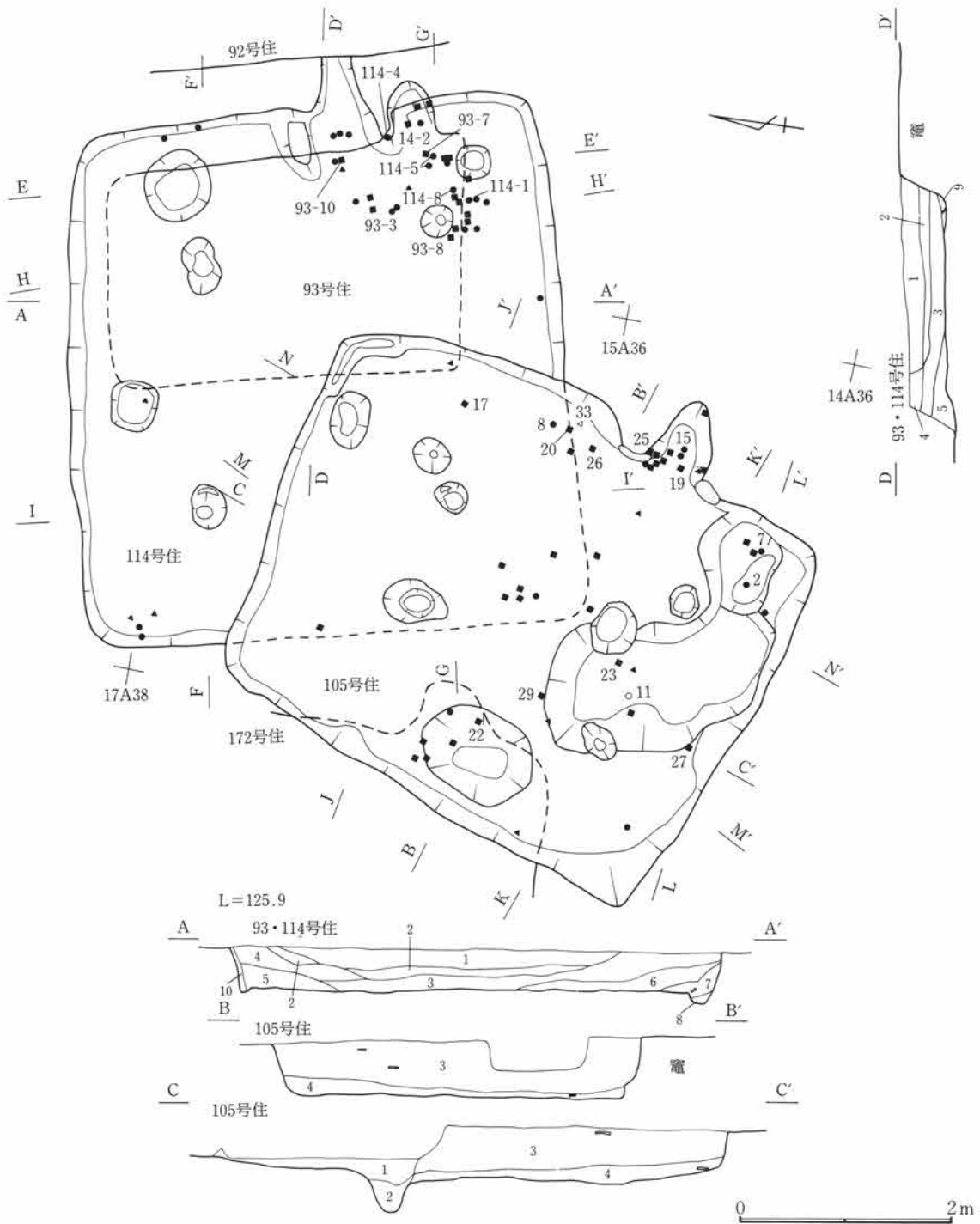


第277図 A区91号住居跡出土遺物

A区93号住居跡 (第278・280・283・284図、第19・111図版)

A区中央部に位置し15~17A35・36の範囲にある。80号住居跡の南西にある。他の遺構との関係は住居跡の大部分を114号住居跡、南西部で105号住居跡と重複している。新旧関係は114号住居跡より新しく、105号住居跡より古い。規模は長辺3.5m、短辺2.1mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-73°-Eである。壁高は測定できなかった。壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃烧部幅50cm、同長50cmを測る。

第4章 検出された遺構・遺物



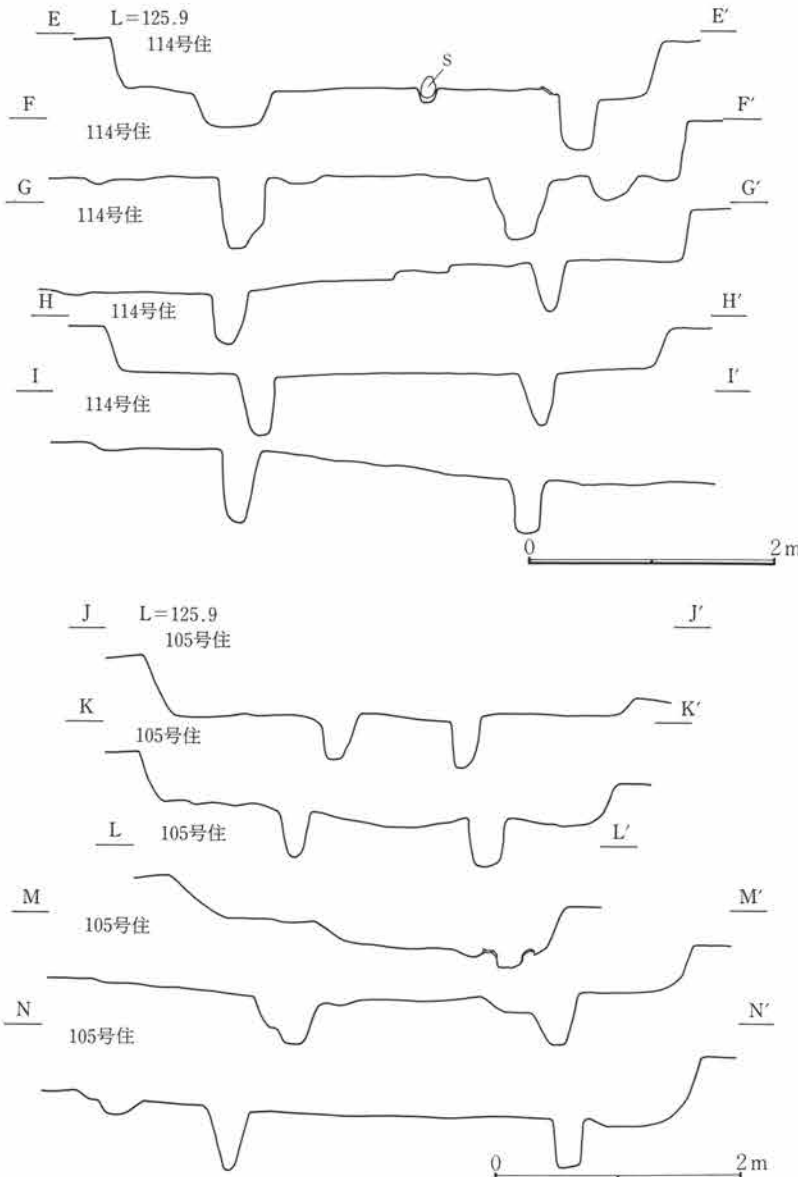
A区93・114号住居跡

- | | |
|----------|--------------------|
| 1 暗褐色土層 | C 軽石含む |
| 2 暗褐色土層 | C 軽石含む、硬質土 |
| 3 暗褐色土層 | C 軽石、ローム粒含む |
| 4 暗褐色土層 | C 軽石、ローム粒混土 |
| 5 暗褐色土層 | ロームブロック含む |
| 6 暗褐色土層 | C 軽石含む、ロームブロック若干含む |
| 7 暗褐色土層 | |
| 8 暗褐色土層 | 褐色土粒含む |
| 9 暗褐色土層 | C 軽石、焼土粒含む |
| 10 暗褐色土層 | C 軽石微量に含む |

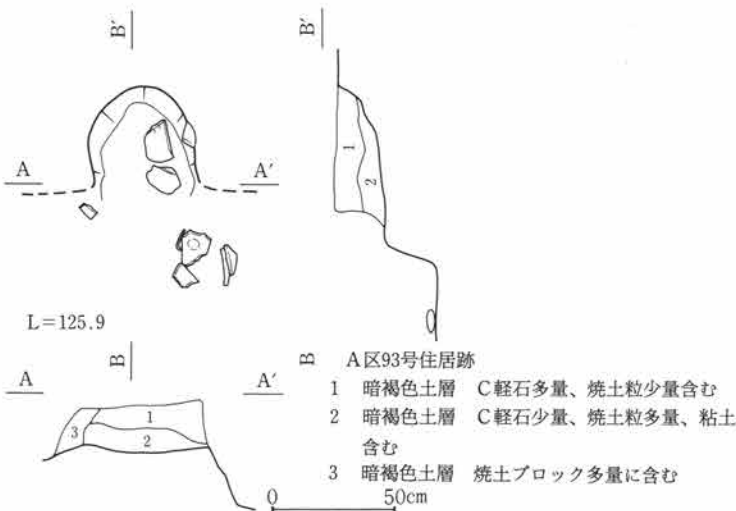
A区105号住居跡竈

- | | |
|---------|------------------|
| 1 暗褐色土層 | C 軽石多量に含む |
| 2 暗褐色土層 | 砂質、ローム質 |
| 3 暗褐色土層 | C 軽石多量、ローム粒少量含む |
| 4 暗褐色土層 | C 軽石、ロームブロック少量含む |

第278図 A区93・105・114号住居跡



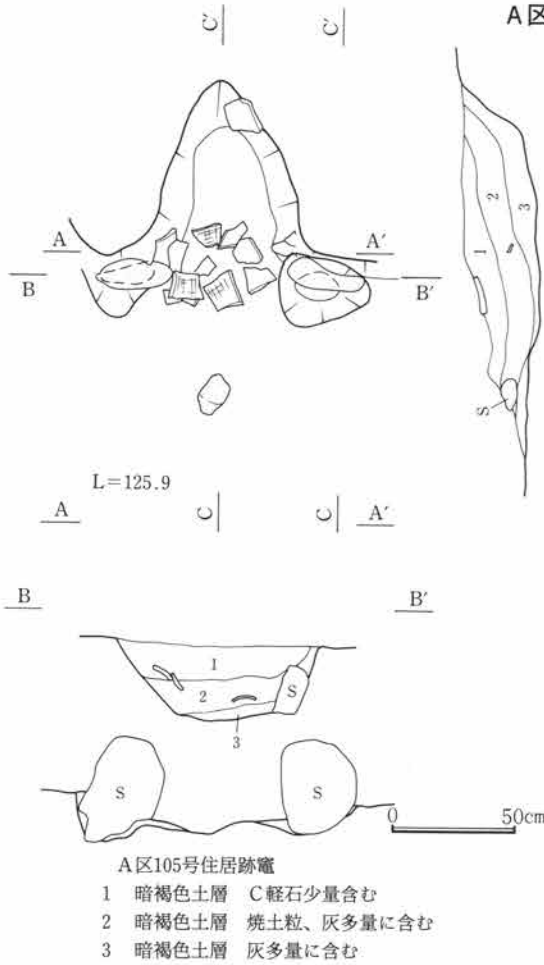
第279図 114・105号住居跡断面



第280図 A区93号住居跡竈

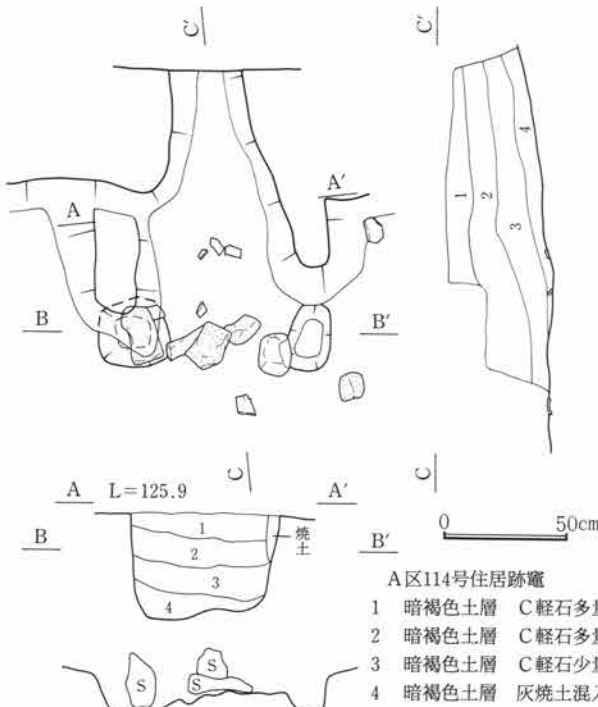
A区105号住居跡 (第278・279・281・285・286・287図、第22・112・113・114・174図版)

A区中央部に位置し13~16A 36~38の範囲にある。92号住居跡の南西にある。他の遺構との関係は南西部で130号住居跡、北東部で93号住居跡・114号住居跡・172号住居跡と重複している。新旧関係は93号住居跡・114号住居跡・130号住居跡・172号住居跡より新しい。規模は長辺5.2m、短辺4.05mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-115°-Eである。壁高は約40cm~50cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、北東隅に壁周溝の一部が認められた。規模は幅約20cm、深さ約2cm~7cmを測る。床面には貯蔵穴、柱穴等と考えられる小穴が合計8基検出された。各々1~8とした。規模は1、1m×70cm、深さ約30cm、2、径約30cm、深さ約40cm、3、40cm×25cm、深さ約60cm、4、65cm×40cm、深さ約40cm、5、径約35cm、深さ約50cm、6、50cm×35cm、深さ約10cm、7、径約30cm、深さ約40cm、8、1.1m×80cm、深さ約20cmを測る。2~5は柱穴と考えられる。竈は東壁南寄りに検出された。両袖部には石が認められ、規模は袖幅80cm、燃烧部長80cmを測る。掘り方 住居跡床面南東部に不定形の落ち込みが認められ、規模は2.2m×1.1m、深さ約15cm~30cmを測る。



A区105号住居跡竈
 1 暗褐色土層 C軽石少量含む
 2 暗褐色土層 焼土粒、灰多量に含む
 3 暗褐色土層 灰多量に含む

第281図 A区105号住居跡竈

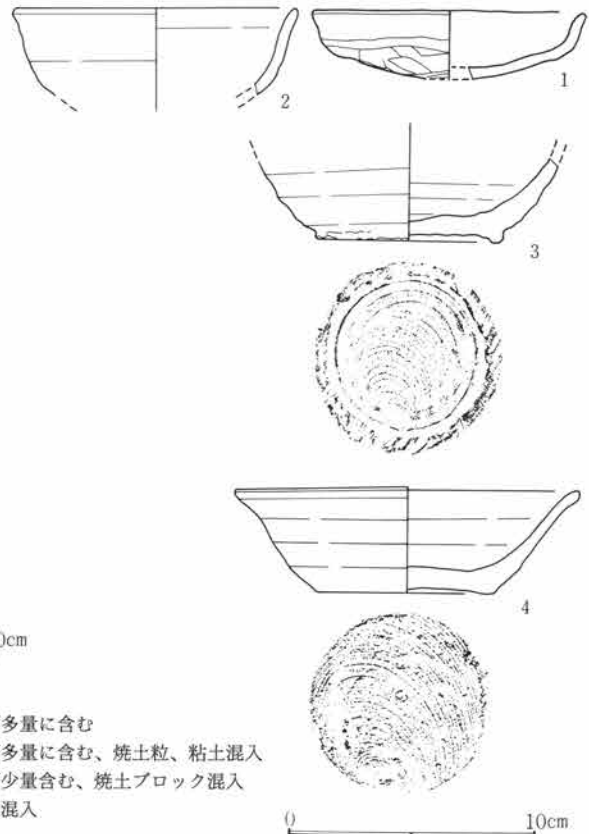


A区114号住居跡竈
 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
 2 暗褐色土層 C軽石多量に含む、焼土粒、粘土混入
 3 暗褐色土層 C軽石少量含む、焼土ブロック混入
 4 暗褐色土層 灰焼土混入

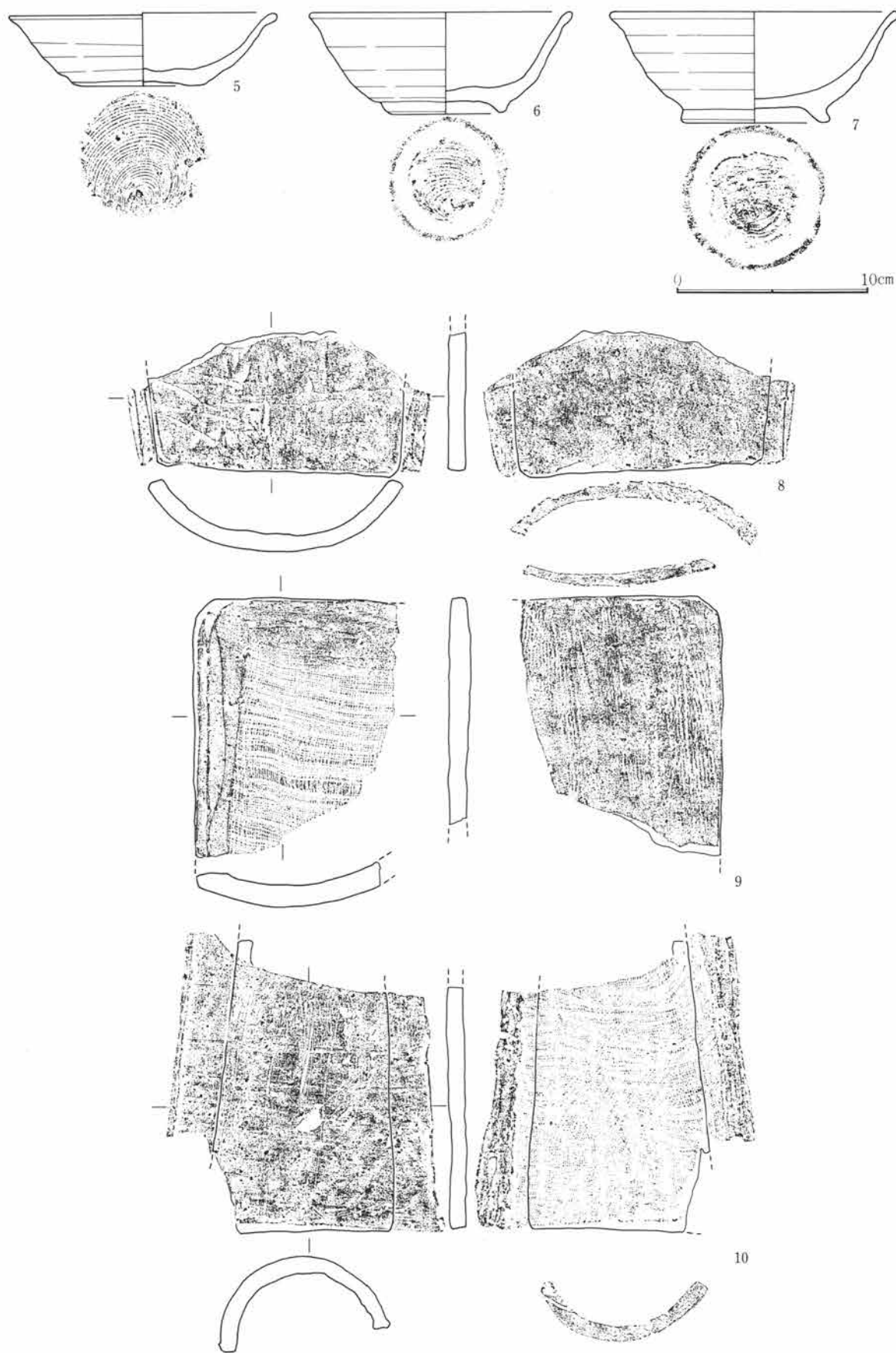
第282図 A区114号住居跡竈

A区114号住居跡 (第278・279・288・289図、第24・25・114図版)

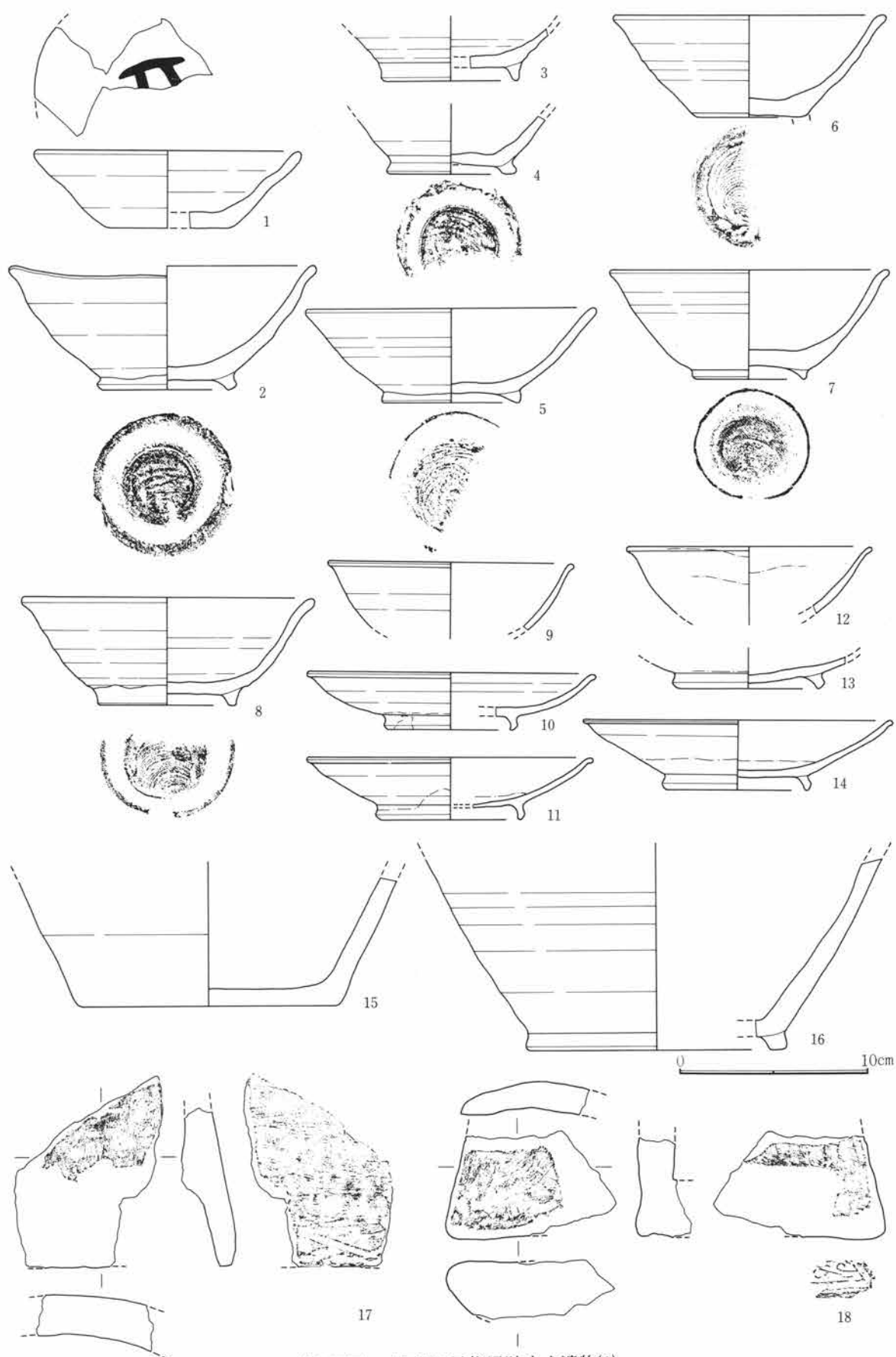
A区中央部に位置し14~17A35~37の範囲にある。80号住居跡の南西にある。他の遺構との関係は東部で92号住居跡・93号住居跡、南西部で105号住居跡と重複している。新旧関係は92号住居跡・93号住居跡・105号住居跡より古い。規模は長辺4.75m、短辺4.75mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-74°-Eである。壁高は約30cm~40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝は認められない。貯蔵穴・柱穴と考えられる小穴が検出され合計7基が認められ、各々1~7とした。規模は1、35cm×30cm、深さ約45cm、2、径約45cm、深さ約45cm、3、径約30cm、深さ約40cm、4、40cm×30cm、深さ約60cm、5、55cm×35cm、2基の重複と考えられ2カ所の底部が認められ、深さは東側で約45cm、西側で約50cm、6、径約70cm、深さ約25cm、7、径約45cm、深さ約10cmを測る。2~5の小穴は柱穴と考えられ、柱間は約2.4m前後である。竈は東壁南寄りに検出された。先端部は92号住居跡により一部壊されている。両袖部は幅約20cm~30cmで床面に約60cm延びている。規模は袖幅約80cm、燃焼部長残存部で90cmを測る。



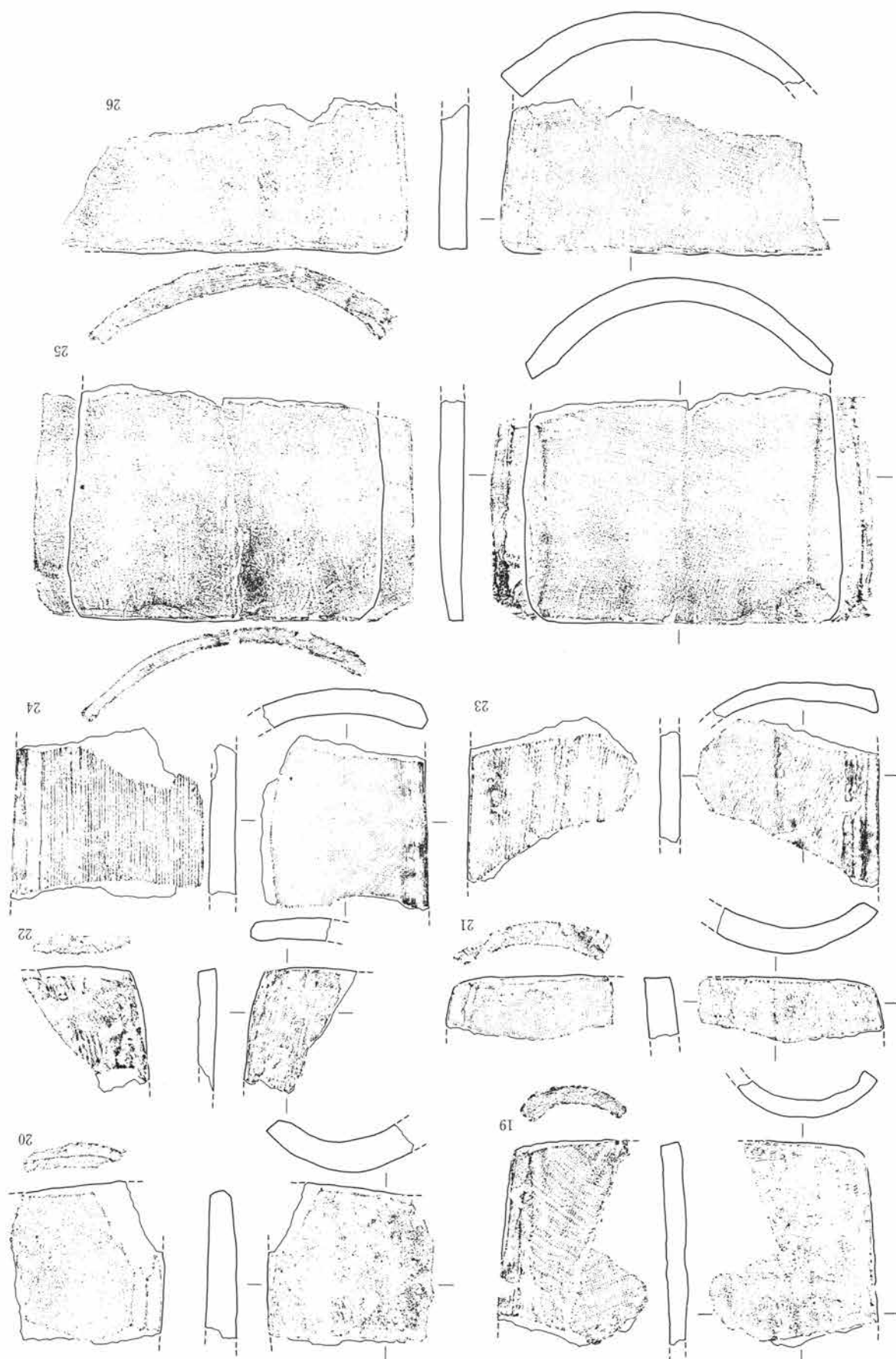
第283図 A区93号住居跡出土遺物(1)



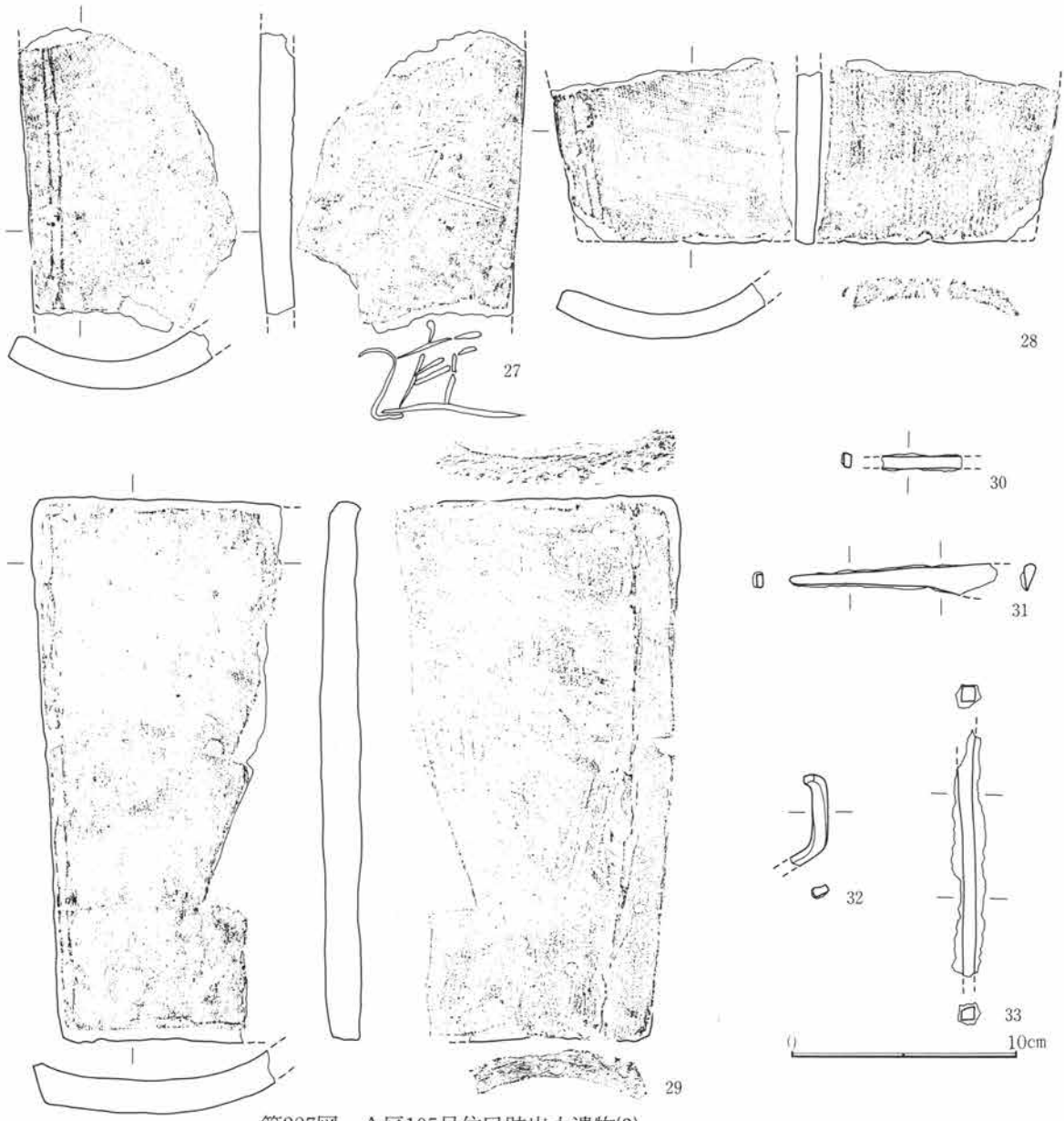
第284図 A区93号住居跡出土遺物(2)



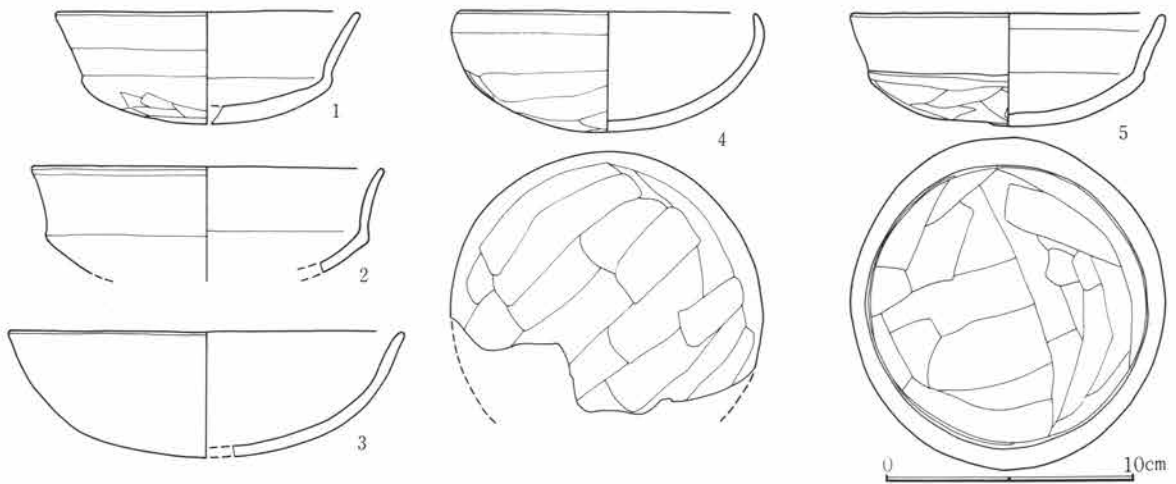
第285図 A区105号住居跡出土遺物(1)



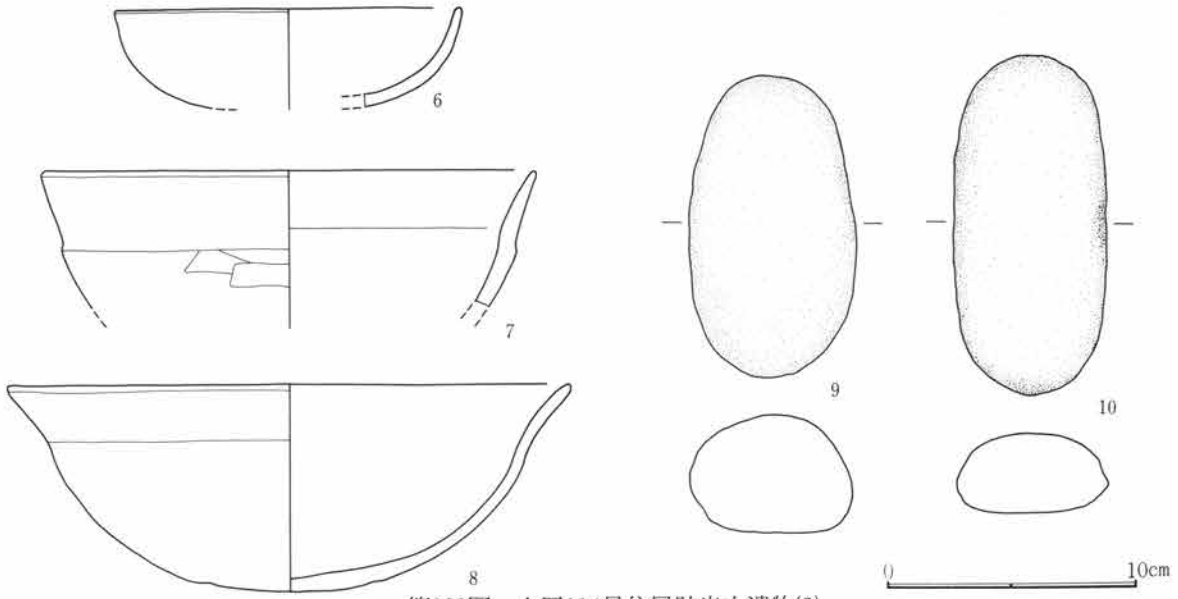
第286図 A区105号住居跡出土遺物(2)



第287図 A区105号住居跡出土遺物(3)



第288図 A区114号住居跡出土遺物(1)

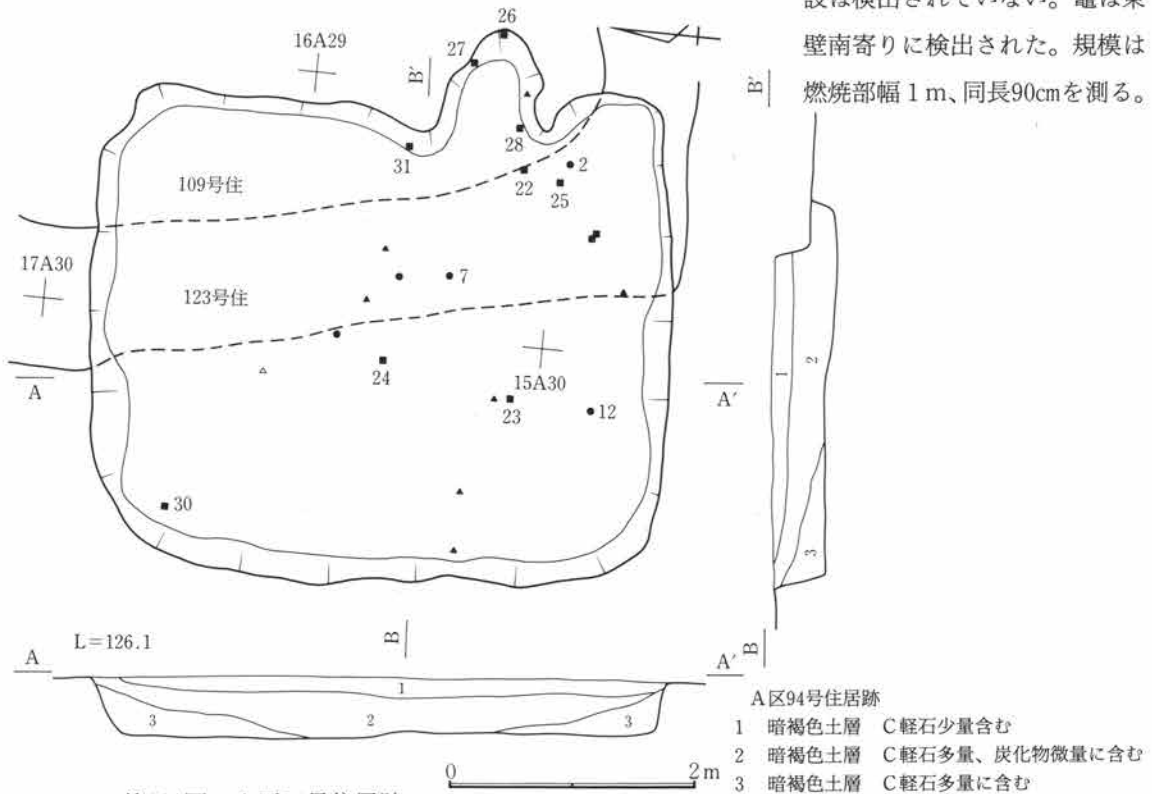


第289図 A区114号住居跡出土遺物(2)

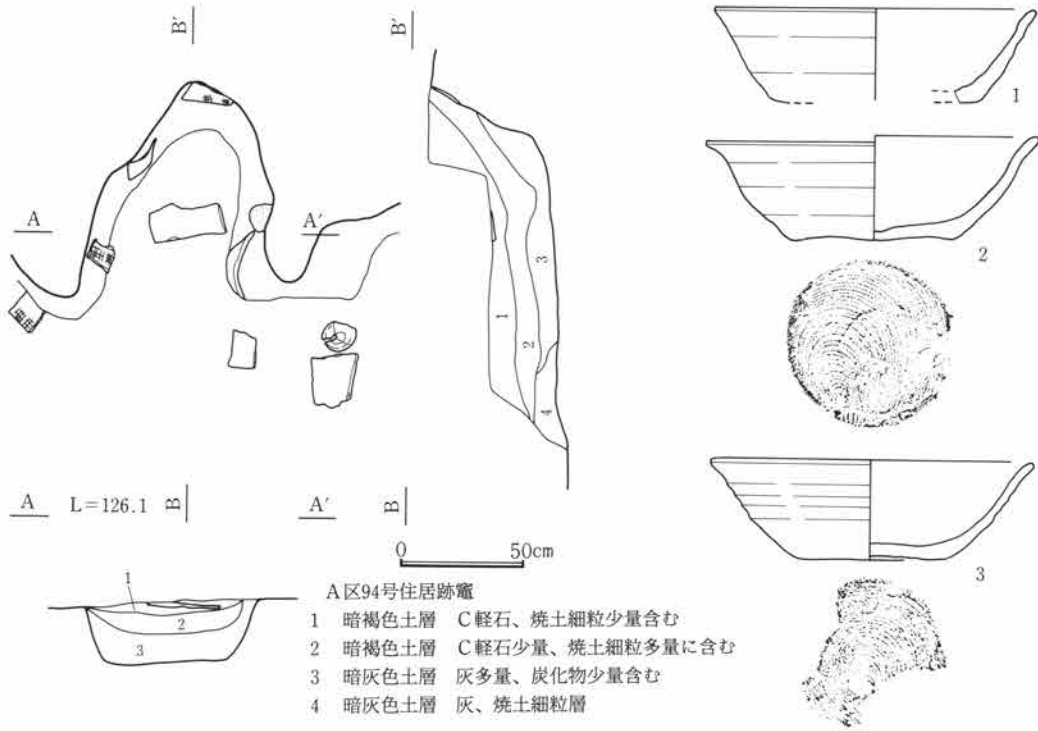
A区94号住居跡 (第290・291・292・293・294・295図、第19・114・115・116・174図版)

A区東部に位置し14～16A28～31の範囲にある。88号住居跡の北にある。他の遺構との関係は東半部で109号住居跡・123号住居跡と重複している。新旧関係は109号住居跡・123号住居跡より新しい。規模は長辺4.7m、短辺3.95mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-86°-Eである。壁高は約40cm～50cm

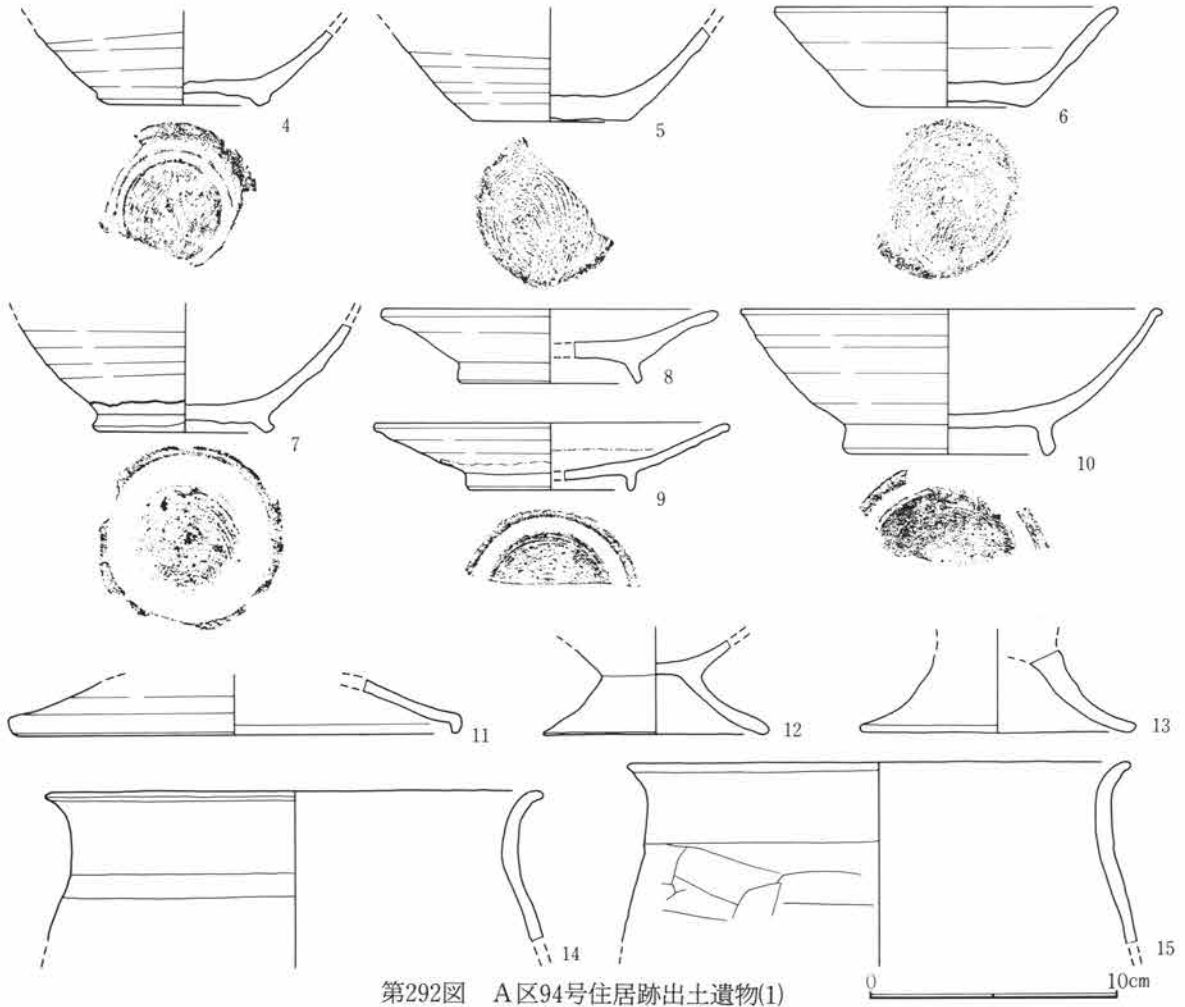
を測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃烧部幅1m、同長90cmを測る。



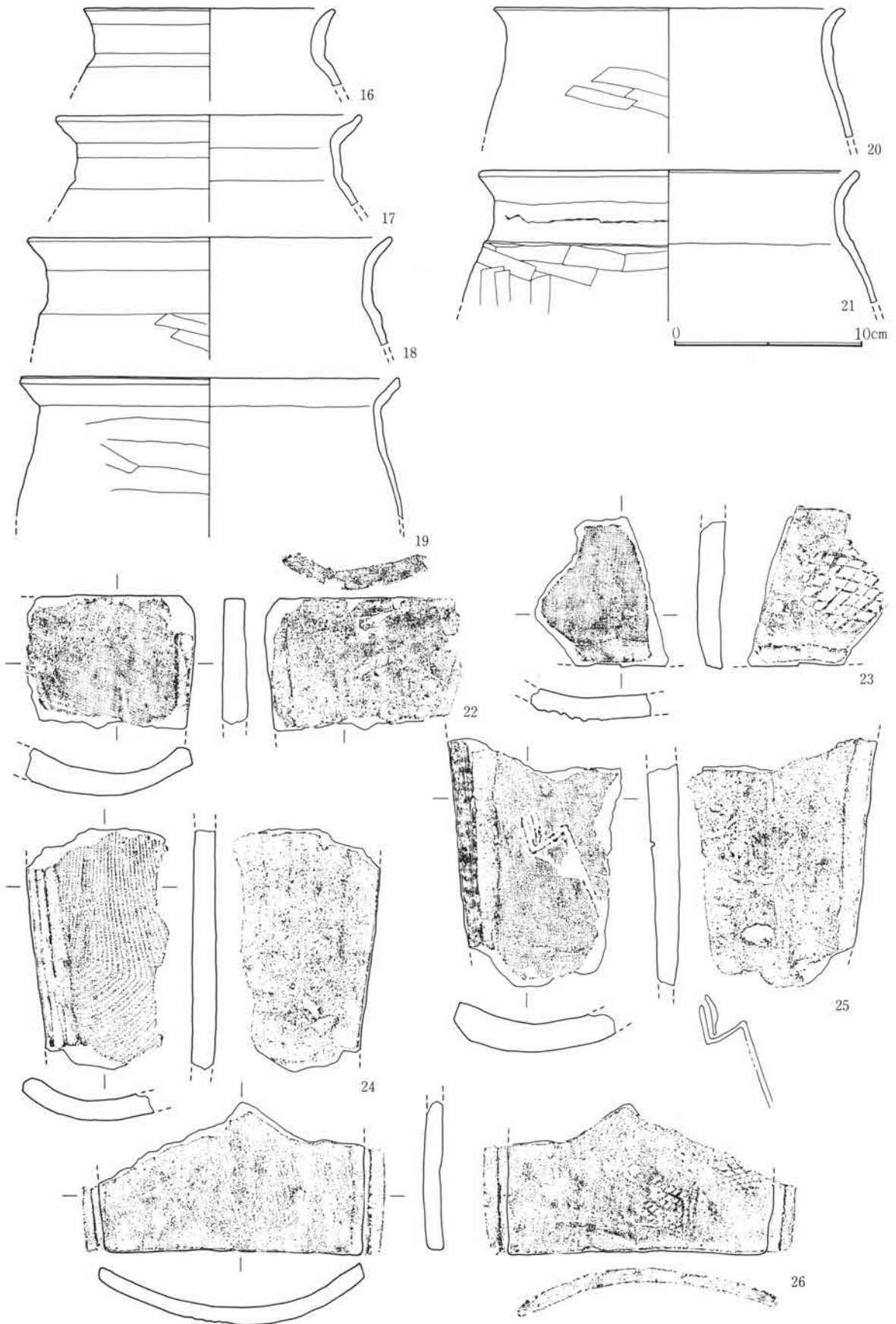
第290図 A区94号住居跡



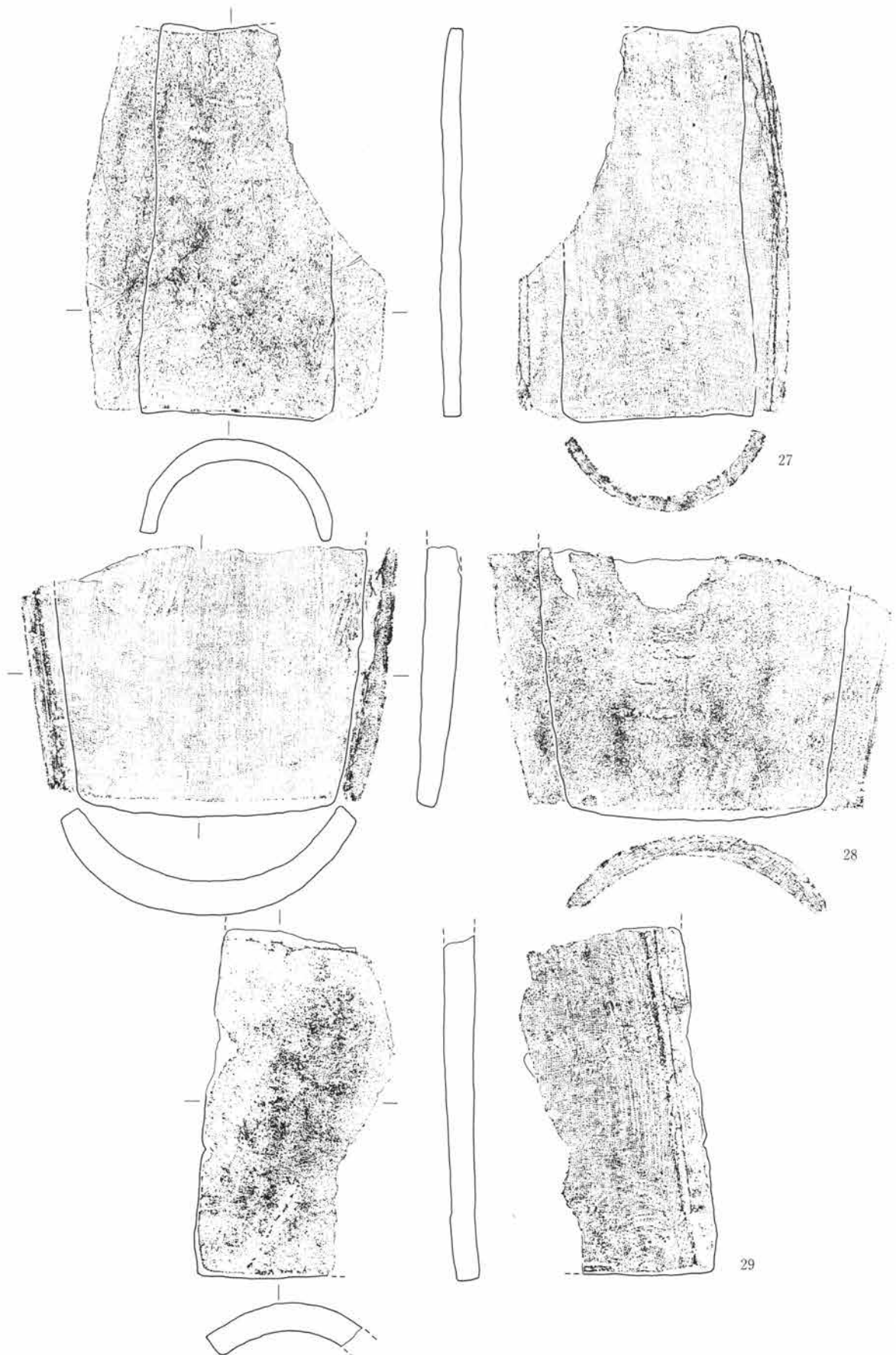
第291図 A区94号住居跡竈



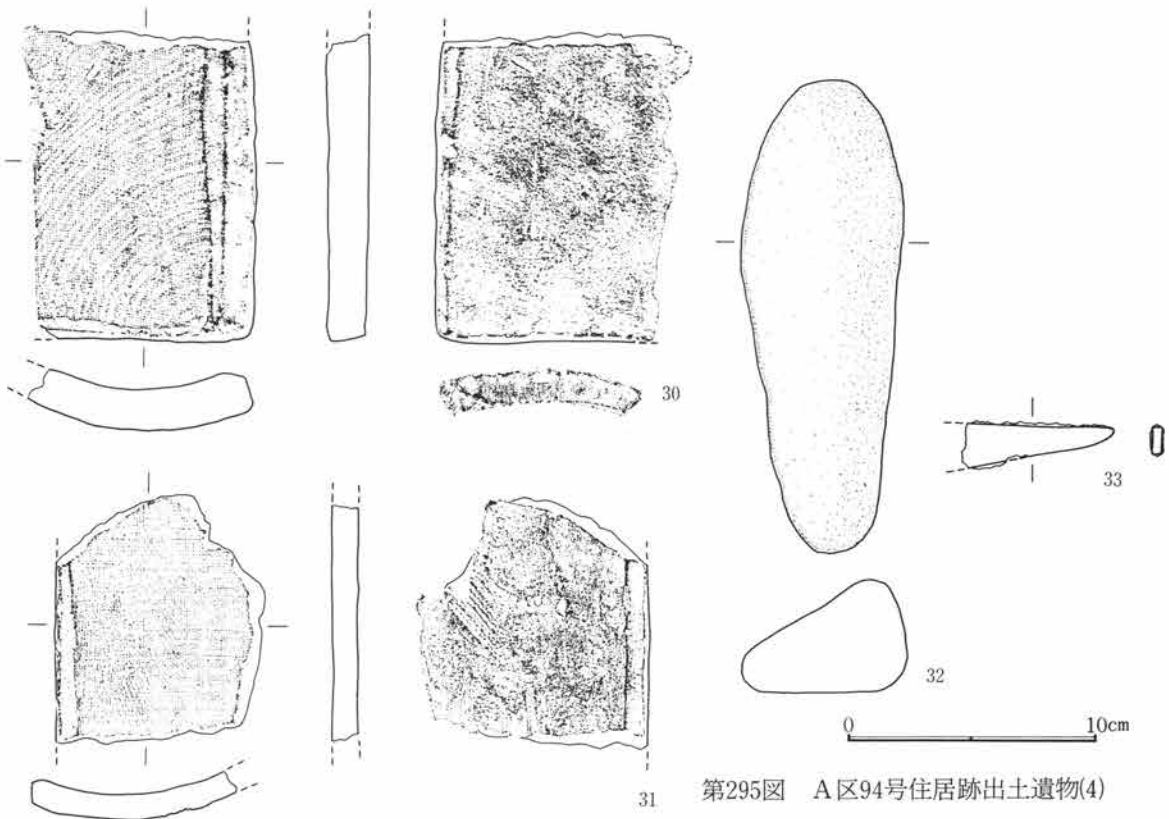
第1節 豎穴住居跡



第293図 A区94号住居跡出土遺物(2)



第294図 A区94号住居跡出土遺物(3)

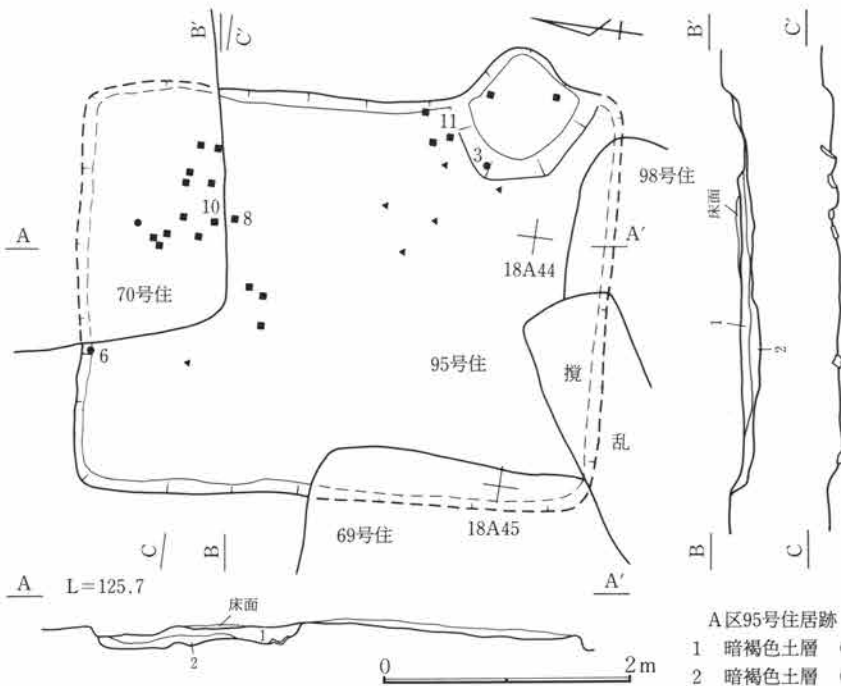


第295図 A区94号住居跡出土遺物(4)

A区95号住居跡 (第296・297・298・299図、第19・20・116・117・118図版)

A区西部に位置し17~19A43~45の範囲にある。77号住居跡の南東にある。他の遺構との関係は南西部で69号住居跡、北東部で70号住居跡、南部で98号住居跡と重複している。新旧関係は69号住居跡・70号住居跡・98号住居跡より古い。また南西部に長方形の攪乱があり住居跡の一部が壊されている。規模は長辺4.3m、短辺3.1mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-83°-Eである。壁高は約15cm~40cmを測る。

床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃烧部幅1.1m、同長60cmを測る。

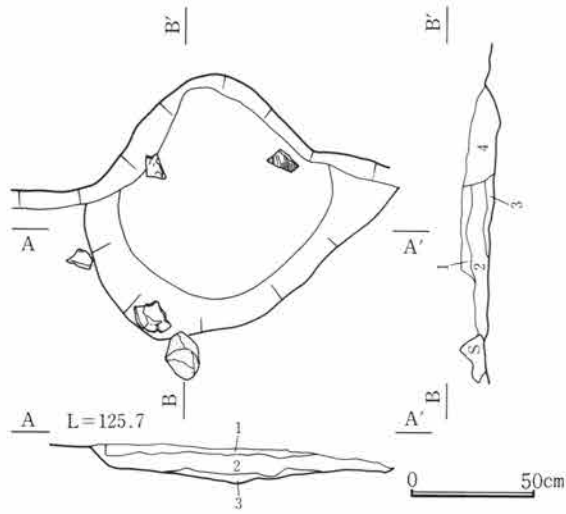


A区95号住居跡

- 1 暗褐色土層 C軽石少量含む
- 2 暗褐色土層 C軽石少量、ロームブロック多量に含む

第296図 A区95号住居跡

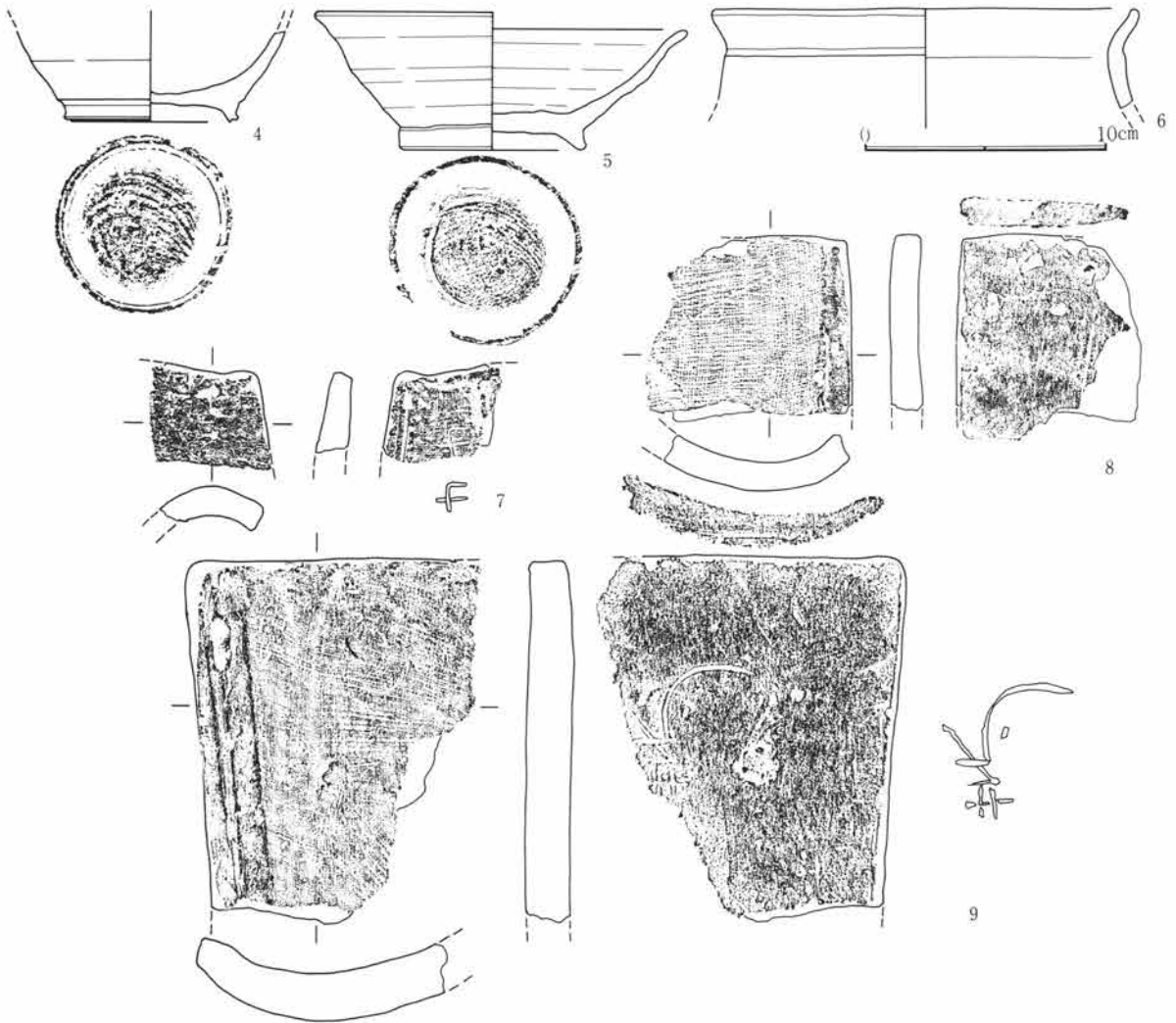
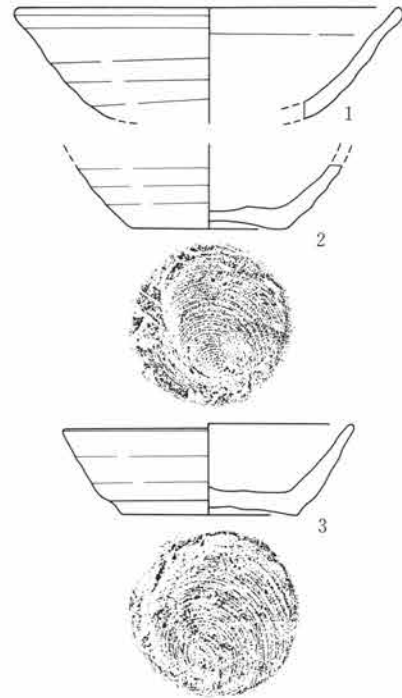
第4章 検出された遺構・遺物



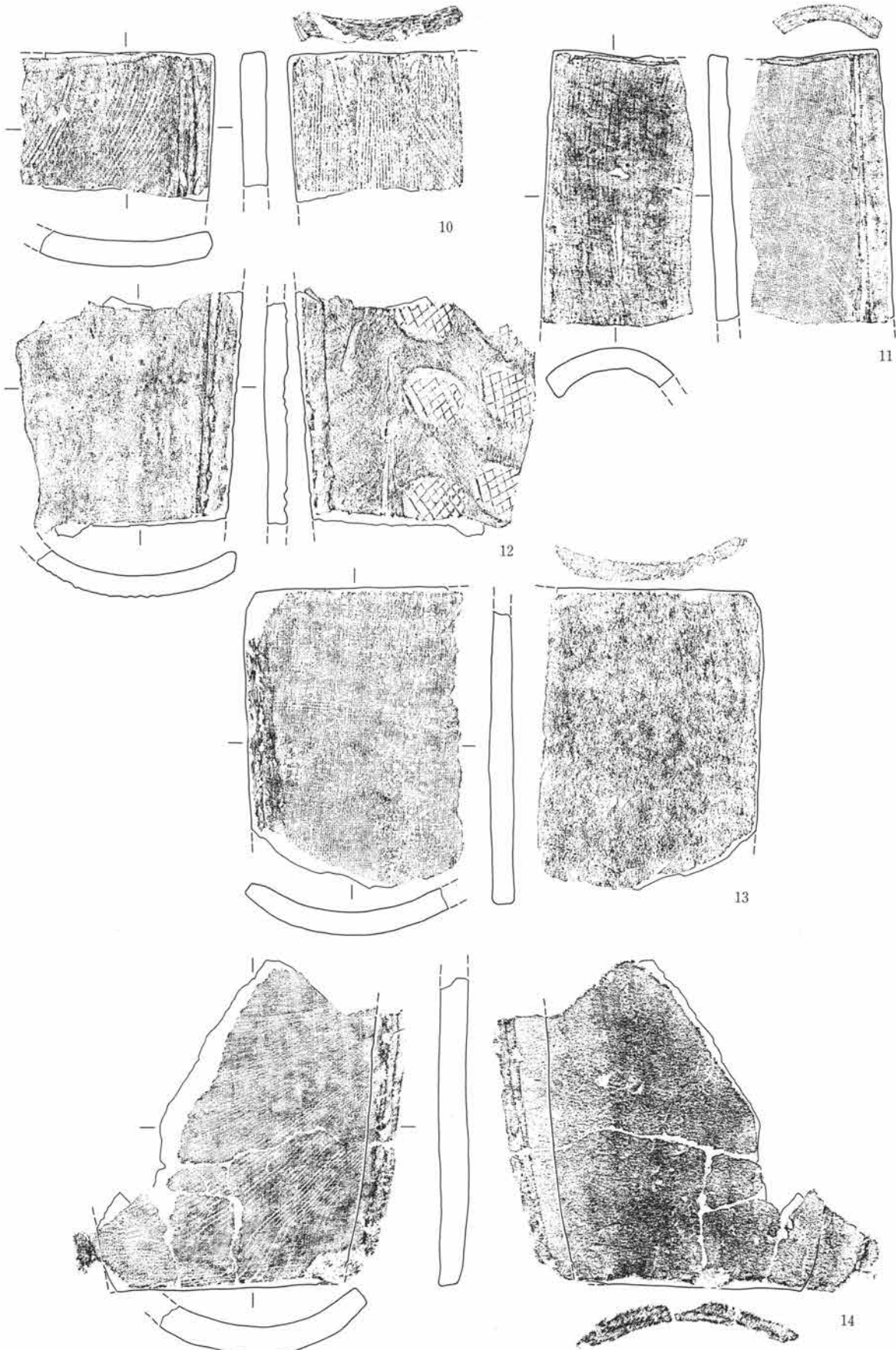
A区95号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石少量含む
- 2 赤褐色土層 焼土ブロック多量に含む
- 3 暗褐色土層 灰、焼土粒多量に含む
- 4 攪乱

第297図 A区95号住居跡竈



第298図 A区95号住居跡出土遺物(1)



第299図 A区95号住居跡出土遺物(2)

第4章 検出された遺構・遺物

A区96号住居跡（第300・302・305・306図、第20・117・118・119・120・174図版）

A区西部に位置し15～17A42～44の範囲にある。95号住居跡の南にある。他の遺構との関係は南部で68号住居跡、西部で98号住居跡、北東部で171号住居跡、東部で167号住居跡、南西部で99号住居跡と重複している。新旧関係は68号住居跡・98号住居跡より旧く、98号住居跡・99号住居跡・167号住居跡・171号住居跡より新しい。規模は長辺4.25m、短辺3.35mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-95°-Eである。壁高は東壁で15cm～25cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅1m、同長60cmを測る。竈前面に小穴が検出された。規模は45cm×25cm、深さ約15cmを測る。

A区98号住居跡（第300・303・307図、第20・119・174図版）

A区西部に位置し15～17A43～45の範囲にある。91号住居跡の北にある。他の遺構との関係は北部で95号住居跡、北西部で69号住居跡、東部で96号住居跡、西部で99号住居跡、南部で68号住居跡と重複している。新旧関係は95号住居跡・99号住居跡より新しく、68号住居跡・69号住居跡・96号住居跡より古い。北西部に長形状の攪乱があり、壁の一部が壊されている。規模は長辺5.2m、短辺2.95mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-90°-Eである。壁高は明確な数値は不明であるが、南北セクションに表れる高さは15cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・柱穴等の諸施設は検出されていない。南東隅に貯蔵穴と考えられる小穴が検出された。また中央部にも小穴が検出され、各々1・2とした。規模は1、75cm×55cm、深さ約10cm、2、45cm×25cm、深さ約40cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅80cm、同長50cmを測る。

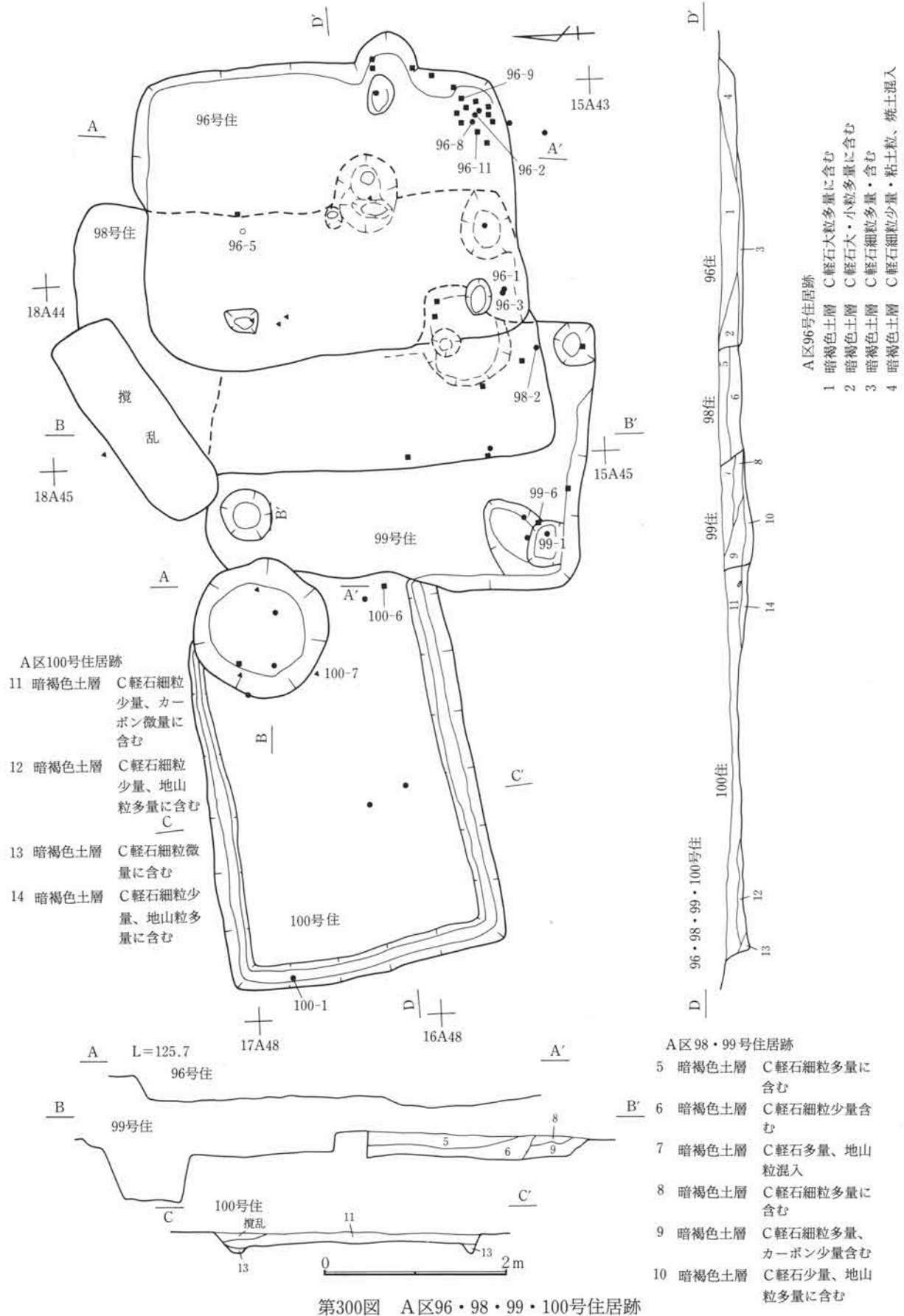
A区99号住居跡（第300・304・308図、第20・120図版）

A区西部に位置し15～17A44・45の範囲にある。95号住居跡の南にある。他の遺構との関係は西北部で69号住居跡・100号住居跡・46号土坑、東半部で96号住居跡・98号住居跡、南東部で68号住居跡と重複している。新旧関係は100号住居跡より新しく、68号住居跡・69号住居跡・96号住居跡・98号住居跡より古い。規模は長辺4.2m、短辺2.95mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-94°-Eである。壁高は約40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・柱穴等の諸施設は検出されていない。南東、南西隅に小穴が検出された。各々1～3とした。1は貯蔵穴と考えられる。各々の規模は1、径約50cm、西北部で、深さ約10cm、2、90cm×70cm、深さ約10cm、3、50cm×35cm、深さ約35cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅1m、同長70cmを測る。

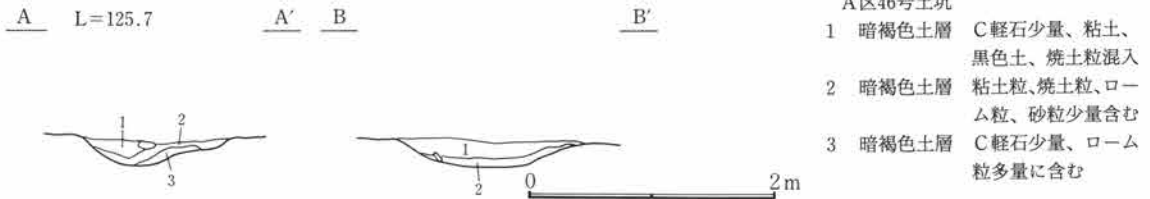
A区100号住居跡（第300・301・309図、第21・120図版）

A区西部に位置し15～17A45～47の範囲にある。96号住居跡の西にある。他の遺構との関係は東部で99号住居跡、北東部で69号住居跡・46号土坑、西部で89号住居跡、西北部で116号住居跡と重複している。新旧関係は69号住居跡・116号住居跡より新しく、89号住居跡・99号住居跡・46号土坑より古い。このため東壁は99号住居跡により壊されている。規模は南壁残存長で約4m、西壁で約3mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約15cm～20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、南・北・西壁に沿って周溝が認められる。規模は径約15cm、深さ約5cm～10cmを測る。貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は検出されていない。

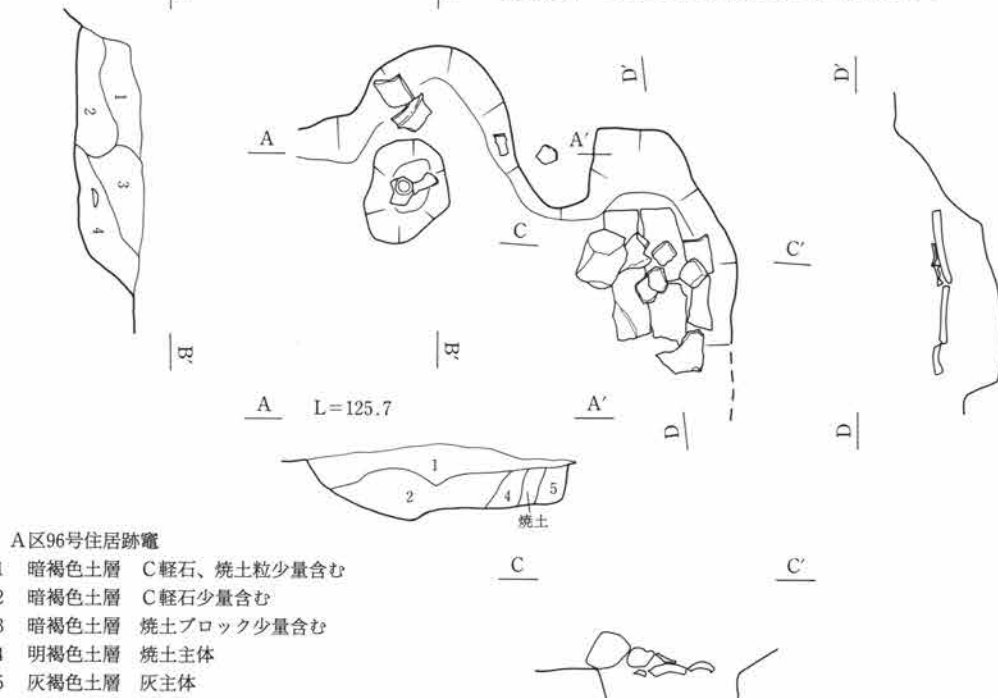
第1節 竪穴住居跡



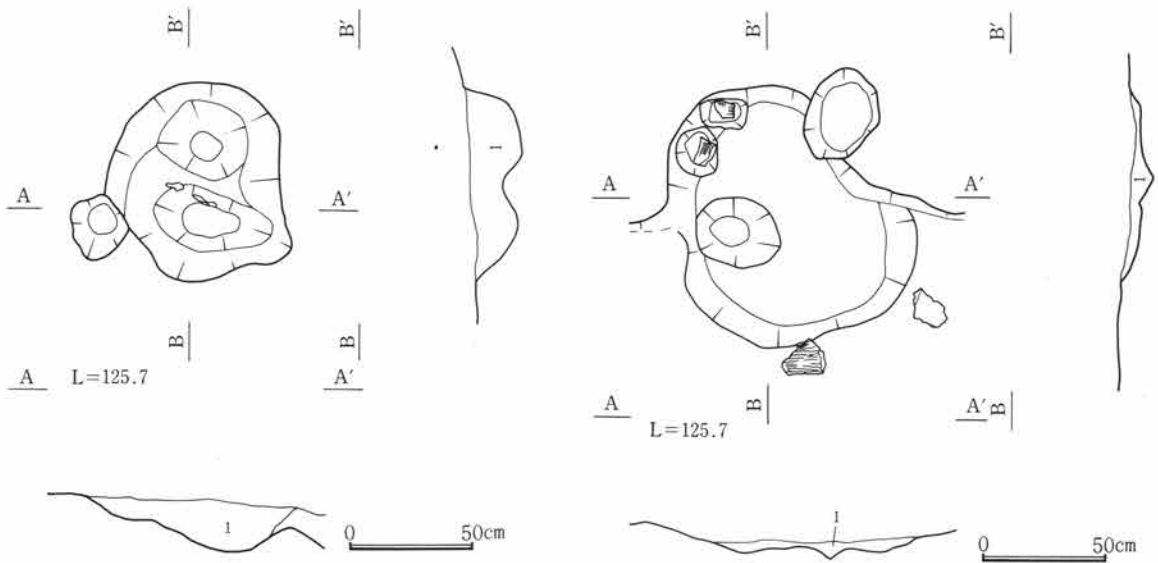
第4章 検出された遺構・遺物



第301図 A区100号住居跡内土坑断面図



第302図 A区96号住居跡竈・貯蔵穴

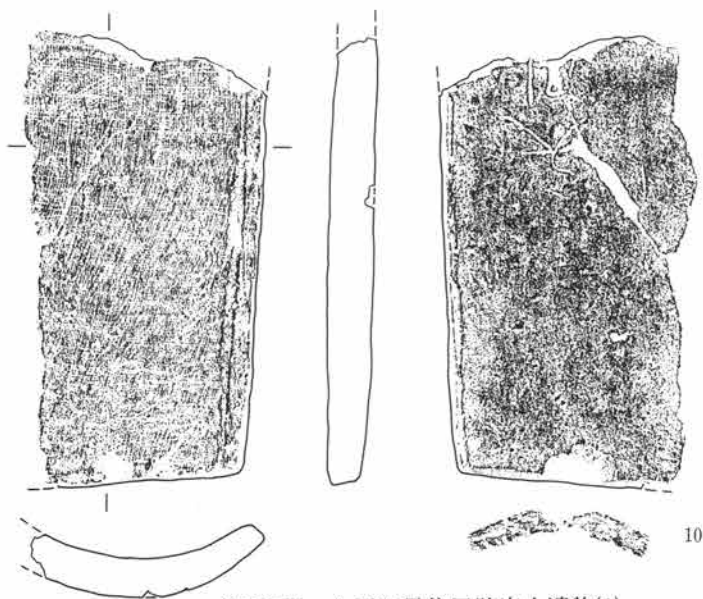
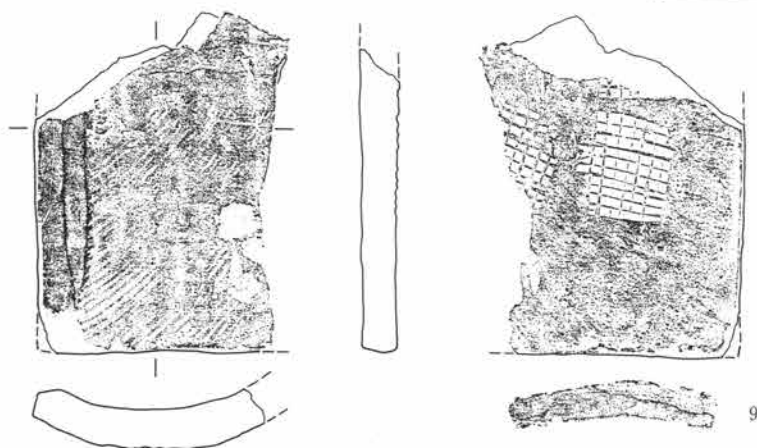
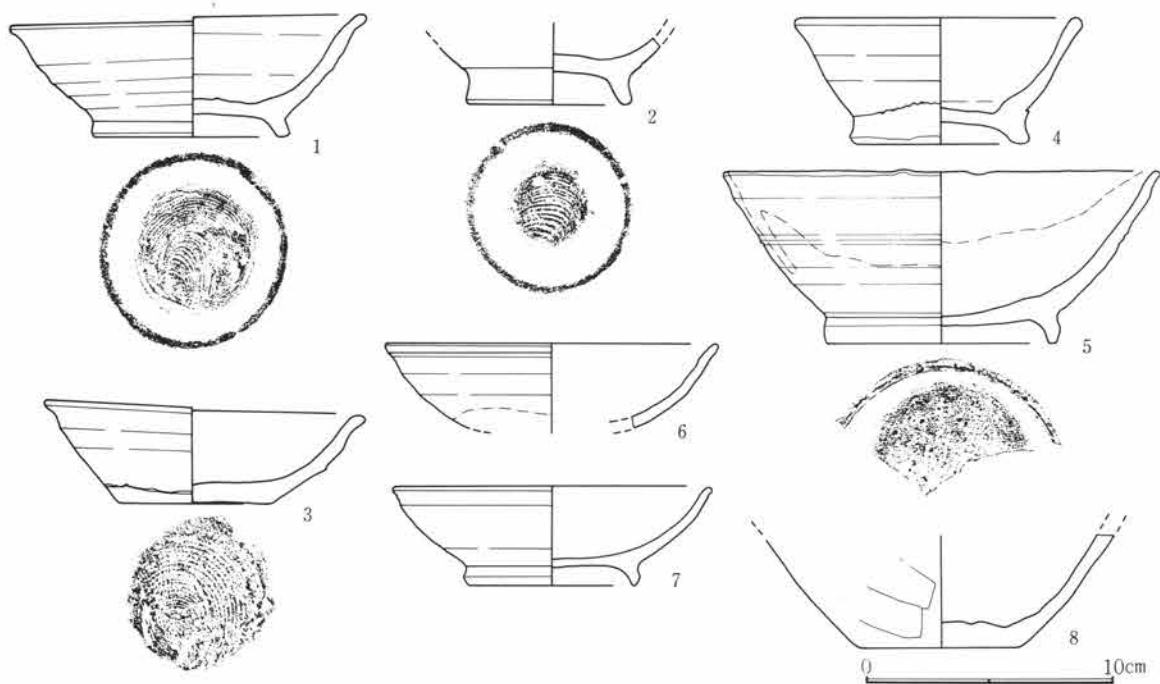


A区98号住居跡竈
1 暗褐色土層 C 軽石、焼土粒少量、粘質土ブロック多量に含む

第303図 A区98号住居跡竈

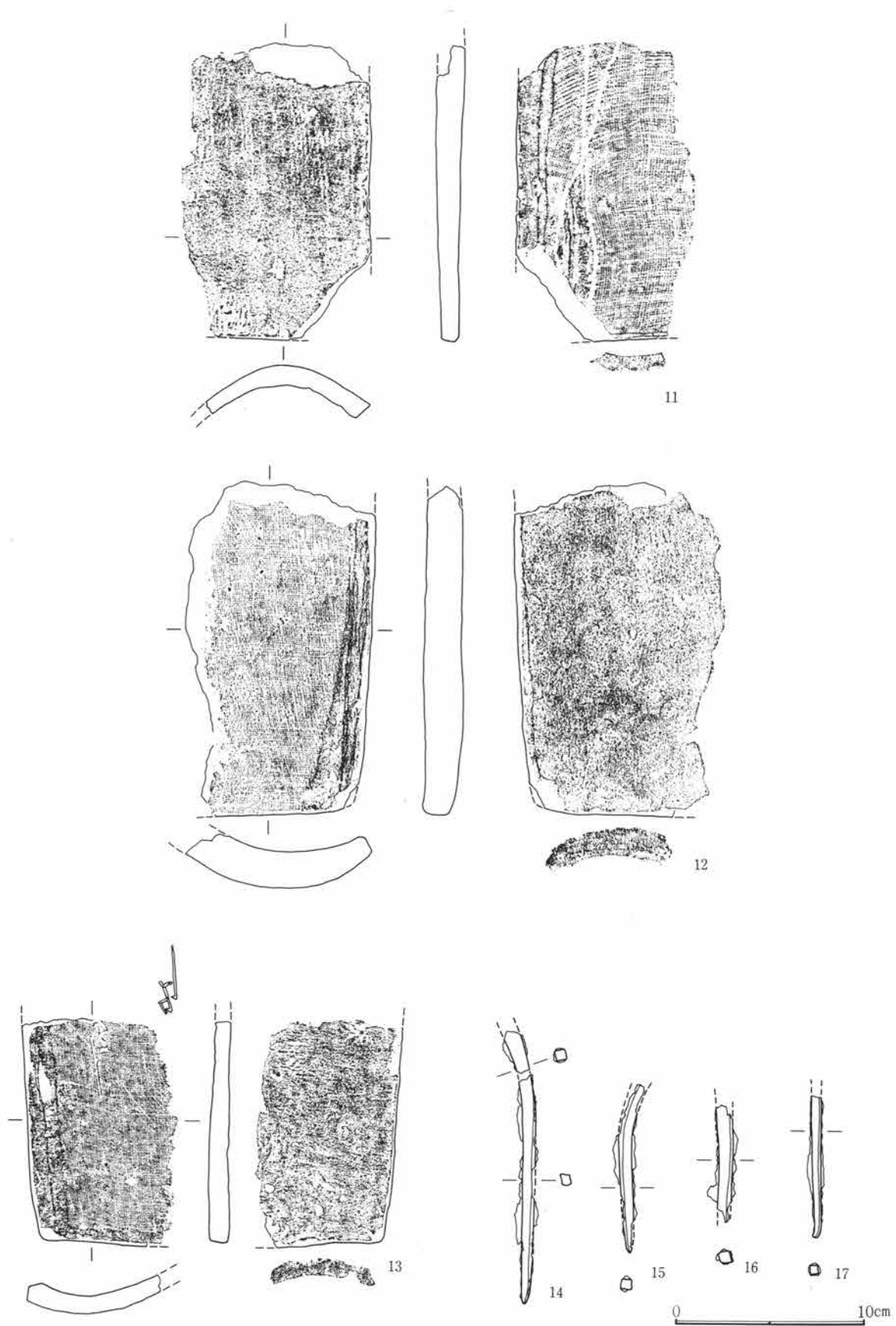
A区99号住居跡竈
1 暗褐色土層 焼土粒、ローム粒少量含む

第304図 A区99号住居跡竈

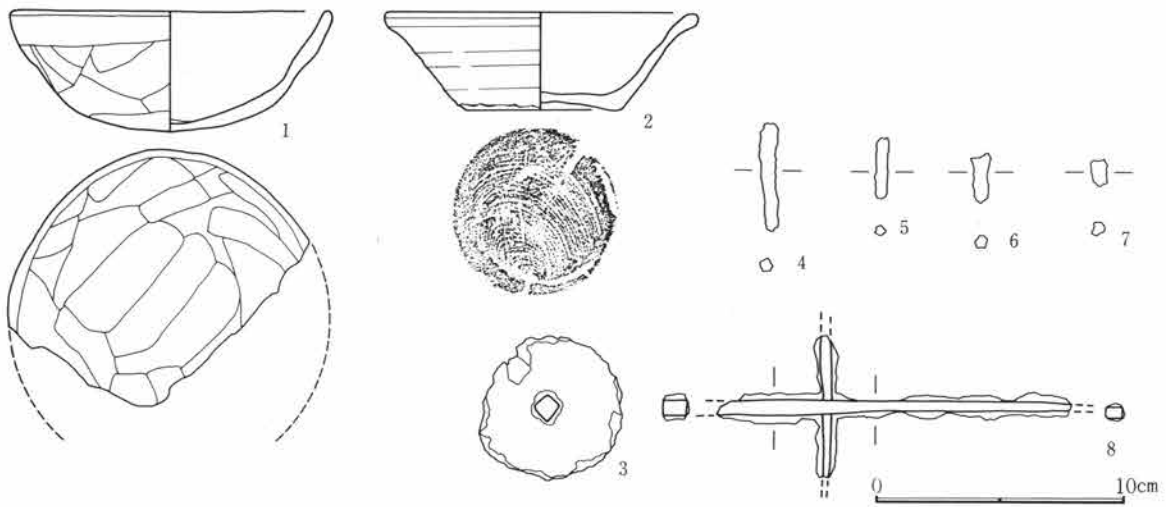


天
川

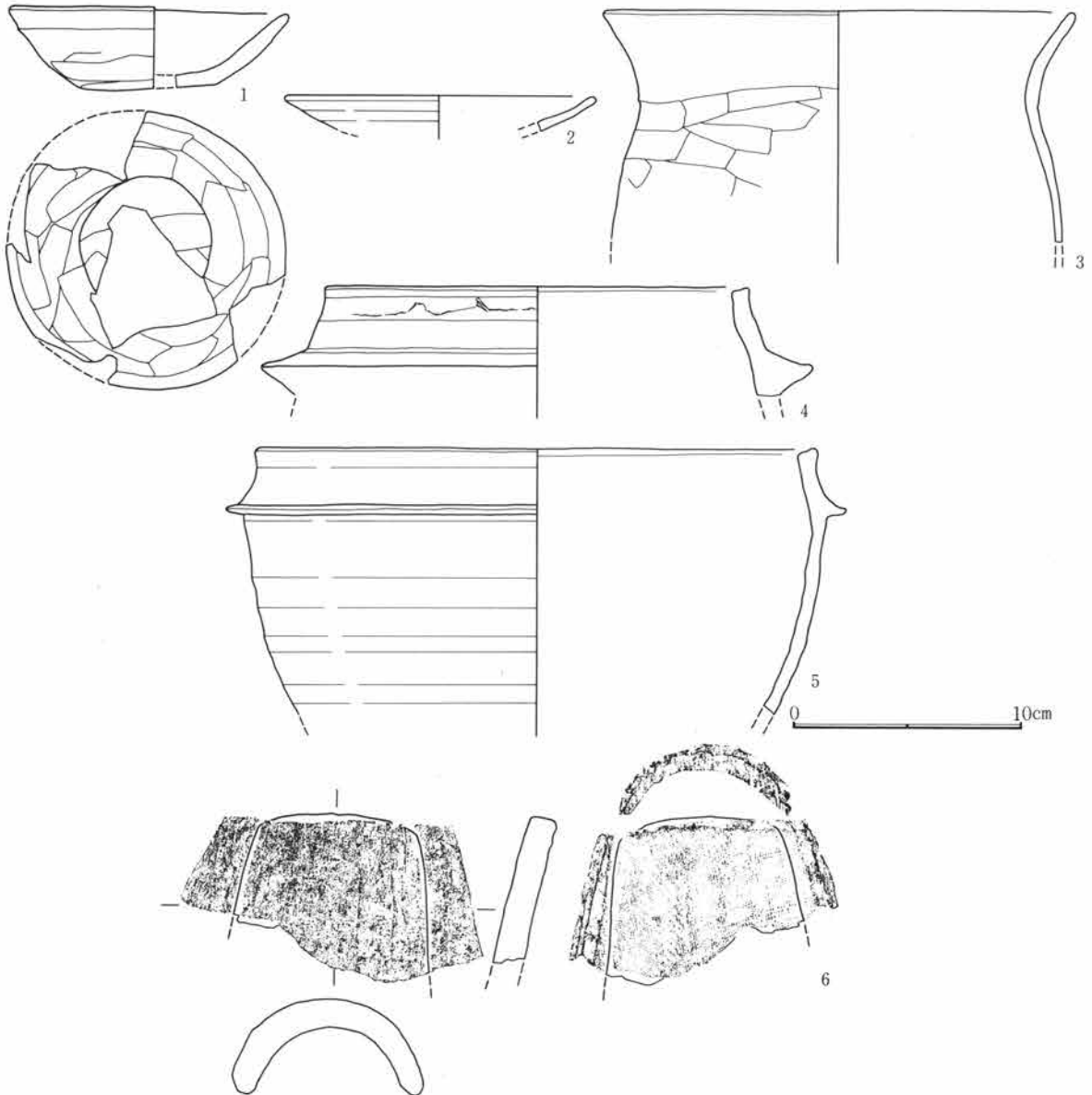
第305図 A区96号住居跡出土遺物(1)



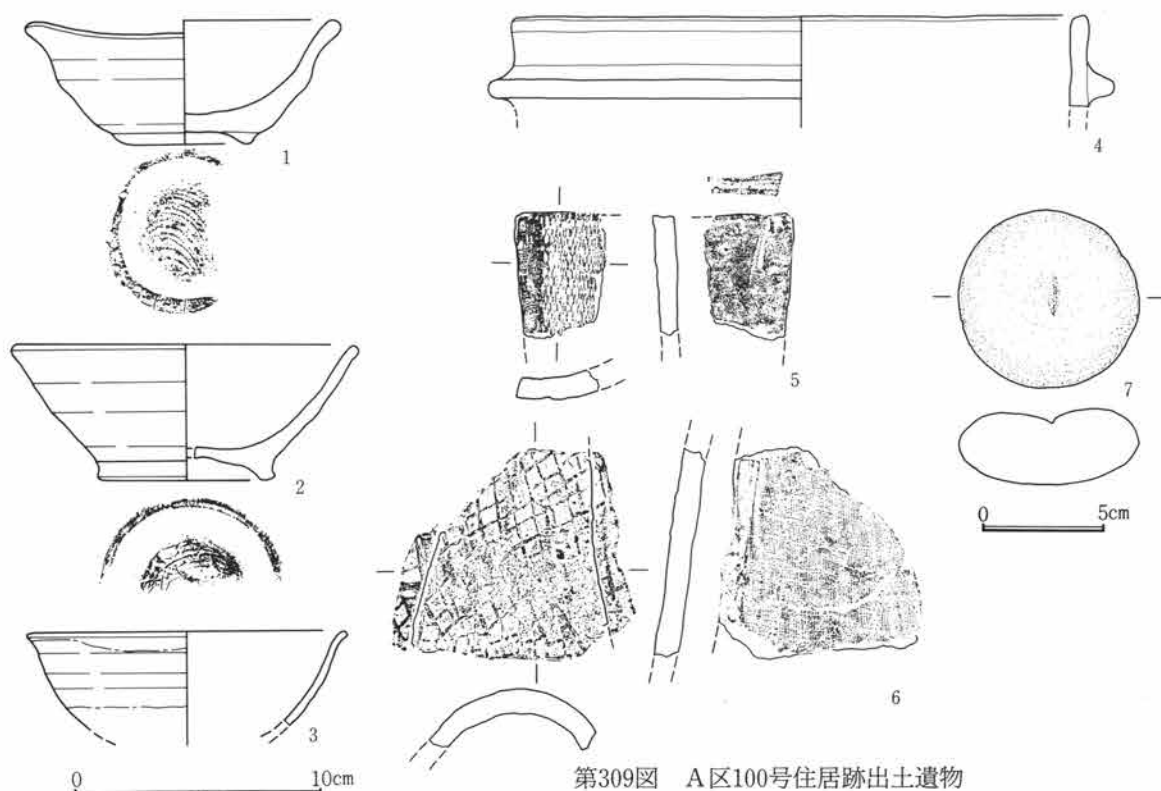
第306図 A区96号住居跡出土遺物(2)



第307図 A区98号住居跡出土遺物



第308図 A区99号住居跡出土遺物



第309図 A区100号住居跡出土遺物

A区97号住居跡 (第310・311・313・314図、第20・21・120・121図版)

A区中央部に位置し15～17A 40～42の範囲にある。71号住居跡の南にある。他の遺構との関係は134号住居跡・150号住居跡・151号住居跡・167号住居跡・171号住居跡と重複している。新旧関係は97号住居跡は134号住居跡・150号住居跡・151号住居跡・167号住居跡・171号住居跡より新しい。規模は長辺3.65m、短辺3.5mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-85°-Eである。壁周溝約40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。両袖部は幅約30cm～40cmで南袖は約20cm、北袖は約50cm床面に延びている。規模は袖幅1m、燃烧部長50cmを測る。

掘り方 竈掘り方面両袖下部から小穴が検出され、石が立った状態で認められた。袖材と考えられる。

A区150号住居跡 (第310・312・315図、PL. 32・121)

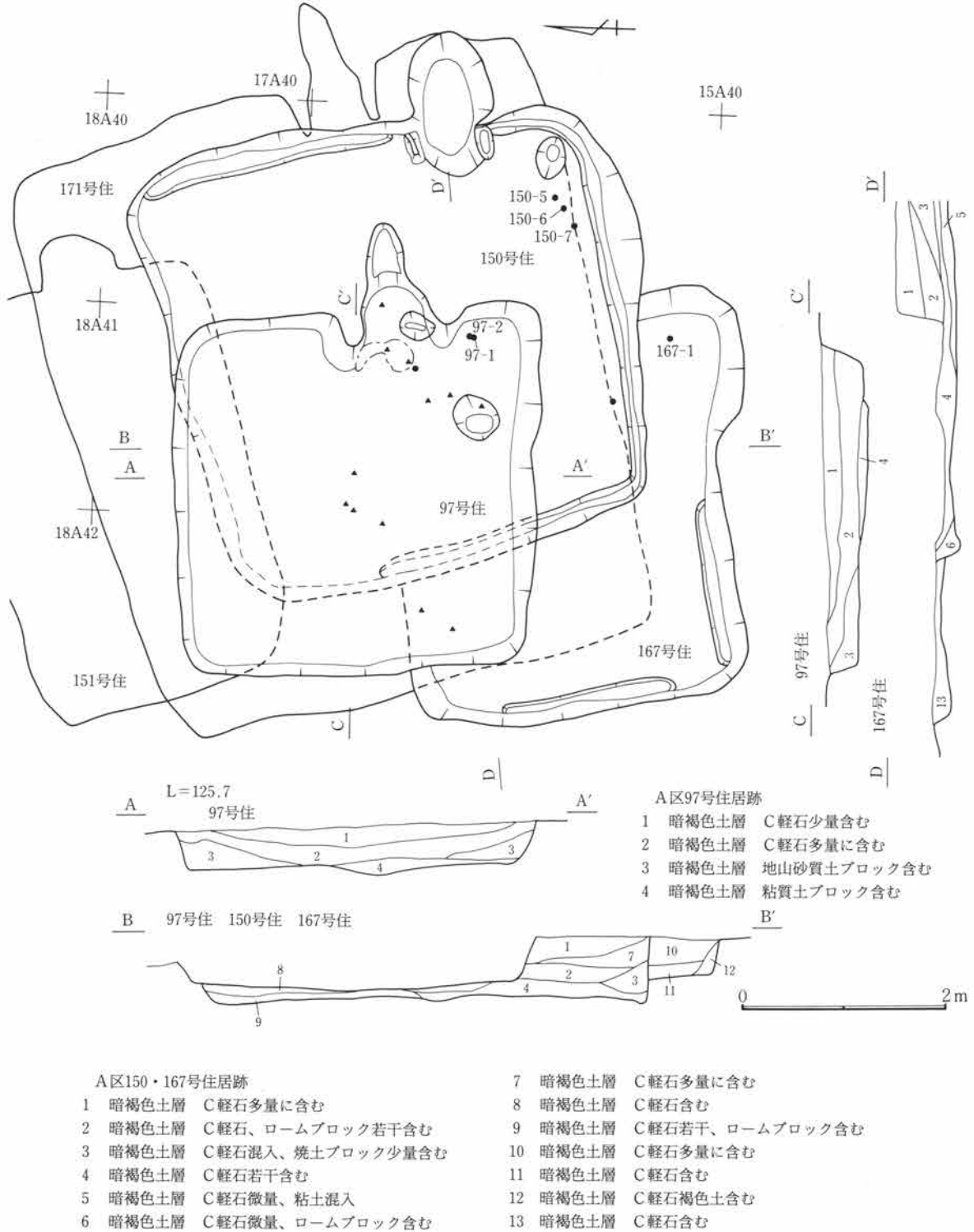
A区中央部に位置し15～17A 39～42の範囲にある。71号住居跡の南にある。他の遺構との関係は97号住居跡・104号住居跡・151号住居跡・167号住居跡・171号住居跡と重複している。新旧関係は97号住居跡・104号住居跡より旧く、151号住居跡・167号住居跡・171号住居跡より新しい。規模は長辺5m、短辺4.5mを測る。壁高は約10cm～20cmを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-82°-Eである。床面はほぼ平坦をなし、北壁を除く3壁に周溝が認められた。規模は幅約15cm～20cm、深さ約2cm～8cmを測る。南東隅に貯蔵穴と考えられる小穴が検出された。また床面上に小穴が検出され、各々1～3とした。各々の規模は1、40cm×30cm、深さ約15cm、2、35cm×25cm、深さ約10cm、3、45cm×40cm、深さ約50cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。規模は袖幅70cm、燃烧部長1.1mを測る。掘り方は竈両袖部には石が立った状態で検出され、石の下には石を固定したと考えられる小穴が各々認められた。

A区167号住居跡 (第310・316図、第33・122図版)

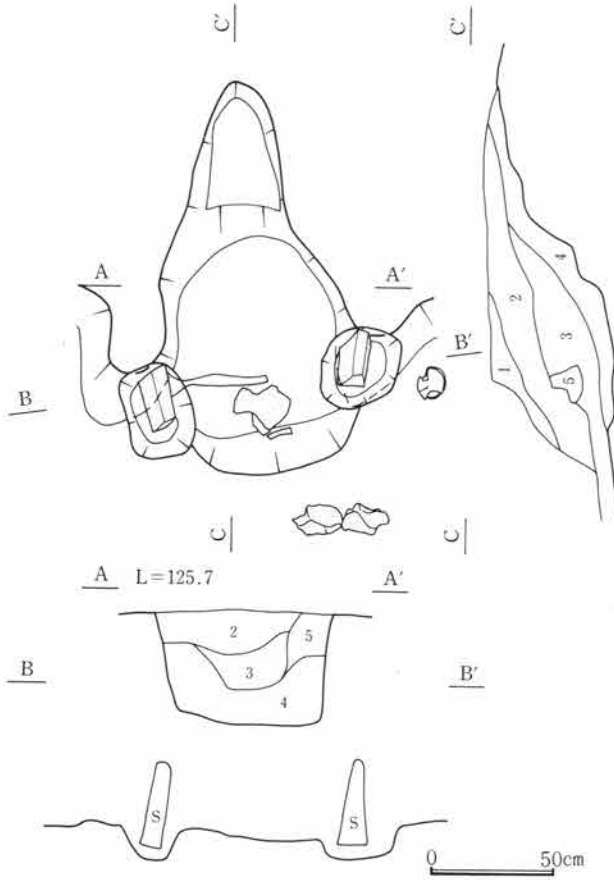
A区中央部に位置し14～16A 40～42の範囲にある。71号住居跡の南にある。他の遺構との関係は150号住居跡・97号住居跡・171号住居跡、西北部で96号住居跡と重複している。新旧関係は171号住居跡より新しく、

第1節 竪穴住居跡

96号住居跡・97号住居跡・150号住居跡より古い。北東部は重複する97号住居跡・150号住居跡に壊されている。規模は南壁で約4m、西壁で約3.4mを測る。壁高は約20cm～30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、西・南壁に周溝が検出された。規模は幅約15cm、深さ約5cm～10cmを測る。貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は97号住居跡・150号住居跡に壊されており、検出されていない。



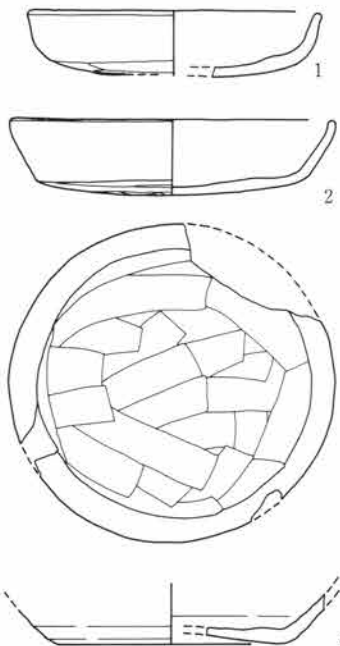
第310図 A区97・150・167号住居跡



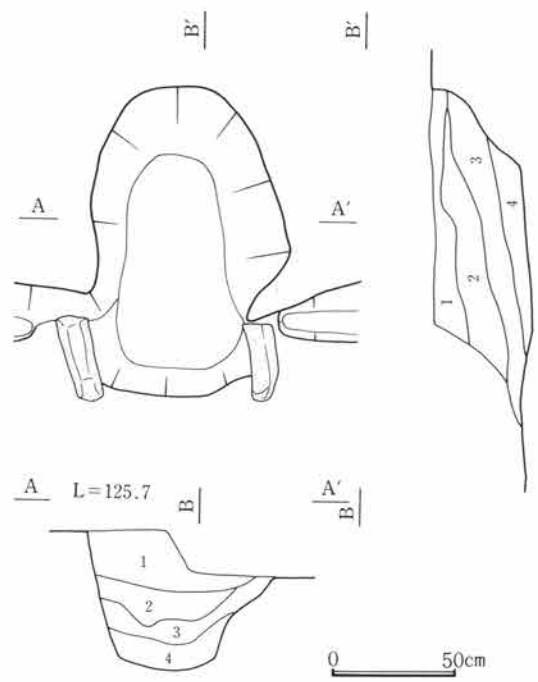
A区97号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石、粘土粒、ブロック少量含む
- 3 暗褐色土層 C軽石細粒多量に含む
- 4 赤褐色土層 灰、焼土ブロック多量に含む
- 5 暗褐色土層 C軽石少量、粘質土ブロック多量に含む

第311図 A区97号住居跡竈



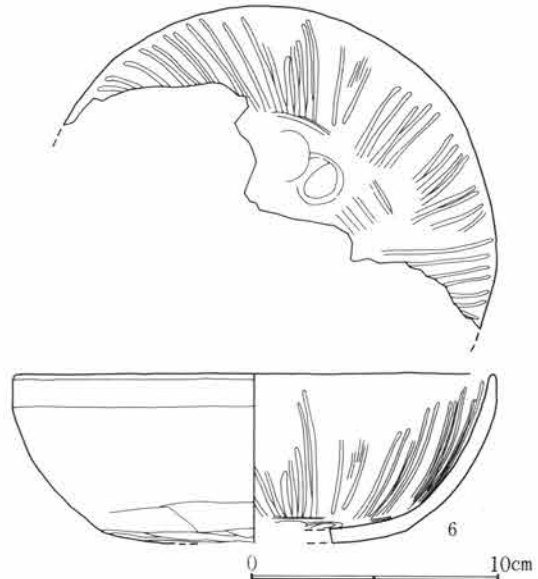
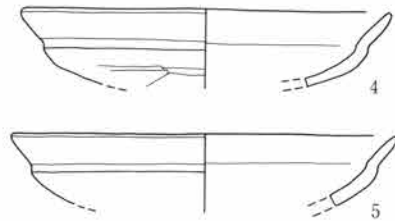
第313図 A区97号住居跡出土遺物(1)

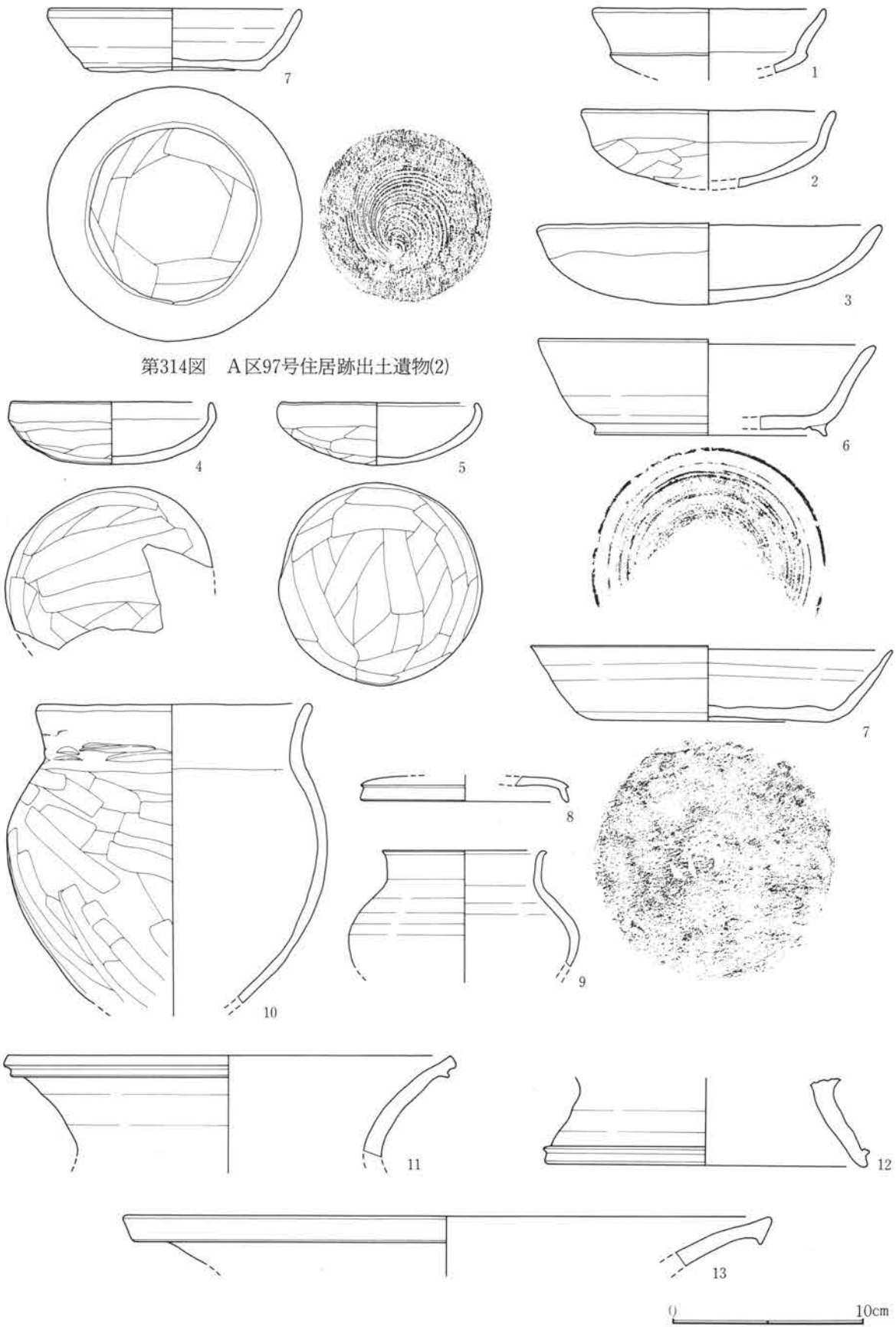


A区150号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石、焼土ブロック多量に含む
- 3 暗褐色土層 焼土ブロック多量に含む
- 4 灰褐色土層 灰多量に含む

第312図 A区150号住居跡竈

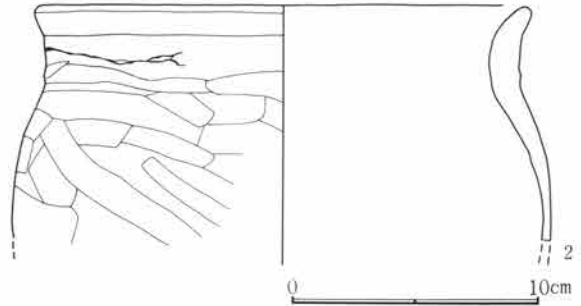
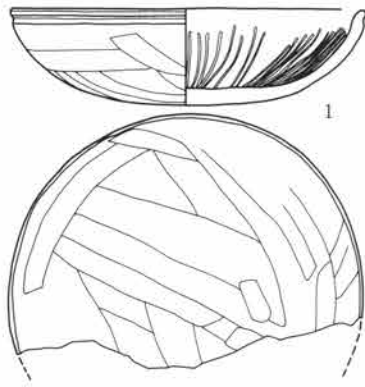




第314図 A区97号住居跡出土遺物(2)

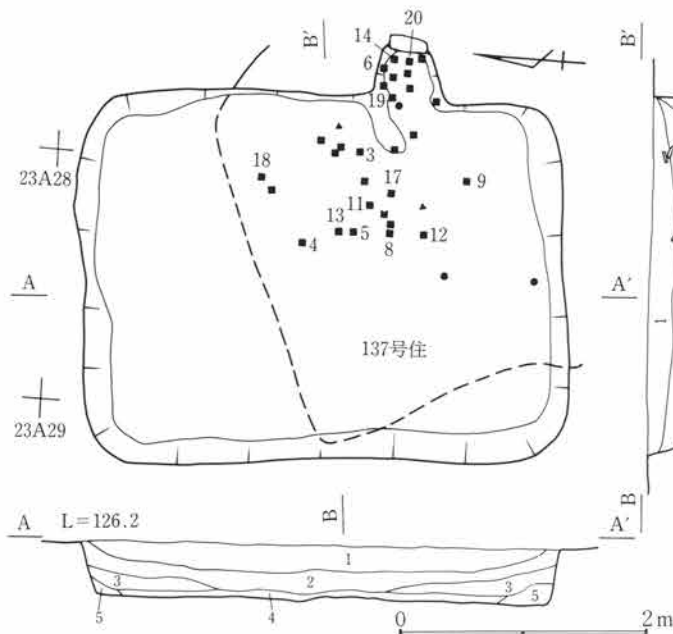
第315図 A区150号住居跡出土遺物

第4章 検出された遺構・遺物



第316図 A区167号住居跡出土遺物

A区102号住居跡 (第317・318・319・320・321・322・323・324・325・326図、第21・121・122・123・124・125・126・127図版)

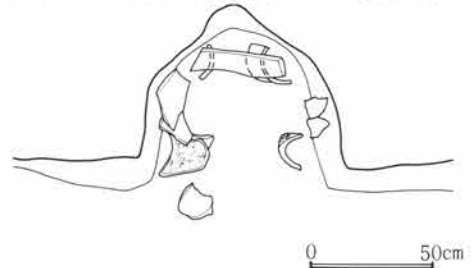
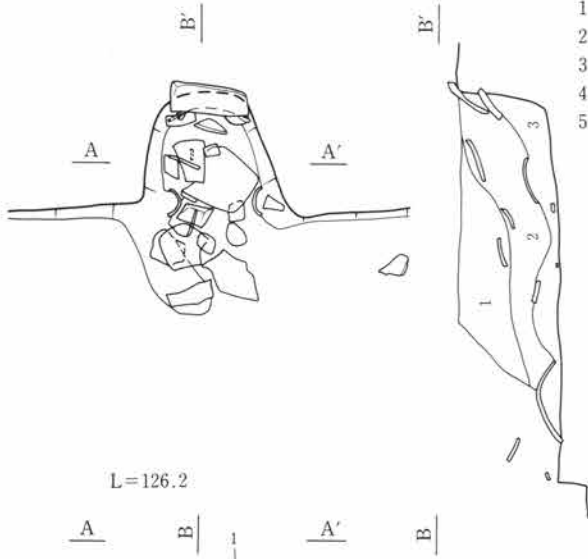


A区北東部に位置し20～22A27～29の範囲にある。29号住居跡の西にある。他の遺構との関係は南東部で137号住居跡と重複している。新旧関係は102号住居跡が新しい。規模は長辺4.05m、短辺3mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-89°-Eである。壁高は約50cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、南東隅に貯蔵穴状の小穴が検出された。規模は40cm×30cm、深さ約6cmを測る。壁周溝・柱穴等の諸施設は検出されていない。

第317図 A区102号住居跡

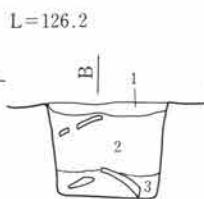
A区102号住居跡

- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石大粒多量に含む
- 3 暗褐色土層 C軽石多量、地山茶褐色粘質土小ブロック少量含む
- 4 暗褐色土層 C軽石少量含む、粘性強い
- 5 暗褐色土層 C軽石少量、地山茶褐色粘質土ブロック多量に含む



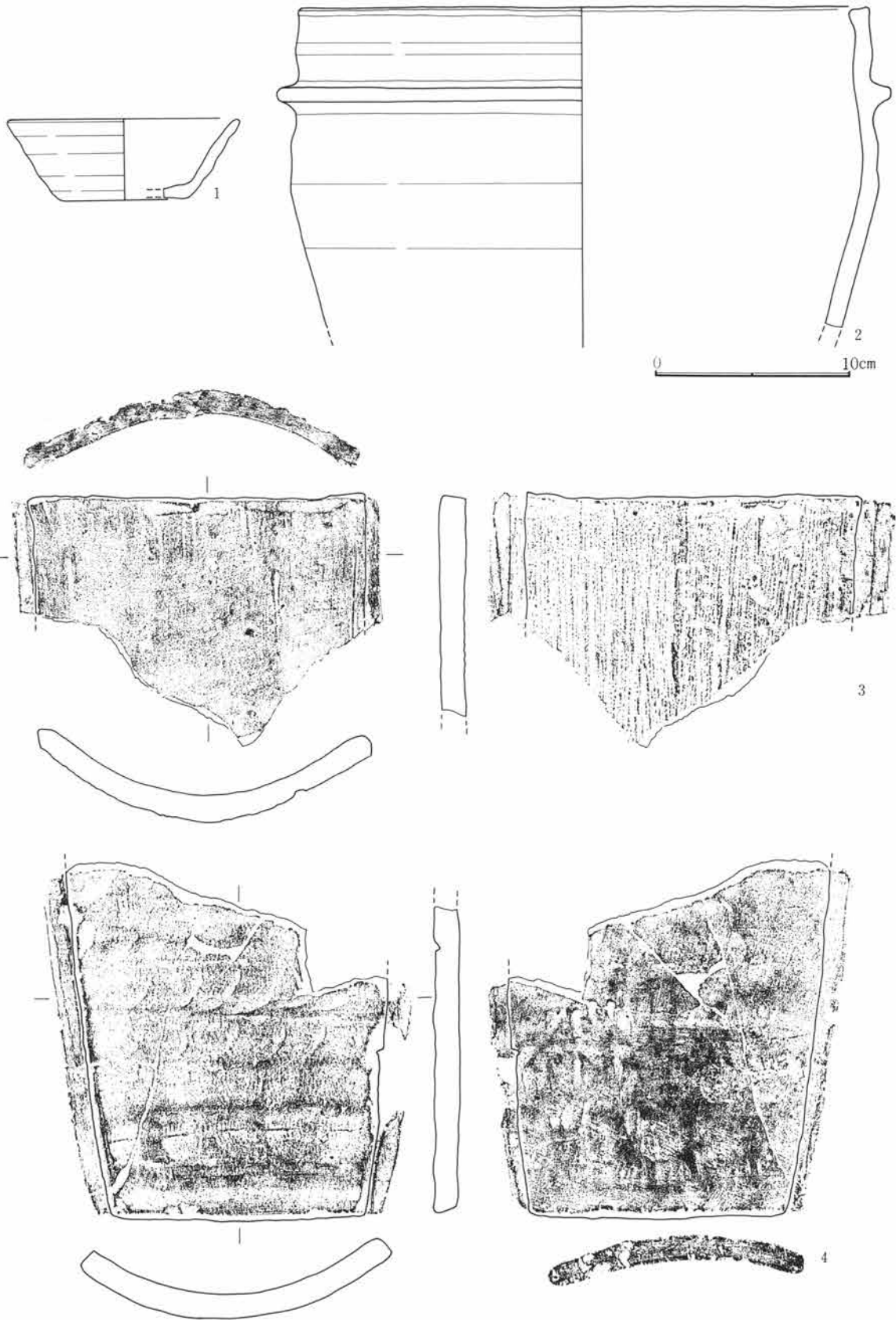
A区102号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石多量、粘土ブロック少量含む
- 3 暗褐色土層 C軽石、焼土粒少量含む

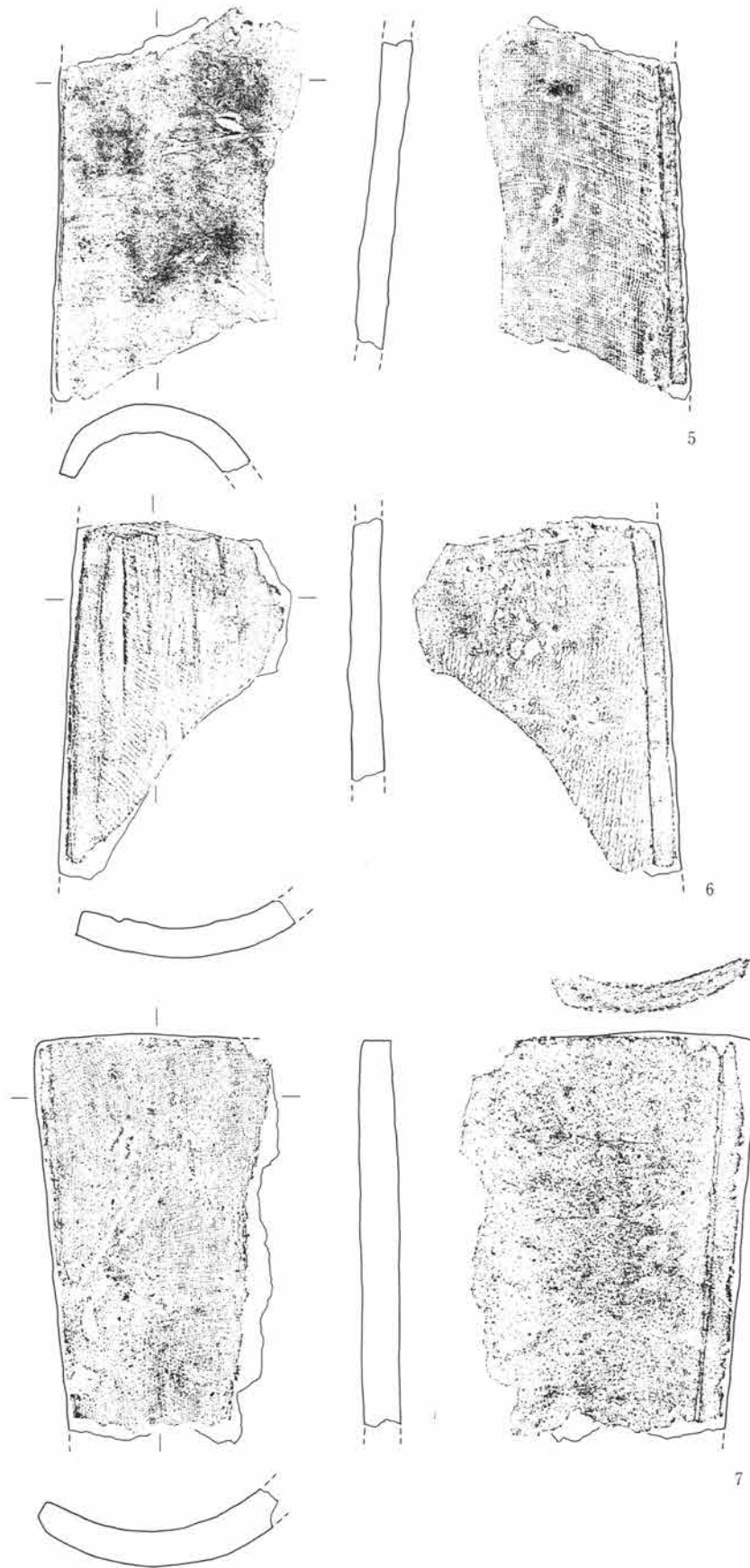


第318図 A区102号住居跡竈

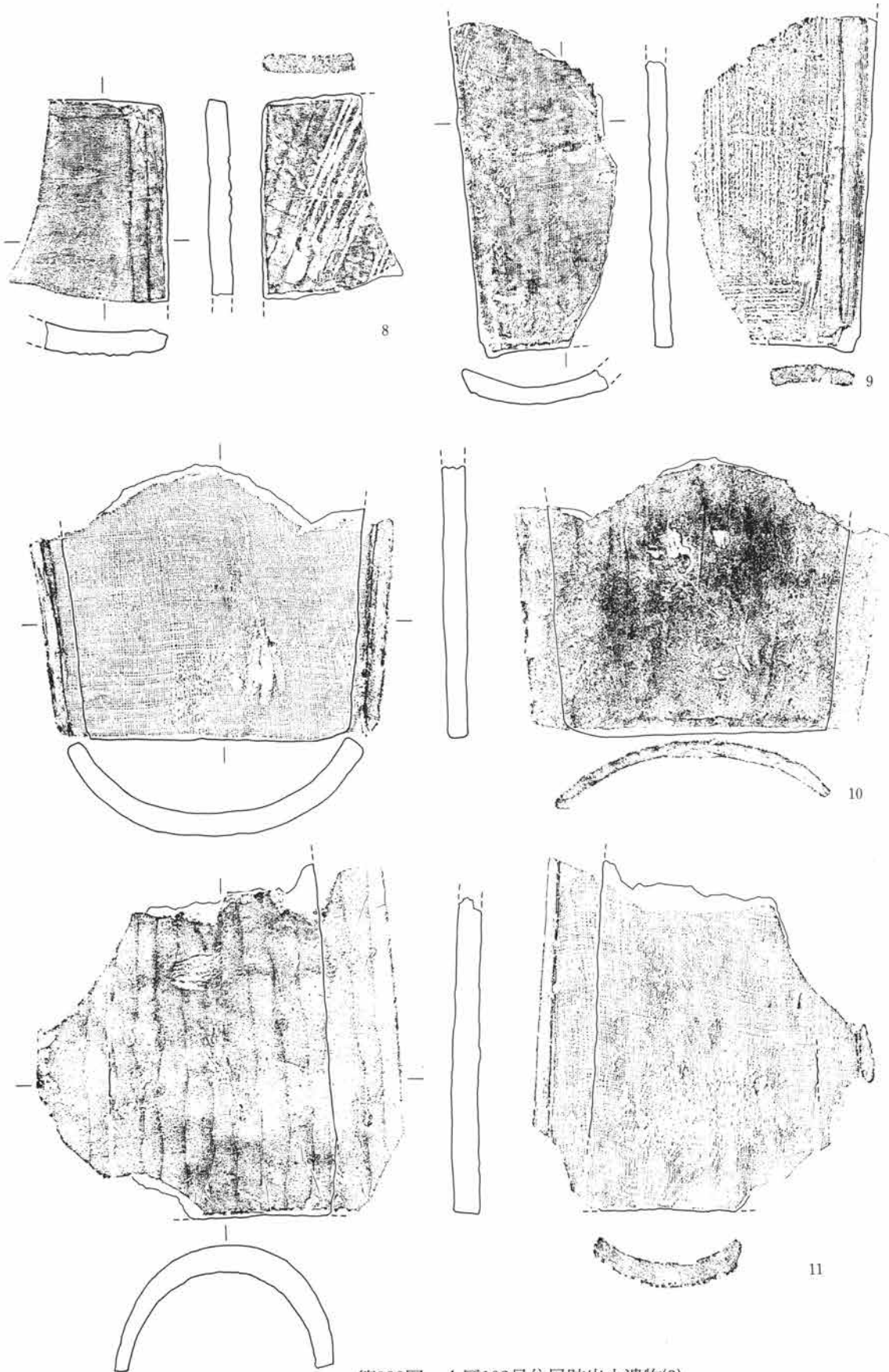
第319図 A区102号住居跡竈掘り方



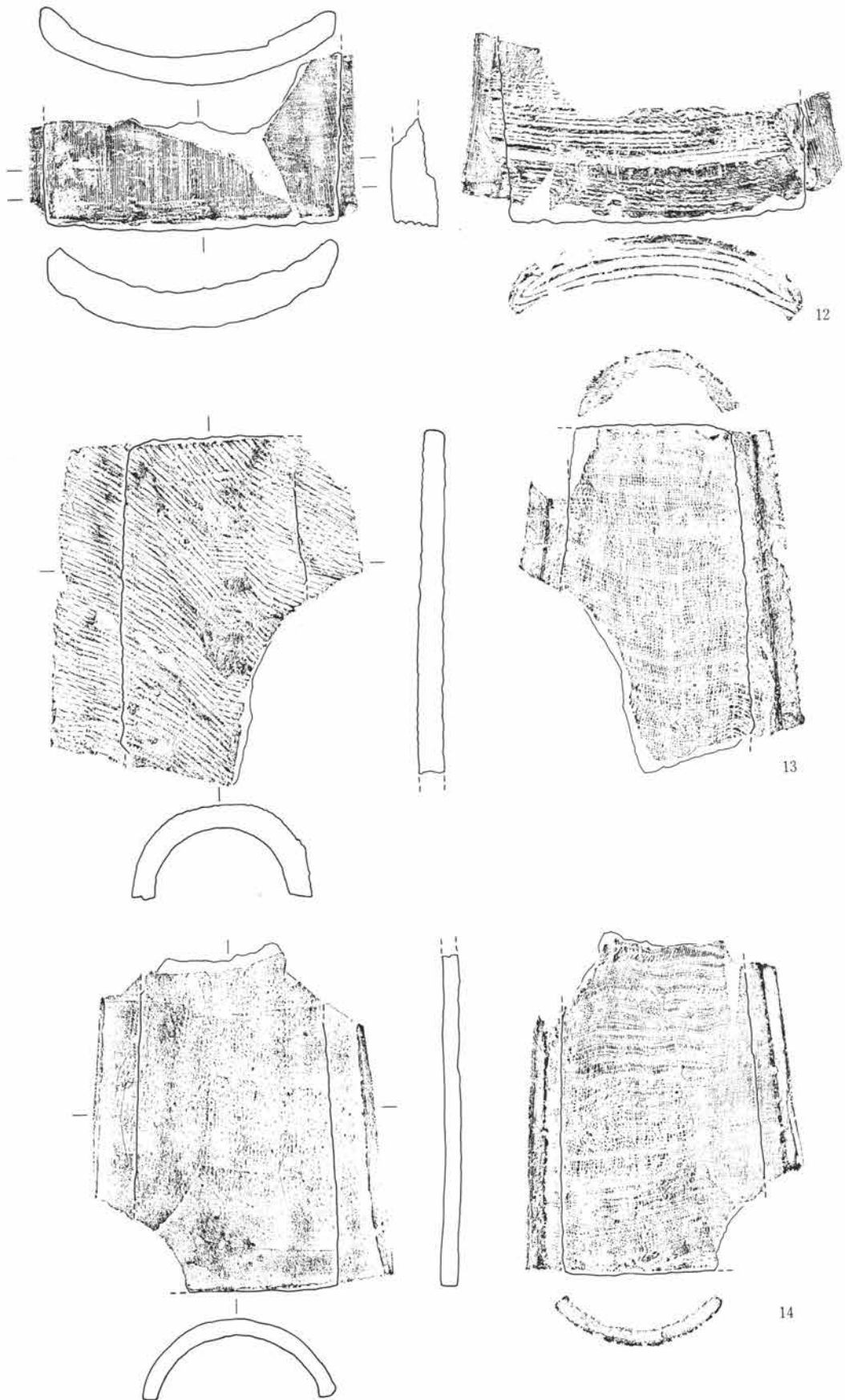
第320図 A区102号住居跡出土遺物(1)



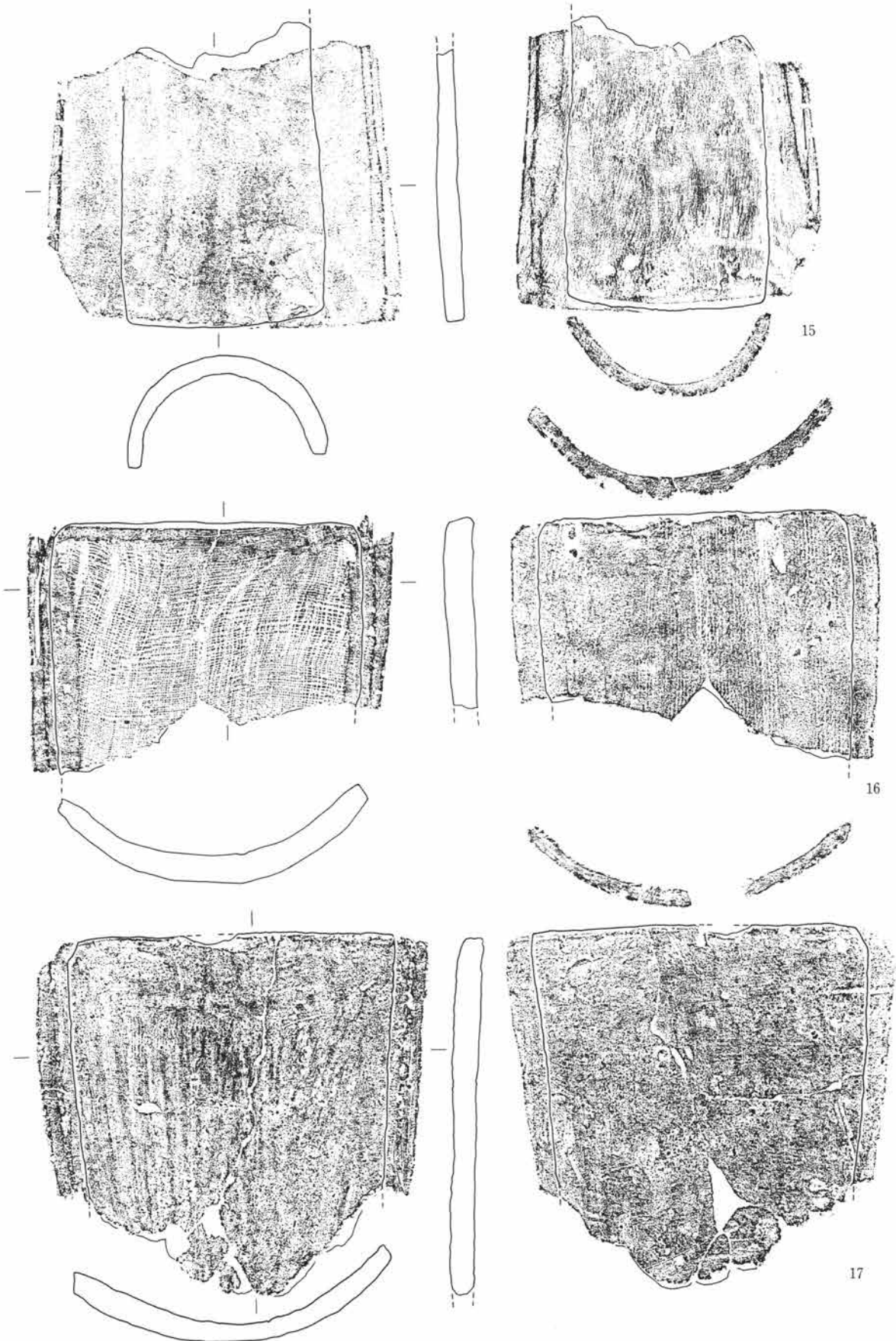
第321図 A区102号住居跡出土遺物(2)



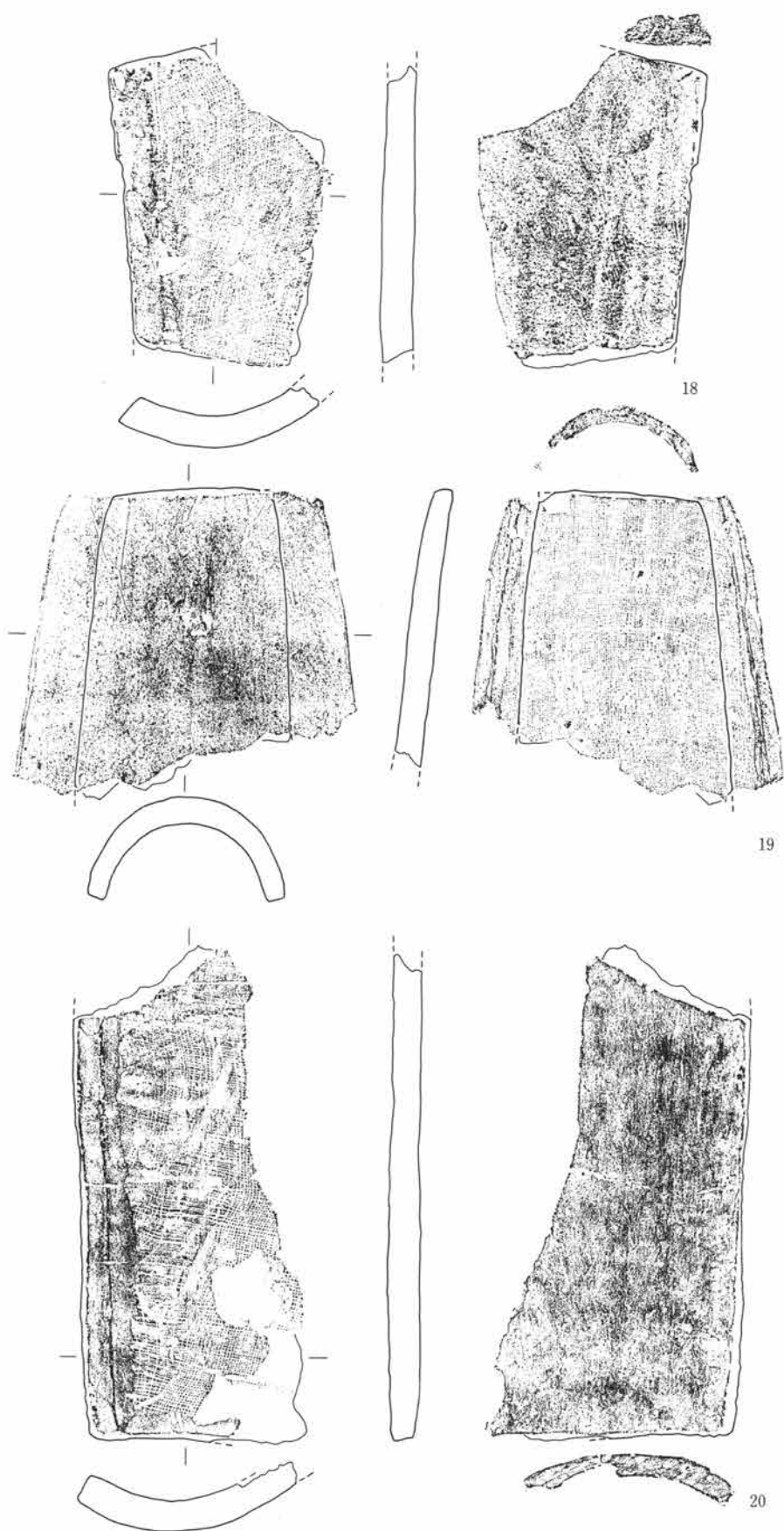
第322図 A区102号住居跡出土遺物(3)



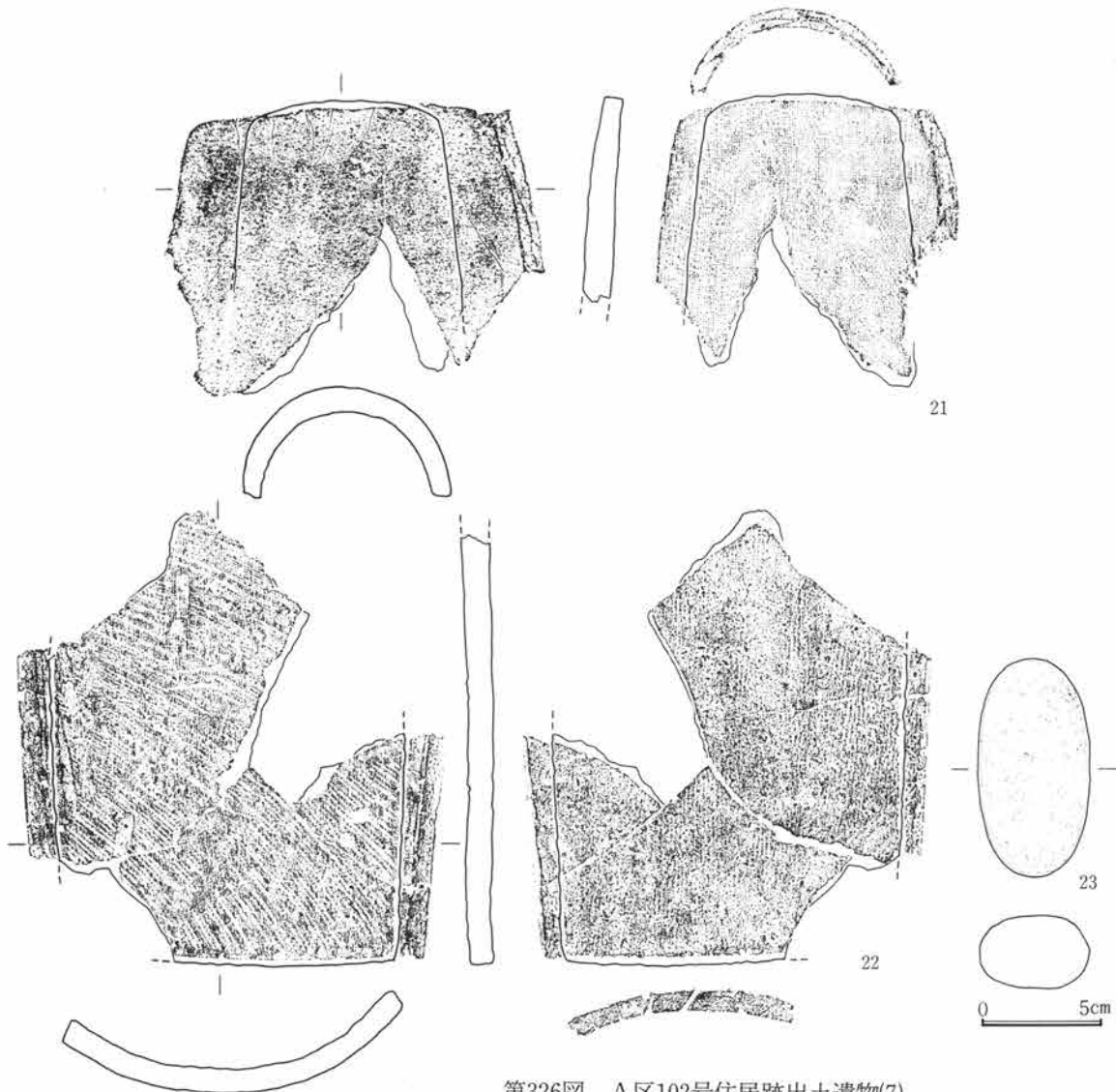
第323図 A区102号住居跡出土遺物(4)



第324図 A区102号住居跡出土遺物(5)



第325図 A区102号住居跡出土遺物(6)



第326図 A区102号住居跡出土遺物(7)

A区104号住居跡 (第327・328・330・331・332図、第22・125・126・127・128図版)

A区中央部に位置し14～16A 38～40の範囲にある。168号住居跡の南にある。他の遺構との関係は西北部で150号住居跡・171号住居跡、南東部で130号住居跡、東部で172号住居跡と重複している。新旧関係は150号住居跡・130号住居跡・172号住居跡より新しい。規模は長辺3.9m、短辺3.35mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-87.5°-Eである。壁高は約20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・柱穴等の諸施設は検出されていない。南東隅に貯蔵穴と考えられる小穴が検出された。規模は70cm×60cm、深さ約15cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃烧部幅60cm、同長80cmを測る。

A区130号住居跡 (第327・329・333・334図、第29・128・129・130・172・173)

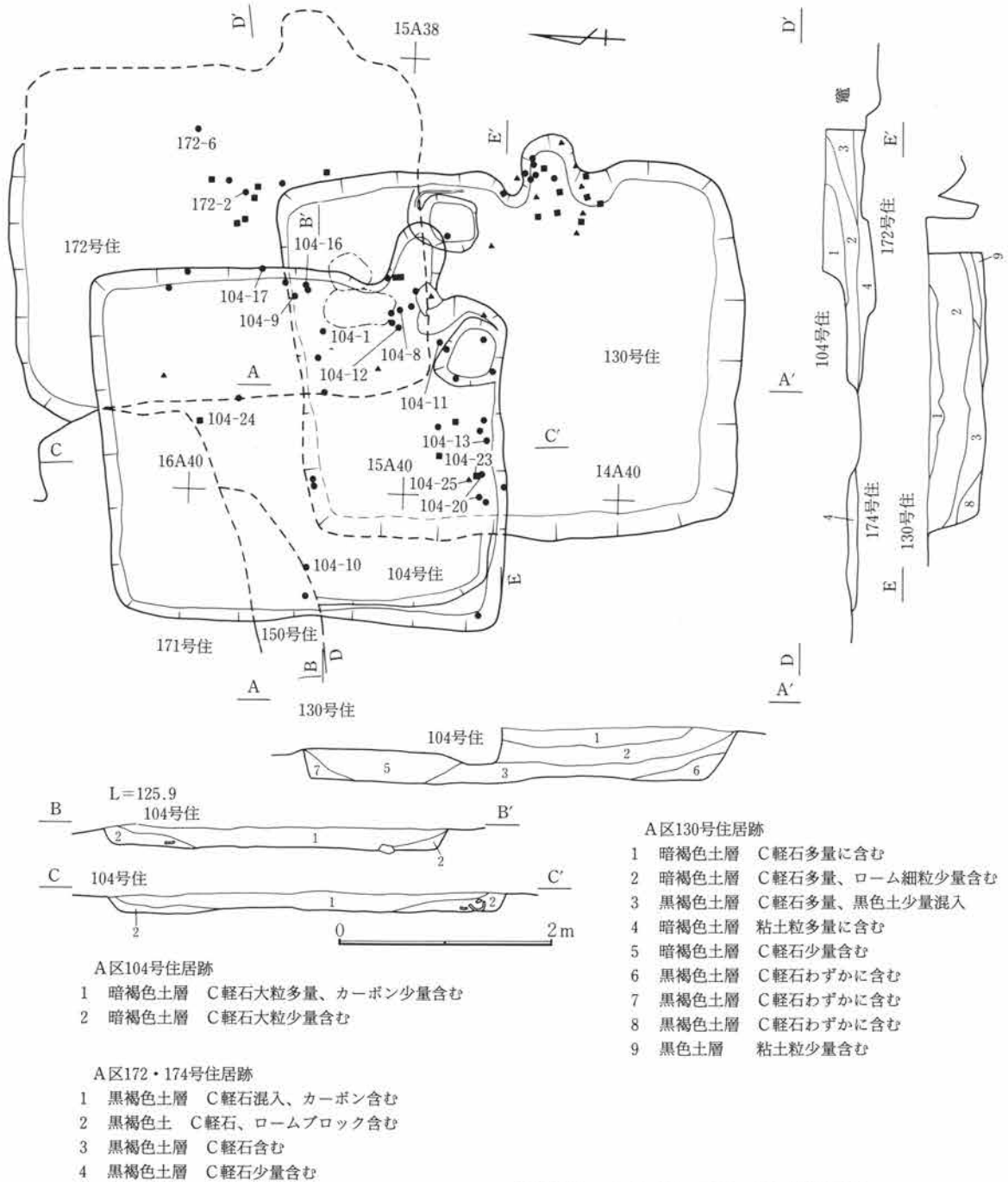
A区中央部に位置し13～15A 38～40の範囲にある。97号住居跡の南東にある。他の遺構との関係は西北部で104号住居跡、北東部で172号住居跡、東部で105号住居跡と重複している。新旧関係は172号住居跡より新しく、104号住居跡・105号住居跡より古い。規模は長辺4.3m、短辺3.4mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-86°-Eである。壁高は約40cm～50cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。東壁付近に小穴が検出された。規模は60cm×50cm、深さ約25cmを測る。

第4章 検出された遺構・遺物

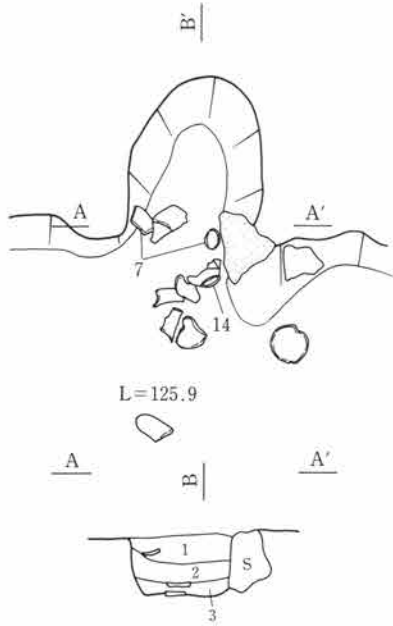
竈は東壁に検出された。竈燃焼部内から切り石が6～7個体検出された。石は燃焼部左右の壁に2個体ずつ立った状態で出土しており、さらに煙道部と燃焼部との境をするように天井石が認められる。竈の規模は袖幅70cm、燃焼部長60cmを測る。

A区172号住居跡 (第327・335図、第33・129・130・)

A区中央部に位置し14～16A37～39の範囲にある。168号住居跡の南にある。他の遺構との関係は東部で105号住居跡、南西部で130号住居跡、西部で104号住居跡と重複している。新旧関係は104号住居跡・105号住居跡・130号住居跡より古い。規模は不明であるが、推定長は長辺3.7m、短辺3.2mを測る。壁高は約30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は検出されていない。



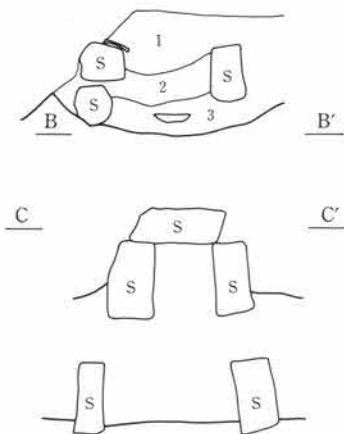
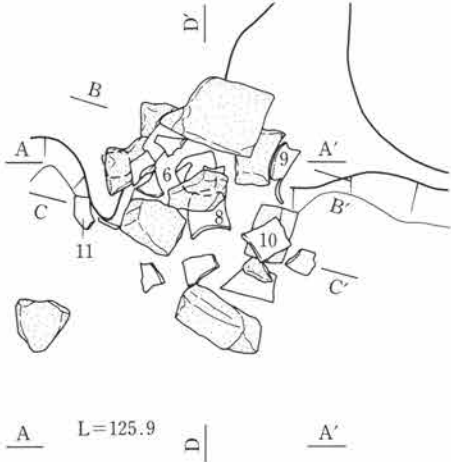
第327図 A区104・130・172号住居跡



A区104号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石多量、焼土粒少量含む
- 2 暗褐色土層 焼土多量に含む、粘土混入
- 3 暗褐色土層 灰多量に含む
- 4 暗褐色土層 C軽石若干含む

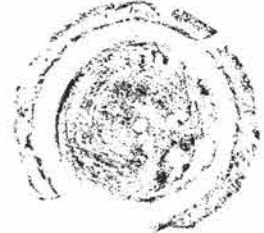
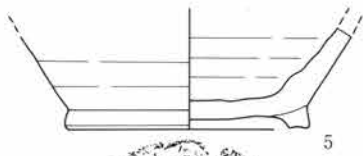
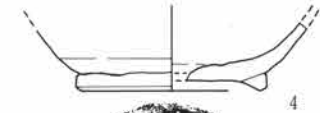
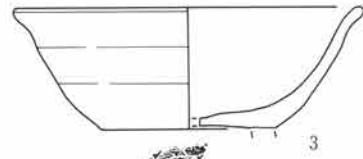
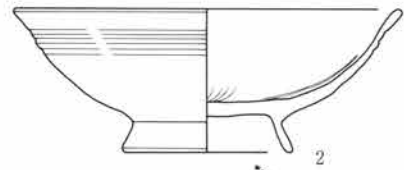
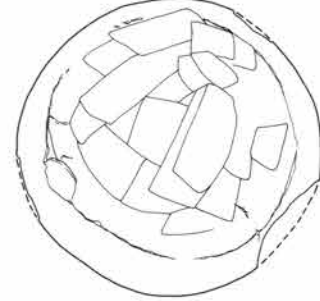
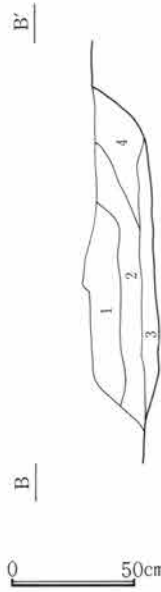
第328図 A区104号住居跡竈



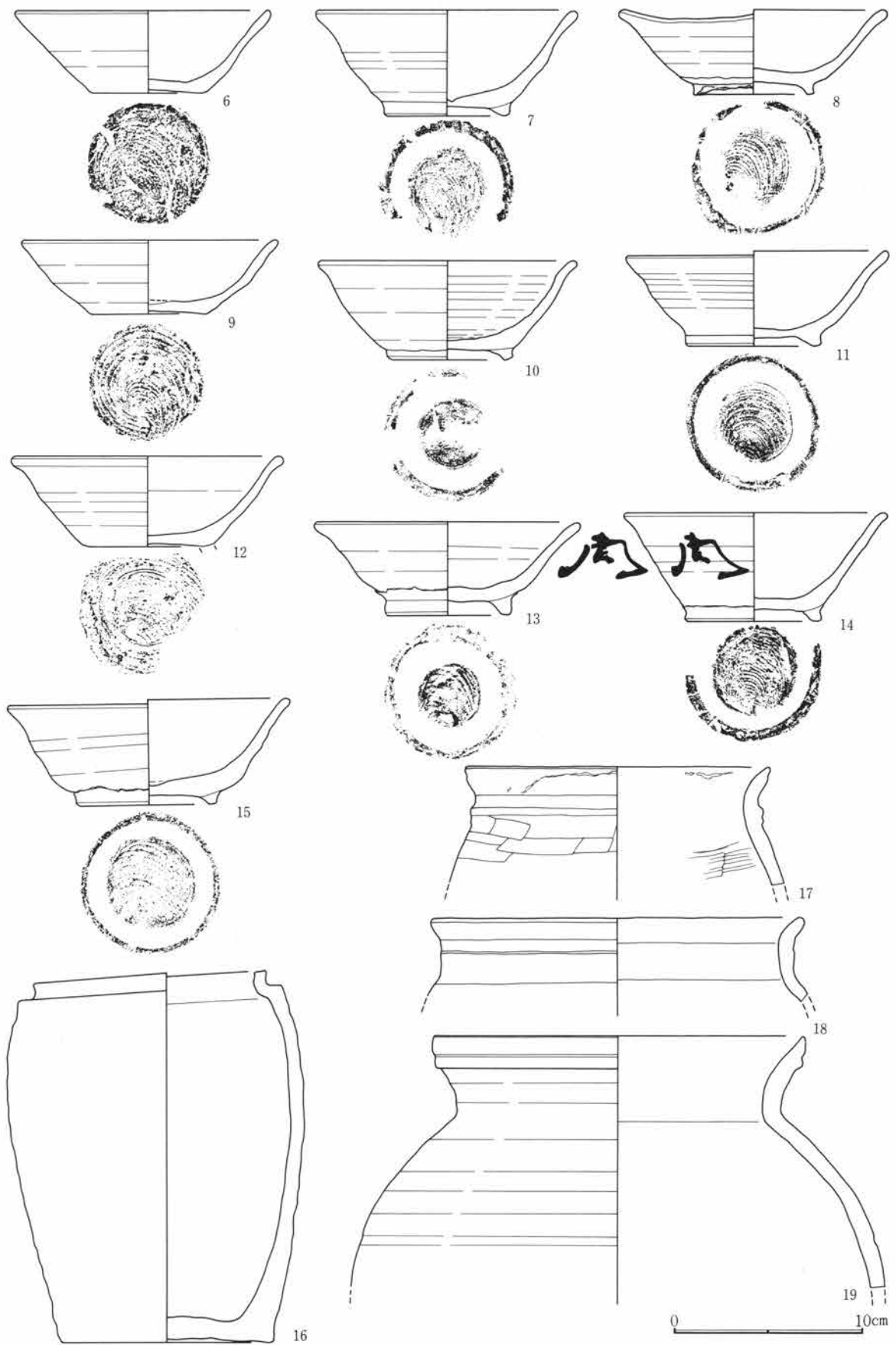
A区130号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石細粒少量含む
- 2 暗褐色土層 C軽石細粒、焼土粒少量含む
- 3 暗褐色土層 焼土細粒、灰多量に含む

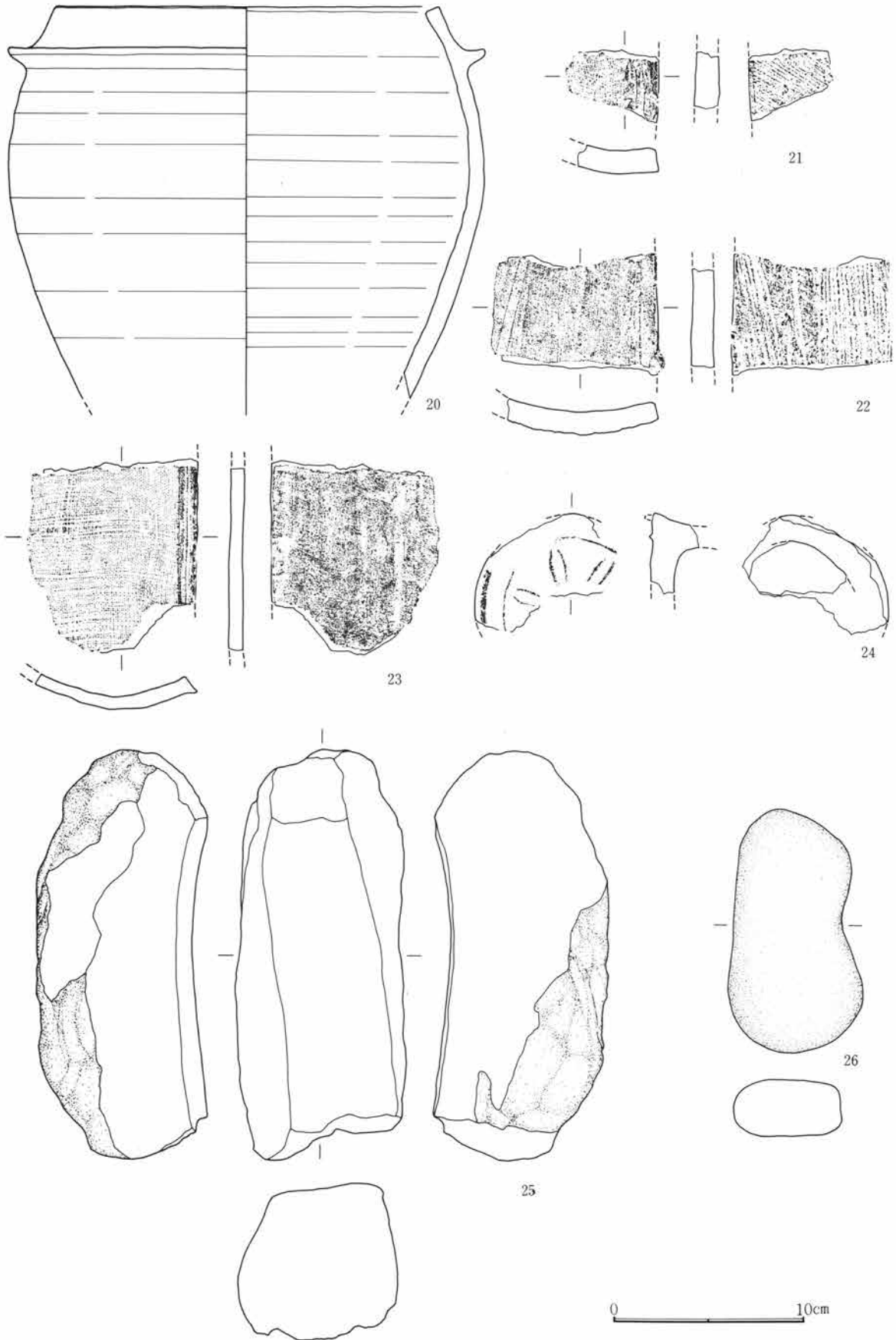
第329図 A区130号住居跡竈



第330図 A区104号住居跡出土遺物(1)

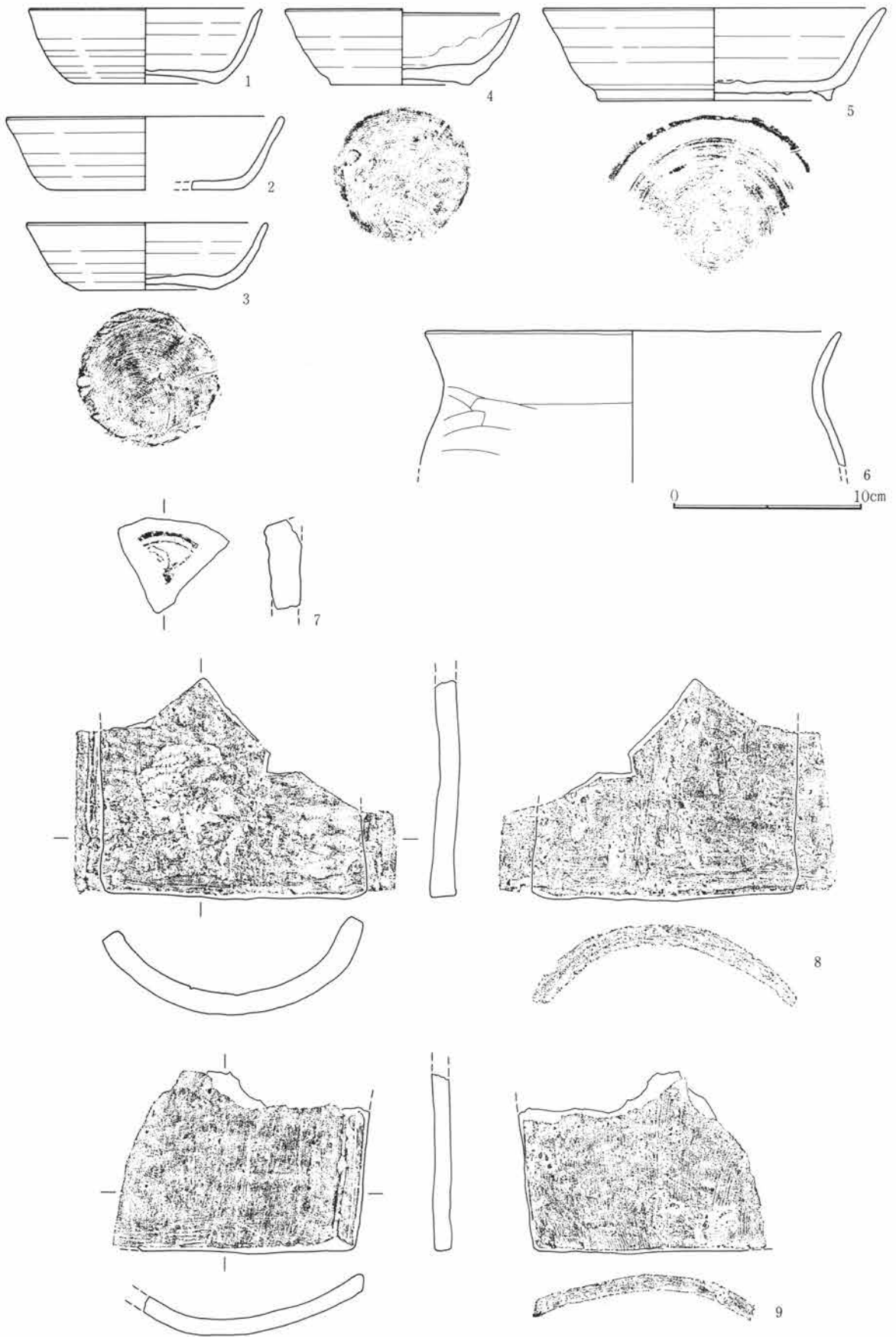


第331図 A区104号住居跡出土遺物(2)

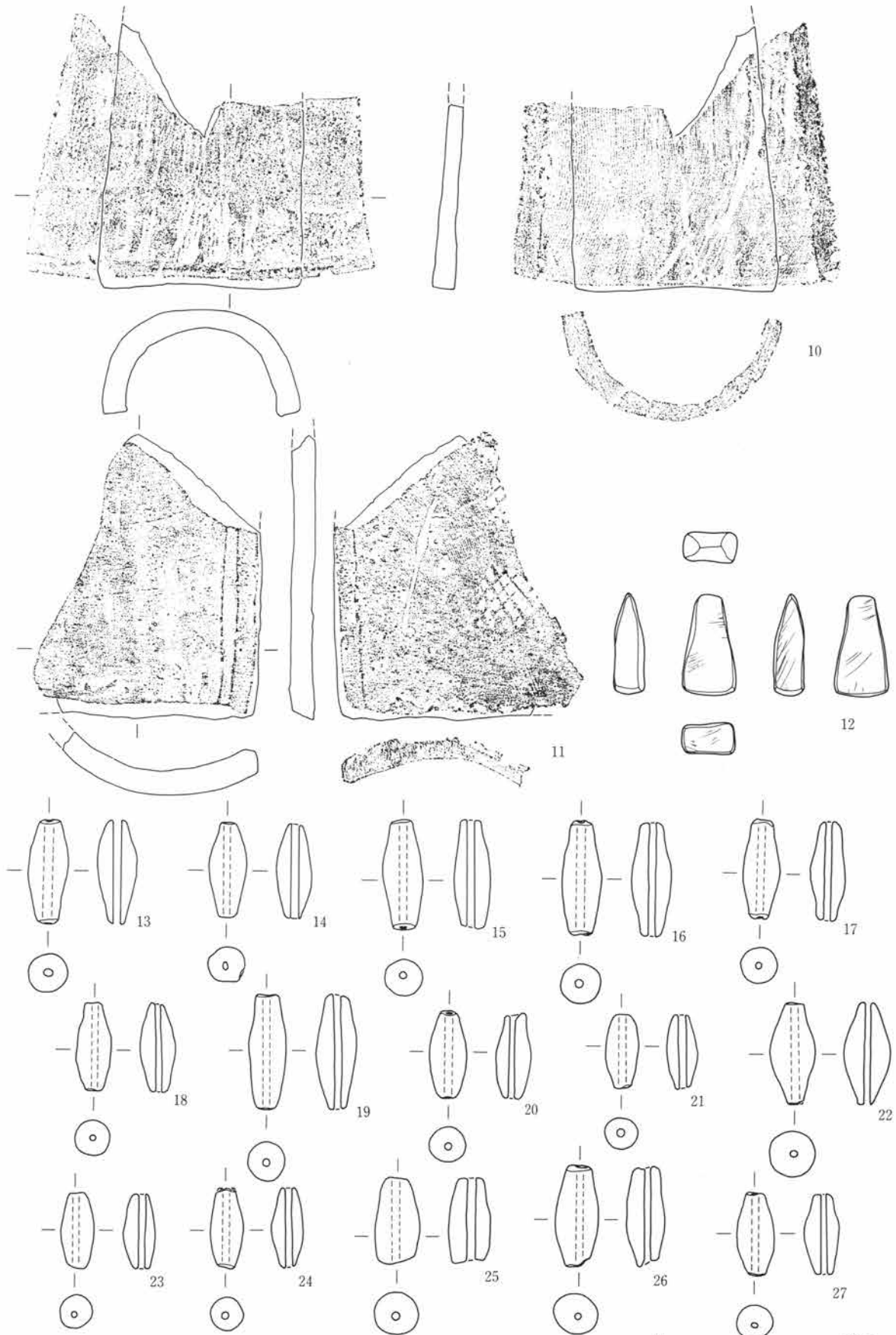


第332図 A区104号住居跡出土遺物(3)

第4章 検出された遺構・遺物

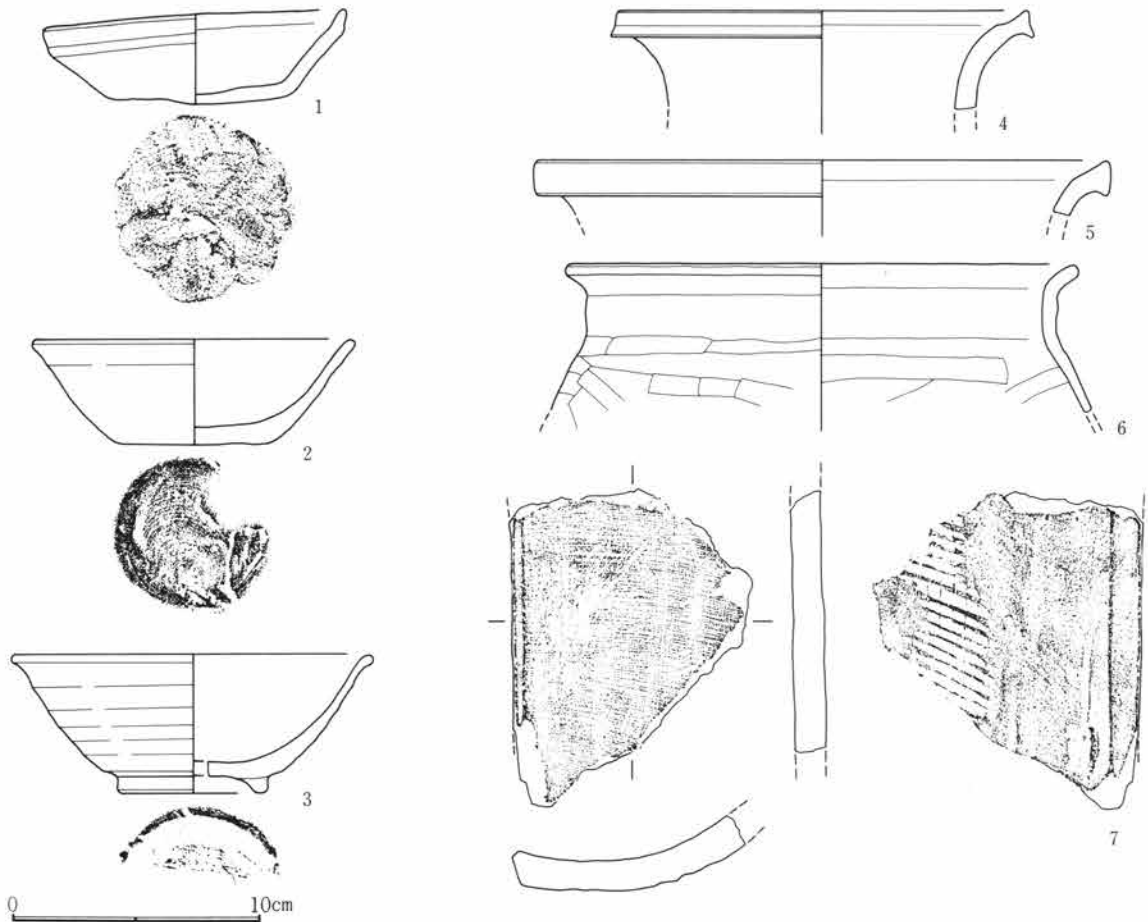


第333図 A区130号住居跡出土遺物(1)



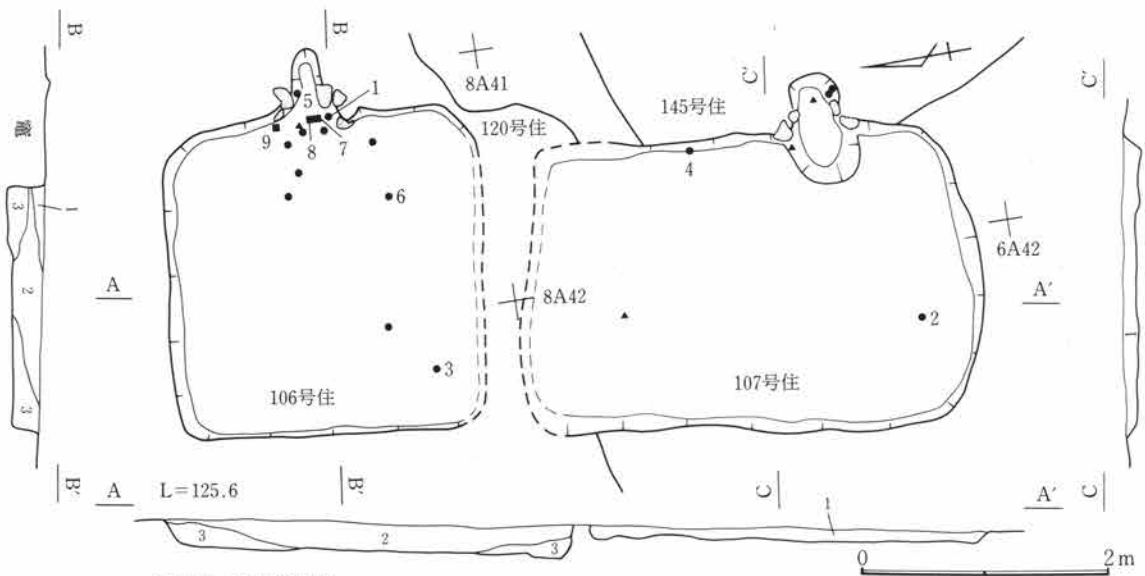
第334図 A区130号住居跡出土遺物(2)

第4章 検出された遺構・遺物



A区106号住居跡 (第336・337・339・340図、第23・130・174図版)

A区南部に位置し8・9A40~42の範囲にある。84号住居跡の南西にある。他の遺構との関係は120号住居跡、東部で108号住居跡と重複している。新旧関係は108号住居跡・120号住居跡より新しい。規模は1辺2.6mを測



A区106・107号住居跡

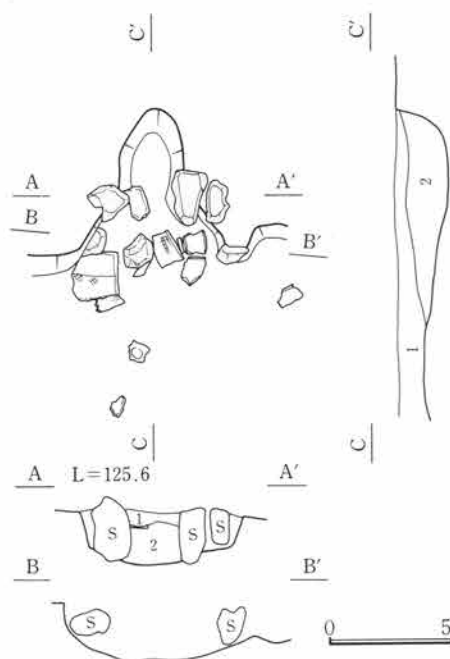
- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石多量、カーボン少量含む
- 3 暗褐色土層 C軽石多量に含む

第336図 A区106・107号住居跡

る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-94°-Eである。壁高は約5cm~6cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁に検出された。燃焼部左右の壁面に人頭大の石が検出された。規模は燃焼部幅50cm、同長50cmを測る。

A区107号住居跡 (第336・338・341図、第23・131図版)

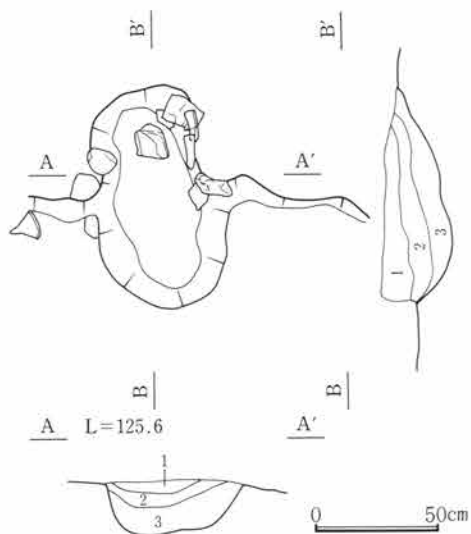
A区南部に位置し6~8A41・42の範囲にある。106号住居跡の南にある。他の遺構との関係は北部で120号住居跡、東部で145号住居跡と重複している。新旧関係は120号住居跡・145号住居跡より新しい。規模は長辺3.8m、短辺2.45mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-95°-Eである。壁高は約10cm~15cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅50cm、同長50cmを測る。



A区106号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石微量、焼土粒多量に含む

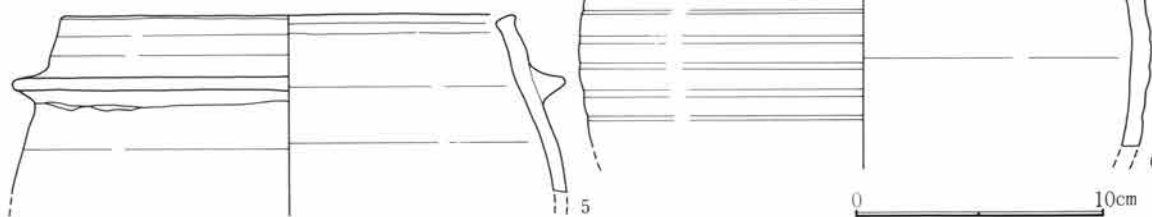
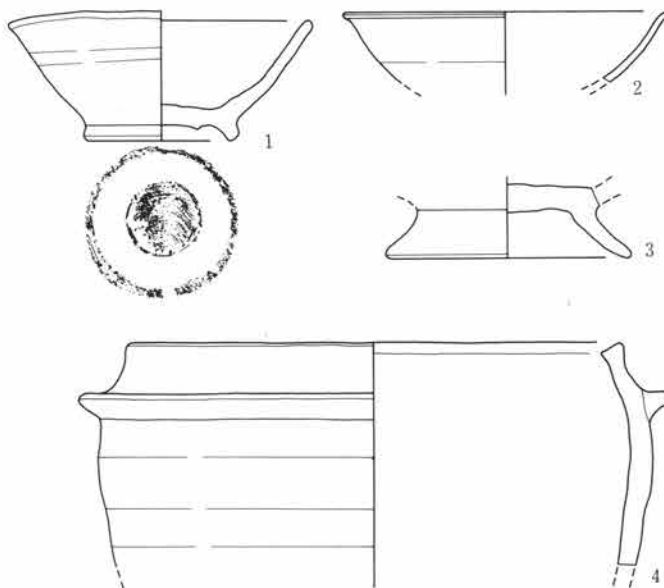
第337図 A区106号住居跡竈



A区107号住居跡竈

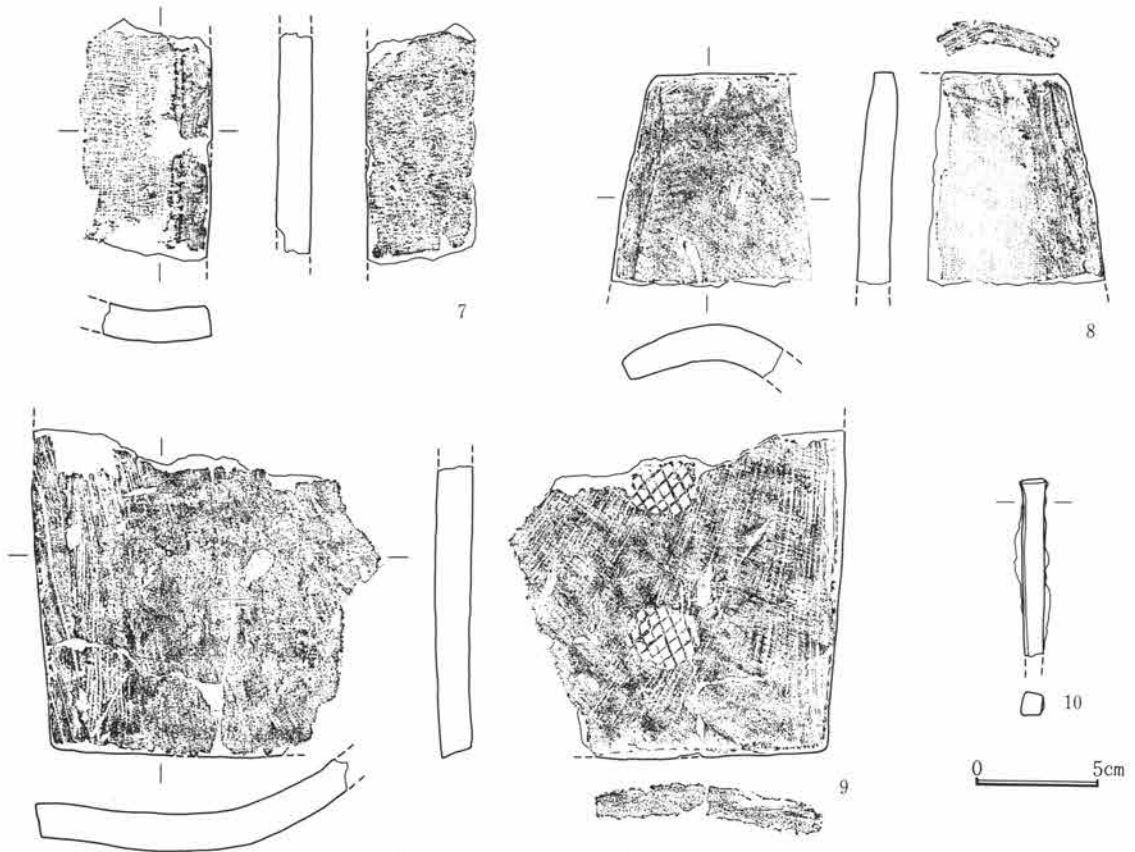
- 1 黒褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 黒褐色土層 C軽石含む
- 3 黒褐色土層

第338図 A区107号住居跡竈

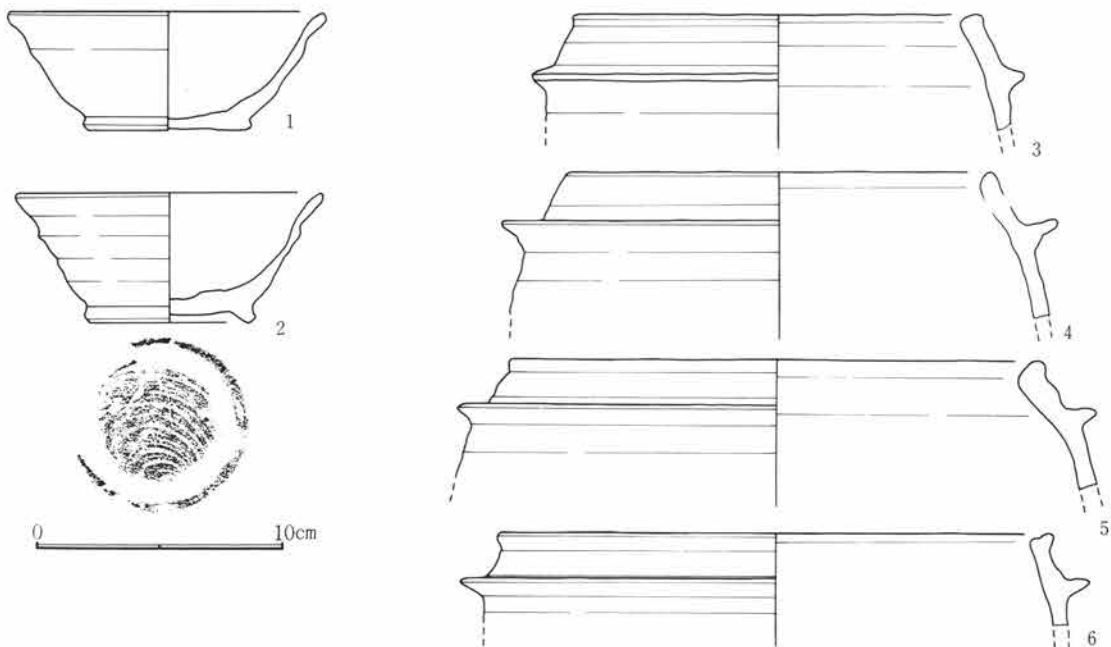


第339図 A区106号住居跡出土遺物(1)

第4章 検出された遺構・遺物



第340図 A区106号住居跡出土遺物(2)

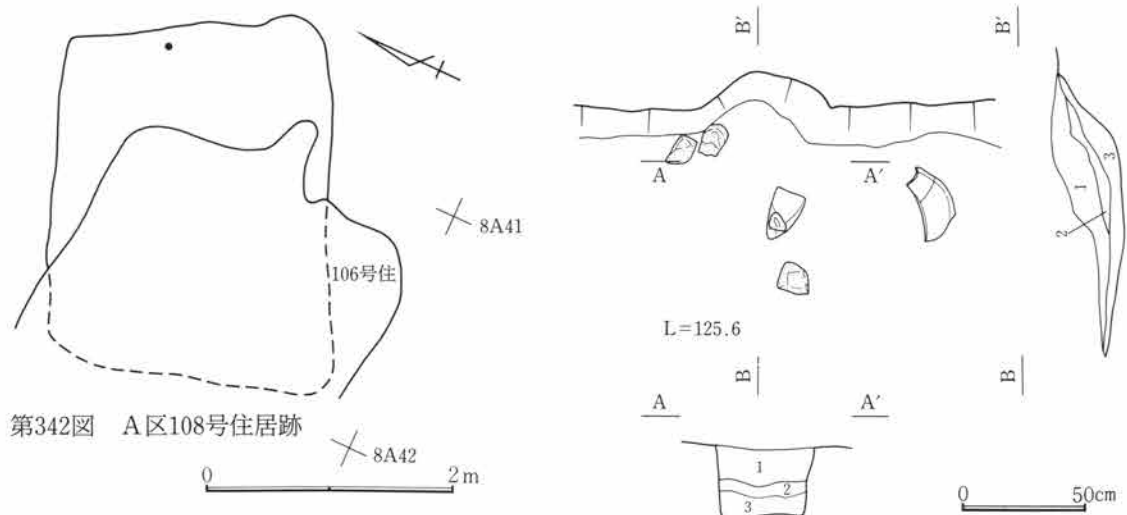


第341図 A区107号住居跡出土遺物

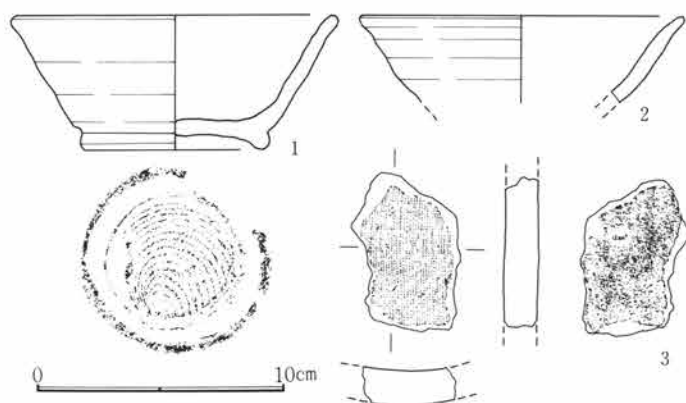
A区108号住居跡 (第342・343・344図、第23・131図版)

A区南部に位置し8・9A40～42の範囲にある。A84号住居跡の南西にある。他の遺構との関係は120号住居跡の中にある。西部で106号住居跡と重複している。新旧関係は120号住居跡より新しく、106号住居跡より旧

い。規模は長辺5m、短辺2.4mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位・壁高は確認できない。壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は南東隅に検出された。遺存状態は悪い。規模は燃焼部幅50cm、同長15cmを測る。



第342図 A区108号住居跡



第344図 A区108号住居跡出土遺物

A区108号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石、粘土ブロック少量含む
- 2 暗褐色土層 焼土ブロック、灰多量に含む
- 3 暗褐色土層 C軽石微量、焼土粒少量含む

第343図 A区108号住居跡竈

A区109号住居跡 (第345・346図、第23・131図版)

A区東部に位置し14～17A27～29の範囲にある。88号住居跡の北にある。他の遺構との関係は南西部で94号住居跡、また住居跡の大半を123号住居跡、東部で25号住居跡と重複している。新旧関係は25号住居跡・94号住居跡より旧く、123号住居跡より新しい。規模は長辺5.25m、短辺4.75mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-85°-Eである。壁高は測定できず、四壁に沿い周溝が認められた。規模は幅約20cm～30cm、深さ約1cm～5cmを測る。貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁に認められたが25号住居跡により壊され、痕跡を確認するのみであった。

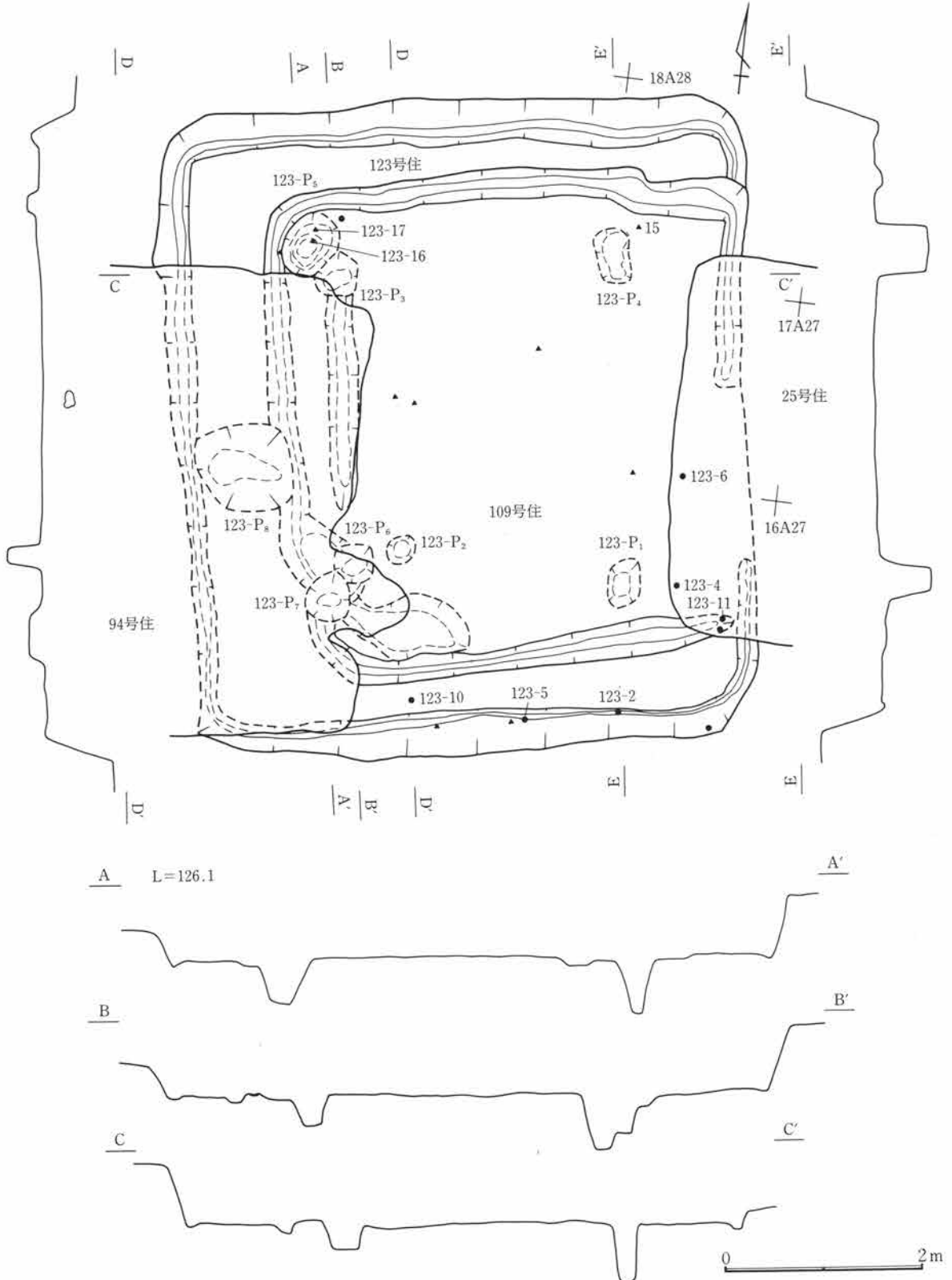
A区123号住居跡 (第345・347図、第23・131・132図版)

A区東部に位置し14～17A27～30の範囲にある。88号住居跡の北にある。他の遺構との関係は東部で25号住居跡、南西部で94号住居跡、また住居跡の大半を109号住居跡と重複している。新旧関係は25号住居跡・94号住居跡・109号住居跡より旧い。規模は長辺6.55m、短辺5.95mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-82°-Eである。壁高は約60cm～70cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝が四周に確認された。規模は幅約20cm～30cm、深さ約1cm～5cmを測る。貯蔵穴は検出されていない。柱穴と考えられる小穴が床面上に合計8基が検出された。各々1～8とした。規模は1、50cm×30cm、深さ約50cm、2、径約30cm、

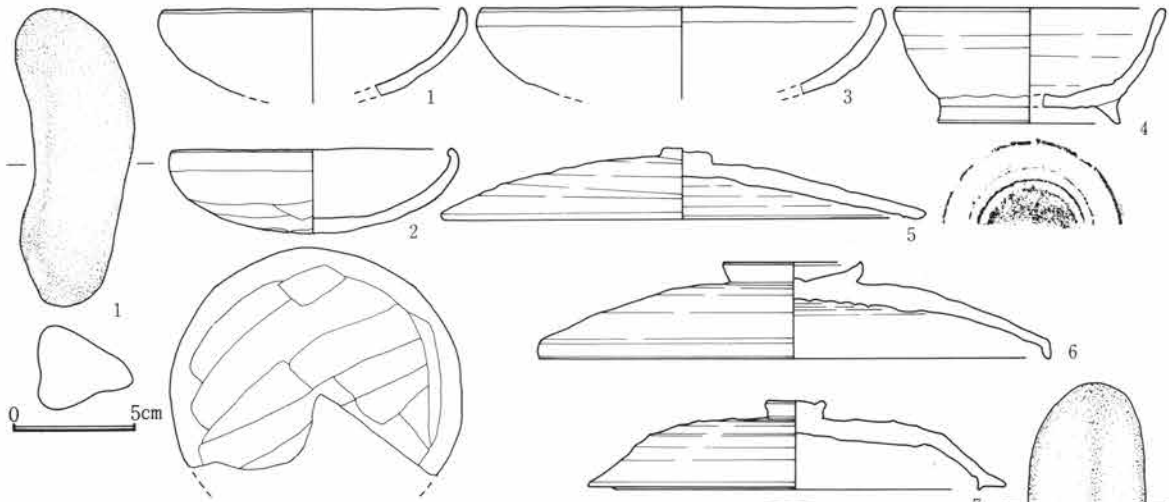
第4章 検出された遺構・遺物

深さ約30cm、3、径約50cm、深さ約20cm、4、55cm×35cm、深さ約50cm、5、70cm×50cm、深さ約65cm、6、径約50cm、深さ50cm、7、径約50cm、深さ約55cm、8、径約1m、深さ約20cmを測る。竈は検出されていない。

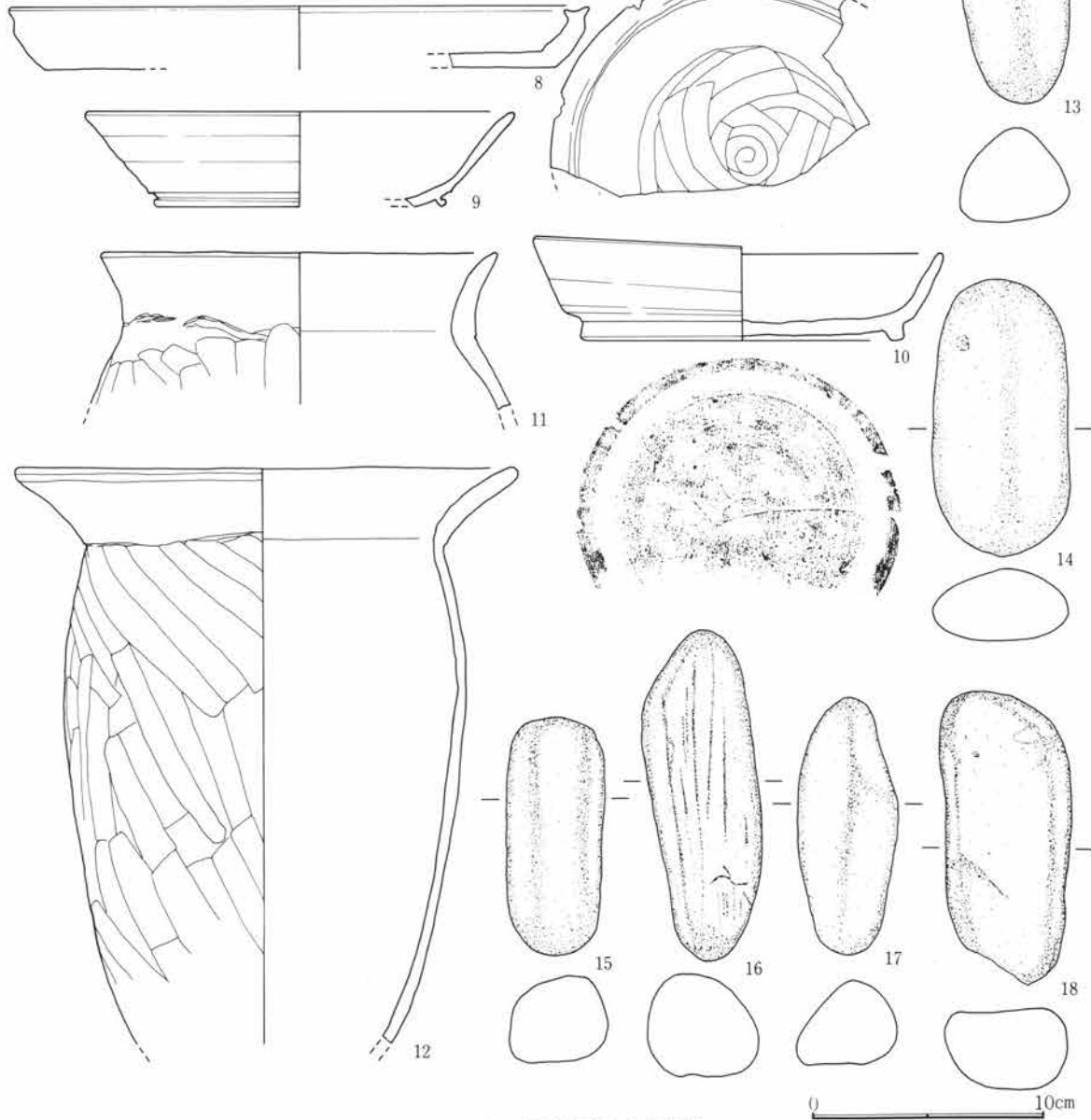
掘り方 床面南西隅に不定形の落ち込みが認められた。規模は1.2m×70cm、深さ約20cmを測る。



第345図 A区109・123号住居跡



第346图 A区109号住居跡出土遺物

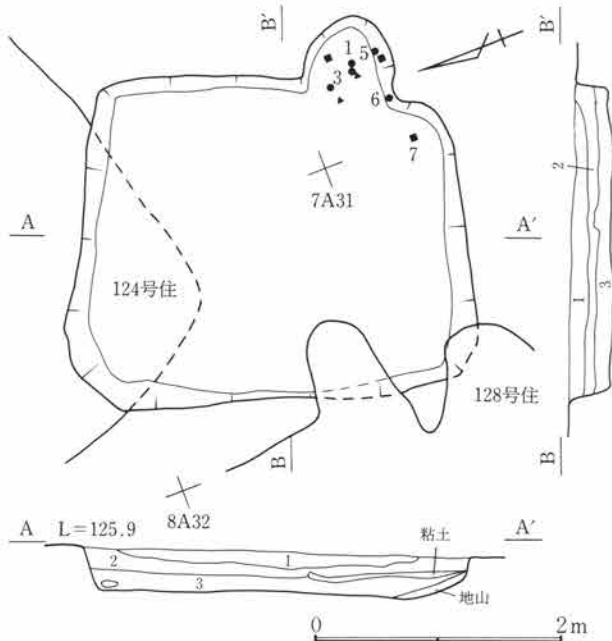


第347图 A区123号住居跡出土遺物

第4章 検出された遺構・遺物

A区110号住居跡 (第348・349・350図、第23・24・132・174図版)

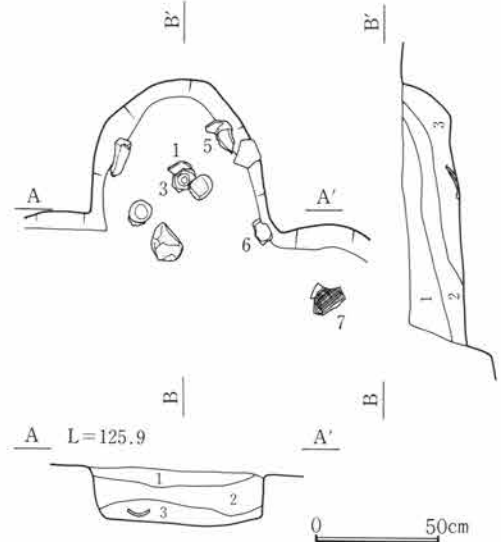
A区南部に位置し6~8A30・31の範囲にある。125号住居跡の西にある。他の遺構との関係は北部で124号住居跡、南西部で128号住居跡と重複している。新旧関係は124号住居跡より新しく、128号住居跡より古い。規模は長辺3.35m、短辺2.65mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-110°-Eである。壁高は約20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃烧部幅70cm、同長70cmを測る。



A区110号住居跡

- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石多量、地山砂質土ブロック少量含む
- 3 暗褐色土層 C軽石多量、カーボン地山ブロック少量含む

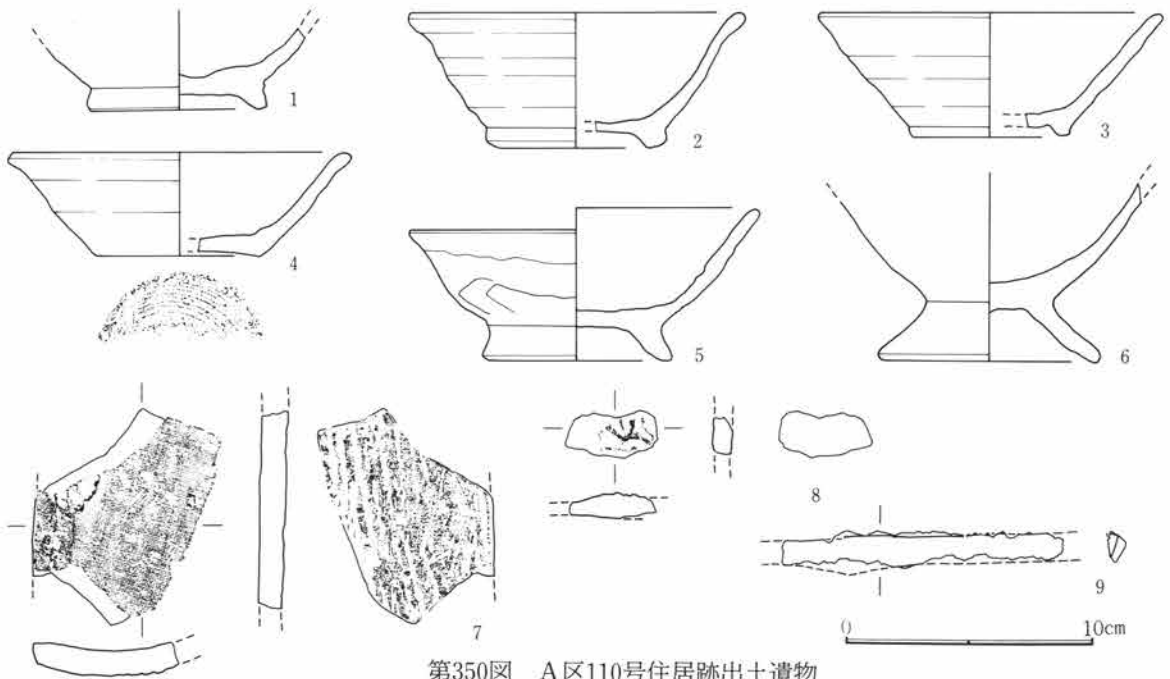
第348図 A区110号住居跡



A区110号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石、焼土粒少量含む
- 3 暗褐色土層 焼土多量に含む

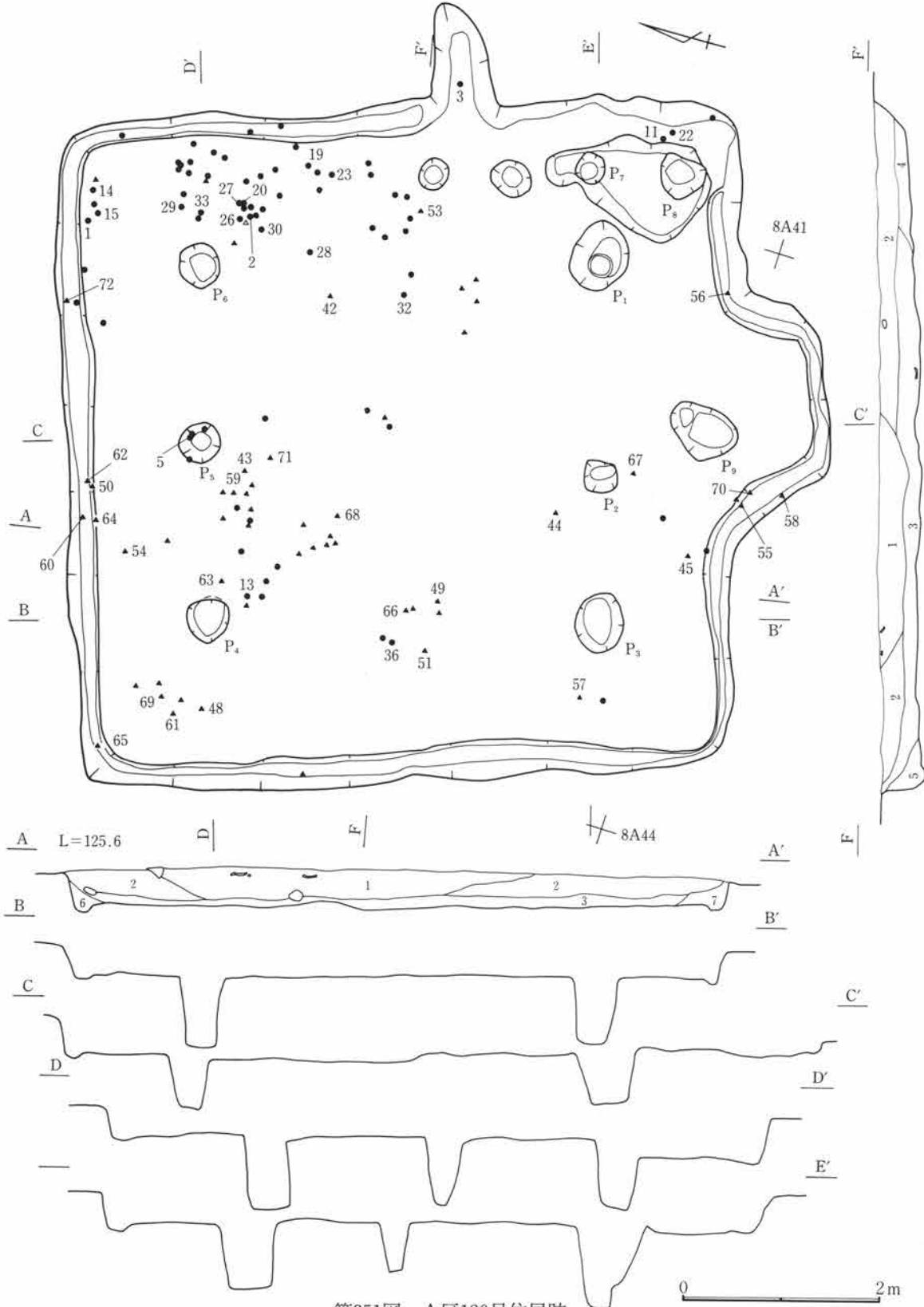
第349図 A区110号住居跡竈



第350図 A区110号住居跡出土遺物

A区120号住居跡 (第351・352・353・354・355・356・357図、第26・27・132・133・134・135・174図版)

A区南部に位置し7~11A40~44の範囲にある。145号住居跡の北にある。他の遺構との関係は南東部で106号住居跡・107号住居跡・108号住居跡、北東部で84号住居跡と重複している。新旧関係は84号住居跡より旧

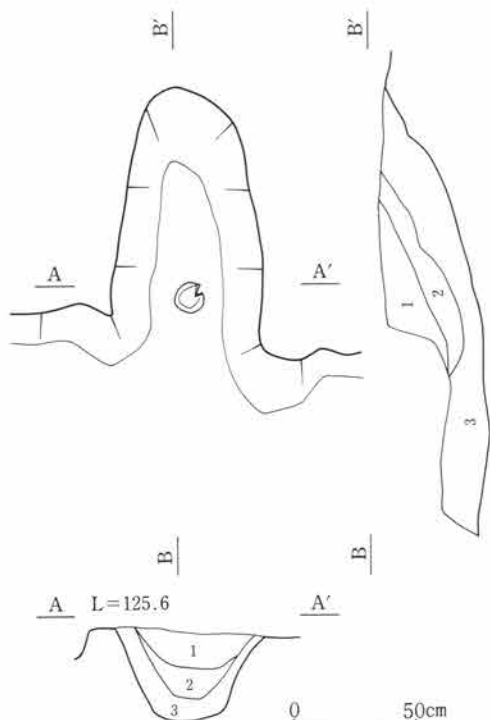


第351図 A区120号住居跡

第4章 検出された遺構・遺物

A区120号住居跡

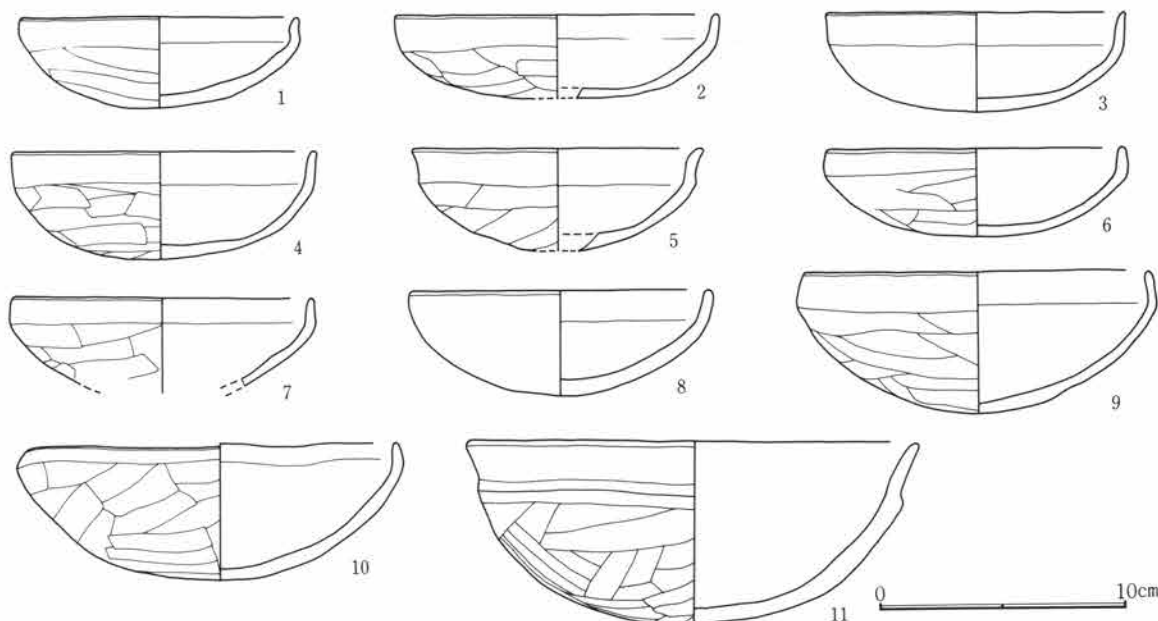
- 1 黒褐色土層 C軽石大粒多量、カーボン少量含む
- 2 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 3 暗褐色土層 C軽石少量含む、ローム土混入
- 4 暗褐色土層 C軽石、焼土粒少量、粘土粒多量に含む
- 5 暗褐色土層 ローム土少量混入
- 6 暗褐色土層 ローム土混入
- 7 暗褐色土層 C軽石微量に含む



A区120号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石含む、焼土粒多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石微量、焼土粒多量に含む
- 3 灰層

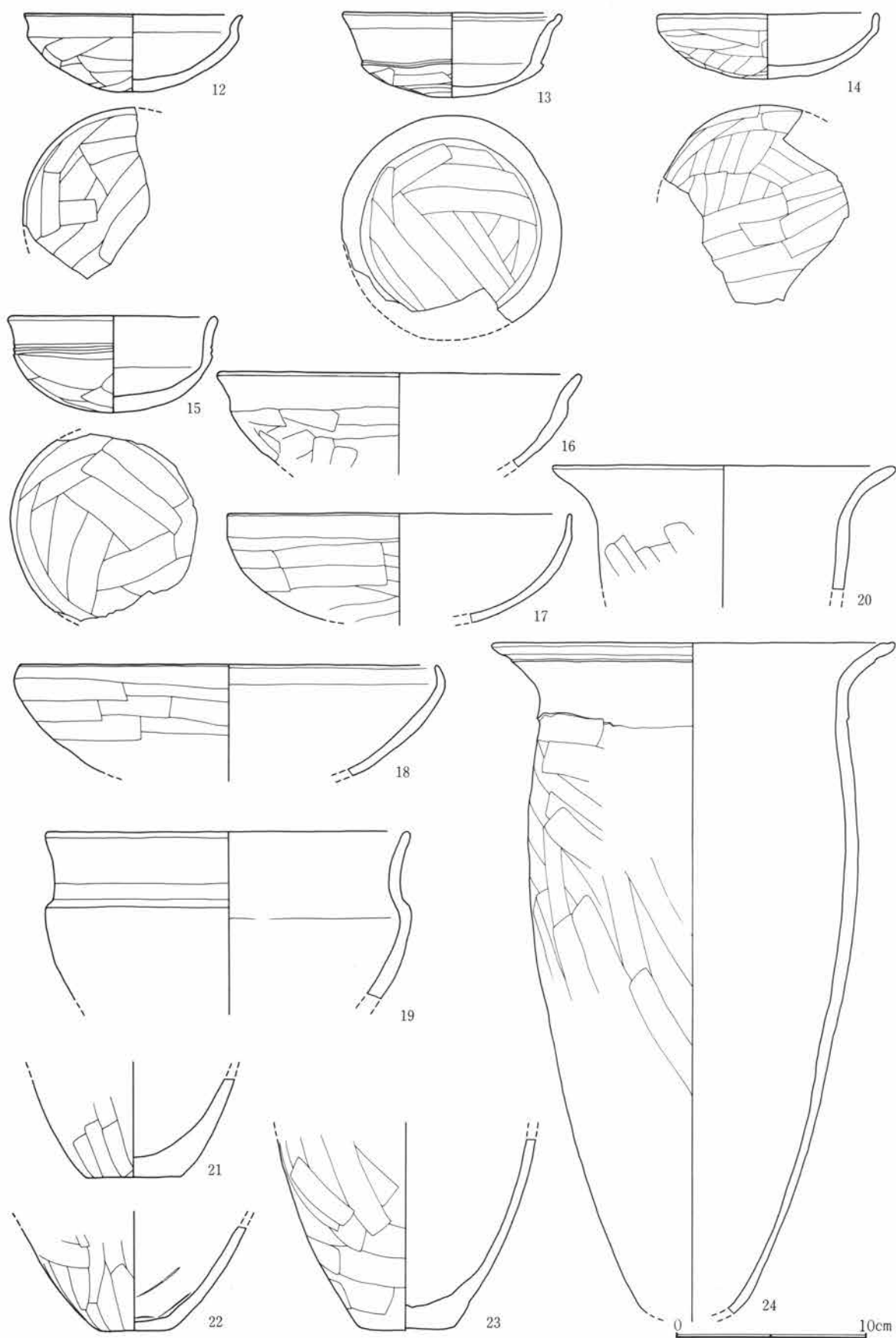
第352図 A区120号住居跡竈



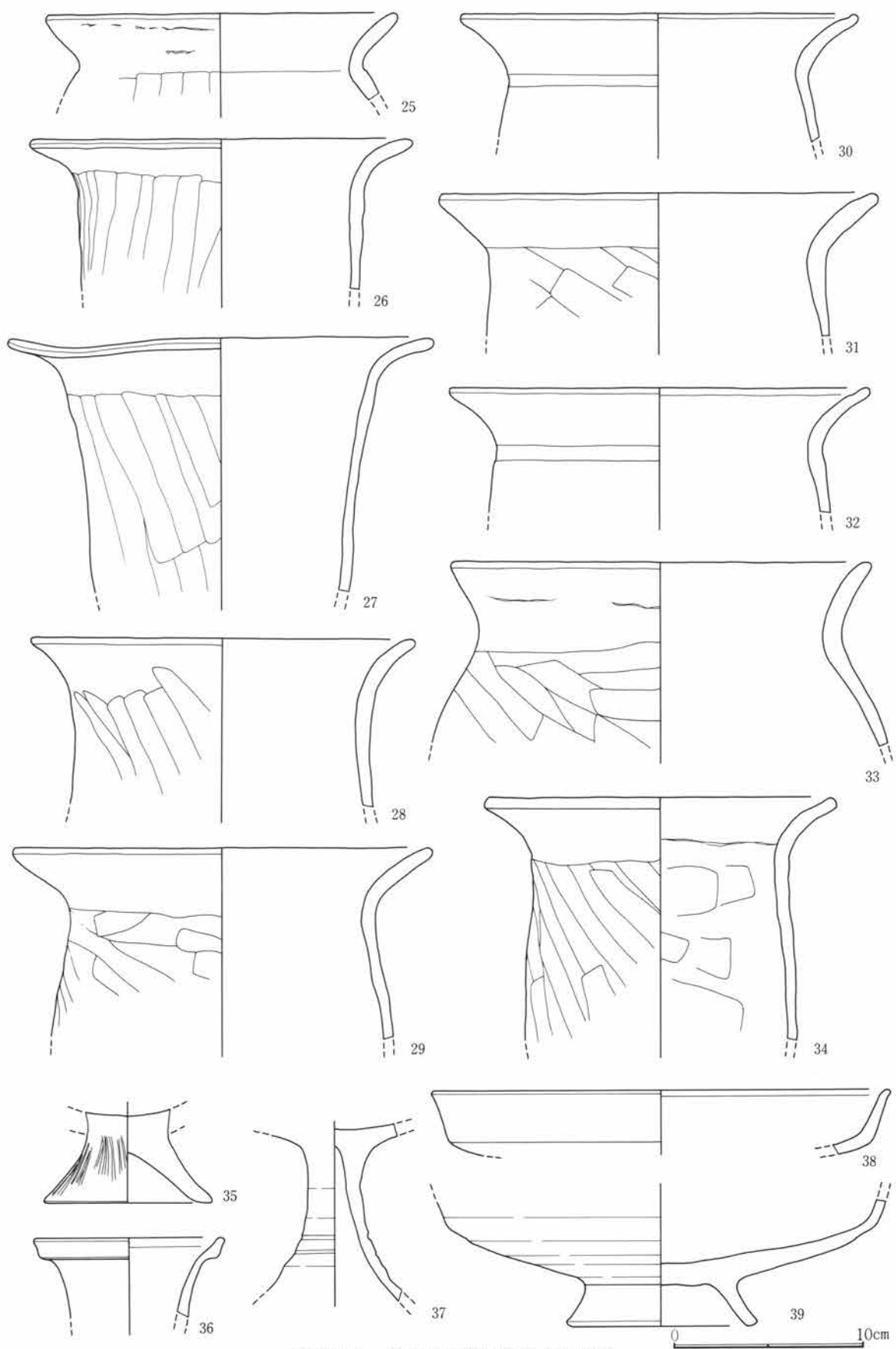
第353図 A区120号住居跡出土遺物(1)

く、106号住居跡・107号住居跡・108号住居跡より新しい。規模は長辺7.7m、短辺6.8mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。南壁は幅約2.3mで南へ1m方形に張り出している。主軸方位はN-70°-Eである。壁高は約20cm~30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、四周に壁周溝、南東隅に貯蔵穴、床面上には柱穴が検出された。壁周溝は南東部の一部を除き認められ、規模は幅約20cm~40cm、深さ約5cm~10cmを測る。貯蔵穴は南東隅に認められ、規模は1.65m×1m、深さ約20cmを測る。柱穴は6基検出された。各々1~6とした。規模は1、70cm×60cm、深さ約90cm、2、35cm×30cm、深さ約50cm、3、60cm×50cm、深さ約70cm、4、45cm×40cm、深さ約40cm、5、径約40cm、深さ約1m、6、45cm×40cm、深さ約60cmを測る。南北の柱間長はほぼ3.9mを測り、東西長は1~2が2.1m、2~3が1.5m、4~5が1.8m、5~6が1.8mを測る。柱穴の他に小穴が3基貯蔵穴と重複するように検出され、7~9とした。規模は7、径約30cm、深さ約10cm、8、径約45cm、深さ約10cm、9、70cm×55cm、深さ約15cm、9は底部北側はさらに深く最深部は約20cmを測る。1~6は柱穴と考えられ、さらに9は南側張り出し部との拘わりが想定される。竈は東壁に検出された。竈前面には袖部の施設と考えられる2基の小穴が検出された。規模は南側は径約30cm、北側は45cm×35cm、深さ約10cmを測る。竈の規模は燃焼部幅70cm、同長1m、袖部小穴間での長さは約1.8mを測る。

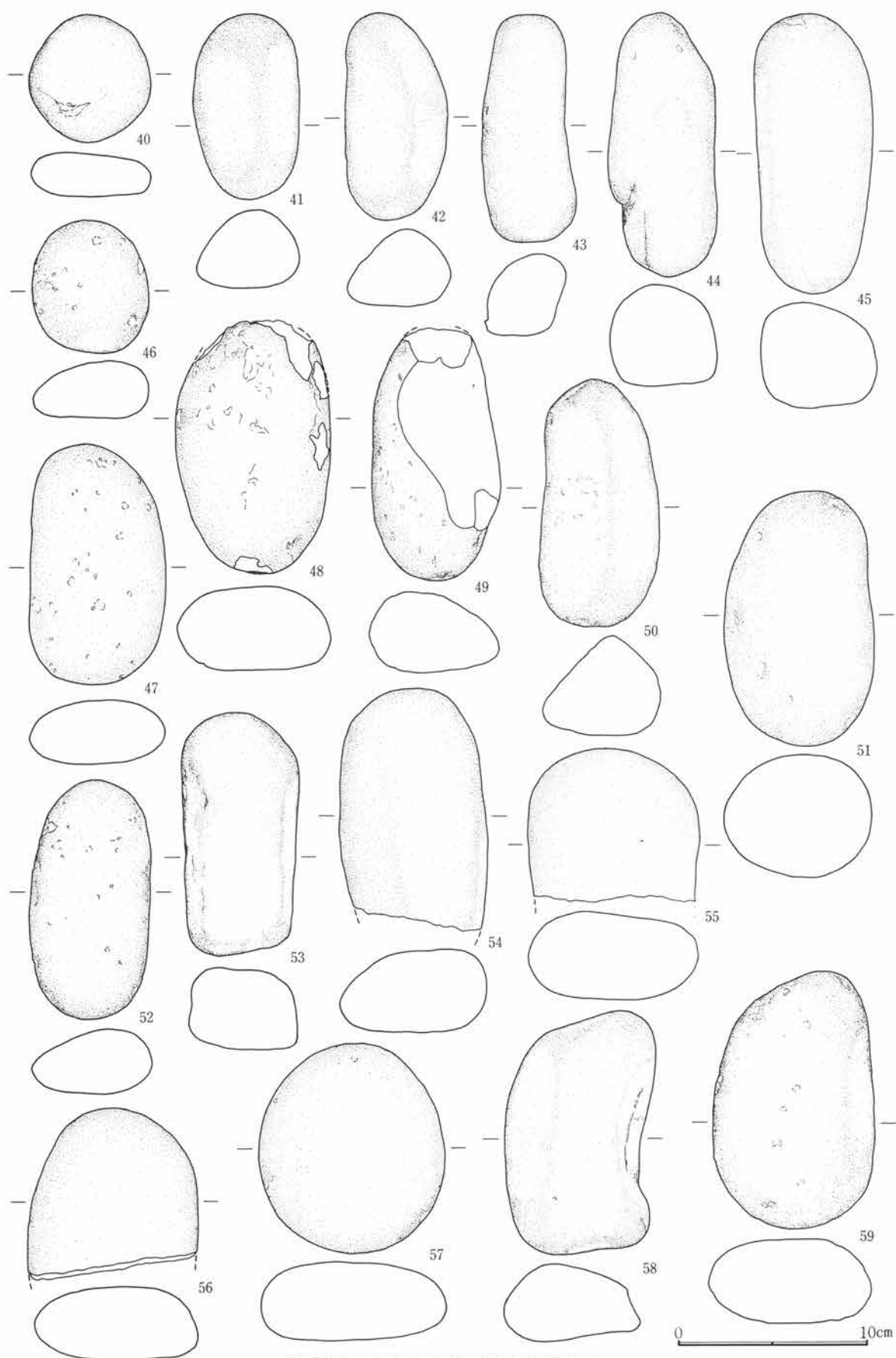
第1節 竪穴住居跡



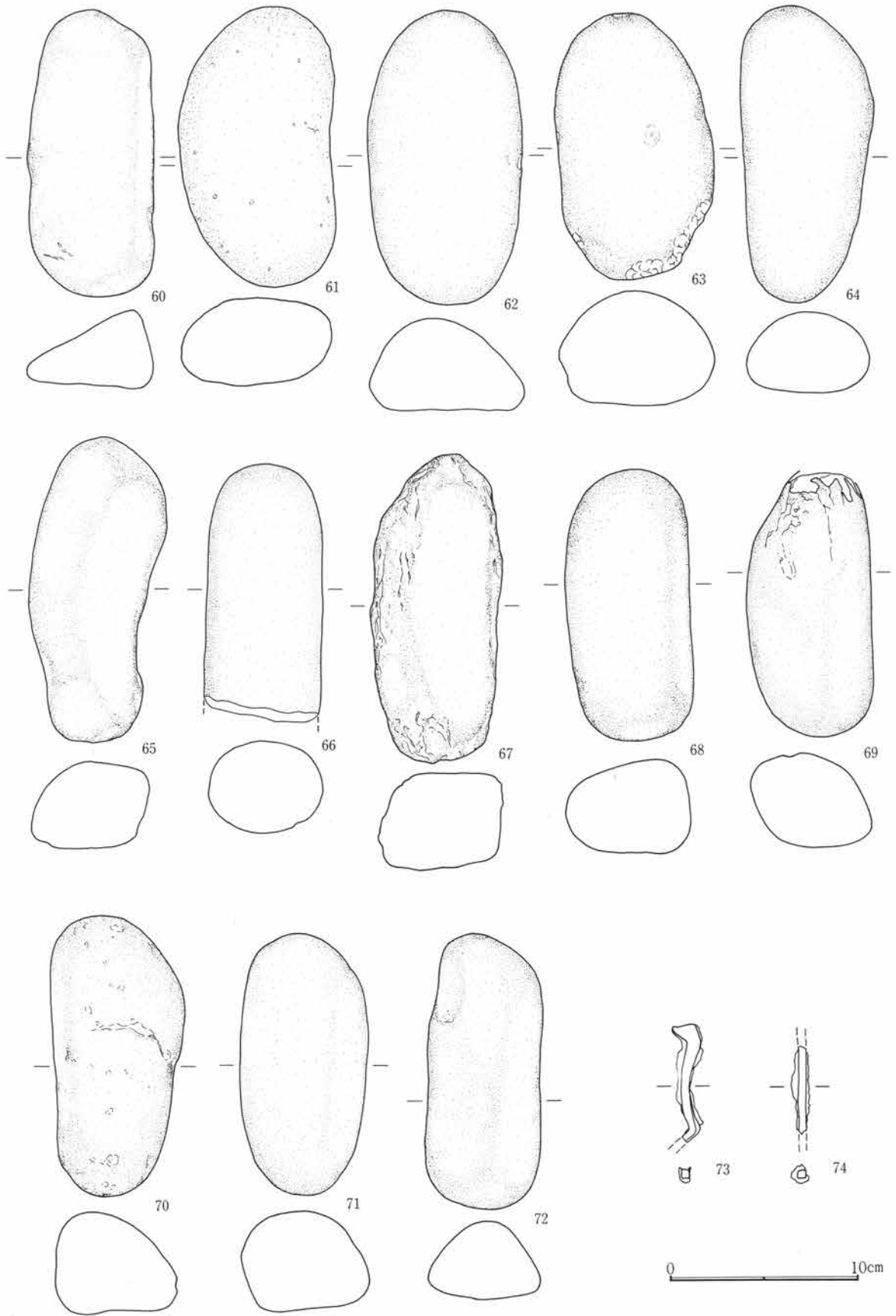
第354図 A区120号住居跡出土遺物(2)



第355図 A区120号住居跡出土遺物(3)



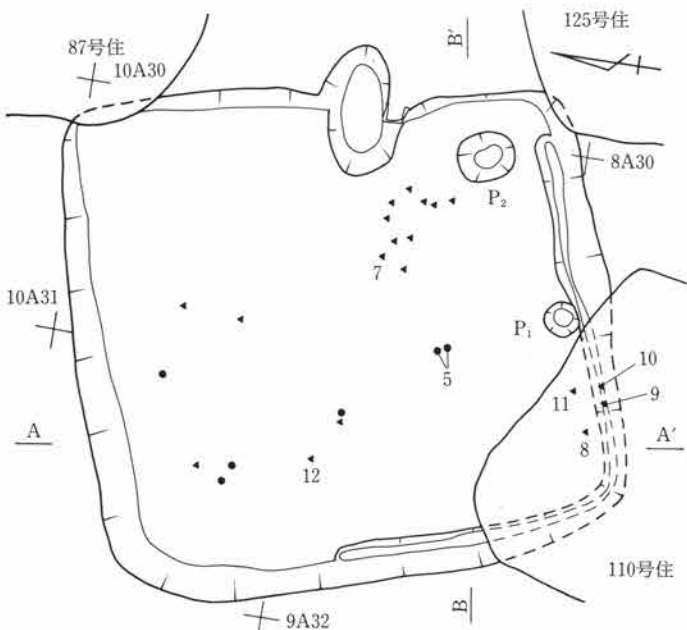
第356図 A区120号住居跡出土遺物(4)



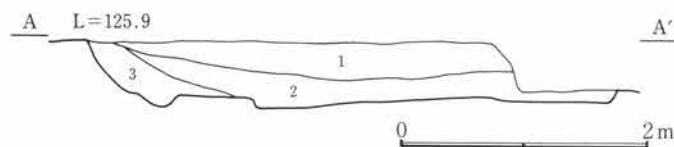
第357図 A区120号住居跡出土遺物(5)

A区124号住居跡 (第358・359・360・361図、第27・135・174図版)

A区南部に位置し7~10A29~31の範囲にある。112号住居跡の南東にある。他の遺構との関係は南西部で110号住居跡と重複している。また北東部と南東部の壁の一部が各々87号住居跡・125号住居跡と重複している。新旧関係は87号住居跡・110号住居跡・125号住居跡より古い。規模は長辺4.5m、短辺4.1mを測る。平面



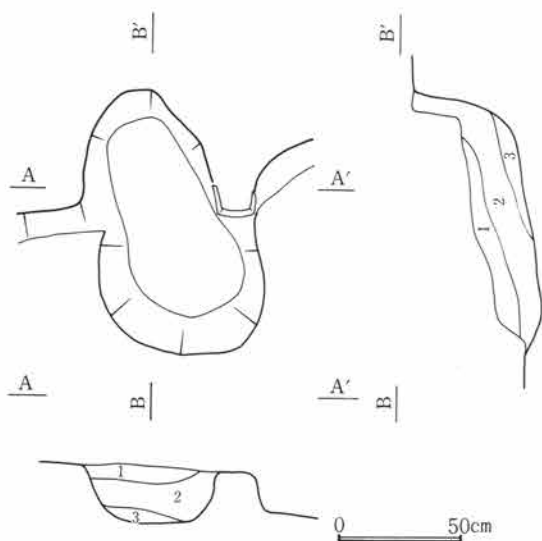
形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-82°-Eである。壁高は約40cm~50cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、南・西壁の一部に周溝が巡る。規模は幅約10cm~20cm、深さ約1cm~5cmを測る。南東隅に貯蔵穴と考えられる小穴が検出された。規模は45cm×35cm、深さ約25cmを測る。また南壁に接し小穴が検出され、規模は径約25cm、深さ約20cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅70cm、同長70cmを測る。



A区124号住居跡

- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石多量、地山ブロック含む
- 3 暗褐色土層 C軽石少量、黒色土含む

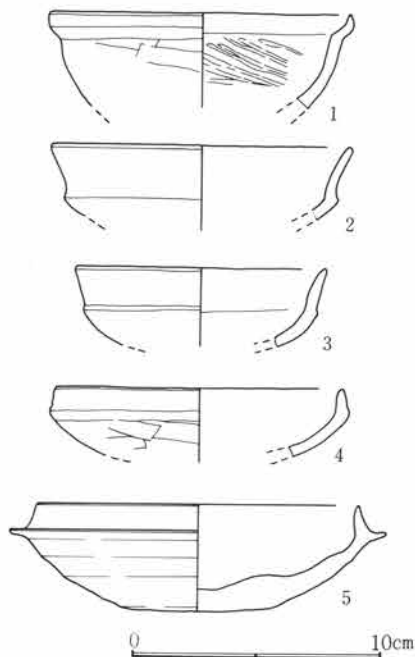
第358図 A区124号住居跡



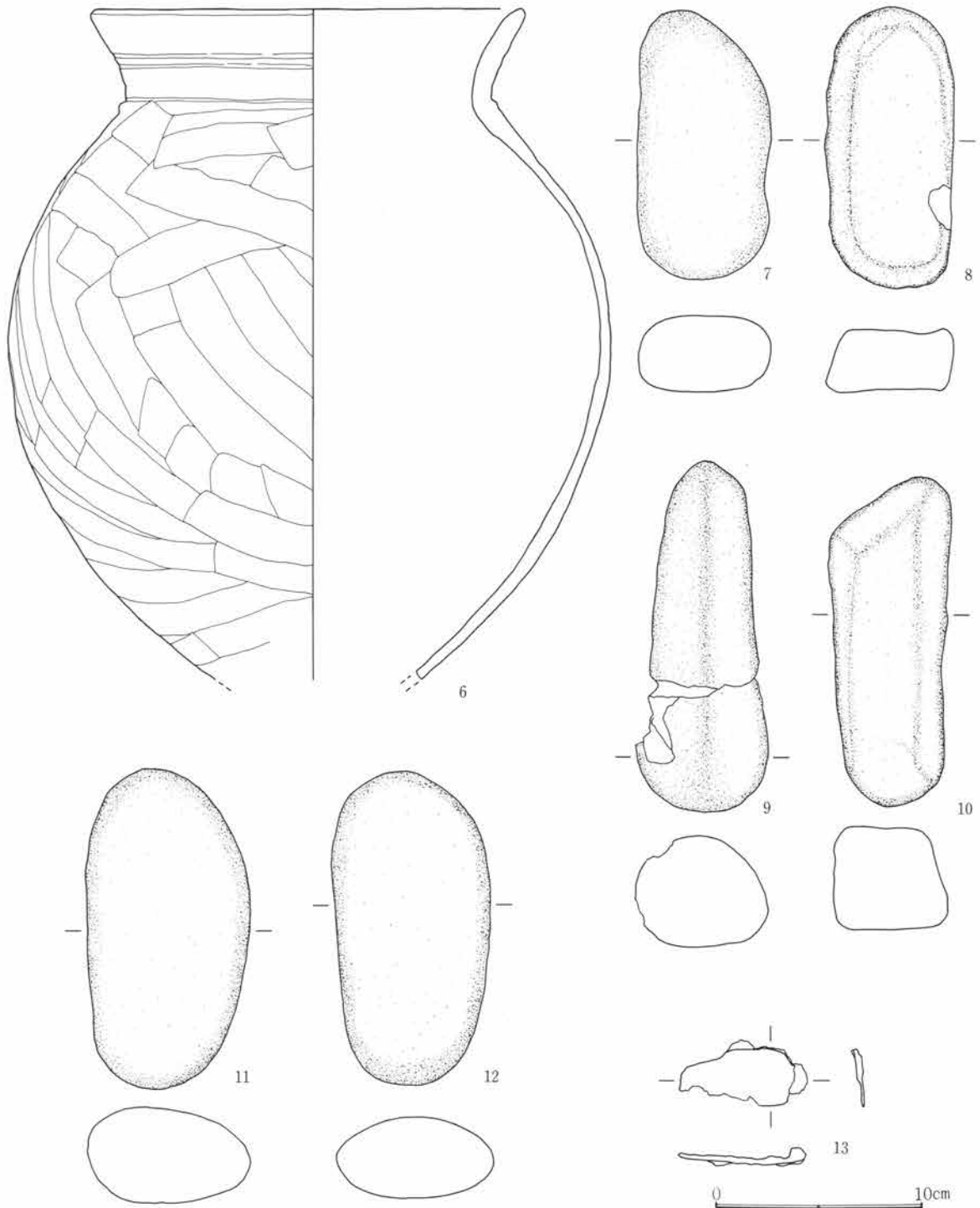
A区124号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石多量、焼土粒少量含む
- 2 暗褐色土層 C軽石、焼土粒含む
- 3 暗褐色土層 灰、地山粒含む

第359図 A区124号住居跡竈



第360図 A区124号住居跡出土遺物(1)



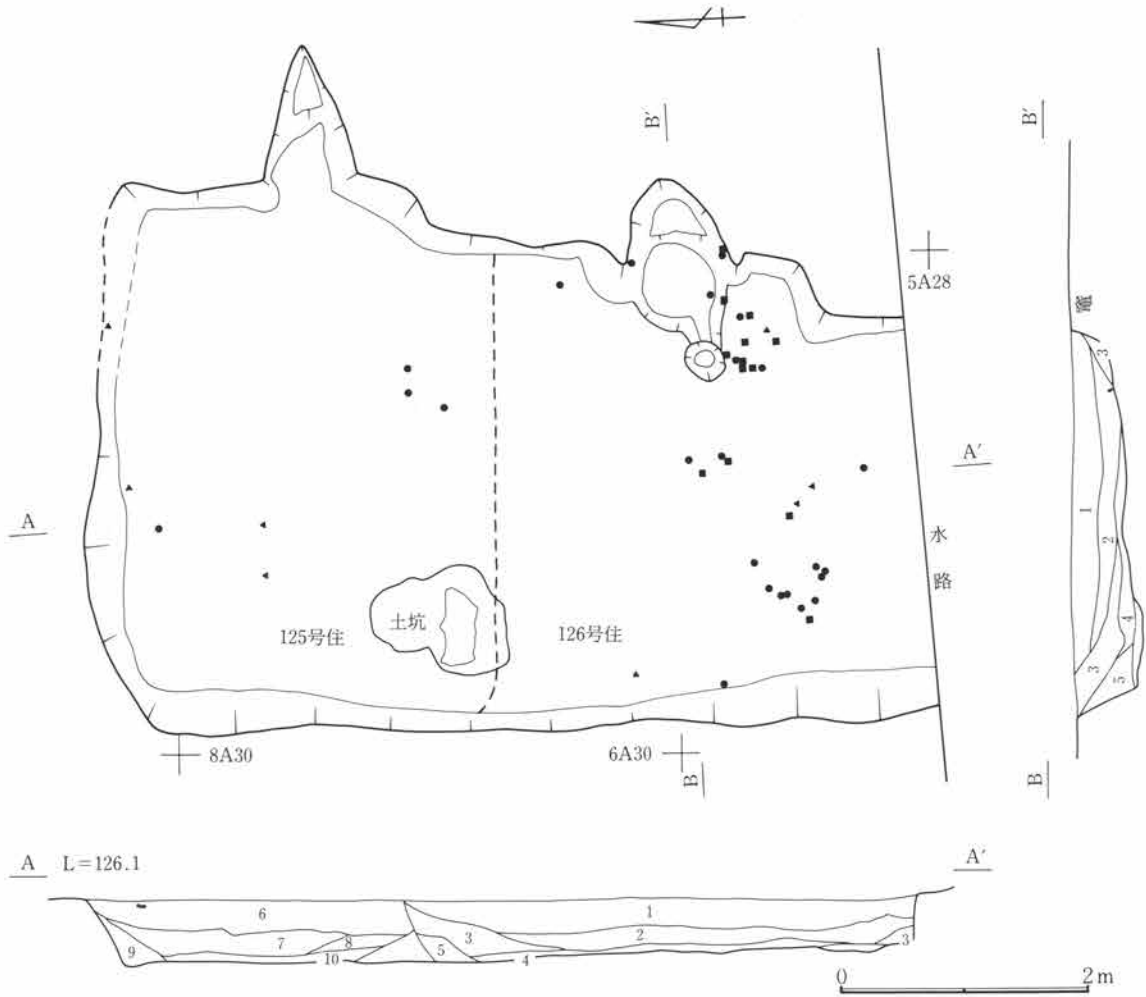
第361図 A区124号住居跡出土遺物(2)

A区125号住居跡 (第362・363・364・366・367図、第27・28・135・136図版)

A区南東部に位置し6~8A27~29の範囲にある。110号住居跡の東にある。他の遺構との関係は南部で126号住居跡、西北部で124号住居跡と重複している。新旧関係は124号住居跡より新しく、126号住居跡より古い。規模は重複する126号住居跡に南半部を壊されているため北壁で約4.45mを測る。主軸方位は竈長軸方向でN-89°-Eである。壁高は約40cm~50cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁に検出された。規模は燃烧部幅70cm、同長80cm、煙道部長50cmを測る。

A区126号住居跡（第362・365・368・369・370図、第28・136・137・138・175図版）

A区南東部に位置し4～7A27～29の範囲にある。110号住居跡の南東にある。他の遺構との関係は北部で125号住居跡と重複している。新旧関係は126号住居跡が新しい。また南部は遺跡を東西に走る現代の農業用水路のため調査されていない。規模は北壁で約3.85mを測る。平面形態は不定形な方形を呈する。壁高は約40cm～50cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。西北隅に小穴が検出された。形態は不定形を呈し、規模は1m×90cm、深さ約10cmを測る。また竈前面に小穴が検出された。規模は35cm×30cm、深さ約7cm～8cmを測る。竈は東壁に検出された。規模は燃烧部幅90cm、同長40cm、煙道部長50cmを測る。

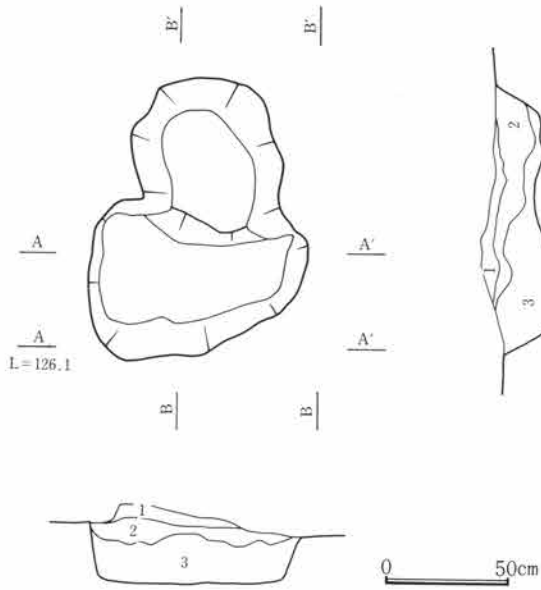


A区125・126号住居跡

- | | | |
|----|-------|--------------------|
| 1 | 暗褐色土層 | C軽石多量、地山粒微量に含む |
| 2 | 暗褐色土層 | C軽石多量に含む |
| 3 | 暗褐色土層 | C軽石少量含む |
| 4 | 暗褐色土層 | C軽石少量、ローム粒多量に含む |
| 5 | 暗褐色土層 | C軽石、地山ブロック少量含む |
| 6 | 暗褐色土層 | C軽石多量に含む |
| 7 | 暗褐色土層 | C軽石多量、地山ブロック少量含む |
| 8 | 暗褐色土層 | C軽石少量、灰白色粒多量に含む |
| 9 | 暗褐色土層 | C軽石少量、ローム粒多量に含む |
| 10 | 暗褐色土層 | C軽石少量、ロームブロック多量に含む |

第362図 A区125・126号住居跡

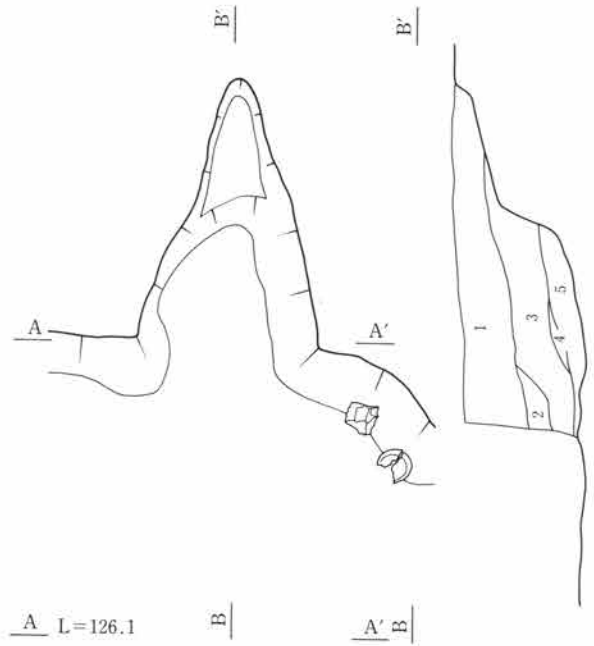
第4章 検出された遺構・遺物



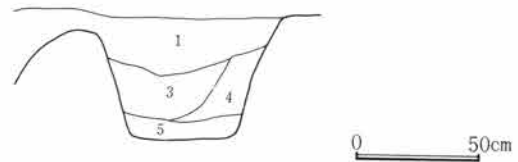
A区125号住居跡内土坑

- 1 暗褐色土層 白色ブロック多量に含む
- 2 暗褐色土層 地山砂粒多量に含む
- 3 暗褐色土層 地山ブロック多量に含む

第363図 A区125号住居跡内土坑



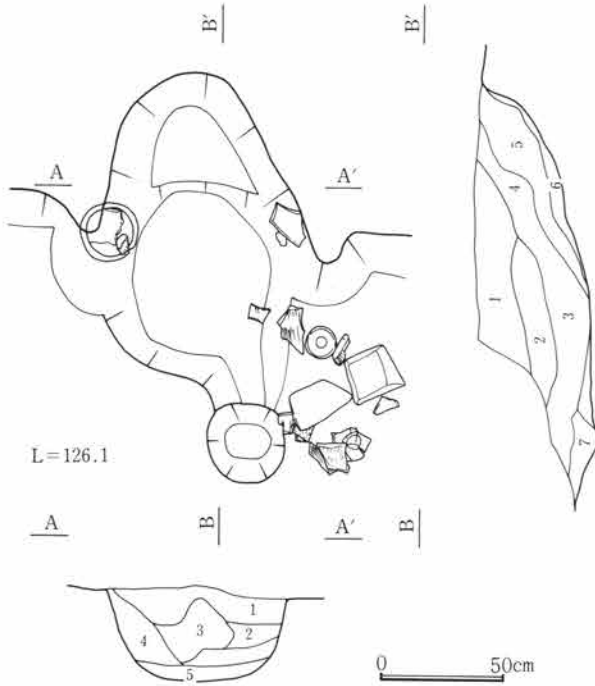
A L=126.1



A区125号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石多量、カーボン微量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石少量、焼土、灰多量に含む
- 3 暗褐色土層 C軽石、粘土粒少量含む
- 4 暗褐色土層 C軽石、粘土粒少量含む
- 5 暗褐色土層 灰多量、カーボン少量含む

第364図 A区125号住居跡竈

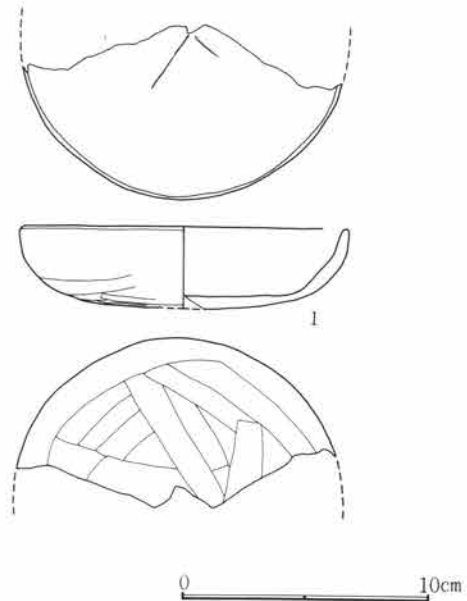


L=126.1

A区126号住居跡竈

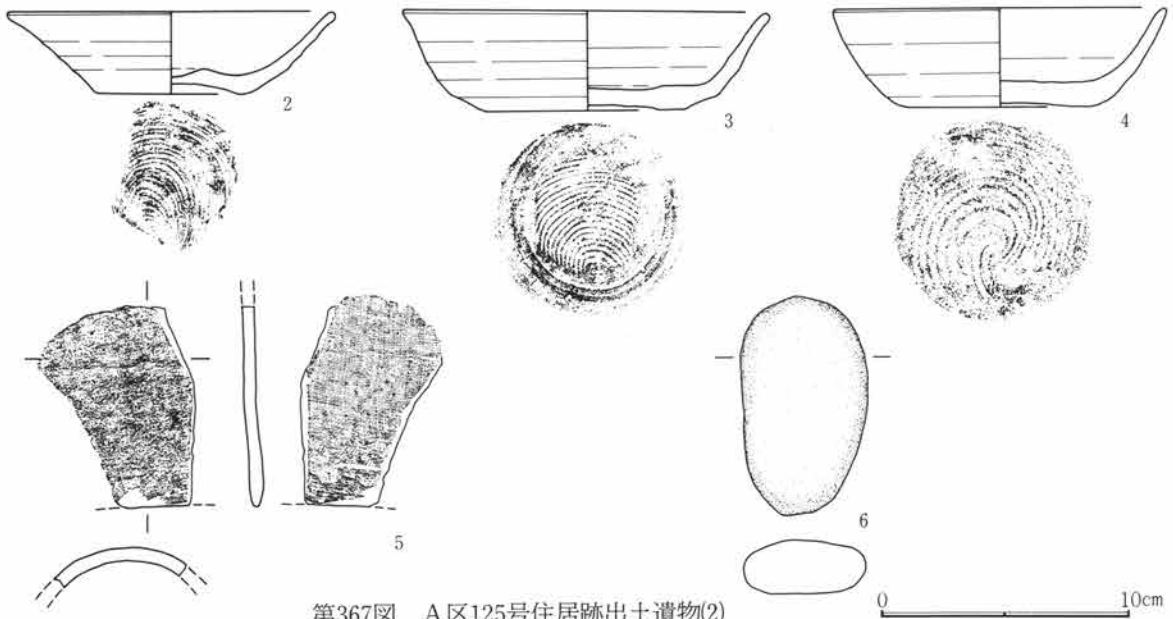
- 1 暗褐色土層 C軽石混入、焼土ブロック若干含む
- 2 暗褐色土層 C軽石混入
- 3 暗褐色土層 C軽石微量、焼土ブロック多量に含む
- 4 灰層
- 5 暗褐色土層 焼土ブロック混入
- 6 暗褐色土層 灰、焼土粒少量含む
- 7 黒色灰層 焼土粒少量含む

第365図 A区126号住居跡竈

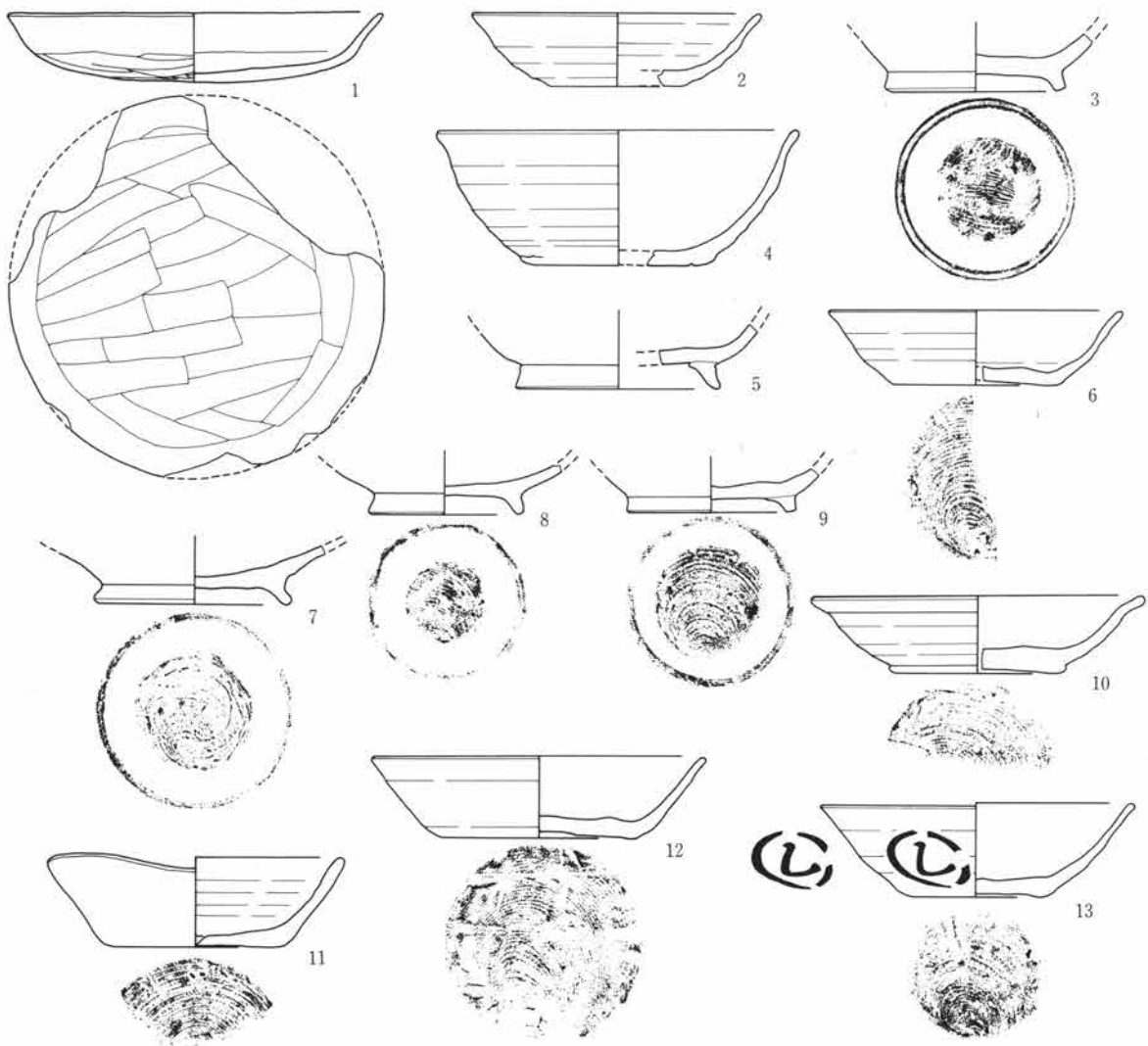


第366図 A区125号住居跡出土遺物(1)

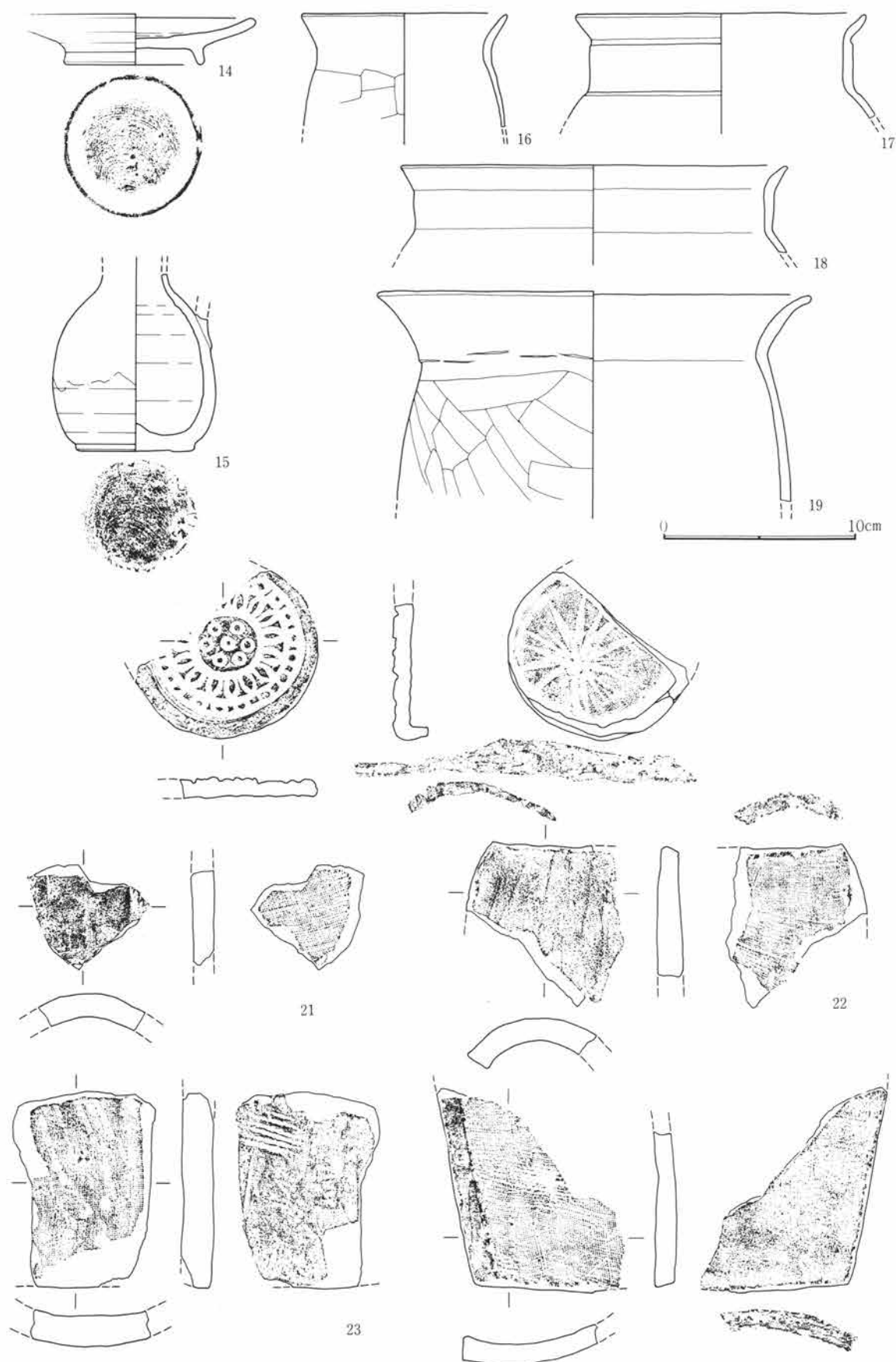
第1節 竖穴住居跡



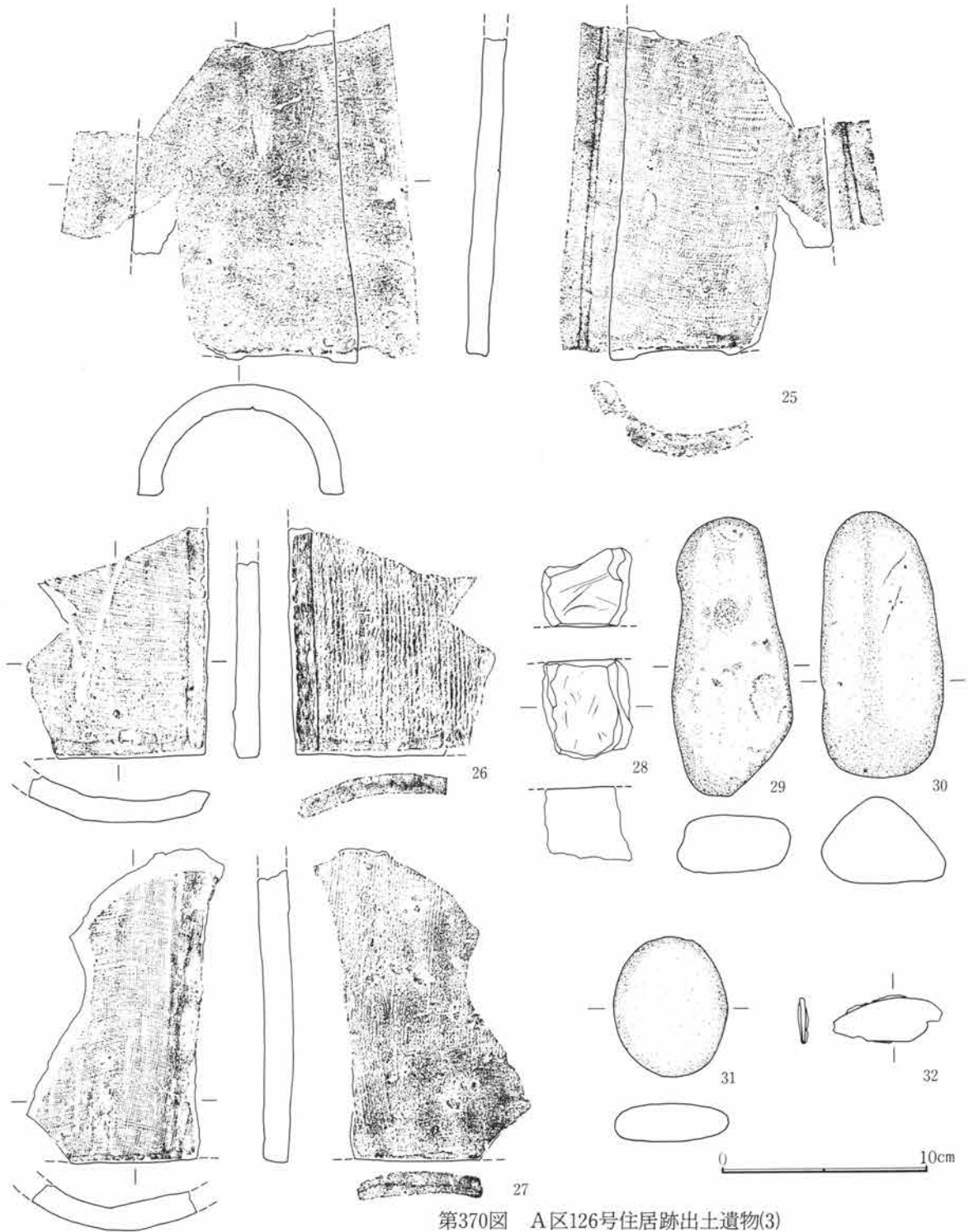
第367图 A区125号住居跡出土遺物(2)



第368图 A区126号住居跡出土遺物(1)



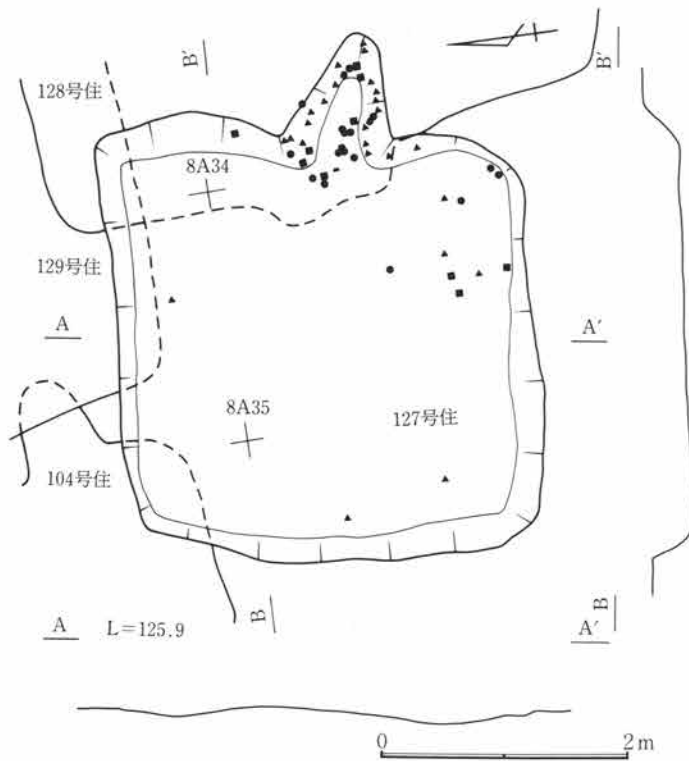
第369図 A区126号住居跡出土遺物(2)



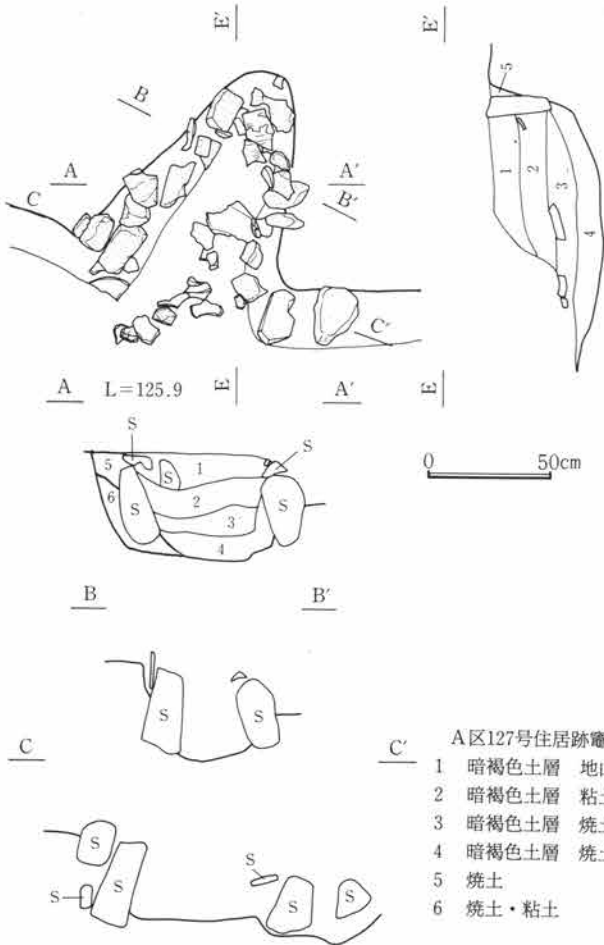
第370図 A区126号住居跡出土遺物(3)

A区127号住居跡 (第371・372・373・374図、第28・137・138・172図版)

A区南部に位置し6~8A33~35の範囲にある。85号住居跡の東にある。他の遺構との関係は東部で128号住居跡、北東部で129号住居跡、西北部で140号住居跡と重複している。新旧関係は127号住居跡が128号住居跡・129号住居跡・140号住居跡より新しい。規模は長辺3.8m、短辺3.5mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-104°-Eである。壁高は約30cm~40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃烧部幅60cm、同長80cmを測る。

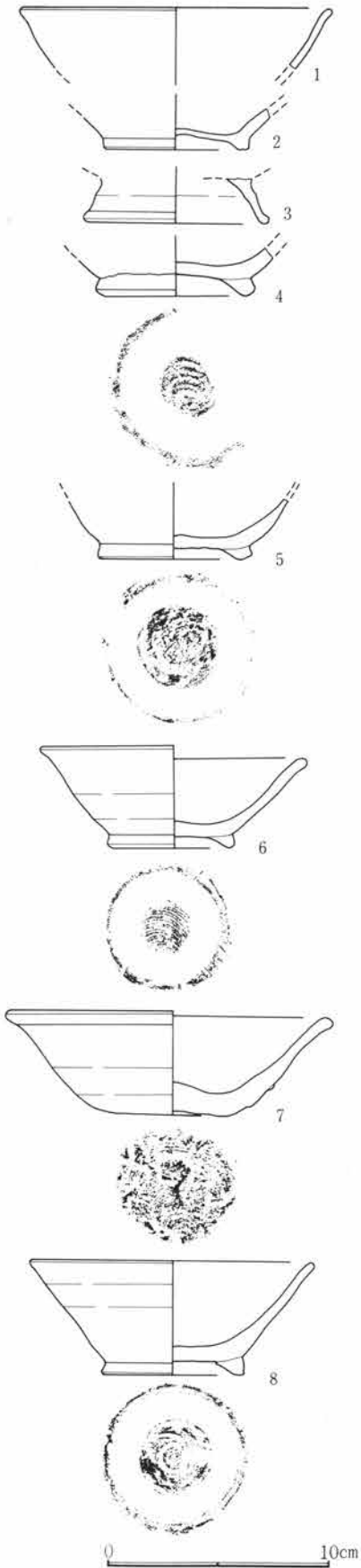


第371図 A区127号住居跡

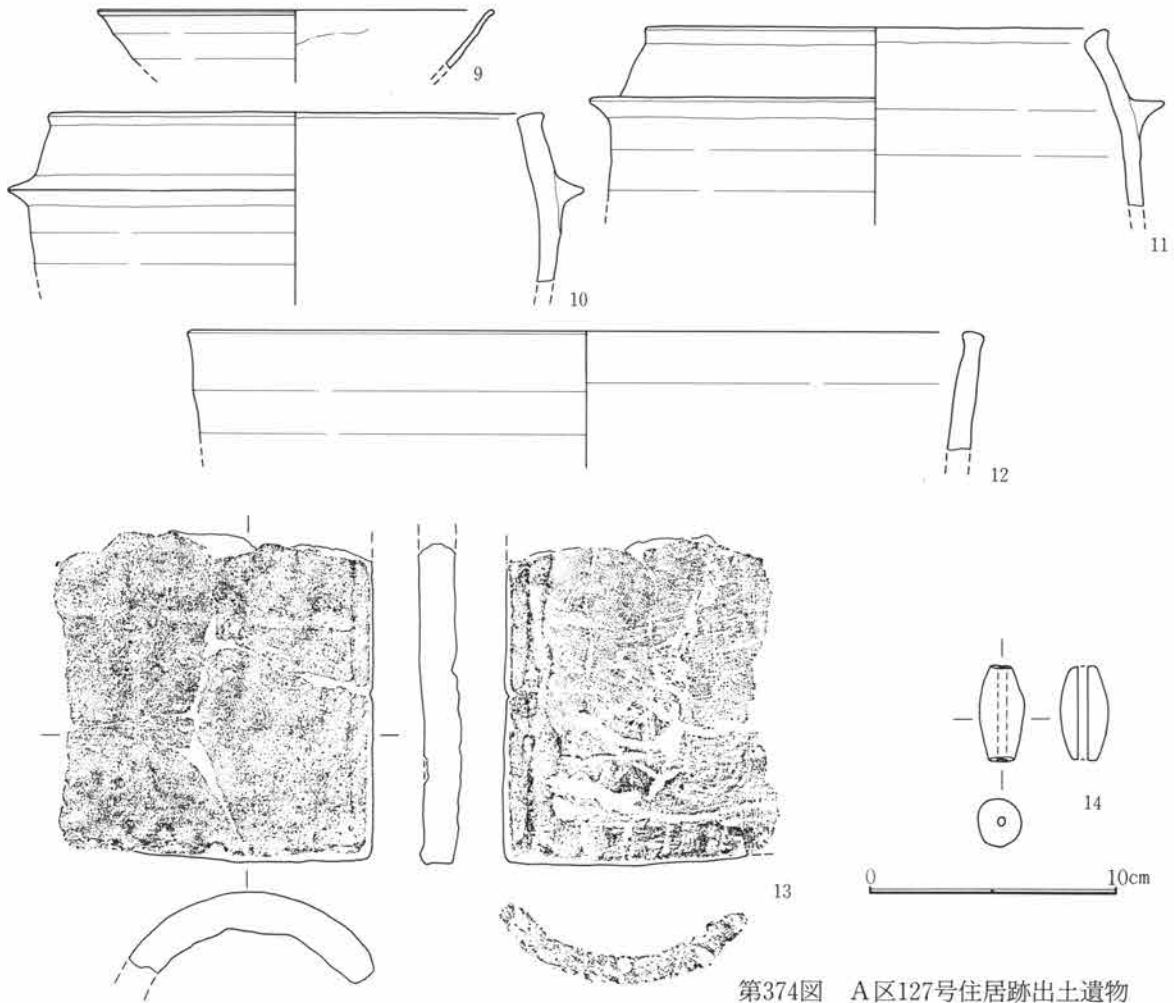


第372図 A区127号住居跡竈

- A区127号住居跡竈
- 1 暗褐色土層 地山ブロック含む
 - 2 暗褐色土層 粘土含む
 - 3 暗褐色土層 焼土、灰含む
 - 4 暗褐色土層 焼土粒少量含む
 - 5 焼土
 - 6 焼土・粘土



第373図 A区127号住居跡出土遺物(1)



第374図 A区127号住居跡出土遺物

A区128号住居跡 (第375・376・377図、第29・138・139図版)

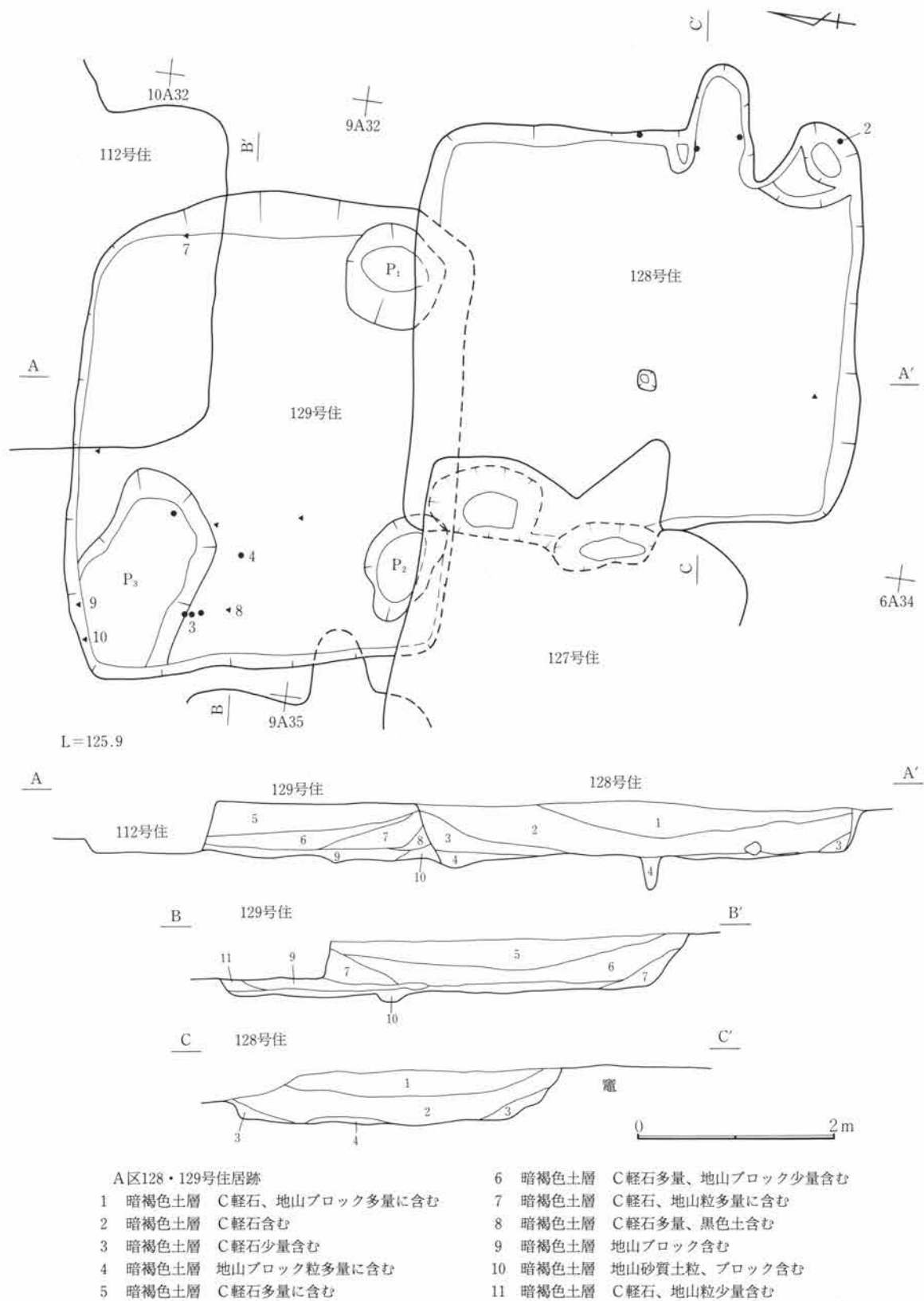
A区南部に位置し6~8A31~34の範囲にある。112号住居跡の南にある。他の遺構との関係は東部で110号住居跡、西北部で127号住居跡・129号住居跡と重複している。新旧関係は129号住居跡より新しく、127号住居跡より古い。規模は長辺4.7m、短辺4.45mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-82°-Eである。壁高は約50cm~60cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・柱穴等の諸施設は検出されていない。南東隅に貯蔵穴と考えられる小穴が検出された。規模は90cm×55cm、深さ約15cmを測る。また西壁に沿い小穴が2基検出され、各々1・2とした。規模は1、1.1m×70cm、深さ約15cm、2、1.1m×40cm、深さ約10cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。両袖部は約20cm~30cmの幅で床面に延びている。規模は袖幅70cm、燃烧部長1.2mを測る。

A区129号住居跡 (第375・378・379図、第29・139図版)

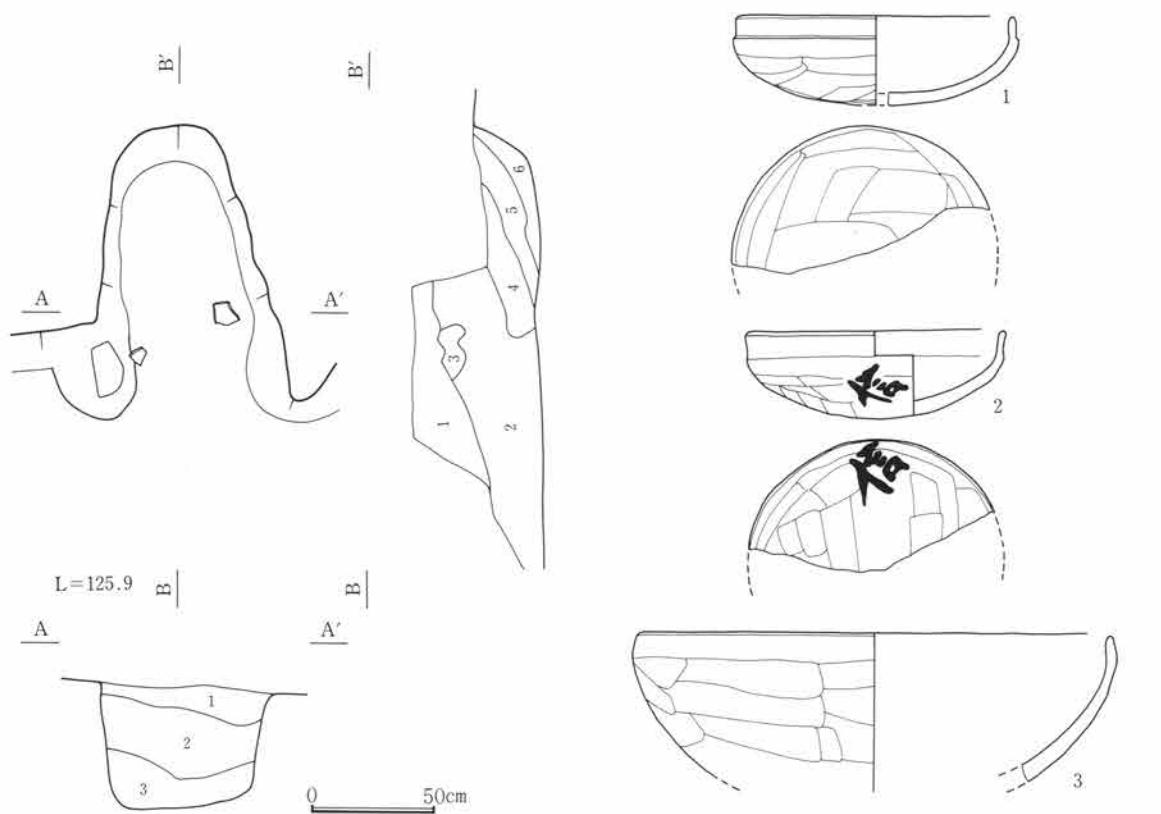
A区南部に位置し8~10A32~35の範囲にある。124号住居跡の西にある。他の遺構との関係は、北東部で112号住居跡、西部で140号住居跡、南西部で127号住居跡、南東部で128号住居跡と重複している。新旧関係は127号住居跡・128号住居跡より旧く、140号住居跡より新しい。112号住居跡との新旧関係は不明である。規模は長辺4.95m、短辺3.9mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位は竈が検出されていないため不明である。壁高は約20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、貯蔵穴・柱穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。東・西・北西各隅に小穴が検出された。各々1~3とした。規模は1、1.5m×1.2m、深さ約20cm、

第4章 検出された遺構・遺物

2、1.3m×70cm、深さ約10cm、3、不定形をなし1.95m×1.2m、深さ約4cm～5cmを測る。



第375図 A区128・129号住居跡

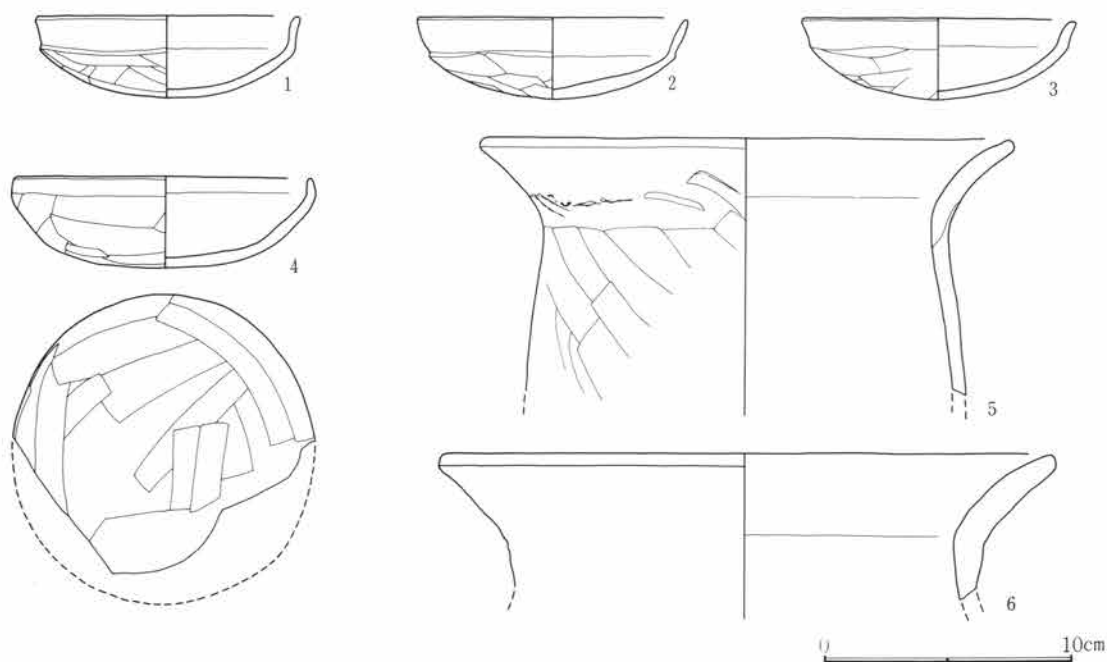


A区128号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石、地山ブロック多量に含む
- 2 暗褐色土層 粘質土ブロック含む
- 3 暗褐色土層 C軽石多量、地山土ブロック、黒色土ブロック含む
- 4 暗褐色土層 C軽石少量、焼土粒、粘土粒多量に含む
- 5 赤褐色焼土層
- 6 灰層

第376図 A区128号住居跡竈

第377図 A区128号住居跡出土遺物



第378図 A区129号住居跡出土遺物(1)

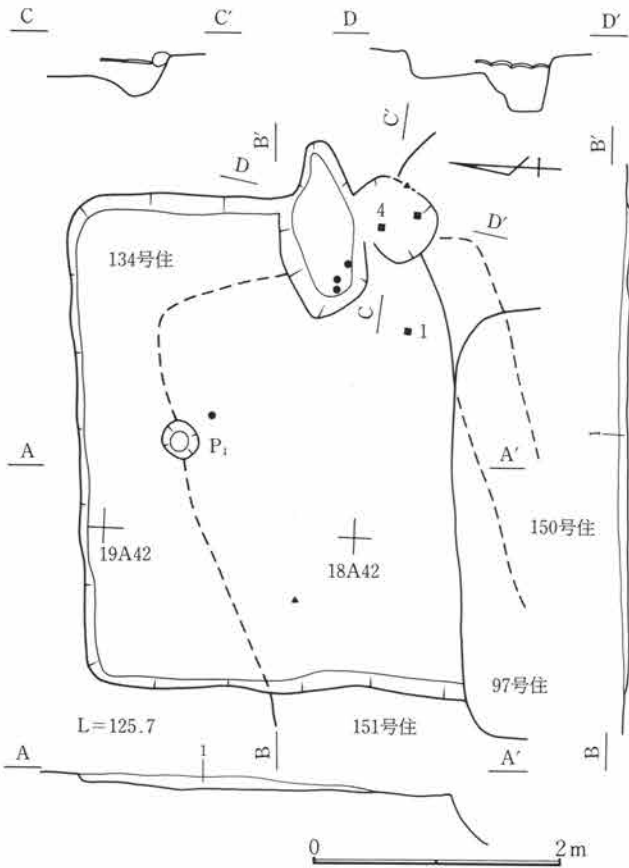


第379図 A区129号住居跡出土遺物(2)

A区134号住居跡 (第380・381・382・383図、第30・139・140・175図版)

A区中央部に位置し17～19A40～42の範囲にある。71号住居跡の南にある。他の遺構との関係は南部で97号住居跡・150号住居跡・151号住居跡・171号住居跡と重複している。新旧関係は150号住居跡・151号住居跡・171号住居跡より新しく、97号住居跡より古い。規模は長辺4.2m、短辺は西壁残存部で3mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-84°-Eである。壁高は約3cm～8cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・柱穴等の諸施設は検出されていない。床面上には小穴が1基検出された。規模は径約30cm、深さ約20cmを測る。南西隅に貯蔵穴と考えられる小穴が検出された。規模は径約1.15mを測り、深さ約15cmを測る。小穴底部には瓦が敷いた状態で検出された。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅60cm、同長70cmを測る。

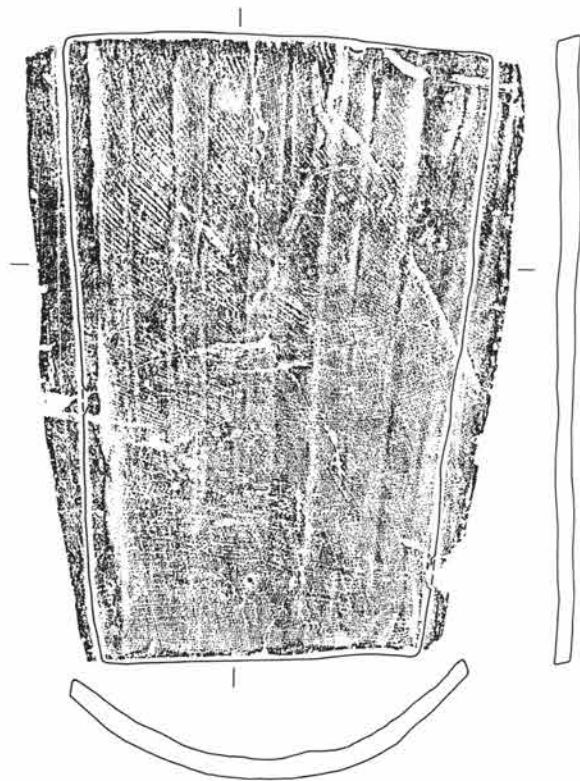
掘り方面 南西隅小穴は底部瓦取り上げ後さらに約30cm下がる。



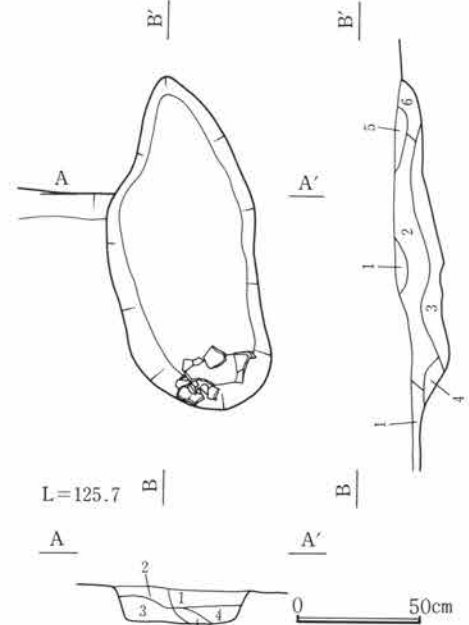
A区134号住居跡

1 暗褐色土層 C軽石多量、ロームブロック少量含む

第380図 A区134号住居跡



第382図 A区134号住居跡出土遺物(1)

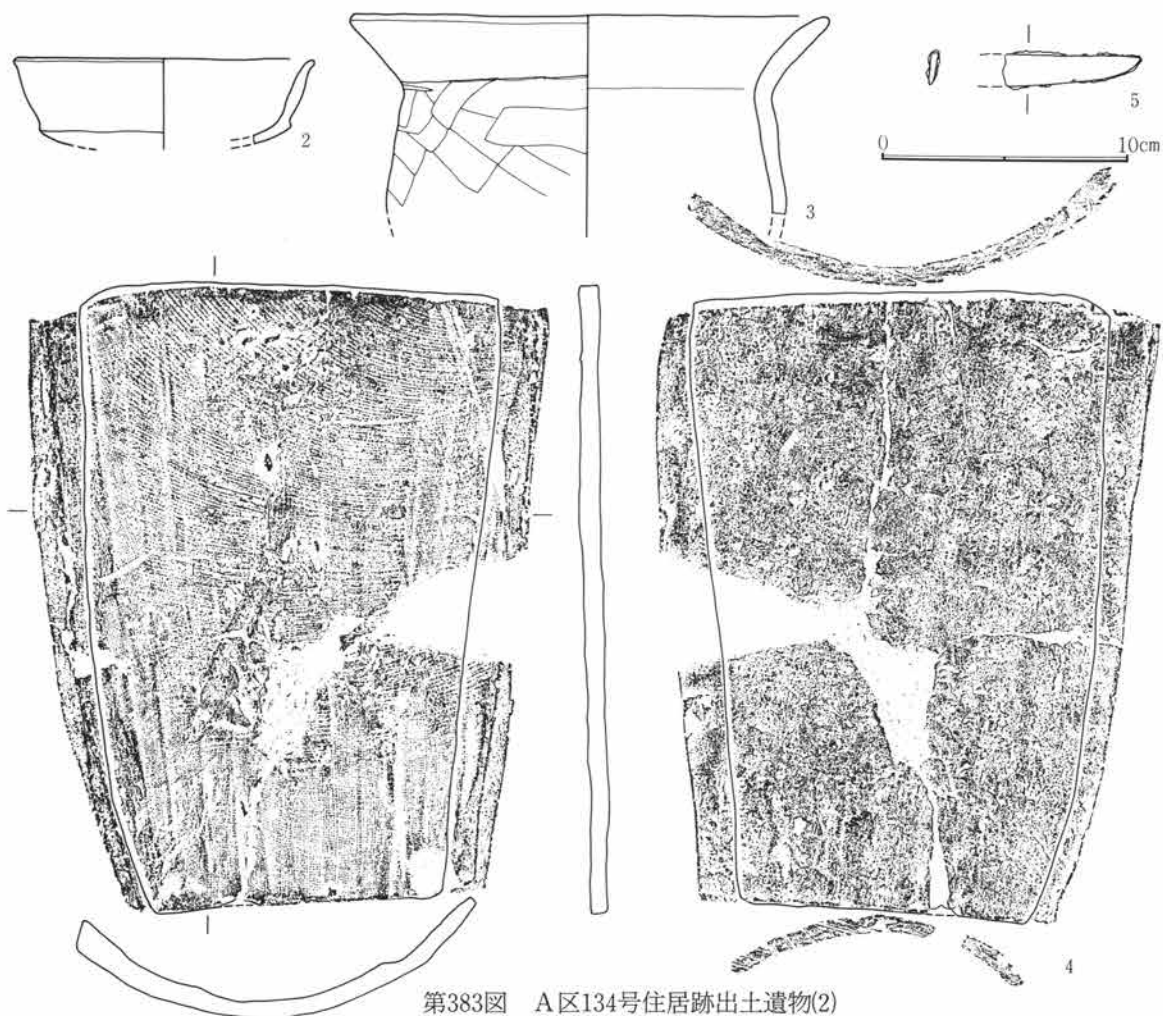


A区134号住居跡竈

- 1 黒褐色土層 C軽石少量含む
- 2 暗褐色土層 焼土粒多量、灰少量含む
- 3 灰褐色土層 灰主体、焼土粒少量含む
- 4 灰褐色土層 灰、焼土粒含む
- 5 暗褐色土層 C軽石、焼土粒含む
- 6 暗褐色土層 C軽石含む

第381図 A区134号住居跡竈





第383図 A区134号住居跡出土遺物(2)

A区135号住居跡 (第384・385・388・391図、第30・139図版)

A区中央部に位置し10～13A36～39の範囲にある。83号住居跡の西にある。他の遺構との関係は、南半部で142・146号住居跡、南東部で139・141号住居跡、東部で143号住居跡と重複している。新旧関係は139・142・146号住居跡より旧く、143号住居跡より新しい。規模は長辺6.1m、短辺5.8mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-94°-Eである。壁高は約10cm～40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝は検出されていない。南東隅に貯蔵穴と考えられる小穴が検出された。形状は楕円形を呈し、規模は75cm×55cm、深さ約40cmを測る。また柱穴と考えられる小穴が6基検出された。各々1～6とした。形状は円形を呈し、規模は各々1、径約25cm、深さ約50cm、2、径約35cm、深さ約45cm、3、径約40cm、深さ約50cm、4、径約40cm、深さ約60cm、5、径約35cm、深さ約60cm、6、50cm×25cm、深さ約25cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。左袖部は142号住居跡により一部が壊されている。規模は燃焼部幅約1.2m、同長1.2mを測る。

A区139号住居跡 (第386・387・389・392図、第31・139・175図版)

A区中央部に位置し9～11A36～38の範囲にある。84号住居跡の東にある。他の遺構との関係は135号住居跡・141号住居跡・142号住居跡・143号住居跡・146号住居跡と重複している。新旧関係は135号住居跡・141号住居跡・142号住居跡・143号住居跡・146号住居跡より新しい。規模は長辺3.5m、短辺3.05mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-83°-Eである。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁ほぼ中央に検出された。規模は燃焼部幅70cm、同長1mを測る。

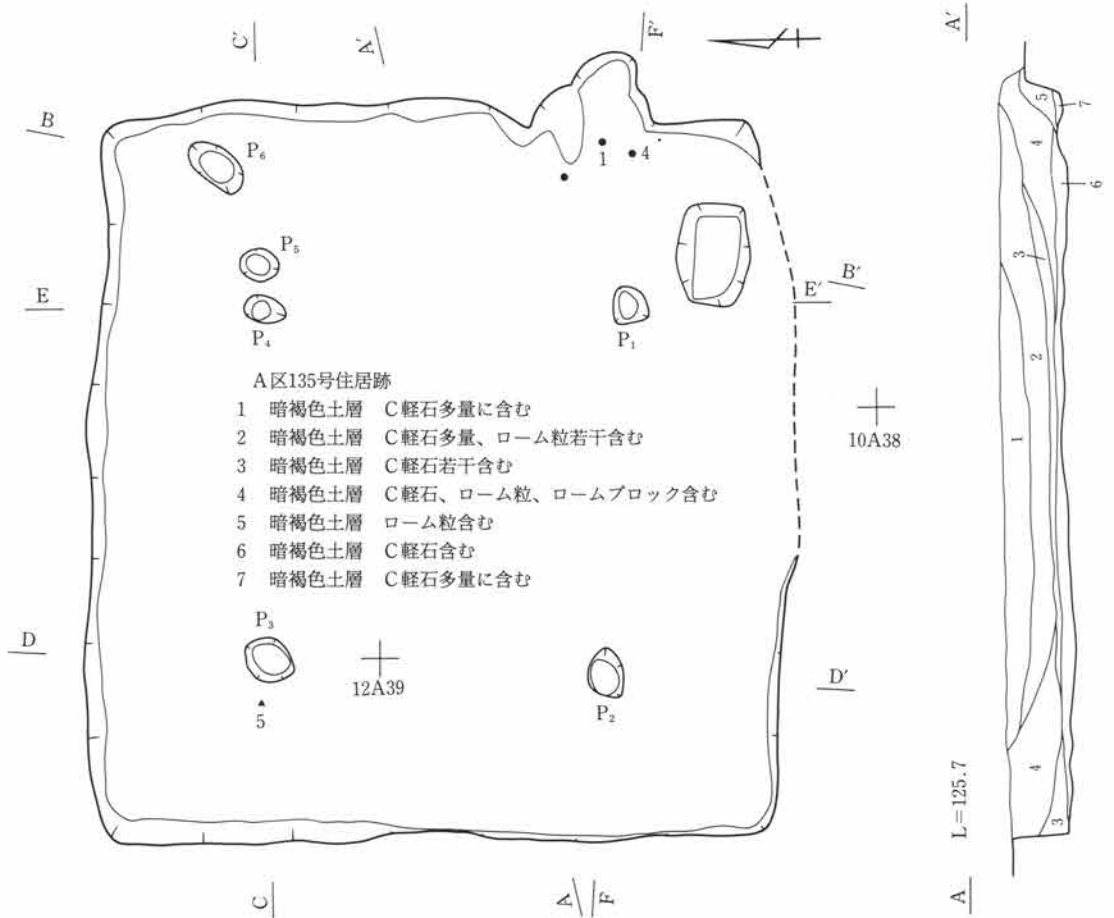
A区142号住居跡・143号住居跡・146号住居跡（第386・390・396図、第31・141図版）

A区中央部に位置し10～12A36～39の範囲にある。83号住居跡の西にある。他の遺構との関係は、北半部で135号住居跡、南西部で146号住居跡、南東部で139号住居跡・143号住居跡と重複している。新旧関係は135号住居跡・139号住居跡・143号住居跡より新しく、139号住居跡より古い。146号住居跡との新旧関係は不明である。規模は長辺5.5m、短辺4.7mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-82°-Eである。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出され、135号住居跡の竈左袖一部を壊している。左右の袖は床面に約1m延びて検出された。規模は袖幅90cm、燃烧部長1.9mを測る。

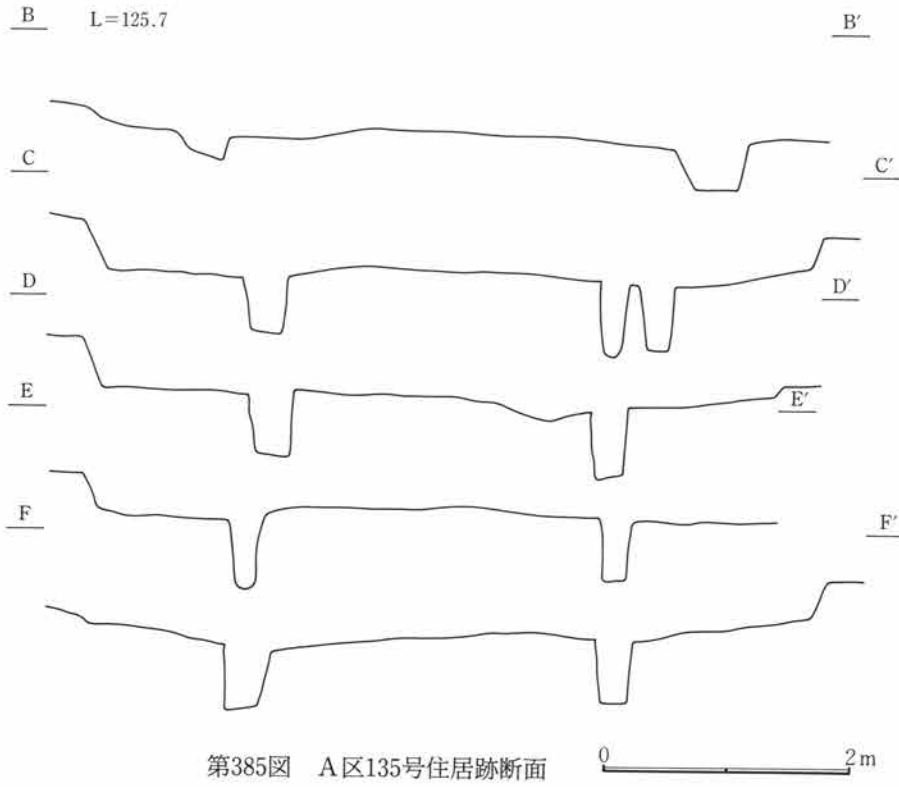
143号住居跡は142号住居跡東部に一部が検出された。10・11A36の範囲にある。床面の一部が検出され東部の大部分は中世の溝により壊されている。146号住居跡は142号住居跡・139号住居跡の西に床面の一部を検出した。9～11A38・39の範囲にある。

A区140号住居跡（第387・393図、第31・140・141・172図版）

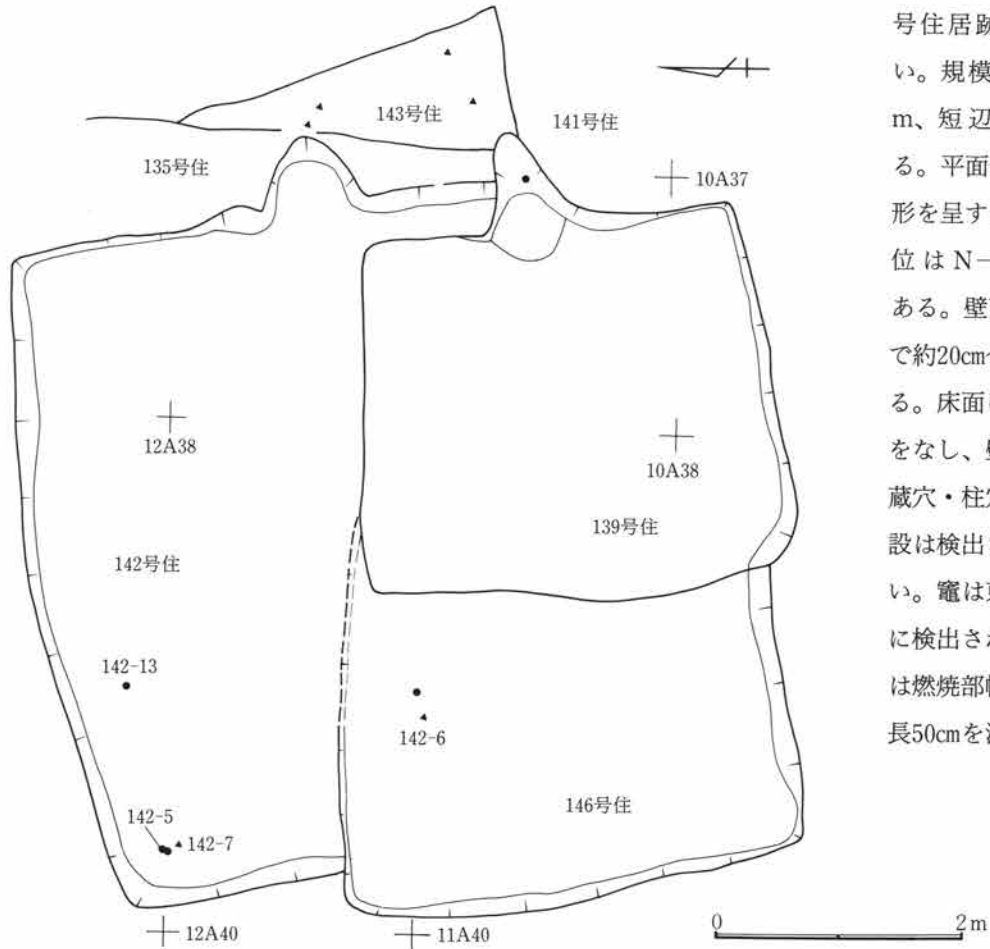
A区南部に位置し8・9A34～36の範囲にある。83号住居跡の南にある。他の遺構との関係は西北部で141号住居跡、東部で129号住居跡、南東部で127号住居跡と重複している。新旧関係は141号住居跡より新しく、127号住居跡・129号住居跡より古い。規模は長辺4.15m、短辺3.4mを測る。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-85°-Eである。壁高は南壁で約15cm～30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃烧部幅70cm、同長50cmを測る。



第384図 A区135号住居跡



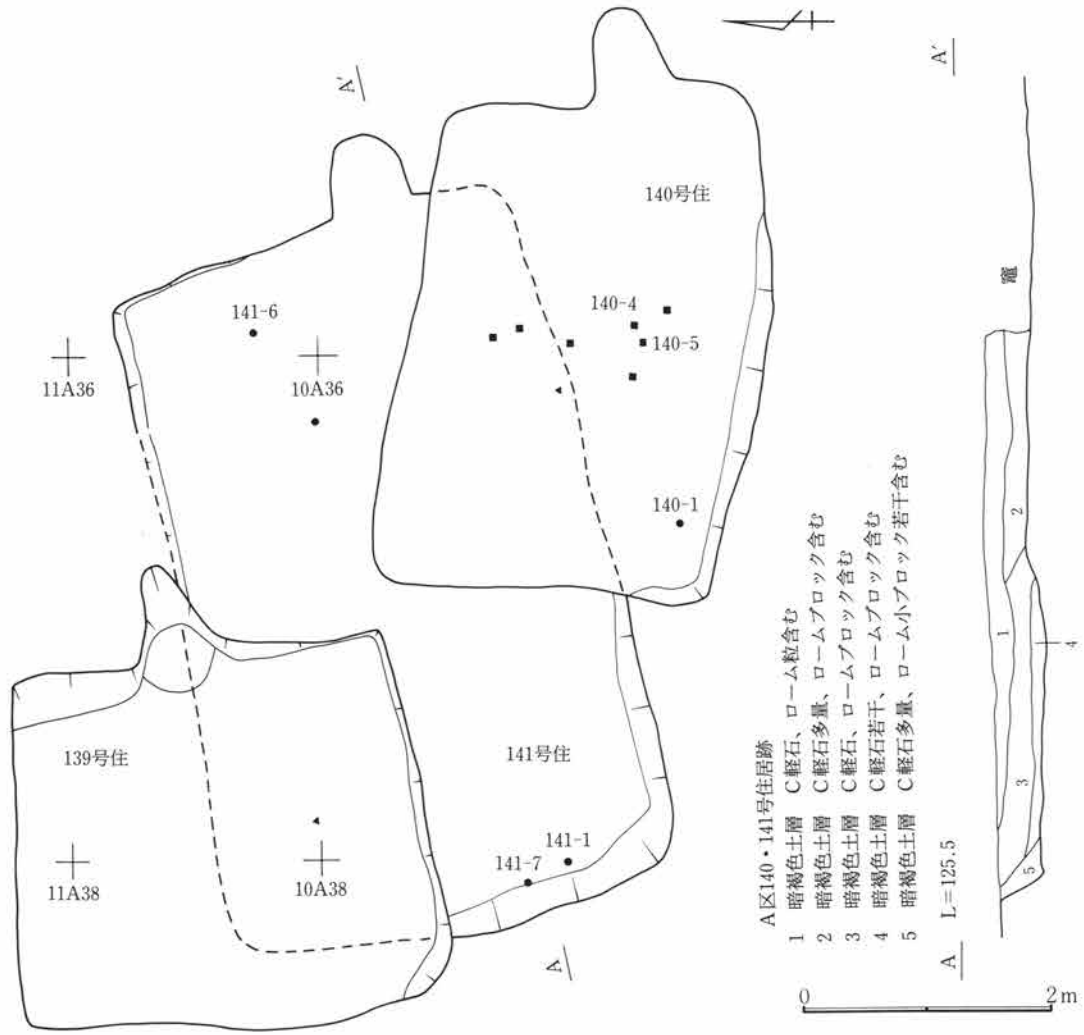
第385図 A区135号住居跡断面



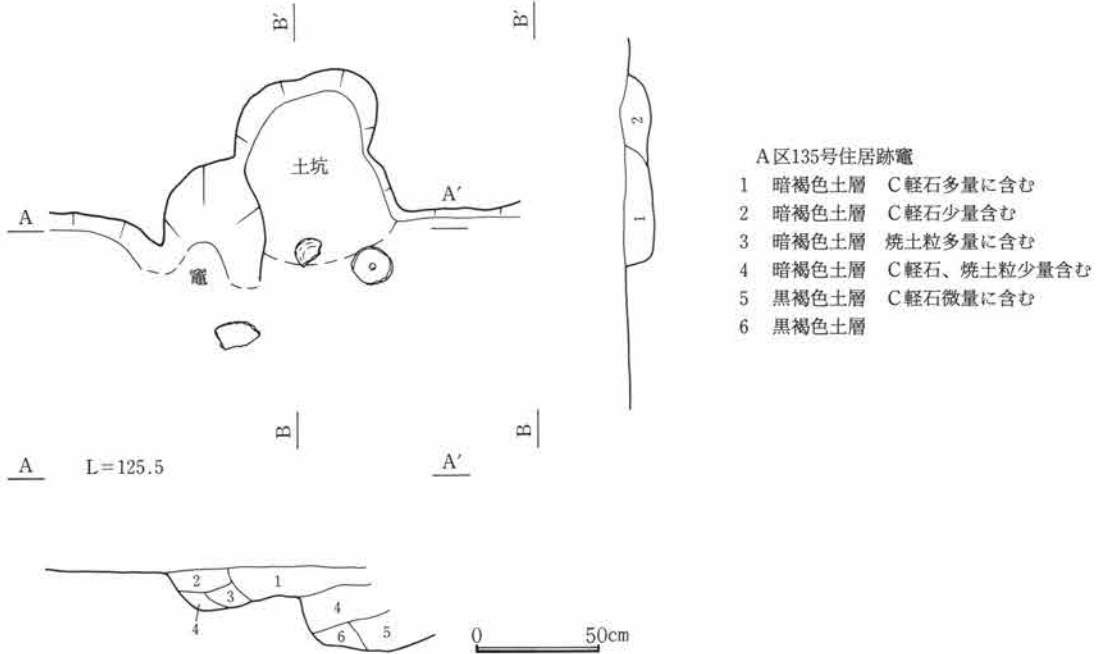
第386図 A区139・142・143・146号住居跡

A区141号住居跡
(第387・394・395
図、第31・32・141・
172図版)

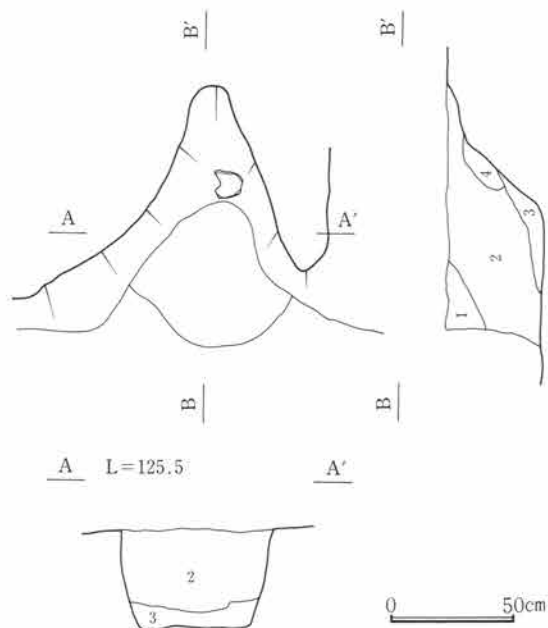
A区中央部に位置し8~10A35~38の範囲にある。120号住居跡の東にある。他の遺構との関係は西北部で139号住居跡、南東部で140号住居跡・143号住居跡、南西部で85号住居跡と重複している。新旧関係は85号住居跡・139号住居跡・140号住居跡より旧く、85号住居跡より新しい。規模は長辺5.8m、短辺3.9mを測る。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-72°-Eである。壁高は南西部で約20cm~30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅55cm、同長50cmを測る。



第387図 A区139・140・141号住居跡



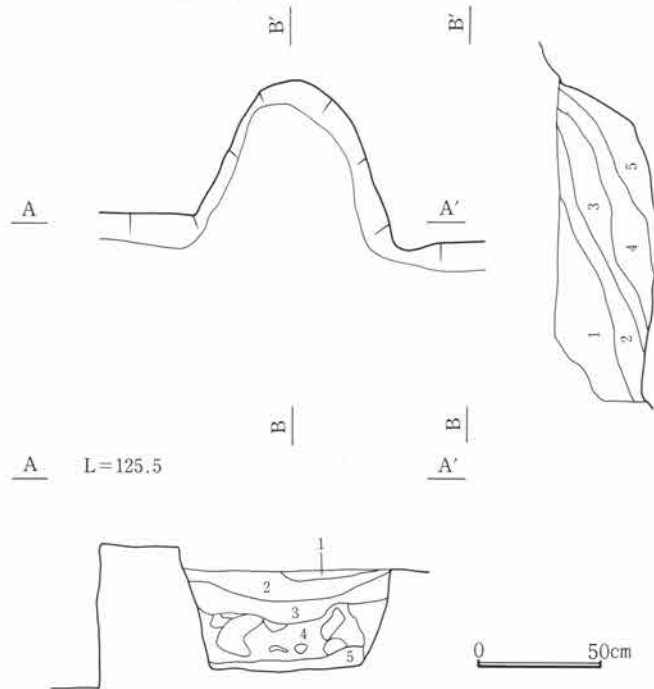
第388図 A区135号住居跡竪穴・土坑



A区139号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石多量、焼土粒少量含む
- 2 暗褐色土層 C軽石多量、焼土ブロック少量含む
- 3 暗褐色土層 C軽石少量含む
- 4 黒褐色土層 C軽石多量に含む

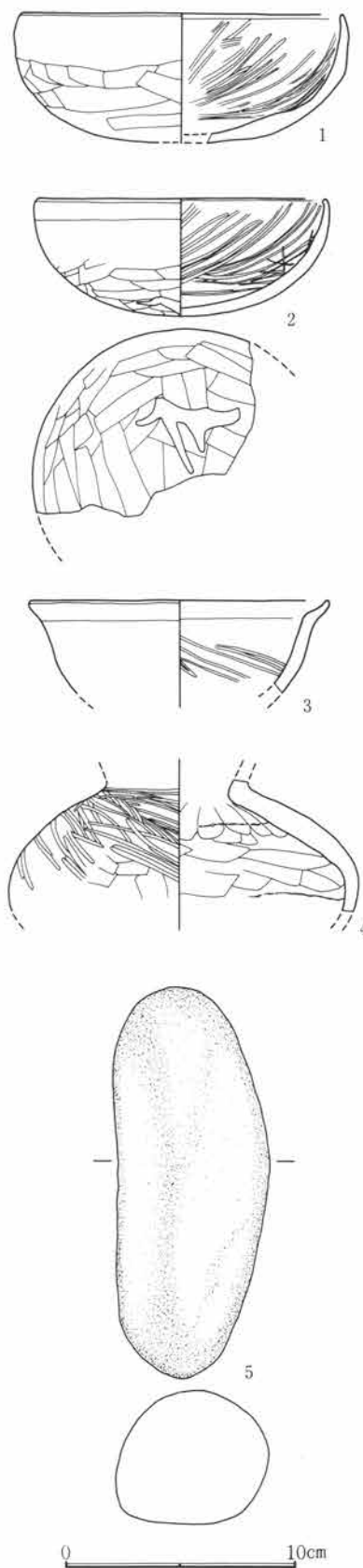
第389図 A区139号住居跡竈



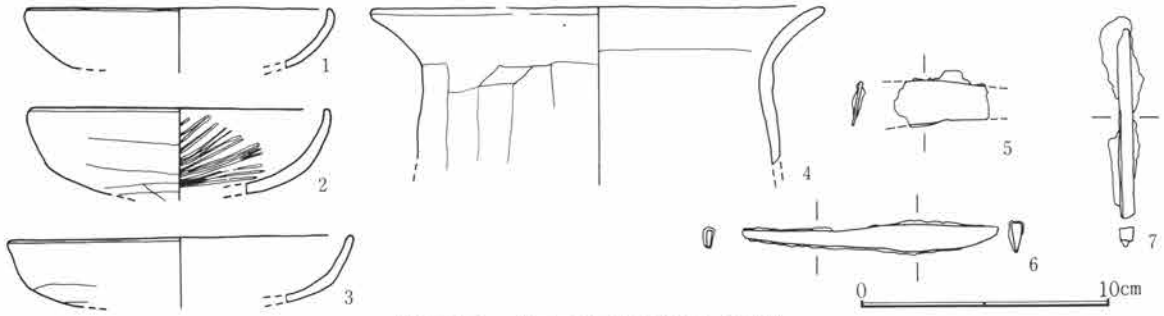
A区142号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石混入、焼土粒多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石含む、粘土ブロック多量に含む
- 3 暗褐色土層 C軽石微量に含む
- 4 暗褐色土層 焼土粒、ブロック多量に含む
- 5 灰層

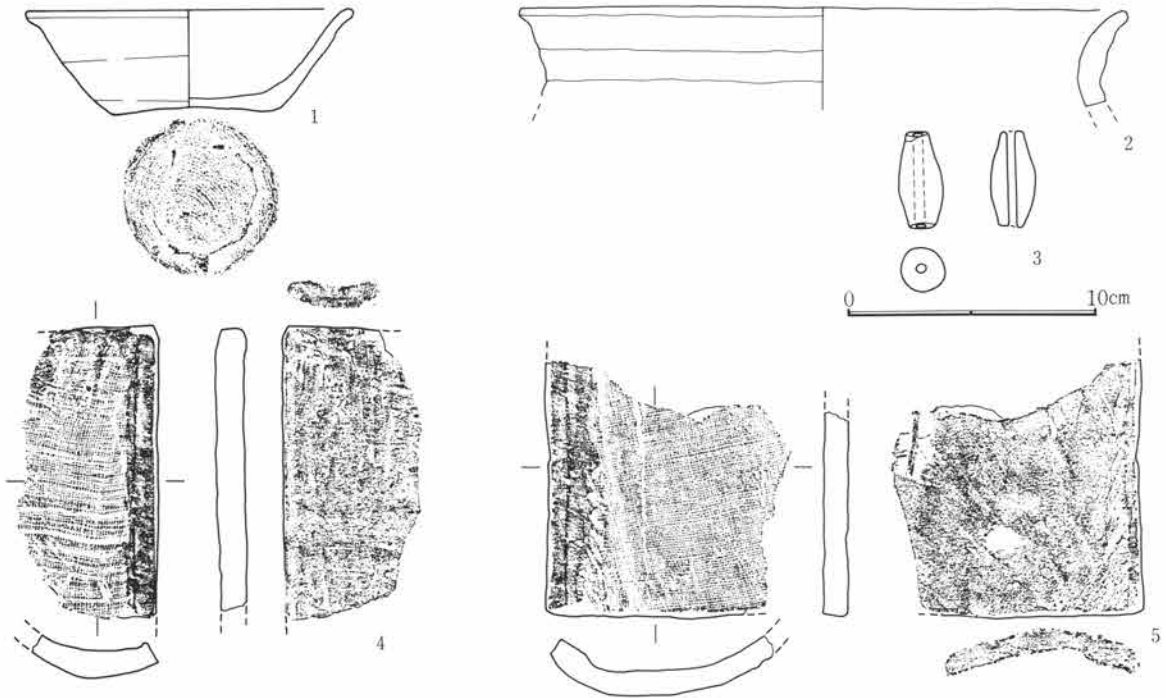
第390図 A区142号住居跡竈



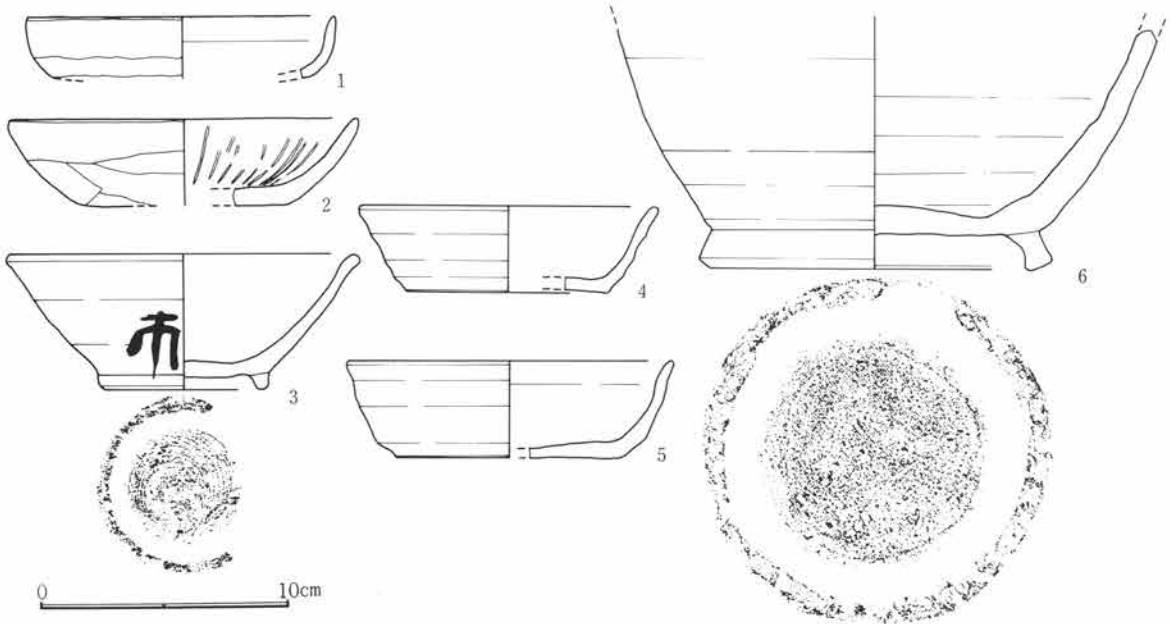
第391図 A区135号住居跡出土遺物



第392図 A区139号住居跡出土遺物

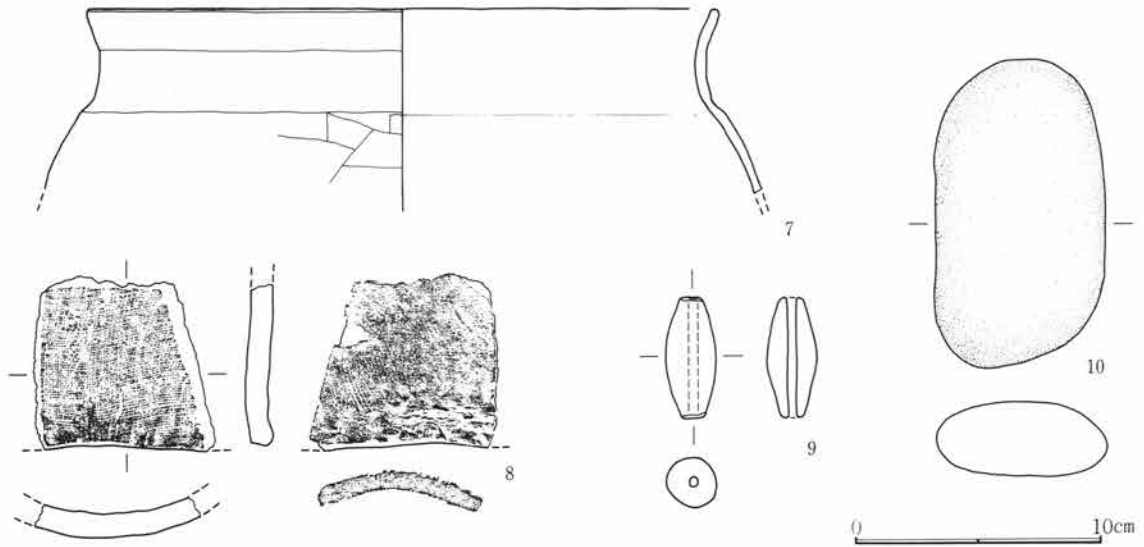


第393図 A区140号住居跡出土遺物

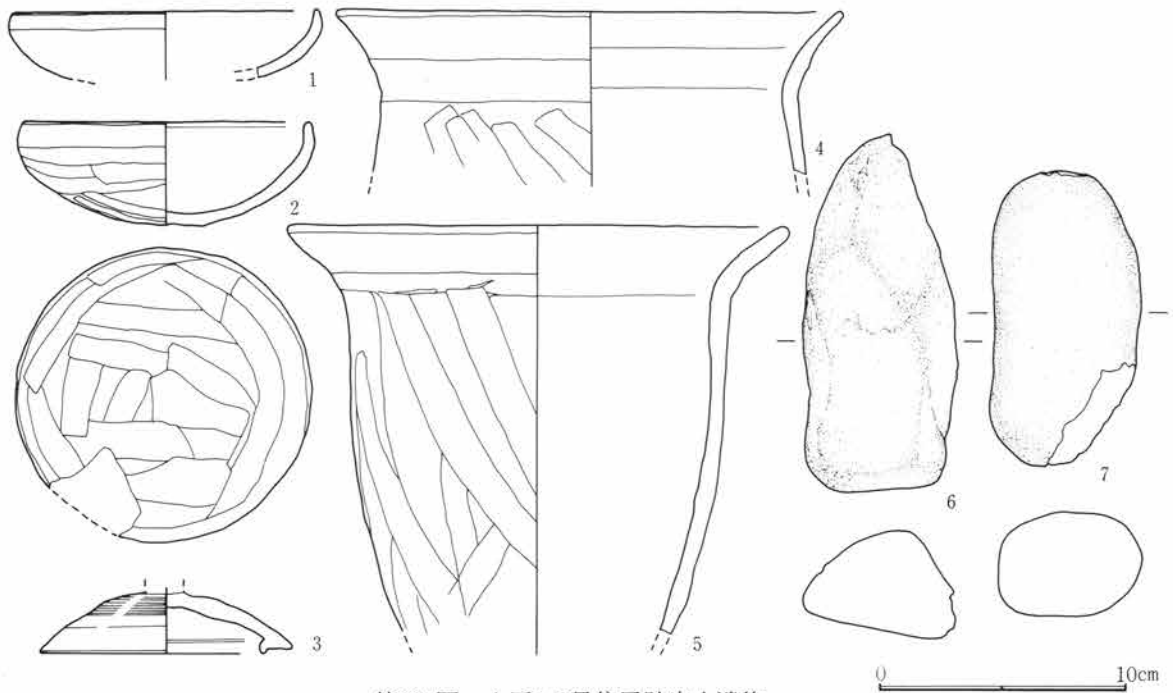


第394図 A区141号住居跡出土遺物(1)

第4章 検出された遺構・遺物



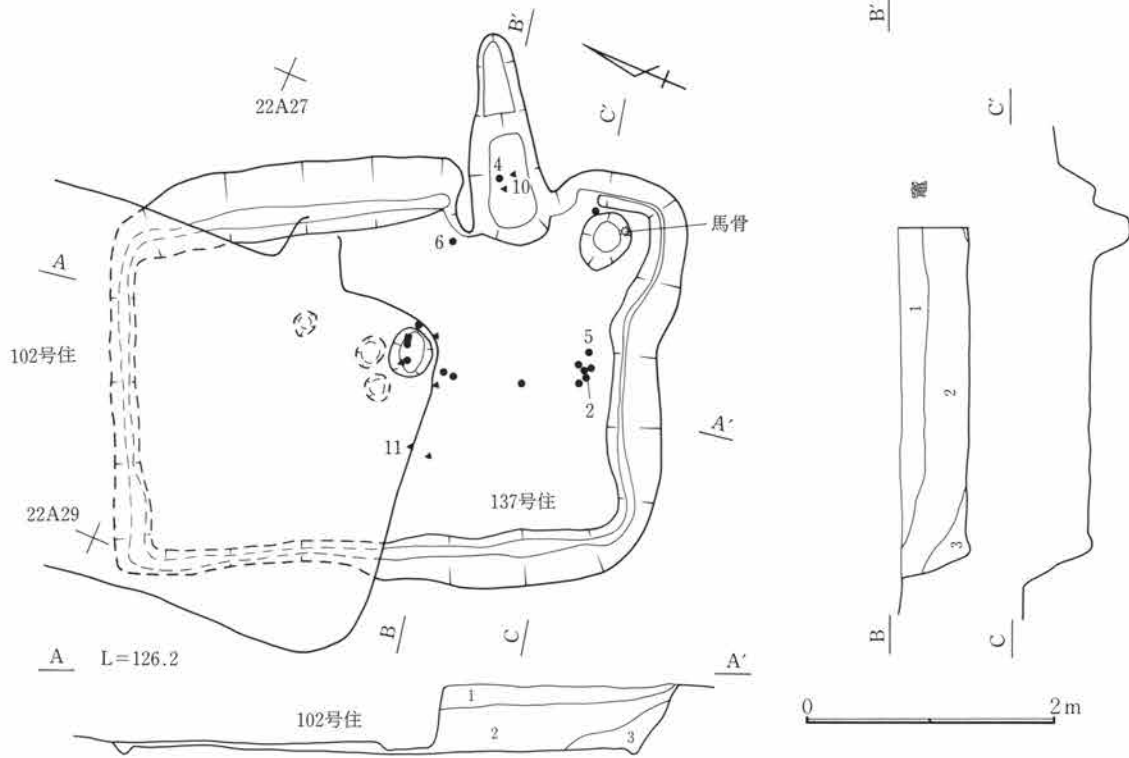
第395図 A区141号住居跡出土遺物(2)



第396図 A区142号住居跡出土遺物

A区137号住居跡 (第397・398・399・400図、第30・31・141・142図版)

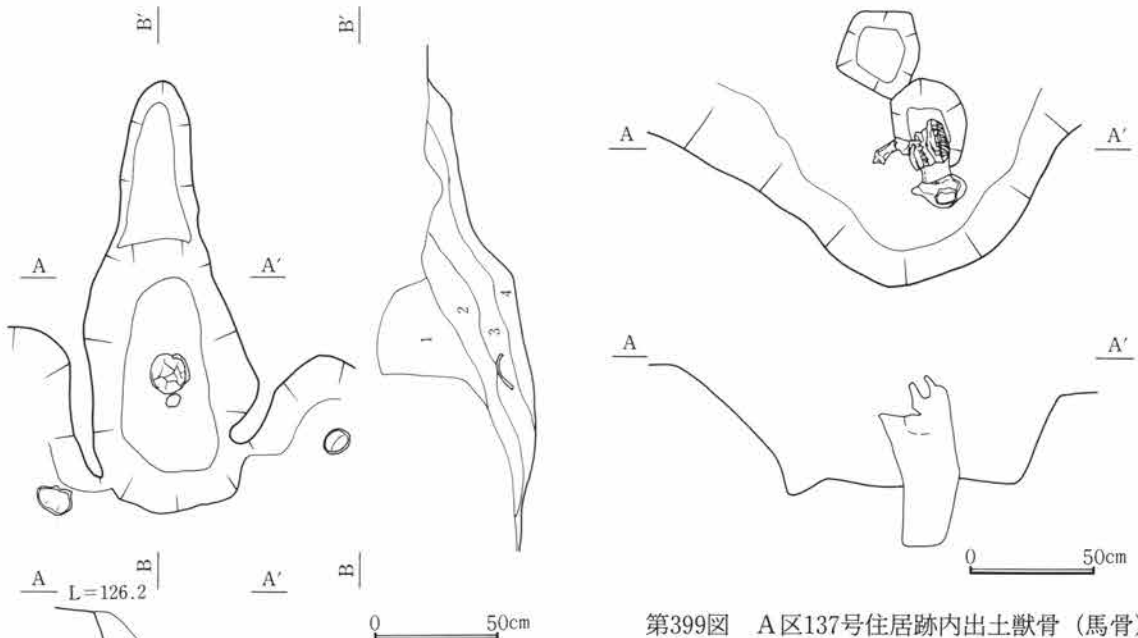
A区北東部に位置し19～22A26～29の範囲にある。11号住居跡の西北にある。他の遺構との関係は西北部で102号住居跡と重複している。新旧関係は137号住居跡が古い。規模は長辺4.1m、短辺3.45mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-71°-Eである。壁高は約40cm～50cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、四周に壁周溝が認められた。南東隅に貯蔵穴と考えられる小穴、床面上に小穴が検出され、各々1～4とした。規模は1、45cm×40cm、深さ約30cm、2、径約20cm、深さ約5cm、3、径約30cm、深さ約5cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅70cm、同長1m、煙道部長65cmを測る。



A区137号住居跡

- 1 黒褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 黒褐色土層 C軽石混入、ロームブロック含む
- 3 黒褐色土層 C軽石若干含む

第397図 A区137号住居跡



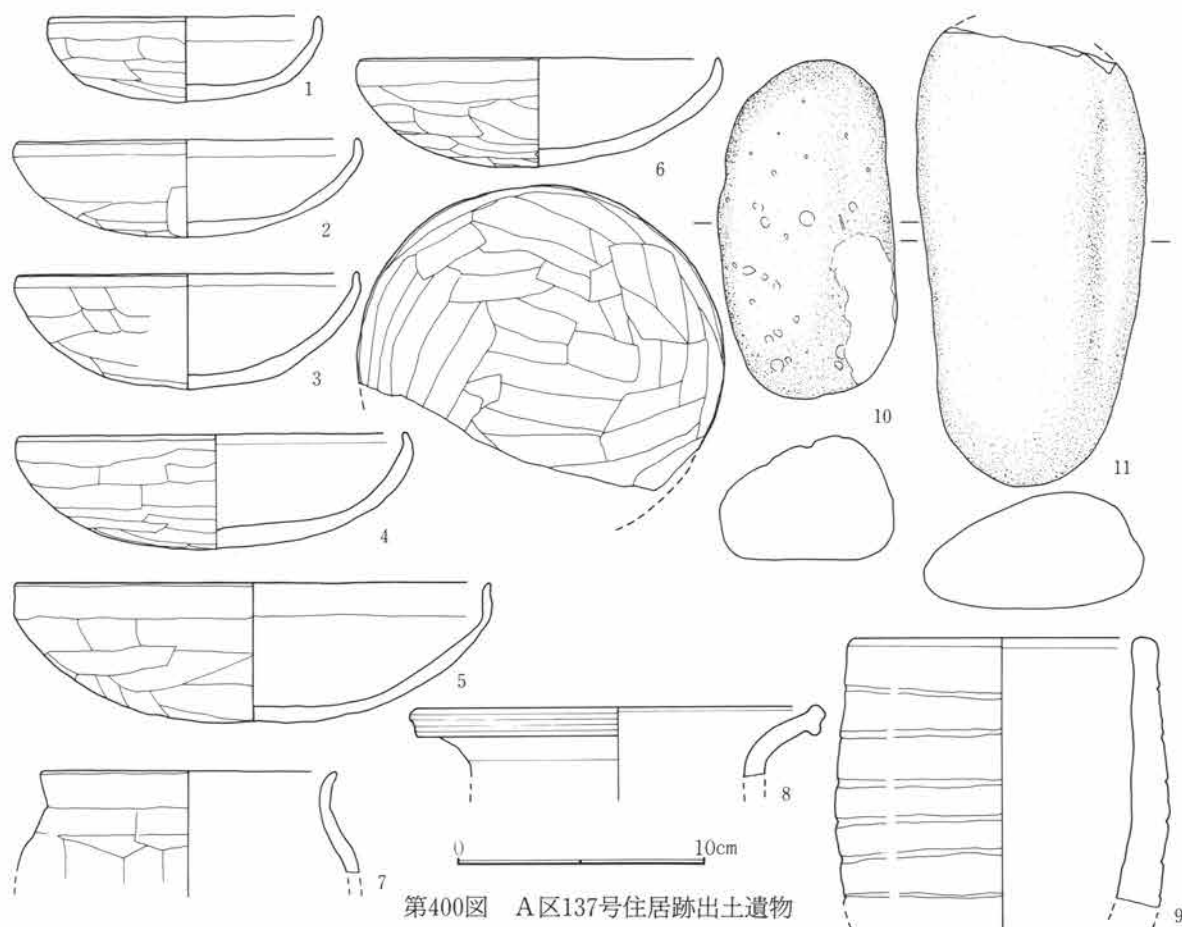
第399図 A区137号住居跡内出土獣骨（馬骨）

A区137号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石少量、焼土粒多量に含む
- 3 赤褐色土層 焼土ブロック多量に含む
- 4 灰褐色土層 焼土粒、カーボン少量、灰多量に含む

第398図 A区137号住居跡竈

第4章 検出された遺構・遺物



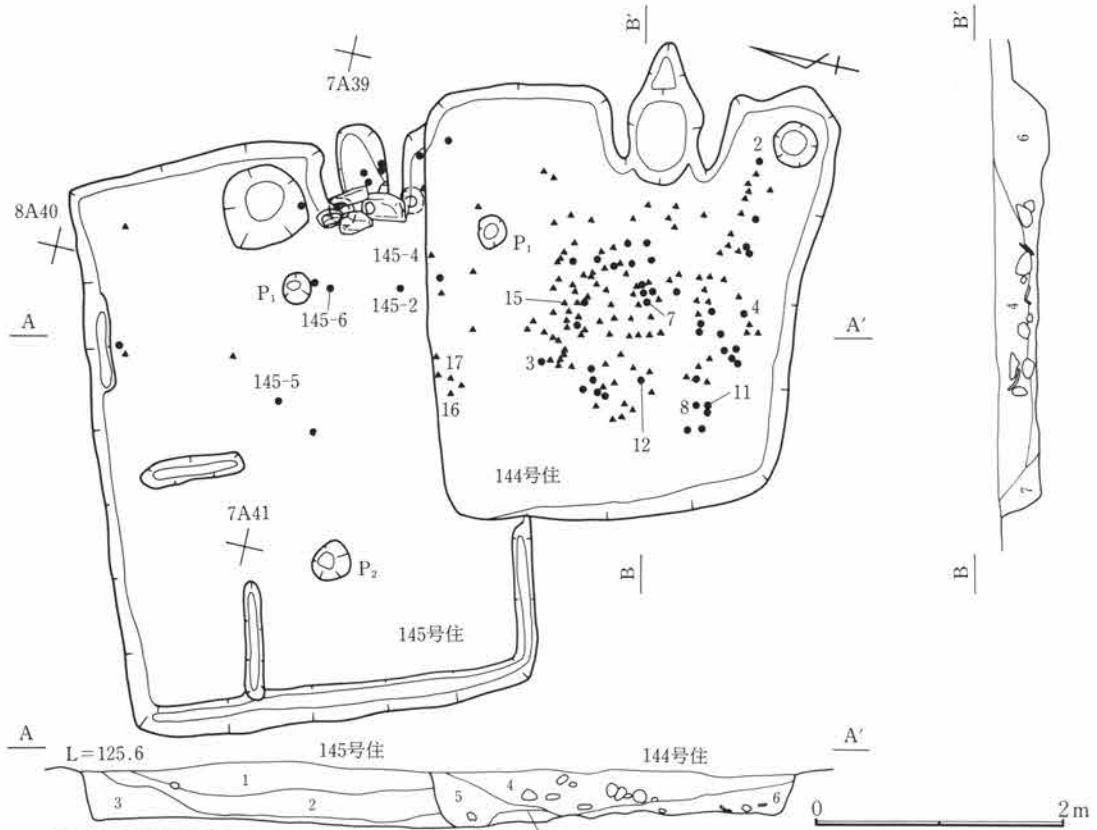
第400図 A区137号住居跡出土遺物

A区144号住居跡 (第401・402・404・405図、第32・142・143図版)

A区南部に位置し5・6A38～40の範囲にある。120号住居跡の南東にある。他の遺構との関係は西北部で145号住居跡と重複している。新旧関係は144号住居跡が新しい。規模は長辺3.45m、短辺3.3mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-77.5°-Eである。壁高は約30cm～40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・柱穴等の諸施設は検出されていない。南東隅に貯蔵穴と考えられる小穴が検出された。形状はほぼ円形を呈し、規模は径約30cm、深さ約45cmを測る。また北部に小穴が1基検出された。形状は円形を呈し、規模は径約25cm、深さ約40cmを測る。竈は東壁やや南寄りに検出された。両袖部は壁から約70cm～80cm床面に延びている。規模は袖幅70cm、燃烧部幅60cm、同長75cm、煙道部長35cmを測る。

A区145号住居跡 (第401・403・406・407図、第32・143図版)

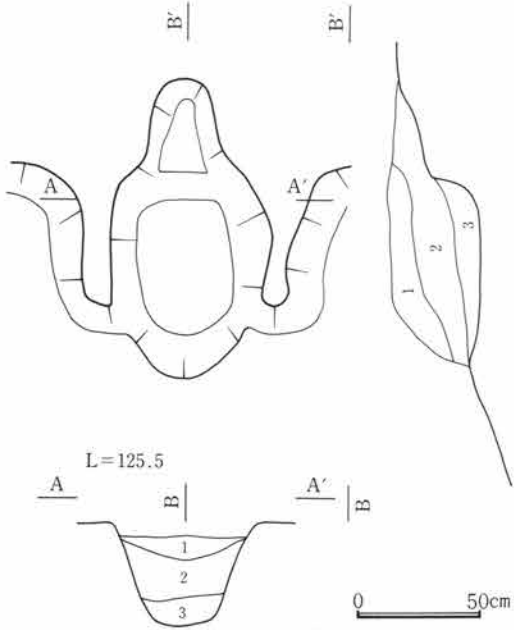
A区南西部に位置し5～7A39～41の範囲にある。120号住居跡の南東にある。他の遺構との関係は西北部で107号住居跡、南東部で144号住居跡と重複している。新旧関係は107号住居跡・144号住居跡より古い。規模は長辺4.65m、短辺3.4mを測る。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-71.5°-Eである。壁高は約30cm～35cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、南・北・西壁に周溝が検出された。規模は幅約20cm～25cm、深さ約3cm～5cmを測る。東壁に貯蔵穴と考えられる小穴が検出された。規模は径約70cm、深さ約40cmを測る。床面上に他に小穴と溝状の落ち込みが2基づつ検出された。各々1・2とした。規模は小穴1、径約25cm、深さ約60cm、小穴2、径約30cm、深さ約50cmを測る。溝1、約80cm×20cm、深さ約10cm～20cm、溝2、約95cm×15cm、深さ約10cm～15cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。両袖部は床面に約50cm～60cm延びている。規模は袖幅45cm、燃烧部長80cmを測る。燃烧部前面には構築材と考えられる人頭大の石が検出された。



A区144・145号住居跡

- | | | | |
|---------|--------------------|---------|-----------------|
| 1 黒褐色土層 | ロームブロック若干含む | 6 黒褐色土層 | C軽石、ロームブロック多量含む |
| 2 黒褐色土層 | ロームブロック多量に含む、C軽石混入 | 7 黒褐色土層 | C軽石若干含む |
| 3 黒褐色土層 | C軽石、ロームブロック多量に含む | | |
| 4 黒褐色土層 | C軽石若干、ロームブロック多量に含む | | |
| 5 黒褐色土層 | ロームブロック若干含む | | |

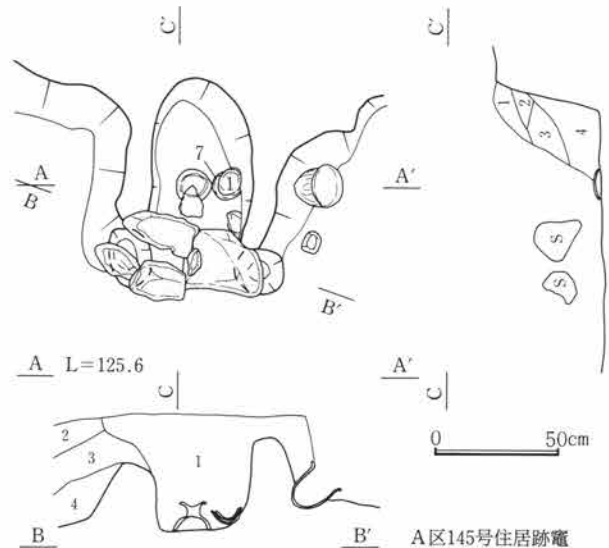
第401図 A区144・145号住居跡



A区144号住居跡竈

- | | |
|---------|-------------------|
| 1 暗褐色土層 | C軽石混入 |
| 2 暗褐色土層 | C軽石、焼土粒、ブロック多量に含む |
| 3 灰層 | |

第402図 A区144号住居跡竈

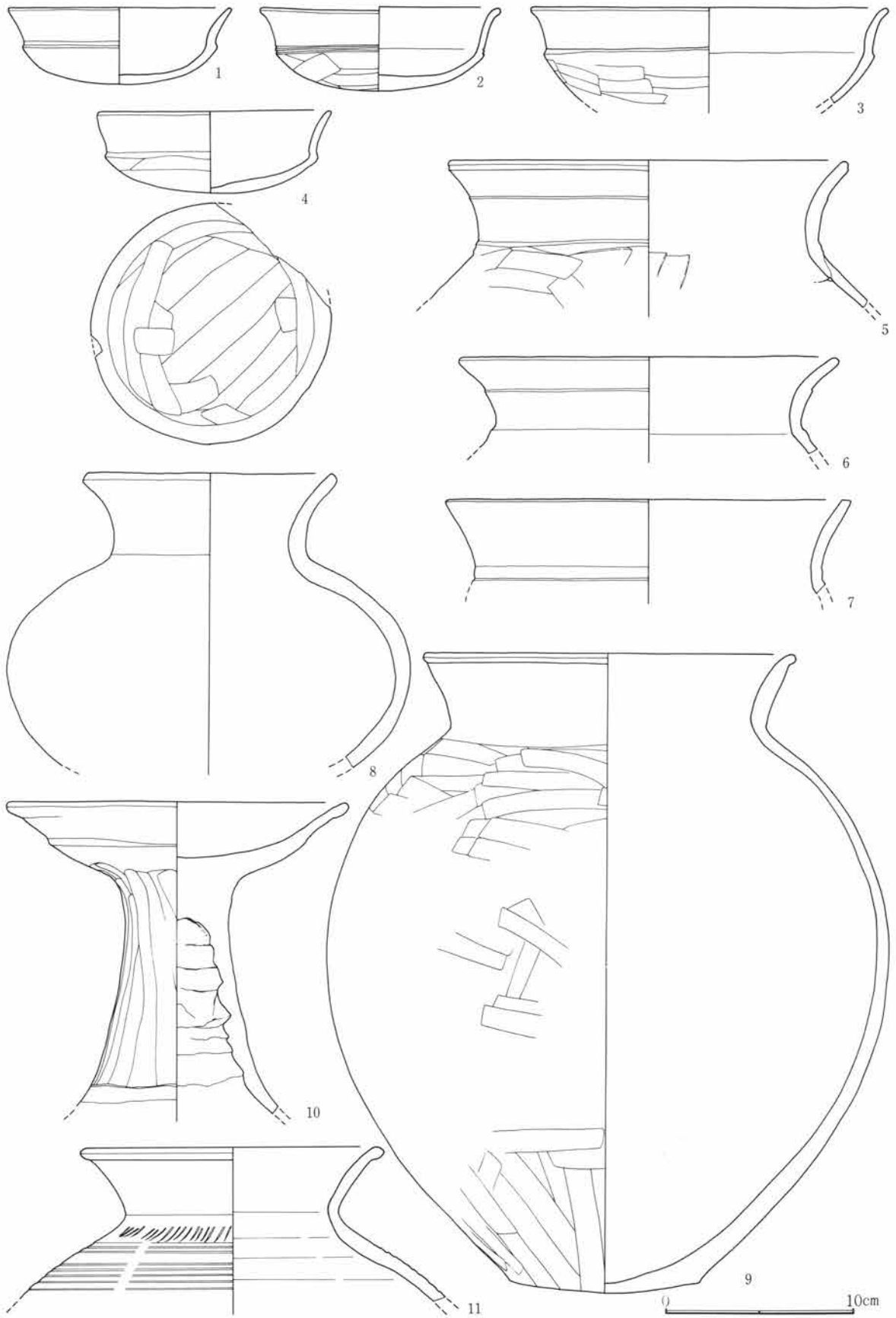


A区145号住居跡竈

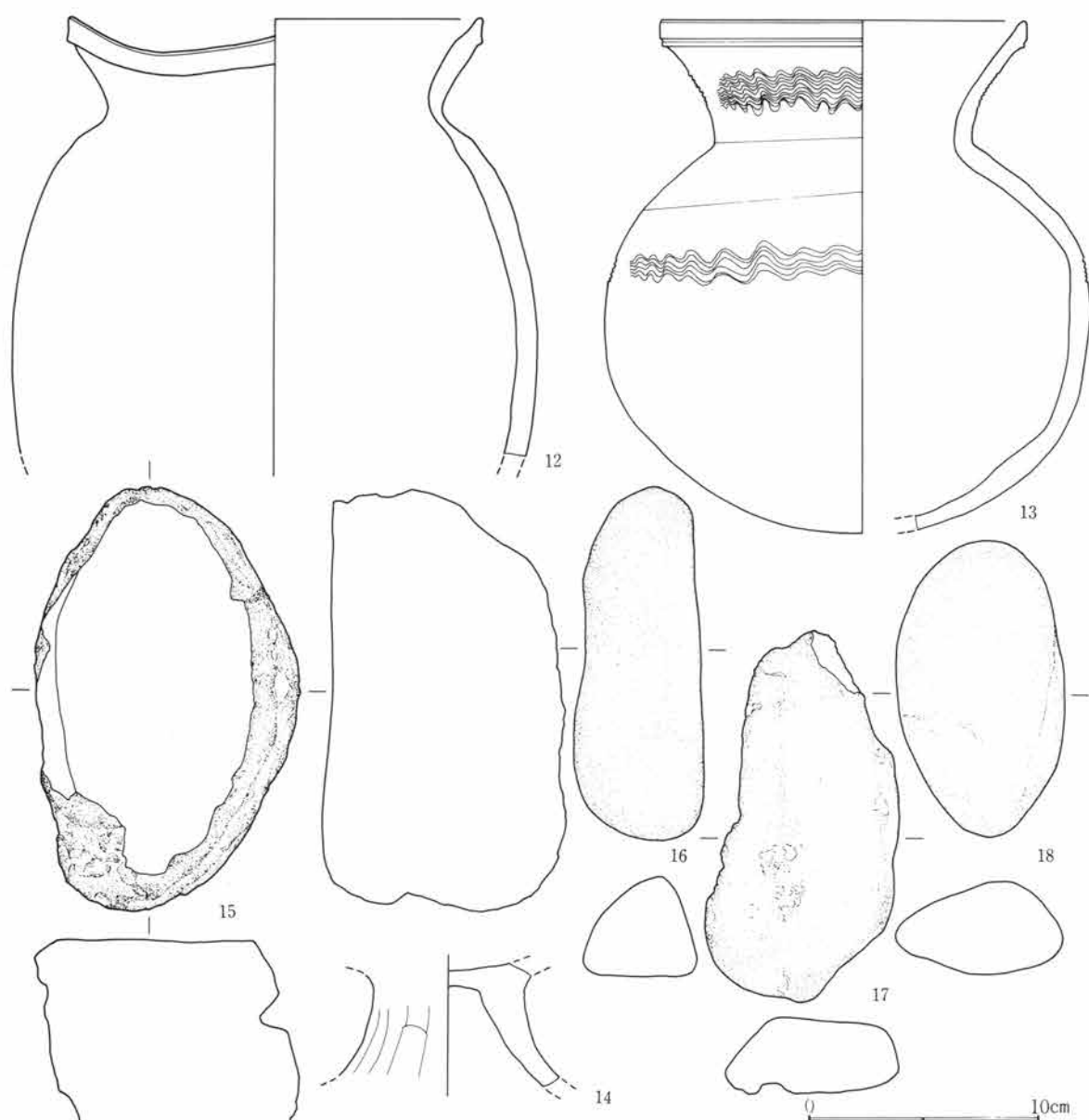
- | | |
|---------|-----------------------|
| 1 暗褐色土層 | C軽石、焼土粒含む、焼土ブロック多量に含む |
| 2 暗褐色土層 | C軽石、ローム粒含む |
| 3 暗褐色土層 | ローム粒含む |
| 4 暗褐色土層 | 粘土ブロック多量、C軽石含む |

第403図 A区145号住居跡竈

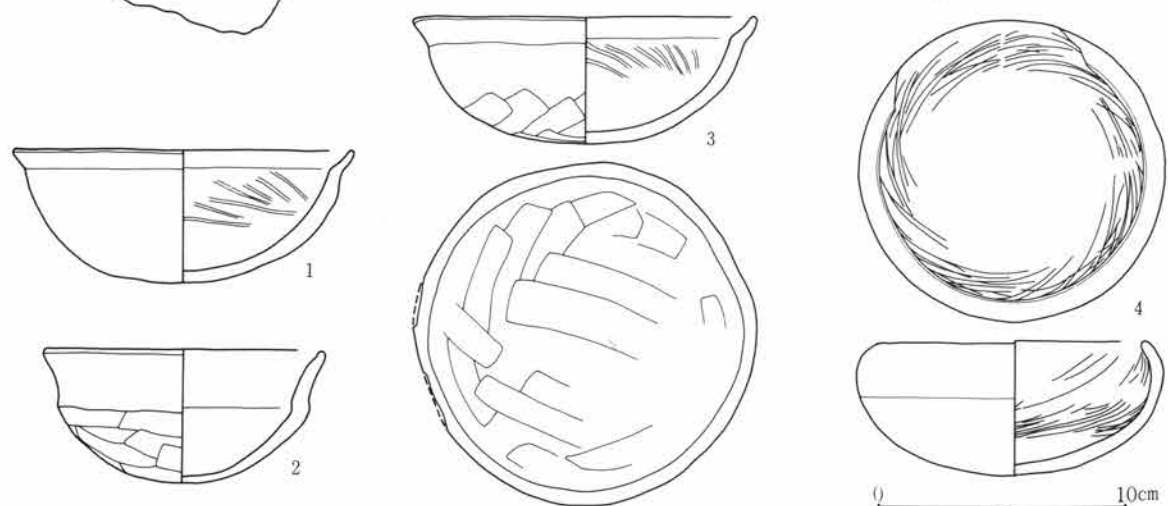
第4章 検出された遺構・遺物



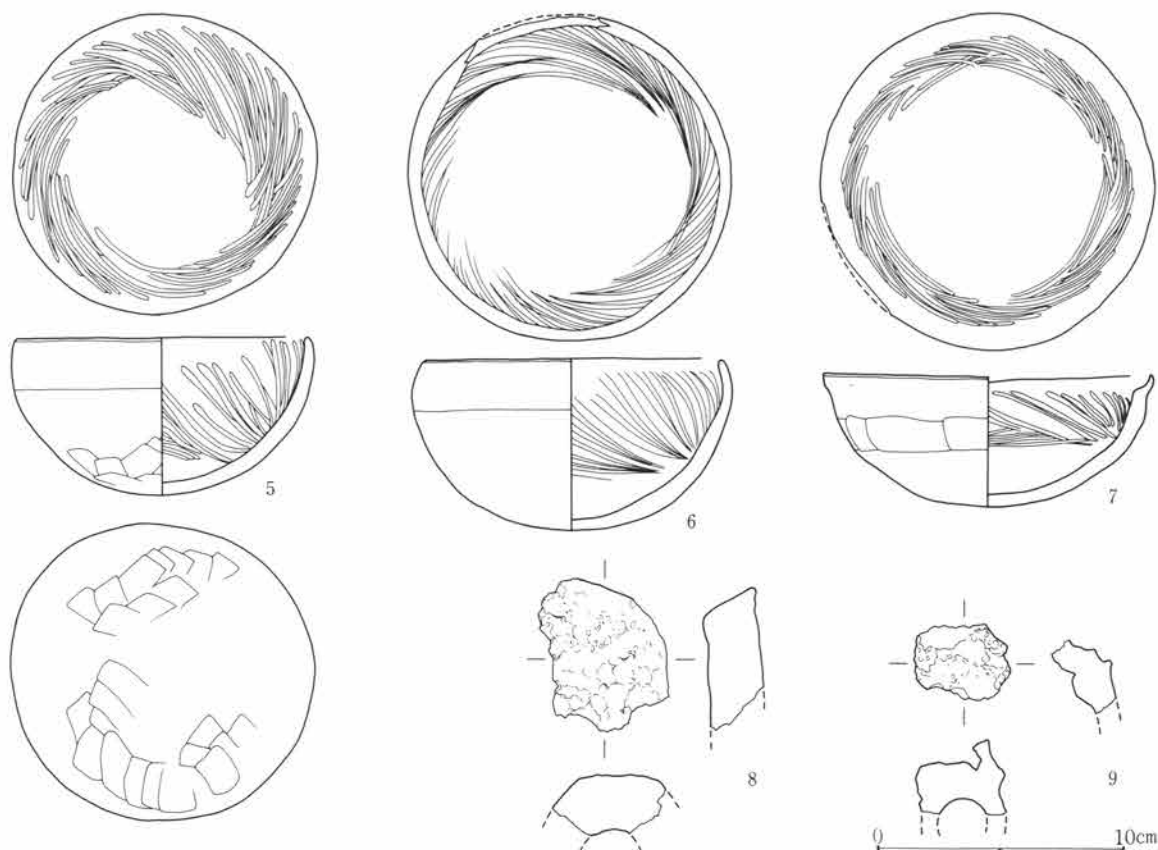
第404図 A区144号住居跡出土遺物(1)



第405圖 A区144号住居跡出土遺物(2)



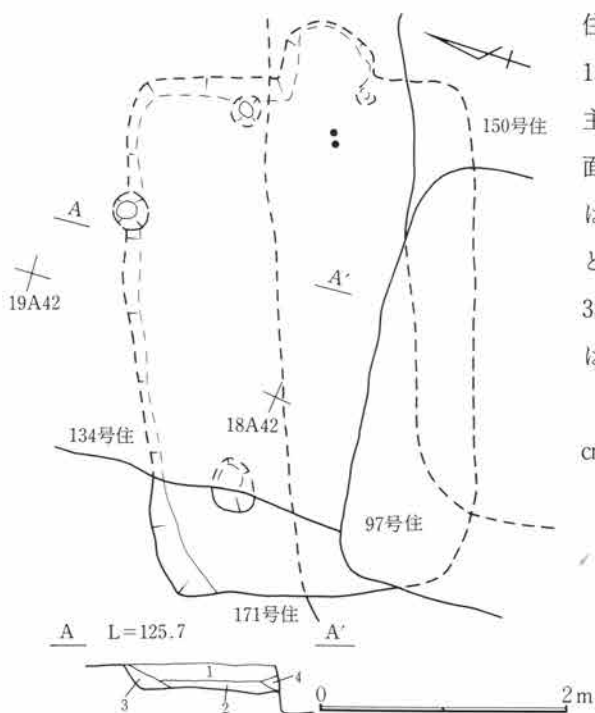
第406圖 A区145号住居跡出土遺物(1)



第407図 A区145号住居跡出土遺物(2)

A区151号住居跡 (第408・409図、第32図版)

A区中央部に位置し17・18A40～43の範囲にある。71号住居跡の南にある。他の遺構との関係は97号住居跡・134号住居跡・150号住居跡・171号住居跡と重複している。新旧関係は97号住居跡・134号住居跡・150号



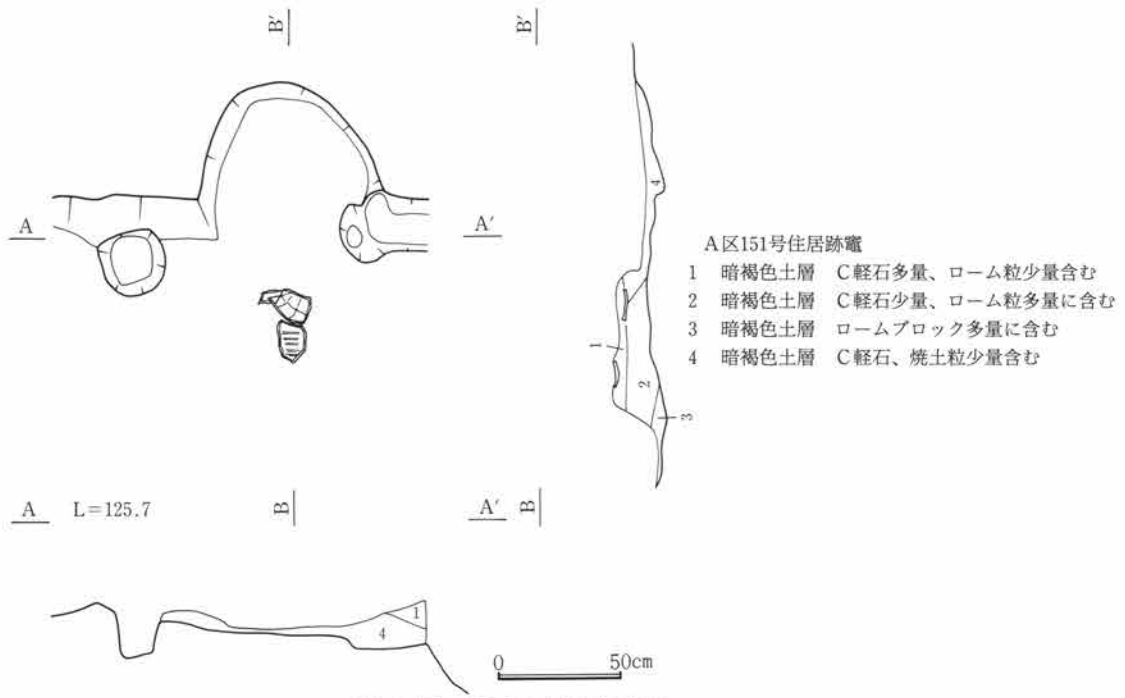
住居跡より旧く、171号住居跡より新しい。規模は長辺4.15m、短辺2.8mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-75°-Eである。壁高は約15cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。小穴は2基検出され、各々1・2とした。規模は1、径約25cm、深さ約20cm、2、45cm×35cm、深さ約15cmを測る。竈は東壁に検出された。規模は燃焼部幅70cm、同長50cmを測る。

掘り方面 竈右袖部に小穴が検出された。規模は50cm×30cm、深さ約10cmを測る。

A区151号住居跡

- 1 暗褐色土層
- 2 暗褐色土層 C軽石含む
- 3 暗褐色土層 ロームブロック含む
- 4 暗褐色土層 ローム粒含む

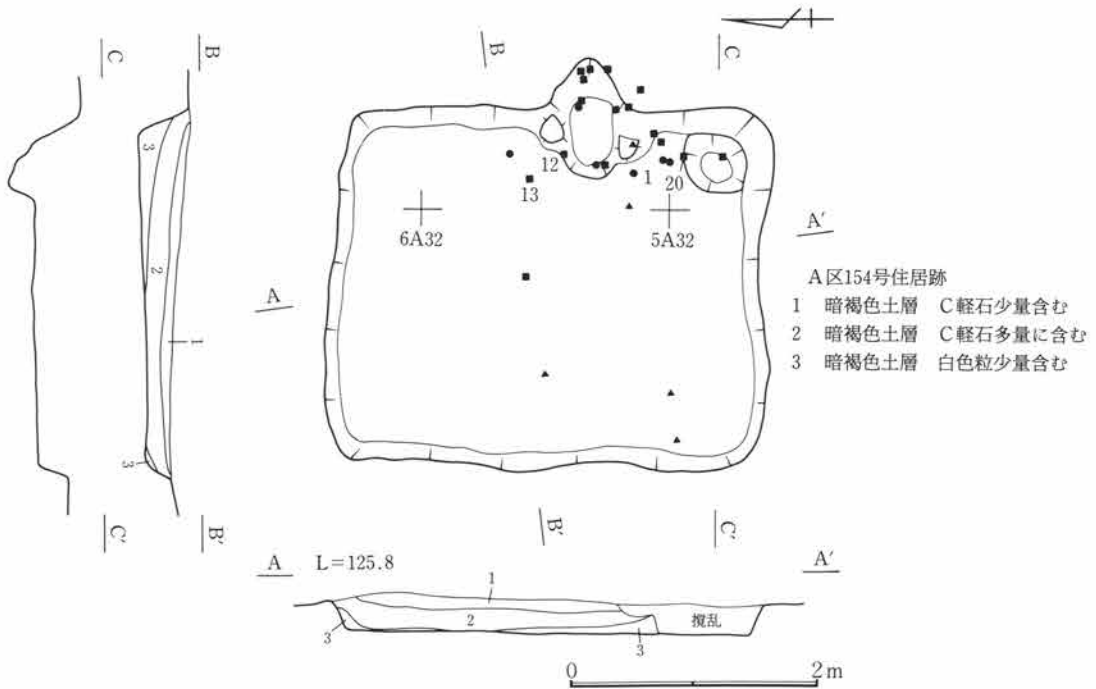
第408図 A区151号住居跡



第409図 A区151号住居跡竈

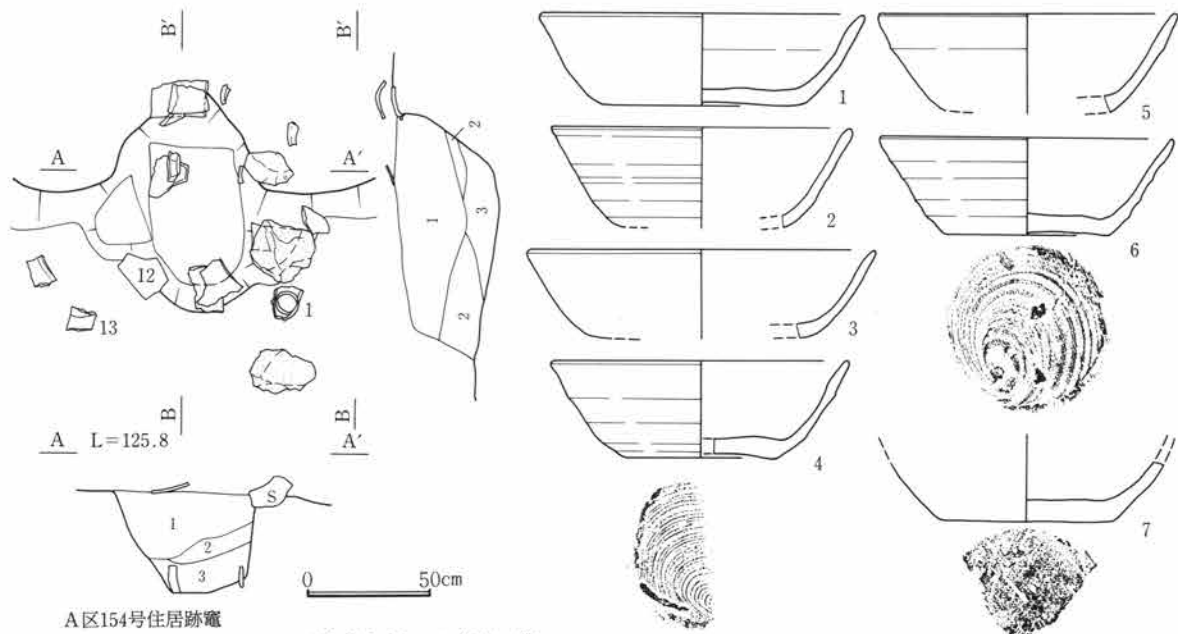
A154号住居跡 (第410・411・412・413・414図、第32・144図版)

A区南部に位置し4~6A31~33の範囲にある。128号住居跡の南にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺3.6m、短辺2.9mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-90°-Eである。壁高は約20cm~30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・柱穴等の諸施設は検出されていない。南東隅に貯蔵穴と考えられる小穴が検出された。規模は径約55cm、深さ約20cmを測る。竈は東壁に検出された。左右の袖部は約40cm床面に延びている。規模は袖幅60cm、燃焼部長70cmを測る。



第410図 A区154号住居跡

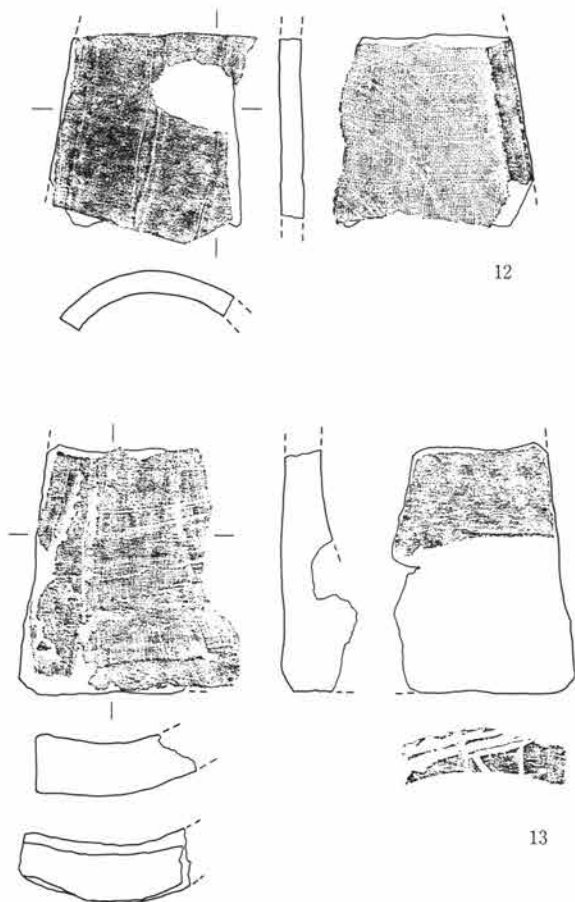
第4章 検出された遺構・遺物



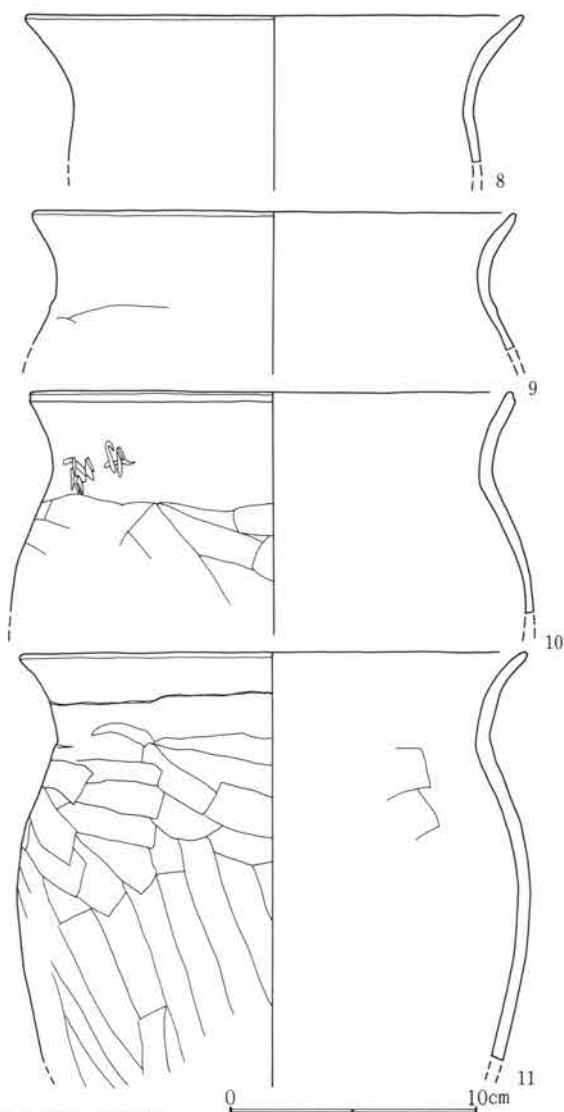
A区154号住居跡竈

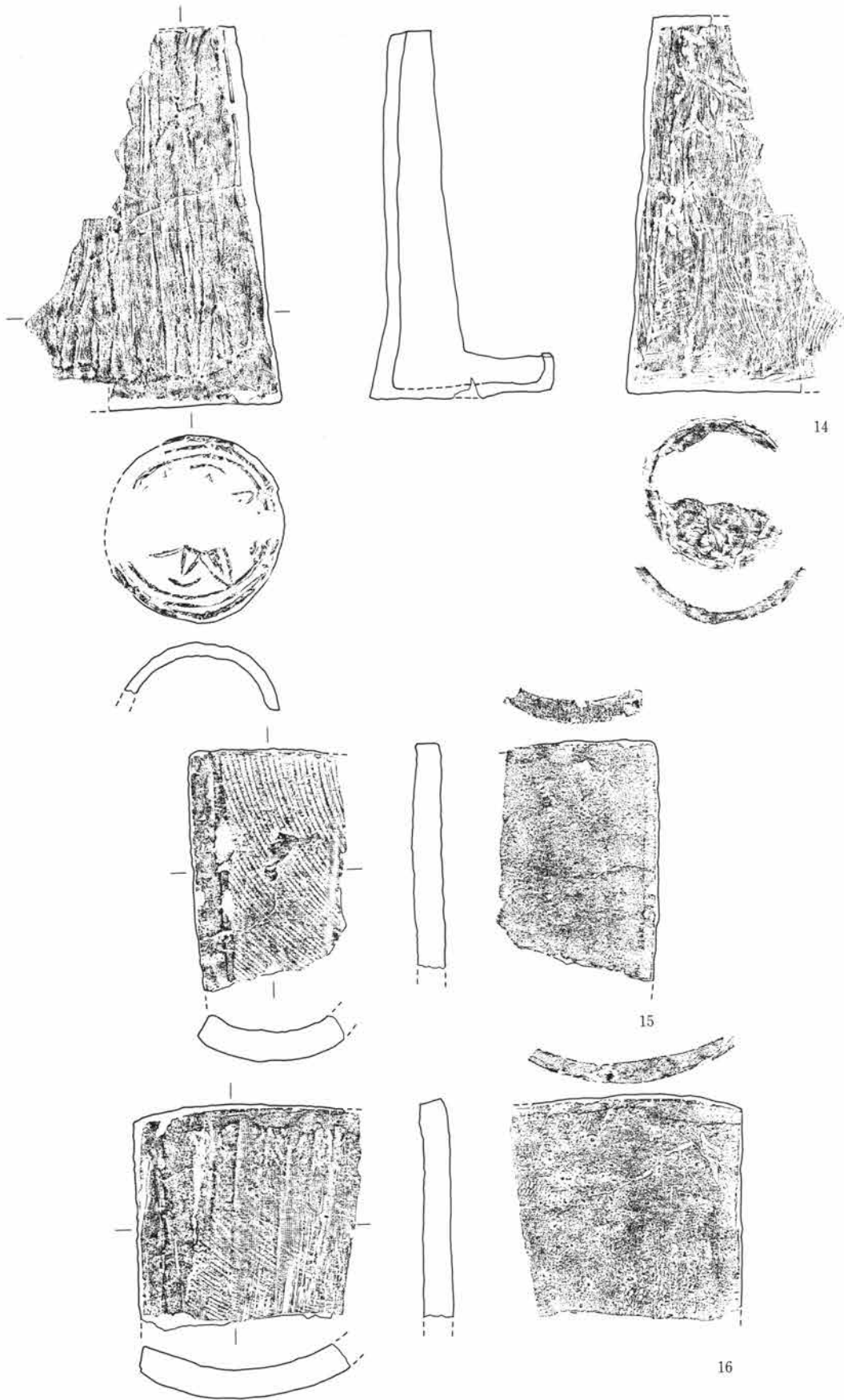
- 1 黒褐色土層 C軽石若干、白色粘土ブロック多量に含む
- 2 黒褐色土層 C軽石若干、粘土ブロック、ロームブロック含む
- 3 黒褐色土層 C軽石若干、粘土ブロック含む

第411図 A区154号住居跡竈

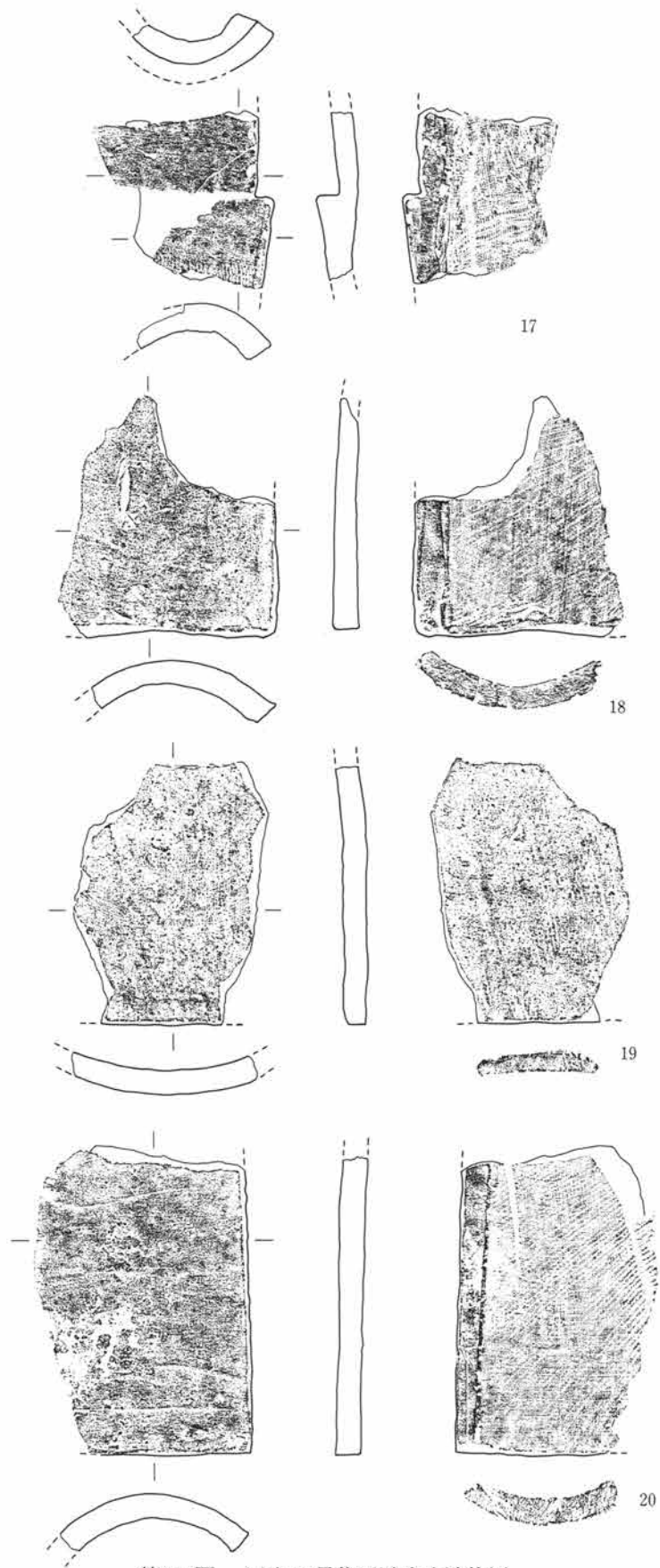


第412図 A区154号住居跡出土遺物(1)





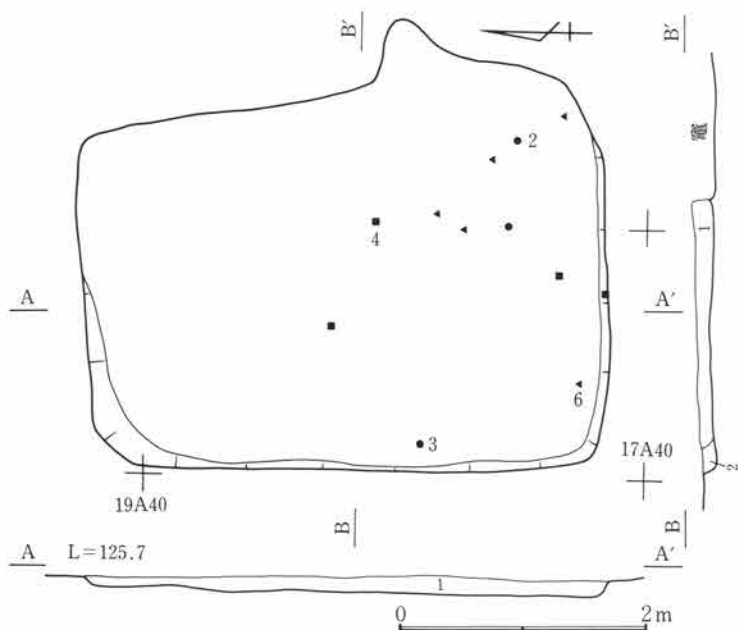
第413图 A区154号住居跡出土遺物(2)



第414図 A区154号住居跡出土遺物(3)

A区168号住居跡 (第415・416図、第33・146・172図版)

A区中央部に位置し17~19A38・39の範囲にある。172号住居跡の北にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺4.45m、短辺3.35mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。東部は中世の溝により壊され、壁は確認されていない。主軸方位はN-90°-Eである。壁高は約10cm~15cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃烧部幅70cm、同長40cmを測る。

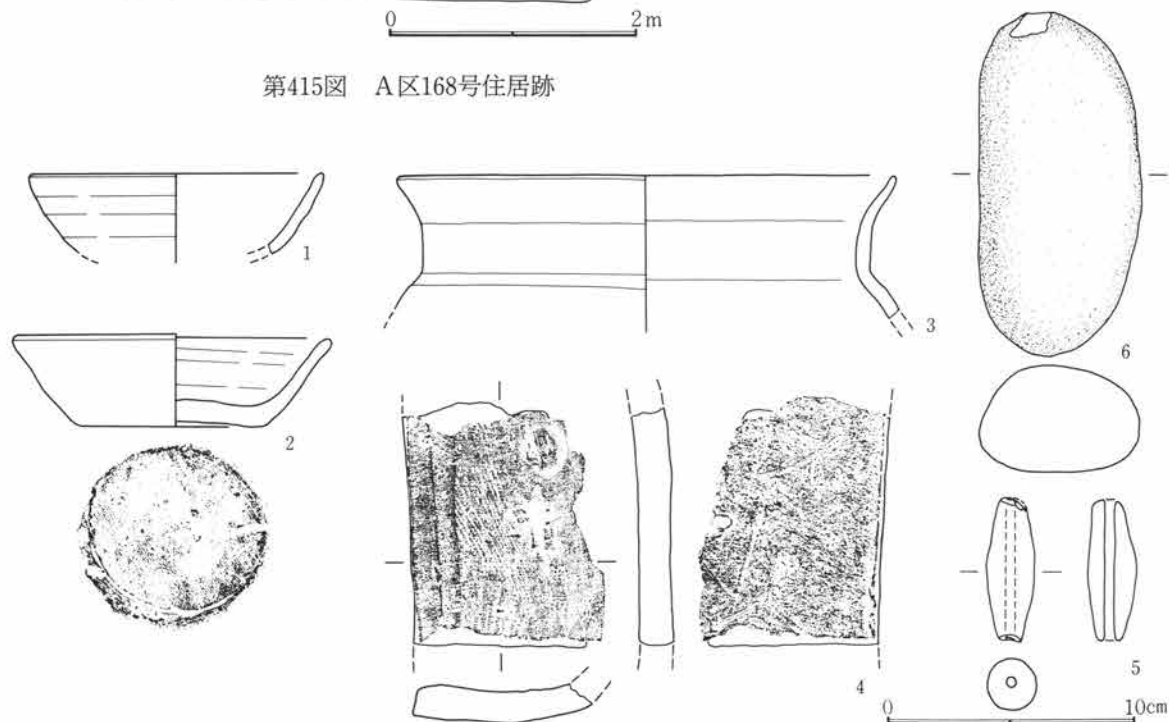


規模は長辺4.45m、短辺3.35mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。東部は中世の溝により壊され、壁は確認されていない。主軸方位はN-90°-Eである。壁高は約10cm~15cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃烧部幅70cm、同長40cmを測る。

A区168号住居跡

- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石若干、ロームブロック少量含む

第415図 A区168号住居跡



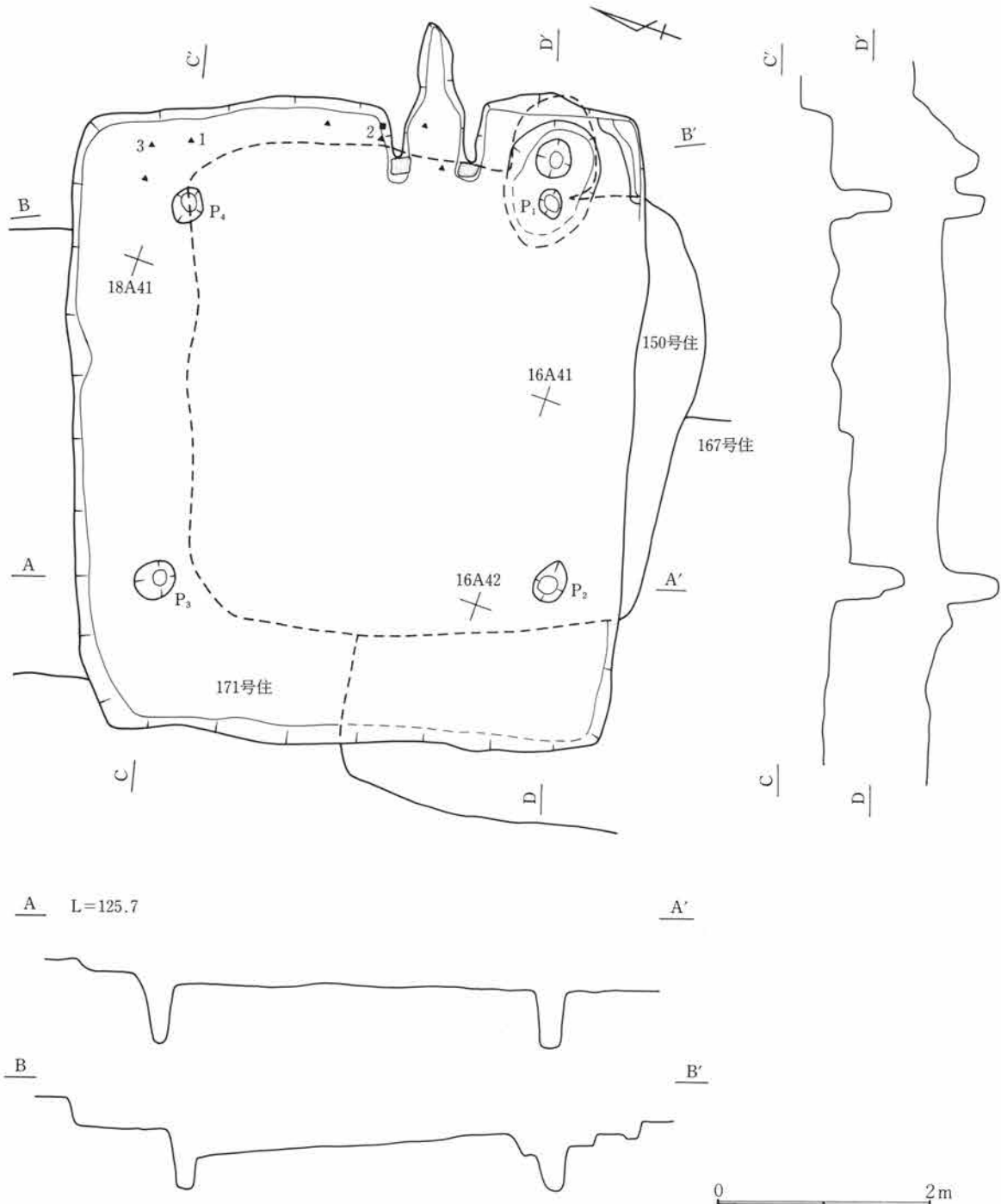
第416図 A区168号住居跡出土遺物

A区171号住居跡 (第417・418・419図、第33・146図版)

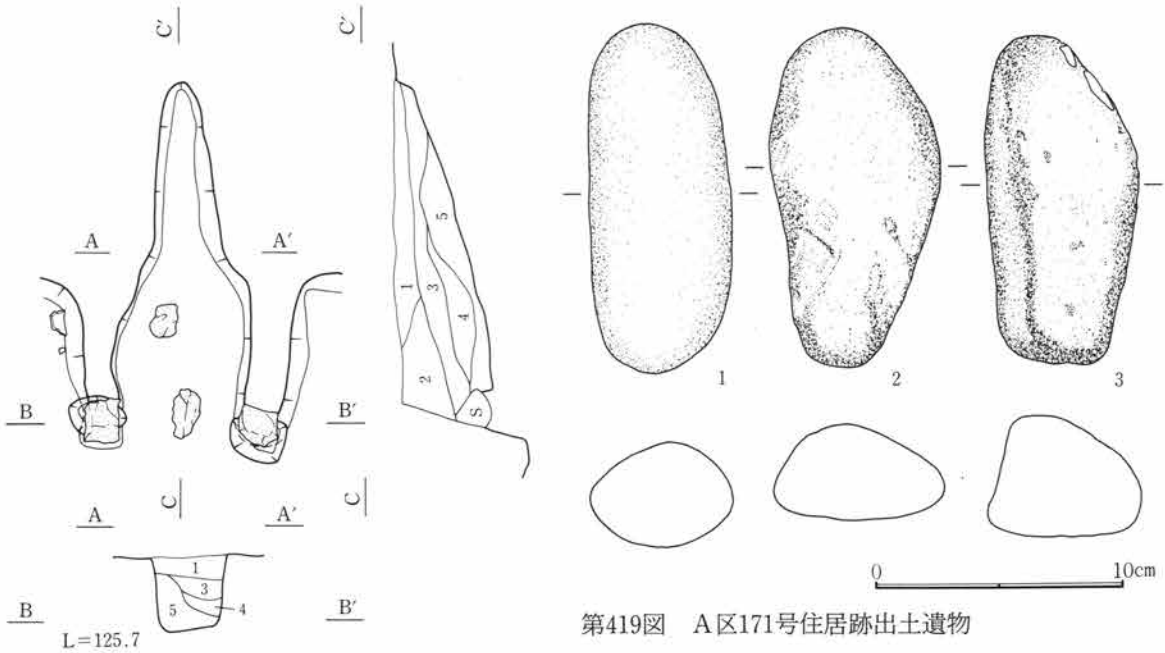
A区中央部に位置し15~18A39~43の範囲にある。71号住居跡の南にある。他の遺構との関係は96号住居跡・97号住居跡・104号住居跡・134号住居跡・150号住居跡・151号住居跡・167号住居跡と重複している。新旧関係は他の住居跡より古い。規模は長辺6.1m、短辺5.4mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-70°-Eである。壁高は約30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。床面上には柱穴と考えられる小穴が4基検出され、各々1~4とした。規模は1、径約20cm、深

第4章 検出された遺構・遺物

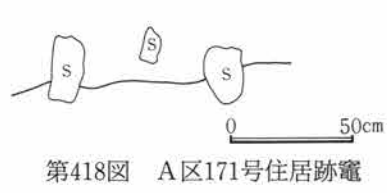
さ約40cm、2、35cm×25cm、深さ約50cm、3、40cm×30cm、深さ約50cm、4、40cm×35cm、深さ約65cmを測る。柱間はほぼ3.6mを測るが3～4の間は3.4mを測る。竈は東壁南寄りに検出された。両袖部は幅約20cm～25cmで約60cm床面上に延びている。規模は袖幅70cm、燃烧部長70cm、煙道部長60cmを測る。両袖先端部には石が検出された。



第417図 A区171号住居跡



第419図 A区171号住居跡出土遺物



第418図 A区171号住居跡竈

- A区171号住居跡竈
- 1 暗褐色土層 C軽石、焼土粒少量含む
 - 2 暗褐色土層 C軽石少量、ローム粒多量に含む
 - 3 暗褐色土層 C軽石少量、ロームブロック多量に含む
 - 4 暗褐色土層 灰、焼土ブロック多量に含む
 - 5 暗褐色土層 焼土粒、ローム粒、カーボン少量含む

A区183号住居跡 (第422・423・427図、第33・146図版)

A区西北部に位置し26～28A48～50の範囲にある。79号住居跡の西北にある。他の遺構との関係は203号住居跡、南東部で184号住居跡、南西部で185号住居跡と重複している。新旧関係は184号住居跡・203号住居跡より新しく、185号住居跡より古い。規模は長辺3.9m、短辺2.95mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-95°-Eである。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・柱穴等の諸施設は検出されていない。南東隅に貯蔵穴と考えられる小穴が検出された。規模は径約55cm、深さ約15cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃烧部幅70cm、同長1.2m、煙道部長15cmを測る。

A区184号住居跡 (第420・424・428図、第34・146図版)

A区西北部に位置し25～28A47～50の範囲にある。79号住居跡の西北にある。他の遺構との関係は西北部で183号住居跡・203号住居跡と重複している。新旧関係は183号住居跡より旧く、203号住居跡より新しい。規模は長辺4.3m、短辺3.85mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-72°-Eである。壁高は約50cm～60cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・柱穴等の諸施設は検出されていない。東壁南側、西北隅に小穴が2基検出された。各々1・2とした。規模は1、径約45cm、深さ約20cm、2、径約45cm、深さ約10cmを測る。竈は東壁に検出された。規模は燃烧部幅70cm、同長90cm、煙道部長80cmを測る。

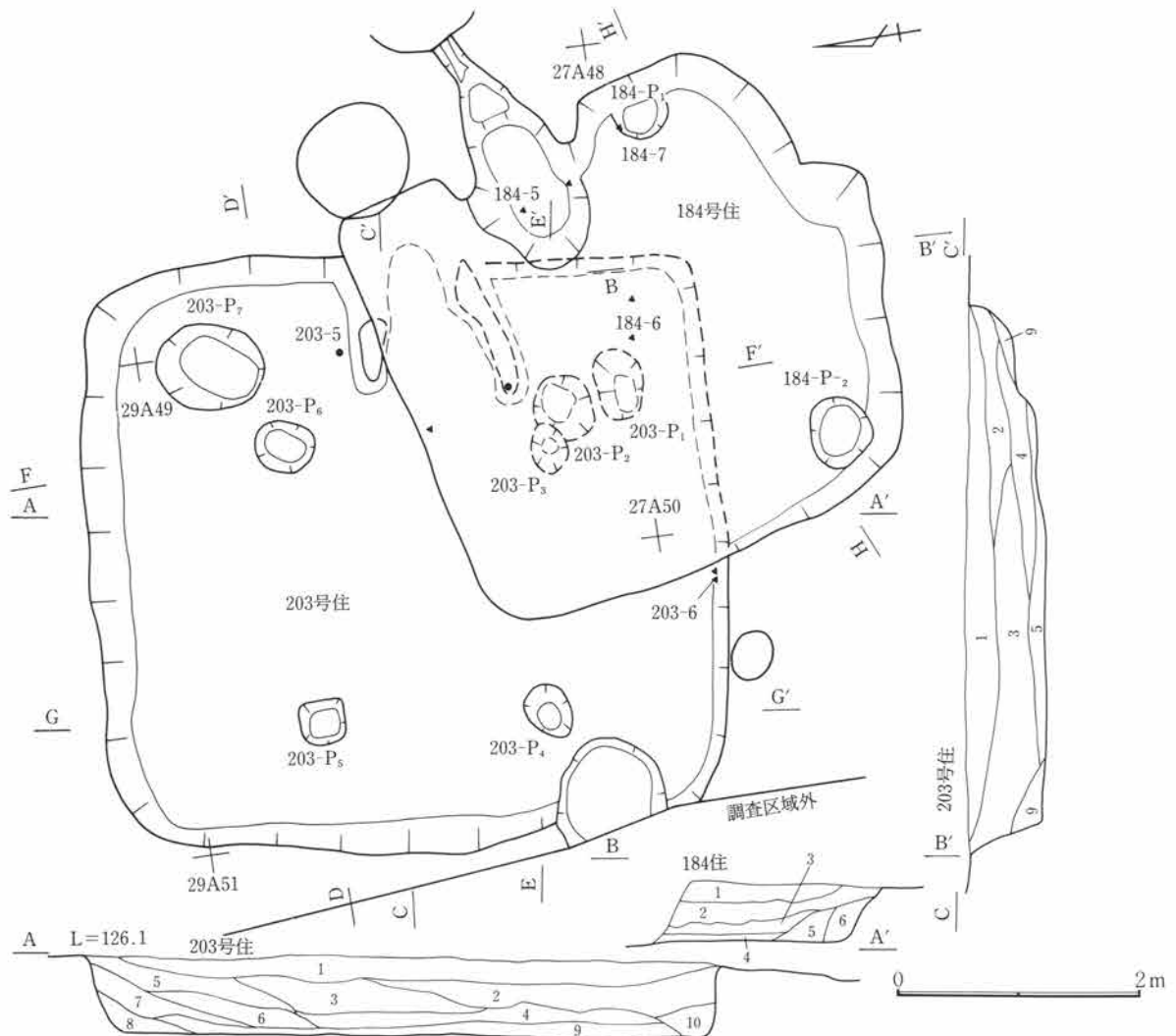
A区185号住居跡 (第422・425・429・430図、第34・147図版)

A区西北部に位置し26・27A50・51の範囲にある。79号住居跡の西北にある。他の遺構との関係は北東部で183号住居跡・203号住居跡と重複している。新旧関係は183号住居跡・203号住居跡より新しい。規模は西半部が調査区域外へ延び、東壁で2.95mを測る。壁高は約30cmを測る。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃烧部幅40cm、同長50cmを測る。

第4章 検出された遺構・遺物

A区203号住居跡（第420・421・426・431図、第34・147図版）

A区西北部に位置し26～29A48～51の範囲にある。79号住居跡の西北にある。他の遺構との関係は南東部で183号住居跡・184号住居跡、南西部で185号住居跡と重複している。新旧関係は183号住居跡・184号住居跡・203号住居跡より古い。規模は長辺5.3m、短辺4.85mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-99°-Eである。壁高は約50cm～60cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。床面には7基の小穴が検出された。各々1～7とした。規模は1、55cm×35cm、深さ約55cm、2、径約50cm、深さ約40cm、3、径約40cm、深さ約70cm、4、径約45cm、深さ約40cm、5、径約40cm、深さ約40cm、6、径約50cm、深さ約35cm、7、90cm×70cm、深さ約45cmを測る。竈は東壁に検出された。両袖部は1m～1.2m床面に延びている。規模は袖幅1.1m、燃烧部長1.2mを測る。



A区203号住居跡

- | | | | | | | | | |
|---------------------------|------------------|-----------------|---------------------------------|---------------------------|-----------------------|---------------------------|------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色土層 C軽石多量、地山小ブロック少量含む | 2 暗褐色土層 C軽石多量に含む | 3 暗褐色土層 C軽石少量含む | 4 暗褐色土層 C軽石少量含む、茶褐色粘質土ブロック多量に含む | 5 暗褐色土層 C軽石多量、地山小ブロック少量含む | 6 暗褐色土層 C軽石少量、地山粒多量含む | 7 暗褐色土層 C軽石多量、黒色土ブロック少量含む | 8 暗褐色土層 C軽石多量、カーボン少量含む | 9 暗褐色土層 C軽石多量、ローム粒少量含む |
|---------------------------|------------------|-----------------|---------------------------------|---------------------------|-----------------------|---------------------------|------------------------|------------------------|

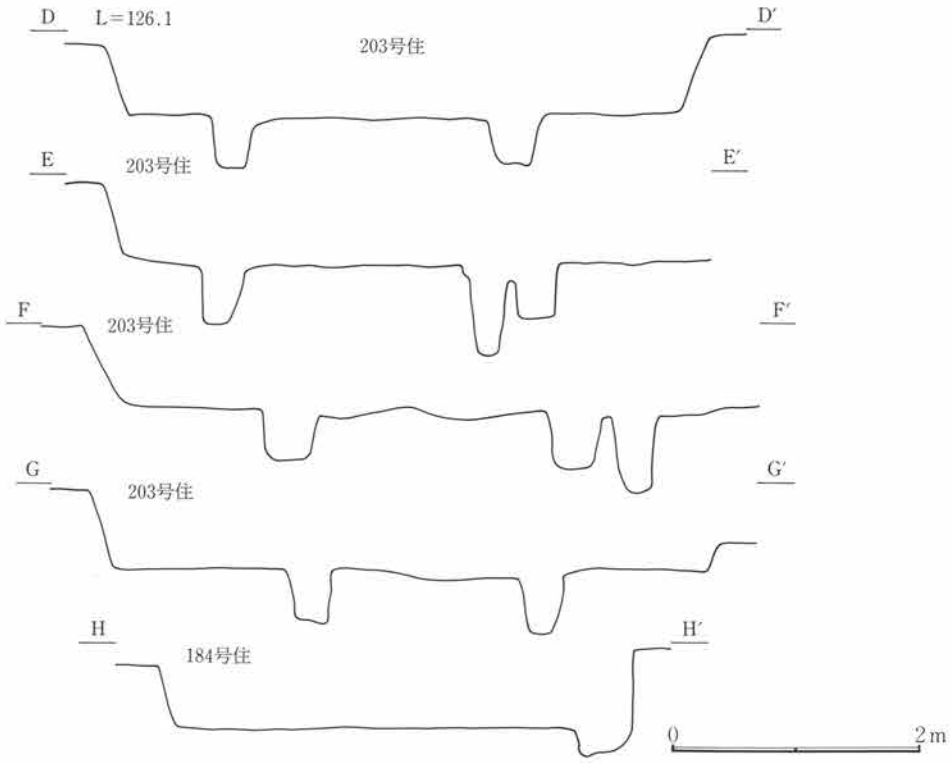
10 暗褐色土層 C軽石少量含む

- 11 暗褐色土層 ロームブロック多量に含む

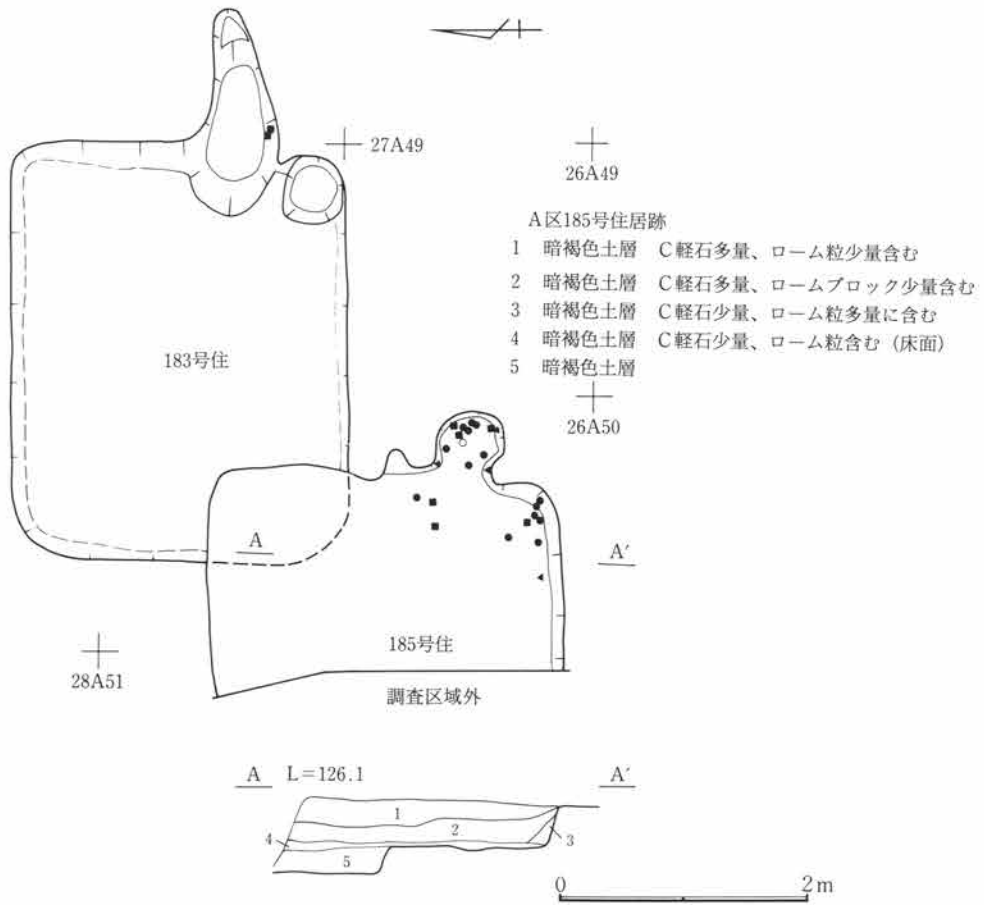
A区184号住居跡

- | | | | | | |
|---------------|---------------|-----------------------|-----------------------|------------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色土層 C軽石混入 | 2 暗褐色土層 C軽石含む | 3 暗褐色土層 C軽石、ロームブロック含む | 4 暗褐色土層 C軽石若干V土ブロック含む | 5 暗褐色土層 C軽石、V土ブロック、ロームブロック含む | 6 暗褐色土層 C軽石微量、V土ブロック含む |
|---------------|---------------|-----------------------|-----------------------|------------------------------|------------------------|

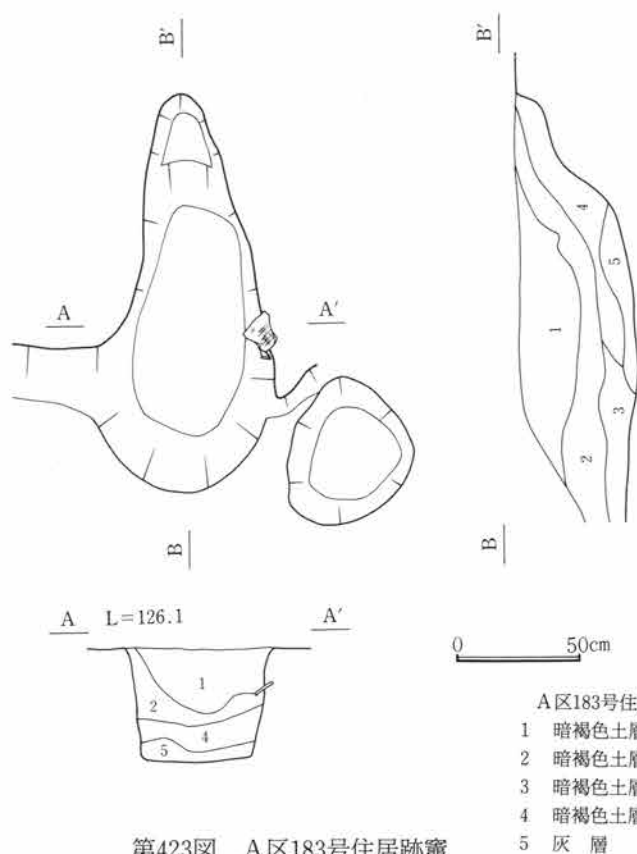
第420図 A区184・203号住居跡



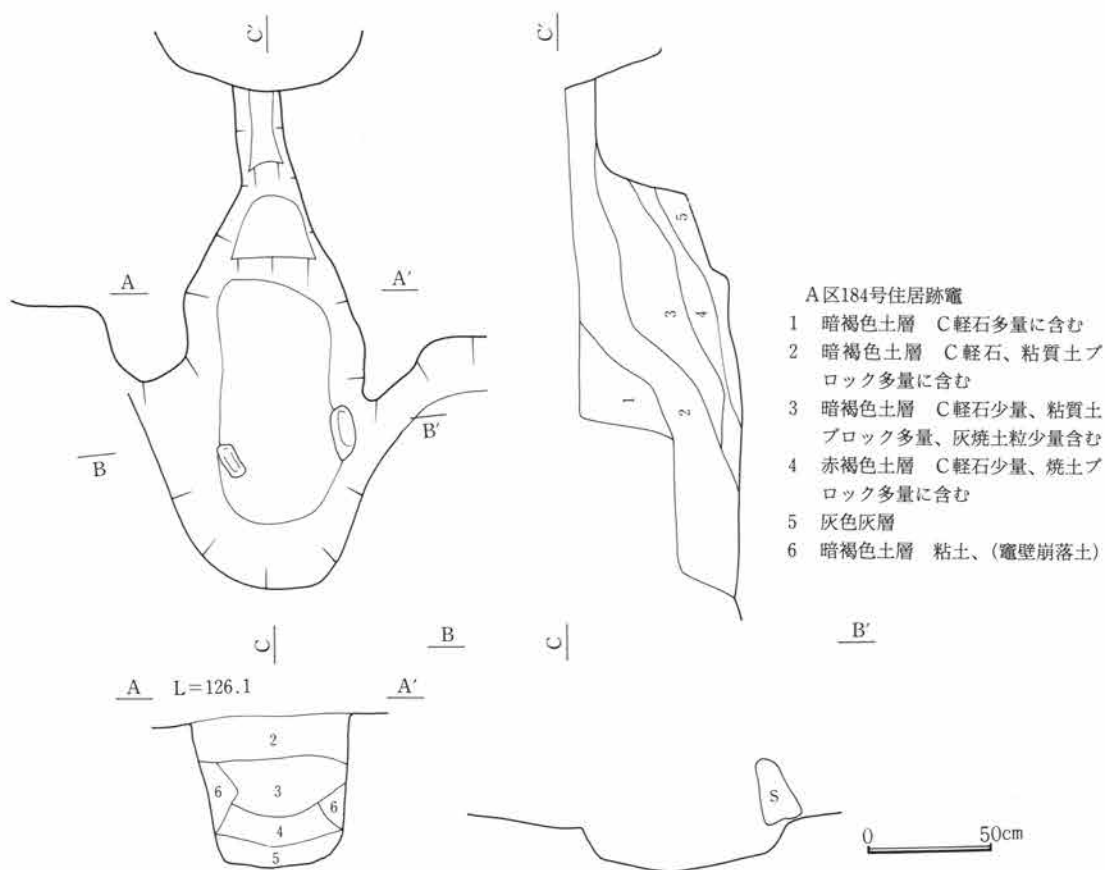
第421図 A区203号住居跡断面



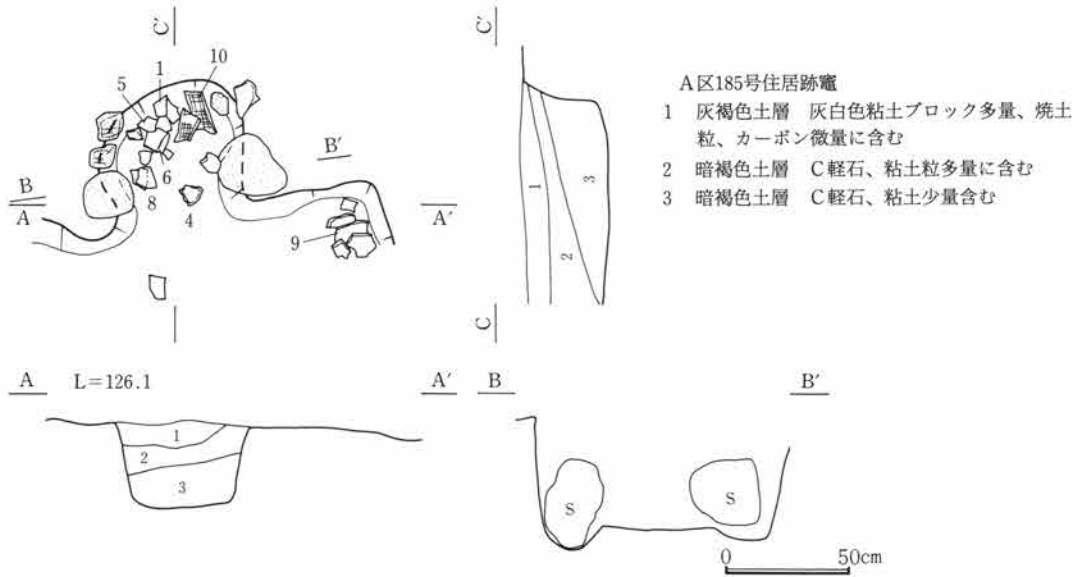
第422図 A区183・185号住居跡



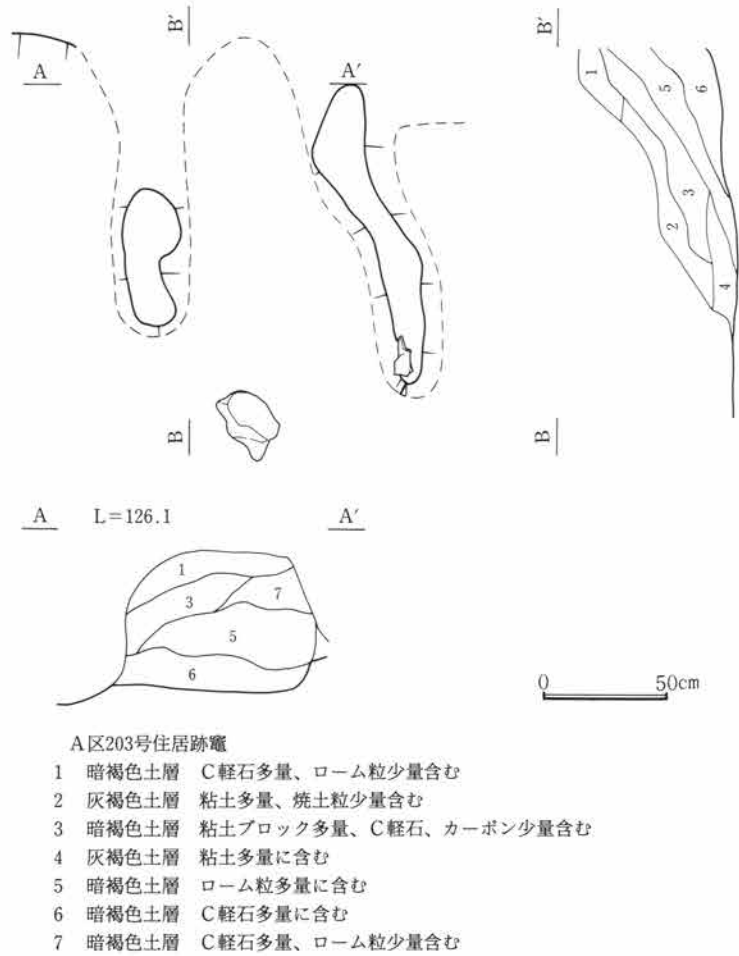
第423図 A区183号住居跡竈



第424図 A区184号住居跡竈

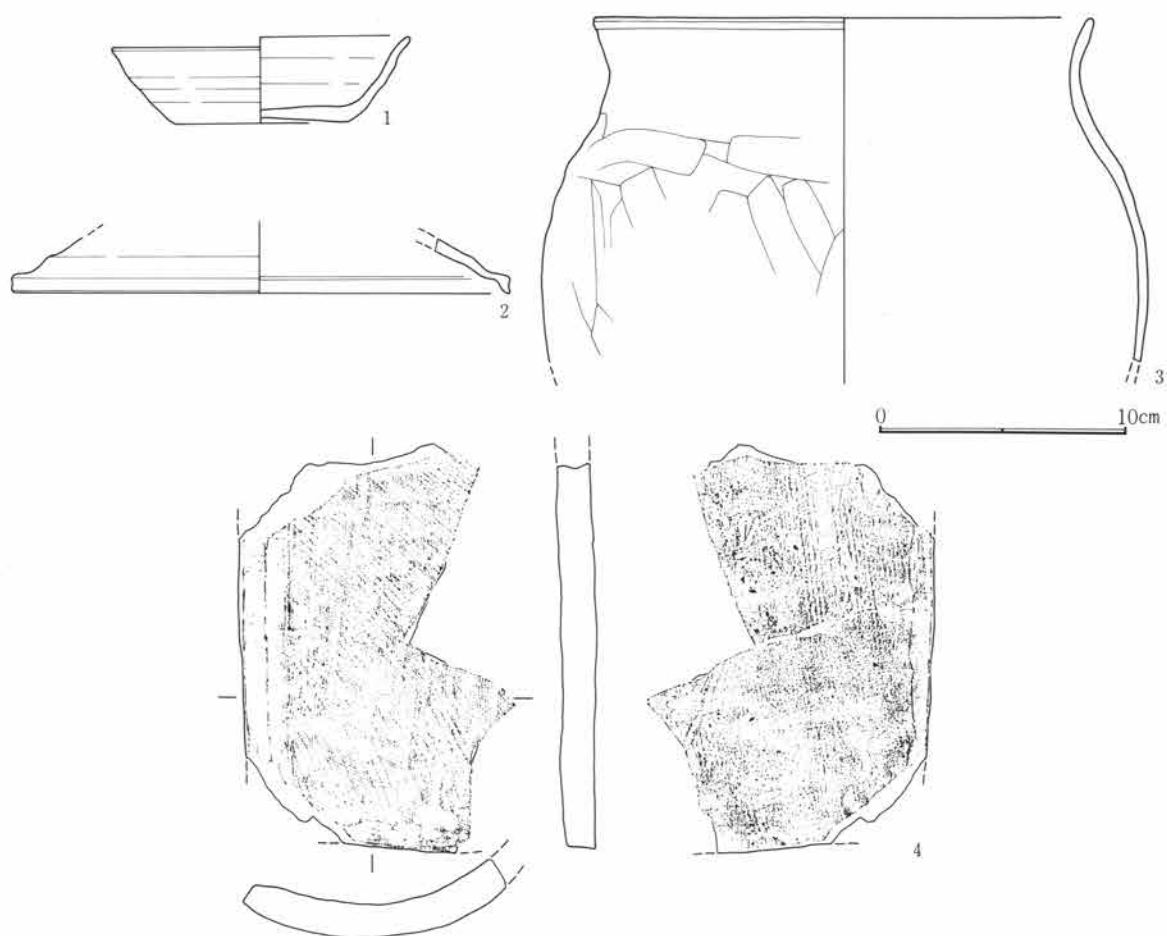


第425図 A区185号住居跡竈

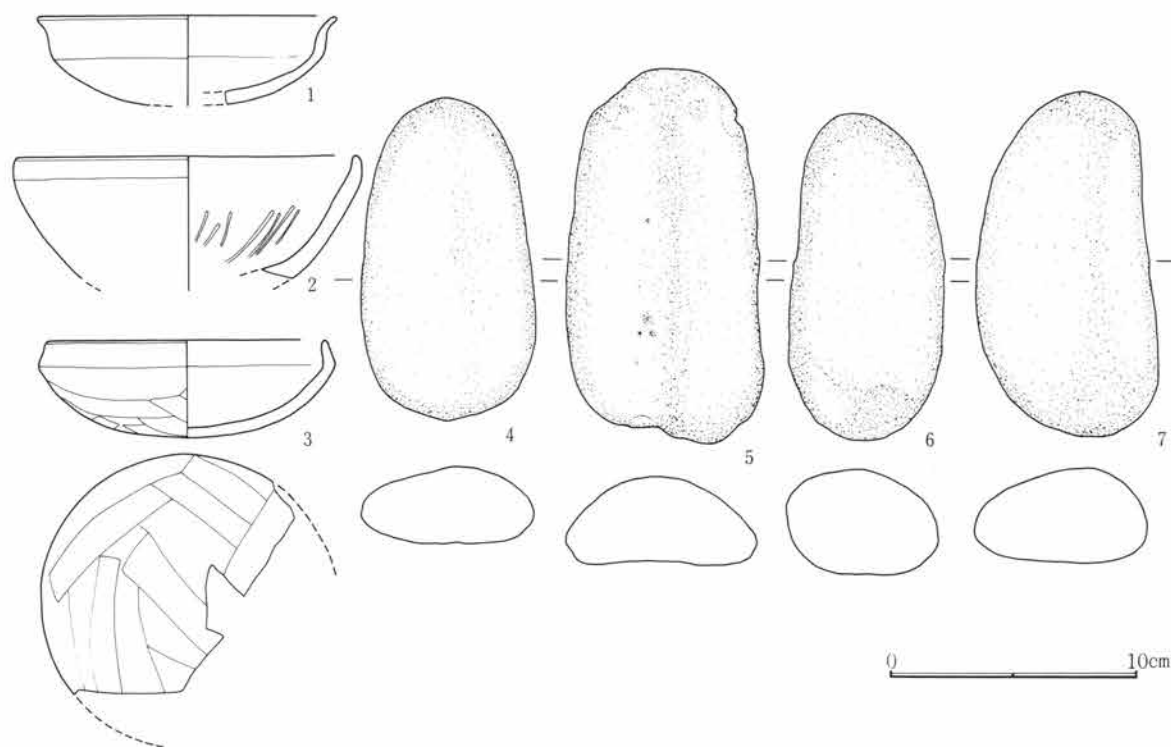


第426図 A区203号住居跡竈

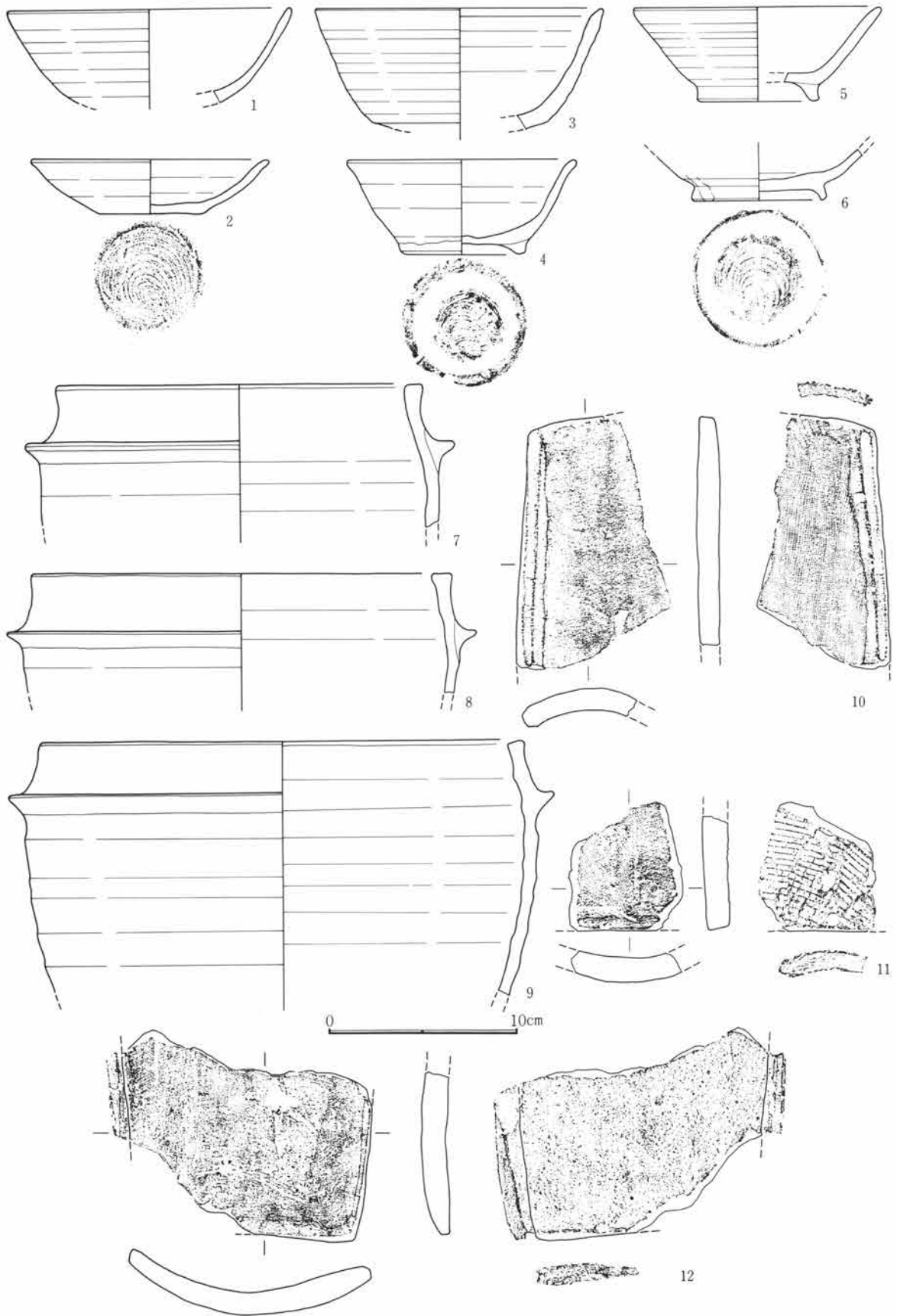
第4章 検出された遺構・遺物



第427図 A区183号住居跡出土遺物

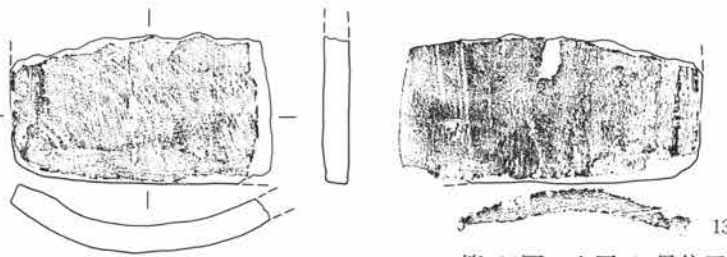


第428図 A区184号住居跡出土遺物

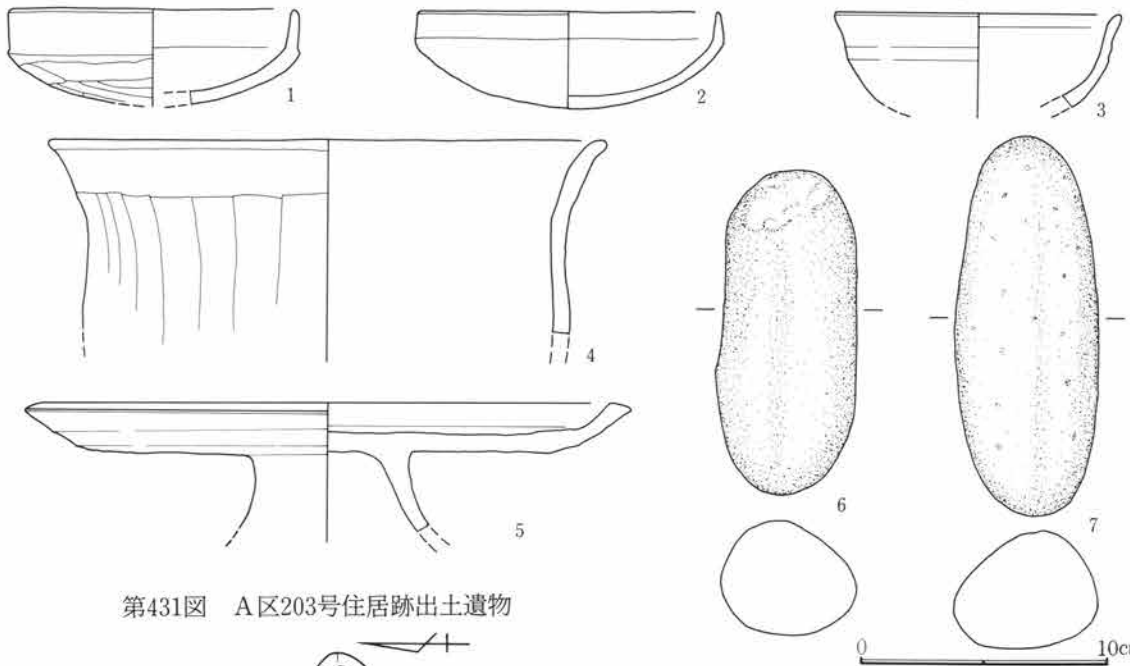


第429図 A区185号住居跡出土遺物(1)

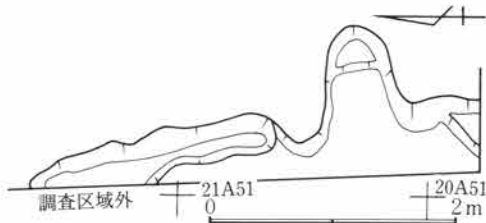
第4章 検出された遺構・遺物



第430図 A区185号住居跡出土遺物(2)



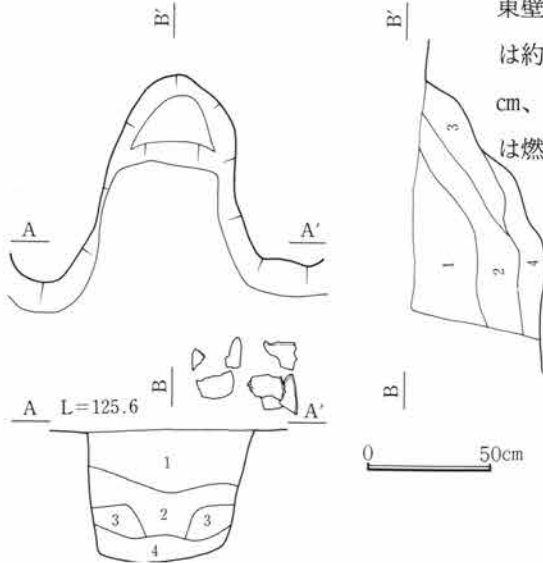
第431図 A区203号住居跡出土遺物



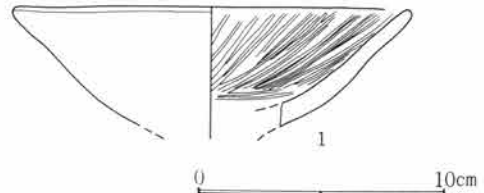
第432図 A区205号住居跡

A区205号住居跡 (第432・433・434図、第34・147図版)

A区西部に位置し19～21A50の範囲にある。78号住居跡の西にある。他の遺構との重複はない。調査区域外に大半が延びるため、竈と東壁の一部を検出したのみである。検出部の東壁長は3.8mである。竈長軸方位はN-81°-Eである。壁高は約60cmを測る。東壁には壁周溝が検出された。幅約20cm～30cm、深さ約2cm～3cmを測る。竈は東壁に検出された。規模は燃烧部幅90cm、同長60cm、煙道部長30cmを測る。



第433図 A区205号住居跡



第434図 A区205号住居跡出土遺物

A区205号住居跡竈

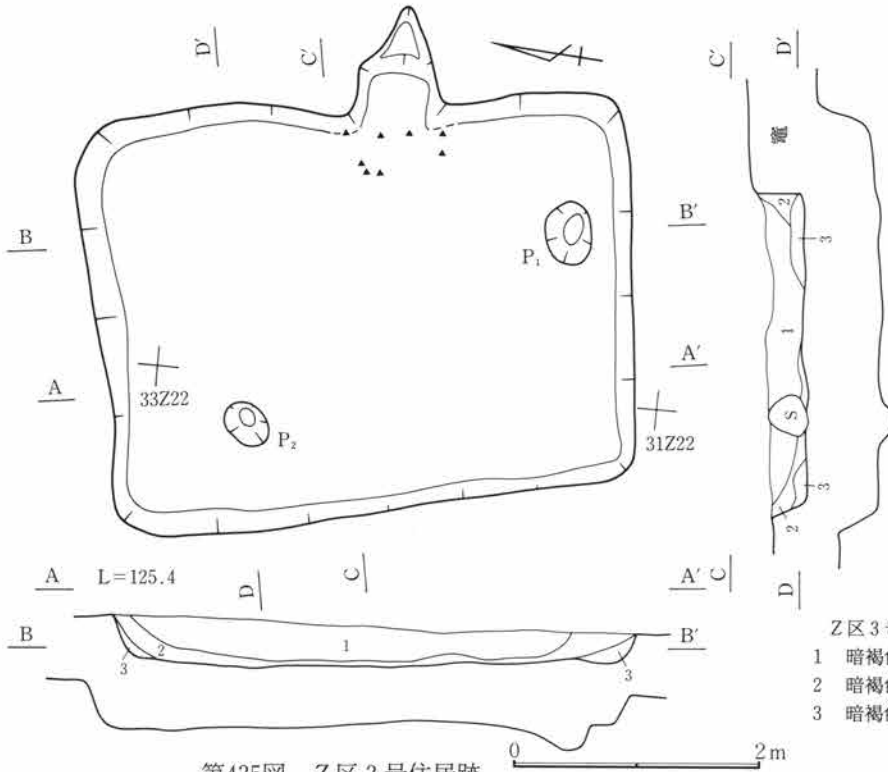
- 1 暗褐色土層 C軽石、粘土粒少量含む
- 2 暗褐色土層 灰多量、焼土、カーボン少量含む
- 3 赤褐色土層 灰、焼土ブロック多量に含む
- 4 灰色灰層

Z区住居跡

Z区3号住居跡 (第435・436・437図、第35・147図版)

Z区南東部に位置し31~33Z21~23の範囲にある。4号住居跡の南西にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺4.45m、短辺3.4mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-84°-Eである。壁高は約30cm~40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。床面上には2基の小穴が検出された。各々1・2とした。形状は2基ともに円形を呈し、規模は1、30cm×40cm、深さ約20cm、2、40cm×40cm、深さ約10cmを測る。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃烧部幅70cm、

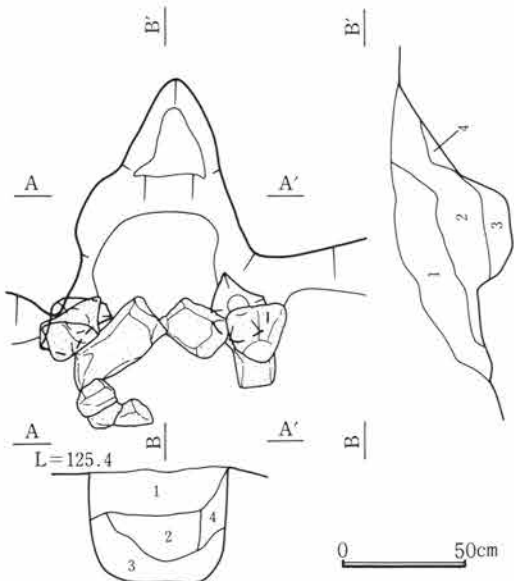
同長60cm、煙道部長30cmを測る。竈燃烧部前面には構築材と考えられる石が多数検出された。掘り方面両袖部下から小穴が各々1基検出された。形状は円形を呈し、規模は左小穴、径約50cm、深さ約5cm、右小穴は径約50cm、深さ約10cmを測る。



第435図 Z区3号住居跡

Z区3号住居跡

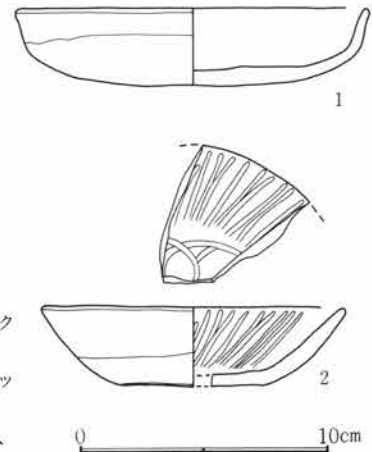
- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石含む
- 3 暗褐色土層 C軽石少量含む



第436図 Z区3号住居跡竈

Z区3号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 ロームブロック微量に含む
- 2 暗褐色土層 ロームブロック、焼土粒微量に含む
- 3 暗褐色土層 ローム粒、灰、焼土粒少量含む
- 4 暗褐色土層 焼土ブロック・粒多量に含む

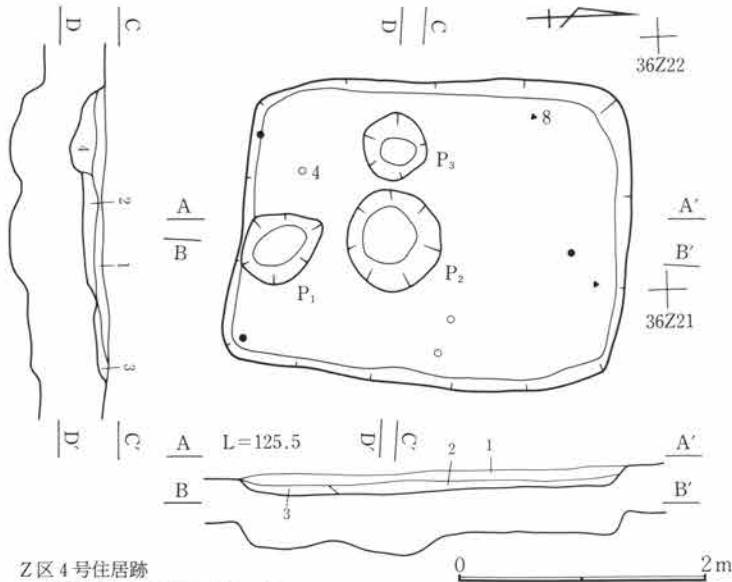


第437図 Z区3号住居跡出土遺物

第4章 検出された遺構・遺物

Z区4号住居跡 (第438・439・440図、第35・147・148・172・175図版)

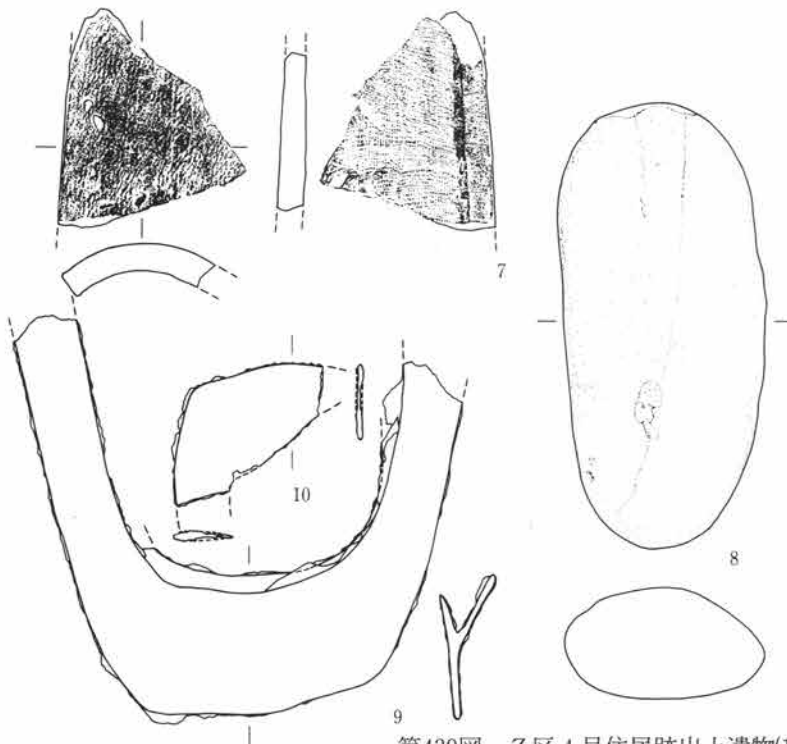
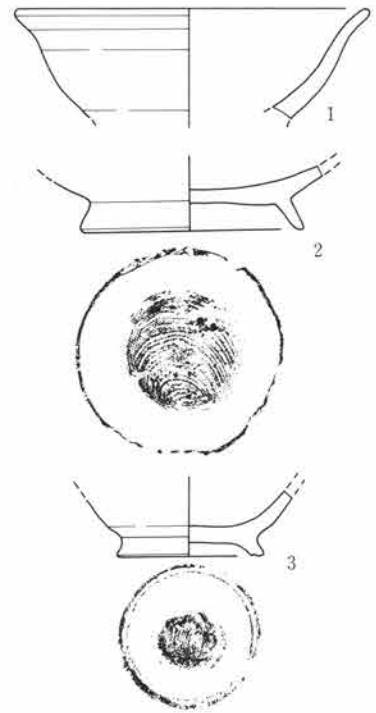
Z区南東部に位置し34・35Z20・21の範囲にある。3号住居跡の北東にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺3.3m、短辺2.5mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約15cm～20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。床面上には小穴が3基検出された。各々1～3とした。規模は1、75cm×55cm、深さ約10cm、2、80cm×70cm、深さ約15cm、3、55cm×50cm、深さ約10cmを測る。竈は検出されていない。



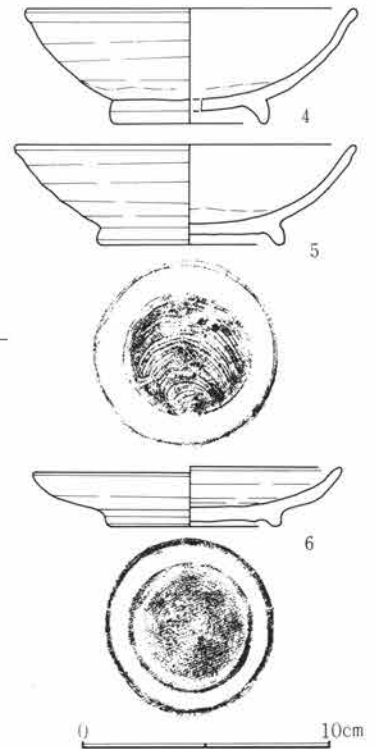
Z区4号住居跡

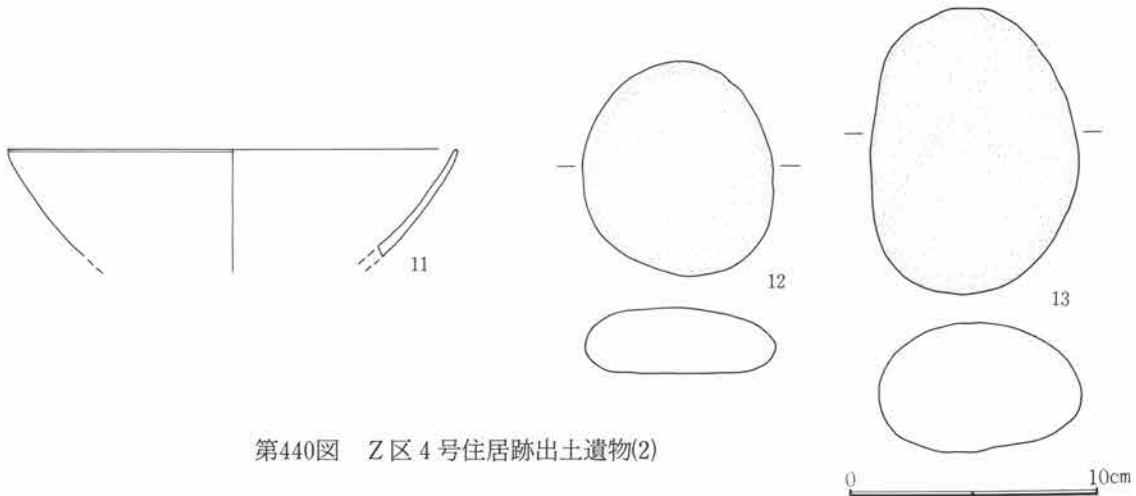
- 1 暗褐色土層 C軽石微量に含む
- 2 暗褐色土層 ローム、黒色土ブロック微量に含む
- 3 暗褐色土層 ローム粒多量に含む
- 4 暗褐色土層 ローム粒含む

第438図 Z区4号住居跡



第439図 Z区4号住居跡出土遺物(1)





第440図 Z区4号住居跡出土遺物(2)

Z区5号住居跡 (第441・445図、第35・148図版)

Z区南東部に位置し36～38 Z 20・21の範囲にある。4号住居跡の北にある。他の遺構との関係は北部で6号住居跡と重複している。新旧関係は5号住居跡が新しい。規模は長辺3.4m、短辺2.65mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約50cm～60cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は検出されていないが、東壁中央部に竈の痕跡と考えられる落ち込みが認められた。落ち込みの規模は径約1m、深さ約5cm～10cmを測る。

Z区6号住居跡 (第441・442・446図、第35・148図版)

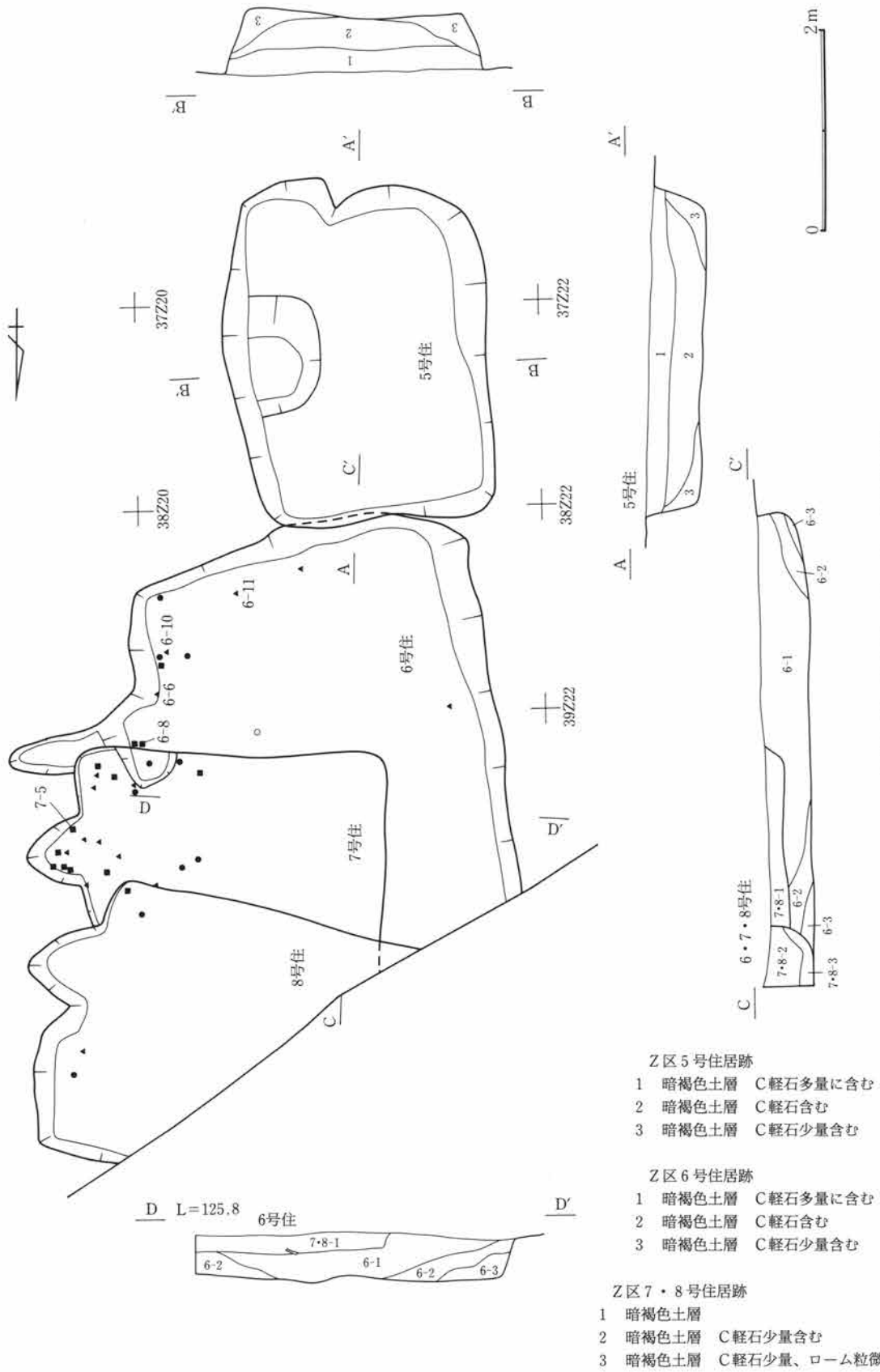
Z区南東部に位置し38～40 Z 19～21の範囲にある。4号住居跡の北にある。他の遺構との関係は南部で5号住居跡、北東部で7号住居跡・8号住居跡と重複している。新旧関係は5号住居跡・7号住居跡・8号住居跡より古い。また西北部は現代の農道により壊されている。規模は南壁で3.65mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-82°-Eである。壁高は約50cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁に検出された。北壁側の一部は7号住居跡により壊されている。規模は袖幅約70cm、燃烧部長60cm、煙道部長90cmを測る。左右の袖部には袖石が各々の位置に検出された。また燃烧部中央部には支脚が検出された。

Z区7号住居跡 (第441・443・447・448図、第35・36・148・149図版)

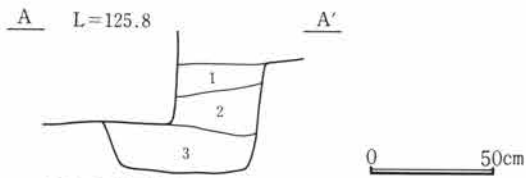
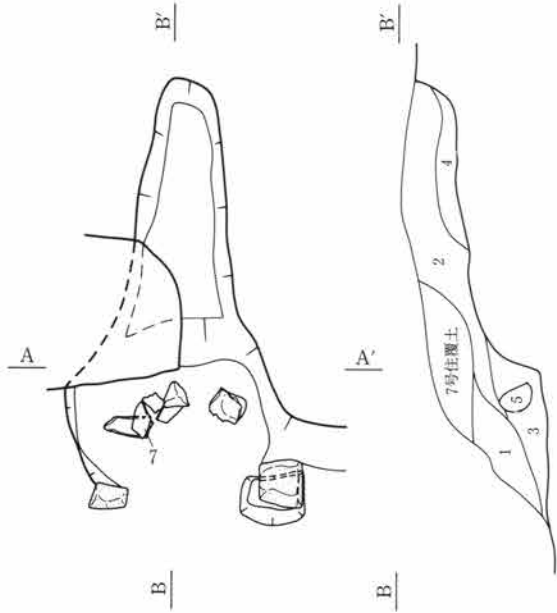
Z区南東部に位置し39・40 Z 19～21の範囲にある。5号住居跡の北東にある。他の遺構との関係は南部で6号住居跡、北部で8号住居跡と重複している。新旧関係は7号住居跡・8号住居跡より古い。規模は南壁で約3.1mを測る。平面形態は隅丸方形を呈するものと考えられる。主軸方位はN-87.5°-Eである。壁高は約30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・柱穴等の諸施設は検出されていない。南壁東側に貯蔵穴と考えられる小穴が検出された。形状は円形を呈し、規模は径約35cm、深さ約10cm～20cmを測る。竈は東壁に検出された。規模は燃烧部幅70cm、同長60cmを測る。

Z区8号住居跡 (第441・444・449図、第36・148・149・)

Z区南東部に位置し39～41 Z 19～21の範囲にある。5号住居跡の北東にある。他の遺構との関係は南部で6号住居跡・7号住居跡と重複している。新旧関係は6号住居跡・7号住居跡より新しい。また西北部は現代の農道により壊されている。規模は東壁で2.8mを測る。平面形態は隅丸長方形を呈するものと考えられる。主軸方位はN-104.5°-Eである。壁高は東壁で約30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃烧部幅90cm、同長60cmを測る。



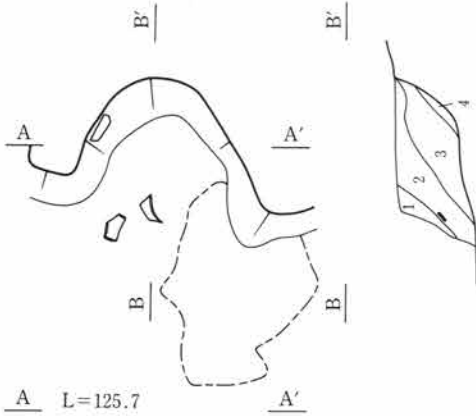
第441図 Z区5・6・7・8号住居跡



Z区6号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石、焼土粒微量に含む
- 2 暗褐色土層 焼土ブロック多量に含む
- 3 暗褐色土層 焼土ブロック、灰多量に含む
- 4 暗褐色土層

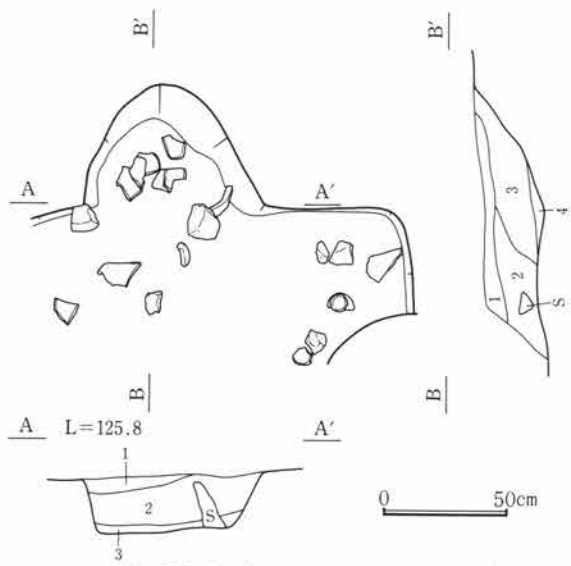
第442図 Z区6号住居跡竈



Z区8号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 ローム粒微量に含む
- 2 暗褐色土層 焼土粒、ローム粒、粘土粒含む
- 3 暗褐色土層 焼土粒、ロームブロック多量に含む
- 4 暗褐色土層 焼土粒、ロームブロック多量に含む

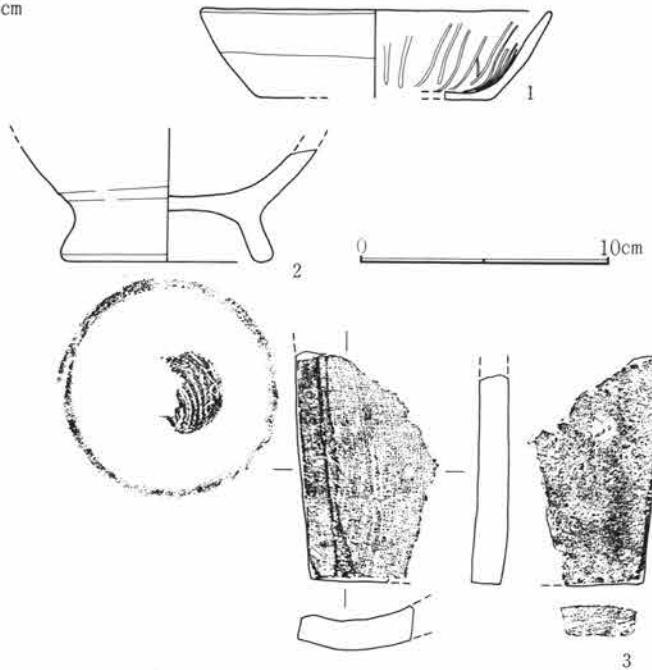
第444図 Z区8号住居跡竈



Z区7号住居跡竈

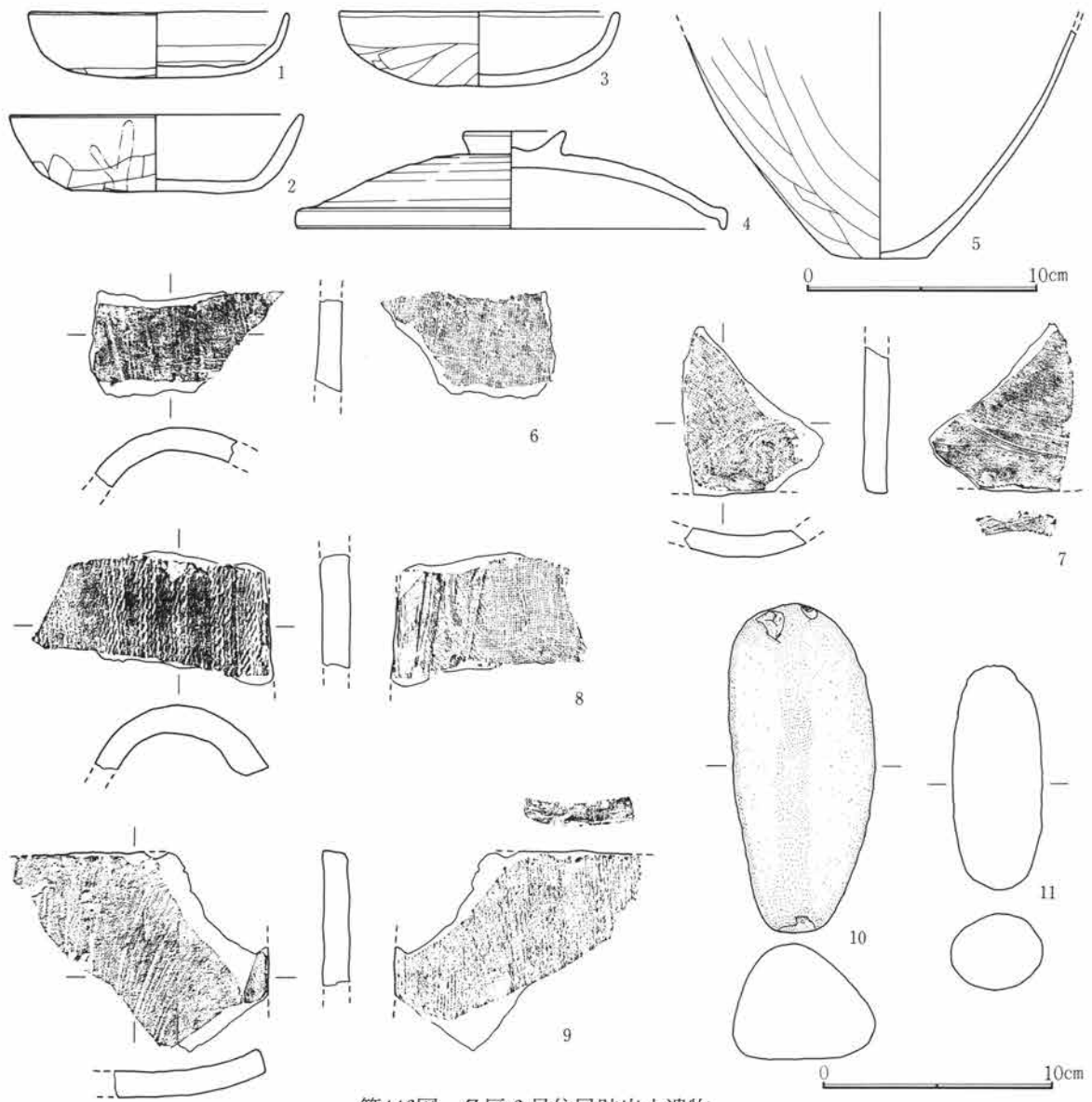
- 1 暗褐色土層
- 2 暗褐色土層 粘土粒、焼土粒含む
- 3 暗褐色土層 粘土粒多量に含む
- 4 暗褐色土層 灰多量に含む

第443図 Z区7号住居跡竈

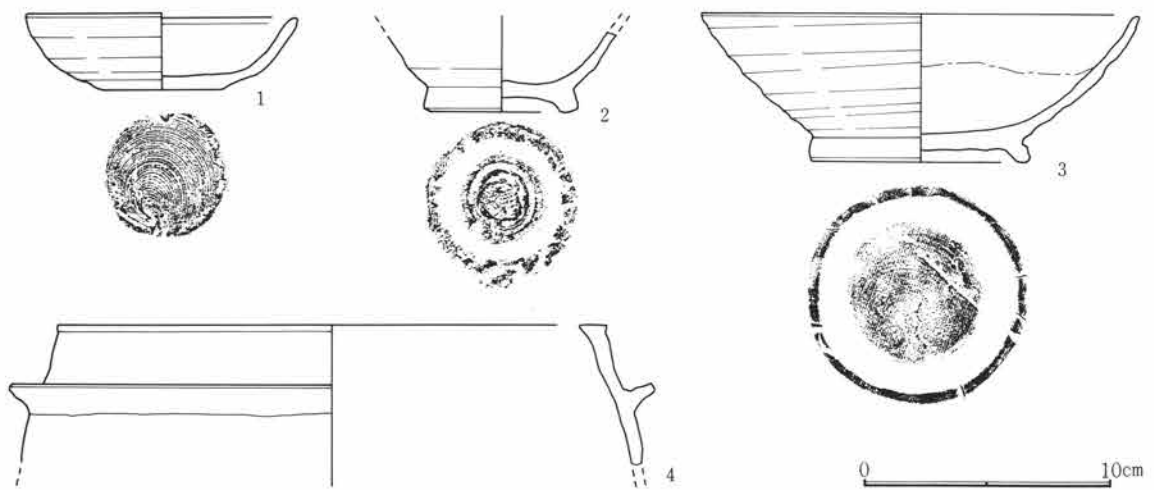


第445図 Z区5号住居跡出土遺物

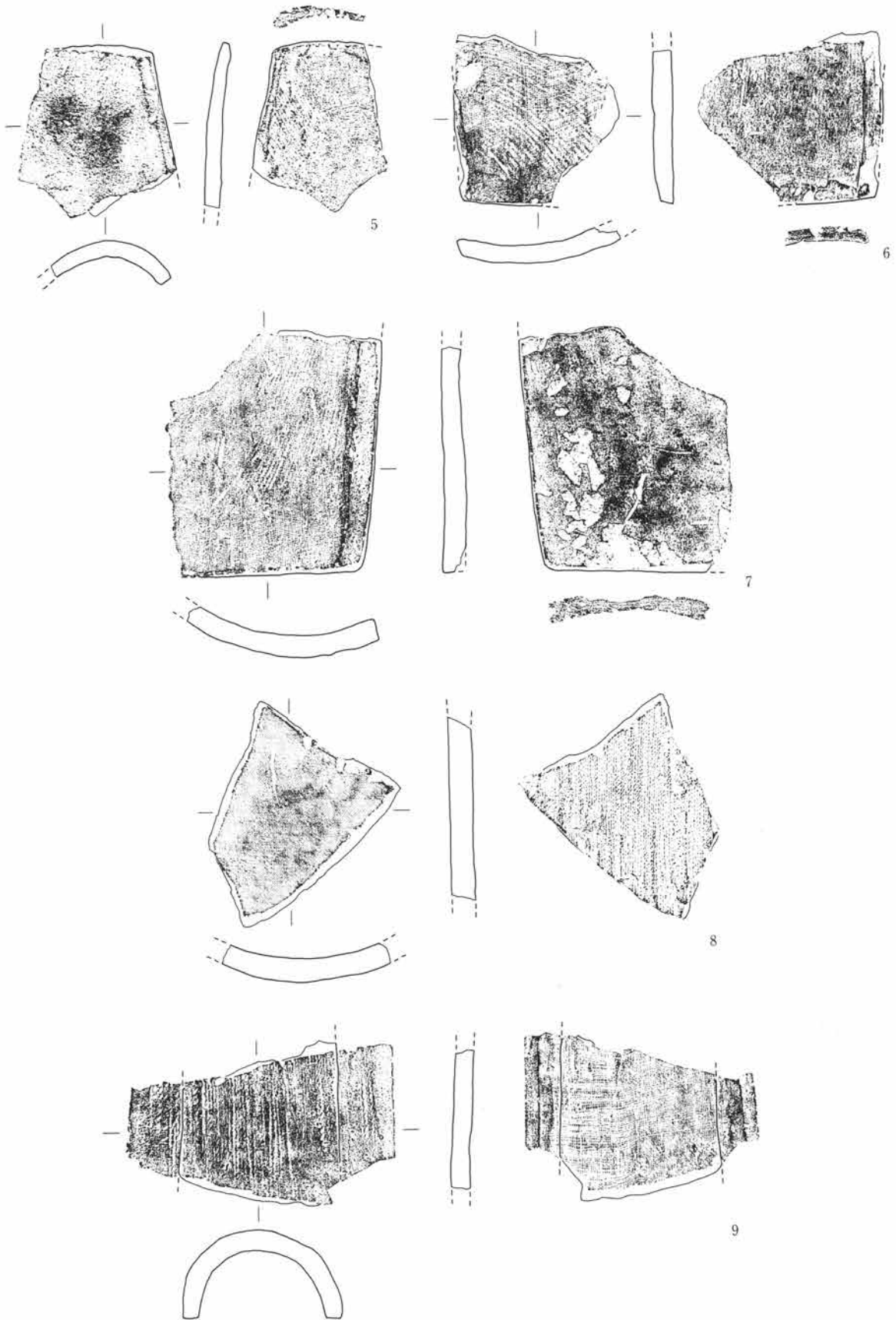
第4章 検出された遺構・遺物



第446図 Z区6号住居跡出土遺物

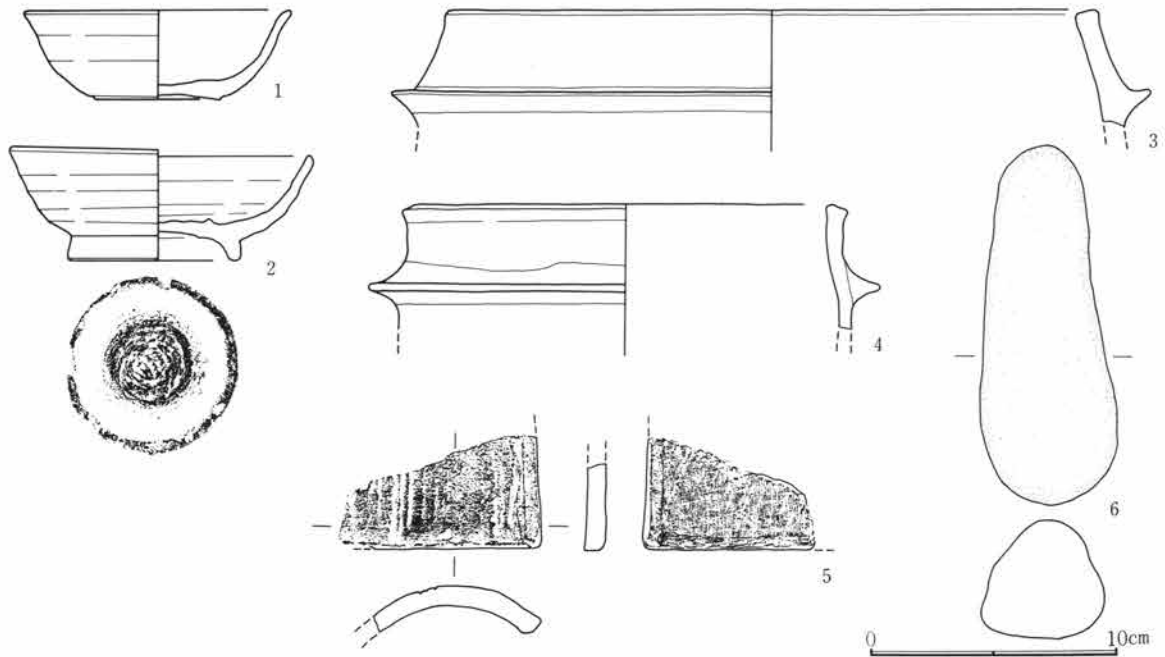


第447図 Z区7号住居跡出土遺物(1)



第448図 Z区7号住居跡出土遺物(2)

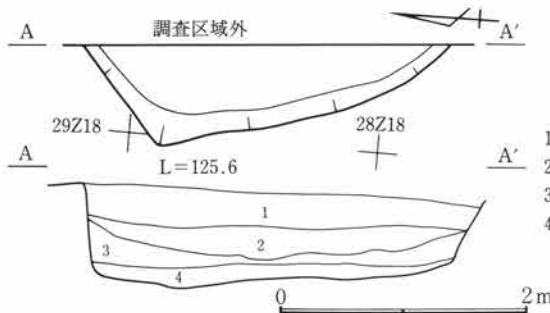
第4章 検出された遺構・遺物



第449図 Z区8号住居跡出土遺物

Z区9号住居跡 (第450・451図、第36・149図版)

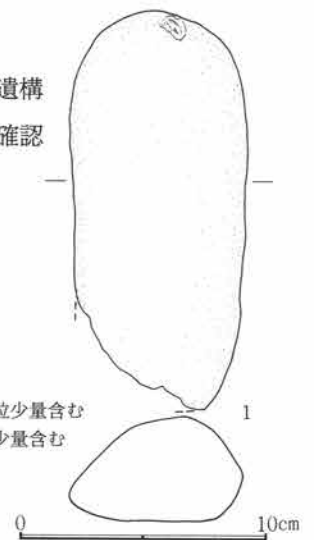
Z区東部に位置し27~29Z 17・18の範囲にある。3号住居跡の南東にある。他の遺構との重複はない。住居跡の大部分は調査区域外へ延び、確認されず、西部の一部を確認したのみである。規模は西壁で約2.5mを確認した。壁高は約60cm~70cmを測る。



第450図 Z区9号住居跡

Z区9号住居跡

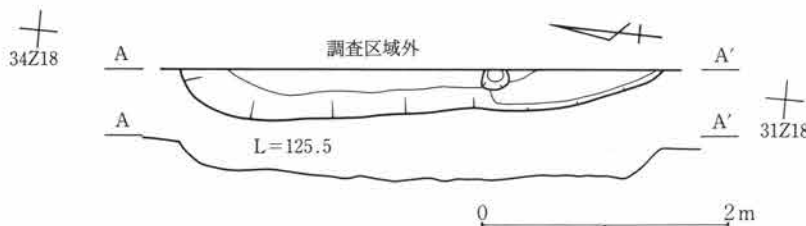
- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石少量含む
- 3 暗褐色土層 C軽石少量、ローム粒少量含む
- 4 暗褐色土層 ローム粒、ブロック少量含む



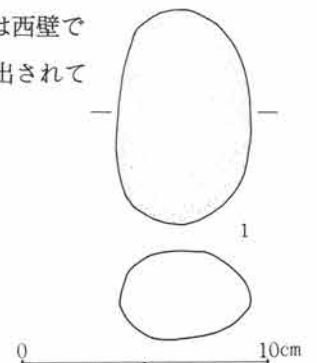
第451図 Z区9号住居跡出土遺物

Z区10号住居跡 (第452・453図、第36・149図版)

Z区東部に位置し31~33Z 17・18の範囲にある。3号住居跡の東にある。他の遺構との重複はない。また住居跡の大部分は調査区域外へ延びるため西側の一部を確認したのみである。規模は西壁で約3.9mを測る。壁高は約30cm~35cmを測る。壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は検出されていない。



第452図 Z区10号住居跡



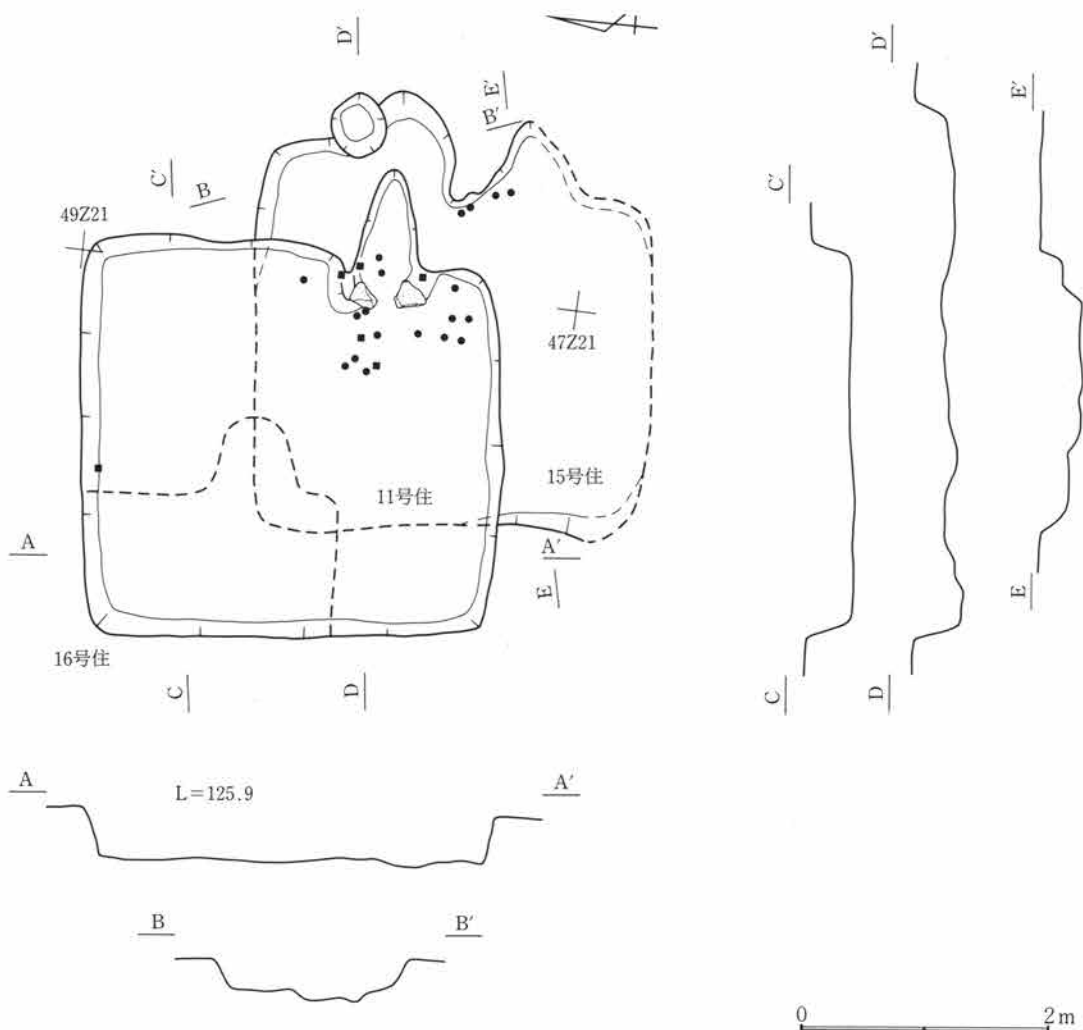
第453図 Z区10号住居跡出土遺物

Z区11号住居跡 (第454・455・457・458図、第36・37・149・150図版)

Z区北東部に位置し47・48Z 20～22の範囲にある。17号住居跡の北東にある。他の遺構との関係は南東部で15号住居跡、西北部で16号住居跡と重複している。新旧関係は15号住居跡・16号住居跡より新しい。規模は長辺3.65m、短辺3.35mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-92°-Eである。壁高は約25cm～30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。両袖部は床面に約30cm～40cm延びている。規模は袖幅60cm、燃烧部長90cmを測る。竈両袖部から袖材と考えられる石が検出され、竈前面には人頭大の石が散布した状態で検出された。

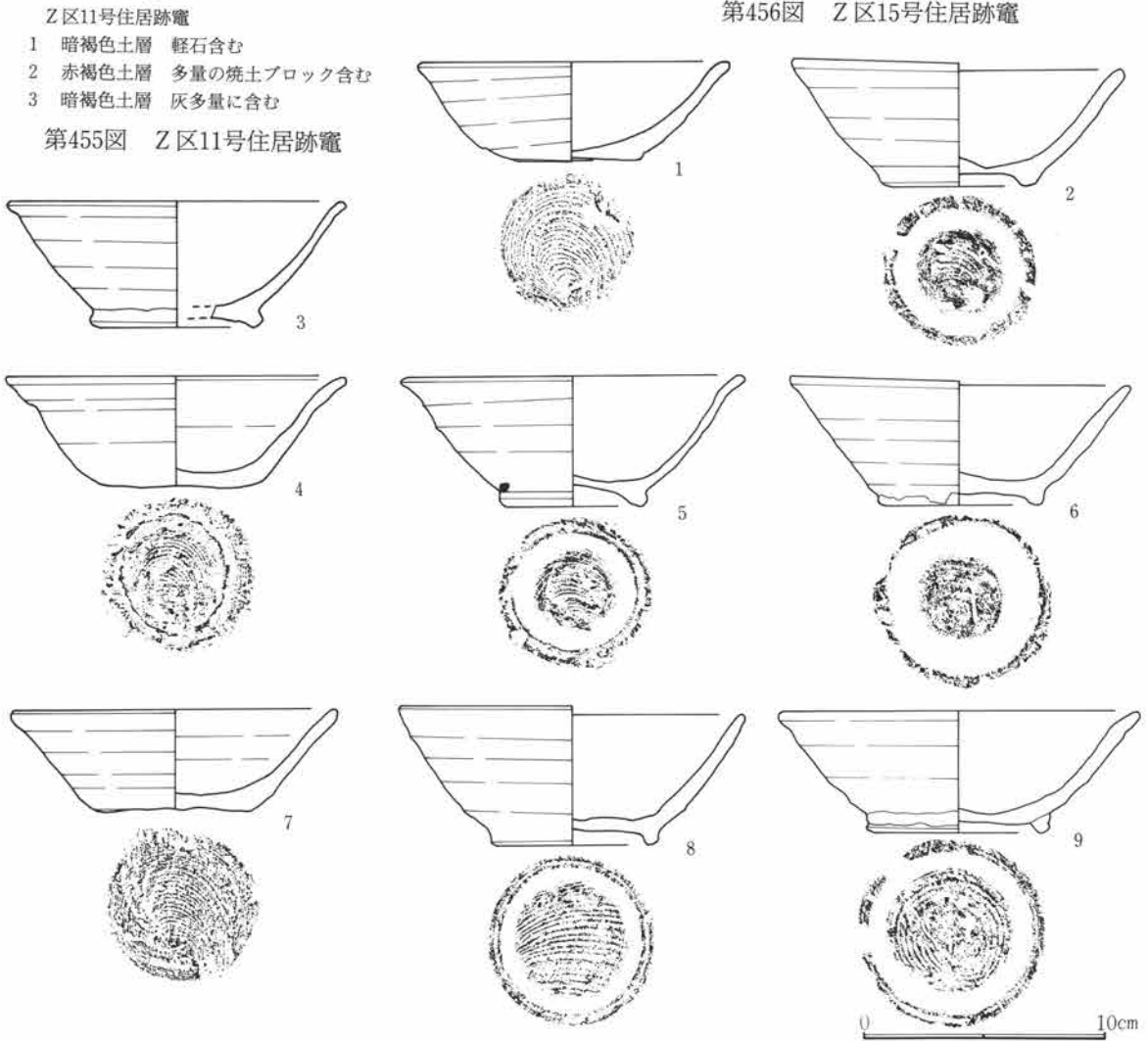
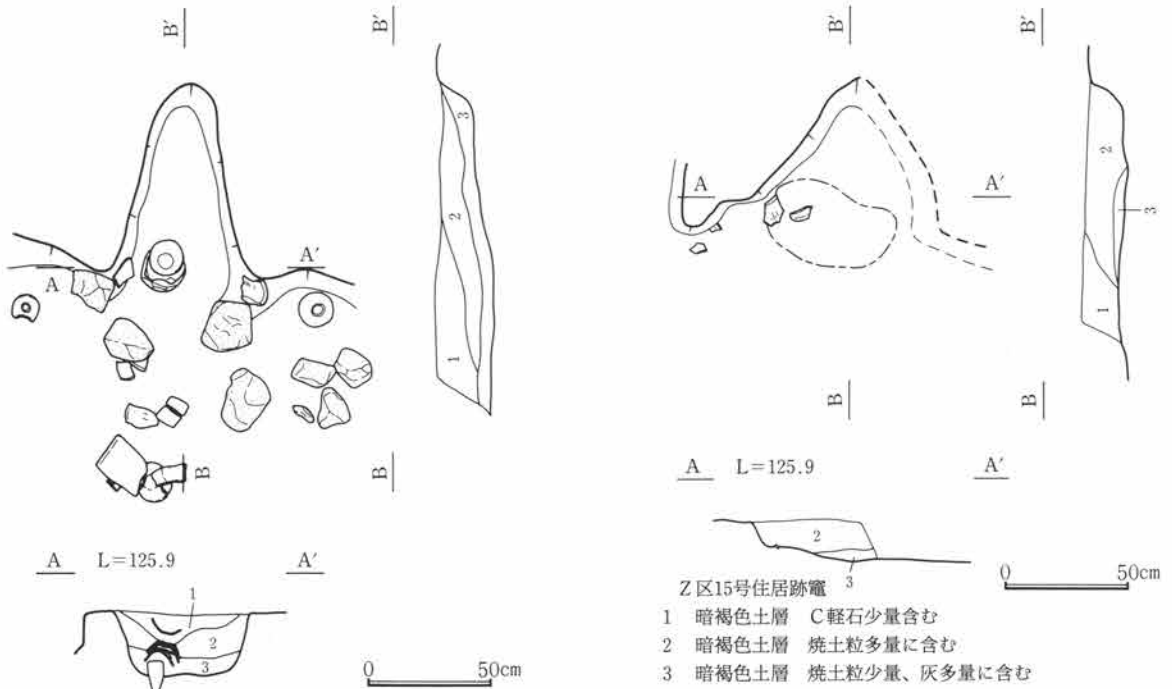
Z区15号住居跡 (第454・456・459図、第37・150・175図版)

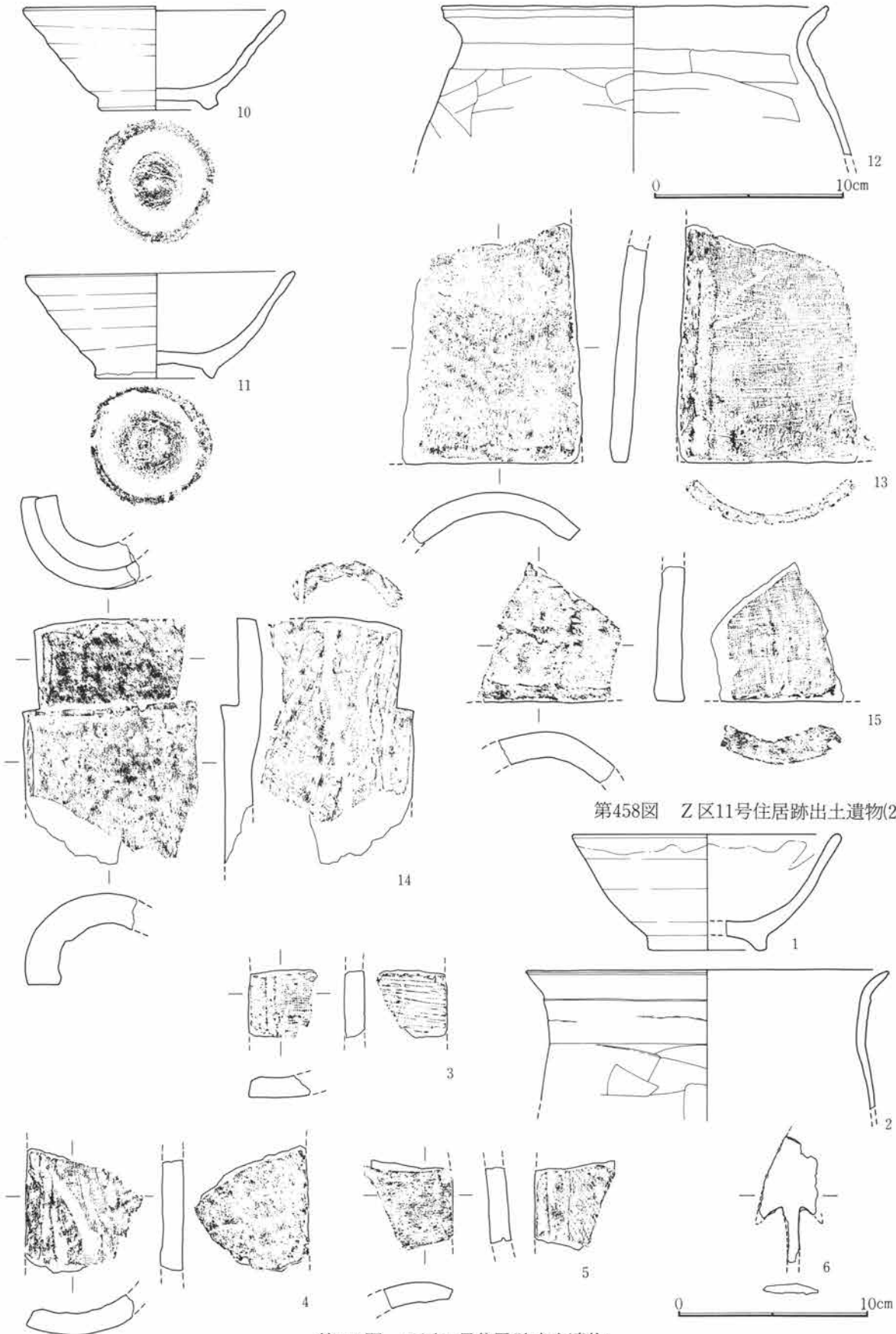
Z区北東部に位置し46～48Z 20・21の範囲にある。17号住居跡の北東にある。他の遺構との関係は西北部で11号住居跡・16号住居跡、北東部で2号土坑と重複している。また南部では中世の溝によって壊されている。新旧関係は11号住居跡・2号土坑より旧く、16号住居跡より新しい。規模は長辺3.2m、短辺2.7mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-82°-Eである。壁高は約20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃烧部幅80cm、同長約70cmを測る。



第454図 Z区11・15号住居跡

第4章 検出された遺構・遺物





第458图 Z区11号住居跡出土遺物(2)

第459图 Z区15号住居跡出土遺物

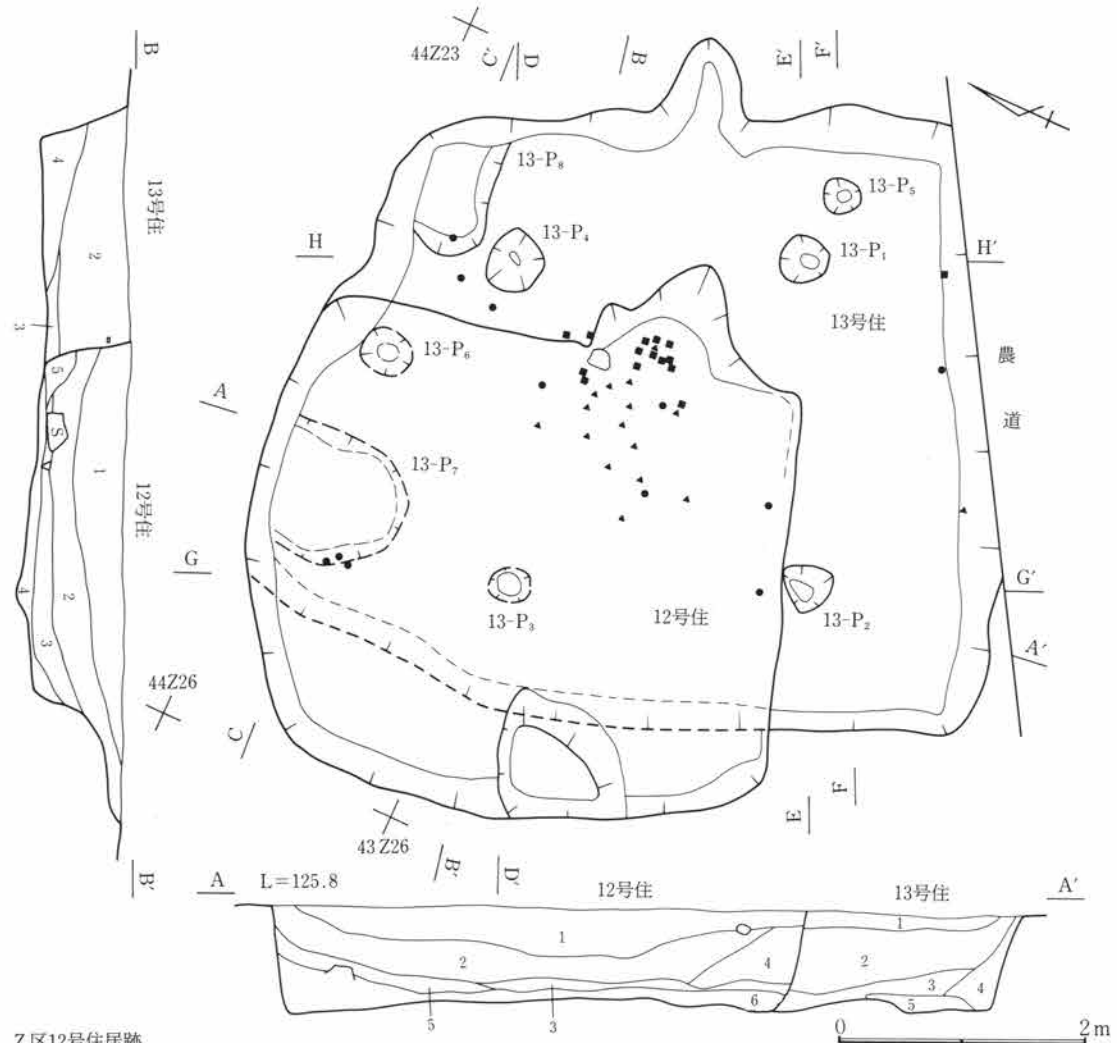
第4章 検出された遺構・遺物

Z区12号住居跡 (第460・461・462・464・465・466・467・468・469図、第37・150・151・152・153図版)

Z区北東部に位置し41~44 Z 23~25の範囲にある。8号住居跡の西北にある。他の遺構との関係は東部で13号住居跡と重複している。新旧関係は12号住居跡が新しい。規模は長辺4.45m、短辺3.85mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-79°-Eである。壁高は約60cm~70cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。西壁に接して小穴が検出された。規模は1.1m×90cm、深さ約25cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃烧部幅90cm、同長9cmを測る。燃烧部中央には長方形の天井石が崩れた状態で検出された。また両袖部にも石が検出された。

Z区13号住居跡 (第460・461・463・470図、第37・153図版)

Z区北東部に位置し41~44 Z 22~25の範囲にある。8号住居跡の西北にある。他の遺構との関係は西北部で12号住居跡と重複している。新旧関係は13号住居跡が古い。南壁の一部は現代の農道に壊されている。規模は6.1m、短辺5mを測る。壁高は約60cm~70cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。床面上には柱穴と考えられる小穴が6基、他に小穴が2基検出され、各々1~8と



Z区12号住居跡

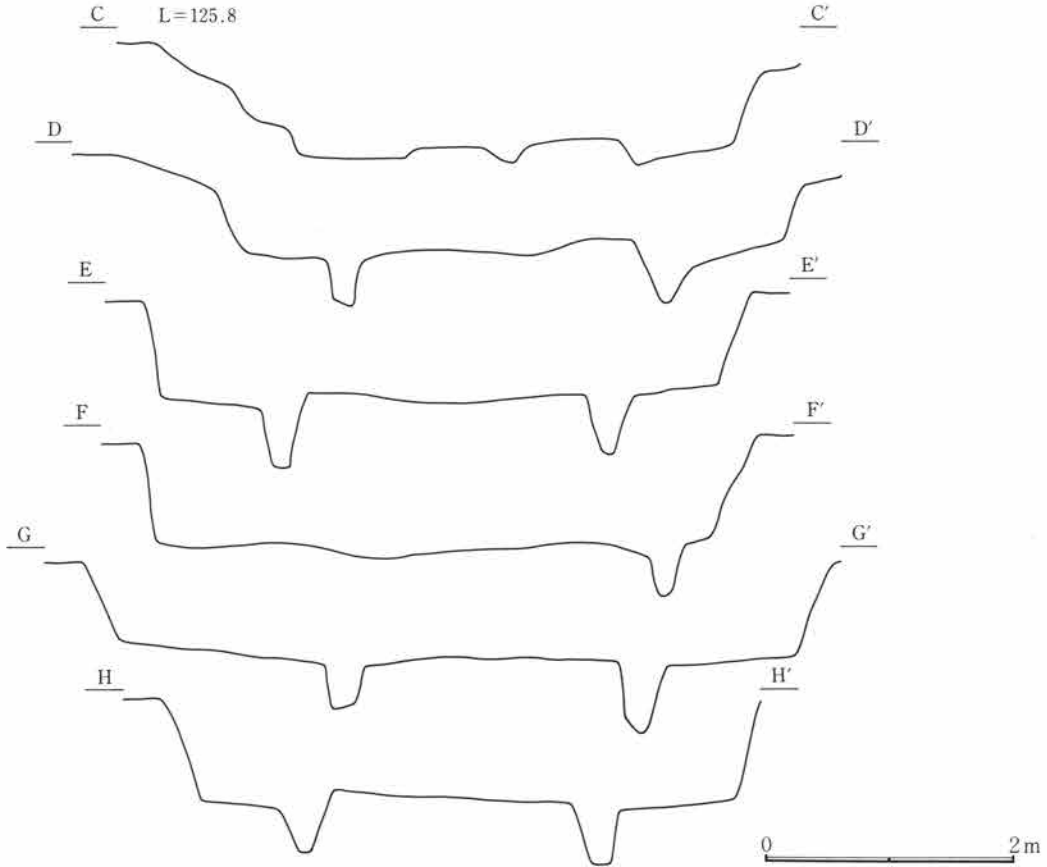
- 1 暗褐色土層 C軽石多量、カーボン含む
- 2 暗褐色土層 C軽石含む
- 3 暗褐色土層 C軽石、ローム粒少量含む
- 4 暗褐色土層 C軽石、地山粒多量、カーボン微量に含む
- 5 暗褐色土層 C軽石少量、焼土粒含む
- 6 暗褐色土層 ロームブロック多量に含む

Z区13号住居跡

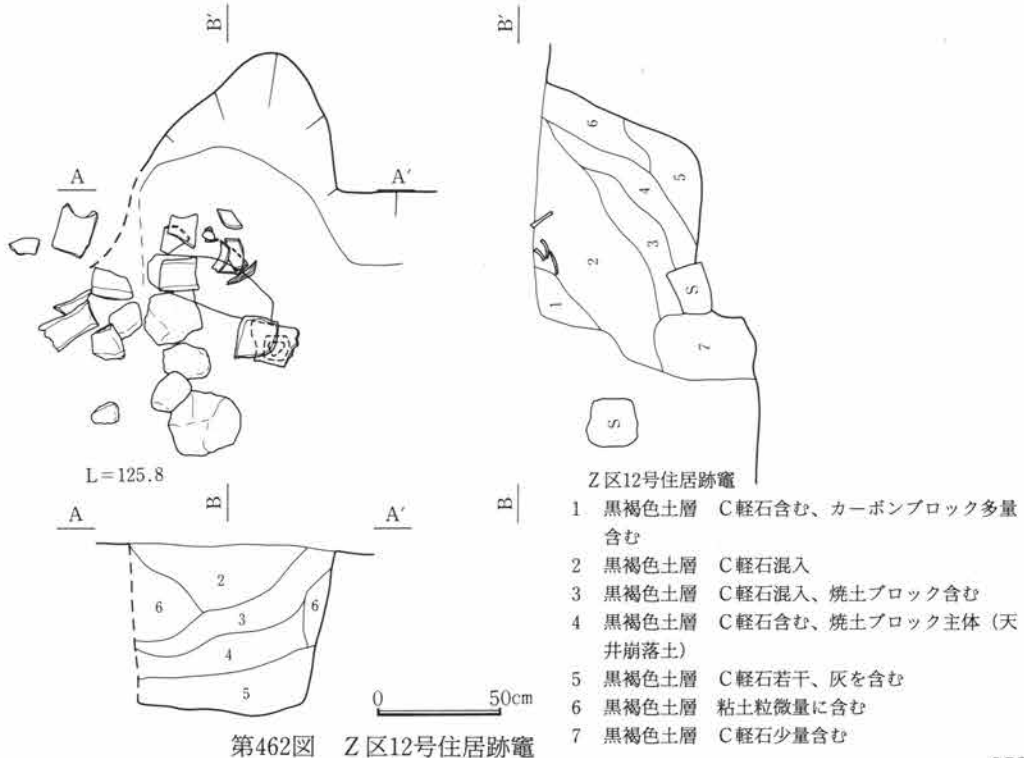
- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石多量、カーボン、ローム粒含む
- 3 暗褐色土層 C軽石、ローム粒微量に含む
- 4 暗褐色土層 C軽石少量含む
- 5 暗褐色土層 ロームブロック多量に含む

第460図 Z区12・13号住居跡

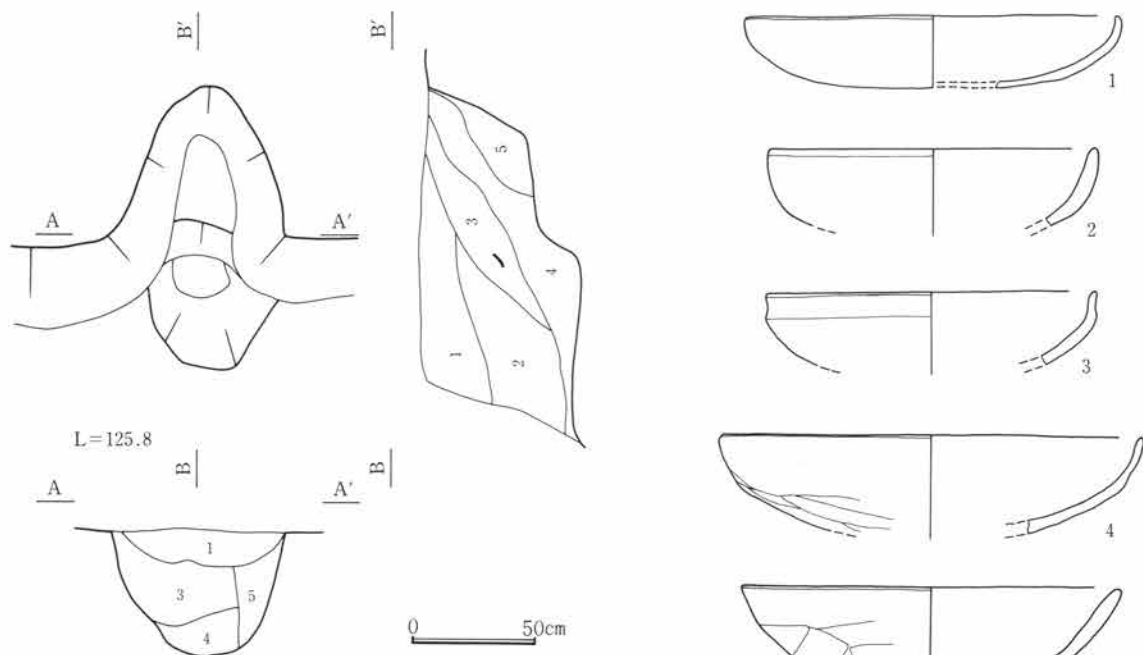
した。規模は1、径約40cm、深さ約50cm、2、径約40cm、深さ約60cm、3、径約30cm、深さ約60cm、4、径約50cm、深さ約50cm、5、径約30cm、深さ約40cm、6、径約40cm、深さ約40cm、7、1.2m×1.1m、深さ約15cm、8、90cm×55cm、深さ約10cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃烧部幅70cm、同長80cmを測る。



第461図 Z区12・13号住居跡断面



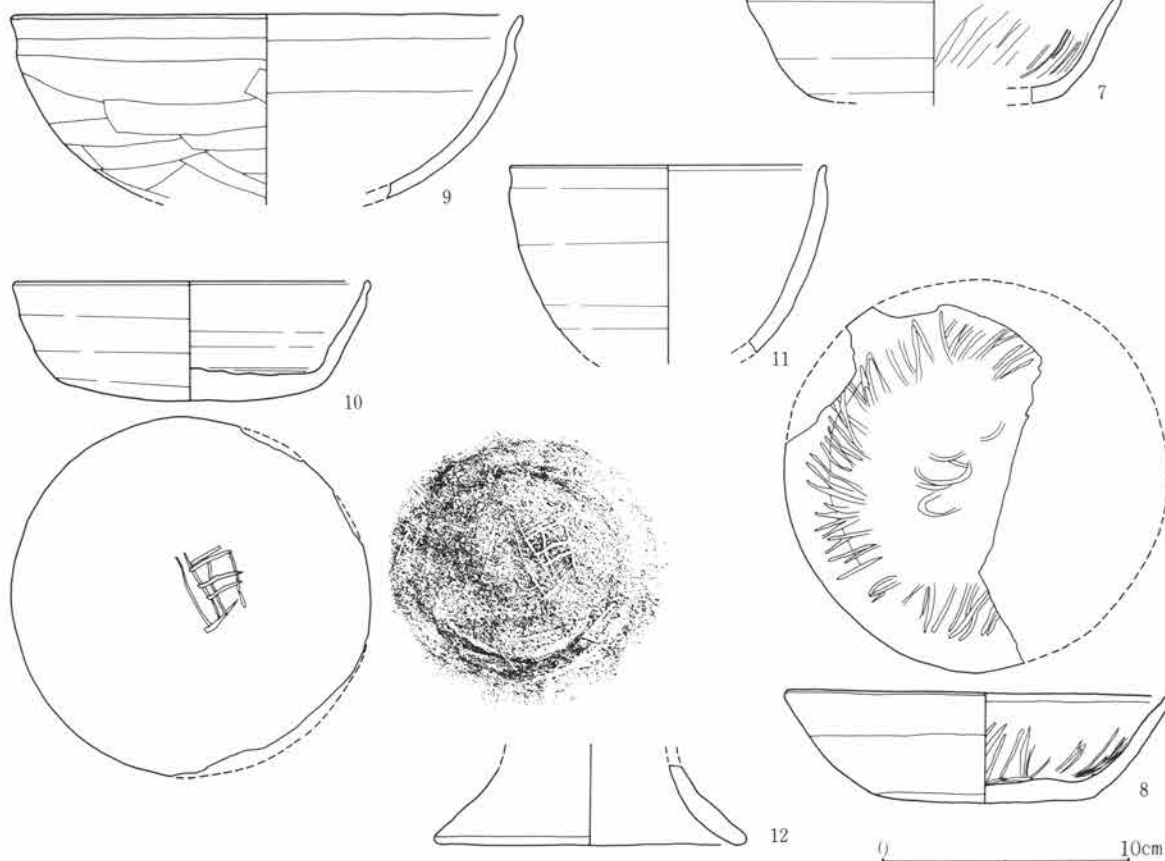
第462図 Z区12号住居跡竈



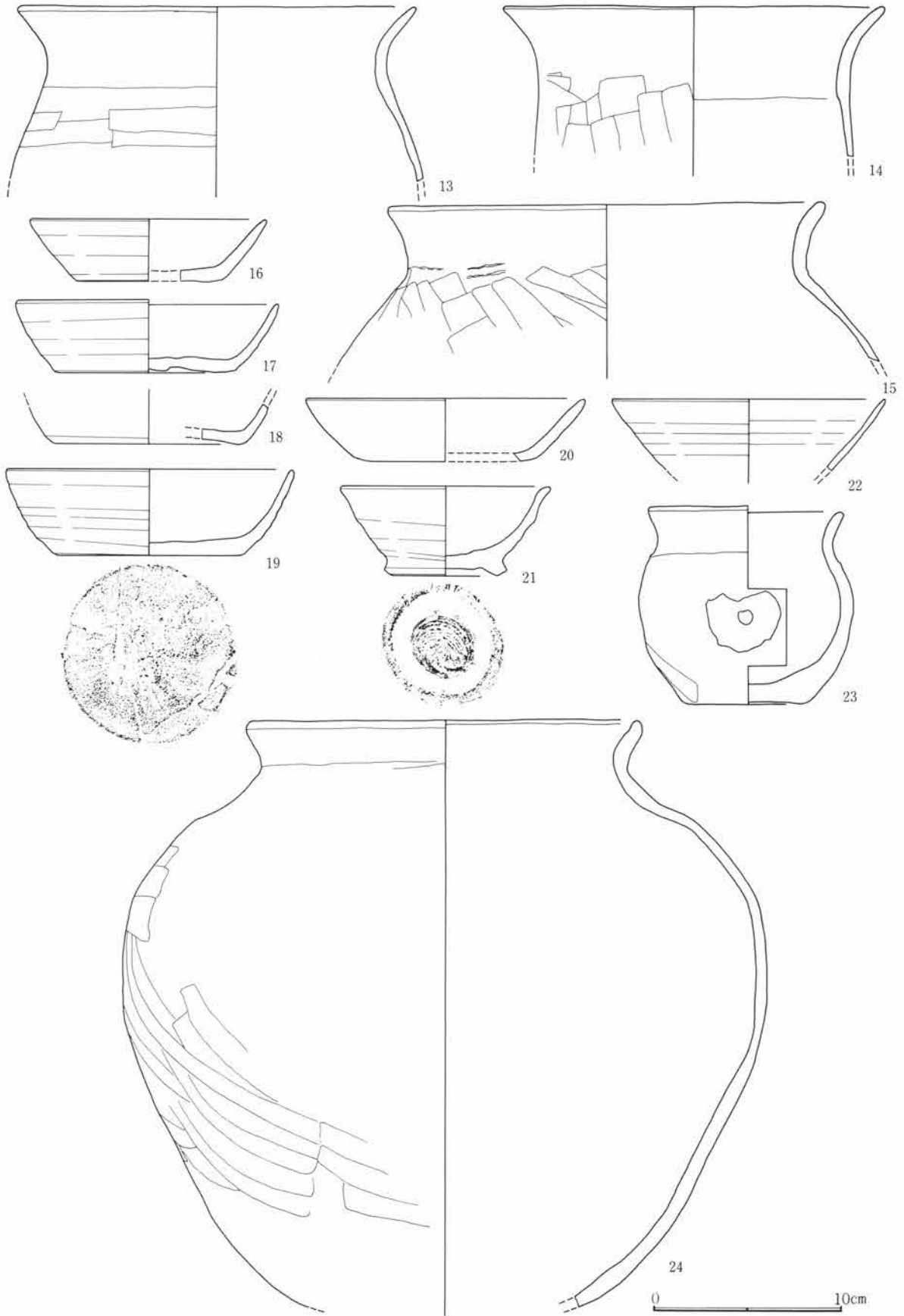
Z区13号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石多量、カーボン微量に含む
- 3 暗褐色土層 C軽石微量、カーボン粘土粒含む
- 4 暗褐色土層 灰、粘土粒、ローム粒多量に含む
- 5 暗褐色土層 C軽石多量、焼土粒少量含む

第463図 Z区13号住居跡竈

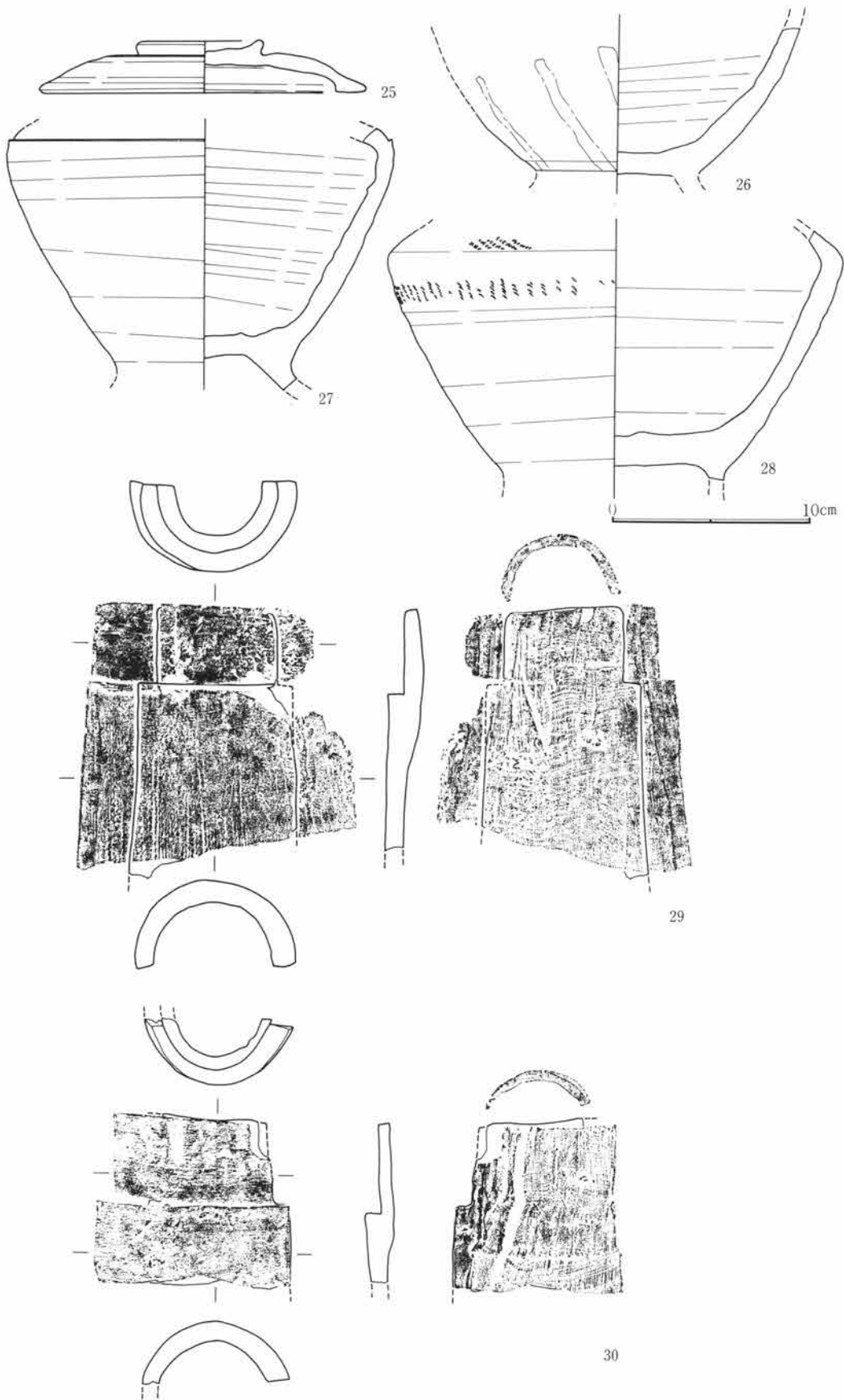


第464図 Z区12号住居跡出土遺物(1)

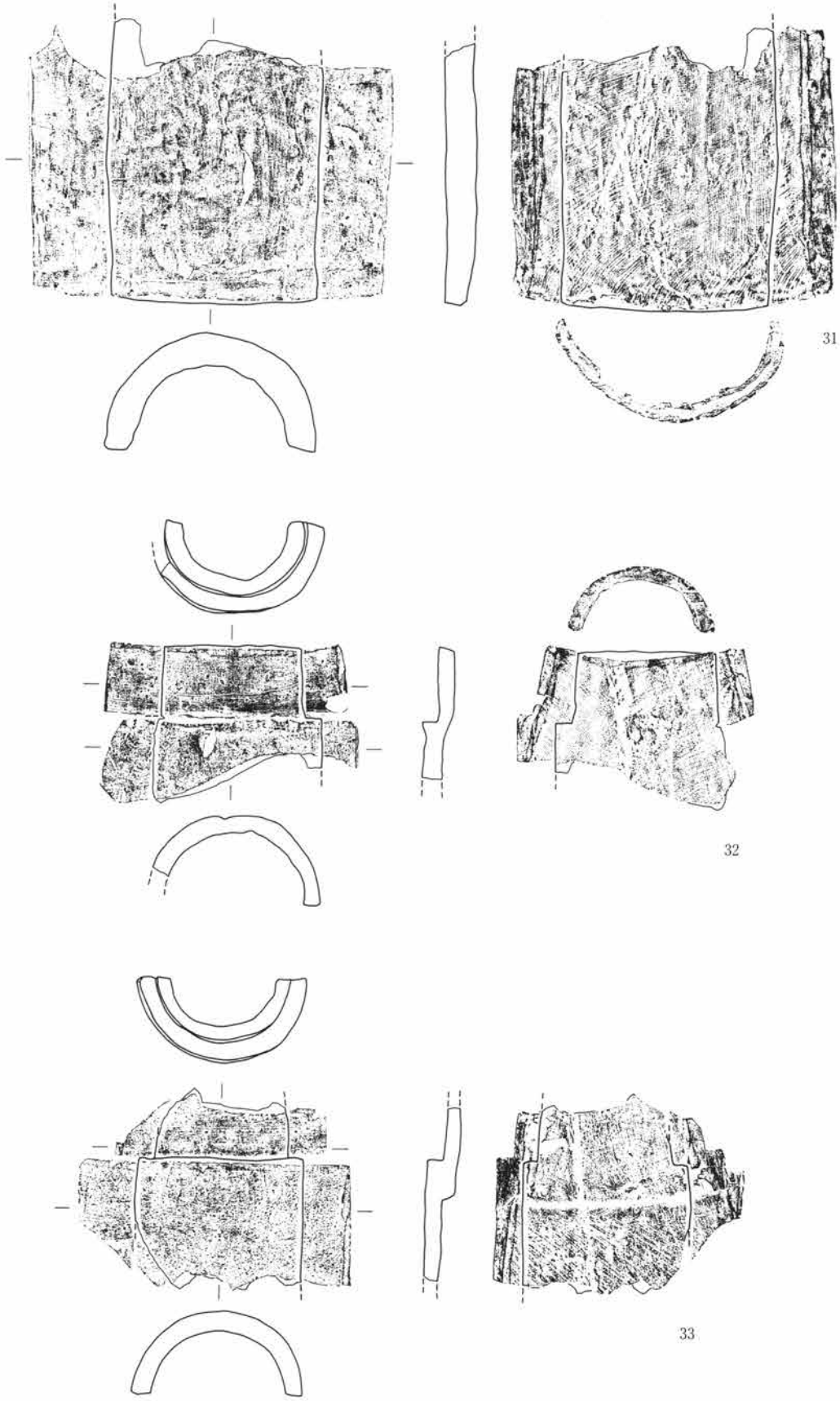


第465図 Z区12号住居跡出土遺物(2)

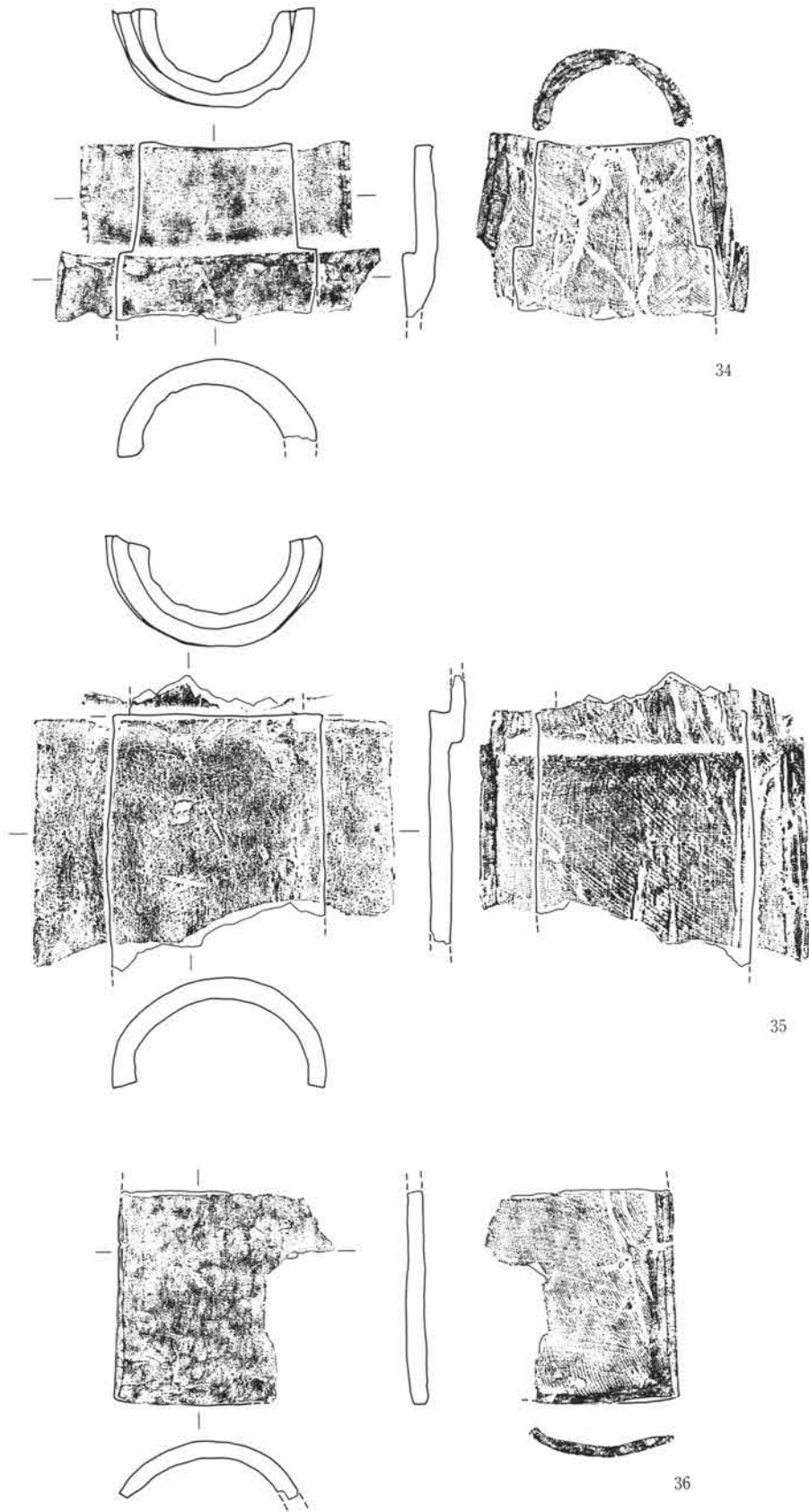
第4章 検出された遺構・遺物



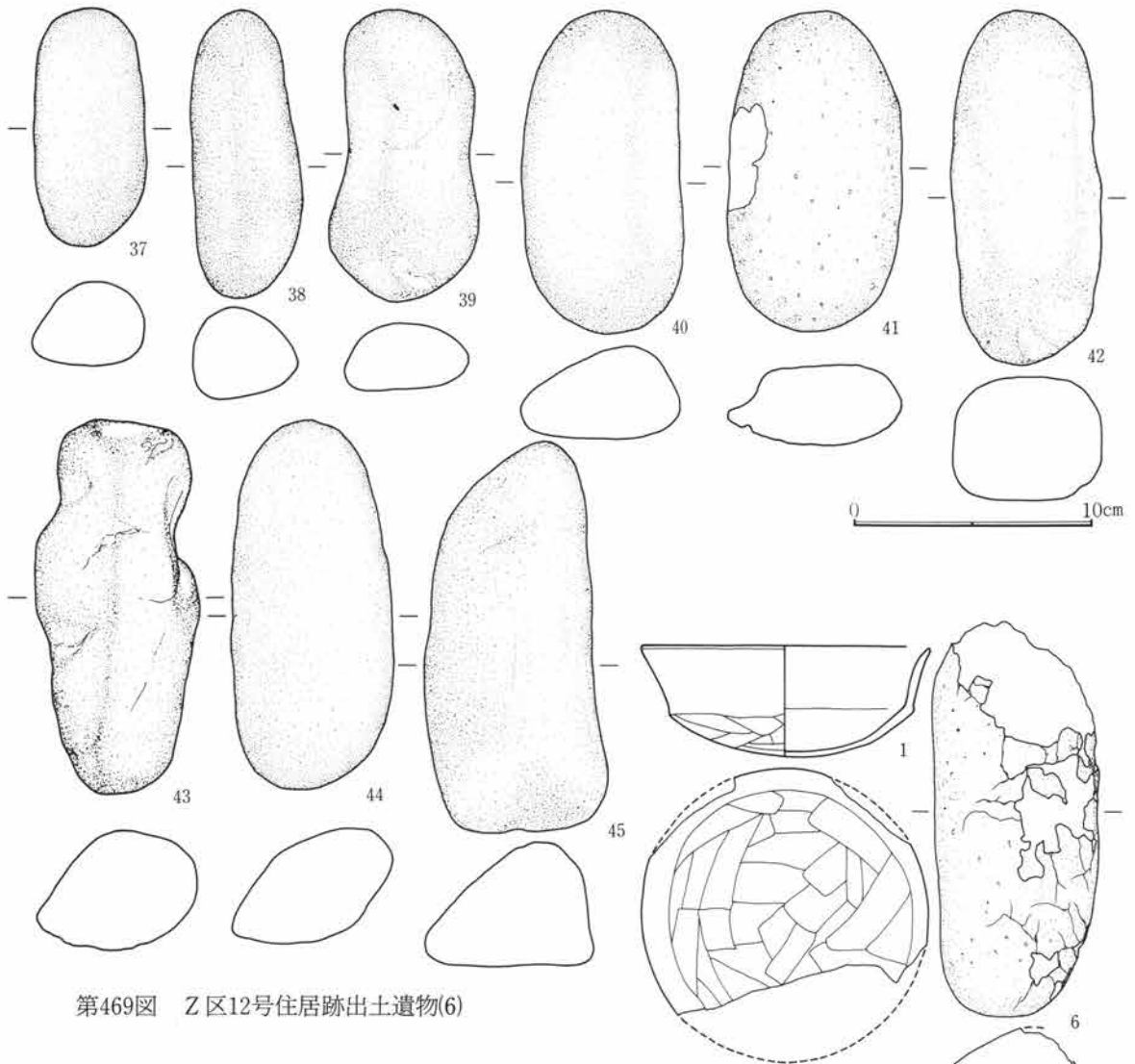
第466図 Z区12号住居跡出土遺物(3)



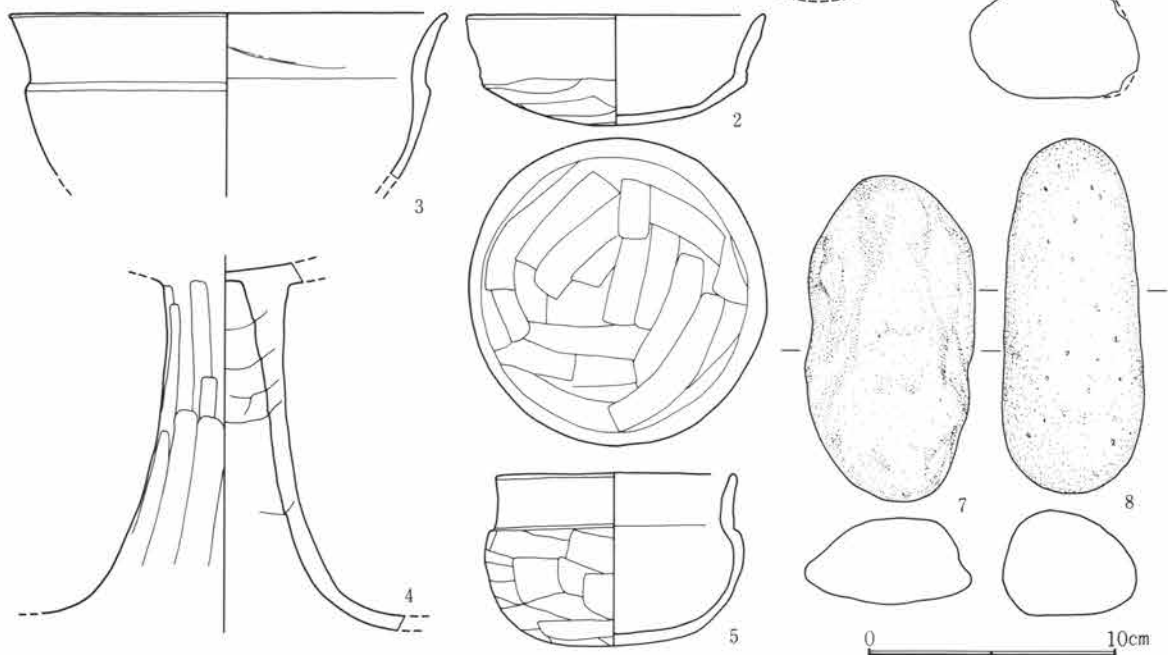
第467図 Z区12号住居跡出土遺物(4)



第468図 Z区12号住居跡出土遺物(5)



第469図 Z区12号住居跡出土遺物(6)



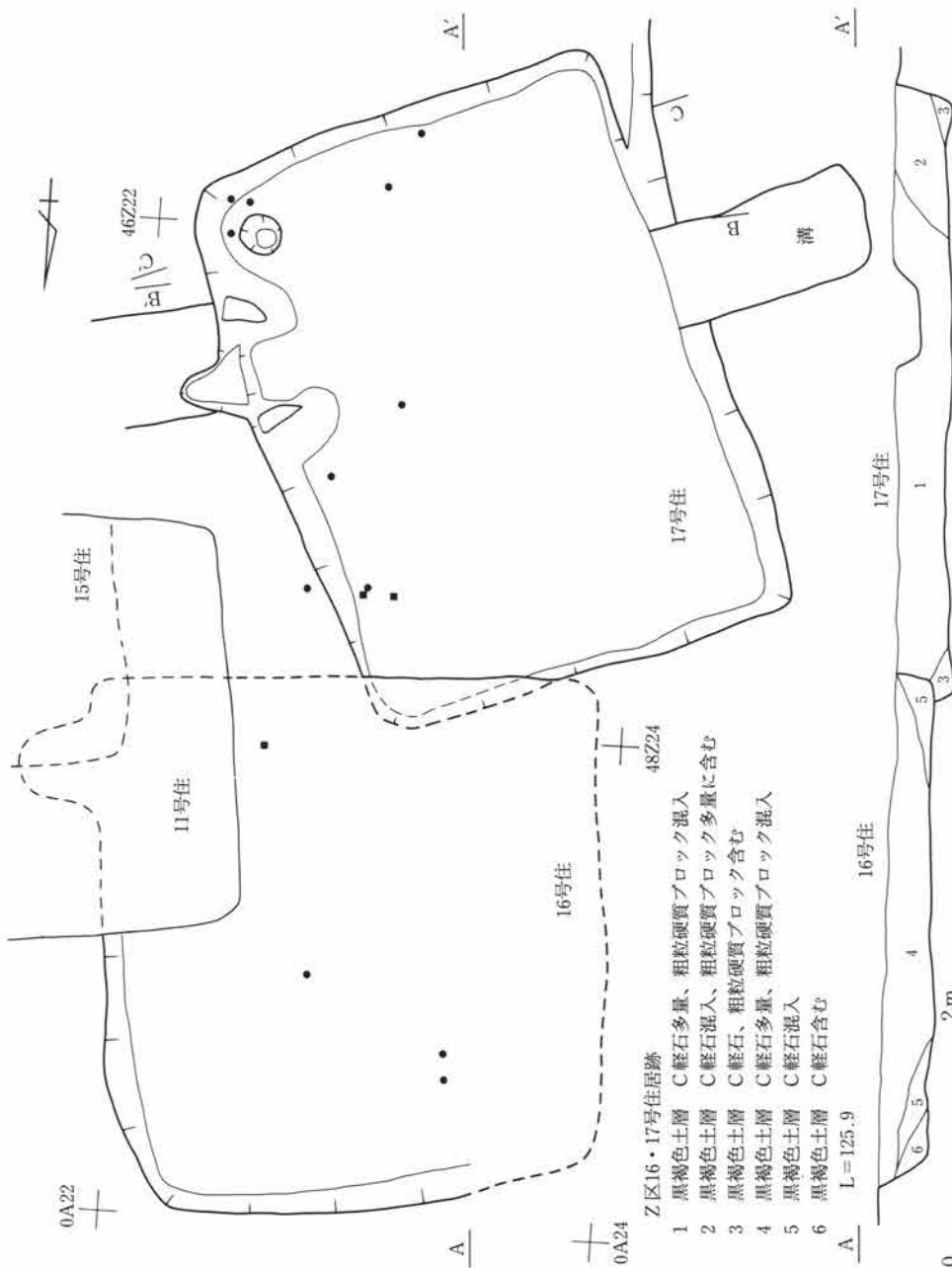
第470図 Z区13号住居跡出土遺物

Z区16号住居跡 (第471・473図、第37・153・154・175図版)

Z区北東部に位置し47~49Z21~23の範囲にある。8号住居跡の北にある。他の遺構との関係は南東部で11号住居跡・15号住居跡、南西部で17号住居跡と重複している。新旧関係は16号住居跡が11号住居跡・15号住居跡・17号住居跡より古い。規模は長辺4.3m、短辺4.15mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-84°-Eである。壁高は東壁北部で約40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は11号住居跡・15号住居跡との重複により確認できなかったが痕跡が認められた。規模は推定で燃烧部幅80cm、同長60cmを測る。

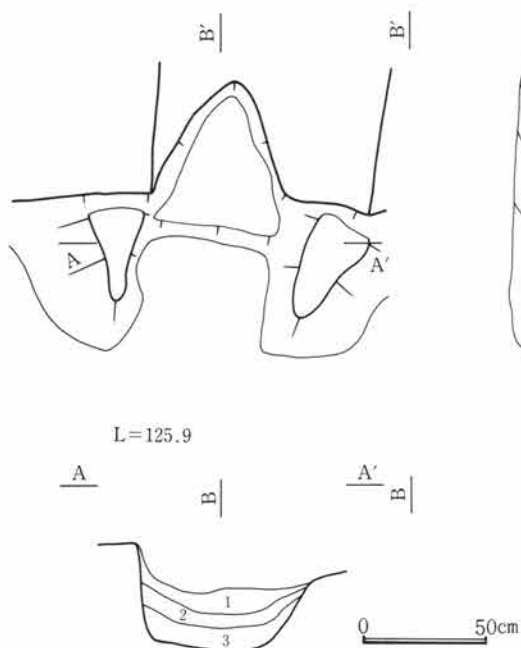
Z17号住居跡 (第471・472・474・475図、第38・154図版)

Z区北東部に位置し45~47Z22~24の範囲にある。11号住居跡・15号住居跡の南西にある。他の遺構との関係は北東部で16号住居跡と重複している。新旧関係は17号住居跡が古い。規模は長辺4.85m、短辺3.85mを



測る。平面形態は隅丸長方形を呈する。主軸方位はN-84°-Eである。壁高は約40cm~50cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・柱穴等の諸施設は検出されていない。南東隅に貯蔵穴と考えられる小穴が検出された。規模は径約30cm、深さ約30cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。左右の袖部は約40cm~50cm床面上に延びている。規模は袖幅60cm、燃烧部長50cm、煙道部長50cmを測る。

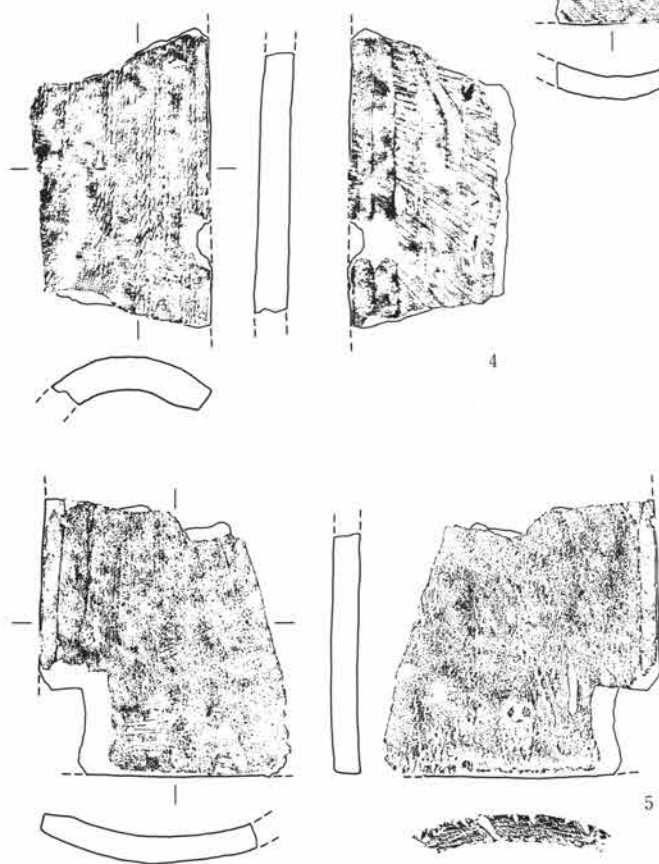
第471図 Z区16・17号住居跡



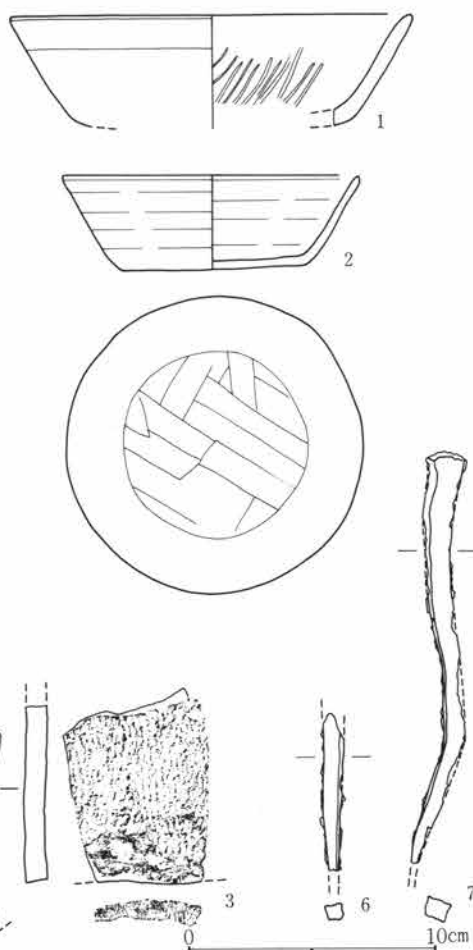
Z区17号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石少量含む
- 2 赤褐色土層 焼土粒ブロック多量に含む
- 3 暗褐色土層 焼土粒、灰多量に含む
- 4 暗褐色土層 灰、ローム粒ブロック多量に含む

第472図 Z区17号住居跡竈

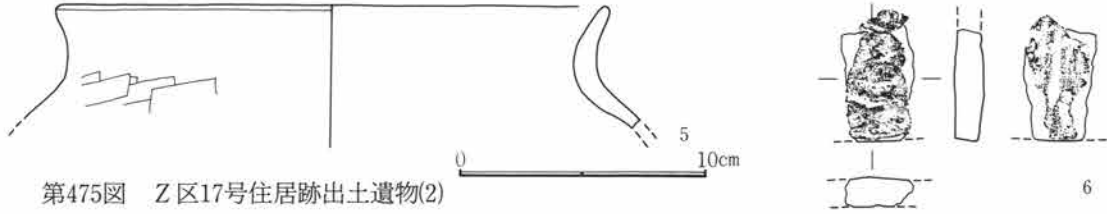


第473図 Z区16号住居跡出土遺物



第474図 Z区17号住居跡出土遺物(1)

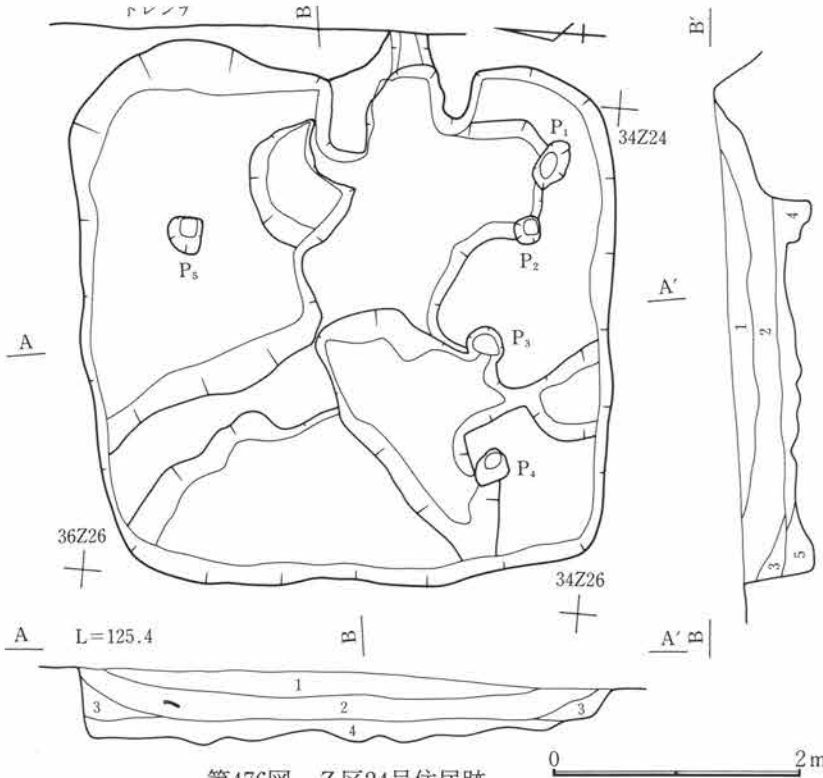
第4章 検出された遺構・遺物



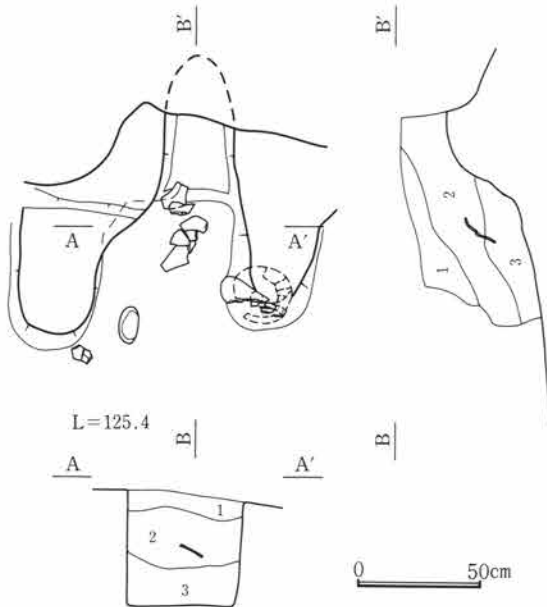
第475図 Z区17号住居跡出土遺物(2)

Z区24号住居跡 (第476・477・478図、第38・154・155・175図版)

Z区中央部やや東に位置し33~36 Z 23~25の範囲にある。4号住居跡の西にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺4.5m、短辺4.25mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-90°-Eである。壁高は約20cm~30cmを測る。床面は凹凸がめだち、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。床面の凹凸は約数cm~15cmを測る。床面上には柱穴と考えられる小穴が5基検出された。各々1~5とした。規模は1、40cm×25cm、深さ約15cm、2、径約20cm、深さ約20cm、3、30cm×20cm、深さ約20cm、4、径約30cm、深さ約45cm、5、径約30cm、深さ約45cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。煙道部の先端はトレンチによって壊されている。左右の袖部は約50cm床面上に延びている。規模は袖幅80cm、燃烧部長60cm、煙道部長推定で約50cmを測る。



第476図 Z区24号住居跡



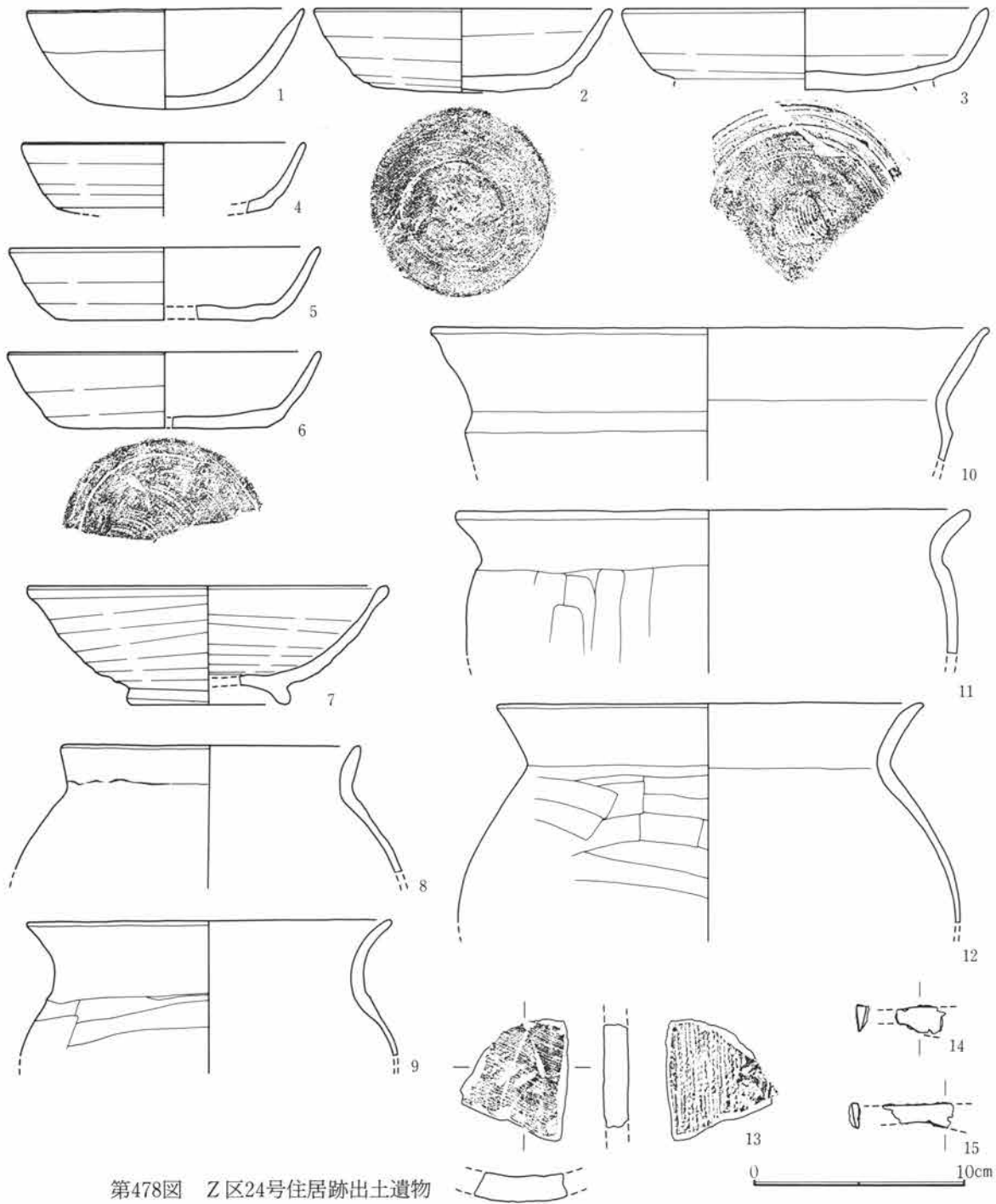
第477図 Z区24号住居跡竈

Z区24号住居跡

- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石、砂質土ブロック少量含む
- 3 暗褐色土層 C軽石微量、砂質土粒多量に含む
- 4 暗褐色土層 C軽石微量、砂質土ブロック多量に含む
- 5 黄褐色土層 砂質土

Z区24号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石、粘土粒少量含む
- 2 灰褐色土層 白色粘土ブロック多量に含む
- 3 暗褐色土層 焼土粒少量含む



第478図 Z区24号住居跡出土遺物

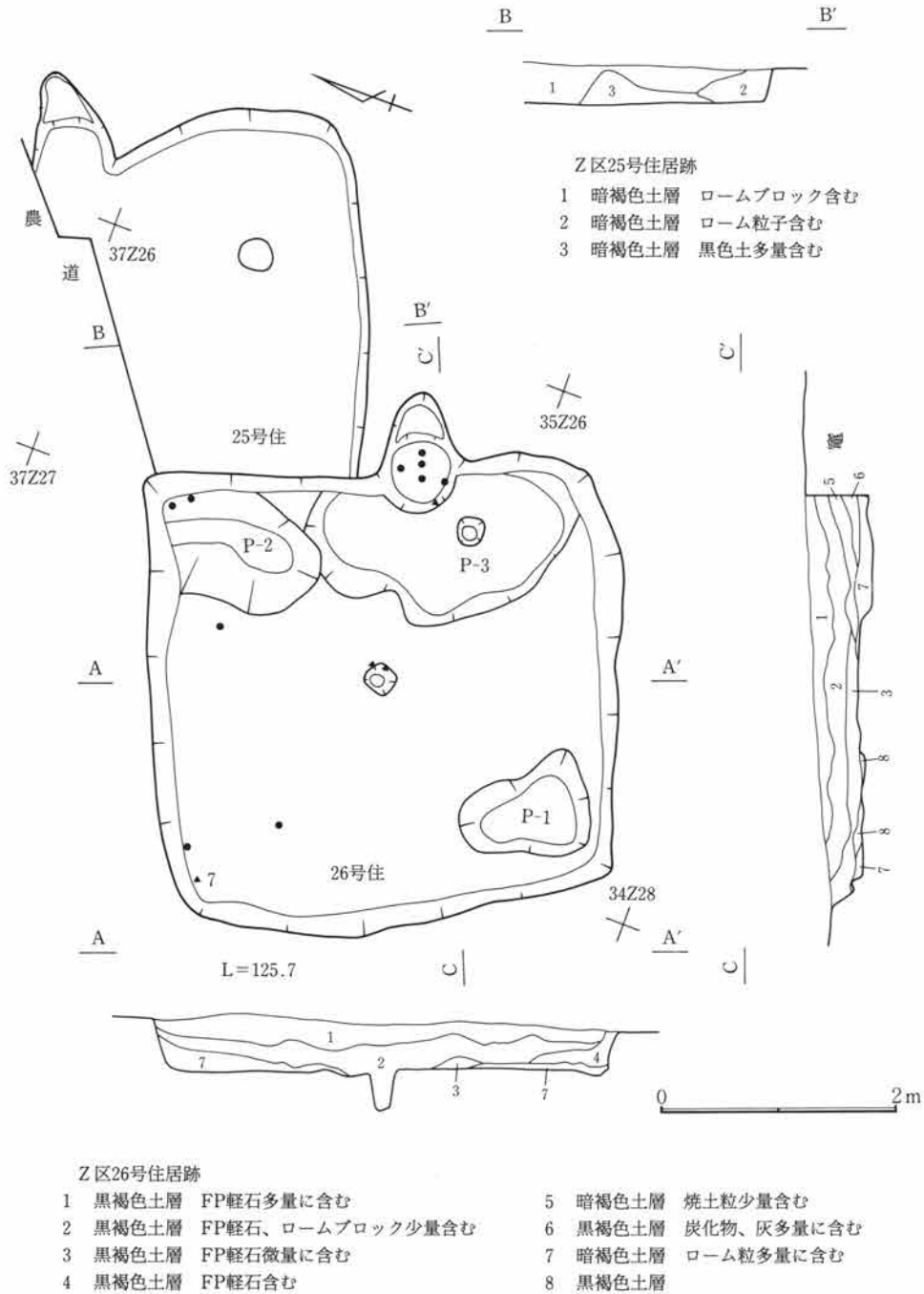
Z区25号住居跡 (第479・480・482図、第38・155・175図版)

Z区中央やや東に位置し35～37Z 25～27の範囲にある。24号住居跡の西北にある。他の遺構との関係は南西部で26号住居跡、北部で53号住居跡と重複している。新旧関係は25号住居跡が古い。また北半の大部分は現代の農道によって壊されている。規模は東壁で約3mを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁に検出された。燃烧部の左側の一部は農道によって壊されている。規模は燃烧部幅推定で約70cm、同長70cm、煙道部長40cmを測る。

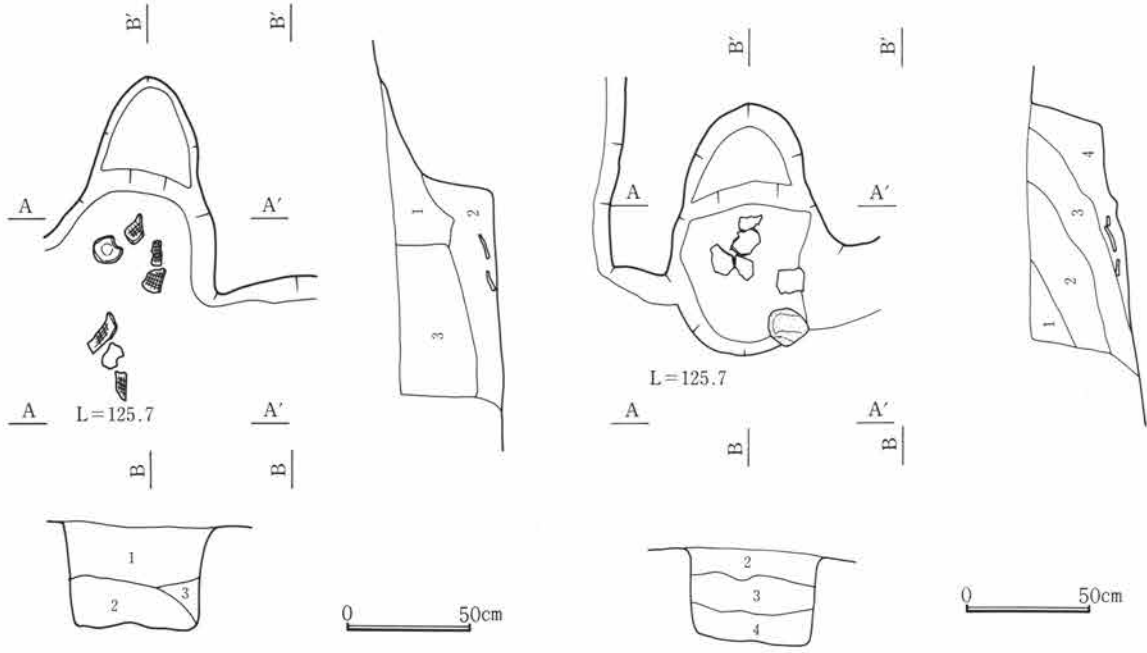
Z区26号住居跡 (第479・481・483図、第38・39・155図版)

第4章 検出された遺構・遺物

Z区中央やや東に位置し34~36Z 26~28の範囲にある。24号住居跡の西に接している。他の遺構との関係は北東部で25号住居跡と重複している。新旧関係は26号住居跡が新しい。規模は長辺4.05m、短辺3.95mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-67°-Eである。壁高は約20cm~40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。北東隅、南東隅、竈前面に落ち込みが認められ、各々1~3とした。規模は1、1.1m×80cm、深さ約10cm、2、1.4m×90cm、深さ約20cm、3、2m×1m、深さ約15cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃烧部幅60cm、同長60cm、煙道部長30cmを測る。



第479図 Z区25・26号住居跡



Z区25号住居跡竈

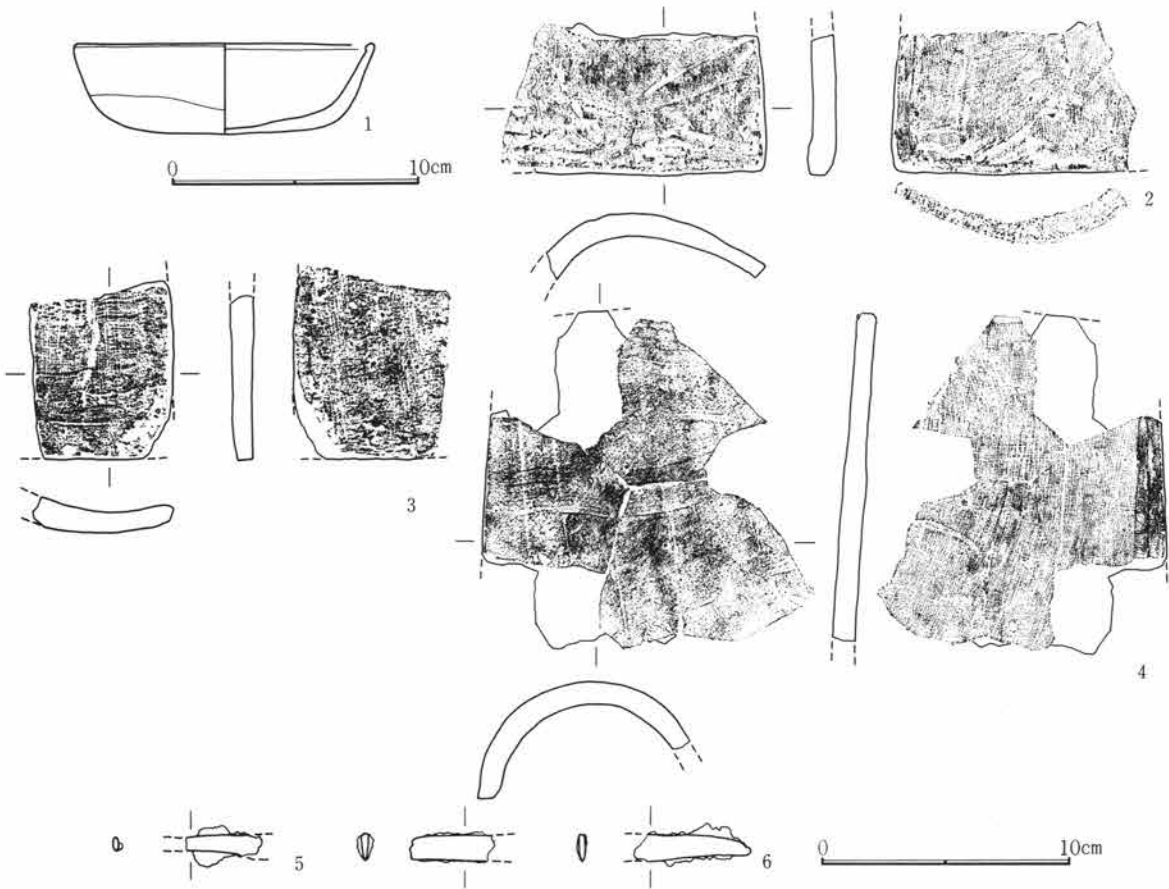
- 1 暗褐色土層 焼土、炭化物を少量含む
- 2 暗褐色土層 焼土、灰、ローム粒子多量に含む
- 3 暗褐色土層 ロームブロック含む

第480図 Z区25号住居跡竈

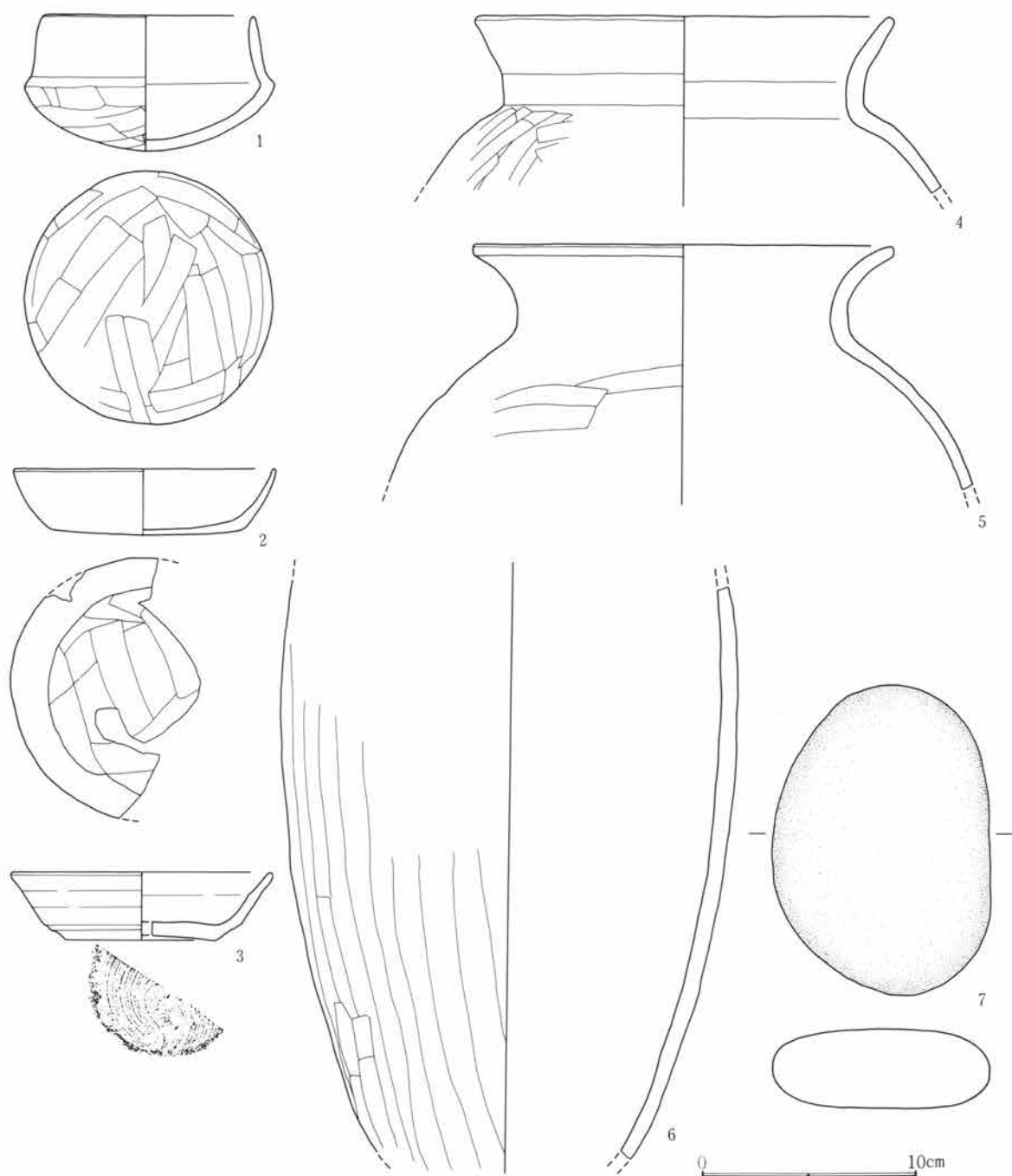
Z区26号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 FP少量含む
- 2 暗褐色土層
- 3 黒褐色土層
- 4 黒褐色土層

第481図 Z区26号住居跡竈



第482図 Z区25号住居跡出土遺物

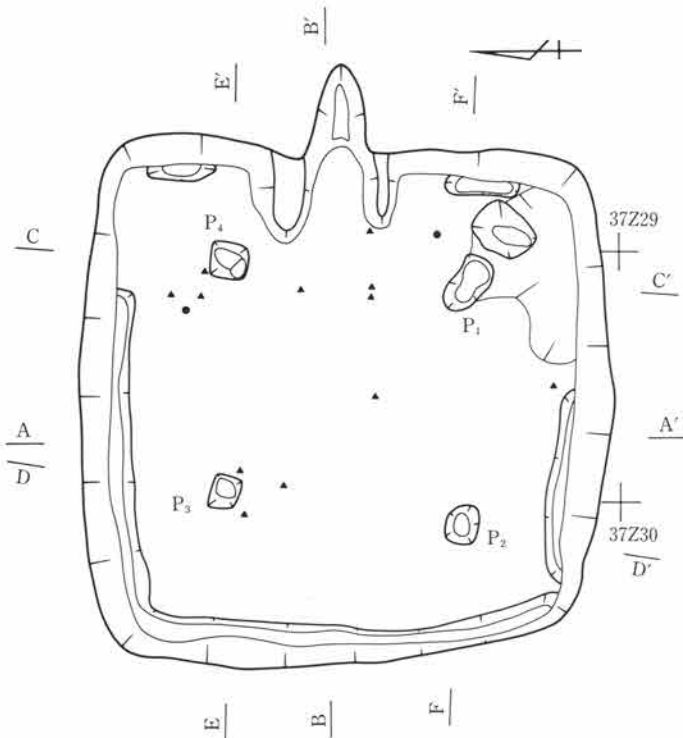


第483図 Z区26号住居跡出土遺物

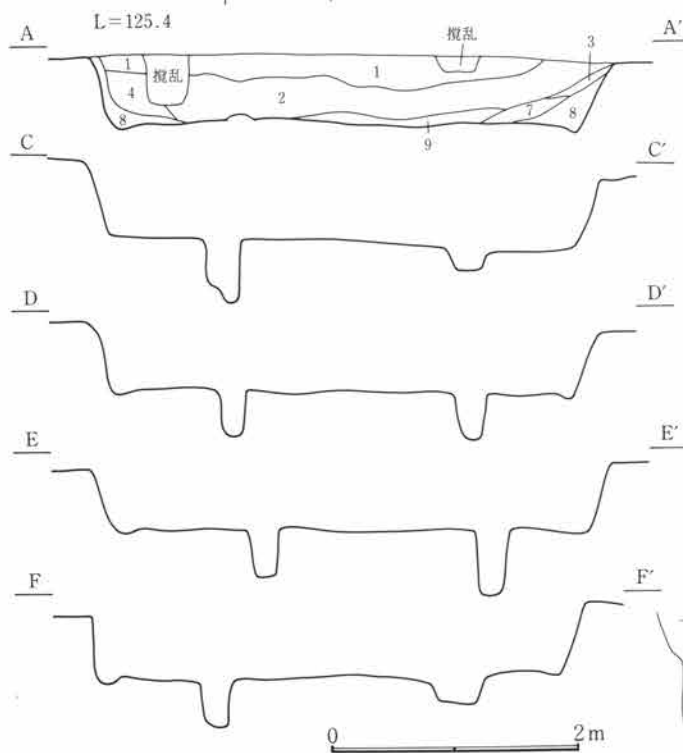
Z区28号住居跡 (第484・485・486図、第39・155図版)

Z区中央部に位置し37~39Z28~30の範囲にある。26号住居跡の西北にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺4.35m、短辺4.2mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-93°-Eである。壁高は約50cm~60cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、四壁に周溝が認められ、南東隅に貯蔵穴と考えられる小穴、床面上には柱穴と考えられる小穴が4基検出された。壁周溝は東壁、北壁、南壁の一部では切れている。規模は幅約15cm~20cm、深さ約1cm~5cmを測る。貯蔵穴と考えられる小穴の規模は50cm×40cm、深さ約10cmを測る。柱穴状小穴は各々1~4とした。規模は1、50cm×25cm、深さ約20cm、2、径約35cm、深さ約35cm、3、径約35cm、深さ約40cm、4、径約35cm、深さ約55cmを測る。竈は東壁に検出された。左右の袖は50cm~70

第1節 竪穴住居跡



cm床面上に延びている。規模は袖幅80cm、燃烧部長75cm、煙道部長55cmを測る。右袖部先端には袖材と考えられる人頭大の石が検出された。竈掘り方面左右袖部、燃烧部中央部に、各々袖材痕、支脚痕と考えられる小穴が検出された。規模は右袖部小穴は径約30cm、深さ約8cm、左袖部小穴は35cm×30cm、深さ約10cm、支脚痕小穴は径約20cm、深さ約5cmを測る。



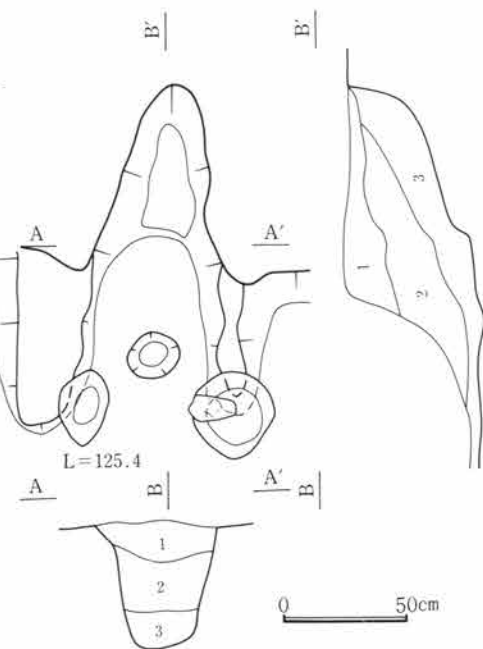
Z区28号住居跡

- 1 暗褐色土層 C軽石多量、ローム粒少量含む
- 2 暗褐色土層 C軽石、黒色土ブロック少量、ロームブロック、粘土ブロック多量に含む
- 3 暗褐色土層 C軽石、黒色土ブロック含む
- 4 暗褐色土層
- 5 暗褐色土層 C軽石、ロームブロック少量含む
- 6 暗褐色土層 C軽石微量、粘土ブロック多量に含む
- 7 黒褐色土層 C軽石微量に含む
- 8 暗褐色土層 C軽石含む
- 9 暗褐色土層

Z区28号住居跡竈

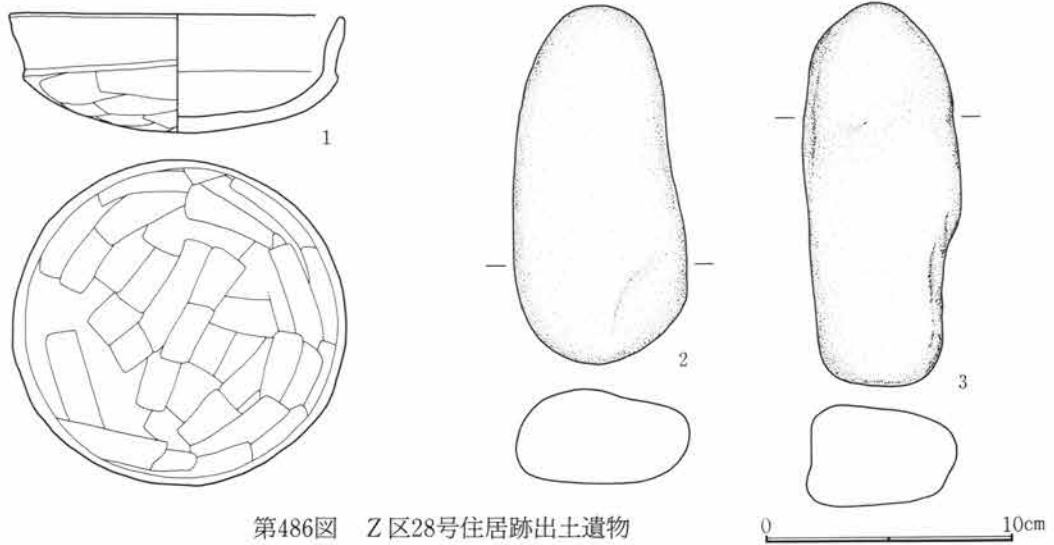
- 1 暗褐色土層 C軽石少量、黒色土混入
- 2 暗褐色土層 C軽石微量に含む
- 3 暗褐色土層 焼土粒、灰少量含む

第484図 Z区28号住居跡



第485図 Z区28号住居跡竈

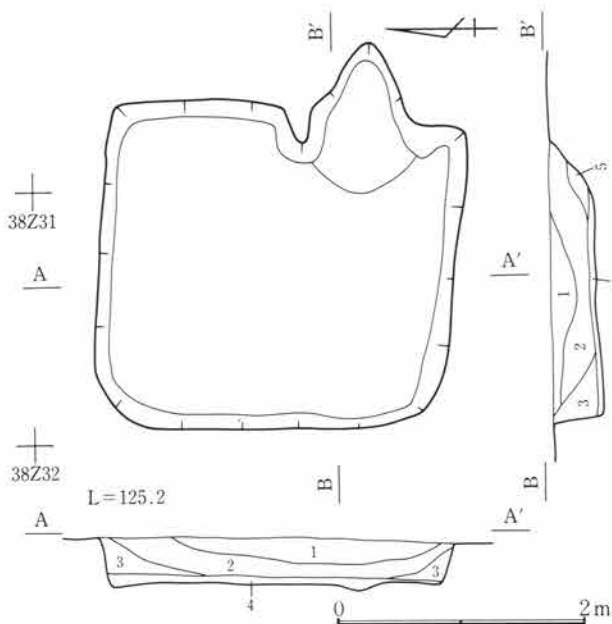
第4章 検出された遺構・遺物



第486図 Z区28号住居跡出土遺物

Z区29号住居跡 (第487・488、第39図版)

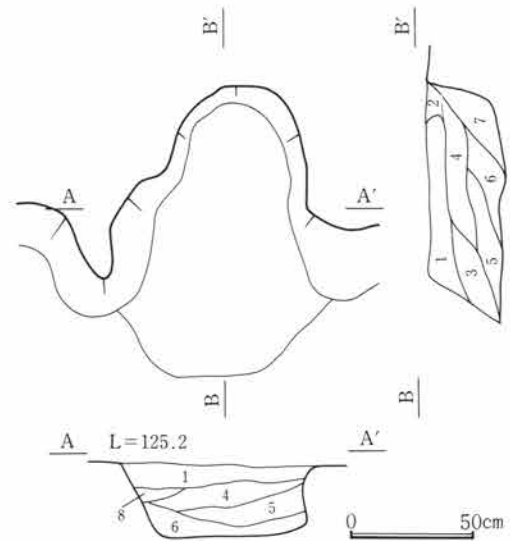
Z区中央やや南に位置し36・37Z30・31の範囲にある。28号住居跡の南西にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺2.95m、短辺2.7mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-97°-Eである。壁高は約35cm~40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。左側の袖は約50cm床面上に延びている。規模は袖幅1m、燃焼部長90cmを測る。



Z区29号住居跡

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 暗褐色土層 C軽石混入 | 4 貼床 |
| 2 暗褐色土層 C軽石含む | 5 暗褐色土層 焼土粒含む |
| 3 暗褐色土層 C軽石若干含む | |

第487図 Z区29号住居跡



Z区29号住居跡竈

- | | |
|------------------------|--|
| 1 暗褐色土層 C軽石混入 | |
| 2 暗褐色土層 C軽石、焼土粒含む | |
| 3 暗褐色土層 C軽石若干、カーボン混入 | |
| 4 灰褐色土層 シルトブロック含む | |
| 5 暗褐色土層 C軽石微量、焼土粒含む | |
| 6 暗褐色土層 焼土粒多量、焼土ブロック含む | |
| 7 暗褐色土層 C軽石含む、焼土粒若干含む | |
| 8 黒褐色土層 焼土粒、粘土粒微量に含む | |

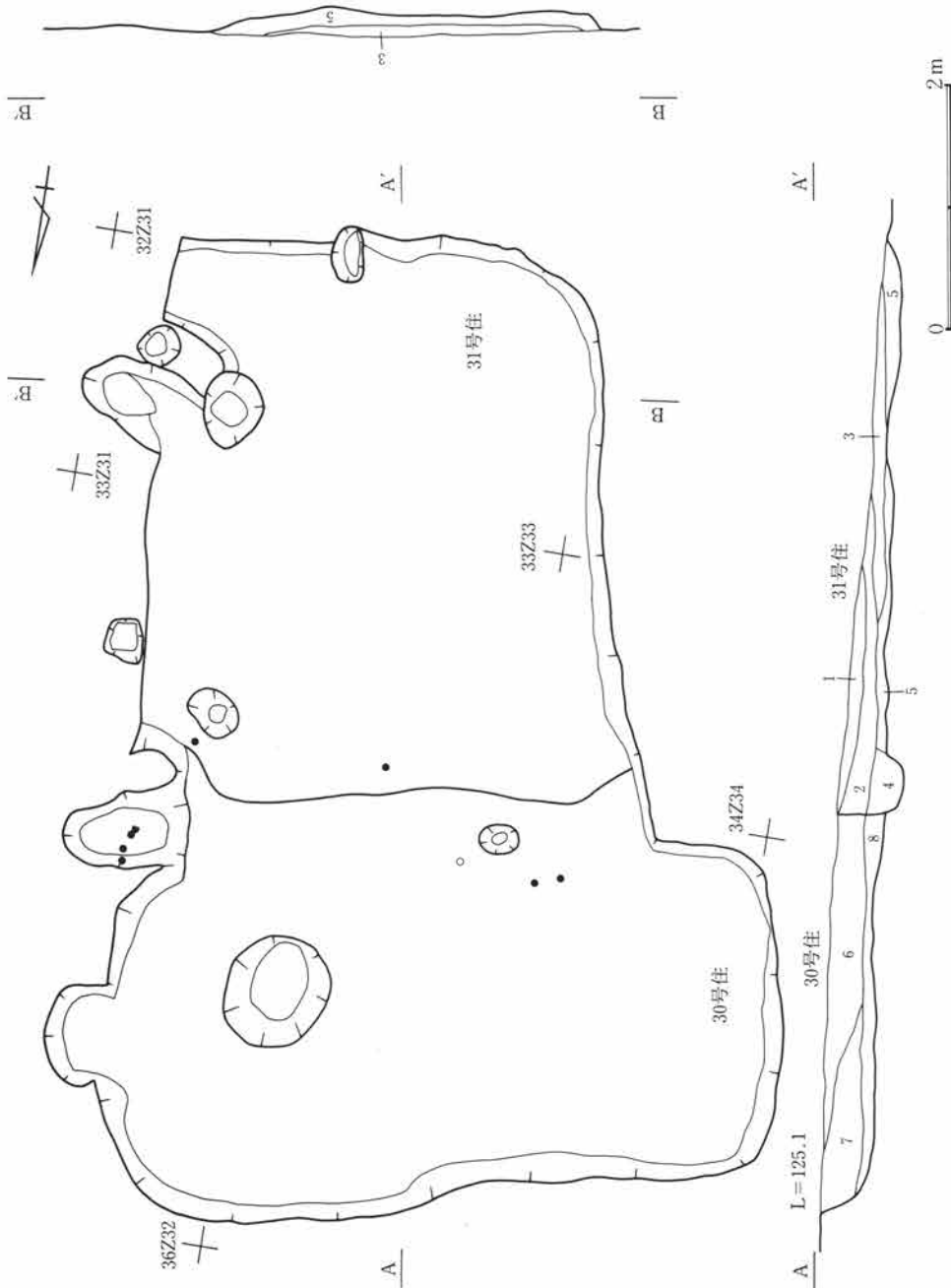
第488図 Z区29号住居跡竈

Z区30号住居跡 (第489・490・492・493・494図、第39・40・155・156・175図版)

Z区南部に位置し33~35Z31~34の範囲にある。29号住居跡の南西にある。他の遺構との関係は南部で31号住居跡と重複している。新旧関係は30号住居跡が古い。規模は長辺5.05m、短辺3.35mを測る。平面形態は

第1節 竪穴住居跡

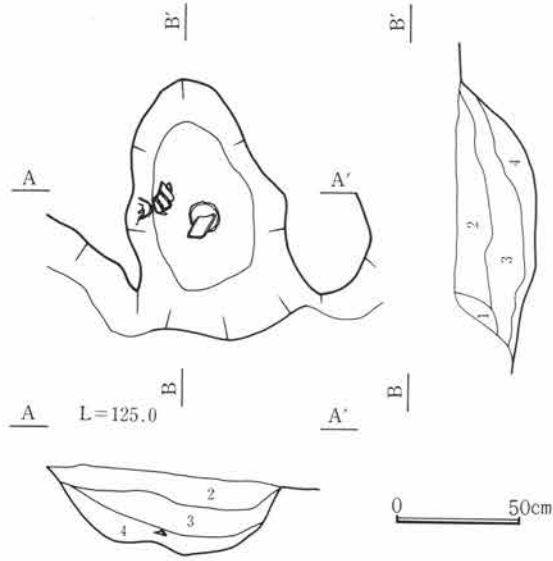
隅丸の変形長方形を呈する。主軸方位はN-86°-Eである。壁高は約25cm~35cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。床面東部に円形を呈する粘土面が検出された。粘土面の規模は95cm×85cm、厚みは約15cmを測る。また南壁に接し、小穴が検出された。規模は30cm×25cm、深さ約10cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。左右の袖部は約50cm床面上に延びている。規模は袖幅60cm、燃烧部長1mを測る。



Z区30・31号住居跡

- | | |
|----------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色土層 C軽石多量に含む | 5 暗褐色土層 ロームブロック多量に含む |
| 2 暗褐色土層 C軽石、ローム粒少量含む | 6 暗褐色土層 C軽石少量含む砂質土 |
| 3 暗褐色土層 C軽石少量含む | 7 暗褐色土層 黒色土、ブロック多量に含む |
| 4 暗褐色土層 ロームブロック少量含む | 8 暗褐色土層 C軽石少量、焼けた粘土ブロック多量に含む |

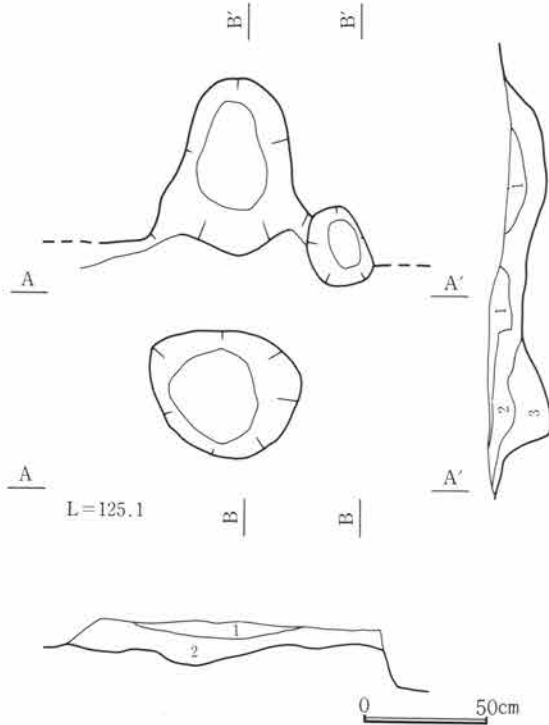
第489図 Z区30・31号住居跡



Z区30号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石少量含む
- 2 暗褐色土層 C軽石、焼けた粘土粒少量含む
- 3 暗褐色土層 焼土粒、焼けた粘土粒多量、灰少量含む
- 4 暗褐色土層 灰多量に含む

第490図 Z区30号住居跡竈



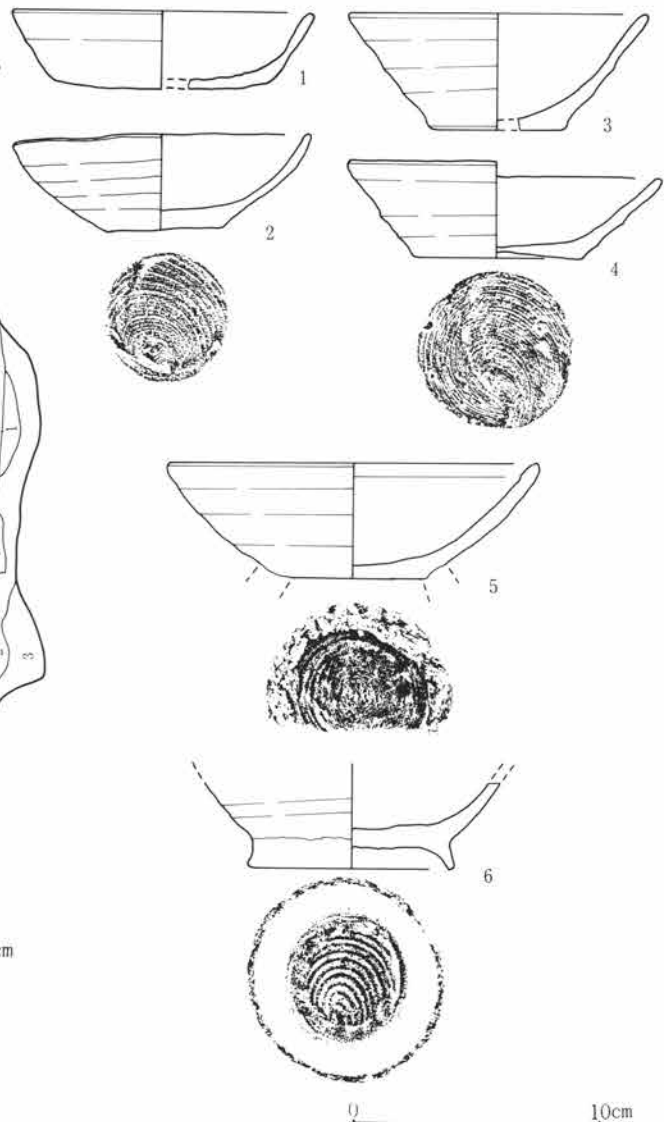
Z区31号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 焼土、粘土塊
- 2 暗褐色土層 ロームブロック多量に含む
- 3 暗褐色土層 ロームブロック少量含む

第491図 Z区31号住居跡竈

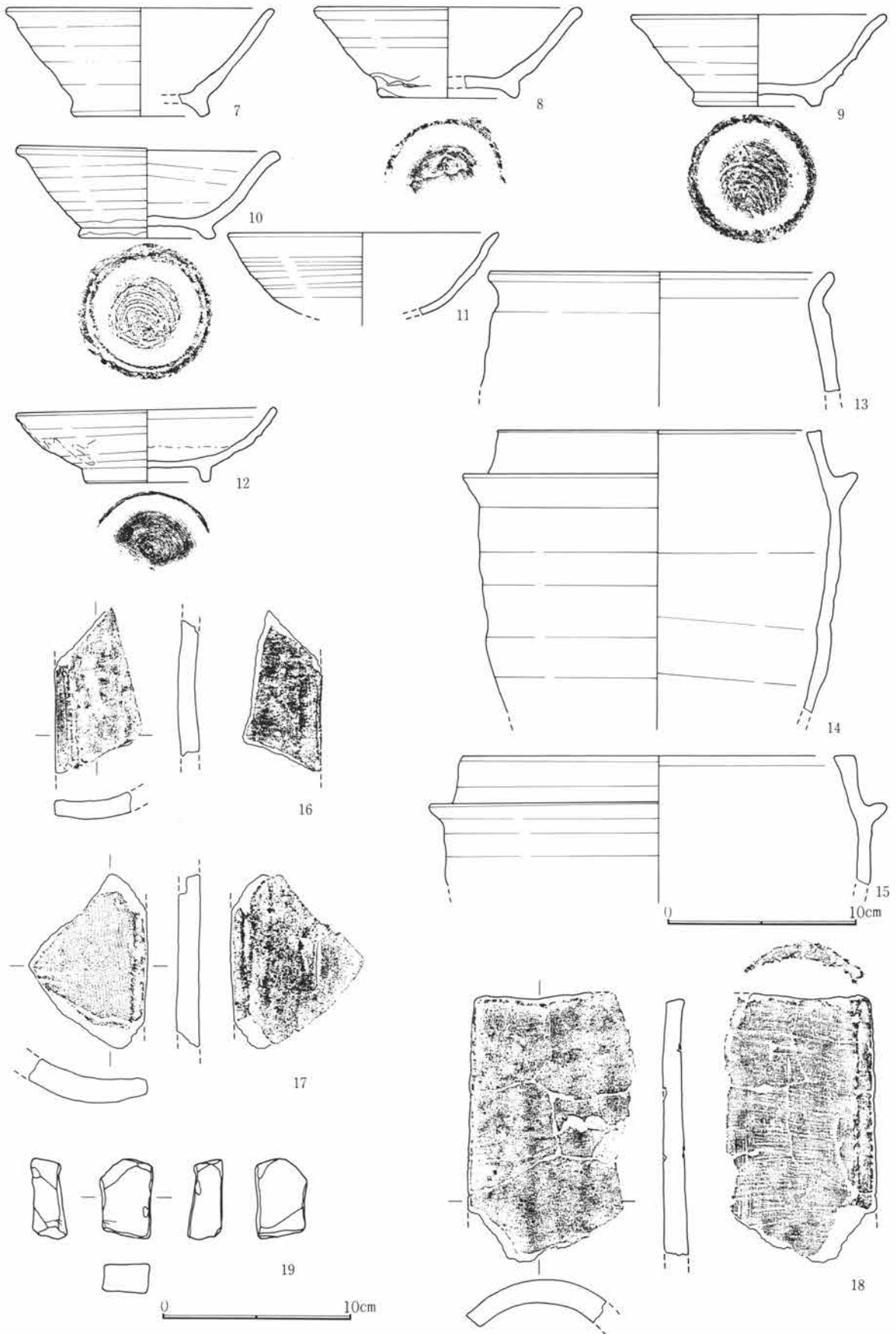
Z区31号住居跡 (第489・491・495図、第40・156図版)

Z区南部に位置し31~34 Z 30~33の範囲にある。29号住居跡の南西にある。他の遺構との関係は北部で30号住居跡と重複している。新旧関係は31号住居跡が新しい。規模は長辺4.7m、短辺4.15mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-86°-Eである。壁高は約20cm~30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。床面上、東壁に接し小穴が5基検出された。各々1~5とした。規模は1、65cm×45cm、深さ約15cm、2、45cm×35cm、深さ約10cm、3、45cm×30cm、深さ約10cm、4、35cm×30cm、深さ約10cm、5、35cm×30cm、深さ約5cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅50cm、同長1mを測る。

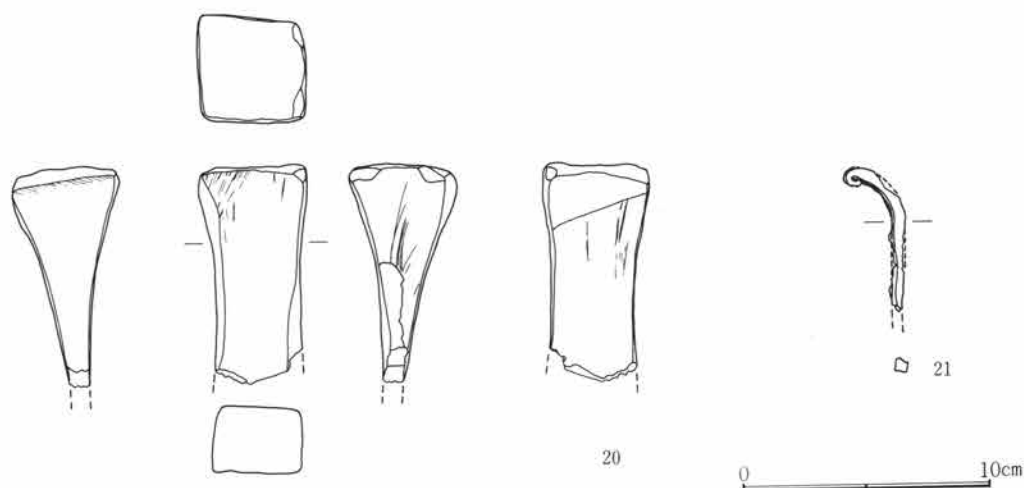


第492図 Z区30号住居跡出土遺物(1)

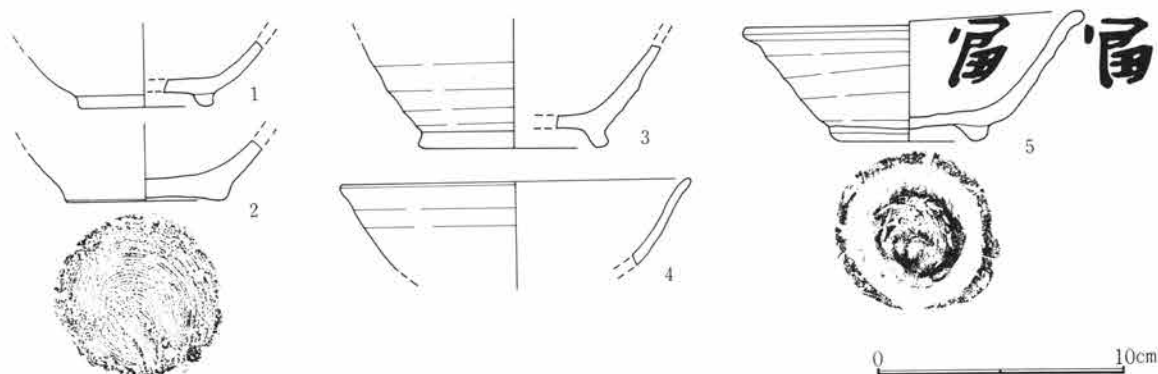
第1節 豎穴住居跡



第493図 Z区30号住居跡出土遺物(2)



第494図 Z区30号住居跡出土遺物(3)



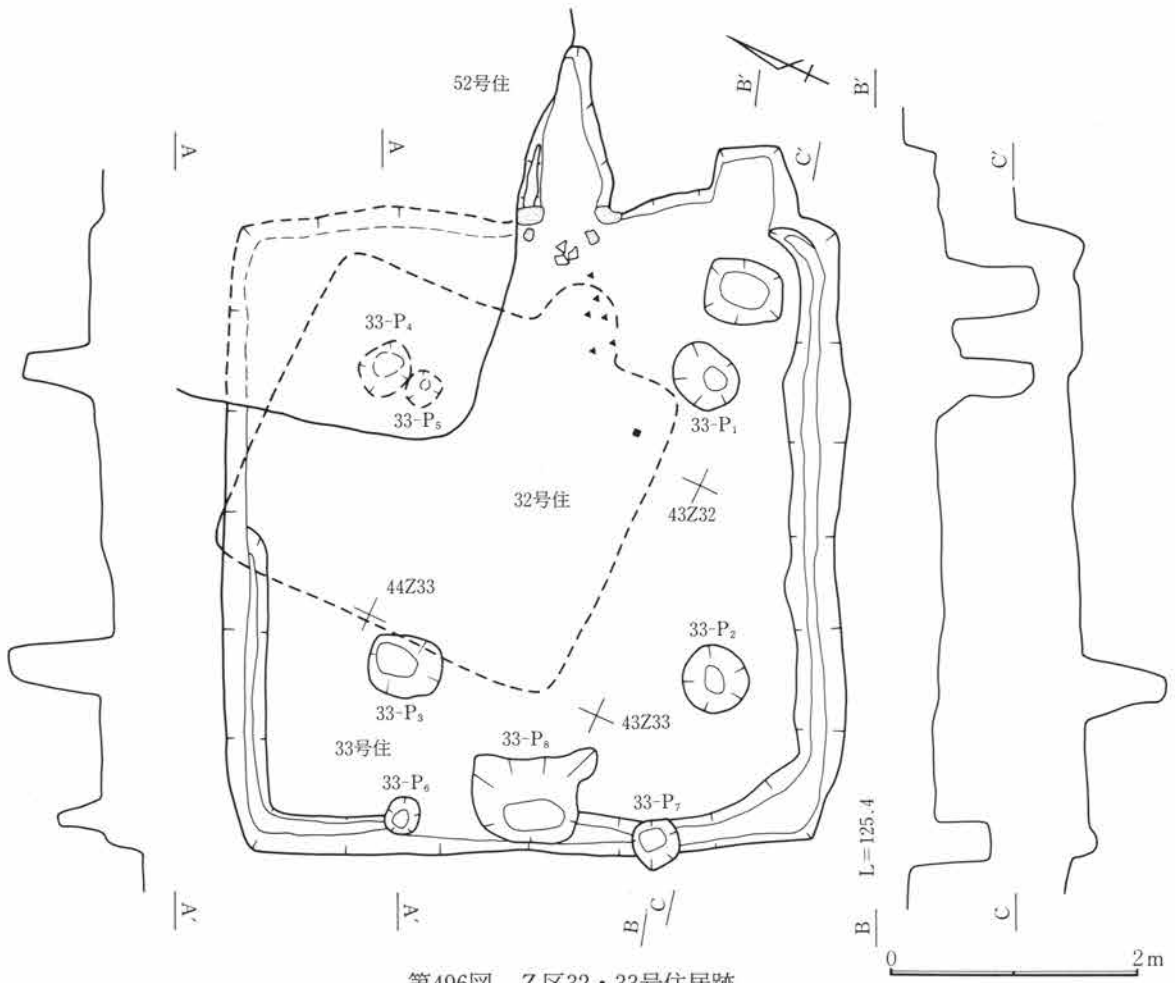
第495図 Z区31号住居跡出土遺物

Z区32号住居跡 (第496・498・499図、第156図版)

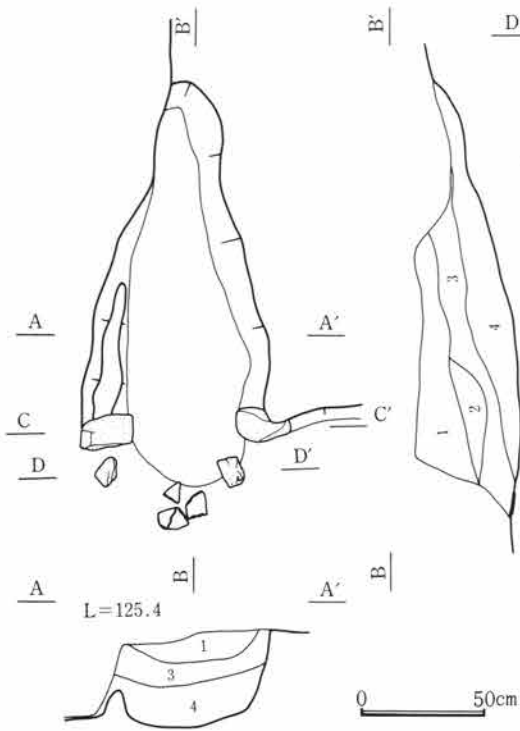
Z区中央部に位置し43・44 Z 31～33の範囲にある。28号住居跡の西北にある。他の遺構との関係は33号住居跡・52号住居跡と重複している。新旧関係は33号住居跡・52号住居跡より古い。規模は長辺3.05m、短辺2.75mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-89°-Eである。床面・壁は明確に確認できず、竈は東壁南寄りに痕跡を認めた。竈の推定規模は燃烧部幅60cm、同長50cmを測る。

Z区33号住居跡 (第496・497・500図、第40・157・175図版)

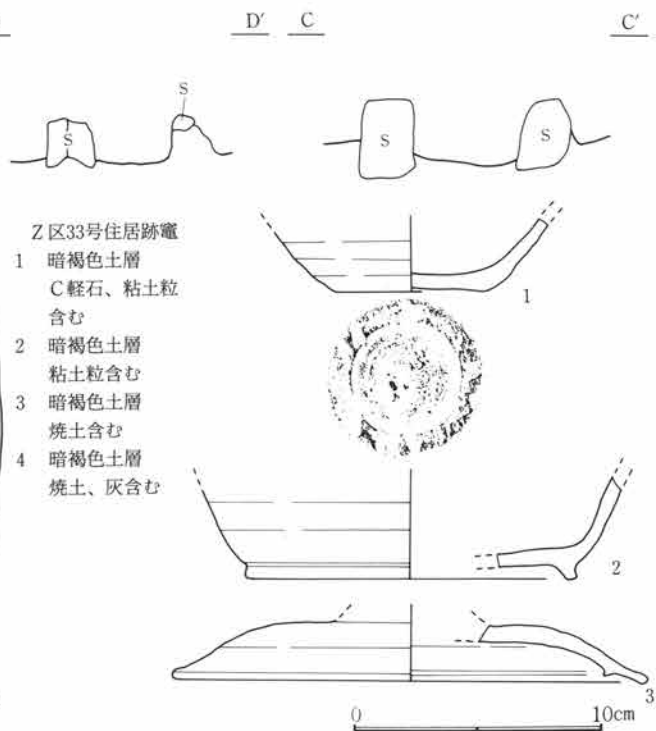
Z区中央部に位置し42～45 Z 30～34の範囲にある。28号住居跡の西北にある。他の遺構との関係は中央やや北寄りて32号住居跡、西北部で52号住居跡と重複している。新旧関係は32号住居跡より新しく、52号住居跡より古い。規模は長辺5.15m、短辺5mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-67°-Eである。壁高は約50cm～60cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、四壁に周溝、南東隅に貯蔵穴、床面上には柱穴、小穴が検出された。壁周溝は北壁東半分には認められず、東壁には一部を検出した。規模は幅約30cm～40cm、深さ約7cm～10cmを測る。貯蔵穴と考えられる小穴は南東隅に検出され、規模は60cm×50cm、深さ約60cmを測る。床面上には柱穴、小穴が8基検出され、各々1～8とした。規模は1、55cm×50cm、深さ約80cm、2、径約55cm、深さ約70cm、3、60cm×50cm、深さ約70cm、4、45cm×35cm、深さ約50cm、5、径約30cm、深さ約70cm、6、径約30cm、深さ約35cm、7、径約45cm、深さ約30cm、8、85cm×65cm、深さ約15cmを測る。小穴6～8は入り口状の施設の可能性が考えられる。竈は東壁南寄り南東隅近くに検出された。規模は燃烧部幅60cm、同長60cmを測る。



第496図 Z区32・33号住居跡

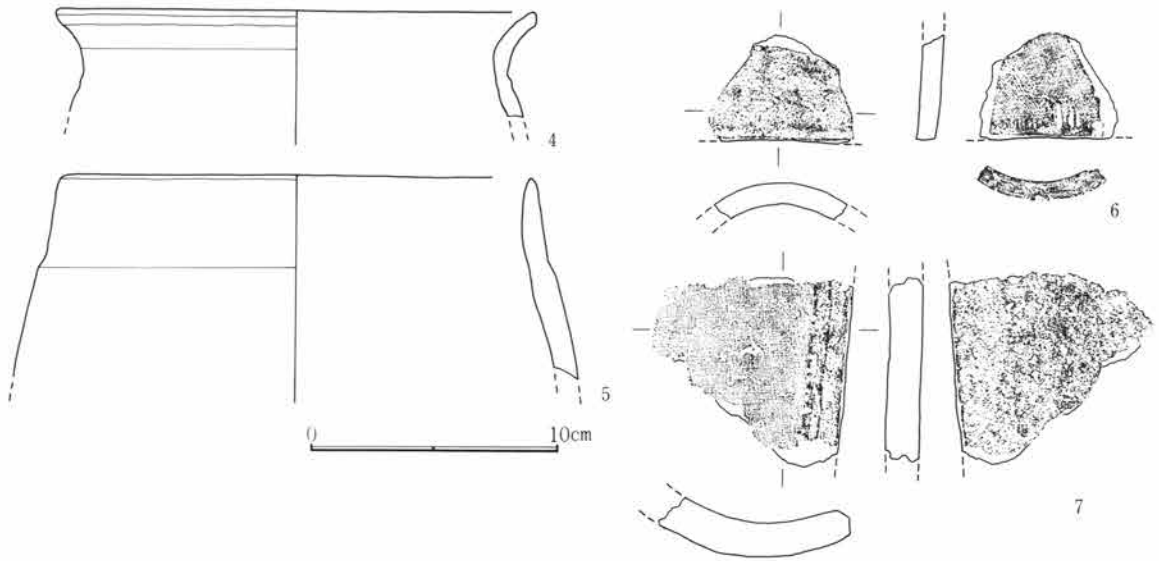


第497図 Z区33号住居跡竈

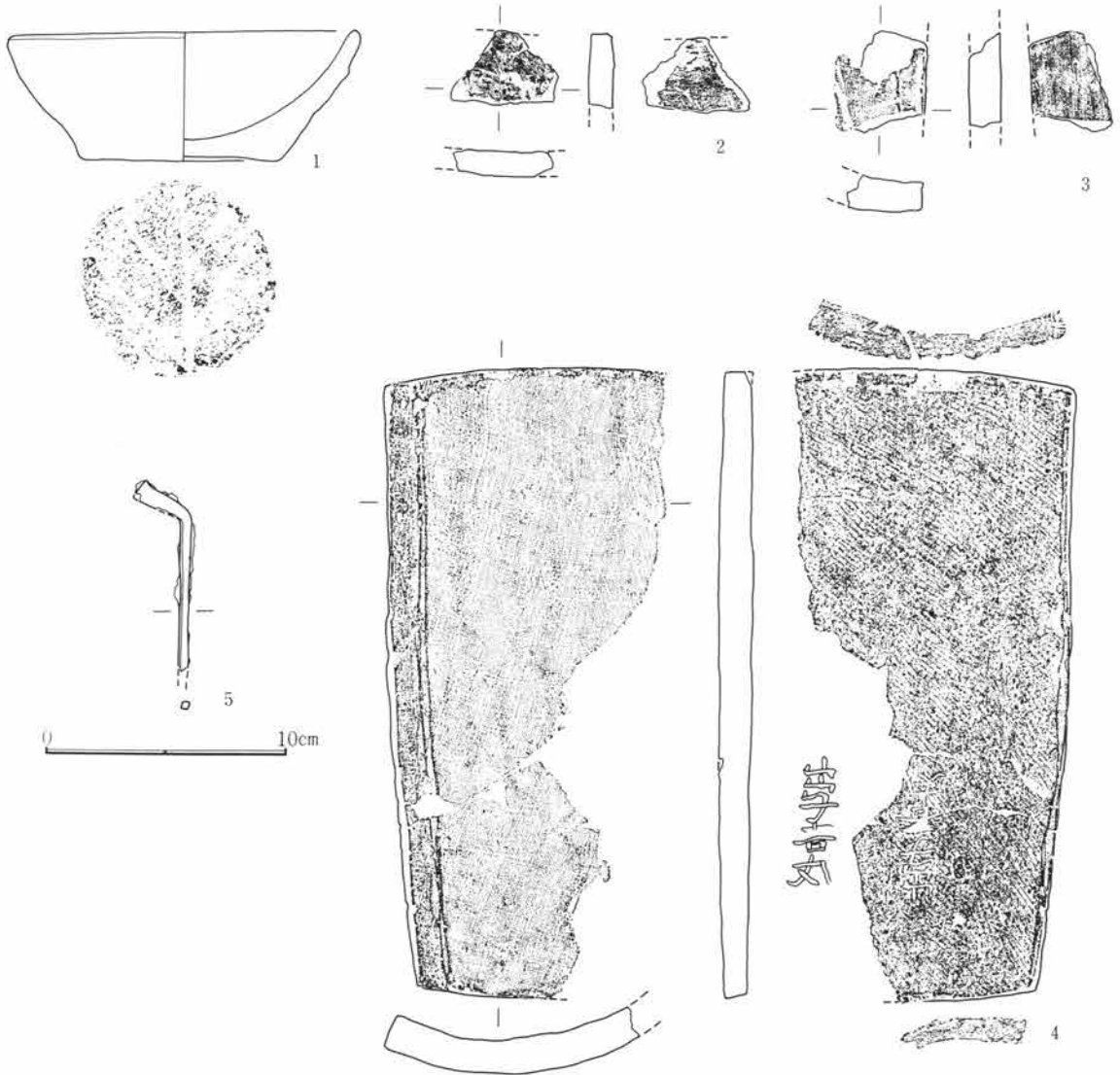


第498図 Z区32号住居跡出土遺物(1)

第4章 検出された遺構・遺物



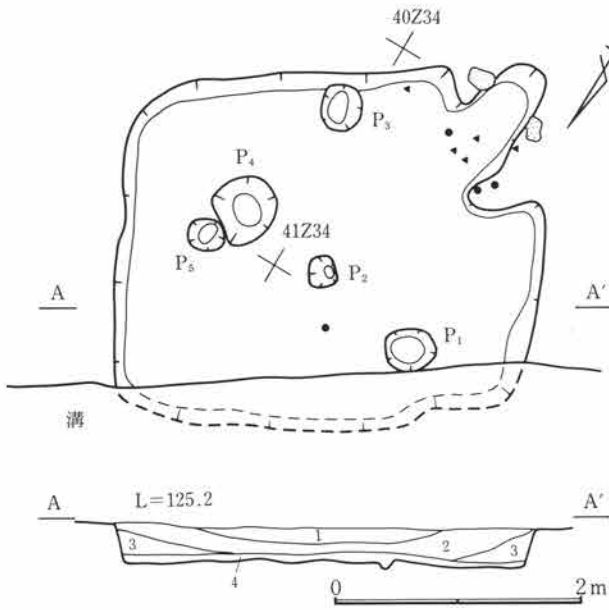
第499図 Z区32号住居跡出土遺物(2)



第500図 Z区33号住居跡出土遺物

Z区34号住居跡 (第501・502・503図、第40・157図版)

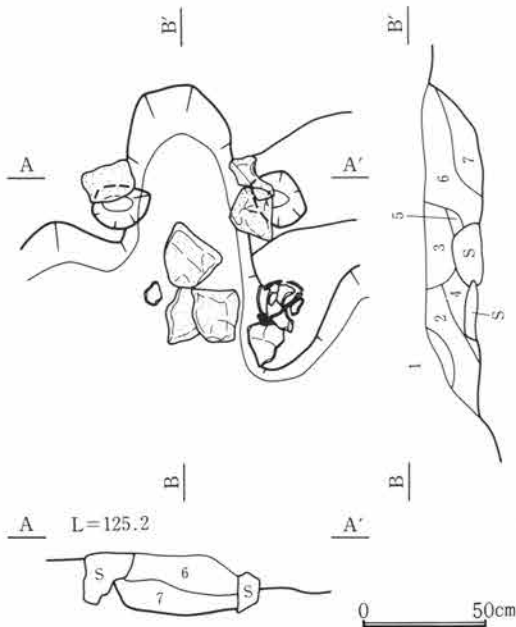
Z区ほぼ中央に位置し39~41 Z 33~35の範囲にある。33号住居跡の南西にある。規模は長辺3.5m、短辺2.85mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-189°-Eである。壁高は約20cm~30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、床面上には小穴が5基検出された。小穴は各々1~5とした。規模は1、40cm×35cm、深さ約15cm、2、径約25cm、深さ約20cm、3、径約35cm、深さ約25cm、4、径約55cm、深さ約10cm、5、径約30cm、深さ約10cmを測る。竈は南西隅に検出された。左右の袖部は約40cm~50cm床面上に延びている。規模は袖幅70cm、同長1.1mを測る。



Z区34・48号住居跡

- 1 暗褐色土層 C軽石多量、ローム粒少量含む
- 2 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 3 暗褐色土層 C軽石、炭化物、焼土粒少量含む
- 4 暗褐色土層 ロームブロック多量に含む

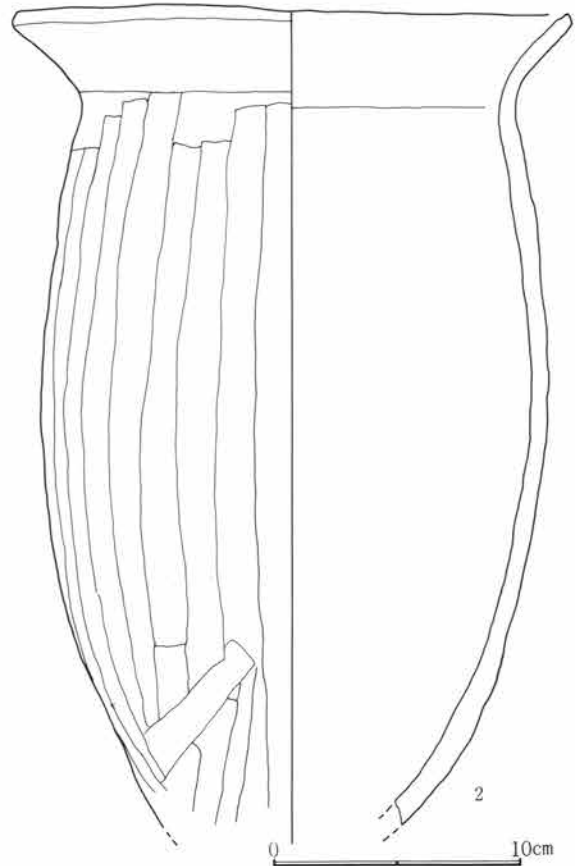
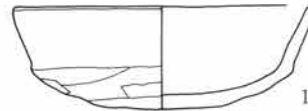
第501図 Z区34号住居跡



Z区34号住居跡竈

- 1 灰褐色土層
- 2 暗褐色土層 C軽石含む
- 3 暗褐色土層
- 4 暗褐色土層 灰褐色土含む
- 5 暗褐色土層 灰褐色土多量に含む
- 6 暗褐色土層 灰褐色土ブロック含む
- 7 暗褐色土層 C軽石焼土含む

第502図 Z区34号住居跡竈



第503図 Z区34号住居跡出土遺物

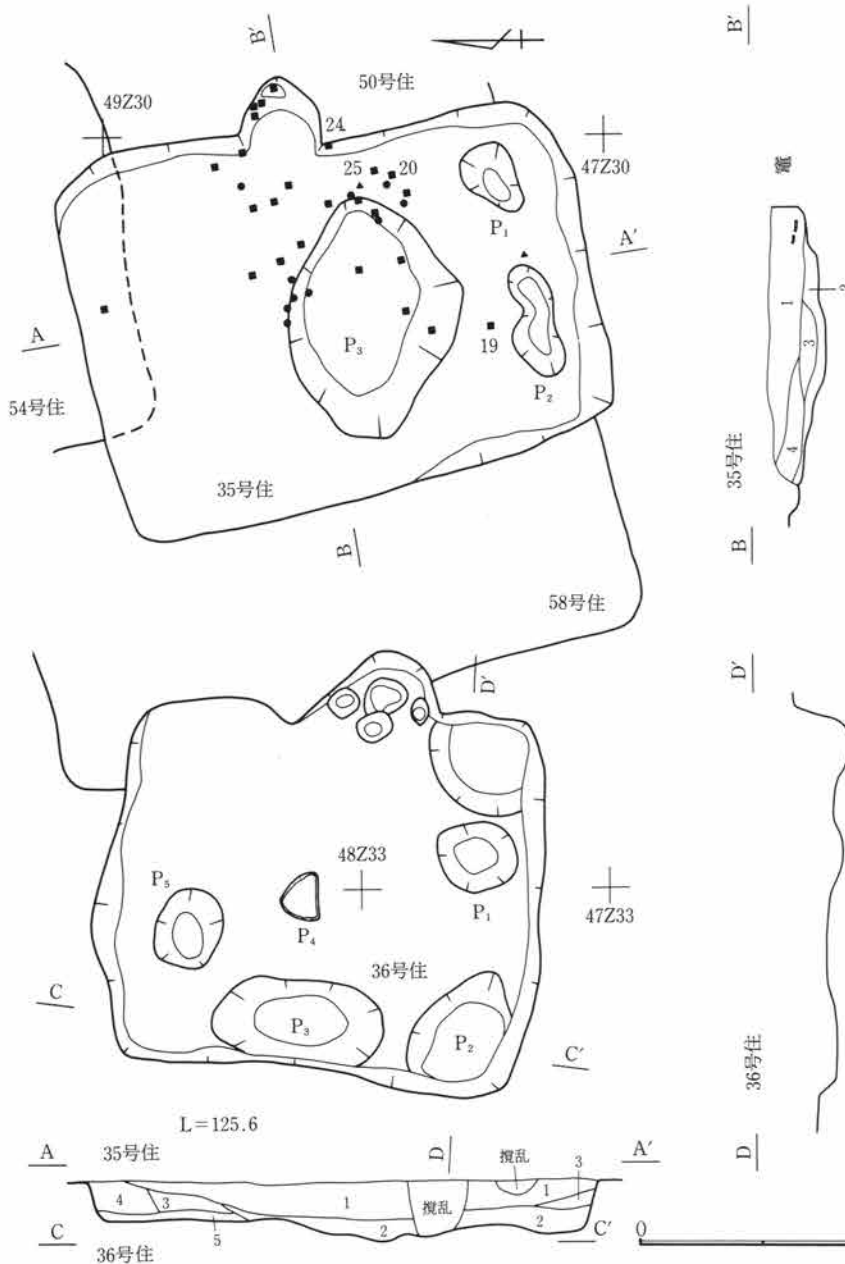
第4章 検出された遺構・遺物

Z区35号住居跡 (第504・505・506・507・508図、第40・41・157・158・159図版)

Z区北部に位置し46~49Z29~31の範囲にある。52号住居跡の北東にある。他の遺構との関係は東部で50号住居跡、西部で58号住居跡、北部でA区54号住居跡と重複している。新旧関係は35号住居跡が新しい。規模は長辺4.2m、短辺3.15mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-83°-Eである。壁高は約15cmを測る。床面はほぼ平坦をなし壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁に検出された。規模は燃焼部幅60cm、同長50cmを測る。

Z区36号住居跡 (第504・505図、第41図版)

Z区北部に位置し47~49Z32・33の範囲にある。50号住居跡の西にある。他の遺構との関係は東部で58号住居跡と重複している。新旧関係は36号住居跡が新しい。規模は長辺3.6m、短辺3.05mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-74°-Eである。壁高は約5cmを測る。南東隅に貯蔵穴と考えられる小穴が検出された。竈は東壁に検出された。規模は燃焼部幅約90cm、同長50cmを測る。



竈は東壁に検出された。規模は燃焼部幅約90cm、同長50cmを測る。

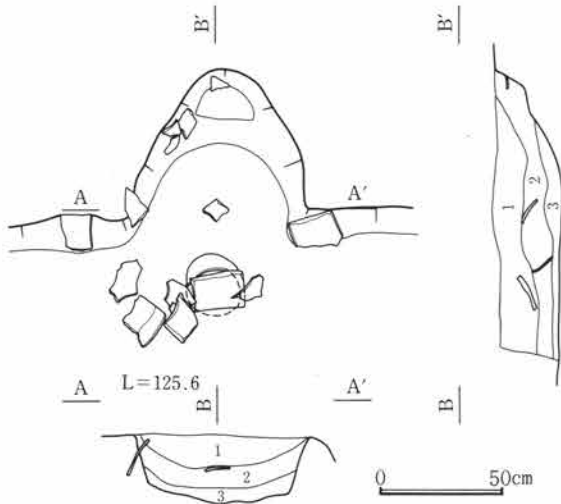
Z区35号住居跡

- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石多量、ローム粒少量含む
- 3 暗褐色土層 C軽石、ローム小粒少量含む
- 4 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 5 暗褐色土層 C軽石少量、ロームブロック多量に含む

Z区58号住居跡 (第504図、第45図版)

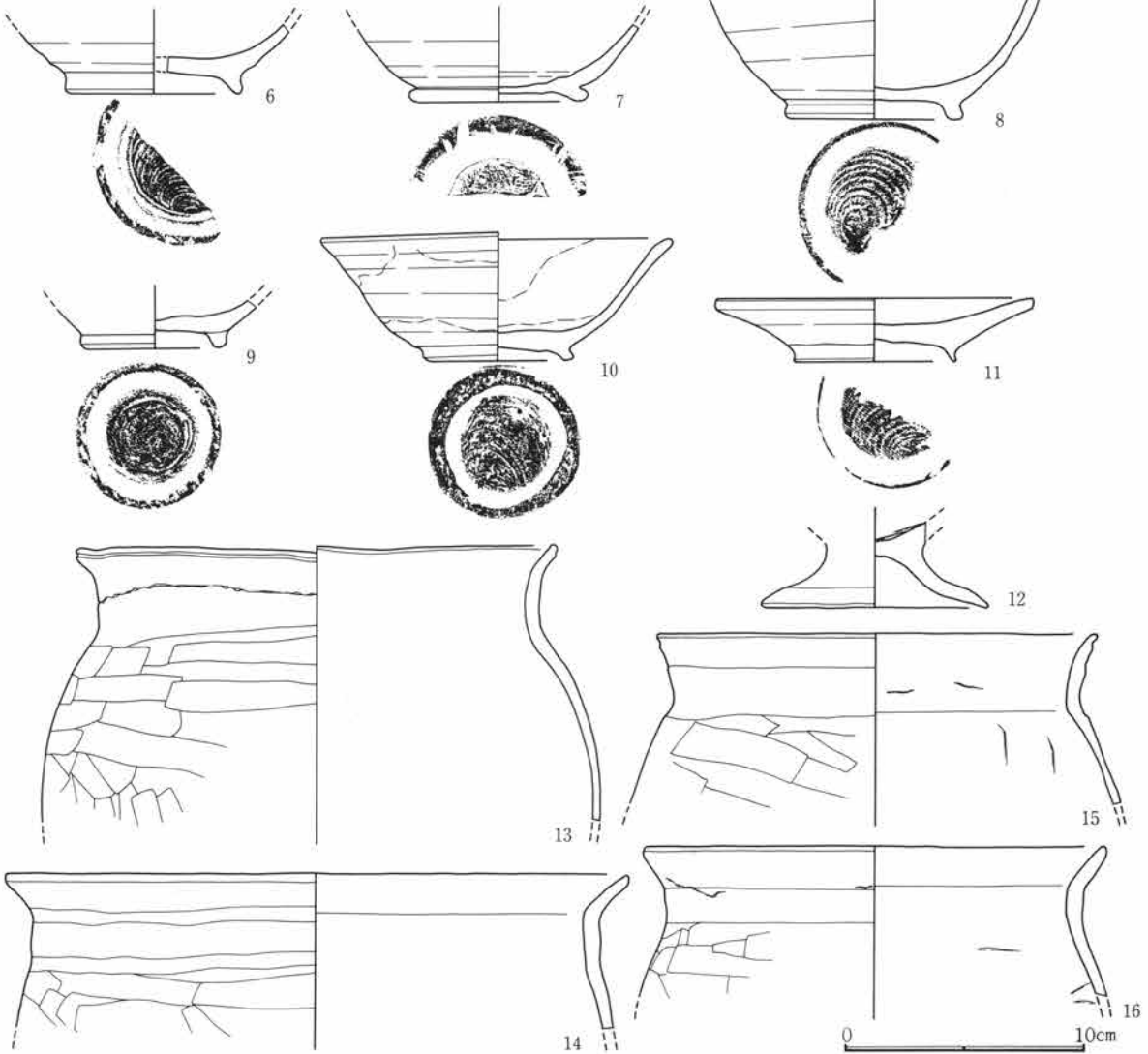
Z区西北部に位置し46~49Z31・32の範囲にある。50号住居跡の西にある。他の遺構との関係は北東部でA54号住居跡、東部でZ35号住居跡、西部で36号住居跡と重複している。新旧関係は58号住居跡が古い。壁高は約25cmを測る。竈は検出されていない。

第504図 Z区35・36・58号住居跡

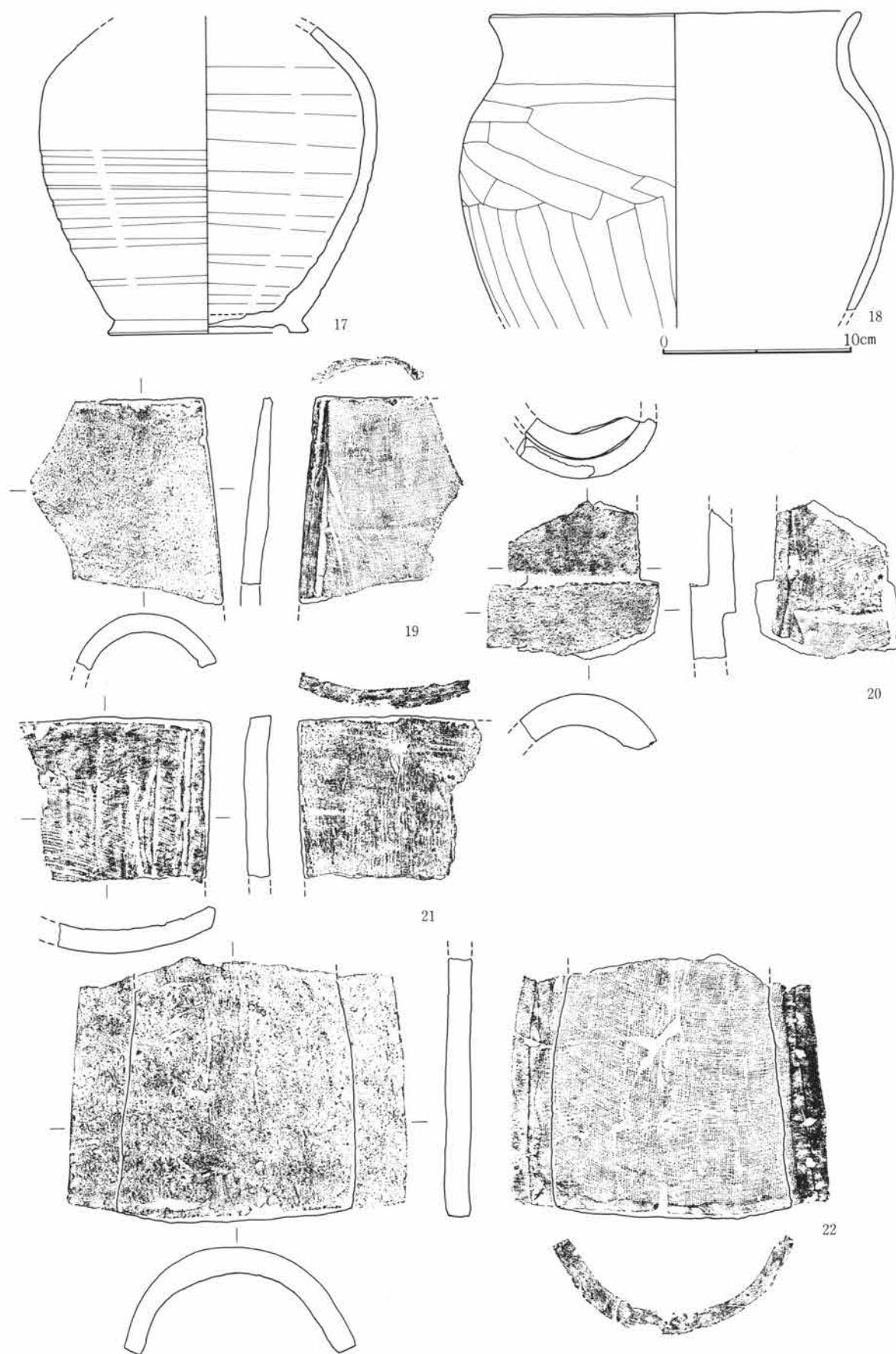


- Z区35号住居跡竈
- 1 暗褐色土層 C 軽石少量含む
 - 2 暗褐色土層 焼土粒、炭化物粒含む
 - 3 灰層

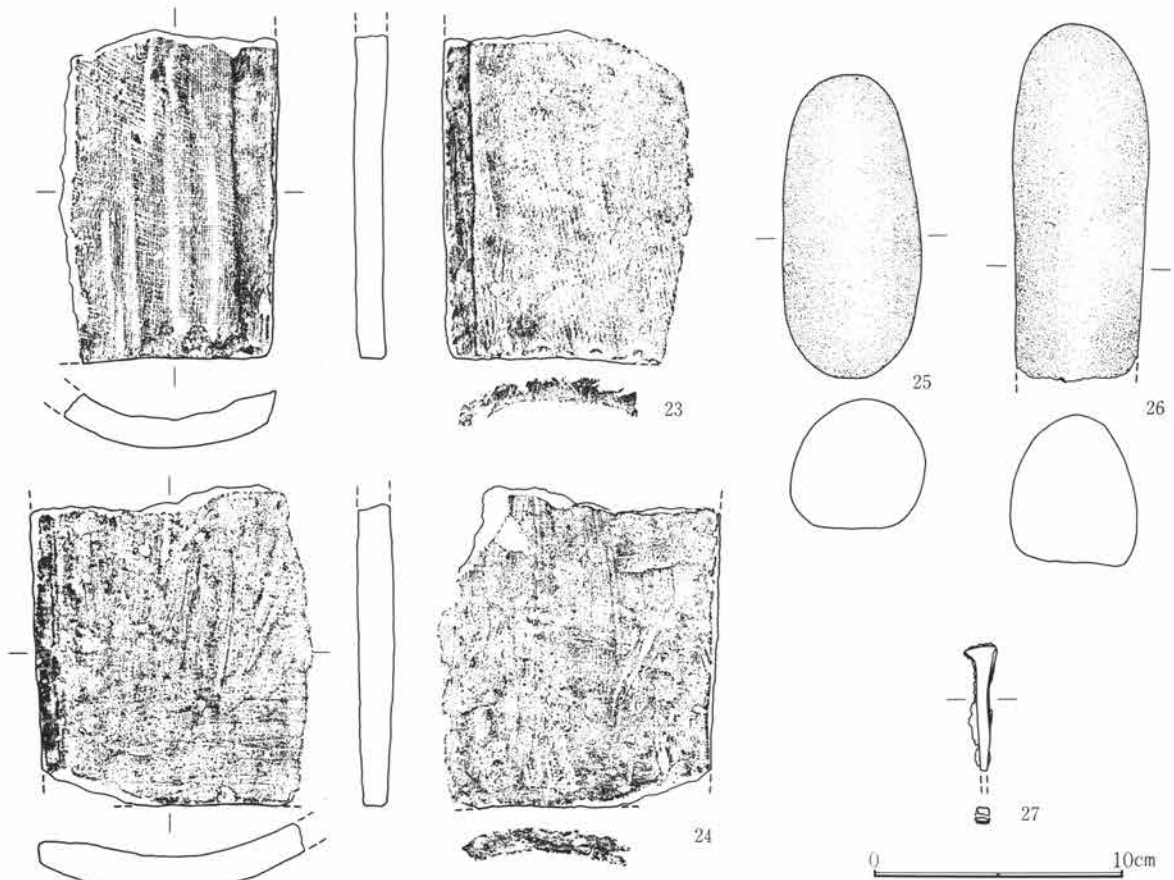
第505図 Z区35号住居跡竈



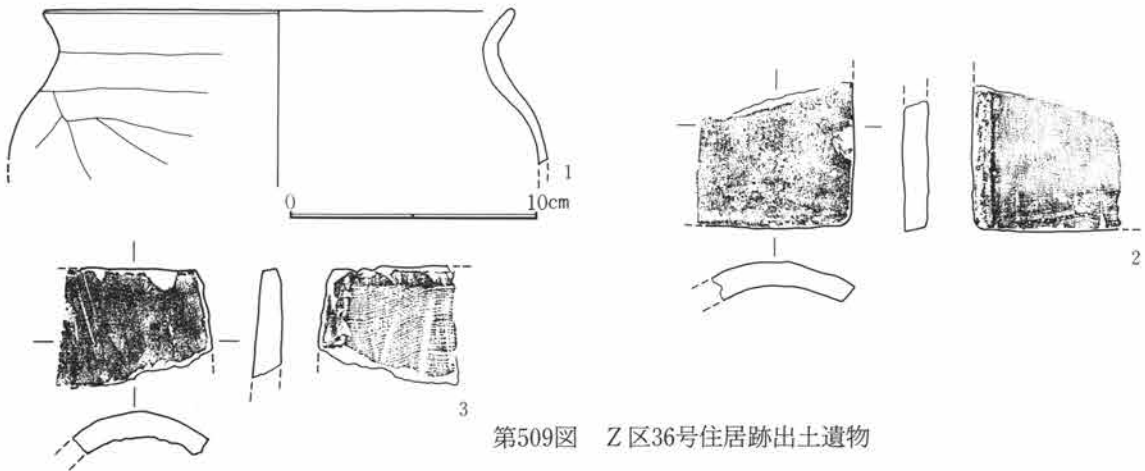
第506図 Z区35号住居跡出土遺物(1)



第507図 Z区35号住居跡出土遺物(2)



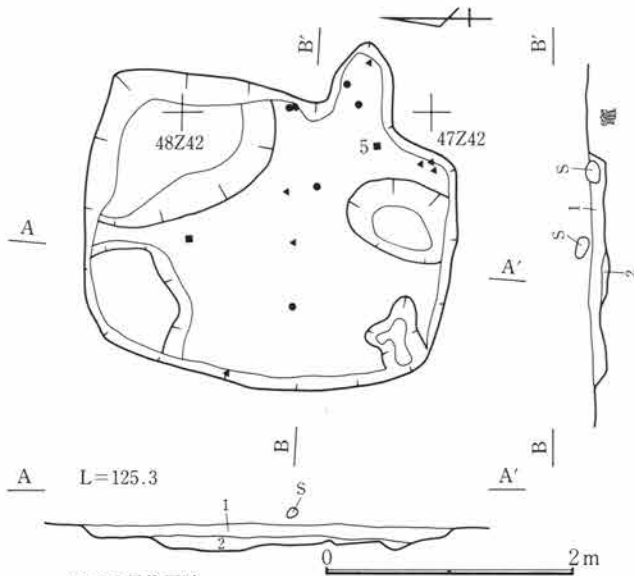
第508図 Z区35号住居跡出土遺物(3)



第509図 Z区36号住居跡出土遺物

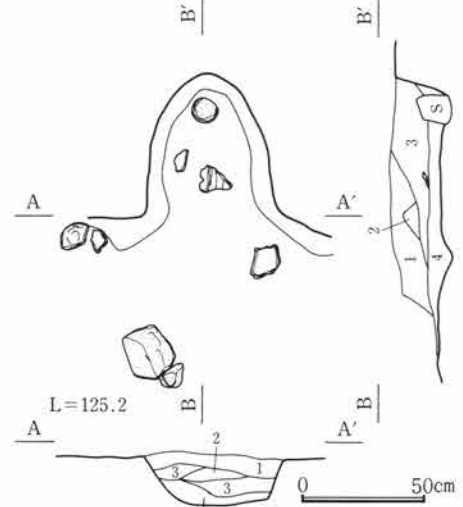
Z区37号住居跡 (第510・511・512図、第41・159図版)

Z区西北部に位置し46～48Z41～43の範囲にある。Z38号住居跡の南西にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺3.15m、短辺2.35mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-111°-Eである。壁高は約20cm～30cmを測る。床面は凹凸が認められ、中央部と比較すると北側に向かい大きな範囲で落ち込みが認められ最深部で約10cmを測る。北側は落ち込みが認められた。規模は約80cm×70cmの範囲で低くなり深さ約10cmを測る。また南東部に小穴が認められ、規模は60cm×50cm、深さ約15cmを測る。竈は東壁やや南寄りに検出された。竈左前面には竈の構築材の一部と思われる人頭大の石が検出された。竈の規模は燃焼部幅60cm、同長90cmを測る。



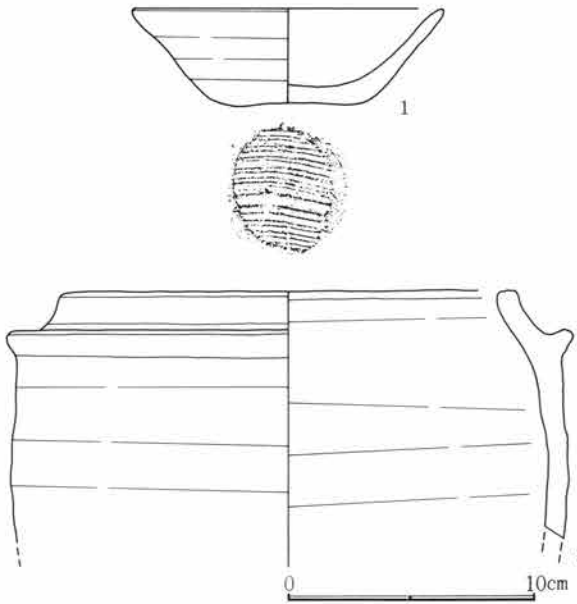
- Z区37号住居跡
- 1 暗褐色土層 C軽石、ロームブロック含む
 - 2 暗褐色土層 C軽石少量、ロームブロック多量に含む

第510図 Z区37号住居跡

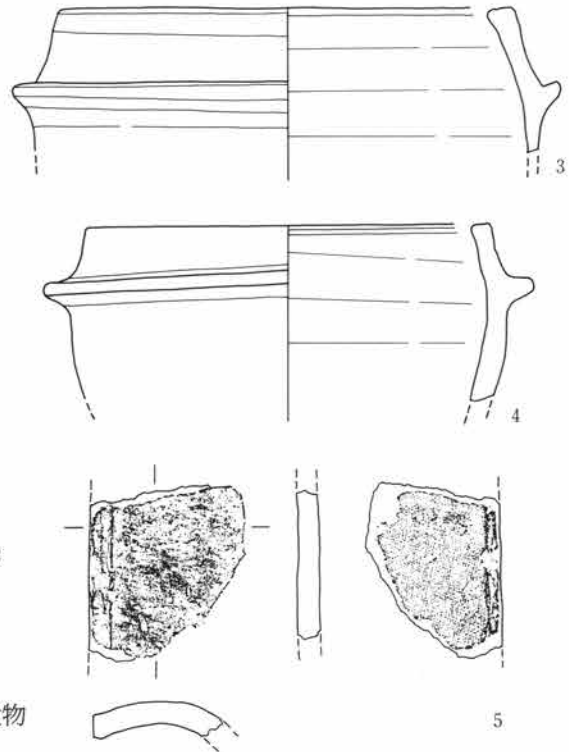


- Z区37号住居跡竈
- 1 暗褐色土層 C軽石、ロームブロック少量含む
 - 2 灰層 焼けた粘土含む
 - 3 灰褐色土層 粘土含む
 - 4 黒褐色土層 焼土粒少量含む

第511図 Z区37号住居跡竈



第512図 Z区37号住居跡出土遺物

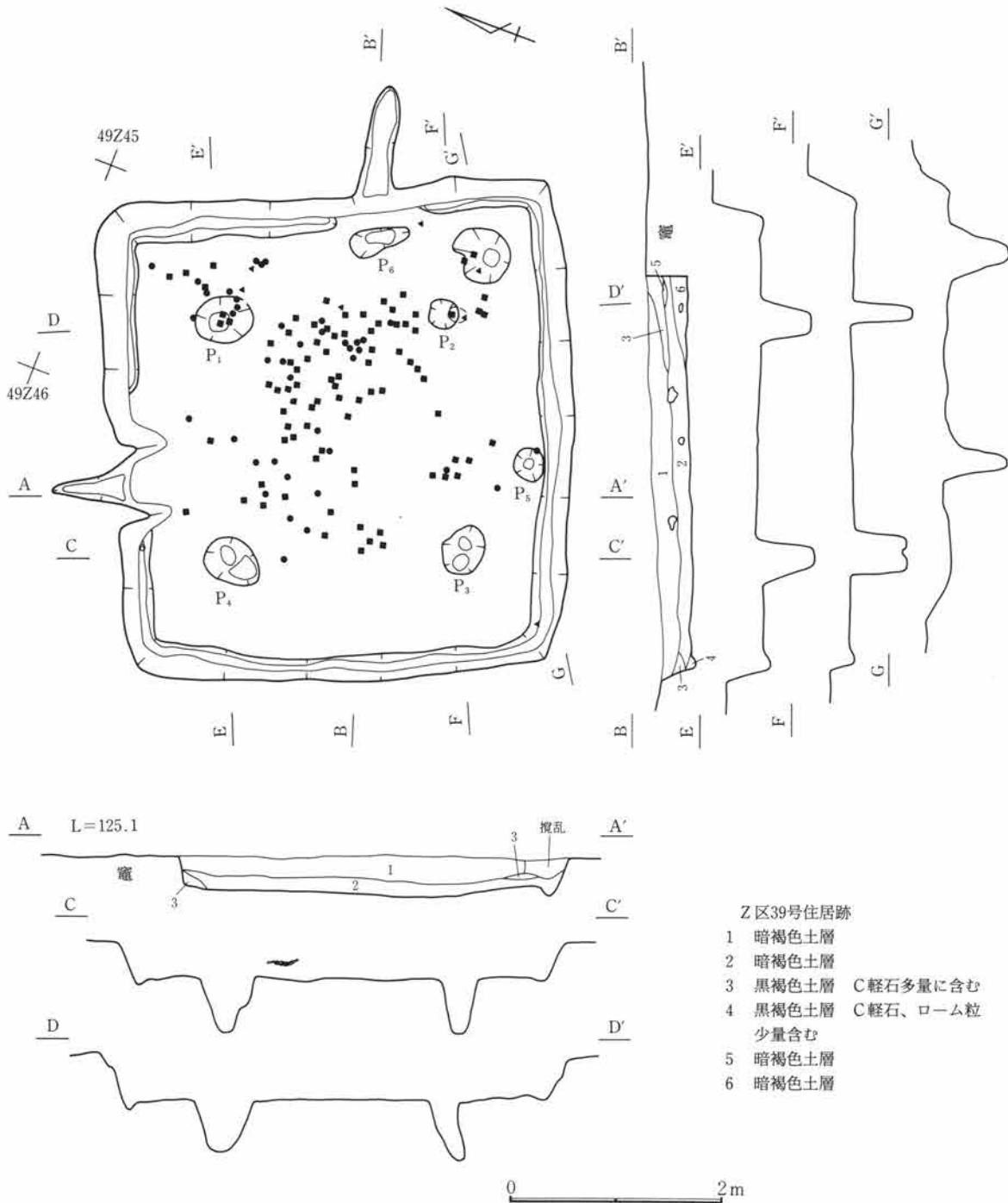


Z区39号住居跡 (第513・514・515・516・517・518・519図、第42・159・160・161・162・173図版)

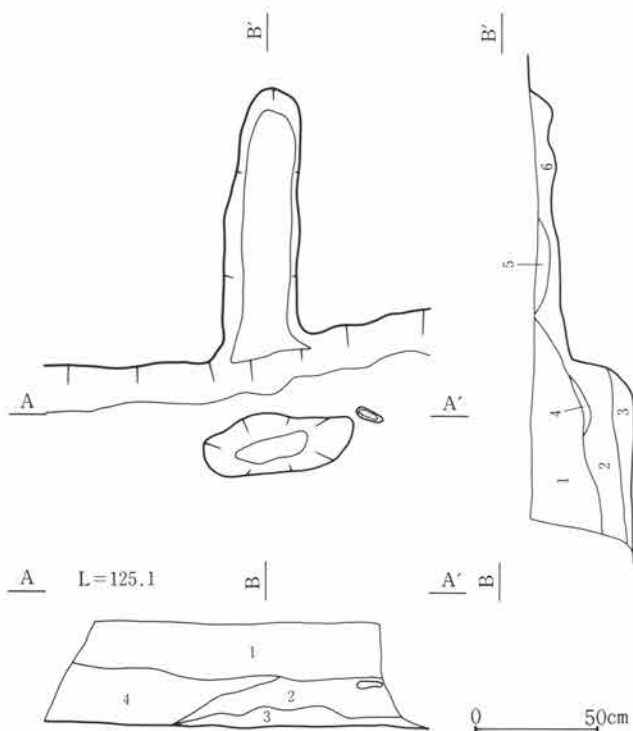
Z区西北部に位置し46~48Z 44~47の範囲にある。37号住居跡の西にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺4.6m、短辺4.4mを測る。平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-65°-Eである。壁高は約40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、四周に壁周溝が認められた。規模は幅約20cm~30cm、深さ約2cm~3cmを測る。南東隅に貯蔵穴と考えられる小穴が認められた。規模は径約55cm、深さ約50cmを測る。床面上には小穴が6基検出された。各々の規模は1、55cm×45cm、深さ約55cm、2、径約30cm、深さ約55cm、3、50

第1節 竪穴住居跡

cm×35cm、底部は2カ所認められ両側ともに深さ約50cmを測る。4、50cm×40cm、底部は2カ所認められ、北側は約55cm南側は約20cmを測る。また南壁に接する部分で小穴が検出された。5の規模は径約30cm、深さ約60cmを測る。5も当住居跡に伴う柱穴の一部と考えられる。竈は東壁、北壁の2カ所に検出された。東壁に付設された竈の前面には約5cm～6cmの深さの落ち込みが認められた。規模は燃烧部幅約40cm、同長1.1mを測る。北壁の竈は袖幅約60cm、燃烧部長50cm、煙道部長70cmを測る。北壁に付設された竈の規模は袖幅約60cm、燃烧部長50cm、煙道部長70cmを測る。



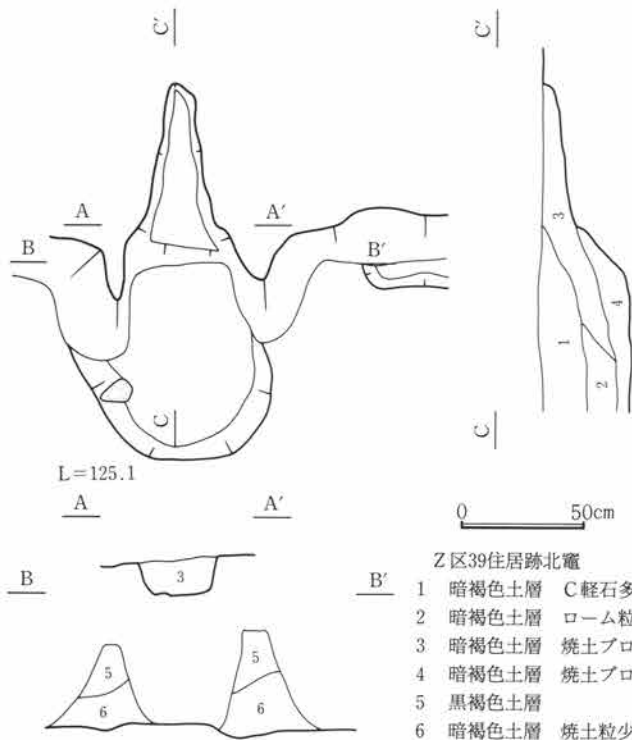
第513図 Z区39号住居跡



Z区39号住居跡東竈

- 1 暗褐色土層 C軽石多量、ローム粒少量含む
- 2 暗褐色土層 C軽石多量、ローム粒微量に含む
- 3 暗褐色土層 焼土ブロック、ロームブロック少量含む
- 4 暗褐色土層 C軽石多量、焼けた粘土ブロック少量含む
- 5 暗褐色土層
- 6 暗褐色土層 焼土粒、粘土粒少量含む

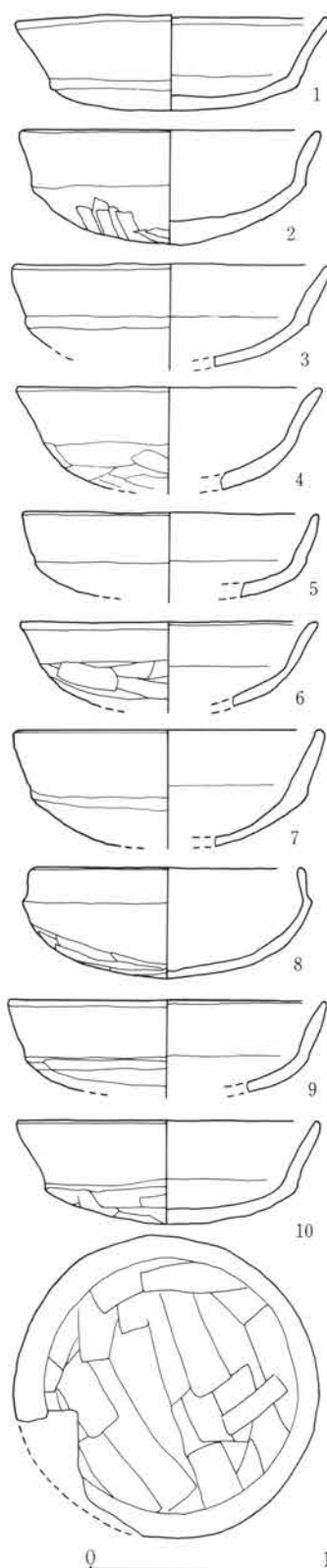
第514図 Z区39号住居跡竈(東)



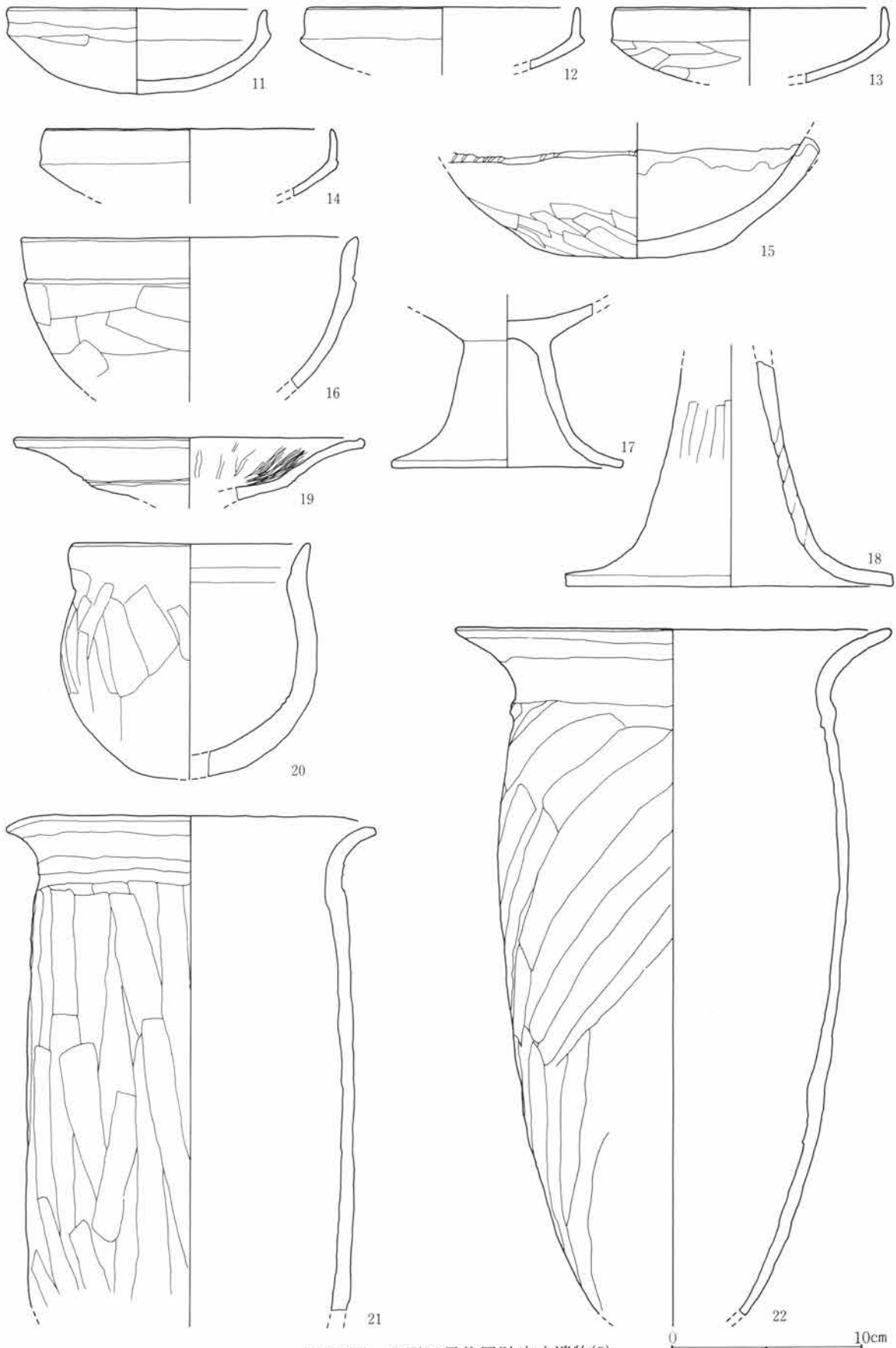
Z区39号住居跡北竈

- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 ローム粒、焼土粒少量含む
- 3 暗褐色土層 焼土ブロック多量に含む
- 4 暗褐色土層 焼土ブロック少量、灰多量に含む
- 5 黒褐色土層
- 6 暗褐色土層 焼土粒少量含む

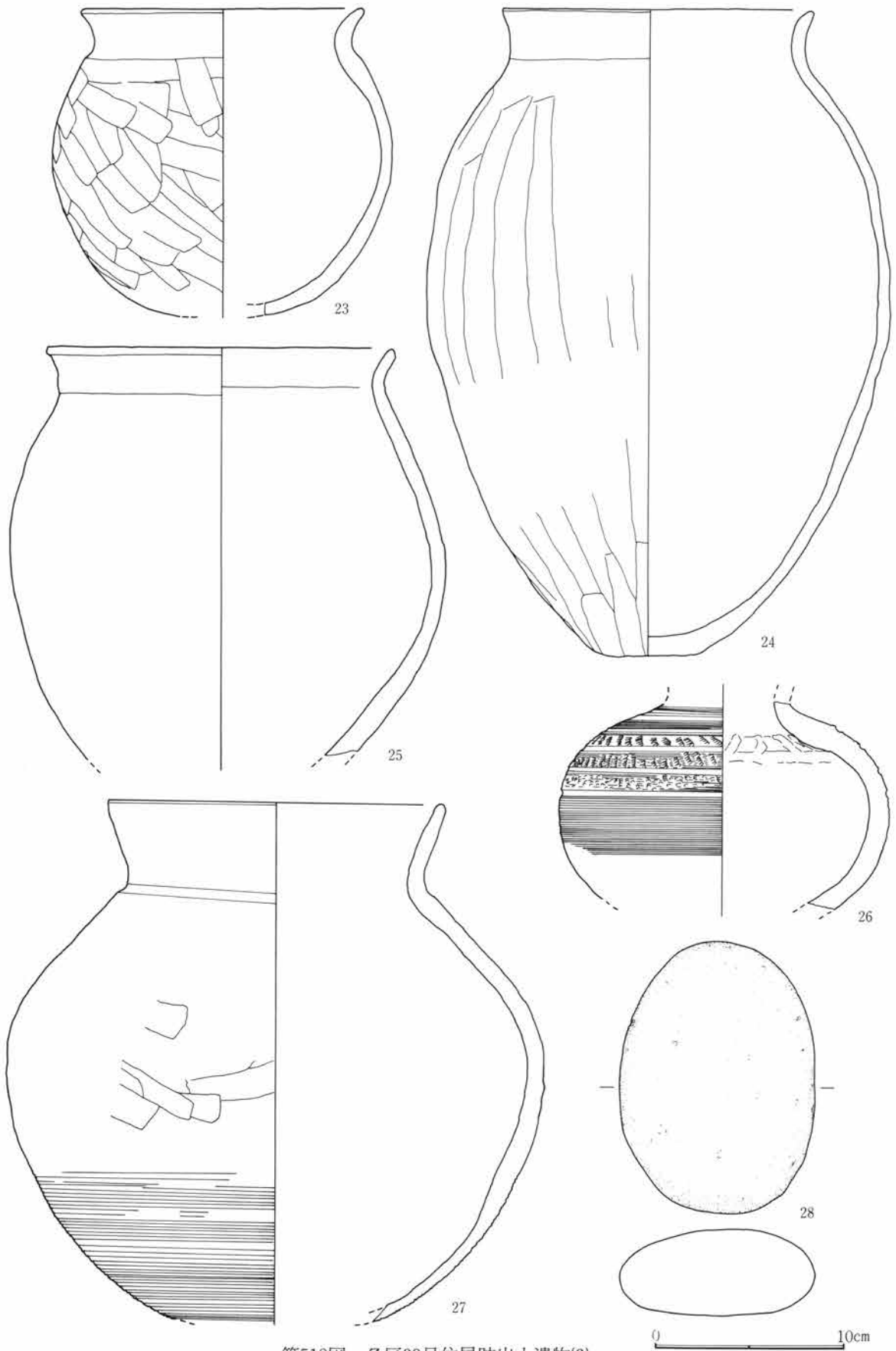
第515図 Z区39号住居跡竈(北)



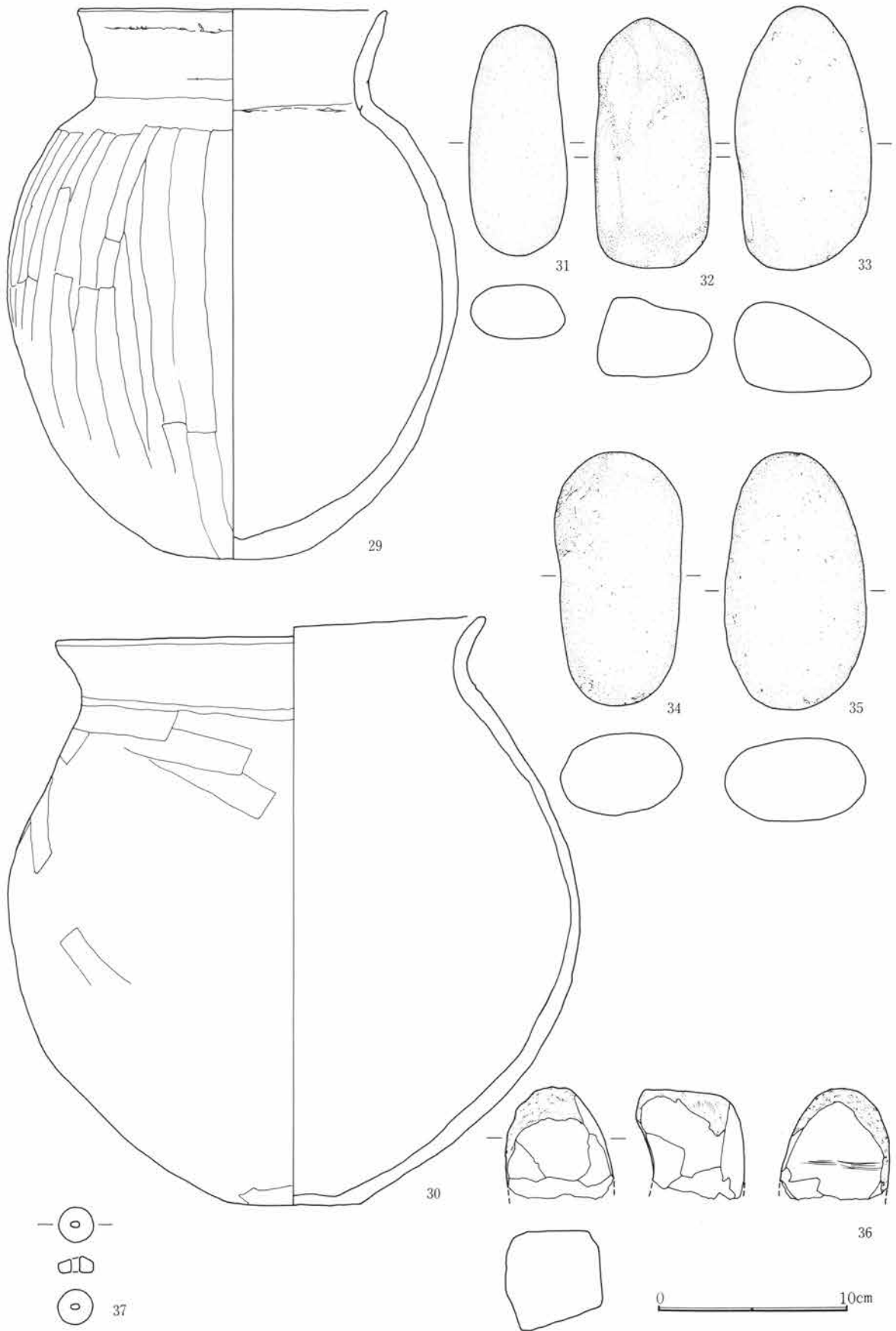
第516図 Z区39号住居跡出土遺物



第517図 Z区39号住居跡出土遺物(2)

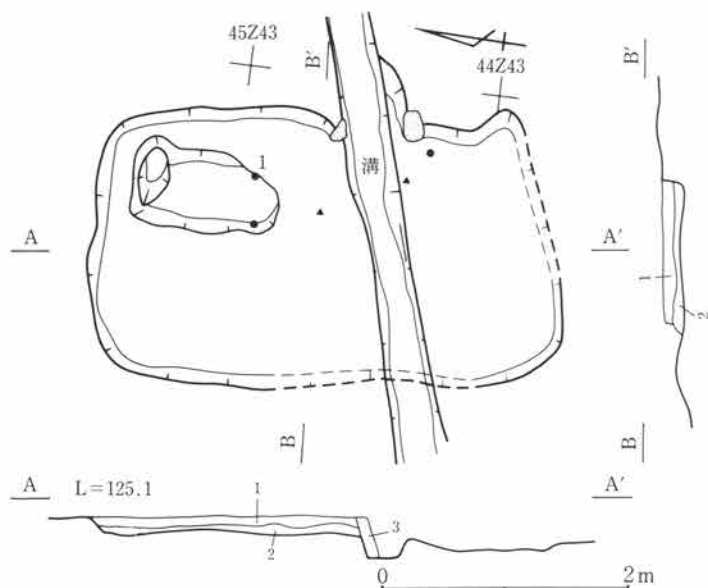


第518図 Z区39号住居跡出土遺物(3)



第519図 Z区39号住居跡出土遺物(4)

Z区40号住居跡 (第520・521・522図、第42・162図版)

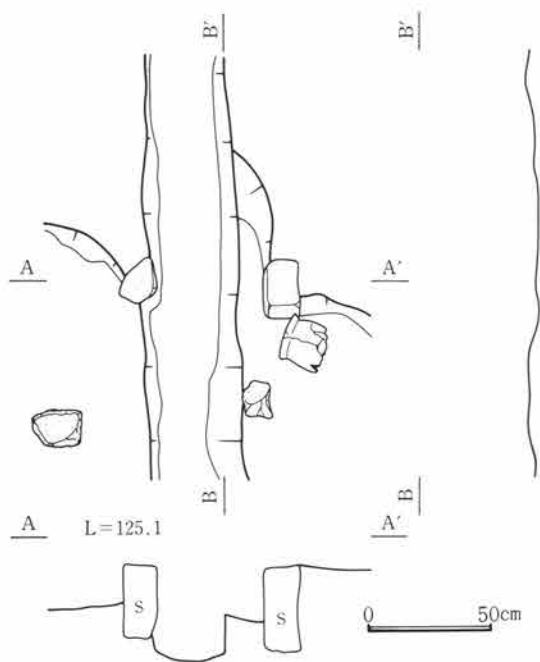


第520図 Z区40号住居跡

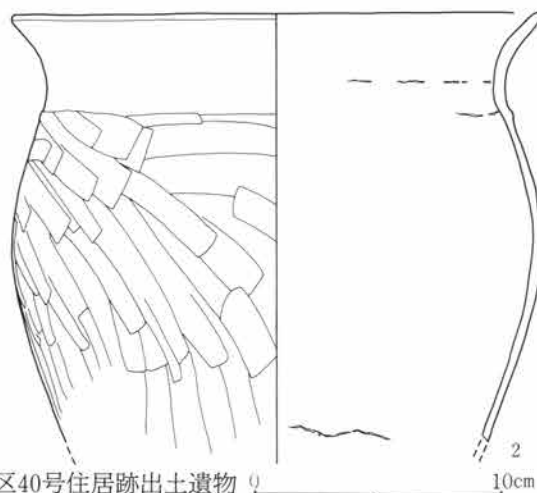
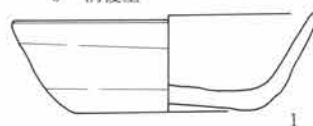
Z区西北部に位置し43～45 Z 43・44の範囲にある。39号住居跡の南東にある。他の遺構との関係は中央部を溝により壊されている。規模は長辺3.85m、短辺2.2mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-83°-Eである。壁高は約20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、東部に小穴が検出された。規模は1.2m×80cm、深さ約10cmを測る。竈は東壁に検出された。規模は袖幅60cm、燃烧部長70cmを測る。竈両袖部に石が検出された。

Z区40号住居跡

- 1 暗褐色土層 C軽石、ローム粒含む
- 2 暗褐色土層 C軽石含む
- 3 溝覆土



第521図 Z区40号住居跡竈

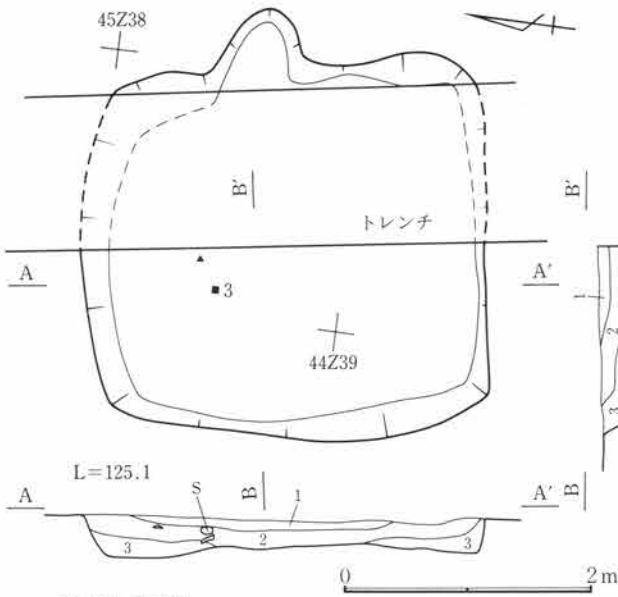


第522図 Z区40号住居跡出土遺物

Z区42号住居跡 (第523・524・525・526図、第42・162図版)

Z区西部に位置し43～45 Z 37～39の範囲にある。43号住居跡の北にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺3.5m、短辺3.05mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-79°-Eである。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁に検出された。規模は燃烧部幅70cm、同長60cmを測る。

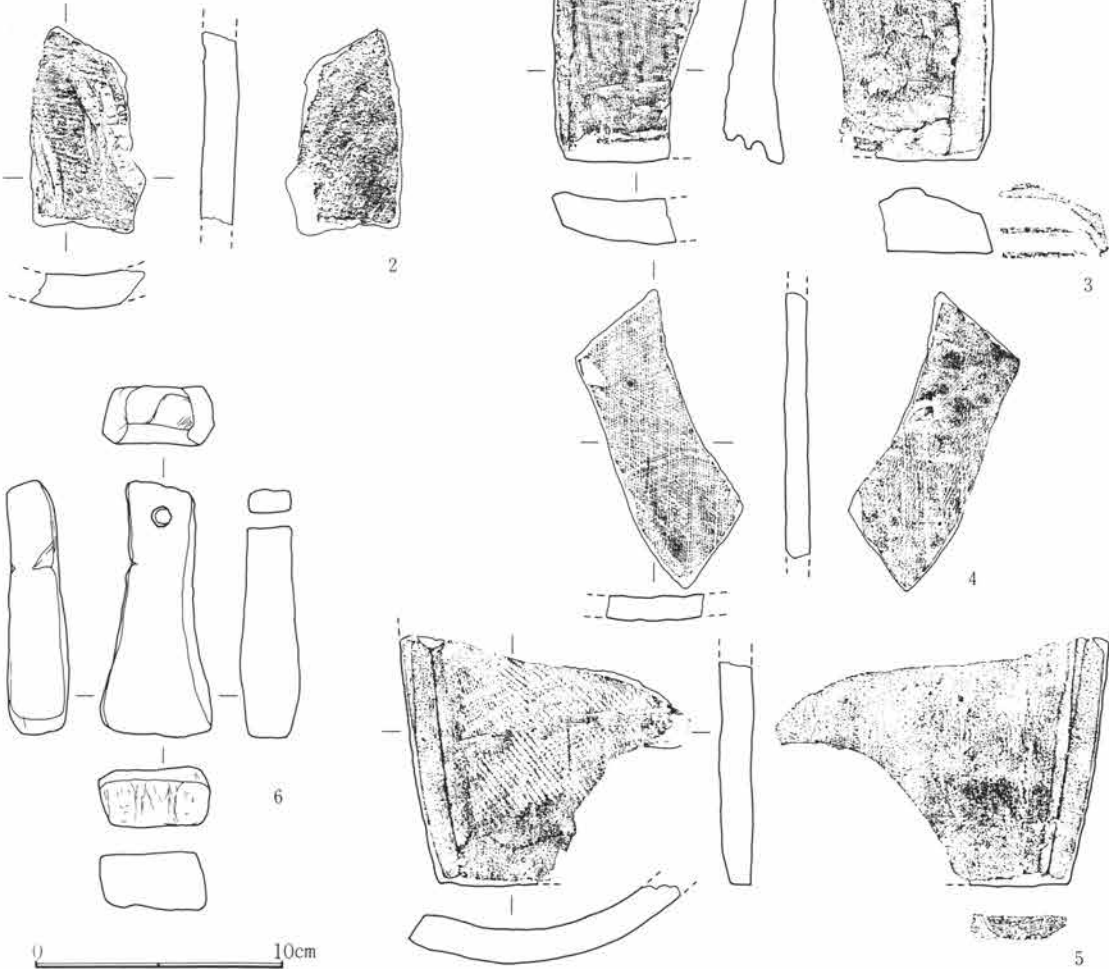
当住居跡は試掘時の南北トレンチにより竈前面の床面の一部が壊されている。



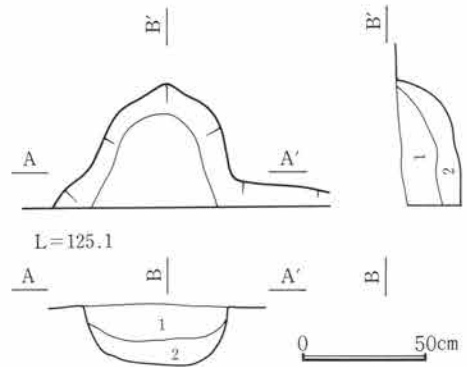
Z区42号住居跡

- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石、黒色土ブロック多量に含む
- 3 暗褐色土層 ロームブロック多量に含む

第523図 Z区42号住居跡



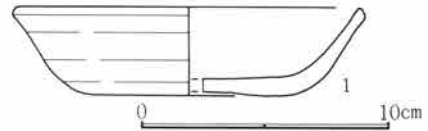
第525図 Z区42号住居跡出土遺物(1)

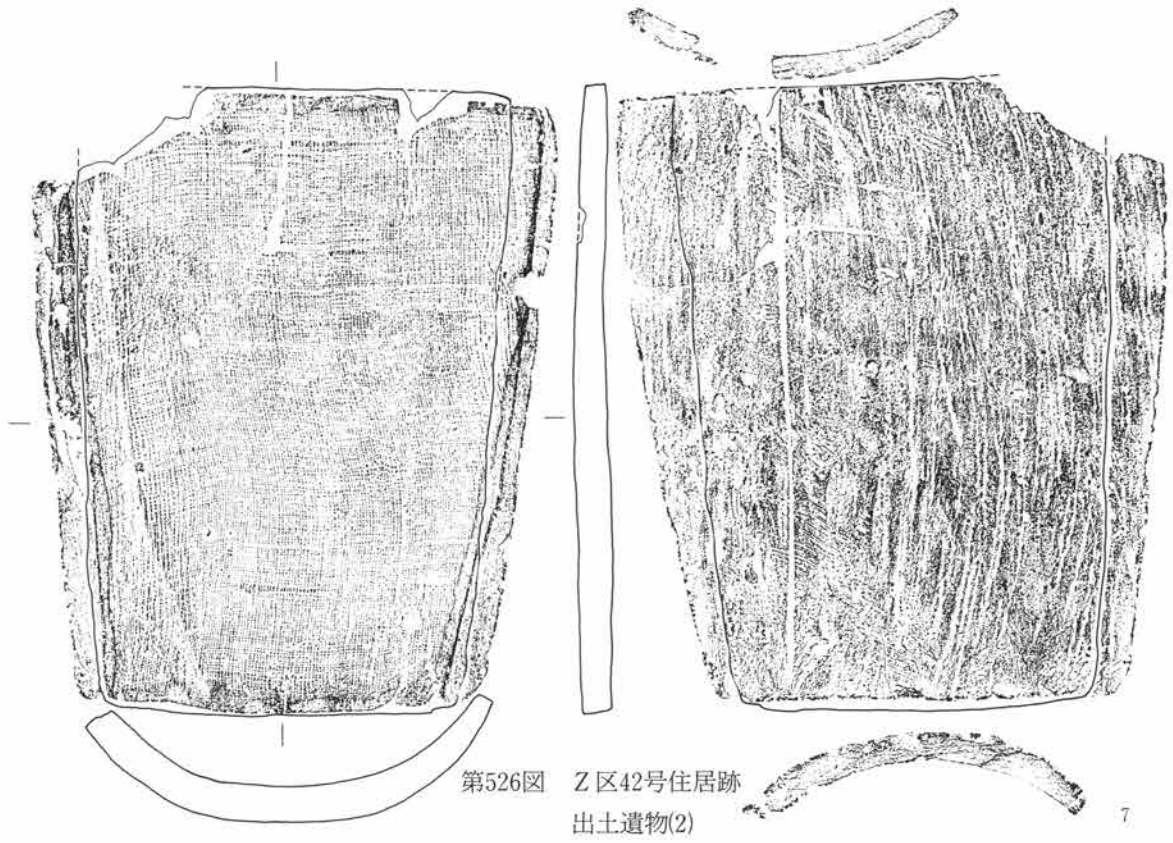


Z区42号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 灰、焼土粒多量に含む
- 2 暗褐色土層 灰、焼土粒、ローム粒少量含む

第524図 Z区42号住居跡竈

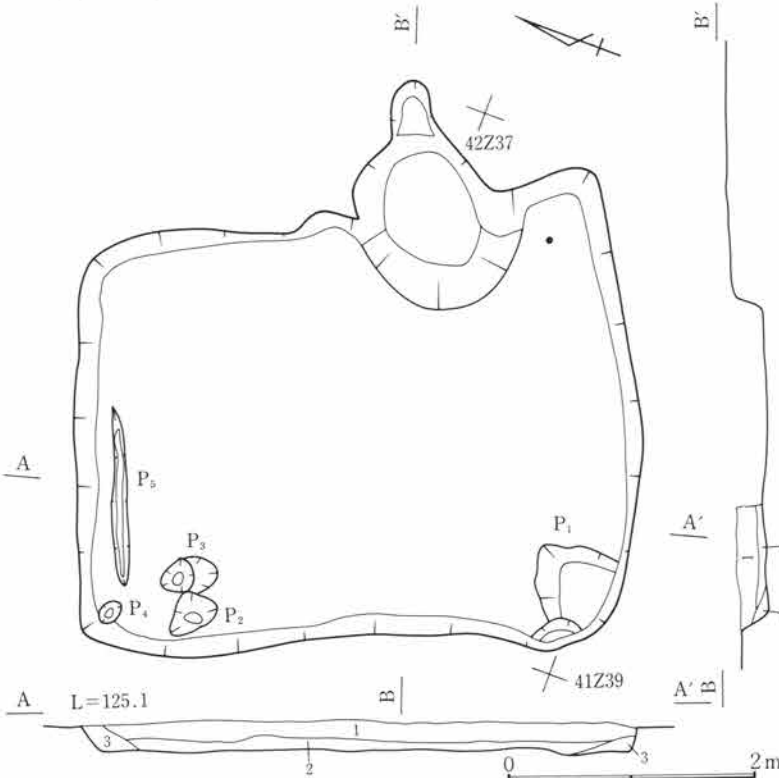




第526図 Z区42号住居跡
出土遺物(2)

Z区43号住居跡 (第527・528・529図、第43・162・163図版)

Z区西部に位置し40～43 Z 36～39の範囲にある。42号住居跡の南にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺4.7m、短辺3.8mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-61°-Eである。壁高は約20

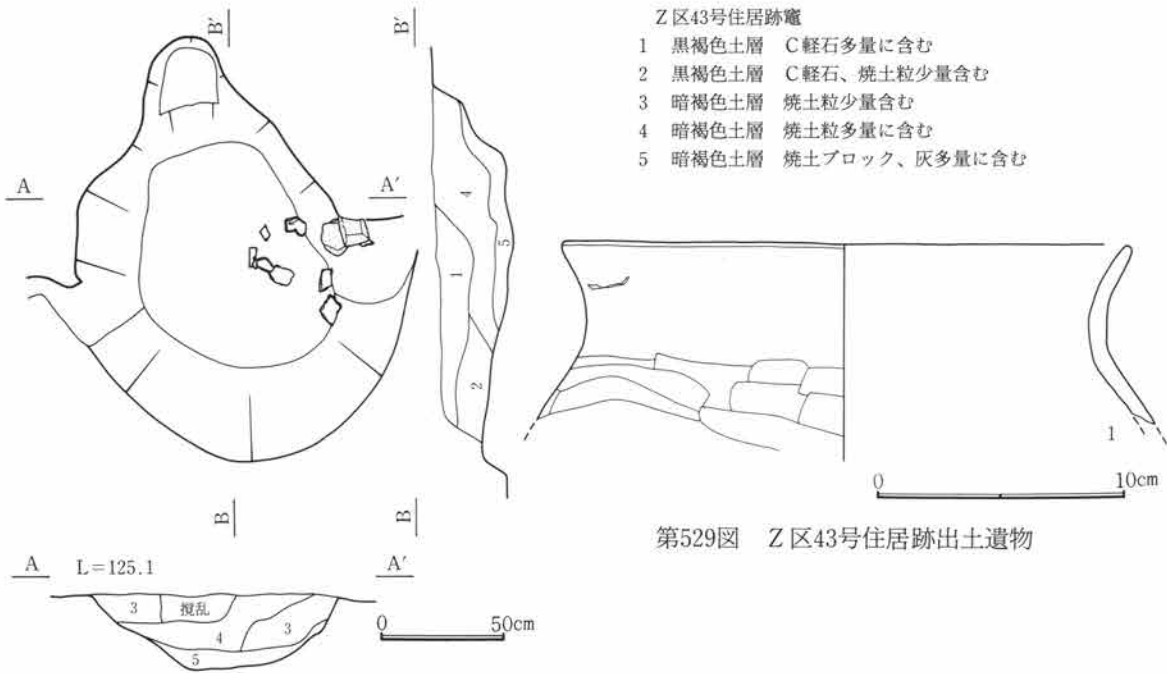


cm～30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。床面上には小穴、溝状遺構が検出された。各々1～5とした。規模は1、70cm×60cm、深さ約5cm、2、45cm×30cm、深さ約20cm、3、45cm×25cm、深さ約15cm、4、径約20cm、深さ約15cm、5、溝状を呈し、1.5m×15cm、深さ約2～4cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。規模は袖幅1m、燃焼部長70cm、煙道部長50cmを測る。

Z区43号住居跡

- 1 暗褐色土層 C軽石多量、ローム粒少量含む
- 2 暗褐色土層 C軽石、ロームブロック少量含む
- 3 暗褐色土層 C軽石少量、ロームブロック多量に含む

第527図 Z区43号住居跡



Z区44号住居跡 (第530・531・534図、第43・176図版)

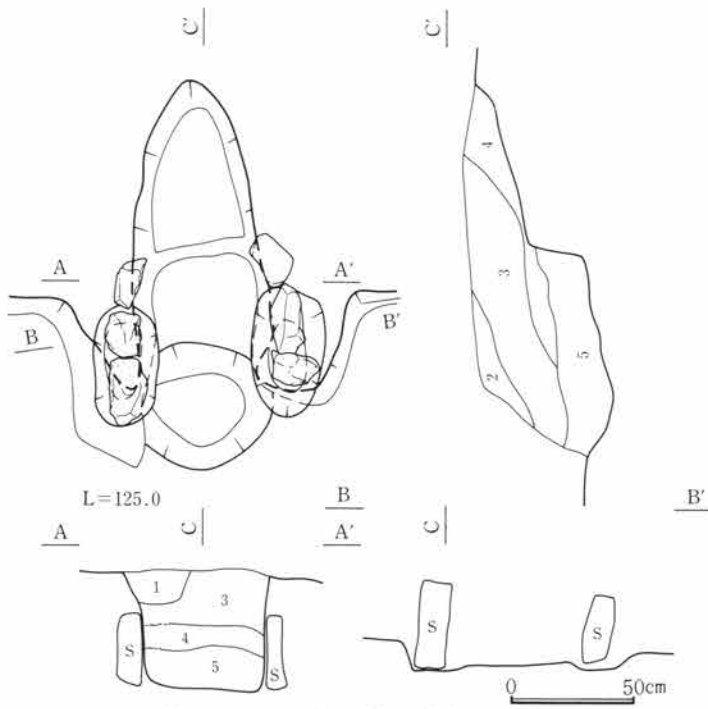
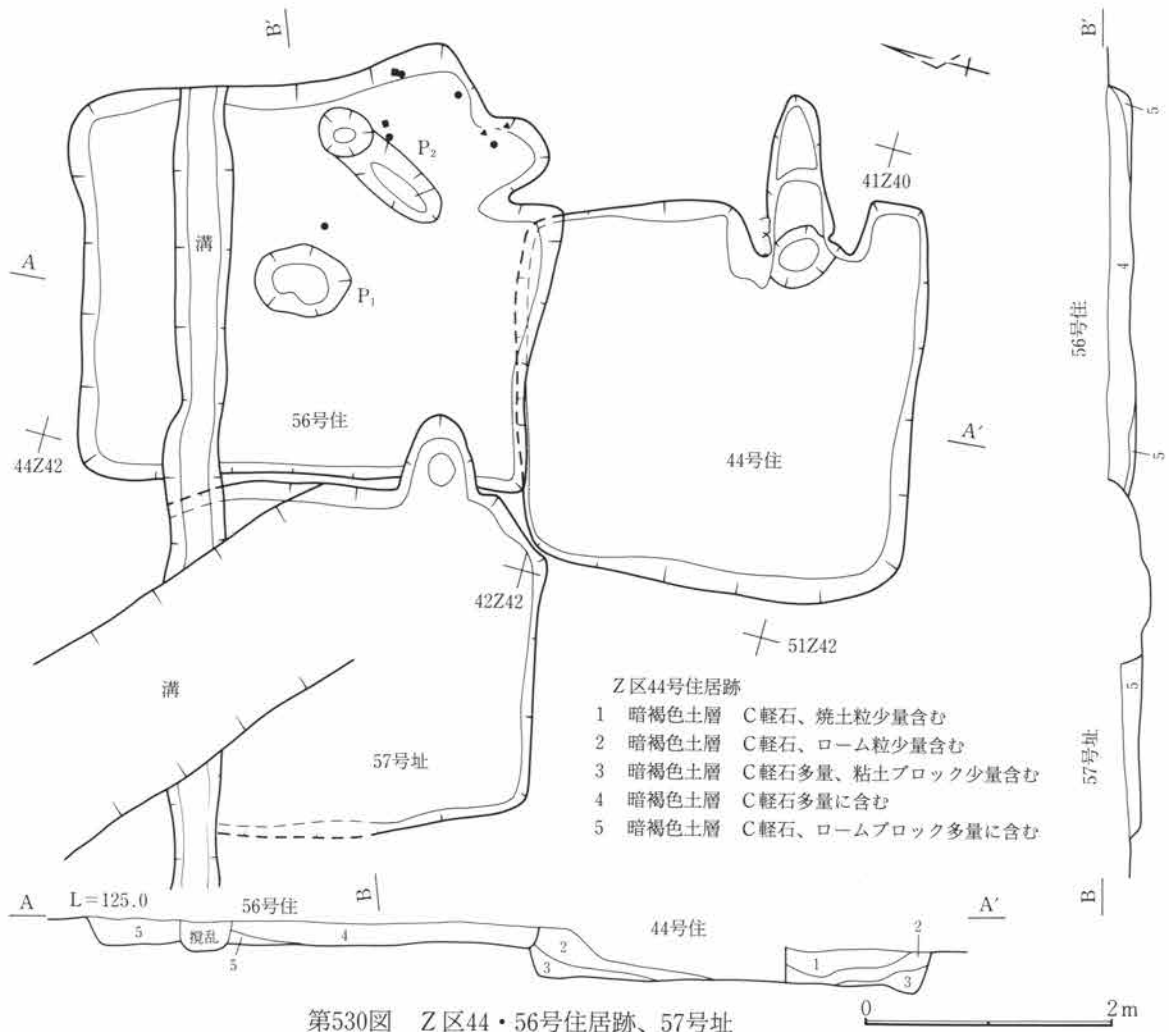
Z区西部に位置し40～42 Z 39～41の範囲にある。43号住居跡の西にある。他の遺構との関係は北部で56号住居跡、南部で64号住居跡と重複している。新旧関係は64号住居跡より新しく、56号住居跡より古い。規模は長辺3.3m、短辺3.2mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-75°-Eである。壁高は約30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。竈の形態は両袖部が床面に延びている。右袖は約50cm、左袖は約60cm床面上に延びている。規模は袖幅50cm、燃烧部長70cm、煙道部長55cmを測る。竈掘り方面検出時に竈の左右袖部、壁体部に3個ずつ、計6個の石が検出された。竈左右の袖部、壁体の補強に使われたものと考えられる。

Z区56号住居跡 (第530・532・534図、第45・162・163図版)

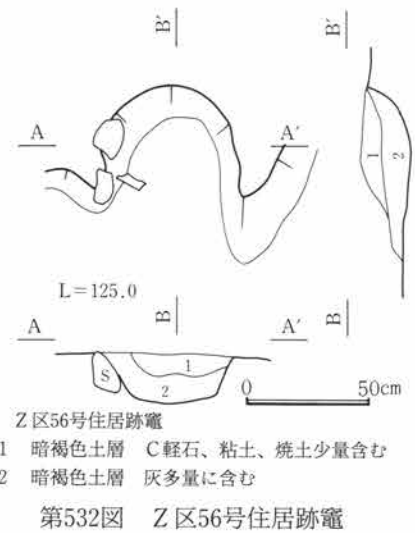
Z区西部に位置し42～44 Z 40～42の範囲にある。42号住居跡の西にある。他の遺構との関係は南部で44号住居跡、西部で57号址と重複している。新旧関係は44号住居跡より新しく、57号址より古い。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。床面上には2基の小穴が検出された。各々1・2とした。規模は1、85cm×70cm、深さ約10cm、2は長円形と円形の2基が重複し、長円形の小穴の規模は1.2m×35cm、深さ約10cm、円形の小穴の規模は径約35cm、深さ約10cmを測る。竈は南東隅に検出された。右袖部は約60cm、左袖部は約60cm、床面上に延びている。規模は袖幅70cm、燃烧部長60cmを測る。

Z区57号址 (第530・533図)

Z区西部に位置し41～43 Z 41～43の範囲にある。44号住居跡の西北に接している。他の遺構との関係は東部で56号住居跡と重複している。新旧関係は57号址が新しい。規模は北壁が新しい溝により壊されているため検出できず、南壁で2.8mを測る。平面形態は方形を呈するものと考えられる。主軸方位は竈長軸でN-77°-Eである。壁高は約5cm～10cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃烧部幅60cm、同長80cmを測る。また竈中央部には円形の落ち込みが検出された。規模は径約25cm、深さ約1cm～2cmを測る。



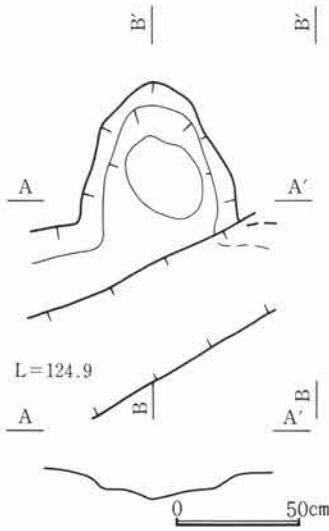
第531図 Z区44号住居跡竈



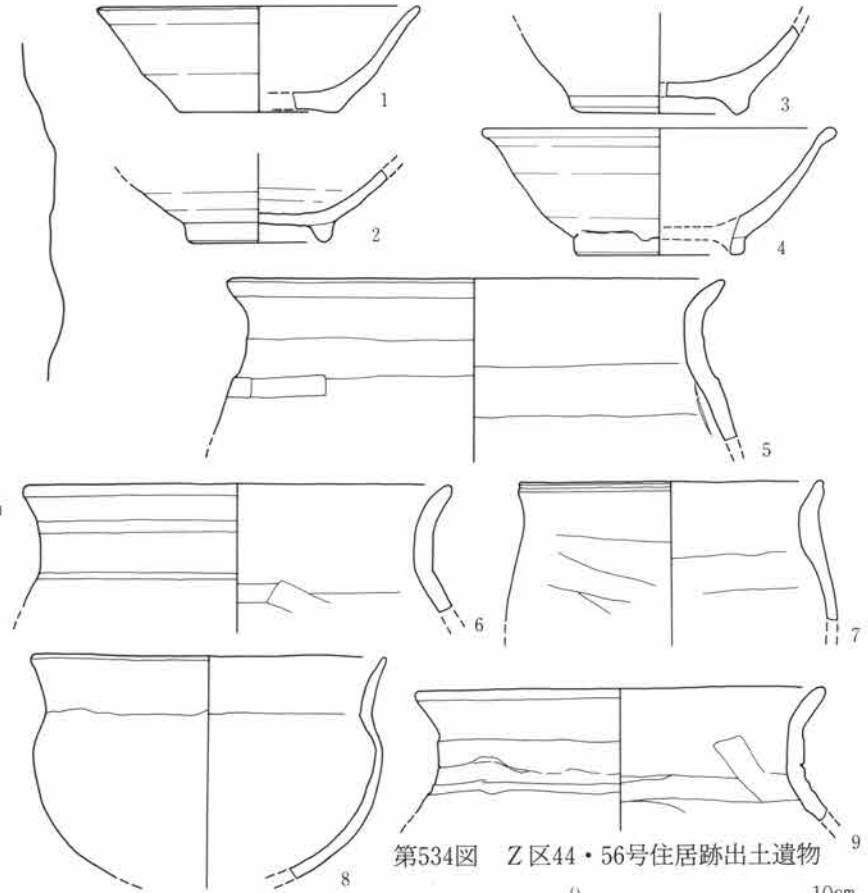
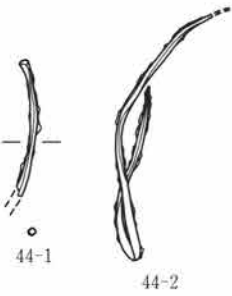
第532図 Z区56号住居跡竈

- Z区44号住居跡竈
- 1 攪乱
 - 2 暗褐色土層
 - 3 暗褐色土層 焼土ブロック含む
 - 4 暗褐色土層 焼土含む
 - 5 暗褐色土層 焼土、焼土ブロック含む

第1節 竪穴住居跡

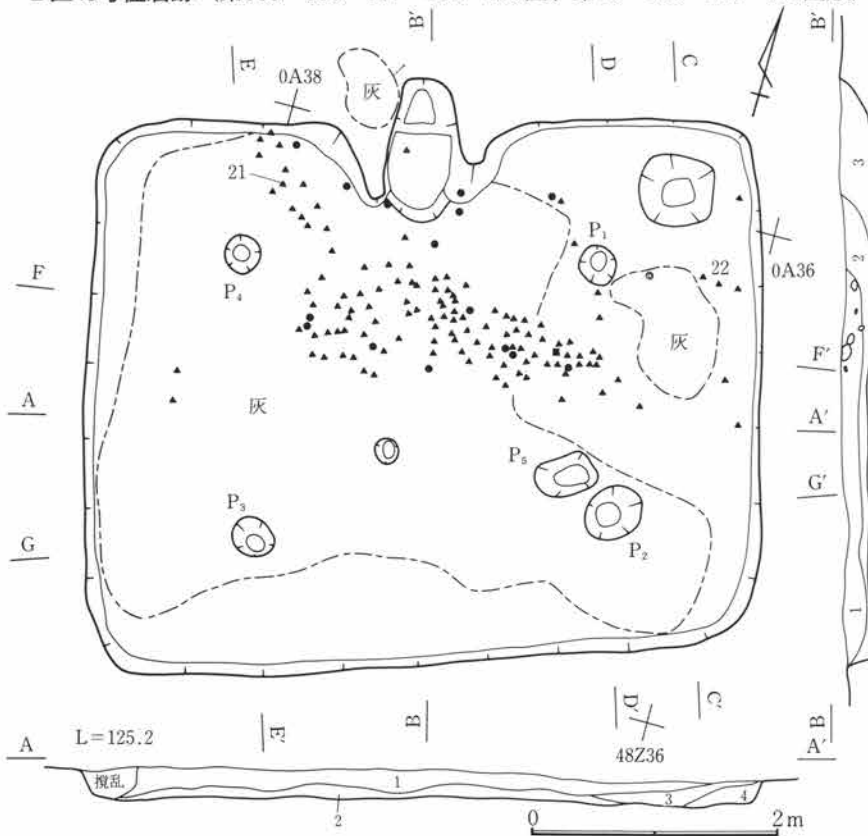


第533図 Z区57号址竈



第534図 Z区44・56号住居跡出土遺物

Z区45号住居跡 (第535・536・537・538・539図、第43・163・164・173図版)



第535図 Z区45号住居跡

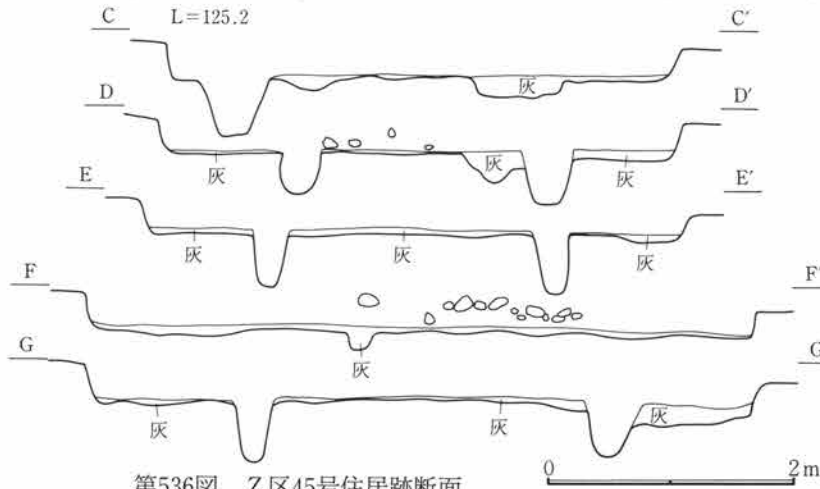
Z区北部に位置し47~0A35~38の範囲にある。38号住居跡の東にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺5.45m、短辺4.4mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-75°-Eである。壁高は約30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、北東隅に貯蔵穴と考えられる小穴が検出された。規模は径約55cm、深さ約40cmを測る。

Z区45号住居跡

- 1 暗褐色土層 ロームブロック多量、C軽石含む
- 2 暗褐色土層 ロームブロック少量、炭化物多量に含む
- 3 暗褐色土層 ロームブロック少量含む
- 4 暗褐色土層

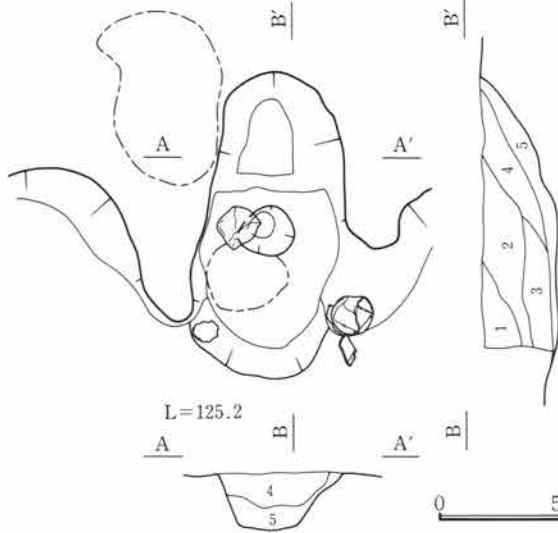
第4章 検出された遺構・遺物

床面上には他に小穴が6基検出された。各々の規模は1、径約25cm、深さ約30cm、2、径約40cm、深さ約20



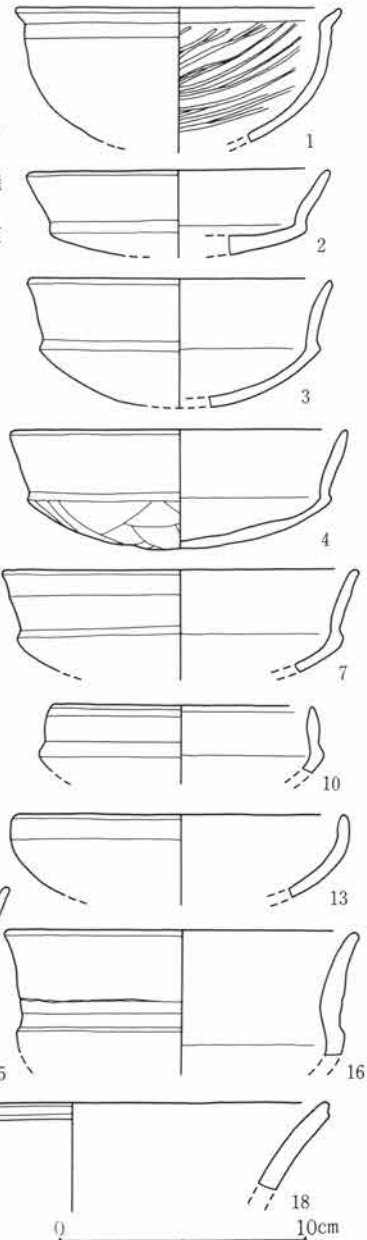
第536図 Z区45号住居跡断面

cm、3、径約35cm、深さ約40cm、4、径約30cm、深さ約40cm、5、50cm×30cm、深さ約10cm、6、径約20cm、深さ約15cmを測る。1～4は柱穴の可能性が考えられる。竈は北壁ほぼ中央部に検出された。左右の袖は60cm床面に延びている。規模は袖幅70cm、燃烧部長75cm、煙道部長35cmを測る。

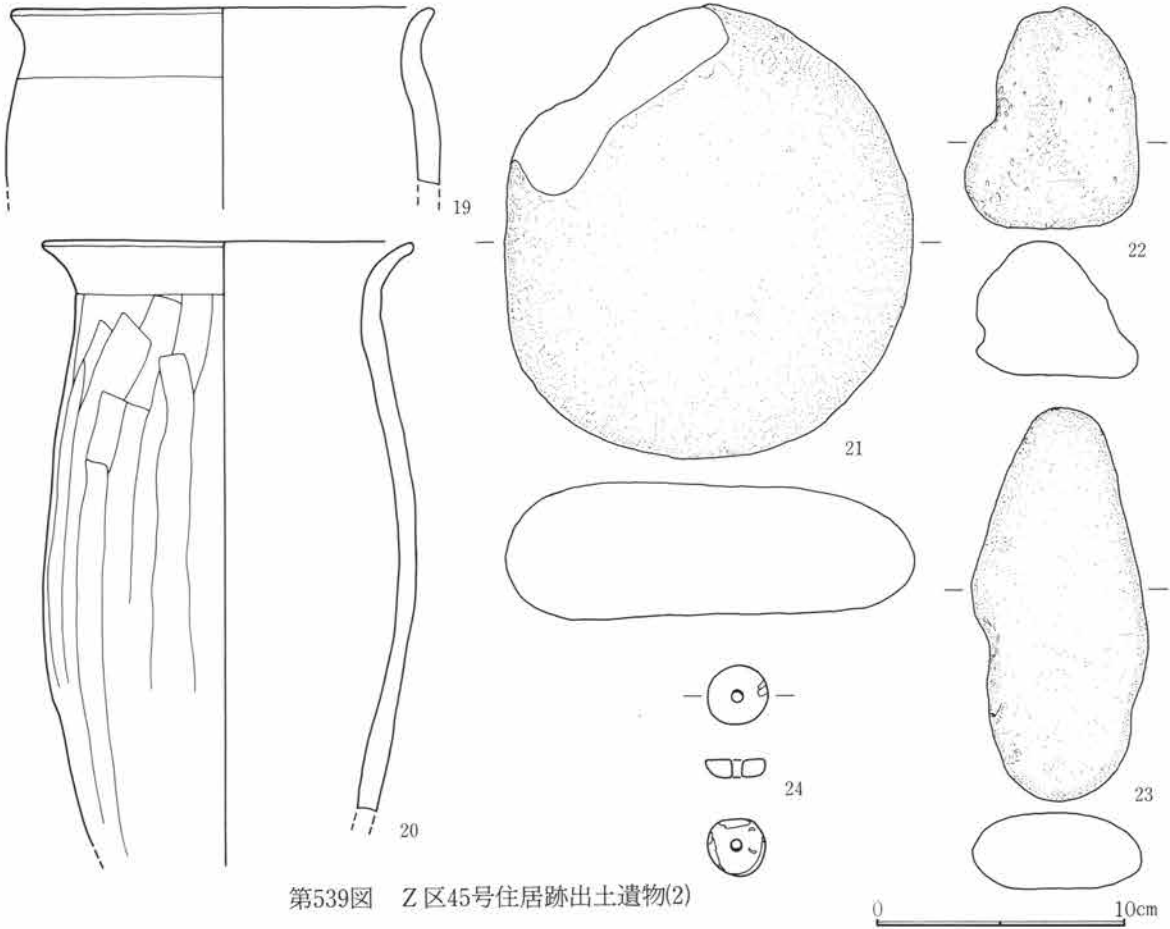


第537図 Z区45号住居跡竈

- Z区5号住居跡竈
- 1 暗褐色土層 C軽石・粘土含む
 - 2 灰褐色土層 粘土ブロック含む
 - 3 灰褐色土層 粘土・焼土含む
 - 4 暗褐色土層 焼土・灰含む
 - 5 灰層



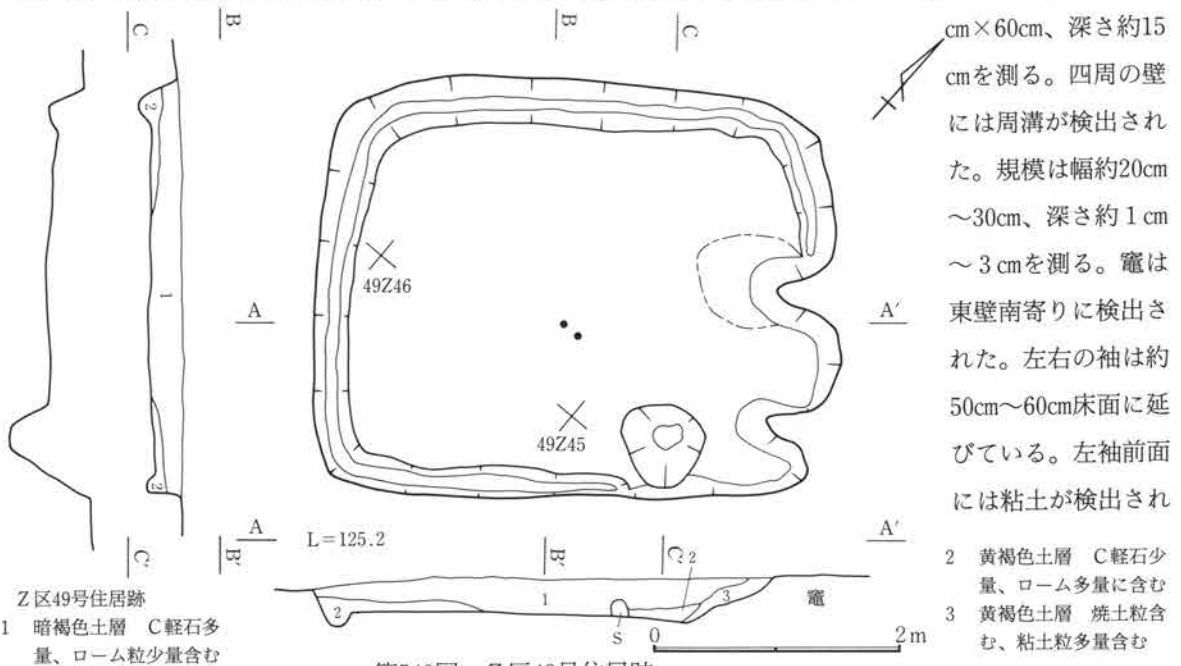
第538図 Z区45号住居跡出土遺物(1)



第539図 Z区45号住居跡出土遺物(2)

Z区49号住居跡 (第540・541・542図、第44・164図版)

Z区西北部に位置し48・49Z 43・44の範囲にある。39号住居跡の北東にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺4.5m、短辺3.45mを測る。平面形態は隅丸長方形を呈する。主軸方位はN-57°-Eである。壁高は約10cm~20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、南東部に貯蔵穴と考えられる小穴が検出された。規模は65



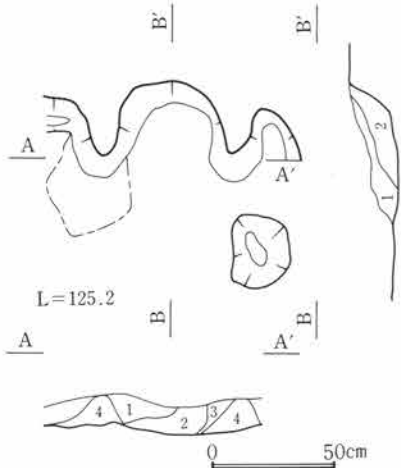
Z区49号住居跡
1 暗褐色土層 C軽石多量、ローム粒少量含む

cm×60cm、深さ約15cmを測る。四周の壁には周溝が検出された。規模は幅約20cm~30cm、深さ約1cm~3cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。左右の袖は約50cm~60cm床面に延びている。左袖前面には粘土が検出され

2 黄褐色土層 C軽石少量、ローム多量に含む
3 黄褐色土層 焼土粒含む、粘土粒多量含む

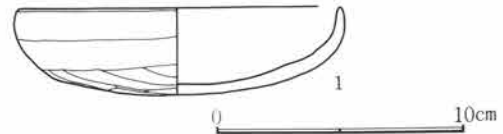
第540図 Z区49号住居跡

第4章 検出された遺構・遺物



第541図 Z区49号住居跡竈

た。竈の規模は袖幅1.1m、燃烧部長70cmを測る。



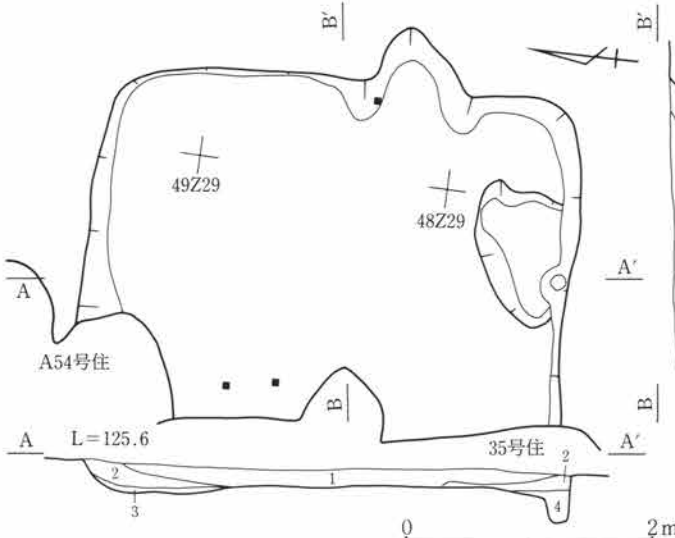
第542図 Z区49号住居跡出土遺物

Z区49号住居跡竈

- 1 灰褐色土層 C軽石、ローム粒少量含む
- 2 赤褐色土層 焼土粒、灰多量に含む
- 3 暗褐色土層 焼土粒、ローム粒少量含む
- 4 灰褐色土層 粘土質塊(袖)

Z区50号住居跡 (第543・544・545・546図、第44・164図版)

Z区北部に位置し47~49Z28~30の範囲にある。A区48号住居跡の南西にある。他の遺構との関係は西北部でA区54号住居跡、西部でZ区35号住居跡と重複している。新旧関係は50号住居跡が古い。規模は東壁で約3.95mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-88°-Eである。壁高は約20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は袖幅80cm、燃烧部長70cmを測る。

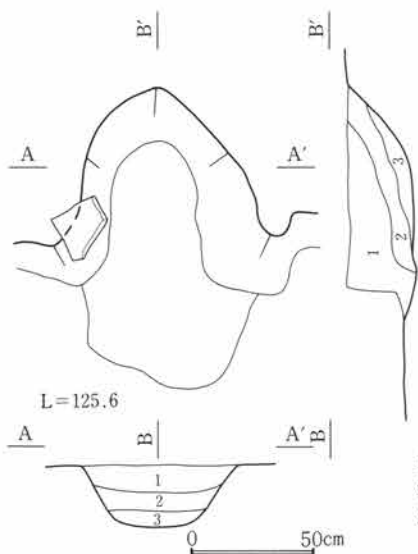


第543図 Z区50号住居跡

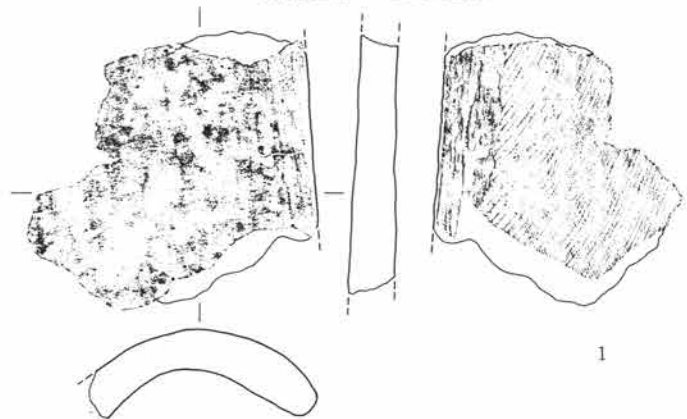
部でA区54号住居跡、西部でZ区35号住居跡と重複している。新旧関係は50号住居跡が古い。規模は東壁で約3.95mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-88°-Eである。壁高は約20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は袖幅80cm、燃烧部長70cmを測る。

Z区50号住居跡

- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石多量、ローム粒少量含む
- 3 暗褐色土層 C軽石少量、ロームブロック多量に含む
- 4 暗褐色土層 C軽石少量含む



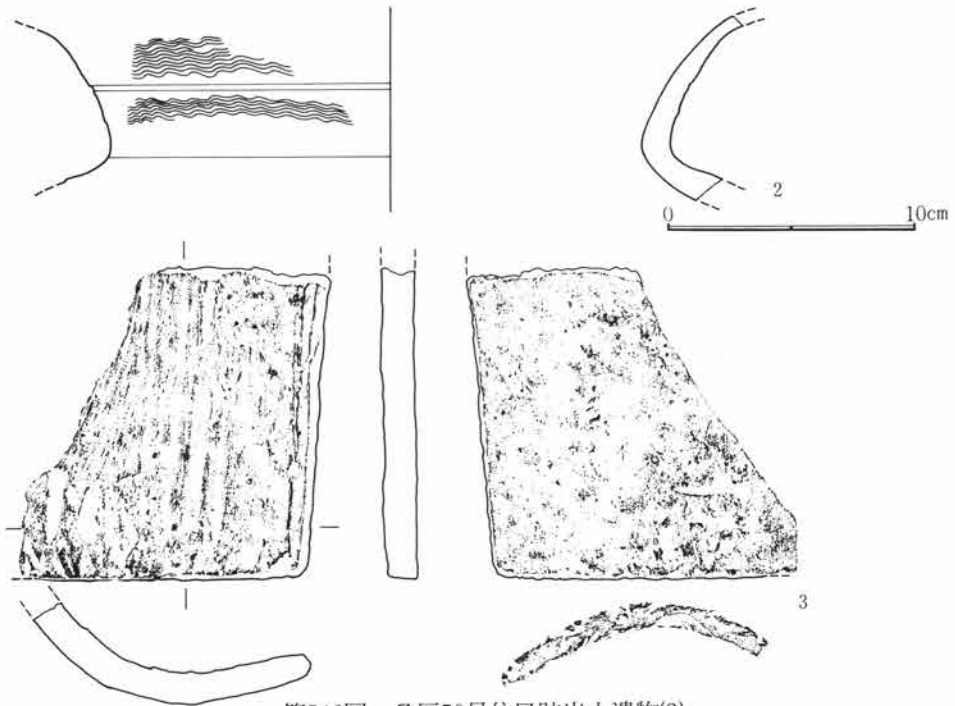
第544図 Z区50号住居跡竈



第545図 Z区50号住居跡出土遺物(1)

Z区50号住居跡竈

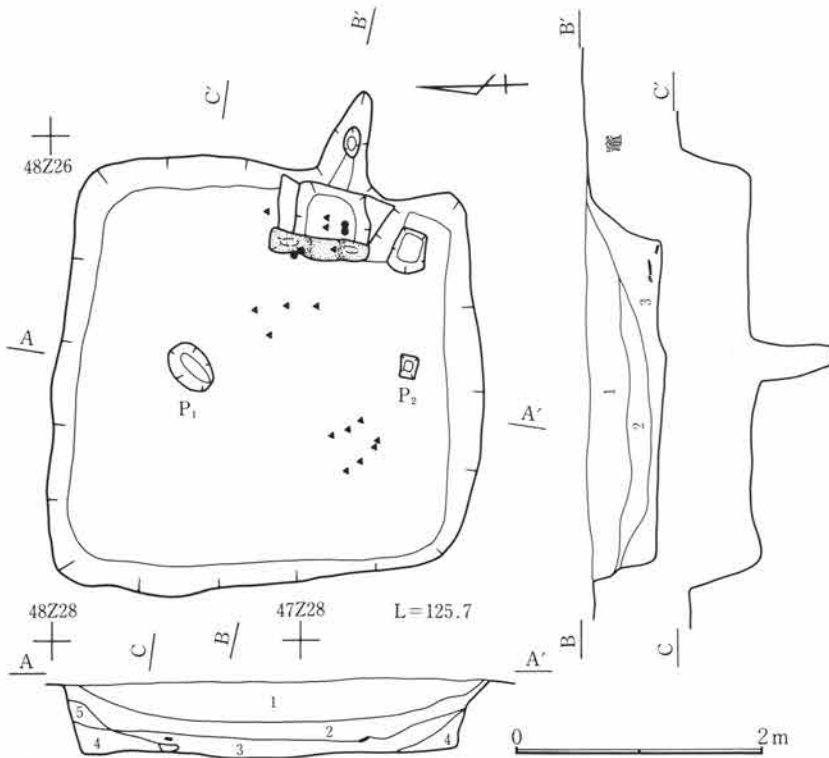
- 1 暗褐色土層 C軽石混入
- 2 暗褐色土層 C軽石、ローム粒含む
- 3 暗褐色土層 C軽石、炭化物粒含む



第546図 Z区50号住居跡出土遺物(2)

Z区51号住居跡 (第547・548・549図、第44・45・165図版)

Z区北東部に位置し46~48Z 26・27の範囲にある。16号住居跡の南西にある。他の遺構との重複はない。

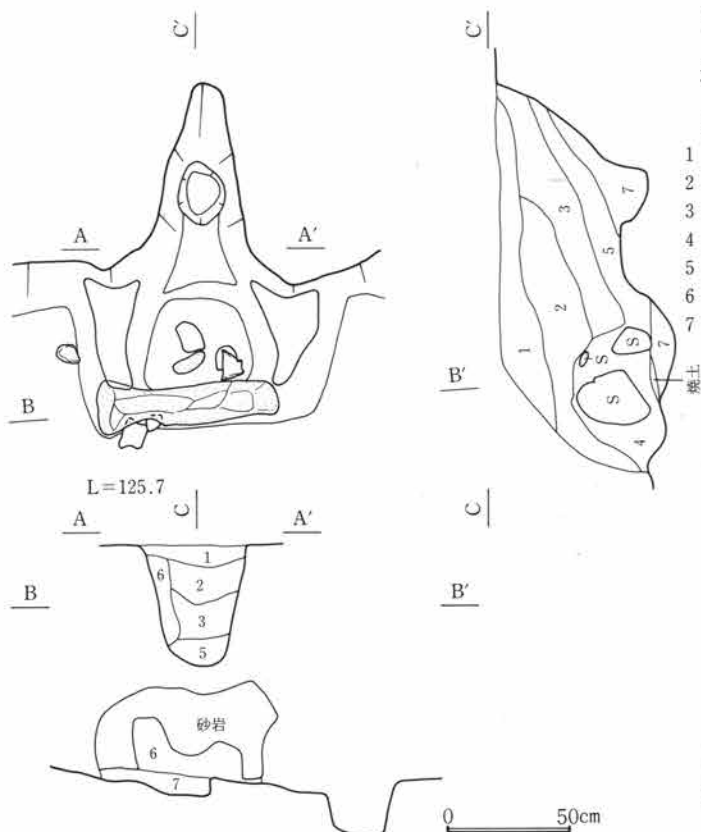


Z区51号住居跡

- 1 暗褐色土層 C軽石多量、黄褐色粒含む
- 2 暗褐色土層 C軽石、褐色土ブロック多量に含む
- 3 暗褐色土層 C軽石多量、ローム粒少量含む
- 4 暗褐色土層 C軽石、ローム粒少量含む
- 5 暗褐色土層 FAブロック含む、壁崩落

第547図 Z区51号住居跡

中世の5号溝が住居跡の上を走っている。規模は長辺3.55m、短辺3.5mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-99°-Eである。壁高は約40cm~50cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、南東隅に貯蔵穴と考えられる小穴が検出された。規模は50cm×30cm、深さ約20cmを測る。床面上には小穴が2基検出され、各々1・2とした。規模は1、45cm×30cm、深さ約60cm、2、20cm×15cm、深さ約10cmを測る。壁周溝・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。左右の袖は壁から約60cm床面上に延びている。燃烧部前面には天井石と思われる石が検出さ

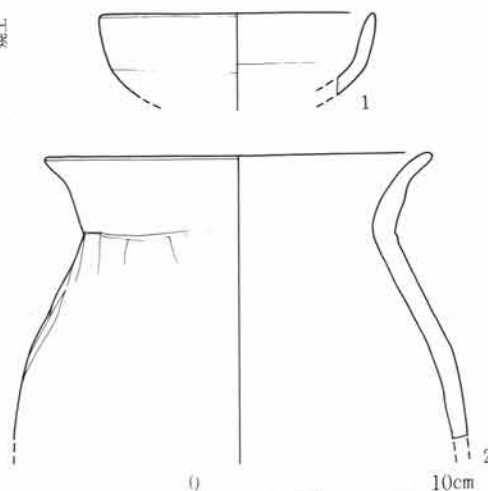


第548図 Z区51号住居跡竈

れた。規模は袖幅60cm、燃焼部長70cm、煙道部長75cmを測る。

Z区51号住居跡竈

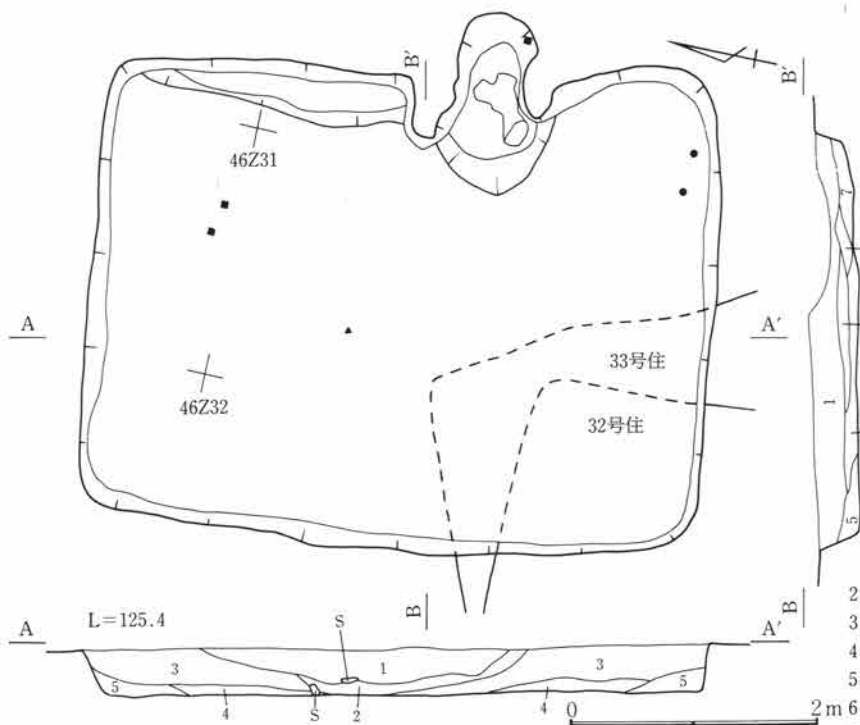
- 1 暗褐色土層 C軽石多量、焼土粒微量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石多量、焼土粒少量含む
- 3 暗褐色土層 焼土ブロック、ロームブロック多量に含む
- 4 暗褐色土層 ローム主体、天井の崩落土
- 5 黒色灰層
- 6 赤褐色土層 焼けた粘土
- 7 黒褐色土層 砂質土



第549図 Z区51号住居跡出土遺物

Z区52号住居跡 (第550・551・552・553図、第45・165・166・175・176図版)

Z区北部に位置し43~46Z 30~32の範囲にある。35号住居跡の南西にある。他の遺構との関係は南西部で32・33号住居跡と重複している。新旧関係は52号住居跡が新しい。規模は長辺5.1m、短辺3.9mを測る。平面

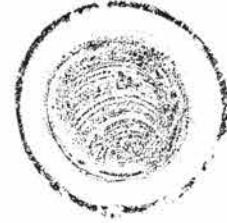
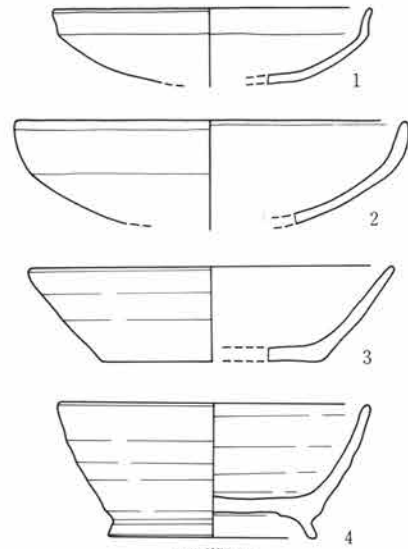
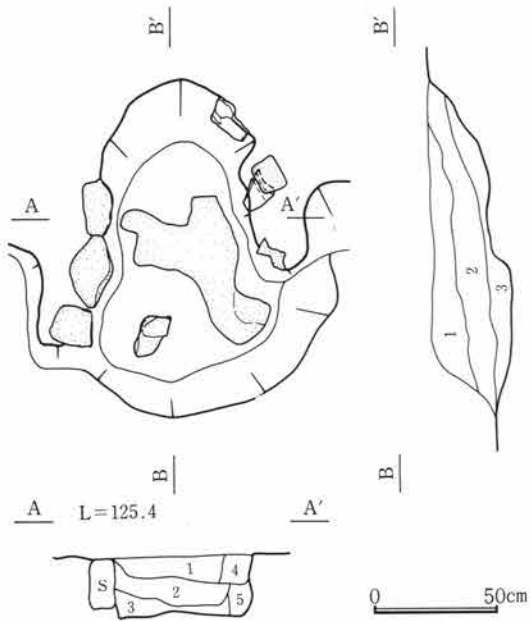


第550図 Z区52号住居跡

形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-79°-Eである。壁高は約30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、周溝・貯蔵穴・柱穴等の諸施設は検出されていない。東壁北側に数cm低い段をもつ。竈は東壁に検出された。規模は袖幅90cm、燃焼部長1.1mを測る。

Z区52号住居跡

- 1 暗褐色土層 C軽石多量に含む
- 2 暗褐色土層 C軽石、黒色土粒含む
- 3 暗褐色土層 C軽石、ローム粒少量含む
- 4 暗褐色土層 C軽石、炭化物粒少量含む
- 5 暗褐色土層 C軽石少量、ローム粒多量に含む
- 6 暗褐色土層 C軽石、灰、焼土粒少量含む
- 7 暗褐色土層 C軽石、焼土粒少量含む

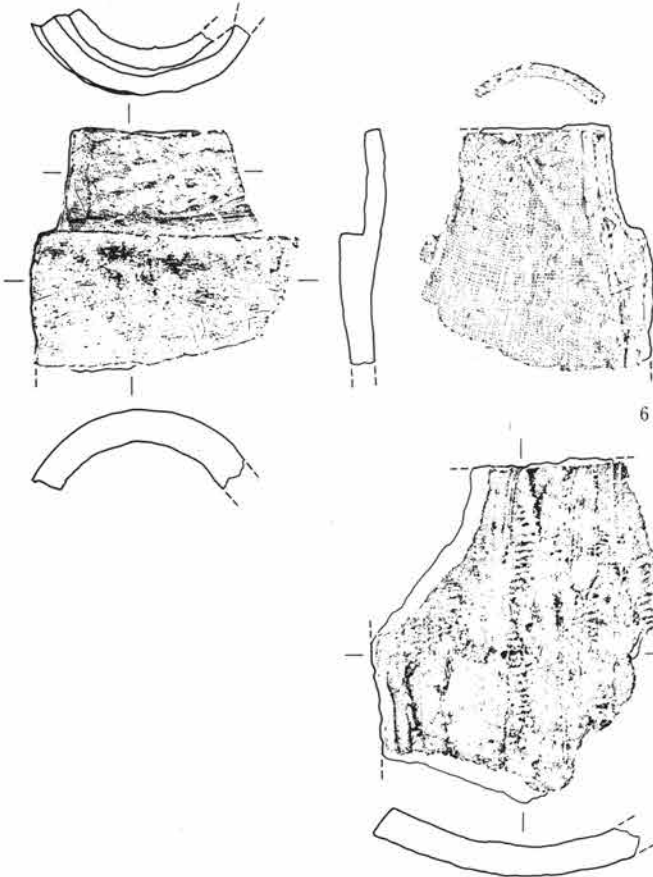


0 10cm

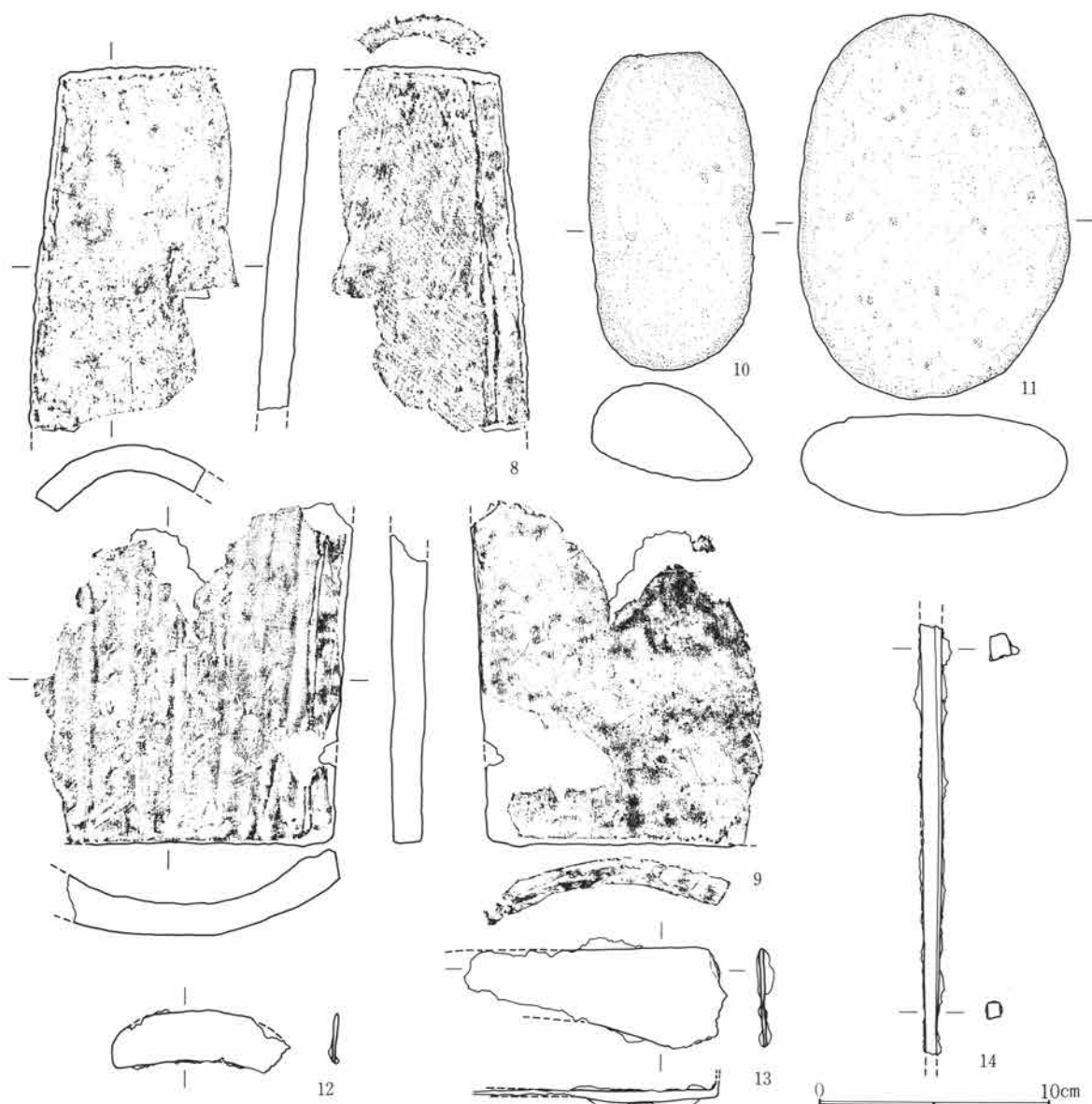
Z区52号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 C軽石多量、焼土粒少量含む
- 2 暗褐色土層 焼土粒、灰多量に含む
- 3 暗褐色土層 灰多量に含む
- 4 暗褐色土層 C軽石、焼土粒少量含む
- 5 暗褐色土層 灰、焼土粒少量含む

第551図 Z区52号住居跡竈



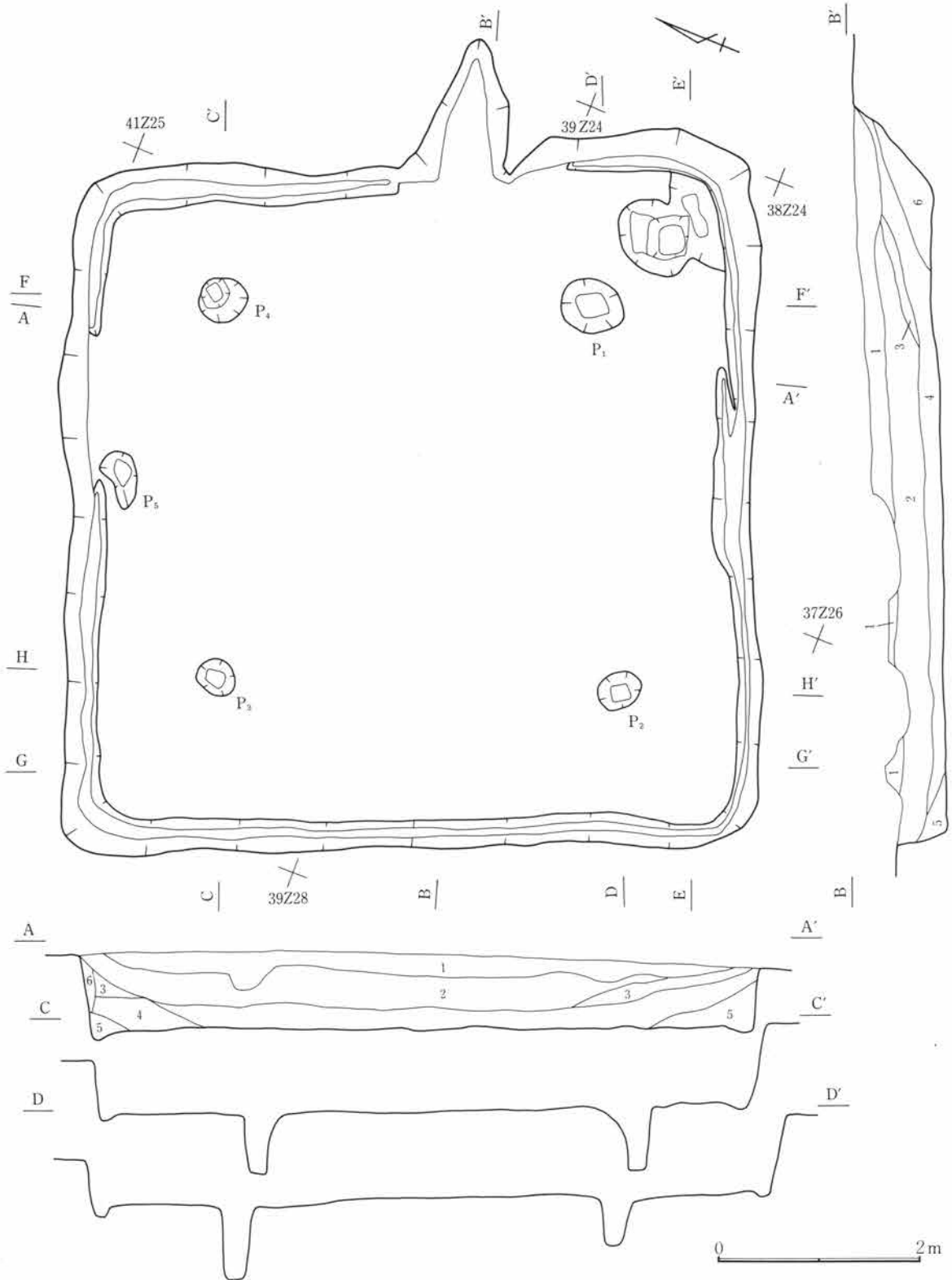
第552図 Z区52号住居跡出土遺物(1)



第553図 Z区52号住居跡出土遺物(2)

Z区53号住居跡 (第554・555・556・557・558図、第45・165・166・176図版)

Z区中央部に位置し36～41 Z 23～28の範囲にある。28号住居跡の東にある。他の遺構との関係は南壁で25号住居跡と接している。新旧関係は53号住居跡が新しい。規模は長辺7.35m、短辺7mを測る。平面形態は方形を呈する。主軸方位はN-64°-Eである。壁高は約80cm～90cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、南東隅に貯蔵穴と考えられる小穴が検出された。規模は80cm×70cm、深さ約60cmを測る。四周には周溝が巡り、幅約30cm～40cm、深さ約2cm～5cmを測る。周溝は北壁の東部で約1.5mの幅で途切れる。床面上には小穴が5基検出された。各々1～5とした。規模は1、60cm×50cm、深さ約50cm、2、45cm×35cm、深さ約70cm、3、40cm×35cm、深さ約60cm、4、50cm×45cm、深さ約60cm、5、60cm×35cm、深さ約10cmを測る。小穴の1～4は柱穴と考えられる。小穴5は北壁に接して検出された。小穴1～4の柱間の長さは1～2の間で約3.8m、2～3の間で約4m、3～4の間で約3.8m、4～1の間で約3.8mを測る。小穴5は周溝が途切れることから入り口等の施設が想定される。竈は東壁南寄りに検出された。右袖部は約50cm～60cm床面に延びている。左右の壁面は天井部にかかると思われる部分が残っている。規模は袖幅90cm、燃烧部長1.4mを測る。

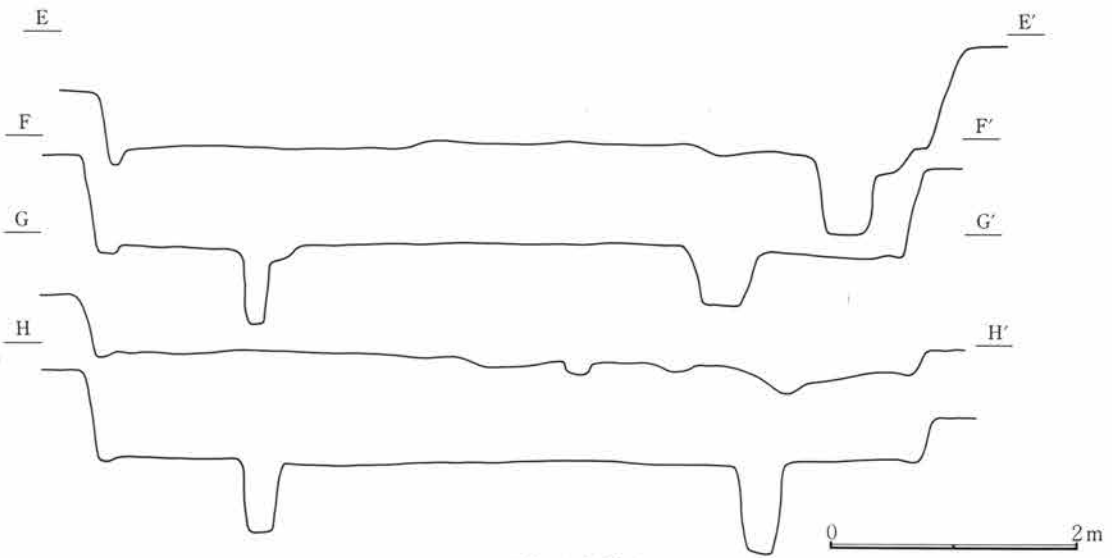


Z区53号住居跡

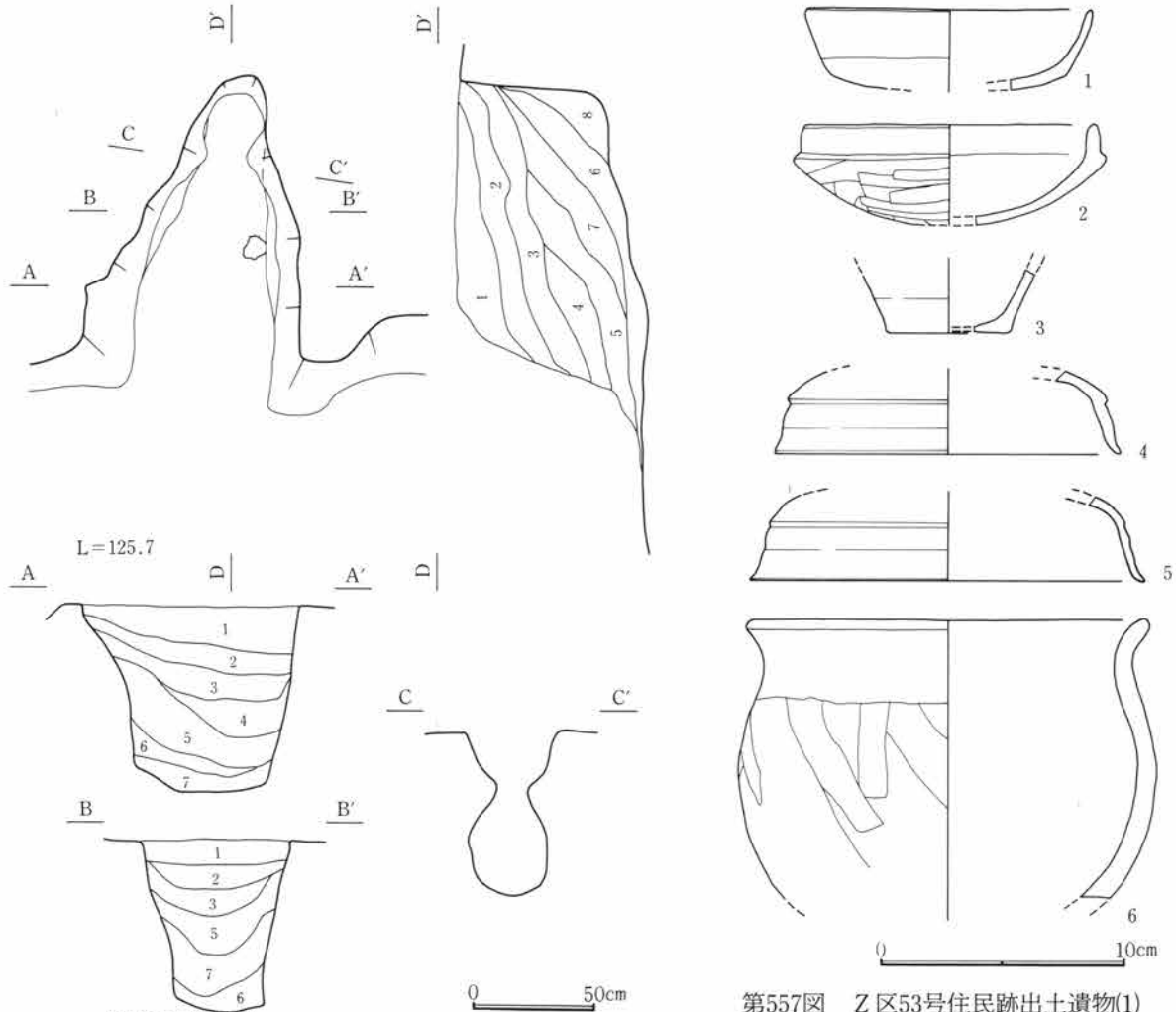
- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1 暗褐色土層 C軽石多量、炭化物少量含む | 4 暗褐色土層 ローム・FAブロック含む |
| 2 暗褐色土層 C軽石少量含む | 5 暗褐色土層 C軽石含む |
| 3 暗褐色土層 ローム粒多量含む | 6 暗褐色土層 ロームブロック多量含む |

第554図 Z区53号住居跡

第4章 検出された遺構・遺物



第555図 Z区53号住居跡断面

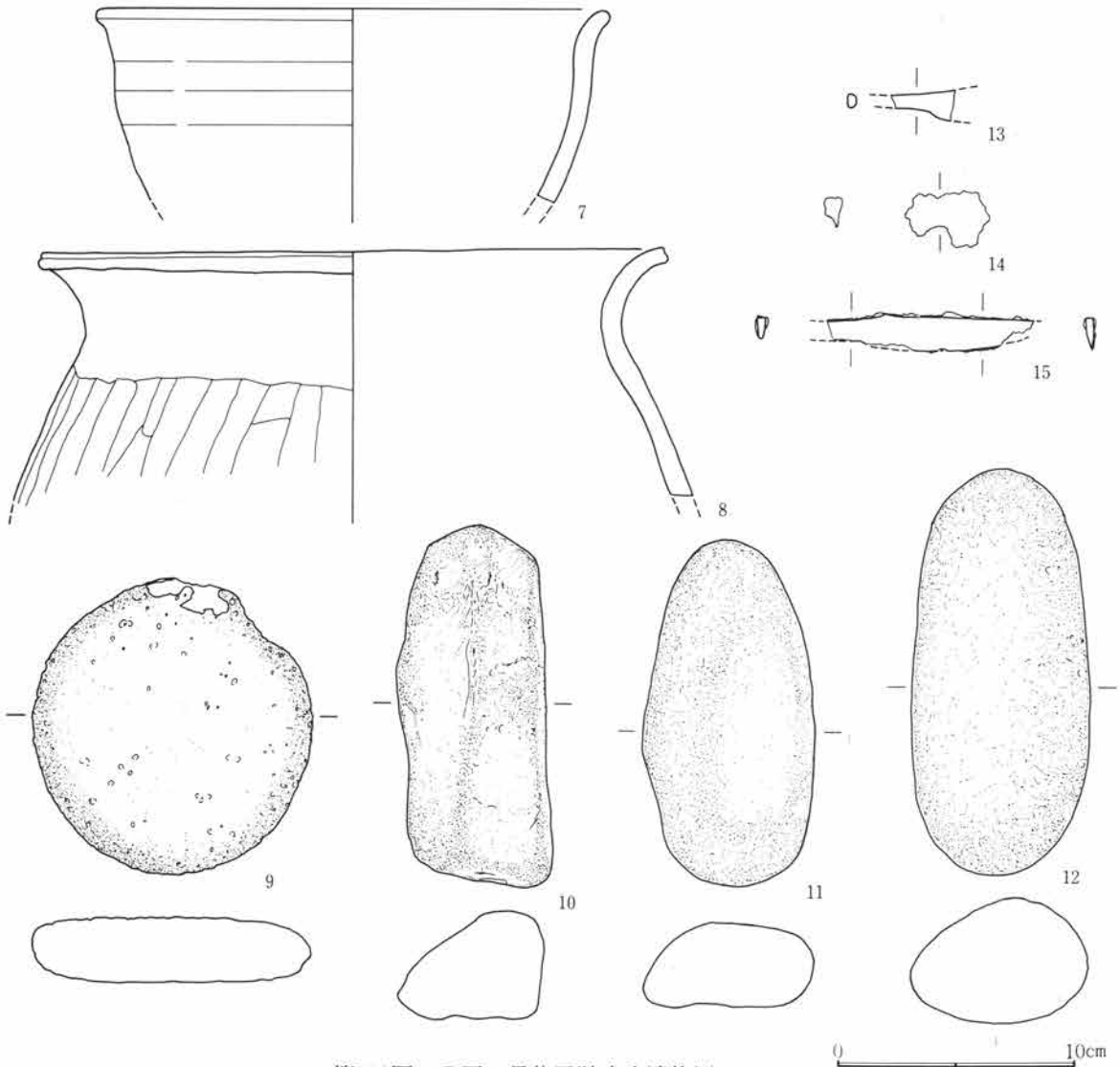


Z区53号住居跡竈

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色土層 C軽石、ローム粒多量に含む | 5 暗褐色土層 焼土粒、粘土ブロック多量に含む |
| 2 暗褐色土層 C軽石多量、ローム粒、焼土粒少量含む | 6 灰褐色土層 焼土粒多量に含む |
| 3 暗褐色土層 粘土粒多量、ローム粒少量含む | 7 赤褐色土層 焼土ブロック層 |
| 4 暗褐色土層 灰、炭化物、焼土粒少量含む | 8 茶褐色土層 焼土粒、焼土ブロック多量に含む |

第556図 Z区53号住居跡竈

第557図 Z区53号住民跡出土遺物(1)

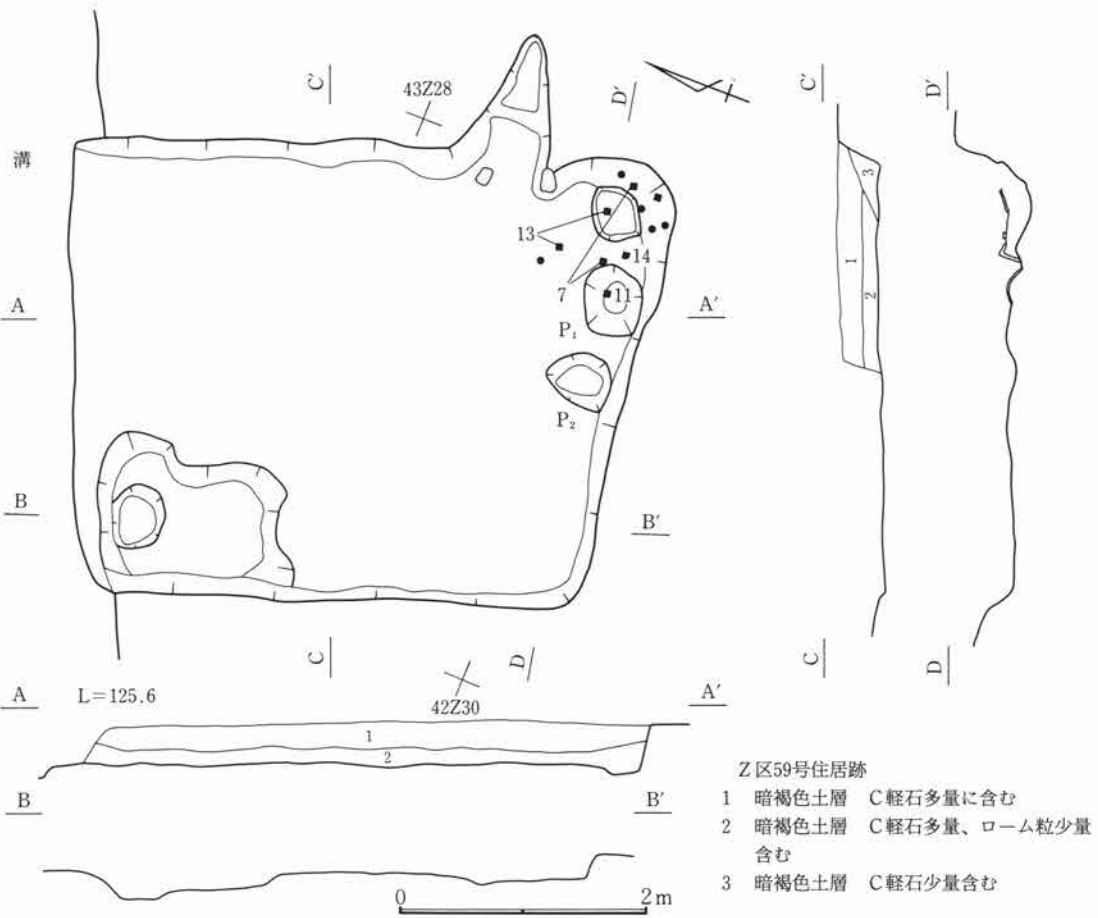


第558図 Z区53号住居跡出土遺物(2)

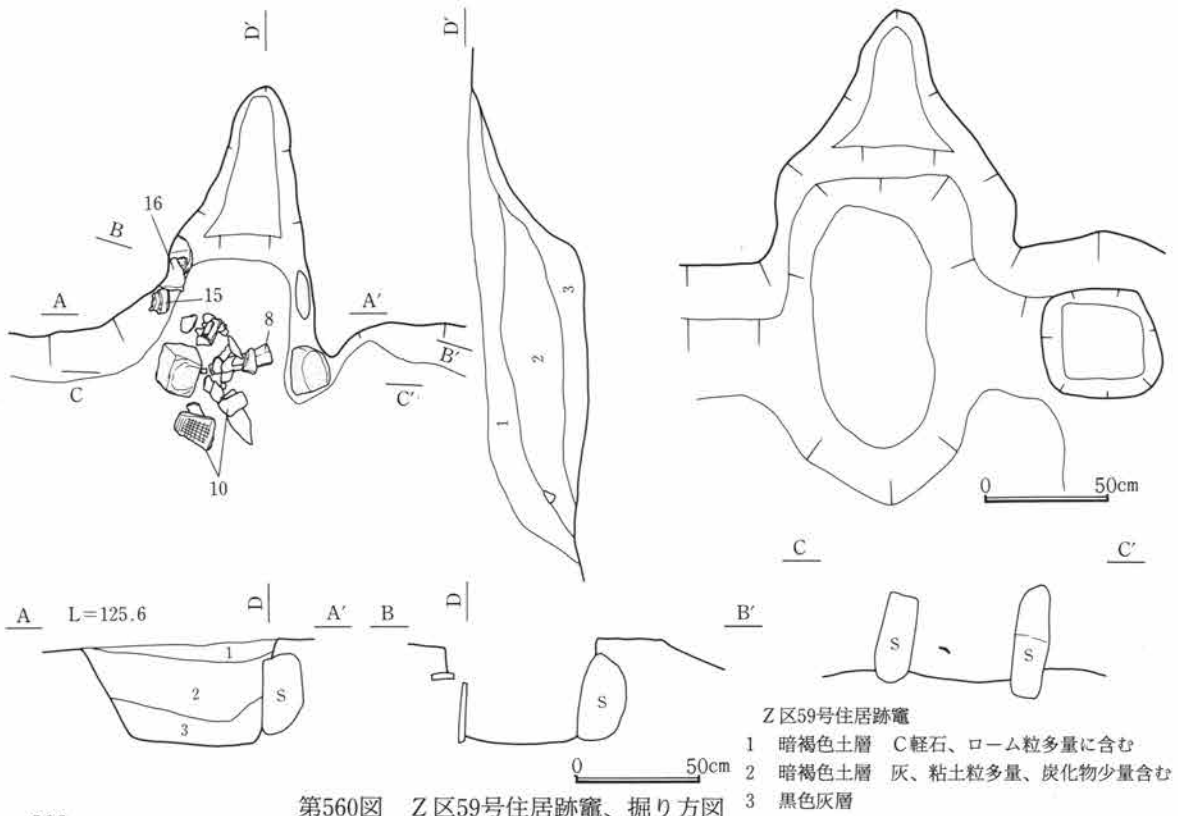
Z区59号住居跡 (第559・560・561・562・563・564図、第46・167・168・169・170図版)

Z区中央部に位置し41～44 Z 27～29の範囲にある。53号住居跡の西北にある。他の遺構との関係は北部であたらしい1号溝と重複している。このため住居跡の北壁の高い部分の一部が壊されている。規模は長辺北壁の一部が壊されているため残存部で4.85m、短辺3.8mを測る。平面形態は隅丸方形を呈すものと考えられる。主軸方位はN-110°-Wである。壁高は約15cm～20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、南東隅に貯蔵穴と考えられる小穴が検出された。規模は50cm×35cm、深さ約10cmを測る。床面上には他に小穴が3基検出された。各々1～3とした。規模は1、60cm×50cm、深さ約15cm、2、50cm×40cm、深さ約40cm、3、50cm×45cm、深さ約20cmを測る。小穴3の周辺は1.5m×1mの範囲で約10cm低くなっている。壁周溝・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。燃焼部前面には遺物、構築材の一部の石等が集中して検出された。この中で石については左右の袖部の先端に残存した状態で検出された。このため左側の袖も石まであったと考えられる。左右の袖部は壁面から約50cm～60cm床面に延びている。規模は左側の袖部を想定して、袖幅60cm、燃焼部長70cm、煙道部長60cmを測る。

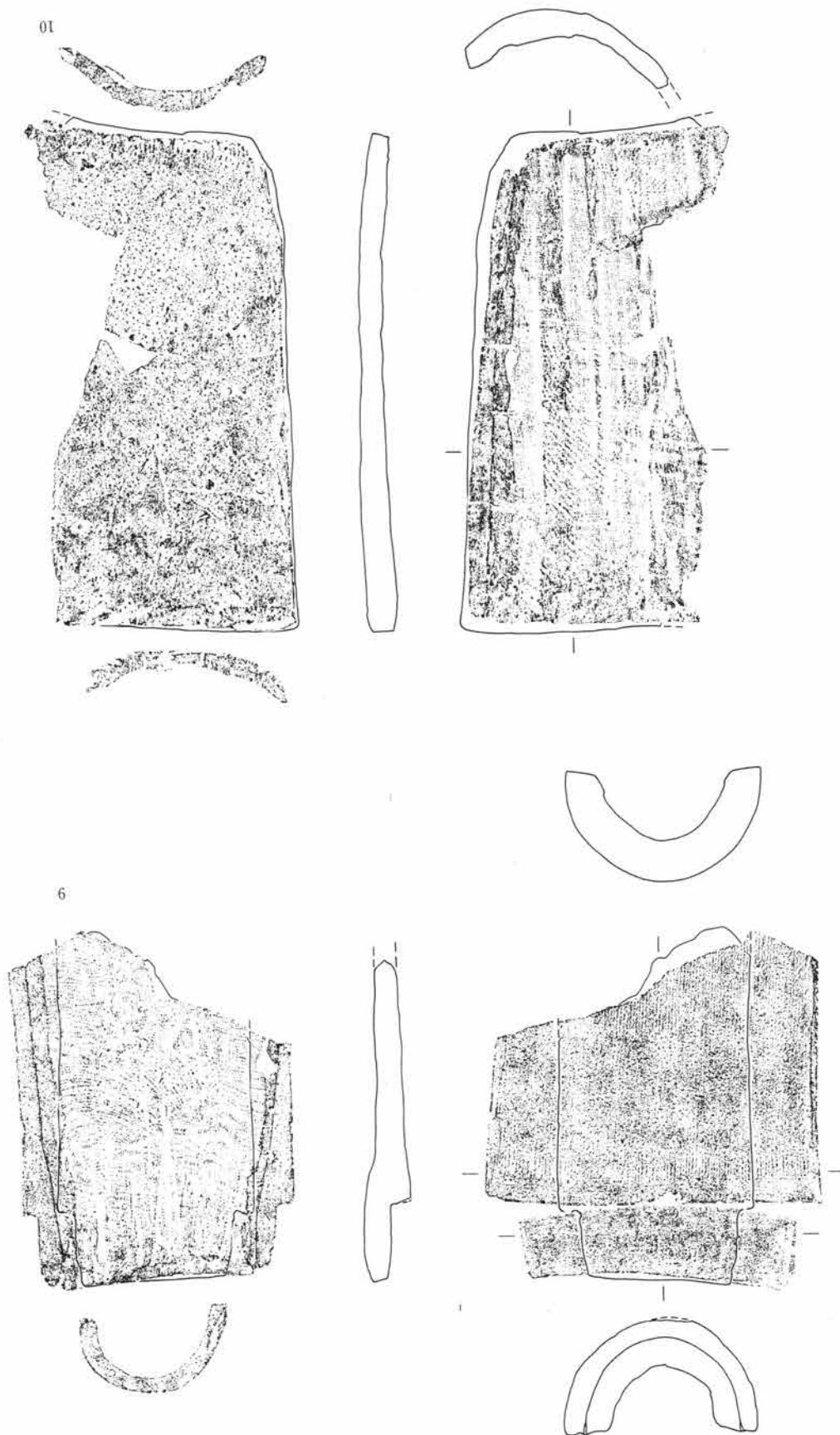
掘り方面では左右の壁体の中から補強材と考えられる石が検出された。



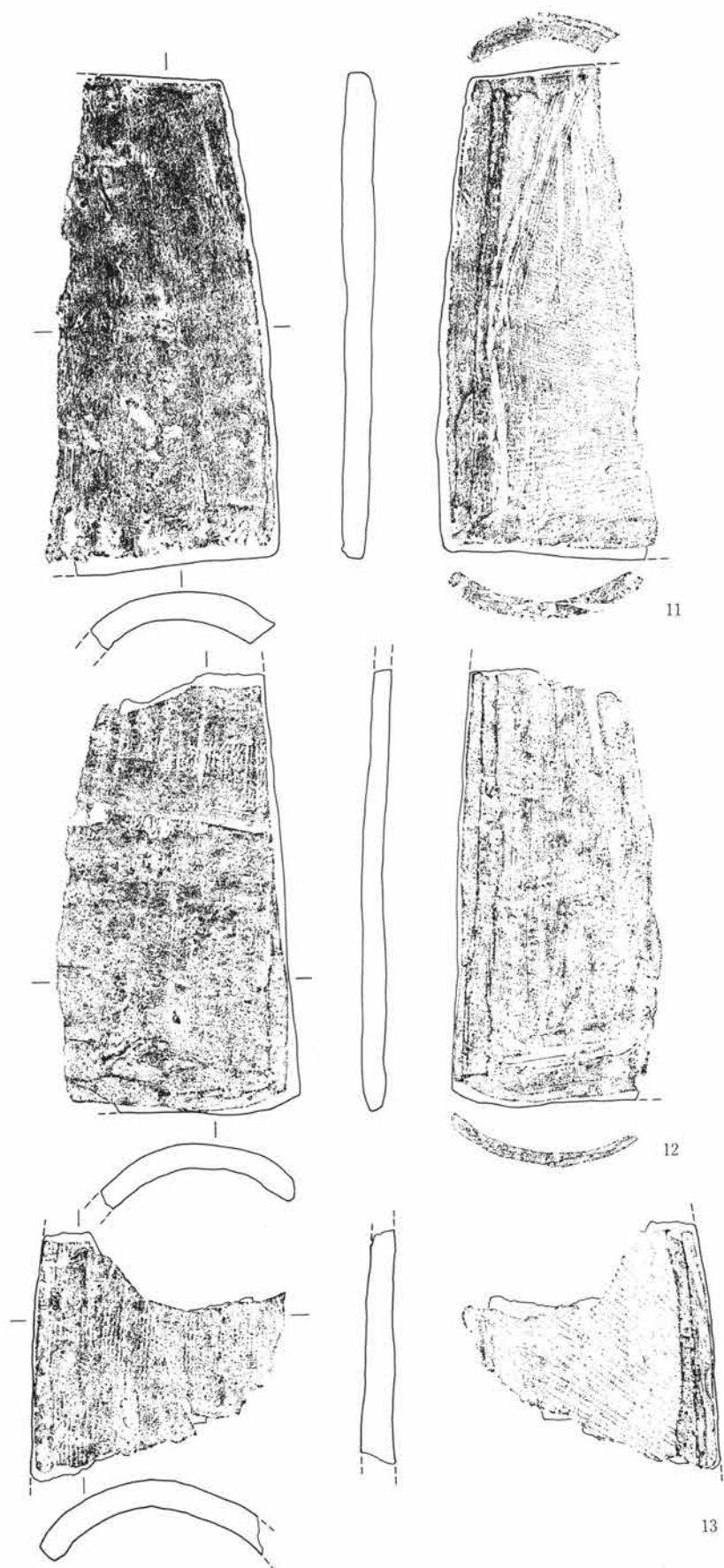
第559図 Z区59号住居跡



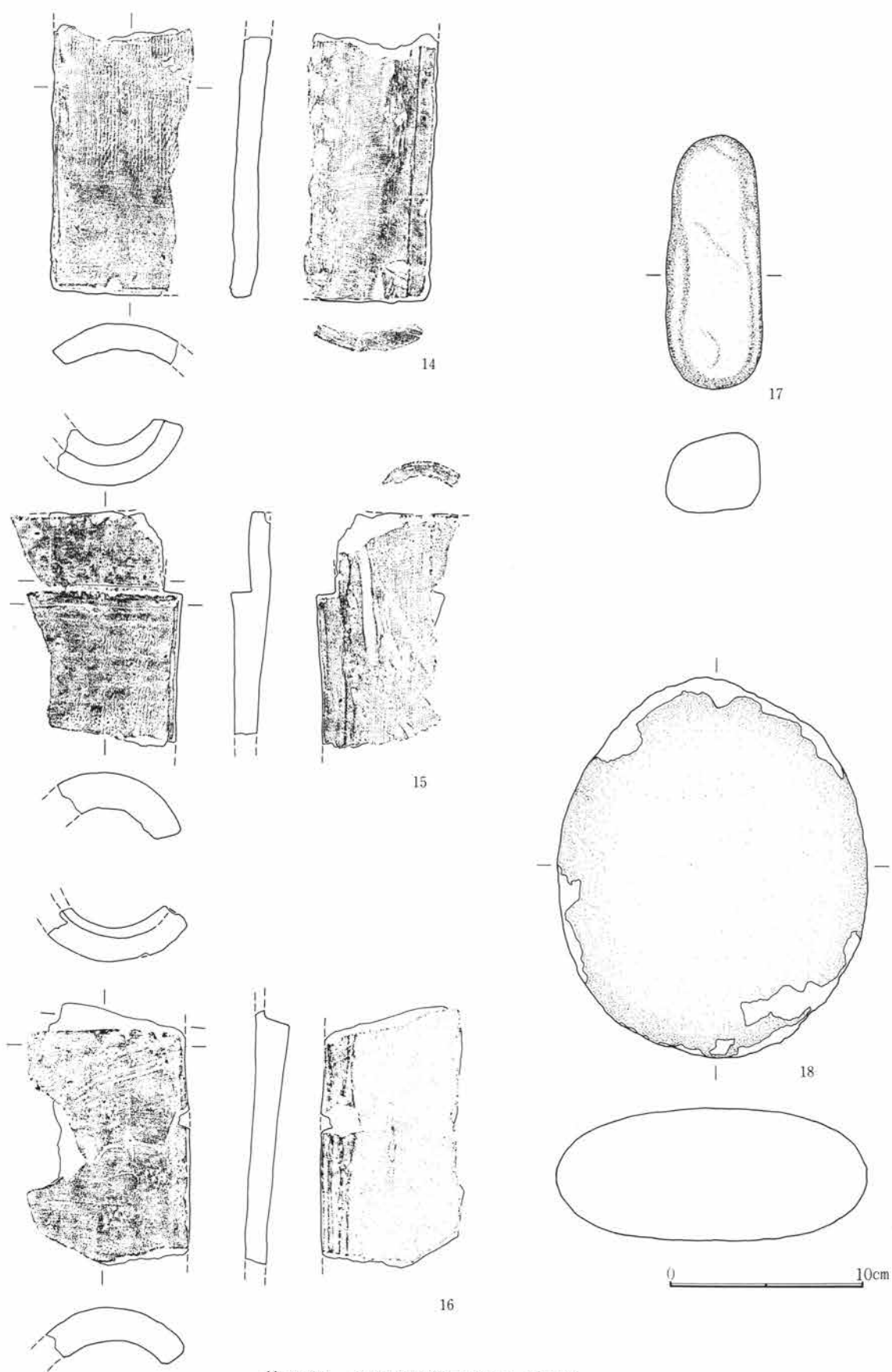
第560図 Z区59号住居跡竈、掘り方図



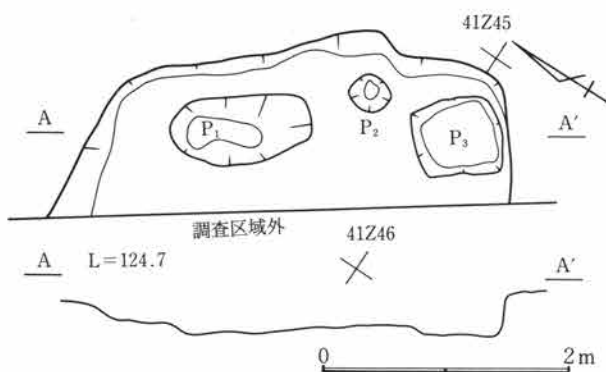
第562図 Z区59号住居跡出土遺物(2)



第563図 Z区59号住居跡出土遺物(2)



第564図 Z区59号住居跡出土遺物(3)



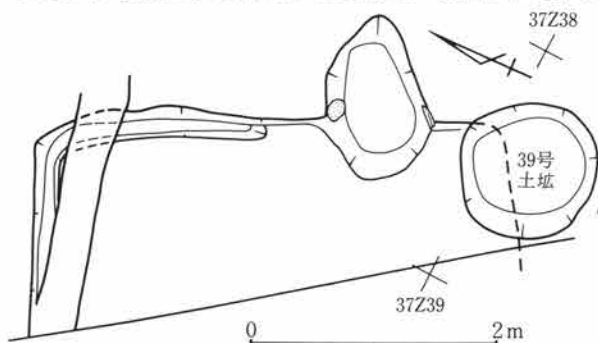
第565図 Z区60号址

Z区60号址 (第565図)

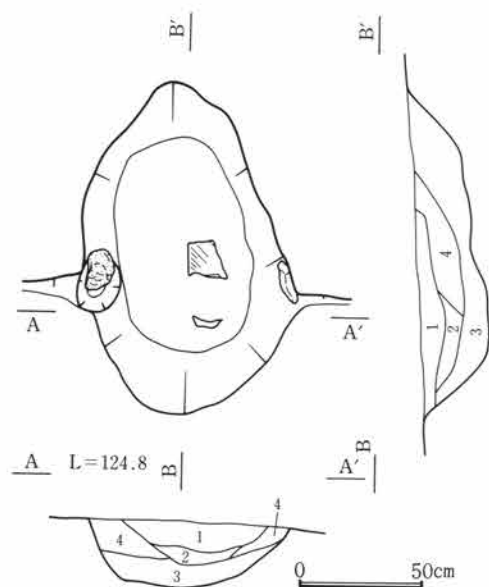
Z区西北部に位置し40~42Z 45・46の範囲にある。39号住居跡の南にある。地形の傾斜により東の一部が検出されている。規模は東壁で約3mを測る。壁高は約10cm~20cmを測る。床面には小穴が3基検出された。各々の規模は1、1.2m×60cm、深さ約5cm、2、径約25cm、深さ約10cm、3、70cm×60cm、深さ約5cmを測る。

Z区63号住居跡 (第566・567・568・569図、第46・169・171図版)

Z区西部に位置し26~28Z 38・39の範囲にある。64号住居跡の南東にある。他の遺構との重複はない。住居跡の東側の一部を検出した。規模は東壁で約3.8mを測る。主軸方位はN-60°-Eである。東壁に周溝が検出され、幅約20cmを測る。竈は東壁に検出された。規模は燃焼部幅80cm、同長1mを測る。



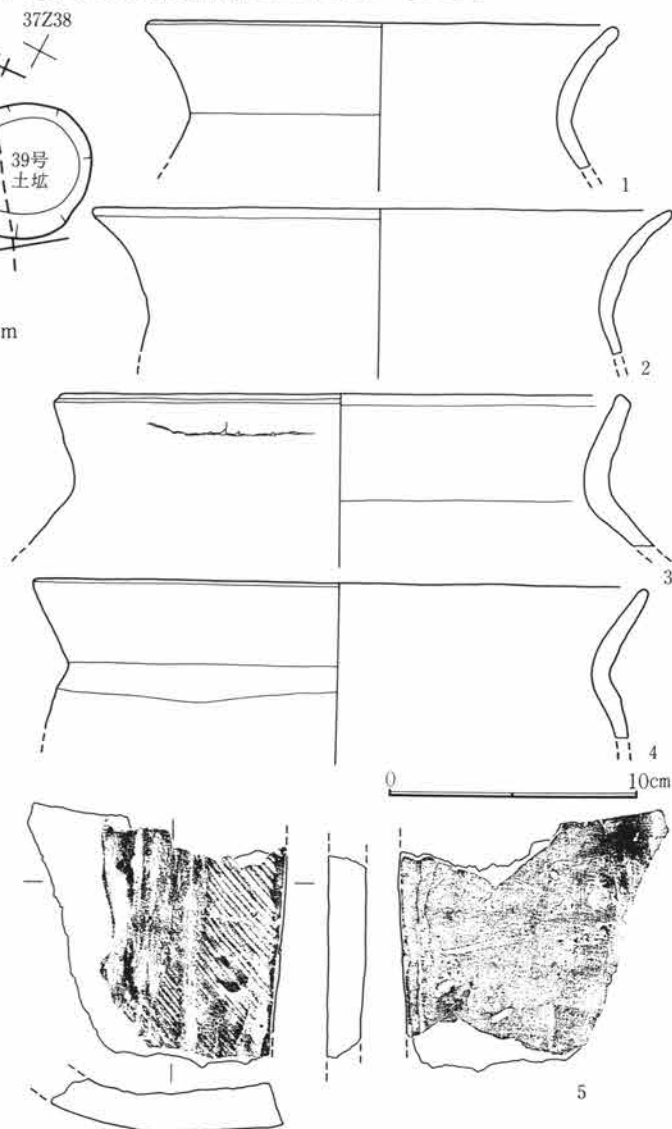
第566図 Z区63号住居跡



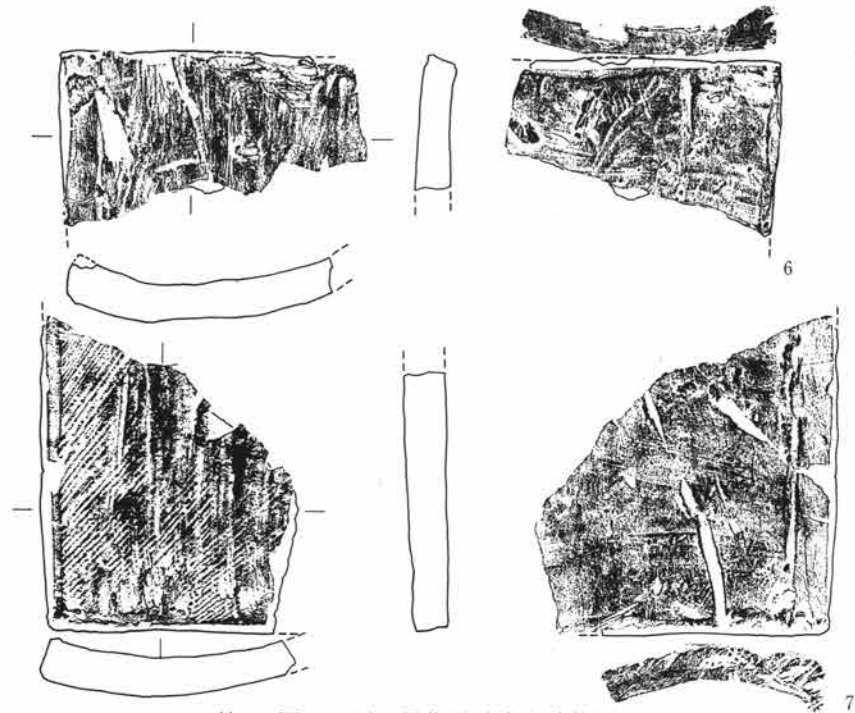
Z区63号住居跡竈

- 1 灰褐色土層 粘土粒、焼土粒多量に含む
- 2 暗褐色土層 粘土粒、焼土粒少量、灰を含む
- 3 暗褐色土層 粘土粒、焼土粒少量、灰多量に含む
- 4 暗褐色土層 ローム粒多量、炭化物、焼土粒多量に含む

第567図 Z区63号住居跡竈



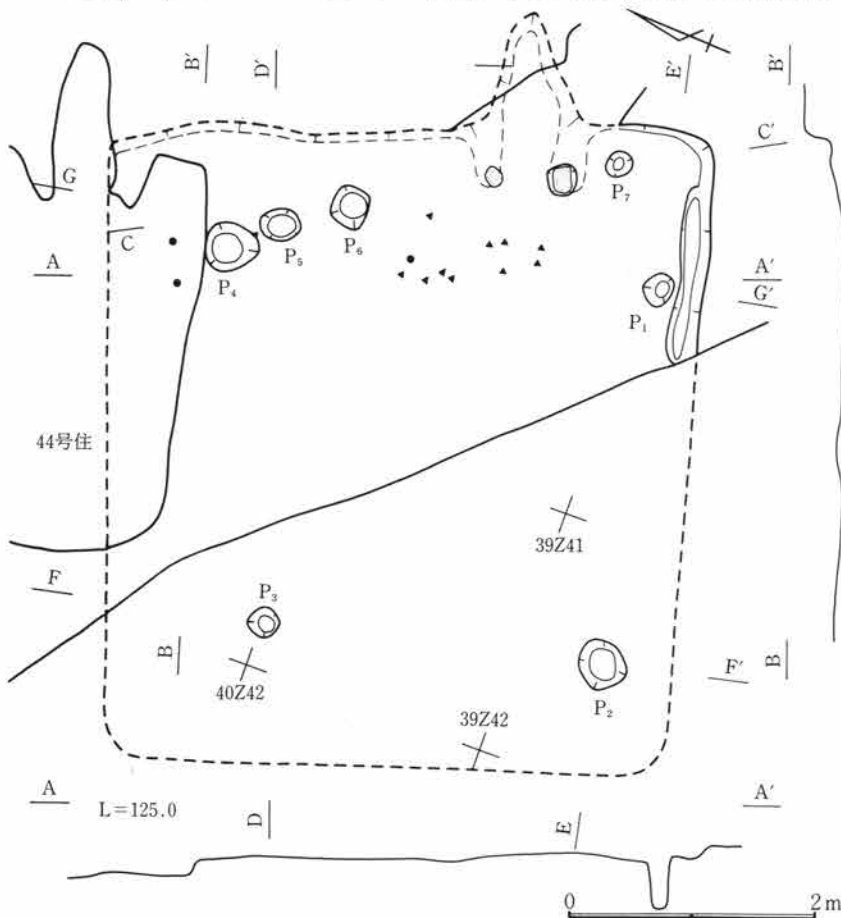
第568図 Z区63号住居跡出土遺物(1)



第569図 Z区63号住居跡出土遺物(2)

Z区64号住居跡 (第570・571・572・573図、第169・170図版)

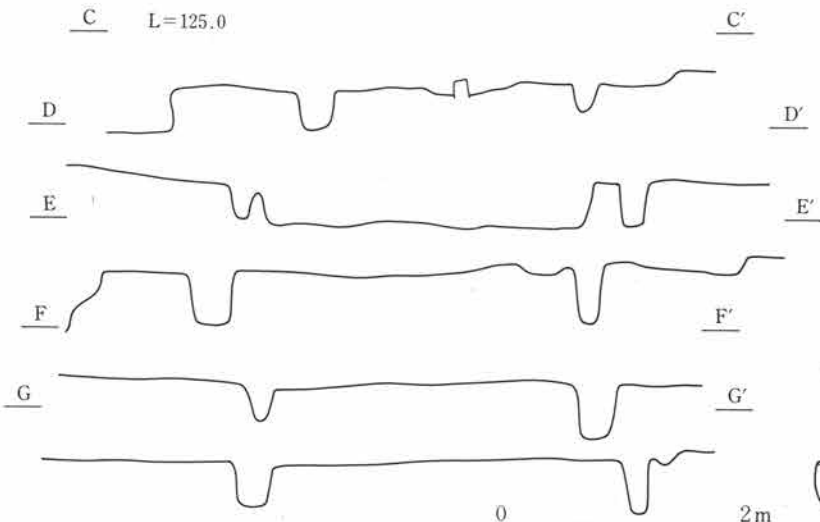
Z区西部に位置し38~41 Z 39~42の範囲にある。他の遺構との関係は北部で44号住居跡と重複している。



新旧関係は不明である。規模は推定で長辺5.2m、短辺4.7mを測る。平面形態は隅丸方形を呈すると考えられる。傾斜地に検出されたため四壁は数cmを測る。床面上には小穴が検出され、各々1~7とした。規模は1、径約20cm、深さ約20cm、2、径約45cm、深さ約40cm、3、径約30cm、深さ約30cm、4、径約40cm、深さ約30cm、5、径約30cm、深さ約30cm、6、径約30cm、深さ約35cm、

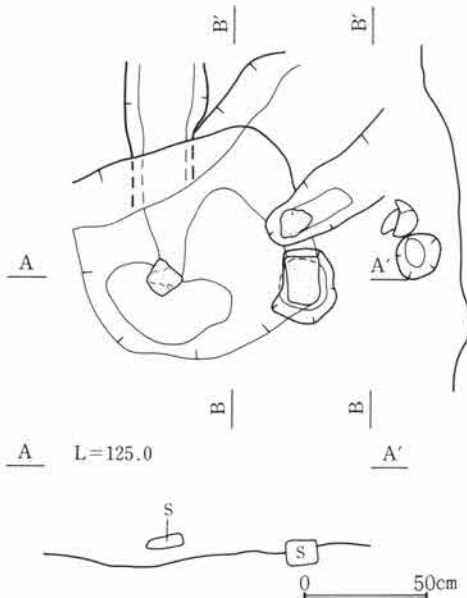
第570図 Z区64号住居跡

第1節 竪穴住居跡

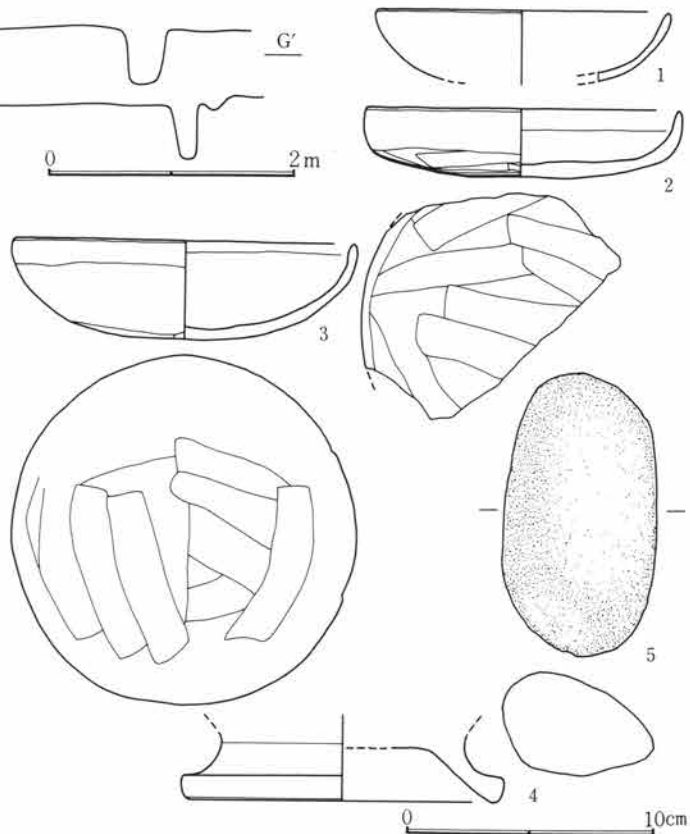


第571図 Z区64号住居跡断面

7、径約25cm、深さ約40cmを測る。竈は東壁やや南寄りに検出された。右袖部の先端部には石が検出された。規模は袖幅60cm、燃烧部長1.4mを測る。



第572図 Z区64号住居跡竈

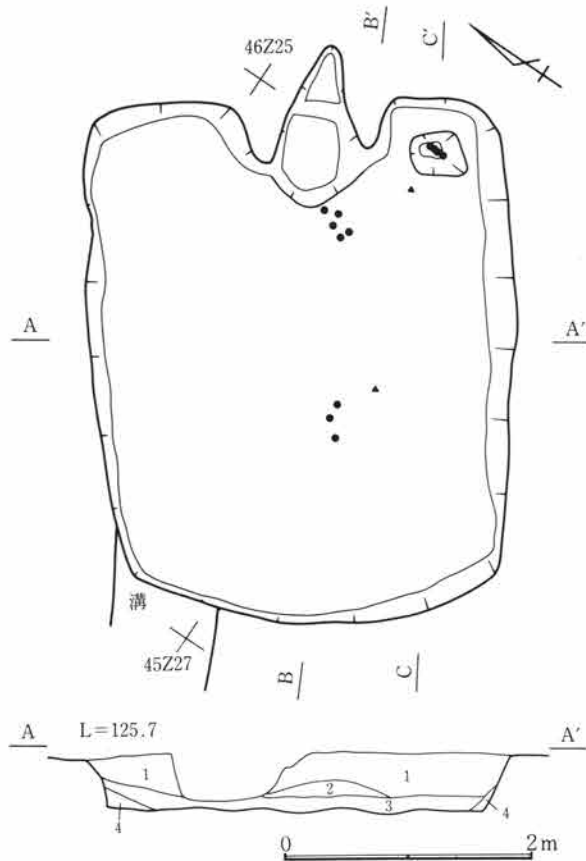


第573図 Z区64号住居跡出土遺物

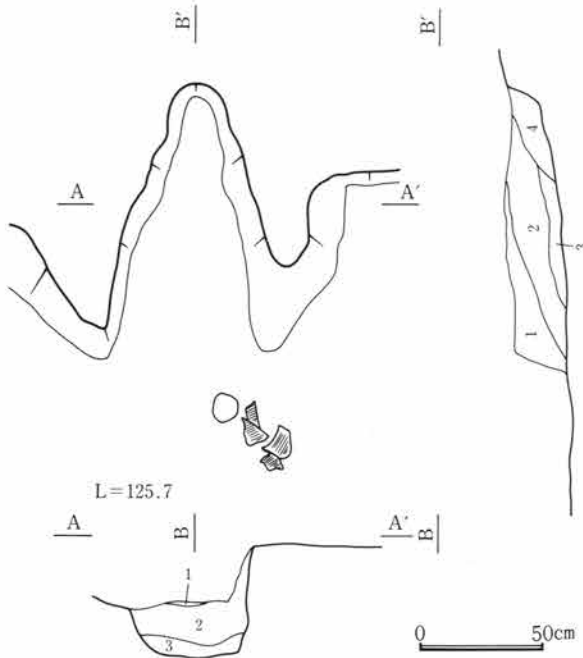
Z区65号住居跡 (第574・575・576・577図、第46・170・171図版)

Z区北東部に位置し44~46Z24~26の範囲にある。17号住居跡の南西にある。他の遺構との関係は住居跡等との重複はないが北部で東西方向に走る1号溝と重複している。新旧関係は溝が新しい。1号溝の掘り込みは浅く、当住居跡の床面には達していない。このため住居跡覆土の断面に底面が検出され壁の上面の一部を壊している。規模は長辺4.2m、短辺3.45mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-55°-Eである。壁高は約50cm~60cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・柱穴等の諸施設は検出されていない。南東隅に竈右に付設されるように小穴が検出された。小穴の規模は45cm×35cm、深さ約70cmを測る。小穴の規模はあまり大きくはないが深さはかなり深い。当住居跡の貯蔵穴と考えられる。

竈は東壁やや南寄りに検出された。竈の両袖部右側で約40cm、左側で約60cm壁から床面に延びている。竈燃烧部上面と左側袖部は1号溝により上面の一部が壊されている。規模は袖幅70cm、燃烧部長1.2mを測る。貯蔵穴上面の掘り方面には土師器の同一個体の土師器甕の破片により蓋のように覆った状態で検出された。この土師器甕を取り除いた下から土師器坏等の遺物が検出された。



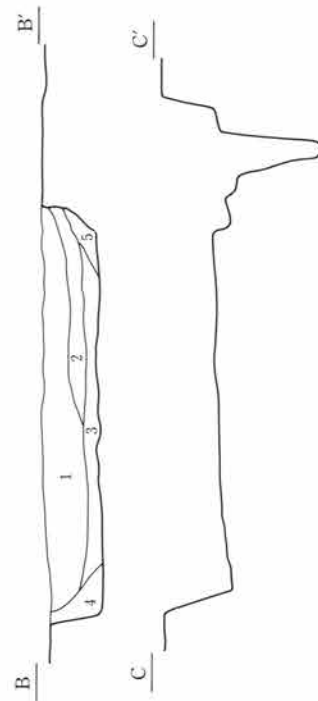
第574図 Z区65号住居跡



Z区65号住居跡竈

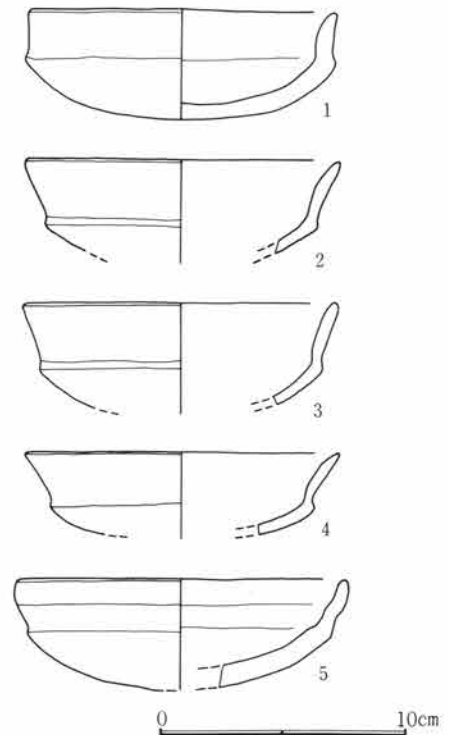
- 1 暗褐色土層 粘土粒少量含む
- 2 暗褐色土層 焼土粒、灰少量含む
- 3 暗褐色土層 灰多量、炭化物、焼土粒少量含む
- 4 黒褐色土層 灰、焼土粒微量に含む

第575図 Z区65号住居跡竈



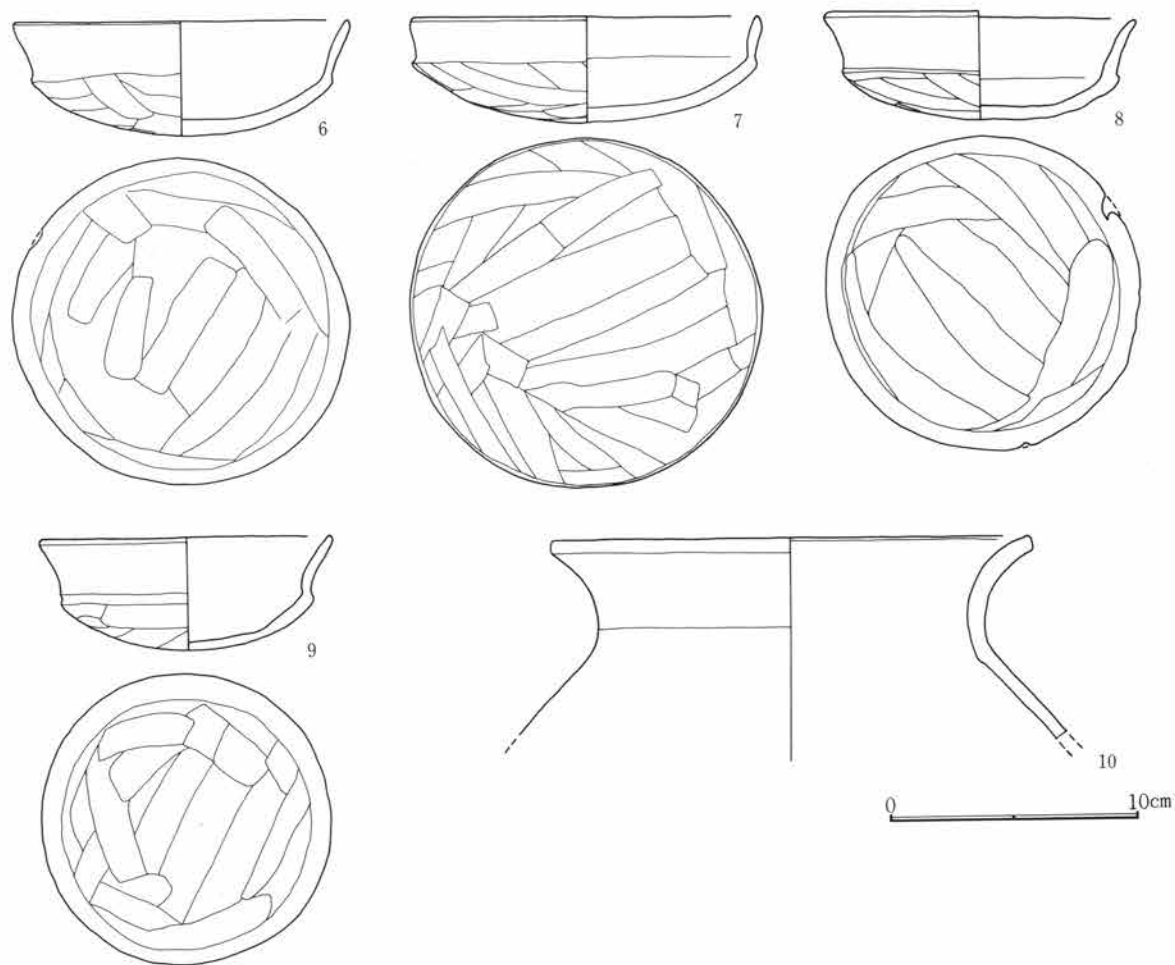
Z区65号住居跡

- 1 黒褐色土層 C軽石含む
- 2 黒褐色土層 ローム・FAブロック含む
- 3 黒褐色土層 ロームブロック含む
- 4 黒褐色土層 C軽石・FAブロック含む
- 5 黒褐色土層 C軽石少量含む



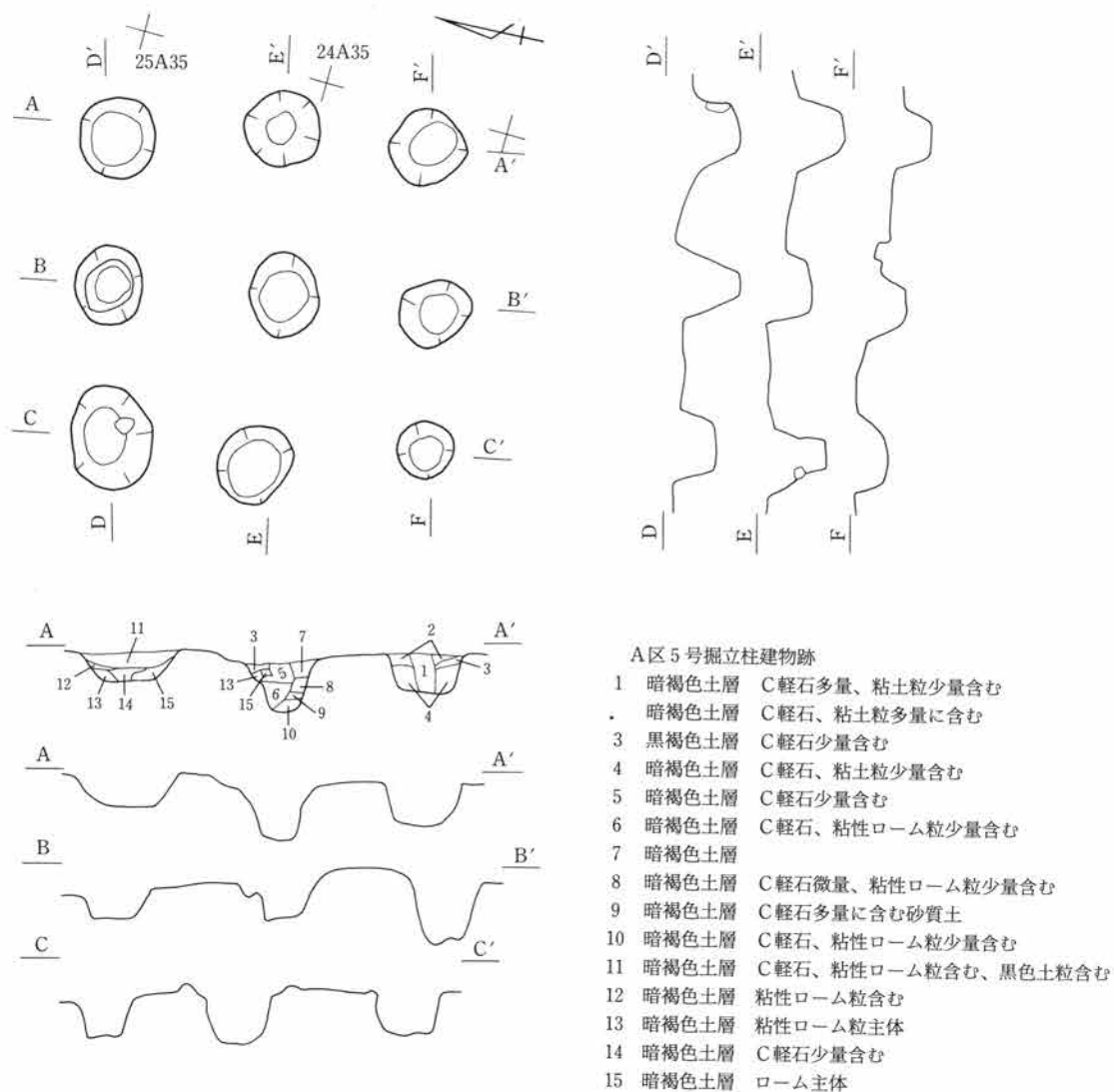
第576図 Z区65号住居跡出土遺物(1)

第1節 竪穴住居跡



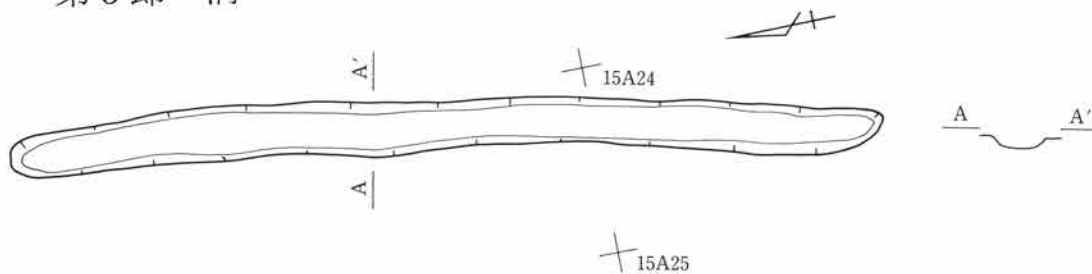
第577図 Z区65号住居跡出土遺物(2)

第2節 掘立柱建物跡



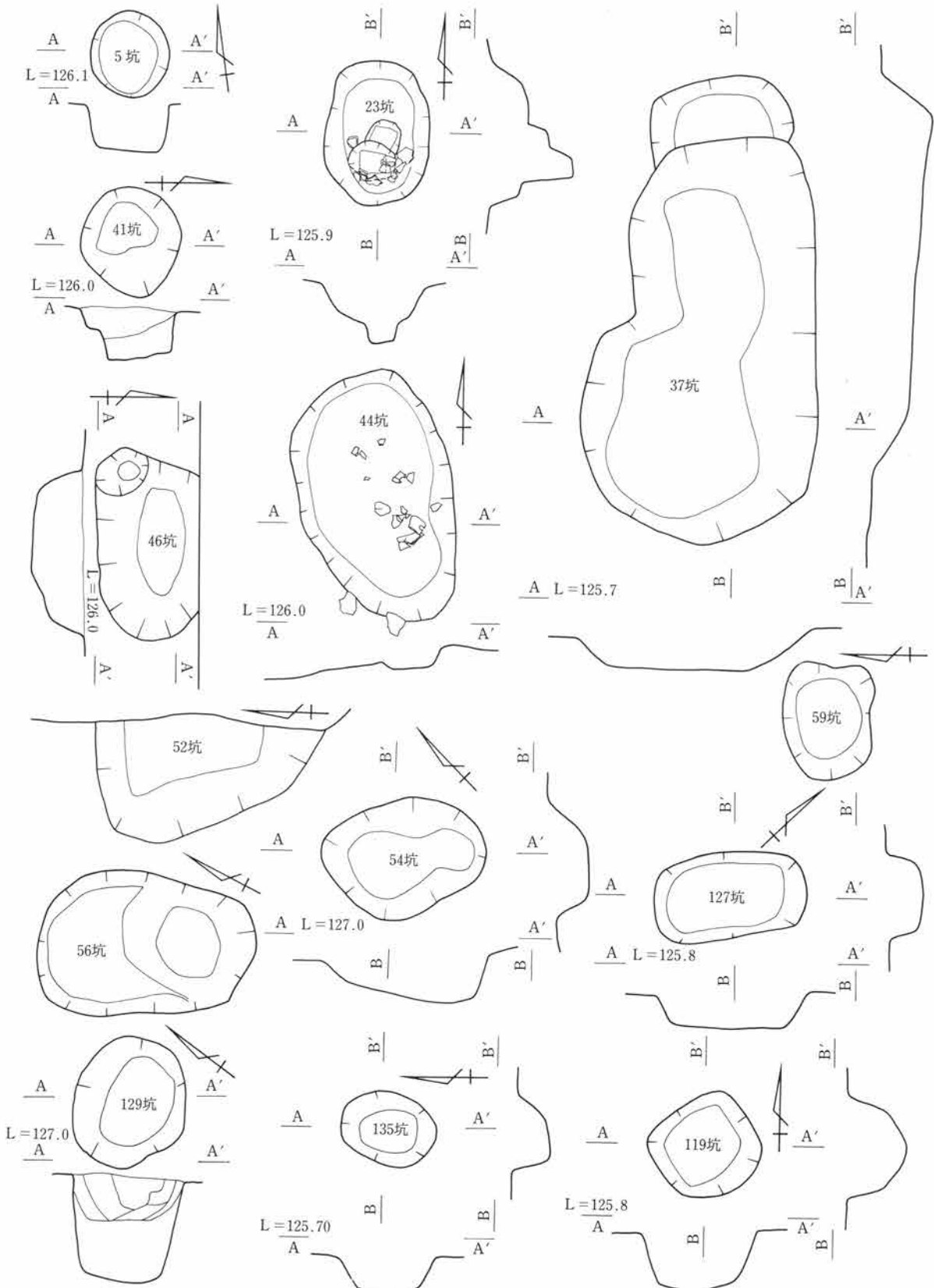
第578図 A区第5号掘立柱建物跡

第3節 溝

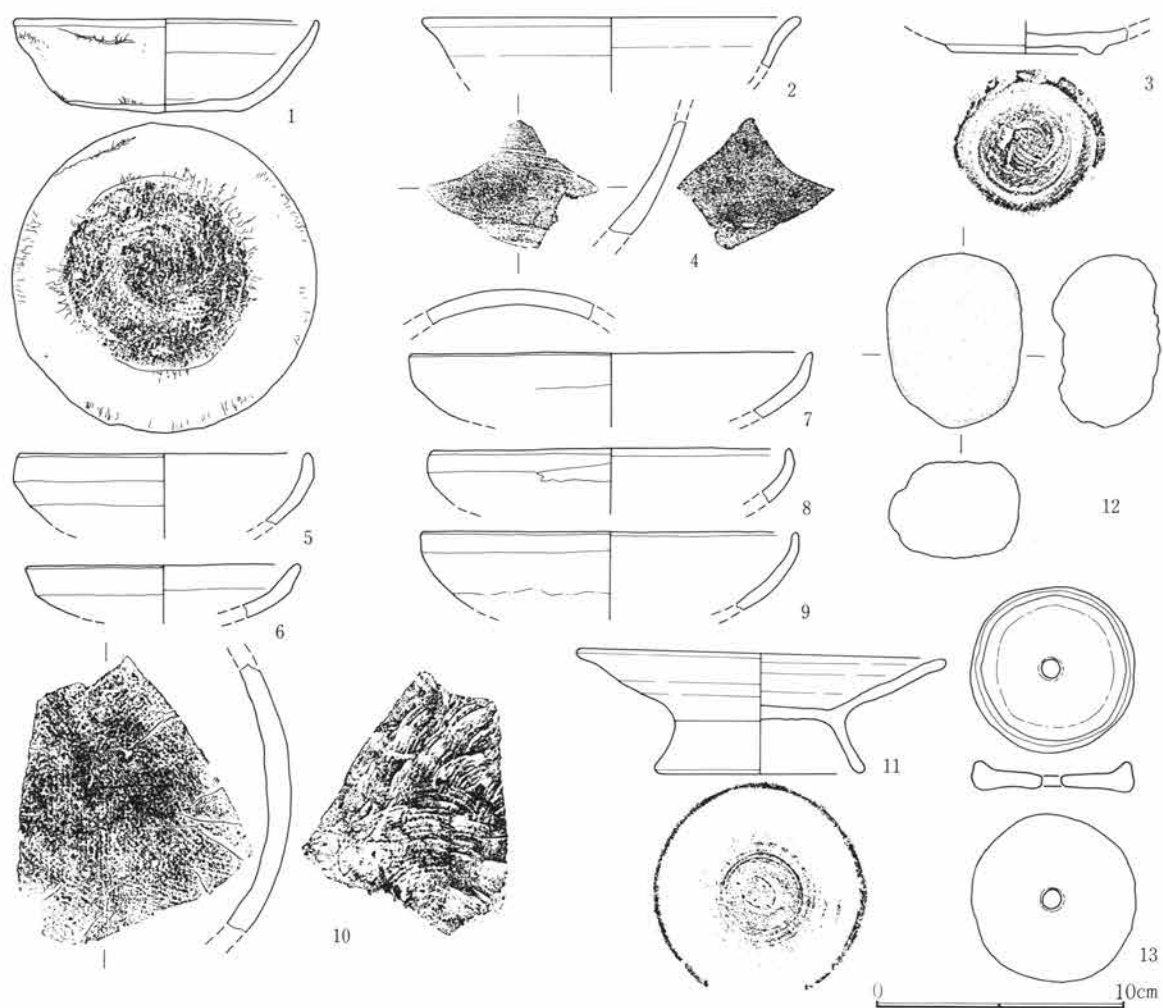


第579図 A区第3号溝

第4節 土 坑

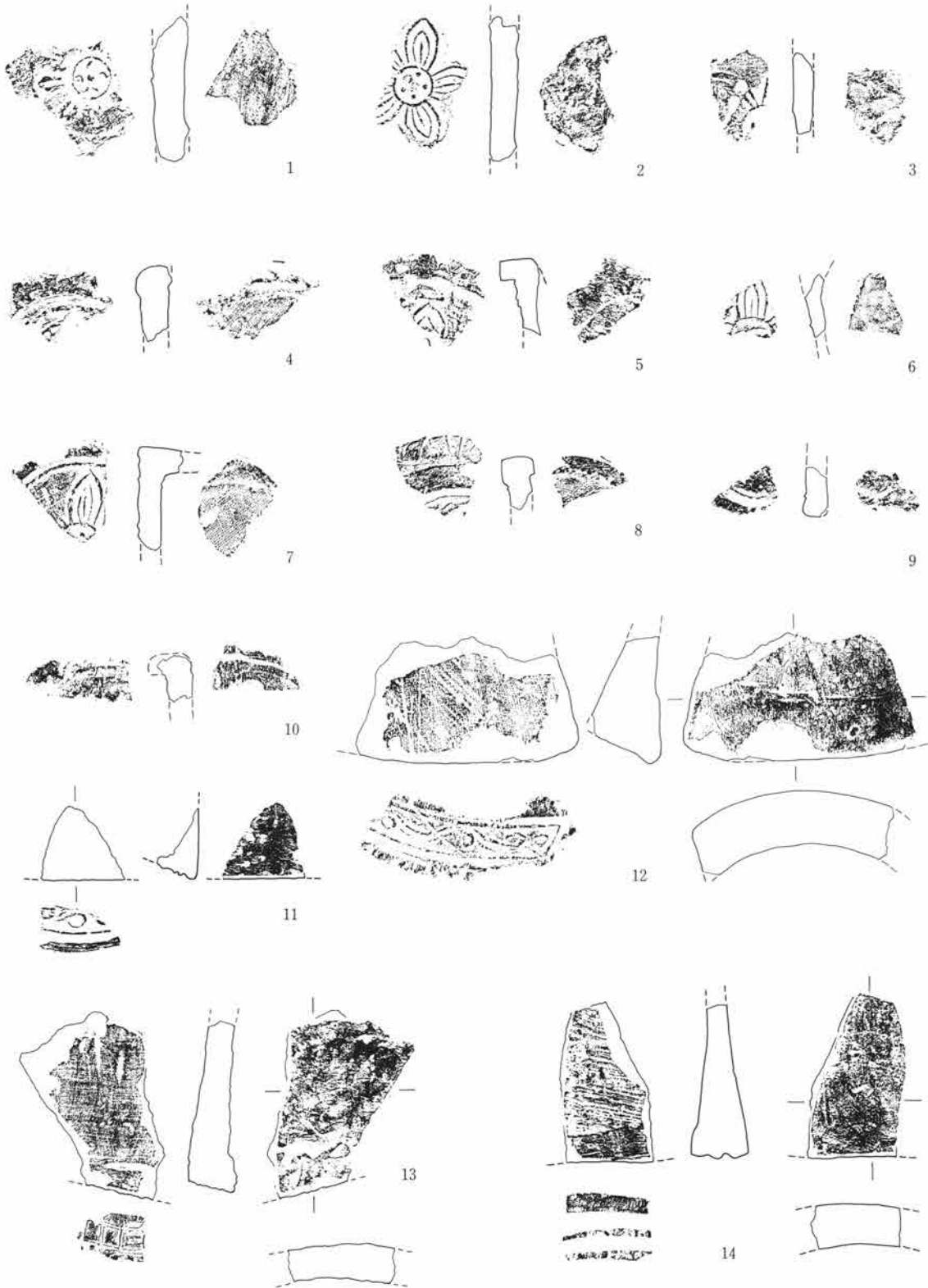


第580图 第5·23·37·41·44·46·52·54·56·59·119·127·129·135号



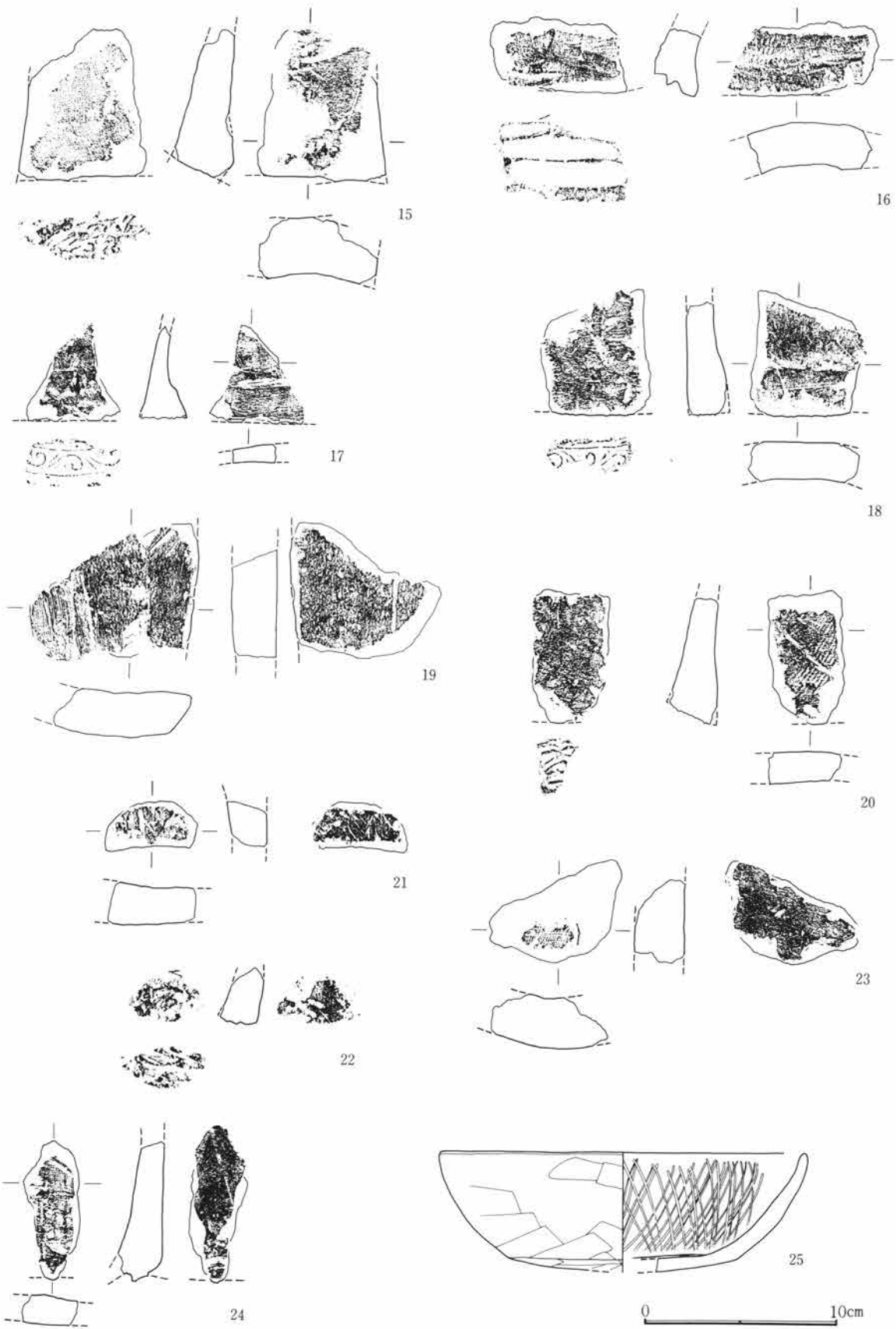
第581図 土坑出土遺物

第5節 A・Z区出土瓦・土器



第582図 A・Z区出土遺物(1)

第4章 検出された遺構・遺物



第583図 A・Z区出土遺物(2)

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告第126集
上野国分僧寺・
尼寺中間地域(6)

《本文編》

—関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第37集—

平成4年2月24日印刷

平成4年2月28日発行

編集／(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
勢多郡北橋村下箱田784番地の2
電話(0279)52-2511(代表)

発行／群馬県考古資料普及会
勢多郡北橋村下箱田784番地の2
電話(0279)52-2511(代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社
